R180. 3-0677
1200500766309

73 12

省内 10.4.4 直送

サイキ5-12

583
永久保存

威以香水於如來前
而作是言我今以此竹
國奉上如來及比丘
僧作類衰懸為我納
受作此言已即便拾
水余時世尊哀愍受
之說偈呪願
若人能布施　斷除於慳貪
若人能忍辱　永離於瞋恚
若人能遠惡　與遠離惡者
若人除遠惡　與遠離惡者
能與此三行　遠離邪淫者
若有貧窮人　无財可布施
能以此三行　而生隨喜心
能以此三行　而生隨喜心
隨喜福報　與施等无異
余時盧羅門大臣及
餘人民見王奉施如
來僧伽藍皆悉歸羅
生隨喜心余時類此
婆羅王施僧伽藍已
心大歡喜頭面礼足

S-12

佛書解說大辭典

大東出版社藏版

昭和四十九年納本

和
198

本書編纂要解

一、本書は佛教に關する刊行物を東西兩洋に亘り、その大は一切經に收むる數千の經論より、その小は市井に埋もるゝ一論一文の小册子に至るまで、これを擧ぐるは勿論、遠く散逸してその影を止めざるもの、或は貴重なる寫本の類に至るまで一切の典籍を收め盡し、これに現代最新の配列法（書名の首字を所謂五十音順音引假名遣に配列）により一々に內容解說を施し、且つその所在を明示したものである。

一、本書は邦語漢語佛教典籍（昭和七年十月卅一日刊行の分迄）の全部六萬五千五百餘を收む。卽ち各種藏經より約八千、佛教全書、佛教大系等一般佛教叢書並に各宗關係の全書全集類約七千、各大學圖書館（京大、龍大、谷大、京專、高野山、正大、駒大、立正、東洋等）並に宮內省圖書寮、內閣文庫、帝國圖書館其他一般圖書館所藏のもの約十萬、東域傳燈目錄、諸宗章疏錄、八家請來目錄、眞宗教典志、扶桑禪林書目、其他諸目錄より約二萬の古逸註疏書目、出三藏記、歷代三寶紀等より僞經、抄經、闕本、失譯經の書目約一萬五千を涉獵し、以上全部の書目カード中の同一書を整理して六萬五千五百餘部の佛教典籍を採錄した。

一、本書は以上六萬五千五百餘部の典籍を便宜上五類に分類した。卽ち「第一類、藏經」「第二類、全書」「第三類、單行本の古寫本、古刊本」「第四類、現在の單行本」「第五類、古逸書類」の五類であつて、其內容解說にあたつては、六萬有餘全部に亘り詳細なる解說をなすことは到底紙數上よりも許されぬ事であり、且つ其の必要を認めぬ點もあるので、大體詳細解說するものとせざるものとに分ち、前記五類中の第一、二類卽ち藏經、全書類を主とし、これに他の類本にして重要と認むるものに限り出來る丈內容そのものについて詳細な

る解說を施した。

一、本書の內容解說の形體はその要點を次の十項目とした。卽ち、❶題名、書名、具名略名異名併記。❷卷數。❸存、缺。❹著者又は譯者、生存年代を併記。❺著作年代又は譯出年代。❻內容解說。❼末書（注釋書參考書）。❽寫刊の年月。❾現所藏者、圖書館書庫名。❿發行所名。の十項目である。この十項中前記第一、二類は❽❾❿を省略し、第三類は特に❾の圖書館の函號を詳記し、披覽者に備へ、第四類は❿の發行所名を記して入手に便益あらしめ、第五類は❼の注釋書參考書に力を入れて研究に有利ならしめた。この方針に依れるを以て藏經の經律論、各宗の宗典類は悉く詳細なる解說が❻に於いて執筆され、且つその解說に責任をもつべく夫々執筆者の署名を附記した。

一、本書の解說に於ける十項目の內容について一定の方針を示せば左の通りである。

❶、題名にはすべて具名、略名、異名をつけた。且つ日本音、支那音の讀方、梵語名、西藏語名、巴利語名を附記した。日・支・梵・藏・巴とあるがそれである。而して日本音の讀方はすべて羅馬字法を採用し、一字一字の間に接尾符（—）を附し、全體としては音便慣讀法を用ひ、促音其他の用法は便宜上大藏經南條目錄補正索引（昭和五年刊）に從つた。支那音はすべて現在の北京官話の正しい發音に依り、支那音を羅馬字に移す場合學者によつて相異る點ありと雖も、本書は最も普通に廣く行はれてゐるトーマス・ウキード氏の式に從つた。大正一切經刊行會版の昭和法寶總目錄では佛蘭西語法を用ひたが、本書は右により英語法に依つて羅馬字化した。梵藏兩語名の記入は主として西藏甘殊爾勘同目錄（大谷大學圖書館昭和六年刊）により、巴利語名の記入は漢巴四部四阿含互照錄（赤沼目錄—昭和四年刊）に從ふことにした。

❷、卷數は其典籍の卷數を記したが、丁卷の不同なる場合あるものは一々これを附記した。

❸、存缺に就ては、存は現在行はれてゐる藏經の種類別所收卷數、全書類は其所載卷號を記した。而して各種藏經及び目錄には左の如く略符號を使用した。茲に出てくる數字番號は本書の「佛教典籍總論」並に「昭和法寶總目錄」と連絡をとり研究に資することにした。

大正——大正新修大藏經。縮——縮刷大藏經。卍——卍字藏經。卍續——續藏經。北——北宋版。南——南宋版。元——元版。明北——明北藏。清——清藏。麗——高麗版。天——天海版。指——指要錄。法——法寶標目。至——至元法寶勘同總錄。明南——明南藏。Zi——南條目錄。出三藏記——出三藏記集。三寶紀——歷代三寶紀。法經錄——衆經目錄（法經等撰）。仁壽錄——衆經目錄（彥悰撰）。靜泰錄——衆經目錄（靜泰撰）。內典錄——大唐內典錄。譯經圖紀——古今譯經圖紀。武周錄——大周刊定衆經目錄。開元錄——開元釋敎錄。貞元錄——貞元新定釋敎目錄。佛全——大日本佛敎全書。眞全——眞宗全書。眞大——眞宗大系。日藏——日本大藏經。

❹、著者又は譯者は其人の生存年代を出來る丈精査して各種の史傳、目錄、年鑑、年表、系譜等により現存せるあらゆる參考資料を涉獵して正確を期した。但し傳記は人名辭書に讓るべき性質のものであるから特にこれを省略した。年代はすべて西曆を用ひ、年號は其の人物の生死國により、其國の年號をとり、一國に生れ他國に死したものは何れかの一國の年號を用ひた。年代中—線を用ひ「年代—年代」なるは生死年を、「年代—」は生年、「—年代」は寂年のみ明らかなるもの、又兩者不明にて生存中の或る時期明白なるものは「—年代—」として記入した。年時帝世等すべて明らかならざるも、略々其時代を推定し得らるゝものは其推定年代に「?」の符號を用ひた。僧傳並に資料中生年を明記せざるも寂年享壽の判明してゐるものはその逆算により概ねこれを記入した。生死年代に諸說あるものは其中の一を採用若しくは一說として別出したものがある。

❺、著作年代は著作若しくは譯出の年號を記入した。

❻、內容解說は前述の如く主として第一・二類につき冗長繁文を避けて、名義・大綱・分科・判釋・傳通の範圍に於て詳記した。原典飜譯に關する歷史的說明譯出者の傳記等はこれを省略した。略名、異名を有するものは大藏經、全書類に標題とされ

た題名の箇所に於て說明した。例へばタの部「倶舍論」では其の題下に具名「阿毗達磨倶舍論」と記し、詳細なる解說はアの部「阿毗達磨倶舍論」に於てなしたるが如し。

❼、注釋書參考書は典據を出來る丈詳細に調査して列記し、大體製作の年代順に從つて列擧した。

❽、寫刊の年月、寫とあるは寫本、刊とあるは刊本のことにして、その出來の年代である。

❾、現所藏者、圖書館書庫名は個人所藏のものは何某藏とし、圖書館所藏のものは其館名並に其館に於ける書目の函號を記入した。館名の略符は左の通りである。

谷大——京都大谷大學圖書館。龍大——京都龍谷大學圖書館。京大——京都帝國大學圖書館。正大——東京大正大學圖書館。駒大——東京駒澤大學圖書館。立大——東京立正大學圖書館。高大——紀州高野山大學圖書館。京專——京都(東寺)專門學校圖書館。哲——哲學堂圖書館。帝國——東京上野圖書館。內閣——內閣文庫。帝室——宮內省圖書寮。寶龜院——高野山寶龜院所藏。金剛三昧院——高野山金剛三昧院所藏。寶壽院——高野山寶壽院所藏。寶菩提院——京都寶菩提院所藏。

而して略符の下の數字等は何れも其所藏圖書館に於ける書架番號である。而して藏經、全書、叢書類は一般に現行されてゐるから所藏者(書庫)、發行所名は概ねこれを記入しないことにした。

八

巴掌語錄 ❶(日) Ha-shō-go-roku. ❷二十二冊 ❸存 ❼(參考) 禪籍目錄

布哇開教史 ❶(日)Ha-wai-kai-kyō-shi. ❷一卷 ❸存 ❹今村惠猛(一昭和八、A. D. 1933)著 ❺大正七刊 ❾(龍大、二九一・二四)

布哇開教誌要 ❶(日) Ha-wai-kai-kyō-shi-yō. ❷一卷 ❸存 ❹今村惠猛(一昭和八、A. D. 1933)著 ❺大正七刊 ❾(東大、一・二一八・二一)(龍大、二九一・二五)(立大、B)七・二)

羽賀寺緣起 ❶(日)Ha-ga-dera-en-gi. ❸存、叡山書類從第二十(A. D. 715)行基菩薩年四十八才の創建にかゝるといふ若狹國羽賀寺緣起なり。神亀元年以來して二羽を刺すの瑞光により羽賀と稱すに至りしといふ。叡山書類從(同書完成會本)第二十七卷に二本を收むるも緣起中に記する羽賀寺興廢の狀態及び年代等大略一致すれども前者は大永四年(A. D. 1524)、「有勳云々」に終り、後者即ち別本と稱するものは「陽光院殿太上天皇御眞筆也。御奧書者。後陽成院天皇之眞筆也云々」に終る。又寫本一本に延寶三年(A. D. 1675)の編と記す。

羽黑一流官職法衣規則書上 ❶(日) Ha-guro-ichi-ryū-kwan-shoku-hō-i-ki-soku-kaki-age. ❷一卷 ❸存、日本大藏經第四八修驗道章疏第三羽黑修驗史料記錄類 ❹光明院編 ❺天保一一(A. D. 1840)

❻羽黑修驗の官職・法衣・妻帶衆徒及び其他の諸規則について羽州光明院が其筋に申達した記錄。羽黑修驗研究上の一史料。(服部如實)

羽黑、月山、湯殿、三山雅集 ❶(日) Ha-gatsu, gea-san, yu-dono, san-zan-ga-shū. ❷二卷 ❸存 ❹東水 ❺寶永七刊 ❾(谷大、餘大・三〇二二)

羽黑三山古實集覽記 ❶(日)Ha-guro-san-zan-ko-jitsu-shū-ran-ki. ❷一卷 ❸存、日本大藏經第四八修驗道章疏第三羽黑修驗史料記錄類

❻羽黑三山の故實を擧げ、格例四十餘項を記したものである。羽黑口から湯殿に至る道筋の諸神社、小會々々等殘らず、羽黑山に屬すべき由を述べて居り、本書によつて三山諸坊の興廢、眞言天台眞言律等の宗派的鬪爭、三山に對する信仰の大略、三山の支配と諸侯の領地に關する見解等を知ることが出來る。從つて羽黑修驗研究上には看過すべからざる史料で、之も其筋の調査に應じて答申された記錄である。(服部如實)

羽黑山修驗廣法灌頂傳持血脈 ❶(日)Ha-guro-san-shu-gen-kō-hō-kwan-jō-den-ji-kechi-myaku. ❷一卷 ❸存、日本大藏經第四八修驗道章疏第三羽黑修驗史料記錄類 ❺明治六(A. D. 1573)

❻羽黑修驗の傳燈血脈で、三山開基驗道宗祖照見大菩薩以下覺眞に至る七十七代の入山在職を記錄したもので、覺眞は天保七年の入山である。終に「右者開闢以來當明治六年迄歷代八十世年間」とある。(服部如實)

羽黑山修驗柴燈護摩供次第 ❶(日) Ha-guro-san-shu-gen-sai-tō-gō-ma-ku-shi-dai. ❸存、日本大藏經第四七修驗道章疏第二法則類 ❹圓盛記 ❺寬延四(A. D. 1751)

❻羽黑修驗に修する柴燈護摩供の次第。初めに供養法あり、次に入護摩で壇護摩の次第である。即ち供養法は前方便・門前設具・般淨道場・門前法・辯事眞言・堂內入足呪・壇前普禮・淨三業・禮佛・着座・辯備供具・燒香・淨身・燒香・加持香水・加持供物・拍掌排除・彈指排除・金剛印明・表白・神分・願分・祈願・供養文・唱禮・驚覺・發願・五大願・淨三業・三部三昧耶・被甲・金剛撥・四方結・道場觀・三力偈・普通供養・振鈴・慈事・諸事・大鈴相・四攝・拍掌排除・虛空網・剛炎・圓伽・華座・善來偈・重結大界・五供養・燒香・華鬘・燒香・飲食・燈明・普供養・本尊讚・四智讚・八三昧耶・本尊根本印・加持珠・正念誦・敬念誦等の諸印明より成り、入護摩以後は諸佛供養壇・菩薩供養壇・本尊供養壇・諸天供養壇・諸神供養壇の五壇に分れ、羽黑派が天台修驗に出たものであることは隨所に散見される。次に餓食呪あり、證珠法・結願作法を附加し、修驗用心及び壇圖・壇圖等を出してゐるが、巻中及び惠印法流の護摩次第とは餘程の隔たりがあり又複雜である。(服部如實)

羽黑山修驗道要路 ❶(日)Ha-guro-san-shu-gen-dō-yō-ro. ❷一冊 ❸存 ❹鳥津厚道著 ❺大正一一刊 ❾(京大、日大來・七四七)

羽黑修驗衣體並法用具覺 ❶(日) Ha-guro-shu-gen-e-tai-narabini-hō-yō-gu-oboe. ❷一卷 ❸存、日本大藏經第四八修驗道章疏第三羽黑修驗史料記錄類 ❺天保四(A. D. 1833)

❻羽黑修驗所用の衣體や法具の種類を列記した書。即ち片眞常金結袈裟・結袈裟・直綴・掛衣・淨衣・白袴・褂衣等の圖を擧げて說明し、天鼠巾以下草鞋に至る十四種の法具名を出してゐる。羽黑修驗研究上の一史料である。これも其筋の調査に應じて記錄されたものであることは、最初の「天保四巳十二月十八日眞覺院差出、月番土屋相模守殿江差出控、等覺院」の二行が物語つてゐる。(服部如實)

羽黑派末寺並修驗院跡大數取調帳 ❶(日) Ha-guro-ha-matsu-ji-narabini-shu-gen-in-ato-dai-su-tori-shirabe-chō. ❷一卷 ❸存、日本大藏經第四八修驗道章疏第三羽黑修驗史料記錄類

❻延享年間の表を以て調査されたもので、出羽國飽海郡・諸國散在末寺並妻帶修驗行派神子社職之分・關東筋散在之分の三項に分ち、羽黑派末の寺院の數を計算した書である。これによれば、總計三千七百八十二箇院で、その中五十箇寺が清僧寺・御朱印地修驗が十一箇院あり、羽黑修驗の勢力の地方的分布を知ることが出來る一史料たる

を失はぬ。

羽黒流護摩法口決 (服部如實)
❶(日)Ha-gu-ro-ryū-go-ma-hō-ku-ketsu. ❷一卷 ❸存、日本大藏經第四七修驗道章疏第二法則類 ❹圓盛記 ❺寛延四(A. D. 1751)
❻則防修山金剛山歡學院第五世が延享四年に羽黒山修驗明了院廣潤師より傳受した羽黒流柴燈護摩の口決である。護摩壇の奥に立つる幣帛の神體等につき質問應答を重ねてゐる。羽黒の法流研究上の一史料である。

把得抄 (服部如實)
❶(日)Ha-tokku-shō. ❷一卷 ❸存 ❹良儀記 ❺永正三(A. D. 1506)
❻寫本(曼珠院)

波木井三郎殿御返事 (馬田行啓)
❶(日)Ha-ki-i-saburō-dono-go-hen-ji. ❷一篇 ❸存、日蓮聖人御遺文之内 ❹日蓮(貞應元—弘安五 A. D. 1222—1282) ❺文永一〇(A. D. 1273)八月
❻佐渡一ノ谷より甲州の南部六郎三郎に與へた書。法華經の行者は諸難に遭ふことを經證をあげて論し、日蓮が經文の如く諸難に遭ふは法華經の行者なる實證なりと說き「所かる日蓮を流罪するは國主滅亡の先兆なり」と論じ、法華經の信を勸めてある。
❼(參考) 錄外考文第八

波木井氏への御書 (馬田行啓)
❶(日)Ha-ki-i-shi-e-no-go-sho. ❷五篇 ❸存、日蓮聖人御遺文之内、日蓮聖人全集第六 ❹日蓮(貞應元—弘安五 A. D. 1222—1282)
❺「日蓮聖人遺文」中より南部六郎三郎實長即ち波木井氏に與へた消息の内。(一)「六郎恒長御消息」、(二)「波木井三郎殿御返事」、(三)「地引御書」、(四)「波木井殿御報」、(五)「南部六郎殿御書」の五篇を輯めたもの。
(一)は文永元年安房から與へて、念佛者墮地獄に人法の二種ある旨を明したもの。
(二)は文永十年佐渡一ノ谷より與へて、法華經の行者値難の理由を說き本門の三大祕法を示したもの。
(三)は弘安四年身延草庵改築に關し波木井氏の子息達が勤勞せる樣を報じたもの。
(四)弘安五年九月十九日身延を出發して常陸の湯へ療養に赴かんとて、道中無事池上宗仲の館へ到著した旨を報ずると共に、種々の心遣を感謝し、且つ栗毛の馬に對する愛情を推察したもの。蓋し日蓮の絶筆であらう。
(五)は撰述年次不明、内容は國家の誇法について說示せるもの。

波木井殿御書 (馬田行啓)
❶(日)Ha-ki-i-dono-go-sho. ❷一篇 ❸存、日蓮聖人御遺文之内、日蓮聖人全集第六 ❹日蓮(貞應元—弘安五 A. D. 1222—1282) ❺弘安五(A. D. 1282)
❻武藏國池上宗仲の館にて入滅する五日前(十月七日)甲州の波木井六郎に與へて、一代行化の概要を敍し、身延九ケ年間の供養を感謝し、轉じて弟子檀那に對し法華經の信心を勵むべしと勸誡したものである。但し本書の内容が他の諸御書に散在せる文を綴り合せた觀があるので、古來眞撰を疑ふ意見がある。反之別項の「波木井殿御報」は極めて簡單に池上へ著した旨を報じてゐるものであるから、この方は確實に眞撰とせられてゐる。

波佐谷法船御糺書 (馬田行啓)
❶(日)Ha-sa-dani-hō-sen-on-tadashi-gaki. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(龍大)

波斯匿王訶欲最樂經 (馬田行啓)
❶(日)Ha-shi-noku-ō-ka-yoku-sai-raku-kyō. (支)Po-sā-ni-wang-ho-yu-tsui-ho-ching. 波斯匿王問何欲最樂經、波斯匿王問何欲最樂經 ❷一卷 ❸存 ❹別合經第十九卷の抄出。
❼(參考) 法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一六、貞元錄第二六

波斯匿王經 (馬田行啓)
❶(日)Ha-shi-noku-ō-kyō. (支)Po-sā-ni-wang-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹失譯 ❼(參考) 出三藏記第三

波斯匿王詣佛有五威儀經 (馬田行啓)
❶(日)Ha-shi-noku-ō-kei-butsu-u-gyō-i-kyō. (支)Po-sā-ni-wang-i-fo-yu-wei-i-ching. ❷一卷 ❸失譯 ❹別一阿含經第四十一卷の抄出。 ❼(參考) 出三藏記第四、法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一六、貞元錄第二六

波斯匿王承佛神力到寶坊經 (馬田行啓)
❶(日)Ha-shi-noku-ō-shō-butsu-jin-riki-tō-hō-bō-kyō. (支)Po-sā-ni-wang-ch'eng-fo-shên-li-tao-pao-fang-ching. 波斯匿王承佛神力到寶房經 ❷一卷 ❸失譯 ❼(參考) 出三藏記第四

波斯匿王祖母命終經 (馬田行啓)
❶(日)Ha-shi-noku-ō-so-bo-myō-jō-kyō. (支)Po-sā-ni-wang-tsu-mu-ming-chung-ching. ❷一卷 ❸失譯 ❹雜阿含經第四十六卷の抄出。 ❼(參考) 出三藏記第四、法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一六、貞元錄第二六

波斯匿王太后崩塵土坌身經 (馬田行啓)
❶(日)Ha-shi-noku-ō-tai-go-hō-jin-dō-kyō. (支)Po-sā-ni-wang-t'ai-hou-fêng-ch'ên-tu-fên-shên-ching. (巴)S. 3. 3. 2 Ayyaka 波斯匿王太后崩經、波斯匿王太后崩塵土坌身經、除憂患經 ❷一卷 ❸存、大正二・五四五 No. 123、錯於六、卍一四・二、北724若、南738若、元730若、明北610菁、清610菁、麗718止、天733若、指696止、法713止、至960仕、明南607錄、Nj. 614 ❹法炬譯 ❺西晉惠帝代(A. D. 290—305) ❻波斯匿王太后崩塵土坌身經の下を見よ。

波斯匿王太后崩塵土坌身經 (馬田行啓)
❶(日)Ha-shi-noku-ō-tai-go-hō-jin-dō-kyō. (支)Po-sā-ni-wang-t'ai-hou-pêng-ch'ên-tu-fên-shên-ching. ❷一卷 ❸失譯 ❼(參考) 出三藏記第四

波斯匿王太后崩塵土坌身經 (馬田行啓)
❶(日)Ha-shi-noku-ō-tai-go-hō-jin-dō-fun-jin-kyō. (支)Po-sā-ni-wang-t'ai-hou-pêng-ch'ên-tu-fên-shên-ching. (巴)S. 3. 3. 2 Ayyaka 波斯匿王太后崩經、波斯匿王太后崩塵土坌身經、除憂患經 ❷一卷 ❸存、大正二・五四五 No. 122、錯於六、卍一四・二、北724若、南738若、元730若、明北610菁、清610菁、麗718止、天733若、指696止、法713止、至960仕、明南607錄、Nj. 614 ❹法炬譯 ❺西晉惠帝代(A. D. 290—305)
❻波斯匿王太后崩塵土坌身經の下を見よ。

(A. D. 292—306)
❻本經は一に波斯匿王太后崩經、匿王坌身經、波斯匿王太后經、除憂患經ともいひ、波斯匿王その母后の死に遭ふや、悲嘆のあまり、身に塵土を揚つて佛所に往詣し歎へを受けしことから、この名が存し、佛自ら本經を除憂患經と名づけられたことから、この別名が存するのである。
本經は母后の死によつて哀悲の淵に沈む波斯匿王のために、無常想を說き、老、病、死、愛別離の四を大患となすこと、一切の愛慮を說かれたものである。
本經は雜阿含卷四六の第六經の別譯であつて、別一阿含第二六品第七經、別譯雜阿含卷三・一二經またこれに該當するものである。これらを對照するに雜阿含のそれは略述し、別一のそれはその前半に於て詳述し四大患の第四は「有常の物を無常に歸す」となつてゐる。別譯雜阿含のそれは、雜阿含のそれに合するものである。
❼(參考) 三寶紀第六、内典錄第二、譯經圖紀第二、開元錄第二、貞元錄第四 (林五邦)

波斯匿王太后崩塵土坌身經 (林五邦)
❶(日)Ha-shi-noku-ō-tai-go-hō-jin-dō-fun-jin-kyō. ❷一卷 ❸存、現代意譯根本佛教聖典叢書第四別一阿含經抄之内 ❹赤沼智善譯

波斯匿王女命過詣佛經 ❶(日)Ha-shi-noku-ō-nyo-myō-kwa-kei-butsu-kyō. (支)Po-sā-ni-wang-nü-ming-kuo-i-fo-ching. ❷一卷 ❹失譯 ❻別一阿含經第三十四卷の抄出。 ❼(參考) 出三藏記第四、法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一六、貞元錄第二六

波斯匿王問何欲最樂經 ❶(日)Ha-shi-noku-ō-mon-ka-yoku-sai-raku-kyō. (支)Po-sā-ni-wang-wên-ho-yü-tsui-lo-ching. 波斯匿王何欲最樂經、波斯匿王訶欲最樂經 ❷一卷 ❹失譯 ❼(參考) 出三藏記第四

波斯匿王欲伐央崛魔羅經
❶(日)Ha-shi-ni-ku-ō-yoku-batsu-ō-kutsu-ma-ra-kyō. (支)Po-sā-ni-wang-yü-fa-yang-chüeh-mo-lo-ching. ❷一卷 ❹失譯 ❼(參考) 出三藏記第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、開元錄第一六、貞元錄第二六

波達王經 ❶(日)Ha-datsu-ō-kyō. (支)Po-ta-wang-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹失譯 ❼(參考) 出三藏記第三、仁壽錄第五、靜泰錄第五、開元錄第二、貞元錄第二八

波羅婆堂經 ❶(日)Ha-ra-ba-dō-kyō. (支)Po-lo-po-t'ang-ching. (巴)D. 27 Aggaṇna S. ❸存、中阿含經第三九(大正一・六七三 No. 26, 154)

波羅牢經 ❶(日)Ha-ra-rō-kyō. (支)Po-lo-lao-ching. (巴)S. 42. 13 Pāṭali ❸存、中阿含經第四(大正一・四四五 No. 26, 20)

波利比丘謗梵行經 ❶(日)Ha-ri-bi-ku-bō-bon-gyō-kyō. (支)Po-li-pi-ch'iu-pang-fan-hsing-ching. ❷一卷 ❹失譯 ❻出曜經第十七卷の抄出。 ❼(參考) 出三藏記第四、法經錄第五、仁壽錄第三、靜泰錄第三、開元錄第一六、貞元錄第二六

長谷觀音菅絃講式 ❶(日)Ha-se-kwan-on-kwan-gen-kō-shiki. ❷一卷 ❹湛然(仁治元—元亨元 A. D. 1240—1321)撰集 ❼(參考) 諸宗章疏錄第二

長谷寺緣起 ❶(日)Ha-se-dera-engi. 長谷寺緣起文 ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第一一八寺誌叢書第二、群書類從第一五、新校群書類從第一九 ❹菅原道眞(承和一二—延喜三 A. D. 845—903) ❻長谷寺緣起文の下を見よ。 ❼享保六刊(高大、一・二二一) 嘉永七寫(谷大、餘卷・二九) 寫本(谷大、餘丙・五〇)

長谷寺緣起 ❶(日)Ha-se-dera-engi. 長谷寺本緣起 ❷一卷 ❸存 ❻長谷寺緣起文を和文體にしたもの。 何長谷寺緣起文の下を見よ。 ❾文化一二刊(谷大、餘大・二八六〇)(正大、一四一・四一)

長谷寺縁起文 ❶(日)Hase-dera-engi-bun. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第一一八、群書類從第一六 ❹菅原道眞(承和一二—延喜三 A.D. 845—903) ❺寛平八(A.D. 896)二月十日
❻本文は字多天皇の寛平八年二月十日、大和長谷寺の三綱等が勅を奉じ同寺の開創由來を記して朝廷に奉上したものである。撰者は菅原道眞であつて、行基菩薩國符記七卷、流記文三卷、本願德道聖人表狀一通等の舊記の要を取つて勸出したものである事を本文中に記してゐる。
内容の主なるものを擧げれば、長谷郷名稱の由來から天武天皇の御代に近江弘福寺の道明聖人の結舎建立、次いでその弟子で當寺の開山である德道聖人(齊明二 A.D. 656—)が靈夢に一大奇木を得て十一面觀世音像(巧匠は猪文會、猪主勲)を彫刻して安置したこと、天平五年五月十八日の開眼供養のこと、續いて德道聖人の寺院造營の勅意、天平七年五月十六日の上棟、同十九年九月二十八日及び天平勝寶五年十一月十六日に行はれし供養會の事などの詳細な叙述がある。
從來、長谷寺の縁起として傳へられてゐるものに凡そ次の三本を擧げ得る。即ち長谷寺縁起二卷、長谷寺本縁起附勸文一卷及び長谷寺縁起文である。第一の長谷寺縁起二卷は享保四年(A.D. 1719)文照の手による『豐山傳通記三卷』の開板に依り、豐山第十七世隆慶(慶安二—享保四 A.D. 1649—1719)の草寫本長谷寺縁起文一卷が世に出たがそが漢文體なるを以て一般庶民の爲めこれを和文體譯入本として同六年に別行されたものである。第二のものは前述の隆慶の草寫本とそれに彼の勸文の註を併せて當寺第三十九世唯阿(寶曆元—文政六 A.D. 1751—1823)に依つて文化十二(A.D. 1815)年に單行されたもので此の事は同本の末にある表章跋に徵して明かである。最後のものは即ち道眞の傳眞筆本(長谷寺所藏)である。今群書類從所載のものは前述の隆慶の草寫本を底本とし、これに宮内省圖書寮所藏寫眞版本を以て校勘したものである。大日本佛教全書所收のものは唯阿の表章跋を併載してゐるから明かに第二の長谷寺本縁起附勸文二卷と同一のものであつたとその勸文を省略したに過ぎない。(不破幹雄)

長谷寺縁起剝偽 ❶(日)Hase-dera-engi-hakugi. ❷一卷 ❸存、伴信友全集第二 ❹龍大〈谷大、外非・一〇六一〉

長谷寺觀音靈驗記 ❶(日)Hase-dera-kwanno-rei-ken-ki. ❷三卷 ❸存 ❹行譽(一永享七 A.D. 1435—) ❺永應二刊(正大、一四一・六五)〈高大、寄・一・二二〉(智、て・六・中・三〇)承應四刊(帝國、二一三・三二五)

長谷寺再興縁起 ❶(日)Hase-dera-sai-kō-engi. ❷一卷 ❸存 ❹(參考)大日本佛教全書續刊豫定書目

長谷寺造供養 ❶(日)Hase-dera-zō-kū-gyō. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第一一八 ❹菅原在豐 ❺康正二(A.D. 1456)四月
❻後花園天皇の康正二年四月、長谷寺修營の功竣つてその造供養を嚴修し、大般若經六百卷を開題した。本文は即ち此の供養會に當つて當寺の僧綱等の奉つた願文であつて菅原在豐の草案にかゝる。(不破幹雄)

長谷寺多寶塔文 ❶(日)Hase-dera-tahō-tō-mon. ❸存、伴信友全集第二 ❹伴信友(明和八—弘化元 A.D. 1771—1844)作 ❺明治四〇刊 ❻(帝國、四一・一一九イ)

長谷寺舞臺供養 ❶(日)Hase-dera-butai-kū-yō. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第一一八 ❹文明一二(A.D. 1480)
❻本文は後土御門天皇の文明十二年の夏、當寺舞臺修營の砌、奉る所の願白文であつて、專ら十一面觀世音の利生靈驗を讃仰するものである。撰者未詳であるが當寺の僧綱等の手に成るものである事は想像に難くない。(不破幹雄)

長谷寺本縁起 ❶(日)Hase-dera-hon-en-gi. 長谷寺縁起 ❷一卷 ❸存 ❹文化一二刊 ❺(正大、一四一・六六)〈龍大、二九七四・一五〉(智、ら・四・中・二一〇)

長谷寺本縁起附勸文 ❶(日)Hase-dera-hon-en-gi-tsukefumi-kan-bun. ❷一卷 ❸存、豐山傳通記卷上 ❹隆慶(慶安二—享保四 A.D. 1649—1719) ❺長谷寺縁起文の下を見よ。 ❻刊本(正大、一四一・六六)

長谷寺靈驗記 ❶(日)Hase-dera-rei-gen-ki. ❷二卷 ❸存、大日本佛教全書第一一八、群書類從第二七 ❹行譽
❺永享七(A.D. 1435)
❻本書は大和國長谷寺の十一面觀世音の靈驗を假名文にて記錄したものである。上下二卷となし、上卷には第一吉備大臣於大唐讀野馬臺詩朝事より、第十九字治關白依參告知灰燼益事に至る十九條、下卷には一當未建立前歸此山者成所願事附諸人得益事より、第三十三所願衆生善僧轉重輕受得菩提事に至る三十三條を載せてゐるが、何れも當寺の縁起靈驗に關する記錄である。撰者行譽はその序文に於て、先づ菅丞相勸出の『長谷寺縁起文』によつて當寺の藍殿を說き、次いで本書の體裁に言及し、二卷に定めたのは觀禱を分たんが爲めであり、上卷の記事に十九、下卷に三十三の數を撰んだのは觀音の本誓たる十九說法や三十三身を表象したものであると云つてゐる。而して上卷は當寺に存せし舊記より拾錄され、下卷は諸家の記錄より撰轉されたものである事も撰者の言に徵して明かである。(不破幹雄)

長谷部水哉遺稿集 ❶(日)Hase-bu-sui-sai-i-kō-shō. ❷一冊 ❸存 ❹長谷部水哉遺書刊行會編 ❺刊本(高大、一・五七)

破安心相違覺書 ❶(日)Ha-an-jin-sō-i-chō-gaki. ❸存、眞宗全書第五〇 ❹光圓(慶長一七—寛文二 A.D. 1612—1662) ❺承應三(A.D. 1654)九月
❻本書は眞宗興正派第十九世淮秀の「安心相違覺書」に對して本願寺第十三世良如(光圓)が破斥したものである。

❷(參考)淨土眞宗教典志第一 ❺寫本(龍大、一七三・七)

破有論 ❶(日)Ha-u-ron. (支)Po-yu-lun. 大乘破有論 ❷一卷 ❸存、大正三〇・二五四 No. 1574、續藏一、卍二五・一〇、北1305且、南1311肥、元1331肥、明北1298星、清1298星、麗1459起、天1391肥、至1384後、明南1438書、Nj. 1305 ❹龍樹造、鳩摩羅什譯 ❺宋太平興國五以後(A.D. 980—) ❻大乘破有論の下を見よ。

破壞一切心識 ❶(日)Ha-e-i-ssai-shin-shiki. (支)Po-huai-i-ch'ieh-hsin-shih. 決定毘尼經 ❷一卷 ❸存、大正一二・三七 No. 325、續地一一、卍六・四、北35衣、南37衣、元33衣、明北33衣、清33衣、麗36服、天41衣、指29服、法35服、至1034讃、明南13衣、Nj. 35 ❹西晉竺法護(一泰始二—建興元 A.D. 265—313—)譯 ❻決定毘尼經の下を見よ。

破奥記 ❶(日)Ha-ō-ki. ❷一卷 ❸存 ❹道師作 ❺寛永六寫 ❻(立大、DO・〇一)

破戒往生章 ❶(日)Ha-kai-ō-jō-shō. ❷一卷 ❸存 ❹慈泉洞空(正保二—寛永四 A.D. 1645—1707) ❻刊本(正大、一五三二・三〇七〈哲、ら・二一・左・三〇〉)

破吉利支丹 ❶(日)Ha-ki-ri-shi-tan. ❷一卷 ❸存 ❹鈴木正三(天正七—明暦元 A.D. 1579—1655) ❺寛文二刊 ❻(正大、一〇九一・四五)

破僞顯眞錄 ❶(日)Ha-gi-ken-shin-roku. ❷一卷 ❸存 ❹高與日悅述 ❺享保九刊 ❻(立大、DO・二八一)

破空論俗談 ❶(日)Ha-ku-ron-zoku-dan. ❷一册 ❸存 ❹刊本(哲、ら・四・左・四)

破關擊節錄聽書 ❶(日)Ha-kwan-gi-ki-setsu-roku-kiki-gaki. 夾山關悟禪師破關擊節錄聽書 ❷一卷 ❸存 ❹圓浪廣埼、白鳥崇三編 ❺(參考)禪籍目錄

破外道四宗論 ❶(日)Ha-ge-dō-shi-shu-ron. (支)Po-wai-tao-sze-tsung-lun. 提婆菩薩破務伽經中外道小乘四宗論、破外道小乘四宗論、外道小乘四宗論 ❷一卷 ❸存、大正三二・一五五 No. 1639、續藏五、卍二二・五、北649臨、南653臨、元655臨、明北1252逸、清1252逸、麗652命、天649臨、指653命、法625命、至1372甲、明南1396華、Nj. 1259 ❹後魏永平元—天平二(A.D. 508—535) ❺提婆菩薩破務伽經中外道小乘四宗論の下を見よ。

破外道小乘四宗論 ❶(日)Ha-ge-dō-shō-jō-shi-shu-ron. (支)Po-wai-tao-hsiao-ch'eng-sze-tsung-lun. 提婆菩薩破務伽經中外道小乘四宗論、外道小乘四宗論、破外道四宗論 ❷一卷 ❸存、大正三二・一五五 No. 1639、續藏五、卍二二・五、北649臨、南653臨、元655臨、明北1252逸、清1252逸、麗652命、天649臨、指653命、法625命、至1372甲、明南1396華、Nj. 1259 ❹後魏永平元—天平二(A.D. 508—535) ❺提婆菩薩破務伽經中外道小乘四宗論の下を見よ。

破外道小乘涅槃論 ❶(日)Ha-ge-dō-shō-jō-ne-han-ron. (支)Po-wai-tao-sze-p'an-lun. 提婆菩薩釋務伽經中外道小乘涅槃論、務伽外道論、外道小乘涅槃論、釋外道小乘涅槃論、破外道涅槃論、提婆菩薩涅槃論 ❷一卷 ❸存、大正三二・一五六 No. 1640、續藏五、卍二二・五、北650臨、南654臨、元656臨、明北1253逸、清1253逸、麗649命、天650臨、指654命、法624命、至1373甲、明南1397華、Nj. 1260 ❹菩提流支譯 ❺後魏永平元—天平二(A.D. 508—535) ❻提婆菩薩釋務伽經中外道小乘涅槃論の下を見よ。

破外道涅槃論 ❶(日)Ha-ge-dō-ne-han-ron. (支)Po-wai-tao-sze-p'an-lun. 提婆菩薩釋務伽經中外道小乘涅槃論、提婆菩薩涅槃論、務伽外道論、外道小乘涅槃論、釋外道小乘涅槃論、破外道小乘涅槃論 ❷一卷 ❸存、大正三二・一五六 No. 1640、續藏五、卍二二・五、北650臨、南654臨、元656臨、明北1253逸、清1253逸、麗649命、天650臨、指654命、法624命、至1373甲、明南1397華、Nj. 1260 ❹菩提流支譯 ❺後魏永平元—天平二(A.D. 508—535) ❻提婆菩薩釋務伽經中外道小乘涅槃論の下を見よ。

破外道小乘涅槃論 ❶(日)Ha-ge-dō-shō-jō-ne-han-ron. (支)Po-wai-tao-hsiao-ch'eng-sze-p'an-lun. 提婆菩薩釋務伽經中外道小乘涅槃論、務伽外道論、外道小乘涅槃論、釋外道小乘涅槃論、破外道涅槃論 ❷一卷 ❸存、大正三二・一五六 No. 1640、續藏五、卍二二・五、北650臨、南654臨、元656臨、明北1253逸、清1253逸、麗649命、天650臨、指654命、法624命、至1373甲、明南1397華、Nj. 1260 ❹菩提流支譯 ❺後魏永平元—天平二(A.D. 508—535) ❻提婆菩薩釋務伽經中外道小乘涅槃論の下を見よ。

破顯要記 ❶(日)Ha-ken-yō-ki. ❷上卷 ❸存 ❹源信(天慶五—寛仁元 A.D. 942—1017)述
❻惠心僧都全集第一所收の「觀無量壽經顯要記破文」、佛教全書第三十一には顯要記破文とす)のことか。

❼(參考) 淨土眞宗教典志第一
破誤鈔 ❶(日)Ha-go-shō. ❷一卷 ❸存 ❹勞鎮談 ❺(正教藏)

破山語錄 ❶(日)Ha-san-go-roku. ❷十二册 ❸存 ❼(參考) 禪籍目錄

破地獄軌 ❶(日)Ha-ji-goku-ki. (支)Po-ti-yü-kuei. 佛頂尊勝心破地獄轉業障出三界秘密三身佛果三種悉地眞言儀軌 ❷一卷 ❸存、大正一八・九一二No. 916、續藏一一—四、元二三A. D. 637—735)譯 ❺唐開元五—二三(A. D. 717—735) ❻佛頂尊勝心破地獄轉業障出三界秘密三身佛果三種悉地眞言儀軌の下を見よ。

破色心論 ❶(日)Ha-shiki-shin-ron. (支)Po-se-hsin-lun. 唯識論、大乘務伽經唯識論、務伽經唯識論、務伽唯識論、唯識無境論、唯識無境界論 ❷一卷 ❸存、大正三一・六三No. 1598、續來九、卍二二・四、北614忠、南638忠、元630忠、明北1232靜、清1232靜、麗630力、天618忠、指577力、法600鎬、至1336丙、明南1365都、Nj. 1233 ❹般若流支譯 ❺後魏元象元—武定元(A. D. 538—543) ❻唯識論の下を見よ。

破邪決 ❶(日)Ha-ja-ketsu. 對決幻虎錄解語 ❷二卷 ❸存 ❹顧慧遠 ❺寶永六刊(谷大、長保・三一一)〈高大、寄・一・二四〉正德四宮(正大、一三七・三三)

破邪決答 ❶(日)Ha-ja-ket-tō. ❷五卷 ❸存 ❹本逢快晃抄を破斥したもの。 ❺享保元刊(谷大、餘大・二一五五)享保五刊(立大、A〇四・三六七)

破邪訣 ❶(日)Ha-ja-ketsu. ❷一冊 ❸存 ❹佐治實然著 ❺明治一八刊 ❻(高大、一・二四)

破邪顯正異四時篇 ❶(日) Ha-ja-ken-shō-i-shi-ji-hen. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(谷大、宗大・三二〇八)

破邪顯正記 ❶(日)Ha-ja-ken-shō-ki. ❷五卷 ❸存、大日本佛教全書第九七 ❹眞遥(慶長元—萬治二 A. D. 1596—1659 一說年六四寂による) ❺寛永一四(A. D. 1637)

❻本書は比叡山首楞嚴院沙門眞遥が四十二歳寛永十四年の時の著作にして日蓮の說を邪見とし此れを說破して正法を顯揚せんとしたものである。初めに傳を寸見するに眞遥幼にして日蓮宗に入り日舜に隨つて剃髮し日遥と稱し、後下總法輪寺にあつて宗學研讀に勤め元和七年上洛日源より一宗の深義を相承し各地に講經傳道に精進し著作をなし來るも諸宗研究の結果日蓮宗義に滿足せず遂に天台宗に心服、叡山首楞嚴院に寓居し名を眞遥と改む。稱名念佛怠らず或は天海の請により東叡山に下り、或は橫川に在つては舜統院と號し、天台の深旨講讃に努力して日蓮の主張を邪義として彈呵す。後慨嘆に堪ゑず萬治二年十二月入寂す。享壽六十四歳と云ふ。著書に十宗略記、西谷名目鈔等あり、本書は其の代表的なものである。彼の改宗は寛永十一年十月と云はれ、本書は其の四年目に發表せられて居る。彼の轉宗は日蓮宗に大きに衝動を與へたらしく一寺の貫主となつた後に宗旨を改め且つ元の宗を棄破したため反骨として種々の批評を蒙つた事や、眞遥自身が廣い眼界にあつて佛教を大觀する事に志した事は本書の初頭より推定せられる。かく天台・日蓮兩宗が露骨な宗論を試みるに至つた原因を見れば眞遥の本書撰述の當然さを首肯す可きものがあらう。

其は眞遥の本書述作一三四年前叡山の圓信が瓦彈を日蓮宗陣に放つた事が最も大きい所であらう。即ち山門無動寺豊海の一僕徒日蓮なるもの師の妙義を聞き名利を惑らんために邪義を正直の佛語にかり、惡義妄說を實相妙理に於てするを悲しみ、偶々伊勢佛眼院講經を兼ねて永正元年破日蓮義二卷(佛教全書第九七)を撰述して六十二條に亘つて日蓮の邪說を難ず。時に鎌倉妙法寺日澄遠く是れを聞き日出台隱記二卷(佛教全書第七九)を直に撰して圓信の難を辯す。かくて天文五年七月には叡山が日蓮徒の法華宗號を用ふるを辭軍に訴へ、宗論後僧兵等と衝突して洛中の日蓮宗諸山兵火を蒙つて全滅の悲運にあふ。天正七年には所謂安土問答あり、此の前後に天台・淨土と相爭ふ。天正十三年上總に在つて天台の徒と論議し死者數十人を出せる如く各地に角試す。蓋しかゝる狀勢下に宗論書の現るゝは當然であり、其の代表的のものが本書である。

彼が轉宗の動機と撰述原因を本書より拔出するに「當世ノ人ノアリサマヲミルニ眞實ニ後生ヲ恐レ佛法ノ正理ヲキヽワケントスルモノハナシ。皆但我慢偏執ヲサキトシ、名聞利養ニフケリテロニ任セテ人ヲソシルナリ」と當時の佛教界の狀勢を難じ、「近年ニ至リテ粗諸宗ノ章疏ヲ見、善ク諸祖ノ意ヲ窺ヒ時機ヲ鑑ミ邪正ヲ勘フルニ台密禪律念佛俱ニ各ノ其ノ利益アリ。叡山ノ一宗是等一宗ヲ惣セリ。日蓮ノ所立ハ曾會私情ト見付奉ヌ」要する所、彼が日蓮宗にあつての不動の地位と宗學とを敢然振切つて富貴をしりぞけ所信の滿足を叡山教學に求め「余ハ傳教大師・慈覺大師・惠心僧都ノ御義ニ任ス」と師表を選び研究思慮を明らめ「カヤウニ身ノ寶ルヲモイトハズ正法ニ歸伏」しては邪を破し正直を顯揚せんため「天下ノ日蓮黨ノ邪正ヲモシラズ、口ニ任セテ諸宗ヲ誹謗スル者ヲ憂ル心少シアルガ故ニ」本書の撰述となつて居る。本書は先の日澄の日出台隱記の徹底的反駁とも見られる。全五卷六十七條に亘つて詳述する所で其の要目を列記せば次の如し。

〔第一卷〕 捨ニ邪宗ニ歸ニ正法ニ是恒例事。日蓮所立皆ニ法華正義ニ故非ニ上行菩薩化身ニ事。日蓮所立四十餘年未顯眞實之文皆僻見事。日蓮僻ニ解正直捨方便等文ニ事。日蓮僻ニ解乃至不受餘經一偈文ニ事。〔第二卷〕 日蓮依ニ無量義經ニ立ニ前無得道ニ是僻見事。日蓮僻ニ解十方佛土中唯有一乘法等文ニ事。日蓮僻ニ解若以小乘化乃至於一人等文ニ事。日蓮僻ニ解一切菩薩阿鞞菩提皆屬此經文ニ事。日蓮僻ニ解應禮出界名爲虛出釋ニ事。見諸菩薩受記作佛文事。始見我身入如來慧文事。菩薩處々得入等釋事。傳教大師爾前成佛之文事。日蓮巧ニ令爾前成佛文義ニ是僻見事。日蓮黨所說無智道俗唱題成佛是妄說事。若有聞法者無一不成佛並聞一偈一句一念隨喜皆當作佛文事。須臾聞之即得究竟文事。是人於佛道決定無有疑文事。日蓮所立但妄凡夫臨終成佛是妄說事。其人命終入阿鼻獄之文皆事。濁世惡比丘不知佛方便等文皆事。安樂行品說相是末法當時弘經方軌事。一念信解及五十展轉隨喜位日蓮僻說事。日蓮所立時機相應當家法門非ニ眞正義ニ事。法華經後五百歲廣宣流布現證事。大集經白法隱沒日蓮僻解事。日蓮指ニ日本ニ爲ニ唯法華之國ニ是僻說事。〔第三卷〕 末代凡夫行者所期淨土西方安樂世界事。往生之業有相無相多種事。西方佛別餘異等釋義日蓮僻解事。日蓮僻ニ解無量義經難易二道ニ事。日蓮不ニ許ニ惡人女人之念佛往生ニ是僻謬事。日蓮念佛無間之所立大誇法事。日蓮書念佛者臨終惡相是妄說事。〔第四卷〕 眞言宗教非ニ方等部攝屬事。日蓮所立大日經對ニ法華經ニ七重下劣是大僻見事。法師三說藥王十喩等不ニ關ニ密教ニ事。傳教大師眞言傳持事。眞言御身成佛本文事。六波羅密經五藏事。眞言教有ニ記小久成ニ事。日蓮僻ニ解文句記含光語ニ事。日蓮眞言七重疑難大僻見事。日蓮書大日如來爲ニ他受用身ニ是僻解事。日蓮妄破ニ雲無長・命期智・不空・三々藏ニ事。日蓮以ニ明雲橫死平家沒落爲ニ眞言亡國之現證ニ、以ニ鎭朝、爲ニ法華行者ニ是誑惑事。日蓮以ニ承久兵亂一院敗軍ニ爲ニ眞言亡國之現證ニ、以ニ義時ニ爲ニ法華行者ニ是誑惑事。日蓮

書中有密勝顯劣之語ニ事。(第五卷) 禪宗教外別傳佛經有ニ證據ニ事。法華妙體即禪法事。一念信解所比禪法是別教事。天台大師非ニ破ニ雖勝宗ニ事。上宮太子傳教大師等明哲信ニ用禪宗ニ事。娑婆世界得道不ニ限ニ離欲事。一貫寧三教輪事。日蓮所立末法不持戒義違ニ背經釋ニ事。三種善神事。日蓮折伏諸宗「是實誇法而非ニ宗旨建立之方便ニ事。佛菩薩力不ニ能ニ破ニ壞邪宗ニ事。當世諸人要行在ニ往生要集ニ事。

かく眞遥が日蓮觀は圓前無得道、諸宗無得道と立てゝ他宗他經を破棄するため、正しく誇法の罪人にして無間地獄の業族であるとす。從つて本書は台・日法華觀の相違、念佛・台密・禪・戒を顯揚して日蓮の僻見を是正する所である。

尙、本書の影響に就て一見するに、眞遥が本書の論旨に對して日蓮宗徒に大打擊を與へたるものとして猛烈な反駁書が現れた。即ち日賢の論逢復宗決一卷、同別記八共に佛教全書第九七)、正保四年日領が日蓮本地義二卷(佛教全書第九七)、並に法華格言一卷、慶安三年日遵が練逢論十卷、同四年日軌が擯邪眞遥記五卷を以つて破邪顯正記に抗した。此れに對して承應三年九月眞遥の弟子と傳ふる眞陽が禁謗日蓮義十卷、同遥加一卷を以つて眞遥說に賛同して居る。更に萬治三年日存は金山鈔十卷、延寶四年日鎧は中正論二十卷を述作して眞遥・眞陽說に反擊を加ふ。斯樣に眞遥の說は日蓮宗に痛切に響く所があり、且來日蓮に對する各宗が彼の說を參照し依憑するに至つて居る。思へば日蓮宗出身の眞遥が反つて元の宗を棄じ破邪顯正を以つてする日蓮宗に臨むに破邪顯正とする皮肉さよ。

天台・日蓮兩宗の和違の研究には必讀の好書たるは勿論、天台宗徒自身に對しても四宗各門の知識と各宗との所說相違を知らしむる指針となるに疑はない。

❷(參考) 法華宗門著述目錄(日遥の條)

❹寛永一四刊(佛大、二八一二・二八、二〇三・四二)(正大、一五七・二三)(谷大)寛永一六刊(谷大、餘大・九〇五(立大、A〇五・一六—二〇) (眞遥最昌)

破邪顯正記續補 ❶(日)Ha-ja-ken-shō-ki-zoku-ho. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第九七 ❹眞遥/慶長元—萬治二 A. D. 1596—1659 一說年六四寂による) ❺寛永一六(A. D. 1639)

❻破邪顯正記五卷の追補。問答を以つて眞遥自身が日蓮宗を改めて天台義に服し、日蓮の說を邪見なりとし、醜說退治の所以を明らかにして居る。而して眞遥が佛教觀を卷末に「邪見正見本無ニ差相一、佛法世法一揃打喪」と云ふは論諍者としての態が歸宿せしめんとする態度を物語るものであらう。尙後說に寛永己卯とあるより見れば寛永十四年破邪顯正記を述作した二年後の寛永十六年迄には追補として述作せられて居つたものと思ふ。 (眞遥最昌)

破邪顯正義 ❶(日)Ha-ja-ken-shō-gi. 鹿島問答 ❷一卷 ❸存、淨土宗全書第一二 ❹學問(曆應四—應永二七 A. D. 1341—1420)遠

❺本書は鹿島問答ともいはれてゐる。破邪顯正義とは內容に依り、鹿島問答とは、問師參詣の處に因つて名づけたものである。

內容を見るに、本書の大綱は標題の如く邪義を破して、正義を顯はさんと努めたものである。即ち老翁と老女との問答に託して、鹿島明神の本地は阿彌陀如來であるが、然しながら機緣に應じて、或は觀音、釋迦、大日、藥師等として顯はれ給ふことを明し、元來神と佛とは本地垂迹の樣であつて、何れも衆生を救濟する、隨類應現の形である、故に本來佛教を保護し、念佛する者を愛念し給ふのが本意である。されば神社に參詣し、神前に禮拜する時、念佛誦經が大切であるのに、世人やゝもすれば、念佛は却つて不敬であると考へてゐるのは、それは大なる誤りである。又禪宗の夢窓國師が夢中問答を作つて、淨土宗が念佛已外の諸行を雜行道と名づけたことを非難し、或は又淨土の教は却つて小乘である等と攻擊されてあるのを論破し、又ある一部の人々が聖德太子の像を刻つて(恐くは眞宗)、觀音勢至の像を造るは雜行であるといひ、或は精進潔齋して念佛を勵むは自力の念佛であると非難してゐる迷妄を破り、或は當時盛んに民間に流行した踊り念佛の無意義を論じ、或は日蓮が念佛無間の旗を揭げて盛んに攻擊したのを碎破し、他力實體の深義、九品帝別の有無、淨土易行の實義を顯彰せんと企てられたものである。而してこれが十八段として述べられてあるのは、或は十八願の數を取つたものかとも考へる。即ち(一)鹿島明神の緣起、(二)鹿島明神の御本地、(三)念佛の行者は神明の參詣を願むべきか、(四)念佛の行者は現世の福樂を所望べからず、(五)往生の一門に限つて何んぞ偏に欣慕せしむるや、(六)得悟の人の奇特の有無、(七)十方淨土の中に於て西方は最も易行道なり、(八)夢窓國師佛の說教の多少を以て難易二道を判ずるの可否、(九)觀音勢至の二菩薩を除いて聖德太子を以て本尊と仰ぐの可否、(十一)念佛行者の精進潔齋若くは數遍を重ぬるを自力と排斥するの可否、(十二)念佛の行儀に三種あり、(十三)踊り念佛の行儀は經論の文義に背く、(十四)日蓮上人念佛を以て無間地獄の業となす、(十五)夢窓國師淨土を以て小乘に屬す、(十六)有相に著する人は實體を知らざるが故に往生すべからざるか、(十七)九品の差別を明すが故に極樂は一乘の世界にあらざるか、(十八)當に此處にて見奉る何人なりや。已上十八題を擧げて、邪義を破して正義を顯はされてあるのが本書の大要である。而して本書は問師の著述としては最も通俗的の書き方である。註釋書に就ては、余寡聞にして未だこれあることを聞かない。然しながら問師は頗る我國の神道并に國文學に通じ、其の著述としては日本書紀私鈔三卷并に人王百代具名記一卷、麗氣記私鈔十四卷、麗氣記拾遺鈔一卷、古今序註十卷があるから、此等は參考すべきである。

❼(參考) 淨土正依經論書籍目錄 ❹永應四刊(正大、一五五四・一〇四)(京大、藏・一

五八・一)(立大、A〇五・一七五) 文政二刊(龍大、二六八四・一三九)(正大、一五五四・一〇五、一〇七、一〇九、二三二)(谷大、宗大・九二〇)

(石橋誠道)

破邪顯正義 ❶(B)Ha-ja-ken-shō-gi. 訂正重刊破邪顯正義 ❷一卷 ❸存 ❹刊本(正大、一五五四・二三二)

破邪顯正五要問答 ❶(B)Ha-ja-ken-shō-go-yō-mon-dō. ❷一卷 ❸正聽 龍溪述 ❹寛延三(A. D. 1750) ❺淨土眞宗教典志第二に云く「神=破佩徒運潮寺僧信譽=論眞宗一凡五條」云云。

破邪顯正御消息注釋 ❶(B) Ha-ja-ken-shō-go-shō-sokū-chū-shaku. ❷一卷 ❸存 ❹古部觀順(文政七—明治四三A. D. 1824—1910)述 ❺明治三五刊 ❻(龍大、一七七・一二)

破邪顯正鈔 ❶(B)Ha-ja-ken-shō-shō. ❷三卷 ❸存、眞宗假名聖教第三、眞宗法要第一三、眞宗聖教大全卷上、假名聖教(惠空筆寫)八十八部 ❹存覺(正應三—應安六A. D. 1290—1373) ❺元亨四(A. D. 1324) 八月

❻康安二年の存覺の淨典目錄には「空性房了源」の所望によつて草すとある、諸目錄みな之を受け、奥書に元亨四歲甲子八月二十二日假=惡材押=記=此綱要=蓋是爲=防=誇家=爲=立=眞門=所=選集=也努力々々不=可=外見=而已」とあり、又假名聖教本等には其の後に「大谷本願寺親鸞聖人之御流之正理也、本願寺住持存知判」を加へて流布の權威としてゐる。

然して本鈔の內容は、其の初めに「專修念佛の行人某等謹で言上はやく山寺聖道の諸佛ならびに山臥巫女陰陽師等が無實非分の讒言流妨を停止せられかつは治國撫民の恩情をたれられてもとのごとく本宅に還住して念佛を勤行すべきよし裁許をかうふらんとおもふ子細の事」と述べ、聖道諸僧や山伏等が官邊に淨土眞宗を讒せんとし、又其の命なりとて迫害するに對し、先づ破邪顯正の內心憤ける意企を述べ、以下「一向專修念佛といふは佛法にあらず外道の法なるによりてこれを停止せらるべきよしの事」、「法華眞言等の大乘をもて雜行と稱する條しかるべからざるよしの事」等々十七ケ條に涉りて明確詳細に論述し以て眞宗の正意を顯正してゐる。

❷(參考) 淨土眞宗聖教目錄、淨土眞宗教典志第一、第二、眞宗假名聖教目錄、淨典目錄 ❾明曆四寫(谷大、宗大・三〇四五)元祿二寫(谷大、宗甲・二二)論ノ坊本(谷大、宗丙・七三)寫本(龍大、別置) (秃譯住)

破邪顯正鈔聞書 ❶(B)Ha-ja-ken-shō-shō-kiki-gaki. 四種破邪顯正鈔 ❷一卷 ❸存 ❹寛明(寛延二—文政四A. D. 1749—1821)述 ❺天保一二寫 ❻(谷大、宗大・三八五三)

破邪顯正鈔口筆 ❶(B)Ha-ja-ken-shō-shō-kō-hitsu. ❷一卷 ❸存 ❹智現(—天保六A. D. 1835)述 ❼(參考) 眞宗大系刊行豫定書目

破邪顯正鈔講義 ❶(B)Ha-ja-ken-shō-shō-kō-gi. ❷一卷 ❸存 ❹法住(—明治七A. D. 1874)述 ❼(參考) 眞宗大系刊行豫定書目

破邪顯正鈔篇目 ❶(B)Ha-ja-ken-shō-shō-hen-mo-ku. ❷一卷 ❸存、異義集(了祥稿本)第十卷 ❹了祥(天明八—天保一三A. D. 1788—1842)編

❻存覺の元亨四年に著せる破邪顯正鈔に舉ぐる所の十七ケ條について其の「一向專修念佛といふは佛法に非ず外道の法なるに依てこれを停止せらるべきよしの事」等の項目を列擧編輯せるもので、最後に了祥の奥書を附し、『私云「一期記中は正中元(元亨四改元)七月廿四日愛光誕生在所佛光寺也八月時正山科興正寺予致供養了裝束鈍衣甲袈裟也」と、この年月六日眞要抄同十二日本懷集改作也』とある。

破邪顯正鈔戊辰記 ❶(B)Ha-ja-ken-shō-shō-bo-shin-ki. ❷三卷 ❸存、眞宗大系第二七 ❹義尊(文化二—明治一四A. D. 1805—1881) ❺明治元(A. D. 1868) ❻存覺の著「破邪顯正鈔」三卷について同じく三卷に涉りて解說せるもので、初めに著者存覺の著述概說を試みて本鈔の位置を考察し、次に本鈔に就いて其の來意を述べ、其れが諸道の諸僧山伏等が無實の難題を申しかけて鎌倉に訴へ、官邊も亦之れに組して迫害を加へんとし、共々に我が眞宗に對して亂妨を企てるによつて、眞宗の正意を顯はされたものたるを述べ、次に本鈔の大意、題號等を合せて考證し、最後に文に入りて其の著の緣起として著者の舉げたるものより、全十七條並に結文に至るまでを、種々に其の當時の事情まで合せ考へ、懇切に解說を施してゐる。蓋しこの記は東西を通じて破邪顯正鈔解說の第一位に置かるべきものであらう。 (秃譯住)

破邪顯正鈔略述 ❶(B)Ha-ja-ken-shō-shō-ryaku-jutsu. ❷一卷 ❸存 ❹吉谷覺壽(天保一三—大正三A. D. 1842—1914)述 ❾明治四〇寫(谷大、宗小・一七三)(龍大、一二四二・六)明治四二刊(立大、A四〇・一〇三)

破邪顯正辨 ❶(B)Ha-ja-ken-shō-ben. ❷一卷 ❸存 ❾寫本(龍大、一五〇二・五九)

破邪顯正錄 ❶(B)Ha-ja-ken-shō-roku. ❷一卷 ❸存 ❹桂觀日智記 ❺明治四三寫 ❾(立大、D〇・八六)

破邪顯正論 ❶(B)Ha-ja-ken-shō-ron. ❷一卷 ❸存 ❹吉岡信行著 ❺明治一五刊 ❾(谷大、餘大・一二六四)

破邪顯正集 ❶(B) Ha-ja-shū. ❷八卷 ❸存 ❺安政二刊 ❾(龍大、二八一四・二六)(正大、一〇九一・二八)

破邪鈔 ❶(B) Ha-ja-shō. ❷一卷 ❸存 ❹道觀述 ❺日蓮義を破斥したもの。❾刊本(谷大、餘大・二五七六)

破邪新論 ❶(B)Ha-ja-shin-ron. ❷一冊 ❸存 ❹井上圓了(安政五—大正八A. D. 1858—1919)述 ❺明治一八刊 ❾(龍大、二八一四・二七)(京專)

破邪叢書 ❶(B) Ha-ja-sō-sho. ❷

二冊 ❸存 ❹神崎一作著 ❾刊本(龍大、研眞)

破邪答問 ❶(B) Ha-ja-tō-mon. ❷一卷 ❸存 ❹西天 ❺心血脈集を評破したもの。 ❾寛政七寫(谷大、宗大・三〇六三)大正六寫(谷大、宗大・二八三四)

破邪辨正記 ❶(B)Ha-ja-ben-shō-ki.

❻本朝台嚴撰述密部書目に云く「自序云、天仁二年唐院眞言藏下司釋藥雋記、自=天仁二年=至=享保三年=、得=六百十年=、○某寶云、松奠坊眞源破……云々。アヤハ持世菩薩卷、眞源法橋圓出=之=」云云。自在金剛集第八に云く「勝陽房藥雋。仁和寺惠什疑難山家相承脈譜、藥雋撰二卷救之、天仁二年己丑臘月撰述。大疏啓蒙云、松奠房眞源法橋述、更詳」云云。

破邪法日蓮記 ❶(B)Ha-ja-hō-nichi-ren-ki. ❷十卷 ❸存 ❺大正八寫 ❾(立大、D〇・一二)

破邪問答 ❶(B)Ha-ja-mon-dō. ❷三卷 ❸存、眞宗全書第五〇 ❹月感(慶長五—延寶二A. D. 1600—1674) ❺永應二(A. D. 1653)

❻本書は眞宗本派の學匠月感、西吟兩氏の往復論難の書を編纂したもので、月感側にて編めるものと思はれる。その內容は、謹奉訴狀(月感)、七箇條御伺(西吟)、七箇條證據(月感)、破邪明證(月感)、假名答(西吟)、眞名答書(西吟)、再破(月感)から成立してゐる。

❼(參考) 淨土眞宗教典志第二 ❾刊本(谷大、宗大・一一九四)(龍大、一七三・八) (木下靖夫)

破邪餘論 ❶(B) Ha-ja-yo-ron. ❷一卷 ❸存 ❾(龍大、二八一四・四五)

破邪立正記 ❶(B) Ha-ja-ri-shō-ki. ❷一卷 ❸存 ❹日講 ❾寫本(立大、D〇・二二六)

破邪論 ❶(B)Ha-ja-ron. (支)Po-hsieh-lun. ❷二卷 ❸存、大正五二・四七四 No. 2109、續露八、卍三〇・五、北1079既、南1093既、元1090既、明北1493徵、清1524曲、麗1084既、天1078既、指1038既、法1065既、至1535約、別南1472冠、Nj. 1500 ❹法琳撰 ❺唐武德五(A. D. 622)

❻唐の高宗の武德四年、太史令傅奕なる者、佛教寺塔を減省し、僧尼を廢し、國を益し民を利せんとするの策十一條を上つたから法琳大にこれを憂ひ、本論二卷を著して之を反駁した爲に、彡に其の說が行はれなかつた。

❼(參考) 內典錄第五、開元錄第八、貞元錄第一一、奈良朝現在一切經疏目錄2368 ❾刊本(正大、一〇九一・七七)(石橋誠道)

破邪論集 ❶(B) Ha-ja-ron-shū. (支)Po-hsieh-lun-chi. ❷三十卷 ❹唐世南 ❼(參考) 奈良朝現在一切經疏目錄2369

破邪論聞記略抄 ❶(B)Ha-ja-ron-mon-ki-ryaku-shō. ❷一卷 ❸存 ❹圓解(明和四—天保一一 A. D. 1767—1840)述 ❺文化一四(A. D. 1817) ❻文化三寫 ❾(谷大、餘大・二二一五)

破斥教誡義 ❶(B) Ha-shaku-kyō-gi-gi. ❷一卷 ❸存 ❹秀雄著 ❺明治二一刊 ❾(帝國、一九・一四)

破斥行信問答 ❶(B) Ha-shaku-gyō-shin-mon-dō. ❷一卷 ❸存 ❹島村自貴 ❾謙寫(龍大、一七九九・一七)

破斥釋教正謬 ❶(B) Ha-shaku-shaku-kyō-shō-myū. ❷一卷 ❸存 ❹細川千嚴(天保五—明治三〇 A. D. 1834—1897)述 ❾寫本(谷大、餘大・一六六五)

破拆追善決擇篇 ❶(B)Ha-shaku-tsui-zen-ketsu-chaku-hen. ❷二卷 ❸存 ❹乘鎧(享保一四—文化八 A. D. 1729—1811)述 ❾寫本(龍大、一五〇二・一五九)

破釋評判 ❶(B)Ha-shaku-hyō-han. ❷二冊 ❸存 ❾寫文一〇刊(京大、一・二五八・一)(龍大、一五〇二・一八六)寫本(龍大、一五〇二・一八六)

破取著不壞假名論 ❶(B)Ha-shu-jaku-fu-e-ke-myō-ron. (支)Po-chu-chao-pu-huai-chia-ming-lun. 金剛般若波羅蜜經破取著不壞假名論、功德施論 ❷二卷 ❸存、大正二五・八八七 No. 1515、續往六、卍二一・八、北554虛、南377虛、元571虛、明北1185弗、清1185弗、麗565鞞、天569虛、指527鞞、法531鞞、至1356鞞、明南1323鞞、Nj. 1192 ❹堪樂訶羅譯 ❺唐永淳二(A. D. 683) ❻金剛般若波羅蜜經破取著不壞假名論の下を見よ。 ❼(參考) 開元錄第九、貞元錄第一二

破牧義 ❶(B) Ha-shō-gi. ❷二冊 ❸存 ❹悉長(永祿八—寛永七A. D. 1565—1630)述 ❾刊本(高大、一・二四)

破十軍修佛道私記 ❶(B) Ha-jū-gun-shu-butsu-dō-shi-ki. ❸存、日本大藏經第四〇天台宗顯教章疏第二、傳教大師全集第二(舊)、第四(新) ❹寂澄(神護景雲元—弘仁一三 A. D. 767—822)述

❻原本は、比叡山實藏坊所藏古寫本一卷、書者及年時共に不詳、雜寶藏經に、煩惱を魔軍とし十種に分類してあるが、その十種の一々に、簡潔な略註を附したものが、當口決である。十種の魔軍は、智度論十五、小止觀にも揭げられてゐる。蓋本錄、龍堂錄共に大師撰として錄せり、或は大師の撰歟。十種の魔軍とは、欲、憂愁、飢渴、渴愛、睡眠、怖畏、疑悔、瞋恚、利養、自憍慢人であり、之等の十は、等しく、佛法修行の上に、邪魔となり、正道を礙ゆるが故に、之を魔軍と考へたもので、以上の十魔を、破すと共に、「一乘行を修し、六箇の功德を得ば、骨中の明珠を賜はん云云」と記してある。

❼(參考) 本朝台嚴撰述密部書目、山家疏德撰述寫目集卷上 (鹽入亮忠)

破十劫義御文章 ❶(B)Ha-jū-kō-ni-yo-bun-shō. ❷一卷 ❸存 ❹道迢 ❾寫本(龍大)

破聖敵 ❶(B)Ha-shō-teki. ❷一卷 ❸存 ❹河口秋次著 ❺明治三七刊 ❾(帝國、七九・二九六)

破塵問對 ❶(B) Ha-jin-mon-tai. 冠註補正破塵問對 ❷一卷 ❸存 ❹古部觀順(文政七—明治四三 A. D. 1824—1910)

❷巻数三1甲 ❹〔唐天〕1ヰヤ・九〕〔宋天〕宋今・四天〕

はじまりのかきぶみ ❶〔日〕Ha-jim-mon-tai-kō-hen. ❷1巻 ❸作 ❹右筆書記（文武天皇一朝年間 A. D. 1824—1910） ❺巻数三〇甲 ❻〔宋天〕宋世・元四三〕

はせべのいへ ❶〔日〕Ha-sei-daku. ❷作 ❸藤原家隆卿 ❹了明（一説定家A. D. 1504）説 ❺仮名書写 ❻源氏物語の注釈書 ❼〔参考〕 僧玄恵の作と伝ふる『源氏物語』の注釈書 ❽〔宋天〕宋世・元四三〕

はたいしのこと ❶〔日〕Ha-tai-u-shi. ❷1巻 ❸作 ❹ヒエトウ（巳三宗） ❺刊本（唐天〕1八1四・11八〕〔宋天〕1〇元1・四三一四四）

はちまんとうろん ❶〔日〕Ha-chō-so-ron. ❷1巻 ❸作〔日蓮宗祖師全集収録〕 ❹日蓮（貞享三—元禄十一 A. D. 1626—1698）説

❺文書の題名は今日まで伝へられてゐる。しかしこれは文書の内容を見ると、その中に「八幡宮の御宝殿」といふ文句があるから、これは八幡宮の宝殿に奉納した文書であらうと思はれる。八幡宮の宝殿に奉納した文書であるからこの題名を付したのであらう。内容は、日蓮が、自分の教を信じない者は、国を亡ぼすであらうと、当時の為政者に警告した意味のものである。

はつにちれんぎ ❶〔日〕Ha-nichi-ren-gi. ❷11巻 ❸作〔日蓮宗祖師全集収録〕 ❹了明〔日蓮宗祖師全集収録〕 ❺巻数三〇甲 ❻〔宋天〕宋世・元四三〕

❼日蓮宗の教義を説いた書物で、日蓮の弟子である了明が、師の教を筆録したものである。

はてきき ❶〔日〕Ha-den-ki. 伝記史話 ❷11巻 ❸作〔日蓮宗祖師全集収録〕 ❹日蓮（貞享三—元禄十一 A. D. 1626—1698）説 ❺貞享六（A. D. 1666）

❻日蓮の日蓮宗の教義を説いた書物で、日蓮の弟子である了明が、師の教を筆録したものである。

はてきき ❶〔日〕Ha-tō-ki. ❷1巻 ❸作 ❹日蓮 ❺天暦元年〔宋天〕1八四・1天〕〔宋天〕八111・四元天〕

はにゆうしゅうしょう ❶〔日〕Ha-ni-myō-ichi-gi-shū. ❷1巻 ❸真言（弘法大師空海） ❹天長（A. D. 767—822） ❺〔参考〕 本書は日蓮宗の教義を説いた書物で、日蓮が、自分の教を信じない者は、国を亡ぼすであらうと、当時の為政者に警告した意味のものである。

はまのまつかぜ ❶〔日〕Ha-nichi-ren-gi. ❷11巻 ❸作〔日蓮宗祖師全集収録〕 ❹了明〔日蓮宗祖師全集収録〕 ❺巻数三〇甲 ❻〔宋天〕宋世・元四三〕

❼日蓮宗の教義を説いた書物で、日蓮の弟子である了明が、師の教を筆録したものである。

はまのまつかぜ ❶〔日〕Ha-nichi-ren-gi. ❷11巻 ❸作〔日蓮宗祖師全集収録〕 ❹了明〔日蓮宗祖師全集収録〕 ❺巻数三〇甲 ❻〔宋天〕宋世・元四三〕

❼日蓮宗の教義を説いた書物で、日蓮の弟子である了明が、師の教を筆録したものである。

はりまのくにのふどき ❶〔日〕Ha-rim-mon-tai-kō-hen. ❷11巻 ❸作 ❹右筆書記（文武天皇一朝年間 A. D. 1824—1910） ❺巻数三〇甲 ❻〔宋天〕宋世・元四三〕

はるのいへ ❶〔日〕Ha-sō-ai. ❷1巻 ❸作 ❹定家 ❺寛喜元年 ❻〔唐天〕11〇元11・四天〕

はるのいへ ❶〔日〕Ha-tai-u-shi. ❷1巻 ❸作 ❹ヒエトウ（巳三宗） ❺刊本（唐天〕1八1四・11八〕〔宋天〕1〇元1・四三一四四）

はんしゅうろん ❶〔日〕Ha-chō-so-ron. ❷1巻 ❸作〔日蓮宗祖師全集収録〕 ❹日蓮（貞享三—元禄十一 A. D. 1626—1698）説

❺文書の題名は今日まで伝へられてゐる。しかしこれは文書の内容を見ると、その中に「八幡宮の御宝殿」といふ文句があるから、これは八幡宮の宝殿に奉納した文書であらうと思はれる。八幡宮の宝殿に奉納した文書であるからこの題名を付したのであらう。内容は、日蓮が、自分の教を信じない者は、国を亡ぼすであらうと、当時の為政者に警告した意味のものである。

はんせんしゃくりん ❶〔日〕Ha-sen-chaku-ja-rin. 禅宗書 ❷三巻 ❸作〔日本大蔵経第三人参禅宗部収録〕 ❹明末高僧 ❺〔参考〕 禅宗の公案を説いた書物で、禅宗の公案を説いた書物で、禅宗の公案を説いた書物で、

【ス】

之を以て考ふるに、此の仏頂尊勝陀羅尼は唐の高宗の頃、既に流行せしものなるべく、此の仏頂尊勝陀羅尼は、唐代に於ては、此の仏頂尊勝陀羅尼に関係せらるるものなりしなるべく、而して

❶(日) Ba-ra-mon-shi-myō-jō-ai-gen-fu-ri-kyō.(支) P'o-lo-mên-tzŭ-ming-ching-ai-nien-pu-li-ching.(巴) Fiyajitika-sutta (M. 57) 婆羅門子命終愛念經、愛念不離經 ❷一卷 ❸存、大正一・九一五 No. 91、館炎八、卍一四・一、北716若、南730若、元722若、明北572餘、清572餘、麗710止、天716若、指678止、法705止、至932仕、明南603餘、Nj. 582 ❹安世高譯 ❺後漢建和二—建寧三(A. D. 148—170)

❻この經典は中阿含三一六經愛生經(大正一・八〇〇)、中尼柯耶八七經 Fiyajitika S.、增一阿含一三・三竹篦(大正二・五七一)、生經一五子命過經(大正三・八〇)の五同本の一であり、佛が舍衛城に在した時、子を失った父親が喪心して來れるに對し、「愛するが故に悲しむ」と仰せられ、父親佛語を宮ばず、この語が專はつて宮中に至り、波斯匿王もこの語の意味を解せず、末利夫人に語り、末利夫人佛語なるが故に眞實なりとして、佛陀に對する絶對信を示し、使を遣はして、佛陀にこの語の說明を願ひ、末利夫人王に佛意を說いて宮ばしめるといふ筋のものである。この經典は中阿含系統のものであつて造語が二經相近く、且つ佛陀に解釋を求める爲めに使を出すのを、中尼柯耶、增一阿含は末利夫人としてゐるに、中阿含と此の經典とは波斯匿王としてゐる。生經は只喪心した父親に愛するが故に悲しむと仰せられたことを傳へるのみで極めて短かいものである。

❷(參考) 三寶紀第四、內典錄第一、譯經圖紀第一、開元錄第一、貞元錄第一、第二(赤沼智善)

婆羅門僧正碑註 ❶(日) Ba-ra-mon-sō-jō-hi-cho. ❷一册 ❸存 ❹(哲、あ・一・中・二二)

婆羅門僧正碑並序 ❶(日) Ba-ra-mon-sō-jō-hi-narabini-jo. ❸存、經濟雜誌社反刻本第四輯佛部 ❺明治二六刊 ❹(帝國、七〇・八八)

婆羅門通達經論 ❶(日) Ba-ra-mon-tsū-datsu-kyō-ron. (支) P'o-lo-mên-t'ung-ta-ching-lun. ❷一卷 ❸雜阿含經第二十五卷の抄出。 ❼(參考) 法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一六、貞元錄第二六

婆羅門通達經誦經 ❶(日) Ba-ra-mon-tsū-datsu-jo-kyō. (支) P'o-lo-mên-t'ung-ta-sung-ching. ❷一卷 ❹失譯 ❼(參考) 出三藏記第四

婆羅門等淨說經 ❶(日) Ba-ra-mon-tō-jō-setsu-kyō.(支) P'o-lo-mên-têng-ching-shuo-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹失譯 ❼(參考) 出三藏記第四、武周錄第一二、開元錄第五、第一五、貞元錄第八、第二五

婆羅門避死經 ❶(日) Ba-ra-mon-hi-shi-kyō.(支) P'o-lo-mên-pi-ssŭ-ching. ❷一卷 ❹失譯 ❼(參考) 出三藏記第四、法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四

婆羅門避死經 ❶(日) Ba-ra-mon-hi-shi-kyō.(支) P'o-lo-mên-pei-ssŭ-ching. 避死經 ❷一卷 ❸存、大正二・八五四 No. 131、館炎四、卍一四・二、北726若、南740若、元712若、明北613舊、清613舊、麗712止、天725若、指656止、法715止、至962仕、明南602餘、Nj. 617 ❹安世高譯 ❺後漢建和二—建寧三(A. D. 148—170)

❻本經は諸比丘に、昔五通を得、善法を修した四人の婆羅門が、いづれも死を畏れて一は空中に、一は大海に、一は山腹に、一は大地に入つて死を脫れようとしたが、徒勞に終つたことを說かれたものである。

本經は增一阿含第三一品第四經に該當するものであるが、增一にあつては、更に死を免れんと欲するならば、諸行無常、諸行苦、諸法無我、涅槃寂靜の四法本を思惟すべきであることを附加してゐる。

❷(參考) 三寶紀第四、內典錄第一、譯經圖紀第一、開元錄第一、貞元錄第一、第二(林五邦)

婆羅門不信重經 ❶(日) Ba-ra-mon-fu-shin-jū-kyō. (支) P'o-lo-mên-pu-hsin-chung-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹失譯 ❼(參考) 出三藏記第三、法經錄第三、仁壽錄第五、靜泰錄第五、開元錄第一、第一五、貞元錄第二、第二四

婆羅門服白經 ❶(日) Ba-ra-mon-fuku-byaku-kyō.(支) P'o-lo-mên-fu-pai-ching. 波羅門服白經 ❷一卷 ❸失譯 ❹雜阿含經第二十八卷の抄出。 ❼(參考) 出三藏記第四、法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一六、貞元錄第二六

婆羅門問經 ❶(日) Ba-ra-mon-mon-gyō. (支) P'o-lo-mên-wên-ching. ❷一卷 ❹失譯 ❼(參考) 武周錄第一一

婆羅門問事經 ❶(日) Ba-ra-mon-mon-ji-kyō. (支) P'o-lo-mên-wên-shih-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹失譯 ❼(參考) 出三藏記第四、武周錄第一二、開元錄第五、第一五、貞元錄第八、第二五

婆羅門問世尊將來有幾佛經 ❶(日) Ba-ra-mon-mon-se-son-shō-rai-ai-ki-butsu-kyō. (支) P'o-lo-mên-wên-shih-tsun-chiang-lai-yu-chi-fo-ching. ❷一卷 ❹失譯 ❺雜阿含經第三十四卷の抄出。 ❼(參考) 出三藏記第四、法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一六、貞元錄第二六

婆羅門問佛布施得福經 ❶(日) Ba-ra-mon-mon-butsu-fu-se-toku-fuku-kyō.(支) P'o-lo-mên-wên-fo-pu-shih-tê-fo-ching. ❷一卷 ❹失譯 ❺雜阿含經第三十七卷の抄出。 ❼(參考) 出三藏記第四、法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一六、貞元錄第二六

薄伽梵事等 ❶(日) Ba-ka-hon-no-koto-tō. ❷九帖 ❸存 ❺德川時代寫 ❹(寶善提院)

薄伽梵大金剛阿闍梨位法性大日義 ❶(日) Ba-ka-bon-dai-kon-gō-a-ja-ri-i-hō-shō-dai-nichi-gi. ❷一卷 ❸存 ❹妙瑞(元祿九—明和元 A. D. 1696—1764)述 ❺元文六刊 ❹(龍大、研究)(正大、一四四・一五)

縛嚕駄提婆私記 ❶(日) Ba-ro-da-i-dai-ba-shi-ki. ❷二帖 ❸存 ❺德川時代寫 ❹(寶龜院)

嚩日羅駄覩私記 ❶(日) Ba-ra-da-da-to-shi-ki. 金剛頂蓮華部心念誦儀軌私記、梵嚩日羅駄覩私記、金剛界私記 ❷一卷 ❸存、大正六一・五九〇 No. 2232、日本大藏經第一七密敎部章疏卷下第二 ❹眞興(永平四—寶龜元 A. D. 931—1004)述 ❺金剛頂蓮華部心念誦儀軌私記の下を見よ。 ❹刊本(龍大、二六六五・二五)

嚩嚕拏天水生消火之大事 ❶(日) Ba-ro-da-ten-sui-shō-shō-kwa-no-dai-ji. ❷一紙 ❸存、修驗聖典第四深秘修法集之內 ❺修驗道所修の秘法次第。大詞召・大海印・法靈定印・外五股印・龍索印・水天印等を結誦して水天を奉請し、水を出生し火を消す法である。 (服部如實)

嚩嚕拏天祕法 ❶(日) Ba-ro-da-ten-hi-hō. ❷一帖 ❸存 ❺德川時代寫 ❹(寶善提院)

ばぎ聞書 ❶(日) Ba-jura-kiki-gaki. ❸存 ❹寫本(寶龜院)

ばぎロ決 ❶(日) Ba-jura-ku-ketsu. ❷一册 ❸存 ❺足利時代寫 ❹(寶善提院)

ばぎる ❶(日) Ba-jura-da-to. ばぎる安流 ❷一帖 ❸存 ❹寫本(金剛三昧院)

ばぎるる頭次第 ❶(日) Ba-jura-da-to-tō-kyō. 緬甸宇貝葉巴利語大藏經 ❸存 ❹寫本(谷大、緬甸藏)

巴利語大藏經 ❶(日) Pa-ri-go-dai-da-to-kyō. 遏羅皇室版巴利語大藏經 ❸存 ❹刊本(谷大、遏羅藏)

巴利語大藏經 ❶(日) Pa-ri-go-dai-da-to-kyō. 巴利聖典會本巴利語大藏經 ❸存 ❹刊本(谷大、羅馬字藏)

巴利語佛敎文學講本並字書 ❶(日) Pa-ri-go-bun-gaku-kō-hon-narabini-ji-sho. ❷二册 ❸存 ❹高楠順次郎著 ❺大正一一刊 ❹(谷大) ❻東京丙午出版社

李經 ❶(日) Ri-kyō. (支) P'o-ching. 李經抄、李抄經 ❷一卷 ❸存、大正一七・七二九 No. 79、館炎八、卍一一・三、北378改、南338改、元336改、明北375後、清375後、麗376必、天335改、指347必、法359必、至335萇、明南370忘、Nj. 379 ❹支謙譯 ❺吳黃武二—建興二(A. D. 223—253) ❻李經抄の下を見よ。

李經 ❶(日) Ri-kyō. (支) P'o-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹西秦聖賢譯 ❺第三譯 ❼(參考) 開元錄第一四、貞元錄第二四

李經 ❶(日) Ri-kyō. (支) P'o-ching. ❷二卷 ❸缺 ❼(參考) 武周錄第一二

李經抄 ❶(日) Ri-kyō-shō. (支) P'o-ching-ch'ao. 李經、李抄經 ❷一卷 ❸存、大正一七・七二九 No. 79、館炎八、卍一一・三、北378改、南338改、元335改、明北375後、清375後、麗376必、天335改、指347必、法359必、至335萇、明南370忘、Nj. 379 ❹支謙譯 ❺吳黃武二—建興二(A. D. 223—253)

一、本經の翻譯 本經は貞元錄二十四(大正藏五十五ノ九六五)によれば三譯一存といふ三譯一存とは

(一) 李本經 二卷 後漢月支三藏支婁迦讖譯

(二) 李經抄集 一卷 吳月支國優婆塞支謙譯

(三) 李經 一卷 乞伏秦沙門釋聖堅譯

である。一存は支謙譯。他の二譯は闕逸。本經の譯主月支國の優婆塞支謙は魏の文帝の時に洛邑に流來して、支亮に學び、博識を以つて聞えた。支亮は支讖に敎へを受けたものである。故に支謙は支讖の法孫に當る。支謙は地を拂けて吳にゆき、孫權の信を得、黃武の初めから建興に至る(A. D. 222—233)約三十年間に一百二十九部一百五十二卷を譯出した。(歷代通載五)本經の譯出年代は不明。法祖の支讖にも本經の譯があつたか否かは疑はれるが、しかし古來この兩譯は疑つた者がない。僧祐の如きも疑はないのであるから兩譯が存したとして置く。但し出三藏記は「李本經二卷今闕」と記してゐる所を見ると、と僧祐も單に經錄を寫したのみで、深く本經譯出に就いては考へなかつたらしい。次に聖堅の譯であるが、聖堅の傳は明瞭してゐないから果して本經を譯出したのか多少の疑ひもないではない。貞元錄六(大正藏五十五ノ八一五頁)には法上錄によつて十六部二十四卷の譯ありと認めたのであるといつてゐる。そして何れの代の經錄をもつて正となすべきやを知

らないとも記してゐる。これで觀ると聖堅（又は法堅）譯も疑問が濃くなる。三譯あつたと貞元錄が云つても、二譯ありと僧祐が記しても、本經譯出は疑ふべきであらう。恐く單譯ではあるまいか。且らく疑問を殘して置く。

二、本經の梗概　本經は本生譚の體裁になつてゐるが、法經錄（大正藏五十五ノ一四四頁）に記してあるように「佛滅後撰集」であり「西方諸賢聖の撰集」になつたものである。本經には「舍衛國卑先匱王」「好首夫人」とあるが、これは波斯匿王と末利夫人とを指したもので、匱王及び夫人の本生話が說かれてゐる。

次は本經の「鄰隣奈國」（梵語藏本は濡隣奈）とは何國のことであらう。若し有名な那先比丘經の彌蘭王の國であると考へられば佛教史上頗る有益な資料となる。又本經の主人公なる「孛」とは略稱であらうと思はれるが、具名は何といふのであらう。この「孛」は比丘であるか菩薩であるか明らかでないが、「道人・道者」である。道人とは菩薩の意があるから、菩薩と認めて然るべきものと考へる。「孛」は政治に參與し國と王と民との關係を論じてゐる。但し自らは戰爭を避けてゐる。是のような思想に基いた佛教は西域地方に西紀二三世紀頃、盛行したようである。治國を菩薩僧が親ら其の任に當つて行ふ爲めに本經を撰集したのであらう。治國利民を標榜した佛經を月支國の優婆塞支謙が譯したことは、これ若藏佛教が印度眞を脫して西域化したことを示したものであらう。そしてこれが支那にも日本にも實際に行はれてゐることは大いに興味があることである。兎に角に本經は更に詳細なる研究を要するものである。

本經の要旨は祇園精舍が造られた因緣を說き、次に卑先匱王の歸佛によつて異道が衰へたために、異道の人々は謀つて佛を陷れようとし、祇園精舍の中で女を殺し、これを精舍の樹下に埋めた。七日の後に佛の說によつて、この惡謀が露顯した。これによつて、難陀等の本生譚を說かれたのである。そしてまた宿命によつて一切の事は現れるものであることが說かれてゐる。昔孛といふ王子があつた。兄弟三人の末子である。父の沒後、出家して道人となつた。後に大國の國師となり政務に參劃し、信任を博したが、四大臣と王の夫人との讒によつて山に入つた。孛の去つた後、國は衰へ民は苦しむ。王は後悔して孛を再び請じた。これに應じて、孛はまた王の國師となり善政を行つた。孛は難陀の前生であるといふ。この經によつて三歸の印度の人々は皆五戒を受け、佛教を信奉したと。これが本經の大旨である。

❼（參考） 出三藏記第二、內典錄第二、三寶紀第五、譯經圖紀第一、開元錄第二、貞元錄第三　（田島德音）

孛抄經 ❶（日）Hai-shō-kyō.（支）Po-ch'ao-ching. 孛經抄、孛經 ❷一卷 ❸存、大正一七・七二九 No. 790、給宿八、卍一一・三、北373改、南383改、元385改、明北375後、清375後、麗376必、天385改、指347必、法369必、至385真、明南370必、N. 379 ❹支謙譯 ❺吳黃武二—建興二（A. D. 223—253）

孛本經 ❶（日）Hai-hon-gyō.（支）Po-pen-ching. ❷二卷 ❸缺 ❹後漢支婁迦讖譯建和元—中平三 A. D. 147—156 ❺節一譯。❼（參考） 仁齋錄第五、靜泰錄第五、開元錄第一四、貞元錄第二四

沛雨遣書 ❶（日）Hai-u-i-sho. ❷一冊 ❸存 ❹吉岡呵成（元治元—明治三八 A. D. 1864—1905）著 ❺大正三刊 ❻（京大、一・二六八・六）（正大・一五〇・三六）（龍大） ❼京都三師講說發行所

拜堂式 ❶（日）Hai-dō-shiki. ❷一帖 ❸寬信（應德元—仁平三 A. D. 1084—1153） ❼（參考） 諸宗章疏錄第三

拜堂始之用意 ❶（日）Hai-dō-hajime-no-yō-i. ❷一帖 ❸存 ❺德川時代寫 ❻（寶龜院）

配供集並戶帳書樣 ❶（日）Hai-kū-shō-narabini-to-chō-kaki-yō. ❷一帖 ❸存 ❺慶長八寫 ❻（寶菩提院）

俳味禪味 ❶（日）Hai-mi-zen-mi. ❷一冊 ❸存 ❹宮垣璺治著 ❺明治四一刊 ❻（駒大）

俳味と佛法味 ❶（日）Hai-mi-to-bup-pō-mi. ❷一卷 ❸存 ❹比叡義圓著 ❺大正五刊 ❻（龍大、二〇九・九九）（正大・一〇九・七二） ❼東京無我山房

排雲錄 ❶（日）Hai-un-roku. ❷一卷 ❸存 ❹正運（寬延二—天保元 A. D. 1749—1830） ❻寫本（龍大）

排邪敎 ❶（日）Hai-ja-kyō. ❷一卷 ❸存 ❹西村七兵衛編 ❺明治三二刊 ❻京都法藏館

排釋錄 ❶（日）Hai-shaku-roku. ❷一卷 ❸存、日本思想鬪爭史料第一 ❹佐藤直方（慶安三—享保四 A. D. 1650—1719）編

❻朱子の語類文集等より、佛老を排擊する語句を集錄したるもの。各項其の出處を細註す。

❺貞享三刊 ❻（京大、一・二〇八・一・五）（帝國、一一〇・九九）（龍大、硏佛）

排併篇 ❶（日）Hai-hyaku-hen. ❷一卷 ❸存 ❹雲鏡（寶曆三 A. D. 1753—）述 ❺貝原益軒の漢事始和事始を破したもの。 ❻寫本（龍大、一六四・一三）昭和五刊（谷大、宗大・四〇八三） ❼大谷大學國史研究會

排佛敎 ❶（日）Hai-butsu-kyō. ❷一卷 ❸存 ❹木村蒙太郎著 ❺明治二七刊 ❻（正大、一〇九一・四六）

排謬翼宗篇 ❶（日）Hai-myū-yoku-shū-hen. ❷二卷 ❸存 ❹業洲遠海（—天明頃 A. D. 1781—1788—）述 ❺眞宗僧侶の辨を破したもの。 ❼（參考） 淨土眞宗教典志第二 ❻寬政元刊（京大、一・二六八・二）（龍大、一七五・七五）寬政五刊（谷大、宗大・七六七）

慶惡修善錄 ❶（日）Hai-aku-shu-zen-roku. ❷三卷 ❸存 ❹最的（—寶永元 A. D. 1704—）述 ❺正德三刊 ❻（龍大、二八一二・二六）

慶僞諦眞傳 ❶（日）Hai-gi-ki-shin-

dō. ❷一卷 ❸存 ❹日遍著 ❺明治一八刊 ❻（立大、A〇五・一五二）

廢立行成 ❶（日）Hai-ryū-gyō-jō. ❷一卷 ❸存 ❹寫本（正大、一五六・三六）

貝多樹下思惟十二因緣經

❶（日）Bai-ta-ju-ge-shi-yui-jō-ni-in-ren-kyō.（支）Pei-to-shu-hai-sa-wei-shih-ch'yin-yuan-ching.（梵藏）舊雜喩經參照。開元十二因緣經、十二因緣經、樹下思惟十二因緣經 ❷一卷 ❸存、大正一六・八二六 No. 713、給宿七、卍一〇・七、北265女、南277女、元268女、明北274良、清274良、麗270僧、天274女、指242僧、法260僧、至342得、明南253勿、N. 278 ❹支謙譯 ❺吳黃武二—建興二（A. D. 223—253）

❻本經は緣起聖道經（大正一六 No. 714）の異譯であるが、緣起聖道經は八聖道に關して叙ぶるところ有るも本經にはその部分が無く、たゞ十二因緣に就いて記すものである。

內容。佛、祇樹給孤獨園に在し、諸比丘に「我本未だ佛道を得ざる菩薩のとき」世間が生老死に惱苦せるところより、老死は何の因緣に依るかと念じ次第して（老死、生、有、受、愛、痛樂、六入、名像、識）識に至り、復、老死滅盡すればと次第して（老死、生、有、成就、愛、痛痒、更、六入、名像、識、殃稠、瘡）瘡に至り斯くて盡り無き苦陰を滅盡せりと說き、此の道は故き道にして、先行の者に隨ひて我もまた便ち隨ひて行けるのみとて、喪澤の古道を經て好城に到れる例話を說く。

本經が十二因緣說を說くものとして注意すべき點は、(1)老死の因緣を次第に求むるとき識にまで到り。(2)老死の滅盡を次第して求むるときは瘡に到ること。及び(3)近來の緣起說研究中常に未解決なる問題を殘してゐる行が記されてゐないことである。斯くて本經は十二因緣說の研究に於て重要なる資料を與ふるものである。

❼（參考） 三寶紀第五、內典錄第二、譯經圖紀第一、開元錄第二、貞元錄第三　（山邊習學）

貝多羅葉考 ❶（日）Bai-ta-ra-yō-kō. ❷一卷 ❸存 ❹如幻道空（寬文六—寶曆元 A. D. 16?6—1751）撰 ❼（參考） 大日本佛教全書續刊豫定書目

貝葉寺事蹟 ❶（日）Bai-yō-ji-ji-seki. ❷一卷 ❸存 ❼（參考） 朝鮮佛教總書刊行豫定書目

貝葉集 ❶（日）Bai-yō-shū. ❷五十卷 ❹道鶴（元暦元—建長四 A. D. 1184—1252） ❼（參考） 本朝台眼撰述密部書目

唄口傳 ❶（日）Bai-ku-den. 亮親亮想唄口傳 ❷六帖 ❸存 ❺德川時代寫 ❻（寶菩提院）

唄散華伽陀 ❶（日）Bai-san-ge-kada. ❷一軸 ❸存 ❺德川時代寫 ❻（寶菩提院）

唄讚譯語 ❶（日）Bai-san-yaku-go. ❷一卷 ❸存 ❻寫本（龍大）

唄眞言出家口傳 ❶（日）Bai-shingon-shuk-ke-ku-den. ❷四帖 ❸存 ❺德川時代寫 ❻（寶菩提院）

梅雨瑣話 ❶（日）Bai-u-sa-wa. ❷一卷 ❸存 ❺明治三寫 ❻（谷大）

梅屋和尚文集 ❶（日）Bai-oku-o-sho-bun-shū. ❷一卷 ❸存、續群書類從第一三 ❹梅屋 ❺天文年間（A. D. 1532—1554） ❻梅屋和尚所作の香語、法語、提綱、詩文等を集めたるもの。（後藤大用）

梅園欽禪師語錄並摘藁 ❶（日）Bai-en-kin-zen-ji-go-roku-narabini-tekō-kō. ❷二卷 ❸存 ❹梅園眞欽語、絕海等編 ❺安政五刊 ❻（駒大）

梅嶽和尚語錄 ❶（日）Bai-gaku-o-shō-go-roku. ❷一卷 ❸存 ❼（參考）

梅嶽和尚小傳 ❶（日）Bai-gaku-o-shō-shō-den. ❷一卷 ❸存 ❼（參考） 禪籍目錄

梅嶽和尚六十壽詩偈 ❶（日）Bai-gaku-o-shō-roku-jū-ju-shi-ge. ❷一卷 ❸存 ❼（參考） 禪籍目錄

梅岑集分記 ❶（日）Bai-gin-shū-bun-ki. 梗概經抄 ❸存 ❹桃源瑞仙（永享二—延德元 A. D. 1430—1489） ❼（參考） 禪籍目錄

梅花無盡藏 ❶（日）Bai-kwa-mu-jin-zō. ❷七卷、或は二卷 ❸存、續群書類從第一二輯卷三三八 ❹萬里集九（—文明頃 A. D. 1469—1486—）

❺第一卷には七言絕句二百七十一首、第二卷には同二百八十首、第三卷には同五百十六首、第四卷には頌百四十七首、及び小木鄉南陽禪廳寺眼路亭記、雜體並四言六句を載し、第五卷には頌並に詩七言八句、五言絕句、五言八句、第六卷には雜文（不分類草案次第）、第七卷には雜文九題を記載してゐる。

❼（參考） 扶桑禪林書目　（後藤大用）

梅溪稿 ❶（日）Bai-kei-kō. 梅溪集 ❷三卷或二卷 ❸存、續群書類從第一三輯卷三四八 ❹雪嶺永瑾（—天文六 A. D. 1537） ❺七言絕句七百八十三首を輯錄したるもの。語句華麗を以て詩家の參考たるに足る。　（後藤大用）

梅溪集 ❶（日）Bai-kei-shū. 梅溪稿 ❷一卷或二卷 ❸存、續群書類從第一三輯卷三四八 ❹雪嶺永瑾（—天文六 A. D. 1537）

❺梅溪稿の下を見よ。

梅月堂集 ❶（日）Bai-getsu-dō-shū. ❷十七卷 ❸存 ❹金時習著 ❼（參考） 朝鮮佛教總書刊行豫定書目

梅谷用和尚行狀 ❶（日）Bai-koku-yō-o-shō-gyō-jō. ❷一卷 ❸存 ❼（參考）

梅山種茶譜略 ❶（日）Bai-zan-shu-sa-fu-ryaku. ❷一卷 ❸存 ❹月海元昭（寶茶翁）（天和三—寶曆一三 A. D. 1993—1763） ❼（參考） 禪籍目錄

梅山歷然禪師普說 ❶（日）Bai-san-reki-zen-zen-ji-fu-setsu.（支）Mei-shan-li-jan-ch'an-shih-pu-shuo. ❷二卷 ❸存 ❹明梅山歷然語 ❻寫本（京大、藏・二四シ・四五）

梅山歷然禪師普說附判語頌語 ❶（日）Bai-san-reki-zen-zen-ji-fu-setsu-

tsuketari-han-ge-i-heki-roku. (支)Mei-shan-li-jan-ch'an-shi-p'u-shan & p'an-yü-p'i-yu. ❷一巻 ❸存 ❹明梅山歴然詩・戒名編 ❺刊本(駒大)

梅伊摩暴志誇佛經 ❶(日)Bai-jū-ma-bō-shi-bō-butsu-kyō. (支)Mei-shē-mo-pao-chih-pang-fo-ching. ❸存、生經第一(大正三・七六No. 154, 9)

梅州和尚語錄 ❶(日)Bai-shū-o-shō-go-roku. 廣音梅州和尚語錄 ❷二巻 ❸存 ❼(参考) 禪籍目錄

梅城錄 ❶(日)Bai-jō-roku. ❸存 ❹天章没歳(永和三―應永二〇以後 A. D. 1377―1413―) ❼(参考) 日本禪林撰述書目、禪籍目錄

梅仙東運和尚草稿 ❶(日)Bai-sen-tō-ho-o-shō-sō-kō. ❷一巻 ❸存 ❼(参考) 禪籍目錄

梅仙法話 ❶(日)Bai-sen-hō-go. ❷一巻 ❸存 ❼(参考) 禪籍目錄

梅天禪師法話 ❶(日) Bai-ten-zen-ji-hō-go. 梅天無明禪師法話、梅天無明和尚法語 ❷一巻 ❸存 ❹梅天無明、慶長二二―延寶四A. D. 1607―1676.話 ❺寛文一二寫(谷大、餘大・二九〇七)享保一〇刊(駒大)安永二刊、京大、日大来・四九〇)刊本(京專)(谷大、餘大・二七五五)(帝國、二三九・一八)

梅洞由筆 ❶(日) Bai-dō-yu-hitsu. ❷六巻 ❸存、黄宗全書第五四 ❹賓雲(寛政三―弘化四A. D. 1791―1847)述 ❺宗學に關する問題を隨意に提へて、隨筆風の筆致をもつて論じたものである。巻一、二には五念門に對する考察を詳述して諸禪の同異を明にし、巻三、四、五、六には眞宗々學の中心問題と稱せられる行信の交際を論じ、著者獨自の所見を明にしてゐる。❻寫本(餘大、一五〇二・五七)(谷大、宗大・一一九五)

梅峰禪師遺錄 ❶(日) Bai-hō-zen-ji-i-roku. 興聖白雲梅峯禪師遺錄 ❷三巻 ❸存 ❹梅峰・寛永一〇―寛永四A. D. 1633―1707)慧密編 ❼(参考) 禪籍目錄

梅峰禪師語錄 ❶(日) Bai-hō-zen-ji-go-roku. 興聖夢窩梅峯禪師語錄 ❷五巻 ❸存 ❹梅峰語、曇英等編 ❼(参考) 禪籍目錄

梅峰禪師贊錄 ❶(日) Bai-hō-zen-ji-sei-roku. 夢窩梅峰禪師贊錄 ❷三巻 ❸存 ❹梅峰語、曇英等編 ❼(参考) 禪籍目錄

梅北集 ❶(日)Bai-hoku-shū. ❷九冊 ❸存 ❺寫本・帝國、辰・二八)

梅野的聞 ❶(日)Bai-ya-teki-bun. ❸存 ❹勝順長柔 ❼(参考) 日本禪林撰述書目、禪籍目錄

梅嶺和尚塔銘並行業記 ❶(日) Bai-rei-ō-wa-shō-tō-mei-narabini-gyō-gō-ki. ❷一巻 ❸存 ❼(参考) 禪籍目錄

梅嶺禪師王山偶錄 ❶(日)Bai-rei-zen-ji-ō-zan-gū-roku. ❸存、梅嶺禪師語錄附錄 ❹梅嶺道雪語、元僕編 ❺寶永二刊 ❻(駒大)

梅嶺禪師語錄 ❶(日)Bai-rei-zen-ji-go-roku. 法王梅嶺、雪禪師語錄 ❷三巻 ❸存 ❹梅嶺道雪語、元賊、元沖編 ❺寶永四刊 ❻(谷大、餘大・二八九九)

梅嶺禪師語錄 ❶(日) Bai-rei-zen-ji-go-roku. 法王梅嶺禪師語錄 ❷一巻 ❸存 ❹梅嶺道雪語、元蕓、元桂共編 ❼(参考) 禪籍目錄

梅嶺錄 ❶(日)Bai-rei-roku. ❹梅嶺禮忍(―永享九 A. D. 1437)語 ❼(参考) 日本禪林撰述書目

陪囉嚩轉輪觀想儀軌經 ❶(日) Bai-ra-ba-ten-rin-kwan-sō-zō-ki-kyō. (支) Pei-lo-fu-chuan-lun-kuan-hsiang-i-kuei-ching. 妙吉祥瑜伽大教金剛陪囉嚩輪觀想成就儀軌經、妙吉祥陪囉嚩輪觀想成就儀軌經 ❷一巻 ❸存、大正二一・二〇三No. 1242、縮成一一、卍一六・一〇、北1218陪、南1234陪、元1238陪、明北1057言、清1057言、麗1322兵、天1214陪、法1331穀、至365取、明南392風、Ni. 1062 ❹宋法賢(―成平四 A. D. 1011)譯 ❺妙吉祥瑜伽大教金剛陪囉嚩輪觀想成就儀軌經の下を見よ。

楳隠余芳 ❶(日) Bai-in-yo-hō. ❷一巻 ❸存 ❹護持谷 ❺昭和二刊 ❻(駒大)

賓智慧經 ❶(日) Bai-chi-e-kyō. (支)Mai-chih-hui-ching. ❷一巻 ❹失譯 ❺禪管喩經の抄出。 ❼(参考) 出三藏記第四、三寶紀第五、仁壽錄第三、歴奉錄第三、内典錄第二、開元錄第一六、貞元錄第二六

白隠禪師遺墨集 ❶(日)Haku-in-zen-ji-bo-boku-shū. ❷一巻 ❸存 ❹國民新聞社編 ❺大正三刊 ❻東京民友社

白隠和尚行狀 ❶(日) Haku-in-o-shō-gyō-jō. ❷一巻 ❸存 ❹盧霜元虛 ❼(参考) 禪籍目錄

白隠和尚行錄 ❶(日) Haku-in-o-shō-gyō-roku. ❸存、白隠和尚遺墨集附錄 ❺大正三刊 ❻東京民友社

白隠和尚言行錄 ❶(日)Haku-in-o-shō-gen-kō-roku. ❷一巻 ❸存 ❹服部俊星著 ❺明治四三刊 ❻(駒大)(谷大、餘洋・二七七)

白隠和尚垂示 ❶(日) Haku-in-o-shō-sui-ji. ❸存 ❺大正二刊 ❻東京民友社

白隠和尚全集 ❶(日) Haku-in-o-shō-zen-shū. ❷一巻 ❸存 ❹平本正次編 ❺明治三四刊 ❻(谷大、餘大・一一六三)

白隠和尚全集 ❶(日) Haku-in-o-shō-zen-shū. ❷一巻 ❸存 ❹禪學編輯局編 ❺大正九、一〇刊 ❻東京光融館

白隠和尚大道狂談 ❶(日) Haku-in-o-shō-dai-dō-kyō-yū. ❷一巻 ❸存 ❹白隠慧鶴(貞享二―明和五 A. D. 1685―1768) ❺天保八刊 ❻(駒大)

白隠和尚轉法捷經附心經疏 ❶(日) Haku-in-o-shō-tem-bō-shō-kyō-tsuketari-shin-gyō-sho. ❷一巻 ❸存 ❹白隠慧鶴(貞享二―明和五 A. D. 1685―1768) ❼(参考) 禪籍目錄

白隠假名法話 ❶(日)Haku-in-kana-hō-go. ❸存、禪門法語集巻下、白隠法語集巻中、禪學名著集之内 ❹白隠慧鶴(貞享二―明和五 A. D. 1685―1768)語 ❺白隠が日頃師事せる某居士より道念も進み勇猛精進に修行する助となる可き法語等あらば書き與へられ度き依頼に應へて菱屋某が僅か數日の苦修錬行によつて著く參禪辨道見性せし實例を記し學人の奮起を促した單語の書である。初めて參禪せんと志す士の好伴侶である。 (林信雲)

白隠廣錄 ❶(日)Haku-in-kō-roku. ❷一巻 ❸存 ❹大橋春屋、上村義秀共編 ❺(巻第一) 兎專使稿。御酒落御前物語。於仁安佐美。別觀毒藥。見性成佛丸方書。子守唄。三數一致の歴。神機国妙禪師年譜(圓應編)。白隠禪師尺牘。御代の腹鼓。夜船閑話。藥病相治の說。藪柑子。(巻第二) 延命十句經靈驗記(八重神巻上)。槐安語。槐安國語開題垂示。草取引。蔡女に與ふる書。息耕錄開題答說。同印施無(玄賦)。息耕錄評唱刺語。高塚四娘孝記。八重神。

❺明治三五刊(帝國、一二七・二一〇)明治三七刊(龍大、二六七四・一九)(谷大、餘大・一一五五)(京大、一・二五六・二)(駒大) ❻東京天眼寺

白隠紛引歌 ❶(日)Haku-in-kona-hiki-uta. ❷一巻 ❸存 ❹おたふく女郎紛引歌。主心お婆々紛引歌。 ❼(参考) 禪籍目錄

白隠自畫賛集 ❶(日) Haku-in-jiwa-sa-shū. ❷一巻 ❸存 ❼(参考) 禪籍目錄

白隠禪師假名葬 ❶(日)Haku-in-zen-ji-kana-mogura. ❷二巻 ❸存 ❹白隠慧鶴(貞享二―明和五 A. D. 1685―1768)語、清水珊瑚編 ❺明治一七刊 ❻(駒大)

白隠禪師假名葬和解父母恩重經 ❶(日) Haku-in-zen-ji-ka-na-mogura-tsuketari-wa-ge-bu-mo-on-jū-kyō. ❷二巻 ❸存 ❹白隠慧鶴(貞享二―明和五 A. D. 1685―1768)語、清水珊瑚編 ❺(乾巻) 夜船閑話。施行歌。安心ほこりたゝ記。(坤巻) 辻說議。主心お婆々紛引歌。和解父母恩重經。 ❻明治一七刊 ❼(駒大) ❽名古屋其中堂

白隠禪師言行錄 ❶(日)Haku-in-zen-ji-gen-kō-roku. ❷一巻 ❸存 ❹高橋定坦著 ❺大正五刊 ❻東京東亞堂

白隠禪師尺牘 ❶(日)Haku-in-zen-ji-seki-doku. ❷一巻 ❸存、白隠廣錄第一 ❹白隠慧鶴(貞享二―明和五 A. D. 1685―1768)

❺村林、淺倉、依田某等に與へられた書簡三篇を集めたものである。村林某の眼疾を問ふて書中に眼病の妙藥を示して一、信心三兩。一、淡然不動一兩。一、無貪無說一兩。一、安閑無事一兩。一、萬事不回法一兩。一、堪忍五兩。一、梅餅漢一兩。一、無公私一兩。右八味禪定水一升を以て煎ず、煎方服法如常、眼病の禁物、第一愛欲煩惱、第二瞋恚小腹立、第三思案分別、第四身上の世話、第五多口饒舌、第六よみ書き云々。

白隠禪師文集 ❶(日)Haku-in-zen-ji-bun-shū. ❸存、佛教文庫第一二 ❹白隠慧鶴(貞享二―明和五 A. D. 1685―1768) ❺昭和七刊 ❻東方書院

白隠禪師法話 ❶(日)Haku-in-zen-ji-hō-wa. 死出乃山路獨旅 ❷一巻 ❸存 ❹白隠慧鶴(貞享二―明和五 A. D. 1685―1763)語 ❼(参考) 禪籍目錄

白隠禪師法語錄 ❶(日) Haku-in-zen-ji-hō-go-roku. ❷一巻 ❸存 ❹白隠慧鶴(貞享二―明和五 A. D. 1685―1768)語、清水珊瑚編 ❺大正九刊 ❻東京光融館 (大久保堅瑞)

白隠禪師年譜 ❶(日)Haku-in-zen-ji-nen-pu. 龍澤開眼神機獨妙禪師白隠年譜 ❷一巻 ❸存 ❹東嶽圓慈、享保六―寛政四 A. D. 1721―1792)編 ❺文政三刊 ❻(駒大)

白隠禪師の言行附假名法話十種 ❶(日)Haku-in-zen-ji-no-gen-kō-tsuketari-ka-na-hō-go-jū-shu. ❷一巻 ❸存 ❹釋毒潭 ❺大正四刊 ❻東京誠進堂

白隠和尚遺墨集 ❶(日)Haku-in-o-bo-i-boku-shū. ❷一巻 ❸存 ❹國民新聞社編 ❺大正三刊 ❻東京民友社

白隠和尚行狀 ❶(日) Haku-in-o-shō-gyō-jō. ❷一巻 ❸存 ❹盧霜元虛 ❼(参考) 禪籍目錄

白隠和尚行錄 ❶(日) Haku-in-o-shō-gyō-roku. ❸存、白隠和尚遺墨集附錄 ❺大正三刊 ❻東京民友社

白隠和尚言行錄 ❶(日)Haku-in-o-shō-gen-kō-roku. ❷一巻 ❸存 ❹服部俊星著 ❺明治四三刊 ❻(駒大)(谷大、餘洋・二七七)

白隠和尚垂示 ❶(日) Haku-in-o-shō-sui-ji. ❸存 ❺大正二刊 ❻東京民友社

白隠和尚全集 ❶(日) Haku-in-o-shō-zen-shū. ❷一巻 ❸存 ❹平本正次編 ❺明治三四刊 ❻(谷大、餘大・一一六三)

白隠和尚全集 ❶(日) Haku-in-o-shō-zen-shū. ❷一巻 ❸存 ❹禪學編輯局編 ❺大正九、一〇刊 ❻東京光融館

白隠和尚大道狂談 ❶(日) Haku-in-o-shō-dai-dō-kyō-yū. ❷一巻 ❸存 ❹白隠慧鶴(貞享二―明和五 A. D. 1685―1768) ❺天保八刊 ❻(駒大)

白隠和尚轉法捷經附心經疏 ❶(日) Haku-in-o-shō-tem-bō-shō-kyō-tsuketari-shin-gyō-sho. ❷一巻 ❸存 ❹白隠慧鶴(貞享二―明和五 A. D. 1685―1768) ❼(参考) 禪籍目錄

至道無難、道徳慧端、白隠慧鶴(白隠法嗣 盧霜元虛、東嶽圓慈、義山慈梓) ❺大正九刊 ❻東京光融館 (大久保堅瑞)

白隠禪師年譜 ❶(日)Haku-in-zen-ji-nen-pu. 龍澤開眼神機獨妙禪師白隠年譜 ❷一巻 ❸存 ❹東嶽圓慈、享保六―寛政四 A. D. 1721―1792)編 ❺文政三刊 ❻(駒大)

白隠禪師の言行附假名法話十種 ❶(日)Haku-in-zen-ji-no-gen-kō-tsuketari-ka-na-hō-go-jū-shu. ❷一巻 ❸存 ❹釋毒潭 ❺大正四刊 ❻東京誠進堂

白隠禪師文集 ❶(日)Haku-in-zen-ji-bun-shū. ❸存、佛教文庫第一二 ❹白隠慧鶴(貞享二―明和五 A. D. 1685―1768) ❺昭和七刊 ❻東方書院

白隠禪師法話 ❶(日)Haku-in-zen-ji-hō-wa. 死出乃山路獨旅 ❷一巻 ❸存 ❹白隠慧鶴(貞享二―明和五 A. D. 1685―1763)語 ❼(参考) 禪籍目錄

白隠禪師法語錄 ❶(日) Haku-in-zen-ji-hō-go-roku. ❷一巻 ❸存 ❹白隠慧鶴(貞享二―明和五 A. D. 1685―1768)語、清水珊瑚編 ❺大正九刊 ❻東京光融館 (大久保堅瑞)

白隠珍話集 ❶(日) Haku-in-chin-wa-shū. 笑ひなぶら修養になる白隠珍話集 ❷一巻 ❸存 ❹土屋春堂編 ❺大正一三

刊 ⑩東京中央出版社

白隱轉法捷經附澤庵三字說 ❶(日)Hakuin-tenpō-hō-shō-kyō-tsuketari Takuan-san-ji-setsu. ❷一卷 ❸存 ❹白隱禪鶴(貞享二—明和五A.D.1685—1768) ❺明治元刊 ⑨(駒大) ⑩東京法文館

白隱と夜船閑話 ❶(日) Hakuin-to-yo-bune-kan-wa. 疾病療養白隱と夜船閑話 ❷一卷 ❸存 ❹野村瑞城著 ❺大正一五刊 ⑨(駒大)

白隱東嶺毒語心經閑話 ❶(日) Hakuin-tō-rei-doku-go-shin-gyō-kan-wa. 毒語心經閑話 ❷一卷 ❸存 ❹川尻寶岑著 ❺大正九刊 ⑩東京森江書店

白隱法語集 ❶(日) Hakuin-hō-go-shū. 新註白隱法語集 ❷一卷 ❸存 ❹石上學人 ❺安心ほこりたゝき。遠羅天釜。おたふく女郎鈴引歌。見性成佛丸方書。坐禪和讃。主心お婆々鈴引歌。大道ちよぼくれ。辻說議。寢ぼけの目覺。白隱假名法語。鏡宮記。夜船閑話。施行歌。 ⑨明治四四刊 ⑨(駒大) ⑩東京富文館

白雲惠曉禪師語錄 ❶(日) Hakuun-e-gyō-zen-ji-go-roku. 佛照禪師語錄、白雲和尙語錄、白雲錄 ❷二卷 ❸存、大正八〇・一七No.2546 ❹白雲惠曉(安貞二—永仁五 A.D. 1228—1297)語、希白編 ❻佛照禪師語錄の下を見よ。 ❼(參考) 扶桑禪林書目

白雲惠曉禪師塔銘 ❶(日) Hakuun-e-gyō-zen-ji-tō-mei. 佛照禪師塔銘 ❸存、續群書類從第九 ❹惠曉哲濟 ❻佛照禪師塔銘の下を見よ。

白雲和尙語錄 ❶(日) Hakuun-ō-shō-gō-roku. (支) Pai-yün-ho-shang-yü-lu. ❷二卷 ❸存 ❹高麗白雲普濟(大德元—洪武六A.D. 1297—1373ヶ)語、釋瑞錄 ❻本書は稀覯なる高麗版に屬し、近く京城帝大も影印せんとしてゐる天下未見の一本である。卷頭に麗末の大儒李穡(A.D.1378)(之は彼の文集にも載らず)と李玖(A.D. 1377)との序がある。本文は上卷に神光寺入院法語五篇、興聖寺入院小說以下法語、示衆六十六篇、外に佛師禪の論、禪教調和、雲門三句釋、大陽三句釋、慨霜和尙三句與三轉語釋等の文を含み、下卷には至正辛卯五月十七日師語湖州霅霧山天湖庵呈似石屋和尙語句以下偈頌、贊讃、書論等が蒐められてゐる。本書によつて初めて知らるゝ著者登用は麗末朝鮮禪教史上、太古、慨霜等と並び稱せらるべき一大禪傑で、至正十一二年の交(A.D. 1351.2)入元して燕京に梵僧指空に謁し、湖州霅霧山に臨濟第十八祖石屋清珙を訪ねて證契する所あり、歸朝後王都開城近郊に化を張つた。老僧今日出世、擊a將類之法鼓1、整b已碌之玄綱1、とは其の抱負であり、本心元是一切世間出世間、種々諸法之根本、是萬法之源の本心を或は一物と、或は至道と、或は法と呼び、之を心に傳へたのが禪であり、之を口に登したのが歌であるとし、第一義、第一義、如a紅爐上一點殘雪1、と提唱したのが、其の根本思想であり、夫出家之職應b須決i鄉生死1、紹a祖佛種1、弘通利生1、と論じ、放下世緣頓忘a人我1、と說き、菩提無上菩提と示し、塵b思入a無爲1、眞實報恩者と奬むる所に其の學風が見られる。師石屋は臨終に彼に偈を寄せて、

白雲買了賣a清風1、散a盡家私1、漱b骨窮
留得一間茅草屋　臨i行付a與丙丁童1

と全編の信任を披瀝したので、彼は自らを靈山會上の迦葉に比し、少林山中の慧可に擬して、正法眼藏無上法寶、今日自然而至於我1、と感激した。而して、

元來草々青山父　下吹a白雲1、閒a盡飄
跡蹤b閒1、盡飄然去1、心與a青山1、常寂寥

と詠んで、青山としての思師石屋に切々たる思慕の情を寄せた所に、彼の文藻をも窺ふことが出來る。 ❼(參考) 朝鮮佛教總書刊行豫定書目 ❺洪武十一刊 (江田俊雄)

白雲和尙法語 ❶(日) Hakuun-ō-shō-gō-roku. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第九五 ❹白雲惠曉(安貞二—永仁五 A.D. 1228—1297) ❻片々三百字の小文である。法眼開けずんば百度惡道に落つとも善知識に值ふこと難し、木佛言はず經論口無し、善知識を如來の本とす、佛道難きに非ず、善知識に逢ふこと難し、佛道恠り難きに非ず、又修すること難きなり、生死出で難きに非ず、志願して言ひ、空中に手を放ち空山に坐せば絕無上の妙道自己の脚跟下に見徹さるべき旨を敎ふ。思ふに白雲和尙の學人に示せる法語の一篇が獨立して傳はりしなるべし。 ❺明治四五刊 ⑨(駒大) (林信雲)

白雲和尙夢の記 ❶(日) Hakuun-ō-shō-yume-no-ki. 夢の記、由迷館起 ❸存、禪門法語全集第六、大日本佛教全書第九五 ❹白雲惠曉(安貞二—永仁五 A.D. 1228—1297) ❺永仁二(A.D. 1294) ❻客との問答にことよせて我が心即ち佛なりと知らざる無明によつて、衆生は悉く六道四生の夢を見つゝあることを指摘し、恰かも睡の眼生ずれば多の事、即ち國土あり、衆生の中に我あり、人あり、故に背くことあらば怒り、隨ふことあらば愛を生じ、善事あらば悅び、惡事あらば怒ふるも皆是れ夢みる間は實有の心地すれども、覺て後に一の實境なるが如く、衆生の生死流轉も總に此の夢に異ならず、生死は凡て夢中所見なりと敎へ、實修の方法としては六字の名號を唱ふるも尙ほ劣る、一阿字を唱へよ、口を開かば出息は自ら阿の聲となる、百千の經論の所說の法門皆一阿字に攝歸す、故に一聲なれども一切經を讀む功德に同じかるべし、最後臨終の時にも、阿の息の上に念をおいて終を取るべし、他に思を巡らす可らず、只一の阿の字にて終らば無念自證に製はんと說いて居る。著者白雲は聖一門下にて普門・關性・無住・大慧等と共に密教に勝れた人であり、聖一入寂に當つて最後の灌頂を受け、而も禪の蘊奧を窮めたる人であるからして、本記に於ても自ら其の色彩が現はる、十年決、枯木集と共に、古來より珍重されたものである。本書は八十一歲の作であつて白雲七葉の孫守愚の寫本存

し、正保二年第八世の孫守初修補を施せるものである。 ❺明治二八—二九刊 ⑨(駒大) (林信雲)

白雲詩集 ❶(日) Hakuun-shi-shū. 雲頭白雲詩集 ❷四卷 ❸存 ❹元實存潤 ❺貞享五刊 ⑨(哲、て・一・左・一七)(京大、蔵・二四八・一)(駒大)

白雲寺誌 ❶(日) Hakuun-ji-shi. (支) Pai-yün-sze-chih. ❷一卷 ❸存 ❹清泉林本眞 ❼(參考) 禪籍目錄

白雲守端禪師語錄 ❶(日) Hakuun-shu-tan-zen-ji-go-roku. (支) Pai-yün-shou-tuan-chan-shih-yü-lu. ❸存、卍續二・二五・三 ❹宋白雲守端(天聖三—熙寧五 A.D. 1025—1072)語 ❻楊岐派圓、資州楊岐山方會禪師の法嗣である舒州白雲山海會禪院守端禪師の語錄を輯めたもので、續藏本の本書に於ては其の上堂法語は語要の部に收められて居る。上下二卷。卷上に上堂示衆の語要、並に再錄された賛三篇。卷下に頌古一百十則一百十一首を收めたものである。守端に就ては廣錄に記した通りである。其の提撕に「僧問。如何是佛法大意。師曰。水底按葫蘆。又僧問。不求諸聖。不重己靈。未是衲僧分上事。如何是衲僧分上事。師曰。死水不藏龍。曰。便恁麼去時如何。師曰。籐蔓波。」と、以て其の平生の用處を知るべきである。 (大久保堅璃)

白雲守端禪師廣錄 ❶(日) Hakuun-shu-tan-zen-ji-kō-roku. (支) Pai-yün-shou-tuan-chan-shih-kuang-lu. ❷四卷 ❸存、卍續二・二五・三 ❹宋白雲守端(天聖三—熙寧五 A.D. 1025—1072)語、慮疑等編 ❻臨濟楊岐派の圓、資州楊岐山方會禪師の法嗣、南岳下十二世舒州白雲山海會禪院守端禪師の六會語錄の大綱を參學の弟子慮疑和尙等が編錄し、去原の王孜が序文を撰して居る。守端は衡陽(湖廣衡州府)の葛氏(或作周氏)茶陵郡山主に依つて得度し、圓通居訥禪師に參じ、楊岐山方會禪師に嗣法した。承天、法華、龍門、無化及び白雲山海會禪院の六處に法輪を建てて人天を化益し、宋神宗帝熙寧五年(A.D. 1072)壽四十八を以て示寂された。即ち、本書は其の寂後この六會の語要を廣く輯錄したものである。

續藏本に收むる本書に依つて其の篇次を見るに、全四卷、卷首に王孜の序、卷一に江州承天禪院語錄(慮凝編)。江州圓通景勝禪院語錄(海諱編)。舒州法華山證道禪院語錄(智本編)。舒州龍門山乾明禪院語錄(智華編)。並に示寂の二年前である熙寧三年十月一日に撰した圓覺經紀序を收め。卷二に舒州興化禪院語錄(慮凝編)。及び守端最後の住山地の說法である舒州白雲山海會禪院語錄(法演編)を收め。卷三に偈頌七十餘首を附した舒州法華山頌古一百十則(慮凝編)を收めて居る。守端の法嗣數多き中に最も傑出したのは、門下に所謂佛眼佛鑑佛果の三佛を出した五祖法演禪師で、法演は守端最後の住山地白雲山語錄の編者である。 (大久保堅璃)

白雲端和尙語要 ❶(日) Hakuun-tan-ō-shō-gō-yō. (支) Pai-yün-tuan-ho-shang-yü-yao. ❷五冊 ❸存、卍續二・二三・五續古尊宿語要第三 ❹宋白雲守端(天聖三—熙寧五 A.D. 1025—1072)語 ❻本書は、楊岐山方會禪師の法嗣である舒州白雲山海會禪院守端師の語要などは、法嗣慮凝等の編錄した白雲守端禪師廣錄中に收められて居る。本書には其の上堂語、頌古、讚などの一部分が收められ、守端の禪風の一端を示したものである。 (大久保堅璃)

白雲東明禪師語錄 ❶(日) Hakuun-tō-mei-zen-ji-go-roku. 東明禪師語錄、東明和尙語錄、東明錄 ❷三卷 ❸存 ❹東明慧日(文永九—曆應三 A.D. 1272—1340)語、正堅、圓郎共編 ❺元祿五刊 ⑨(駒大)

白雲錄 ❶(日) Hakuun-roku. 佛照禪師語錄、白雲和尙語錄、白雲惠曉禪師語錄 ❷二卷 ❸存、大正八〇・一七 No.2546 ❹白雲惠曉(安貞二—永仁五 A.D. 1228—1297)語、希白等編 ❻佛照禪師語錄の下を見よ。 ❼(參考) 日本禪林撰述書目

白崖和尙語錄 ❶(日) Hakugai-kotsu-shō-go-roku. ❷一卷 ❸存 ❹白崖寶生(康永二—應永二一 A.D. 1343—1414)語 ❼(參考) 禪籍目錄

白崖窟語錄 ❶(日) Hakugai-kotsu-go-roku. ❷二卷 ❸存 ❹中原郁州、平松英鄕編 ❺大正一一刊 ⑨(駒大)

白巖和尙法門鋤穴筆解 ❶(日) Hakugan-ō-shō-hō-mon-jō-ki-sen-ge. ❷一卷 ❸存 ⑨(龍大、二六七H・二)

白家詩集 ❶(日) Hak-ke-shi-shū. (支) Pai-chia-shih-chi. ❷六卷 ❼(參考) 入唐新求聖教目錄

白華林一枝 ❶(日) Hak-ke-rin-issi. ❷一卷 ❸存 ❹白華 ❼(參考) 禪籍目錄

白警 ❶(日) Hak-kei. (支) Pai-ching. ❷一卷 ❸存 ❹新羅野雲撰 ❼(參考) 朝鮮佛教總書刊行豫定書目

白光明禪師語錄 ❶(日) Hak-kō-mei-zen-ji-go-roku. (支) Pai-kuang-ming-chan-shih-yü-lu. 歸元寺白光明禪師語錄 ❷一卷 ❸存 ❹清白光明語、行豐等編 ❼(參考) 禪籍目錄

白谷集 ❶(日) Hak-koku-shū. ❷一卷 ❹朝鮮白谷處能 ❼(參考) 禪籍目錄

白骨御文感涙鈔 ❶(日) Hak-kotsu-no-o-fumi-kan-rui-shō. ❷三卷 ❸存 ❹古溪逸 ⑩寫本(龍大、二四三・七五)

白骨御文講話 ❶(日) Hak-kotsu-no-o-fumi-kō-wa. ❷二卷 ❸存 ❹深瞻(寶延二—文化一四 A.D. 1749—1817)述 ❺明治一六刊 ⑨(帝國、一八三・二一四)

白骨御文說敎 ❶(日) Hak-kotsu-no-o-fumi-setsu-kyō. ❷二卷 ❸存 ❹藤岡了空述 ❺明治四一刊 ⑨(谷大、宗洋・二五〇)

白骨勸學講話錄 ❶(日) Hak-kotsu-kwan-gaku-kō-wa-roku. ❷一冊 ❸存 ❹密華道隱(寶保元—文化一〇 A.D. 1741—

1813) ❹訓点(古文・日本紙・天元二)

白寺記 ❶(日)Hak-kotsu-kwan. ❷1巻 ❸不、大日本史史料第五編之一所収 ❹(古文・天元二)

❺天平勝宝七年(A. D. 755)の頃、天竺僧菩提僊那の来朝に際し、其の伝来の仏教に関する事蹟を記したもの。僧菩提僊那は、天竺の人、婆羅門僧正と称し、天竺の仏教を伝ふるために、我が国に来朝したのである。彼は、我が国に来朝するや、我が国の仏教の盛んなるに驚き、且つ、我が国の仏教の盛んなるは、我が国の人々が、仏教を信じ、仏教を尊重するが故であると、考へたのである。而して、彼は、我が国の人々が、仏教を信じ、仏教を尊重するが故に、我が国の人々は、仏教の教理を、よく、理解し、仏教の教理を、よく、理解するが故に、仏教を信じ、仏教を尊重するものであ

【さ】

[illegible]

博山禅師語録公案　●(日)Haku-san-zen-kei-go-ben-ei-roku.　●二巻　●外　●分中国　●貞享(貞享)

博山大智禅師広語　●(日)Haku-san-dai-gi-o-shō-kō-roku.　(支)Po-shan-ta-i-ho-shang-kuang-lu.　●禅宗　●外　卍続二・二〇・一一二　●明末清初　●貞享(貞享)一宝永(宝永)A.D. 1575—1630)　●広録　●禅宗語録の一種

博山大智禅師法堂説教　●(日)Haku-san-dai-shi-shū-setsu-tō-shaku.　(支)Po-shan-ta-shih-tsung-shuo-têng-hsi.　●一巻　●外　●禅宗　●卍続二・二〇・一一二　●明末清初　●貞享(貞享)一宝永(宝永)A.D. 1575—1630)　●説教　●〔参考〕　臨済宗

博山禅師　●(日)Haku-san-fuku-shō.　(支)Po-shan-fu-shu.　●一巻　●外　●明　●禅宗　●貞享(貞享)一宝永(宝永)A.D. 1575—1630)　●貞享(貞享)・一・七・八・三)　●明版(内閣)

博山問古　●(日)Haku-san-bek-ko.　(支)Po-shan-pieh-ku.　●博山大智禅師　●一巻　●外　●明　●禅宗　●貞享(貞享)一宝永(宝永)A.D. 1575—1630)　●明版(貞享)　●貞享(貞享)・一・七・八・三)

博山禅師大智禅師語録説教　●(日)Haku-san-dai-shi-go-roku-shū-yō.　(支)Po-shan-wu-i-ta-shih-yü-lu-chi-yao.　●禅宗　●外　●卍続二・二〇・一一二　●明末清初　●貞享(貞享)一宝永(宝永)A.D. 1575—1630)　●説教　●禅宗語録の一種

博山老人録　●(日)Haku-san-rō-jin-jō-roku.　(支)Po-shan-lao-jên-shêng-lu.　●禅宗　●外　●禅宗　●卍続二・二一・一二七(卍続二・二〇・一一二)　●明末清初　●貞享(貞享)一宝永(宝永)A.D. 1575—1630)　●説教　●禅宗語録の一種　●貞享(貞享)

博山禅師　●(日)Haku-san-roku-shu-sho.　●二巻　●外　●黄檗山宝永(宝永)二・一一一宝永七A. D. 1635—1694)　●〔参考〕　臨済宗

博士菩提寺縁　●(日)Haka-se-shi-ku-den.　●一巻　●外　●徳川時代　●〔参考〕

博物館品物目録　●(日)Haku-butsu-kwan-him-motsu-moku-roku.　●図書　●外　●文部省　●明治元年刊　●〔参考〕

博陸禅師問答　●(日)Haku-riku-no-toi-ni-kotaeru-sho.　●外　●鎌倉時代末期　●〔大正一八・二二四頁 No. 2612 之内〕　●説教(宝永二一宝永七)　●〔参考〕　浄土宗説教書参照

婆訶羅経　●(日)Ha-ku-ra-kyō.　(支)Po-chū-lo-ching.　(梵)M. 124 Bakkula S.　●外　●中国今昔物語　●〔大正一・四七頁 No. 26, 34〕

駁安心問答　●(日)Baku-an-jin-shi-sho.　●一巻　●外　●南条文雄(文化一一一明治二〇A. D. 1814—1887)　●説教　●〔参考〕　浄土宗説教・礼讃

駁一乗千里　●(日)Baku-ichi-ben-sen-ri.　●一巻　●外　●聞名(寛政四一明治元A. D. 1792—1868)　●貞享(貞享)一宝永(宝永)一・一・一)

駁闢仏論略　●(日)Bak-kwan-soku-shia-gi.　●外　●貞享(貞享)一宝永(宝永)一・一四・四)

駁斥儒教論　●(日)Baku-shi-chū-ron.　●一巻　●外　●浄土教　●〔参考〕　大日本仏教全書第四巻浄土宗全書二

駁邪新論講話　●(日)Baku-ja-shin-ron-kō-wa.　●二巻　●外　●禅宗　●明治一五年刊　●〔貞享(貞享)一宝永(宝永)一・一・一四・一五〕

駁東本願寺由緒館記　●(日)Baku-higashi-hon-gwan-ji-yui-sho-ryak-ki.　●外　●貞享(貞享)(宝永)(貞享)

駁難類書　●(日)Baku-ben-dō-sho.　●二巻　●外　●文学書　●文政五年刊　●〔貞享(貞享)一宝永(宝永)・一・一五・一六〕　●〔参考〕　浄土宗説教・礼讃

駁山説計　●(日)Baku-zan-i-sō.　●一巻　●外　●浄土教　●〔参考〕　臨済宗

駁宗論略　●(日)Baku-shū-fu-ryaku.　●三巻　●外　●浄土教　●天保天保一五年刊　●〔貞享(貞享)一宝永(宝永)〕

駁仏教集　●(日)Baku-mom-mon-kai-shū.　●一巻　●外　●浄土教　●〔参考〕　臨済宗

駁林新亭　●(日)Baku-rin-shin-sō.　●一巻　●外　●貞享(貞享)一〇一宝永(宝永)A. D. 1633—1695)　●〔参考〕　臨済宗

駁林伝説　●(日)Baku-rin-sō-den.　●一巻　●外　●法華経説　●明治二一年刊　●〔貞享(貞享)一・一一一〕

剥書集　●(日)Baku-setsu-shū.　(支)Pao-hsüeh-chi.　●浄土教説教　●〔参考〕　臨済宗

剥学集　●(日)Baku-sen-shū.　(支)Pao-ch'üan-chi.　●浄土教説教　●一巻　●外　●卍続一・四一・一一　●明末清初　●浄土教説教(貞享二一宝永四A. D. 809—1052)　●説教

●禅宗語録は説教書の一種であるから浄土教の説教とは全く異なるが、禅の説教は浄土教のそれと同じく、禅の説教は仏教の説教であり、禅の説教は仏教の説教であり、禅の説教は仏教の説教であるから、禅の説教は仏教の説教であるから、禅の説教は仏教の説教であるから

たもの。柱源神法護摩供具と略ど同じである。水輪の平面圓・水輪圓・圓伽札・乳木・圓伽桶・杓・軌杖・肘比・小打木・火箸の寸法・色彩・用材等を記し、終に此の神法修習の壇圖を擧げてゐる。害敎一般の壇の莊嚴とは趣を異にしてゐることを注意すべきである。

（服部如實）

柱源祕底記 ❶(日)Hashira-mono-hi-tei-ki. ❷1冊 ❸存 ❹寫本、京大、日大来・七二九）

八會章 ❶(日)Hachi-e-shō. (支)Pa-hui-chang. 華嚴經文義綱目、華嚴八會綱目章、大方廣佛華嚴八會綱目章、華嚴文義綱目、華嚴經綱目、華嚴綱目、八會論 ❷1卷 ❸存、大正三五・四九一No. 1734、卍續一・四・五 ❹唐法藏（貞觀一七—先天元 A. D. 613—712）述 ❺華嚴經文義綱目の下を見よ。 ❻(參考) 奈良朝現在一切經疏目錄1848

八會論 ❶(日)Hachi-e-ron. (支)Pa-hui-lun. 華嚴經文義綱目、華嚴八會綱目章、大方廣佛華嚴八會綱目章、華嚴文義綱目、華嚴經綱目、華嚴綱目、八會章 ❷1卷 ❸存、大正三五・四九一No. 1731、卍續一・四・五 ❹唐法藏（貞觀一七—先天元 A. D. 613—712）述 ❺華嚴經文義綱目の下を見よ。 ❻(參考) 奈良朝現在一切經疏目錄1850

八箇印三ケ口傳 ❶(日)Hak-ka-in-san-ka-ku-den. ❷1帖 ❸存 ❹天明三寫 ❺(實龜院)

八箇條 ❶(日)Hak-ka-jō. ❸存、興敎大師全集 ❹平宇成就相應義並八箇條となるべきものを、加持世界發行の興敎大師全集は誤つて單に、八箇條と別出せし故、別本の如く相傳せられたるもの。平宇成就相應義の項を見よ。

（富田榮純）

八箇條起請 ❶(日)Hak-ka-jō-ki-shō. ❷1卷 ❸千觀 ❹(參考) 淨土依憑經論章疏目錄

八戒齋要集 ❶(日)Hak-kai-sai-yō-shū. ❷1冊 ❸存 ❹以空（寛永一三—享保四 A. D. 1636—1719）述 ❺寛文四刊（帝國・八二一・六四）寛文六刊（京大、一・二六八・三）

八海含藏 ❶(日)Hak-kai-gan-zō. ❷1卷 ❸存、大日本佛敎全書第三諸宗要義集 ❹虎關師錄（弘安元—貞和二 A. D. 1278—1346）

❺倶舍宗・成實宗・律宗・華嚴宗・三論宗・法相宗・眞言宗・天台宗・禪宗・淨土宗等の十宗の綱要書である。倶舍宗より天台宗に至る八宗に就ては、其の宗の成立、所依の經典聖典の譯出、支那に於ける傳播の概要、日本傳來等に關して極めて簡略に記し、鎌倉期、新興の禪、淨土の二宗に就ては、其の宗意の大要成立、傳承を記し、淨土宗に關しては他の敎宗同樣、所依聖典流傳に就て一應の記述を施して居る。卷尾に諸宗要文を揭げて

倶舍、法體恒有　成實、羅假綱實
律宗、五篇七聚　法相、有空中道
三論、八不中道　華嚴、三界唯心

天台、一心三觀　眞言、六大無礙
佛心、直指人心　淨土、一念十念
見性成佛

と示して居る。當代の凝然の名著八宗綱要と相頡するものにして兩も簡なるものである。著者の法眼東福寺禪圓圓爾の十宗要道記と共に鎌倉期禪僧の諸家綱要書として初學の指針となさんが爲めに著はされた書である。

（林信雲）

八吉祥經 ❶(日)Hachi-kichi-jō-kyō. (支)Pa-chi-hsiang-ching. 八吉祥神呪經、八吉祥呪經、吉祥經 ❷1卷 ❸存、大正一四・七二No. 437、鳩摩羅什譯、北277女、南239女、元274女、明北295知、清295知、麗272僞、天295女、指255僞、法275僞、至334得、明南272勿、Nj. 59) ❹支謙譯 ❺吳黃武二—建興二（A. D. 223—253） ❻八吉祥神呪經の下を見よ。

八吉祥經 ❶(日)Hak-kichi-jō-kyō. (支) Pa-chi-hsiang-ching. （太元一九—泰始四 A. D. 394—468）譯 ❸第三譯 ❼(參考)開元錄第一四、貞元錄第二四

八吉祥經 ❶(日) Hachi-kichi-jō-kyō. (支)Pa-chi-hsiang-ching. (梵)Aṣṭa-maṅgalaka (?) (藏) bṛtbaṅs-pa dkyil-ḥkhor brgyad-pa shes-bya-ba theg-pa chen-poḥi mdo. ❷1卷 ❸存、大正一四・七五No. 437、鳩摩羅什、卍一〇・七、北279女、南231女、元287女、明北297知、清297知、麗287僞、天288女、指232僞、法274僞、至355得、明南253才、Nj. 301 ❹爰僧伽婆羅（大明四—普通五 A. D. 468—523）譯 ❺天監二—普通元（A. D. 505—520）

❻本經の主旨は、東方八佛の名號を聞きて自ら受持し、他人の爲めに說けば利益多きことを說くに在る。

內容、佛、娑樹給孤獨園に在し、舍利弗に告げて曰く、此の佛世界從り東方に向ひ一恒河沙世界を過ぎて天靜世界あり、彼の土に現に善說如來ありと、次第して東方八佛の國土と名號を說き、大乘に住し、此の八佛の名號を聞き、自ら憶持し他の爲めに說くものは女身を受けず、今世後世に神通を得、陀羅尼を具し、六根淸淨にして聖人に値ひ、一切の怖畏を除滅し、臥覺常に安く諸の惡夢無く常に諸天の守護するところとなると說く。次いで以上が偈頌もて纏めて繰り返されてゐる。翻、八佛名號經（大正一四・七六）は本經の同本異譯である。佛說八吉祥神呪經。佛說八陽神呪經。佛說八部佛名經、參照。

❼(參考) 三寶紀第一一、內典錄第四、譯經圖紀第四、開元錄第六、貞元錄第九

（山邊習學）

八吉祥呪經 ❶(日)Hachi-kichi-jō-shu-kyō. (支)Pa-chi-hsiang-chou-ching. 八吉祥神呪經、八吉祥經、吉祥經 ❷1卷 ❸存、大正一四・七二No. 437、鳩摩羅什、卍一〇・七、北277女、南239女、元274女、明北295知、清295知、麗272僞、天295女、指255僞、法275僞、至334得、明南272勿、Nj. 59) ❹支謙譯 ❺吳黃武二—建興二（A. D. 223—253） ❻八吉祥神呪經の下を

見よ。

八吉祥神呪經 ❶(日)Hak-kichi-jō-jin-shu-kyō. (支)Pa-chi-hsiang-shen-chou-ching. ❷1卷 ❹失譯 ❼(參考)出三藏記第四、法經錄第一、武周錄第一一

八吉祥神呪經 ❶(日)Hachi-kichi-jō-jin-shu-kyō. (支) Pa-chi-hsiang-shen-chou-ching. 八吉祥經、八吉祥呪經、吉祥經 ❷1卷 ❸存、大正一四・七二No. 437、鳩摩羅什、卍一〇・七、北277女、南239女、元274女、明北295知、清295知、麗272僞、天295女、指255僞、法275僞、至334得、明南272才、Nj. 299 ❹支謙譯 ❺吳黃武二—建興二（A. D. 223—253）

❻(本經の梗概) 「一時佛、羅閱祇の耆闍崛山に在して、千二百五十の比丘と、千の菩薩と俱に集會したまへり。時に佛は舍利弗に對して東方の八佛の名號並に八吉祥神呪を受持讀誦する功德を說きたまふ」。是れが本經の要領である。

〔翻譯に就いて〕 本經の翻譯は貞元錄第十二に從へば五譯あつたが四譯現存一譯同本としてある。五譯とは

八吉祥神呪經　一卷　吳、支謙譯　第一譯
八陽神呪經　一卷　西晉、竺法護譯　第二譯
八吉祥經　一卷　釋宋、求那跋陀羅譯　第三譯（缺）
八吉祥經　一卷　梁、僧伽婆羅譯　第四譯
八佛名經　一卷

である。貞元錄は「右四經同本異譯、藤起大同、佛名稍異、前後五譯、一譯同本」と記してあるが、同錄二、三、五、六、八、九、十、十二卷等を見ると少しく相違せる點がある。それは同錄十二卷に

八部佛名經一卷亦云八佛名經
元魏、罽賓般若流支譯

と記し、更に註解して「八部佛名經、大周錄云與八吉祥呪經等同本異譯者誤也、八數雖同、說處全異、所爲復別、故爲單本」といひ、又同第九卷には「八部佛名經、亦云八佛名經、興和四年於金華寺出、沙門僧林筆受、見長房錄」といつてゐる。長房錄（歷代三寶紀）をみるとこの八佛名號の記事の下に「開皇六年乃至隋北竺犍達國三藏法師闍那崛多譯」を出して「罽賓般若流支」の翻譯を出さない。靖邁譯經圖記第四には「八佛名經一卷、東魏、般若留支」としてゐる。これでみても貞元錄は統一が取れてゐないばかりでなく引用書に就いても編輯統一が十分でないことを暴露してゐる。

本經の第一譯を「支謙」なりと定めたのは隋の費長房錄以後であつて、それ以前の經錄には「支謙譯出」はない。梁の出三藏記第九、正藏五五ノ一七）に「八吉祥經記第二十一、出經後記」と記してあるが、これをみると「八吉祥經、宋元嘉二十九年太歲壬辰正月三日、天竺國大乘比丘釋求那跋陀羅、於荊州城內譯出、此經至其月六日竟云云」とあるのみで他には一箇所も本經に就いて記してゐない。又隋の法經錄第一（正大五五ノ一一六）には出三藏記の記事によつてゐるが、同卷（大正五五ノ一二一）には「衆經失譯三」、の下に「八吉祥神呪經一卷、八陽經一卷」を擧げてゐる。因みに云ふ。八陽經を竺法護譯と定めたのは費長房錄である。法經錄によれば八吉祥經は求那跋陀羅譯と失譯と二本あることになるが、內容に關して何等遙ぶる所がないから同本を二種に數へたものか、異本が流布してゐたものか明らかでない。但し「衆經失譯三」の終りに「前一百三十四經、並是失譯、雖復遺落譯人時事、而古錄佛有、且義理無違、亦爲定錄」と記してあるから、法經等は全く古錄を拔萃したに過ぎないとも云ひ餘れるのである。次に隋の彥悰錄第二（大正五五ノ一五七）には「八吉祥經一卷　梁三藏僧伽婆羅譯。八佛名經一卷　大隋開皇年闍多譯。右二經同本異譯」とあつて、求那跋陀羅譯がない。然しながら同錄第三（大正五五ノ一六八）には「別生抄出於大部內」として吉祥呪經一卷。八陽神呪經一卷」を擧げ「生經」より別出せる一部であるとしてゐる。生經は本生譯であつて竺法護の「生經」は國譯一切經本緣部第十一に譯出されてゐる。

次に隋の費長房錄第五（大正四九ノ五八）には

八吉祥經一卷　見古錄亦有魏文帝世、月支國優婆塞支謙譯云云

と記してある。又同錄第十（九一一）には

八吉祥經一卷　南惠王譯是第二出、與吳支謙譯出者小異、宋求那跋陀羅（功德賢）見僧祐及寶唱錄

とあり、又同錄（一〇三頁）には「八佛名號一卷　隋北天竺犍達國三藏法師闍那崛多譯」を記してあるが、僧伽婆羅譯を出してゐない。

次に靜泰錄第二（大正五五ノ一九二）には僧伽婆羅譯を除いて求那跋陀羅譯と崛多譯とを同本異譯として數へ、支謙譯を擧げてゐない。上記の如く本經を支謙譯と定めたのは費長房錄以後でそれを載錄したものは內典錄である。

これでみると本經を支謙譯と定めたのは隋の長房錄（歷代三寶紀）以後であつて、內典錄は歷代三寶紀を載錄したものと考へられる。貞元錄は內典錄の缺を補つて、五譯一缺說を出したものであらう。此中八陽經を竺法護譯としたのは歷代三寶紀であつて、八陽經を本經と同本異譯としたは貞元錄（第二、（大正五五ノ四九四））である。同錄には、

八陽神呪經一卷亦直云八陽經第二出、與八吉祥呪經等同本、見長房錄
西晉　竺法護譯

とあるのが初めてである。次に八佛名經に就いては唐の靖邁の譯經圖紀第四には「八佛名經一卷　東魏罽賓般若留支譯。八佛名號經一卷　周の宇文氏の世（隋開皇年）闍那崛多譯」。を擧げてゐるが、歷代三寶紀第四（五四頁）は八佛名經を失譯とし、開元錄も後漢失譯としてゐる、所が歷代三寶紀第十二（一〇三頁）では崛多譯の八佛名號經一卷を擧げ、開元錄では八部佛名經一卷を元魏の罽賓流支譯としてゐる。このやうに本經も亦同本異譯も頗る混雜してゐる。明の智旭は開藏知津第五に「八吉祥經一卷　吳月

支國優婆塞支謙譯。八陽神呪經一卷　西晉月支國沙門竺法護譯。八吉祥經　蕭梁扶南國沙門僧伽婆羅譯。三經並に同本、梁譯には舍利弗の問を缺く」と記して貞元錄の數へ方と相違してゐる。

以上は經錄によつてみたのであるが、玆に問題となるのは貞元錄の五譯一缺記である。支謙譯を現存とし求那跋陀羅譯を缺本としたのは如何なる理由によるか。求那跋陀羅譯は出三藏記に後記が記されてあるから譯出は確かであらうが、支謙譯は歷代三寶紀以後の經錄に其の名が初めて出て內典錄以後の經錄は皆此の說を用ひてゐるが法經、彥琮、靜泰等の經錄に全く記されてゐないのは、聊か疑問を懷かざるを得ないのである。費長房が「古錄に見ゆ」と云つても、それは僧祐錄と實唱錄である。然るに僧祐錄には支謙譯がないから、「祐錄に見ゆ」とあるの誤りであらう。實唱錄は現存してゐないから斷定し難い。それで貞元錄の支謙と求那跋陀羅との存缺說が考へさせられるのである。恐く貞元錄は支謙譯を取つて求那跋陀羅譯を捨てたのではあるまいか。然るに支謙譯なる說は多少の疑點が存し、求那跋陀羅譯の說が相當に信じ得るとしたならば、現存せる本經は支謙譯とするよりは求那跋陀羅譯と改める方が正しいと考へられる。大方の示敎を仰ぎ、支謙の譯經を明了にしたいと思ふ。

❷(參考)　三寶紀第五、內典錄第二、譯經圖紀第一、開元錄第二、貞元錄第三　(田島德音)

八敎圖　❶(日)Hachi-kyō-zu.　❷一卷　❷(參考)　東域傳燈目錄卷下、諸宗章疏錄第一

八敎大意　❶(日)Hak-kyō-tai-i.　(支)Pa-chiao-ta-i.　天台八敎大意　❷一卷　❸存、大正四六・七六九No. 1930、續陽一〇、卍三三・五、明北1561韓、清1533曲、明南1571翼、Nj. 1563　❹陪灌頂(天嘉二—貞觀六A. D. 561—632)述　❺天台八敎大意の下を見よ　❼(參考)　新編諸宗敎藏總錄第三　❽刊本(哲、や・六・右・一〇)(叡山、壽量)延寶三刊(叡山、吉祥)

八敎大意記　❶(日)Hak-kyō-tai-i-ki.　❷二卷　❹實雲(享保一五—天明二A. D. 1730—1782)述　❼(參考)　淨土眞宗敎典志第二

八敎大意撰者論醍醐決　❶(日)Hak-kyō-tai-i-sen-ja-ron-dai-dai-ketsu.　❷一卷　❸存　❹唯法述　❺文化二(A. D. 1805)　❽寫本　西敎寺)

八敎大意扶講記　❶(日)Hak-kyō-tai-i-fu-kō-ki.　❷一卷　❸存　❹慈山(寬永一四—元祿三A. D. 1637—1690)述　❽寫本(妙法院)(明德院)延享三刊(叡山、密藏)

八敎大意便蒙　❶(日)Hak-kyō-tai-i-ben-mō.　天台八敎大意便蒙　❷二卷　❸存　❹繼天述　❺寬政四刊　❽(哲、や・五・中・一二)(叡山、普潤)

八敬之緣　❶(日)Hak-kyō-no-en.　❷一卷　❸存、慈雲尊者全集第一四　❹皓月尼(寶曆六—天保四A. D. 1756—1833)譯、尊者注釋

❶この譯文は四分律比丘尼犍度に依りて、摩訶波闍波提尼人を始め女衆(釋迦族)五百の女人が出家する因緣を記し八重形薩不可過の法即ち八敬戒を受くるに至つたことを假字交り文にて譯出してゐる。併し末尾紙落ちて同文になれるは惜しいことである。

❽皓月尼自筆本(京都長福寺)　(高見寬應)

八敬六念　❶(日)Hachi-kyō-roku-nen.　(支)Pa-ching-liu-nien.　❷四十卷　❼(參考)　奈良朝現在一切經疏目錄3687

八境界　❶(日)Hachi-kyō-gai.　❷一卷　❸存　❹虎角　❽寫本(谷大、餘大・二八八四)

八境界註　❶(日)Hachi-kyō-gai-chū.　❷二卷　❸存　❹明曆二刊　❽(京大、一・二五八・三)

八九淺深問答　❶(日)Hak-ku-sen-jin-mon-tō.　❷一卷　❸存　❹壁如律師述　❽(京專)

八科章　❶(日)Hak-kwa-shō.　(支)Pa-ko-chang.　❹隋吉藏(太清三—武德六A. D. 519—623)述　❼(參考)　東域傳燈目錄卷下、諸宗章疏錄第二

八卷金光明經疏　❶(日)Hachi-kwan-kon-kō-myō-kyō-sho.　(支)Pa-chüan-chin-kuang-ming-ching-su.　❷八卷　❸缺　❹新羅元曉(眞平王三九A. D. 617—)述　❶眼聽述「金光明最勝王經玄樞」(大正五六・四八三No. 2195)に拔引のものか。　❼(參考)　奈良朝現在一切經疏目錄1937

八卷抄　❶(日)Hachi-kwan-shō.　七且八卷抄、宇記鈔、宇記明了坊抄、明了房八卷抄　❹信範述　❶自在金剛集第八に云く「明了房僧正信範、又稱宇記明了坊抄」「小川承澄弟子。印刻」云々。東寺觀智院金剛藏に信範抄三軸現存するものこれか。　❼(參考)　墨繪八家請來并本朝諸製作見定目錄、本朝台眞撰述密部書目、諸宗章疏錄第二

八卷法華經字釋　❶(日)Hachi-kwan-hok-ke-kyō-ji-shaku.　(支)Pa-chüan-fa-hua-ching-tzu-shih.　法華字釋記　❷一卷　❼(參考)　奈良朝現在一切經疏目錄3098

八幅齋經　❶(日)Hak-kwan-sai-kyō.　(支)Pa-kuan-chai-ching.　❷一卷　❹失譯　❼(參考)　出三藏記第三、第四

八關齋經　❶(日)Hak-kwan-sai-kyō.　(支)Pa-kuan-chai-ching.　(巴) A. VIII. 43 Visākhā.　❷一卷　❸存、大正一・九一三No. 89、續炎八、卍一四・一〇、北830無、南840無、元634無、明北697敎、德697敎、麗530甚、天527無、指778甚、法617甚、至1054卑、明南710敎、Nj. 701　❹沮渠京聲(—大明八A. D. 464)譯　❺劉宋孝建二(A. D. 455)

❶この經典は增一尼柯耶八の部の四十三經の一異譯經であつて、失譯劉宋代譯の優婆夷陀會迦經(大正一・九一二)と同本の異譯である。增一尼柯耶のそれと優婆夷陀會迦經に依ると、昆舍佉鹿子母に對し、佛陀が

月に六日八齋戒を持つべきことを敎へ、その持齋の功德は十六大國中の珍寶を僧伽に布施する功德よりも大であることを說いたものであるが、この經典はそれが簡單化されて、對告衆を單に比丘等とし、その持齋の功德の量は五大河の水量よりも多しとする點で他の二經に異なつてゐる。因みにこの持齋を說いた經典に他の敎經があるが、それは次の二種類になつてゐるのである。

(1) A. III. 70. 中阿含二〇二持齋經(大正一・九一〇)。これは牧牛齋・尼乾齋・佛法齋の三齋を出す。

(2) A. VIII. 43. 優婆夷陀會迦經、八關齋經

❷(參考)　三寶紀第一〇、內典錄第四、譯經圖紀第三、開元錄第五、貞元錄第八　(赤沼智善)

八關齋法　❶(日)Hak-kwan-sai-hō.　(支)Pa-kuan-chai-fa.　❸存、卍續二・一二・一　❹弘贊解　❻淸康熙二以後(A. D. 1663—)

❶本書の終に餘は歸戒集中に詳かなりとある故に歸戒要集纂解(淸康熙癸卯=A. D. 1663)の後の編述である。然も歸戒要集下(續藏第二編第十二套第一册七五左下十行)以下を抄出せるに過ぎない(文に多少の前後あり)。その八齋戒文は四分律隱機羯磨を相承せるが如きも戒條の順次に相違あり、且つ第九は非時食戒なれば智度論戒文に相順せり(八種長養功德經開題參照)。而して八關齋の關とは八惡を關閉して諸惡を起さず、齋とは六情を禁止し六塵に染まず諸惡を斷じて具に衆善を修する義、中に於て過中不食は齋法(淨住の義)の體にして八事は齋體を助成するもの、互に相支持して以て淨住(齋法)せしむるを八關齋法といふ。されば齋とは淨住の義にして非時食の異名にはあらず、八種長養功德經及び增一阿含經卷三十八に不非時食を第六に配せるより見るに、八齋戒成立の當初に於ては强ち不非時食を齋體とする等の解は存せざりしものゝ如し。本書は以上の九戒の受法を示し次で阿含經・大方便經・陀婆多論・俱舍論・優婆塞戒經・彌勒喩經・舍迦經・智度論・四天王經・涅槃經・賢愚經・法句喩經・百緣經等によりて其功德利益並に其因緣說話を述べ、以て無上の福を求めんと欲せば當に此齋を求むべきなるを勸むるにあり。且つ六朝時代に於ける皇帝にして齋法を受けたる事例を述べ、終りに音釋を附せり。　(西本龜山)

八關齋法　❶(日)Hak-kwan-sai-hō.　現代宣譯八關齋法　❸存、現代宣譯根本佛敎聖典叢書第五帙一阿含抄　❹泉芳璇譯

八家各別錄　❶(日)Hak-ke-ka-kaku-betsu-roku.　❷一卷　❸存　❽寫眞版　谷大、餘大・三六〇四)

八家口訣　❶(日)Hak-ke-ku-ketsu.　❸存　❽寫本(寶龜院)

八家灌頂印信　❶(日)Hak-ke-kwan-jō-in-jin.　❷一軸　❸存　❺足利時代寫　❽(寶龜院)

八家合行祕法　❶(日)Hak-ke-gō-gyō-hi-hō.　❷一册　❸存　❽寫本(京大、日大宋・三三八)

八家相承大事　❶(日)Hak-ke-sō-jō-dai-ji.　❷一册　❸存　❺寶曆三寫　❽(高大、寄・一・五五)

八家惣目錄　❶(日)Hak-ke-sō-mo-ku-roku.　❷三卷　❹心覺(永久五—治承四A. D. 1117—1180)

❶本朝台眞撰述密部書目に云く「心覺撰述百五十部許舉之、心覺常寄院私加=裏書、云々」。

八家傳灌頂印信並血脈　❶(日)Hak-ke-den-kwan-jō-in-jin-narabini-kechi-myaku.　❷一卷　❸存　❽寫本(正大、一四八・一一八)

八家祕錄　❶(日)Hak-ke-hi-roku.　諸阿闍梨眞言密敎部類總錄、祕錄　❷二卷　❸存、大正五五・一一一三No. 2176、大日本佛敎全書第二　❹安然(承和八—延喜年間A. D. 841—921—)　❺諸阿闍梨眞言密敎部類總錄の下を見よ　❼(參考)諸宗章疏錄第二、本朝台眞撰述密部書目、密乘撰述書目山家眞德撰述篇目集卷上　❽刊本(正大、一〇〇・五三(京專)×龍大、二六・六八・一六×高大、寄・一・五〇)×立大、A二〇・一四二×哲、き・三・右・二一)

八解鏡　❶(日)Hachi-ge-kyō.　❷一卷　❸存　❹朝鮮白坡(英祖王四三—哲宗王三A. D. 1767—1862)撰　❼(參考)朝鮮佛敎總書刊行豫定書目

八結聞書　❶(日)Hak-ketsu-kiki-gaki.　❷八卷　❸存　❹宥快(貞和元—應永二三A. D. 1345—1416)述　❽足利末期寫(寶龜院)享保二寫(金剛三昧院)寫本(金剛三昧院)

八結口傳　❶(日)Hak-ketsu-ku-den.　❷一帖　❸存　❺德川時代寫　❽(寶善提院)

八結鈔　❶(日)Hak-ketsu-shō.　❷四帖　❸存　❺德川時代寫　❽(寶龜院)

八結傳受記　❶(日)Hak-ketsu-den-ju-ki.　❷一帖　❸存　❺明曆二寫　❽(寶善提院)

八結傳授日次等　❶(日)Hak-ketsu-den-ju-hi-nami-tō.　❷一括　❸存　❺德川時代寫　❽(寶善提院)

八結目錄　❶(日)Hak-ketsu-mokuroku.　❷一册　❸存　❽寫本(寶善提院)

八結類聚　❶(日)Hak-ketsu-rui-jū.　❷五卷　❸存　❹覺心

❶享保四年二月晦日西院流八結に就きて古德の抄記を類聚し了り、同五年八月二十日高野山眞別處にて書き加へしもの。

八五布口決　❶(日)Hachi-go-fu-ku-ketsu.　❷一卷　❸存　❹見西記　❺安貞三(A. D. 1229)　❽寫本(西敎寺)

八五附屬　❶(日)Hachi-go-fu-zoku.　❷一卷　❸存　❹道圓　❺弘安八(A. D. 1285)　❽寫本(南溪藏)

八光經　❶(日)Hak-kō-kyō.　(支)Pa-kuang-ching.　❷一卷　❹失譯　❶大集經第二卷の抄出。　❼(參考)　出三藏記第四、法經錄第二、仁壽錄第三、靜泰錄第三、開元錄第一六、貞元錄第二六

八講法則　❶(日)Hachi-kō-hos-soku.

ku. ❷一卷 ❸存 ❹刊本(京大、日大未・三九)(京大、A一八・七)

八歳沙彌開解國王經 ❶(日)Hassai-shu-mi-kai-ō-kokō-kyō. (支)Pa-suei-shu-mi-kai-chieh-kuo-wang-ching. ❷一卷 ❸失譯 ❹譯曾驗經の抄出。 ❺(参考) 出三藏記第四、仁壽錄第三、歸泰錄第三、開元錄第一六、貞元錄第二六

八歳沙彌降伏外道經 ❶(日)Hassai-shu-mi-gō-buku-gē-kyō. (支)Pa-suei-shu-mi-hsiang-fu-wai-tao-ching. 八歳沙彌折外異學經 ❷一卷 ❸失譯 ❹出曜經の抄出。 ❺(参考) 出三藏記第四、法經錄第五、仁壽錄第三、歸泰錄第三、開元錄第一六、貞元錄第二六

八齋戒儀連珠記 ❶(日)Hassai-kai-gi-ren-ju-ki. 八齋戒作法珠記 ❷一卷 ❸存 ❹慈泉洞空(正保二—寶永四 A. D. 1645—1707)述 ❺貞享四刊 ❻(正大、一一八四・一五四)

八齋戒勸善要門 ❶(日)Hassai-kai-kwan-zen-yō-mon. ❷一卷 ❸存 ❹瑞光編 ❺貞享四刊 ❻(龍大、二六一九・四二)(谷大、長保・二七九)(京專)(高大、寄・一・一一)(正大、一一八四・一五五)

八齋戒作法 ❶(日)Hassai-kai-sahō. 齋別受八戒作法 ❷一卷 ❸存、日本大藏經第三五戒律宗章疏第二 ❹觀燈(建仁元—正應三 A. D. 1201—1290)述 ❺齋別受戒八作法の下を見よ。 ❻貞享三刊 ❼(谷大、餘大・四〇二九)(京專)

八齋戒作法 ❶(日)Hassai-kai-sa-hō. 頭書科解八齋戒作法 ❷一卷 ❸存 ❹延寶九刊 ❺(龍大、二六一三・一七)(正大、一一八五・六五)

八齋戒作法珠記 ❶(日)Hassai-kai-sa-hō-ju-ki. 八齋戒儀連珠記 ❷一卷 ❸存 ❹慈泉洞空(正保二—寶永四 A. D. 1645—1707)述 ❺貞享四刊 ❻(龍大、二六一三・二〇)

八齋戒作法得道鈔 ❶(日)Hassai-kai-sa-hō-toku-dō-shō. ❷二卷 ❸存、日本大藏經第三五戒律宗章疏第二 ❹河內蓮光寺道玄述 ❺正德二(A. D. 1712)六月十五日

❻本書の內容は興正菩薩、齋別受八戒作法の全文に通じて注釋を施し、通別二受及び有部と四分との兩律受戒の不同等を明す。劣機の受戒得度の由を至極に明す故に得度鈔と題す。研究上參考に足る良書なり。

❼正德五刊 ❽(龍大、二六一三・一八)(北川智海)

八齋戒作法要解 ❶(日)Hassai-kai-sa-hō-yō-ge. ❷二卷 ❸存、日本大藏經第三五戒律宗章疏第二 ❹一雨述 ❺延寶七(A. D. 1679)四月八日

❻本書の內容は、興正菩薩の齋別受八戒作法の全文に對し、經律論所明の要義のみ引證し以て解釋せり、故に要解と題せるにあり。此の作法は居士者を佛門に導き佛戒を授け三界の火宅を出離せしむるの要法なれば、僧俗共に研究上參考に足る良書なり。

❼貞享三刊 (北川智海)

八齋戒作法要解 ❶(日)Hassai-kai-sa-hō-yō-ge. 科註八齋戒作法要解 ❷一卷 ❸存 ❹延寶七刊 ❺(龍大、二六一三・一九)

八齋戒邪氣加持 ❶(日)Hassai-kai-ja-ki-kaji. ❷一帖 ❸存 ❹德川時代寫 ❺(寶龜院)

八齋戒隨身記 ❶(日)Hassai-kai-shin-ki. ❷一卷 ❸存 ❹淨惠編 ❺明治二四刊 ❻(正大、一一八四・一一六)(龍大、二六一二・二七)(谷大、餘大・三四八六)

八齋戒要集 ❶(日)Hassai-kai-yō-shō. ❷一卷 ❸存 ❹以空(寬永一三—享保四 A. D. 1635—1719) ❺寬文六刊 ❻(龍大、二六一九・四三)

八祀大事 ❶(日)Hassi-dai-ji. ❷一帖 ❸存 ❹德川時代寫 ❺(寶龜院)

八師經 ❶(日)Hassi-kyō. (支)Pa-shih-ching. ❷一卷 ❸存、大正一四・九六五No. 581、節宿七、卍一四・一〇、北790安、南563安、元795安、明北705敬、清705敬、麗793鮮、天798安、指750鮮、法778祚、至1035政、明南572ビ、No. 710 ❹支謙譯 ❺吳黃武二—建興二(A. D. 223—253) ❻耶旬(又作ゃ邪旬)といくる梵志、佛に何人を師として恬れるかを問ひ奉れるに對し、佛、若し節生に於ける師を崇ぐれば無數なるも、今生に於ては自然得悟す、然も全く師なきに非ず、强いて崇ぐれば八師ありとて、殺生、偸盜、邪淫、妄語、飲酒の五戒を犯して今生に苦惱苦報を受け、來世に亦三惡道の難を受くるものを見て、我れ五戒を師とす、又、老、病、死の三苦は人の免る能はざるところ、この三を師として度脫を求めたりと說かる。

❼(参考) 出三藏記第二、內典錄第二、三寶紀第五、譯經圖紀第一、開元錄第二、貞元錄第三 ❽奈良朝時代寫 ❾(高大、寄・一・二三)(美濃見順)

八師經 ❶(日)Hassi-kyō. (支)Pa-shih-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹東晉竺曇無蘭譯 ❺第二譯。 ❻(参考) 開元錄第一五、貞元錄第二四

八字文殊 ❶(日)Hachi-ji-mon-ju. ❹道範(元曆元—建長四 A. D. 1154—1253) ❺(参考) 諸宗章疏錄第三

八字文殊 ❶(日)Hachi-ji-mon-ju. ❷一帖 ❸存 ❹南北朝時代寫(寶菩提院)足利時代寫(寶龜院)德川時代寫(寶龜院)

八字文殊軌 ❶(日)Hachi-ji-mon-ju-ki. (支)Pa-tzu-wen-shu-kuei. 妙吉祥菩薩秘密八字陀羅尼行曼荼羅次第儀軌法、大聖妙吉祥菩薩秘密八字陀羅尼修行曼荼羅次第儀軌法、妙吉祥菩薩秘密八字陀羅尼修行曼荼羅次第儀軌法、大聖文殊秘密陀羅尼修行次第 ❷一卷 ❸存、大正二〇・七八四No. 1187、節餘一、卍續一・二・五 ❹菩提唯使淨智金剛譯 ❺唐長慶四(A. D. 824)

❻大聖妙吉祥菩薩秘密八字陀羅尼修行曼陀羅次第儀軌法の下を見よ。 ❼永久三寫 ❽(寶菩提院)

八字文殊許可作法 ❶(日)Hachi-ji-mon-ju-ko-ka-sa-hō. ❷一卷 ❸存 ❹了禪記 ❺明和七(A. D. 1770) ❻寫本

(無量寺)

八字文殊根本印口決 ❶(日)Hachi-ji-mon-ju-kon-pon-in-ku-ketsu. ❷一卷 ❸存 ❹了禪記 ❺明和七(A. D. 1770) ❻寫本(明德院)

八字文殊次第 ❶(日)Hachi-ji-mon-ju-shi-dai. ❸存 ❹寫本(寶龜院)

八字文殊法 ❶(日)Hachi-ji-mon-ju-hō. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第四七愛輝鈔之內 ❹愛輝(康治二—建暦二以後 A. D. 1143—1212—)

八事山老大和上法語 ❶(日)Hassi-yama-rō-dai-wa-jō-hō-go. 諸宗律師法語集 ❷一卷 ❸存 ❹諦光 ❺天明五刊 ❻(正大、一五三三・一〇四)

八色幡考 ❶(日)Hassi-shiki-ban-kō. ❷一卷 ❸存 ❹亮雄記 ❺寫本(妙法院)

八識規矩纂釋 ❶(日)Hassi-shiki-kiku-san-shaku. (支)Pa-shih-kuei-chu-tsuan-shih. 八識規矩頌纂 ❷一卷 ❸存、卍續二・三・四 ❹廣益述 ❺明天啓二(A. D. 1622)

❻本書は玄奘三藏撰頌八識規矩一卷四章十二頌四十八句を纂釋せるものにして、古來八識規矩の註解多く、本書が撰せらるゝに至る迄已に、菁泰八識規矩補註二卷及び明昱八識規矩補註證義一卷、智旭八識規矩直解一卷等あるも、何れも出入ありて取裁し難し、故に纂釋を撰せりと云ひ、主として補註を本として直解を以て詳釋したるものである。

內容は初に造頌因起を明し、次に唯識學の大綱を述べて本文に入りて偈頌を解釋し、第一章初三頌は前五識を說き、第二章次三頌は第六識を明し、第三章次三頌は第七識を解し、第四章最後三頌は第八識を纂釋せるものである。 (橋本凝胤)

八識規矩直解 ❶(日)Hassi-shiki-kiku-jiki-ge. (支)Pa-shih-kuei-chu-chieh. ❷一卷 ❸存、卍續二・三・四、相宗八要直解第四 ❹明智旭(萬曆二七—永曆九 A. D. 1599—1653)

❻本書は玄奘三藏撰頌八識規矩を解釋せるものにして、殊に天台の教學に立脚して、唯識殊に八識心王心所を註釋せるものとして注意すべきものである。

內容は、四章十二頌四十八句を隨文解釋し、第一章初三頌は前五識を解し、第二章次三頌は第六識を釋し、第三章次三頌は第七識を明し、第四章最後三頌は第八識を解釋せるものである。

❼寬永二刊(龍大、二六二五・一八)(谷大、餘大・二二一)延寶九刊(正大、一一九二・一五七)(京大、藏・一三八・一) (橋本凝胤)

八識規矩頌解附唯識略解 ❶(日)Hassi-shiki-kiku-ju-ge-tsuketari-yui-shiki-ryaku-ge. (支)Pa-shih-kuei-chu-sung-chieh & wei-shih-lüe-chieh. ❷一卷 ❸存、卍續二・三・四 ❹明眞可述

❺本書は玄奘三藏撰頌八識規矩四章十二頌四十八句を解釋せるものにして、末尾に補註を附したるものである。

內容は初三頌は前五識を明し、次三頌は第六識を說き、次三頌は第七識を述べ、最後三頌は第八識を解釋し、次に唯識略解一卷を附し、四分と八識三量と八識等を簡單に記せる數紙を附せるものである。 (橋本凝胤)

八識規矩頌纂 ❶(日)Hassi-shiki-kiku-ju-shō-sen. (支)Pa-shih-kuei-chu-sung-tsuan. 八識規矩纂釋 ❷一卷 ❸存、卍續二・三・四 ❹明廣益(—天啓元 A. D. 1621—)述 ❺八識規矩纂釋の下を見よ。 ❻刊本(京大、藏・一三八・二)天啓二刊(龍大、二六二四・五九)延寶六刊(智、く・八・右・一三)(高大、寄・一・一三)

八識規矩頌注 ❶(日)Hassi-shiki-kiku-ju-chū. (支)Pa-shih-kuei-chu-sung-chu. ❷一卷 ❸存、卍續二・三・四 ❹清行舟註

❺本書は玄奘三藏撰八識規矩十二偈頌の註釋である。內容は自叙の初に造頌の緣由を記して、三藏百疏を繰して十卷とし給ふ、基法師之を見て要義を集めんことを請ひ、八識規矩十二頌四十八句とし給へりと記し、次に本文に入りて四章とし、初三頌は前五識を說き、次三頌は第六識を明し、次の三頌は第七識を述べ、最後三頌は第八識心王心所三性三量三類境等八識の法相を詳細說述せるものである。 (橋本凝胤)

八識規矩頌略解 ❶(日)Hassi-shiki-kiku-ju-ryaku-ge. (支)Pa-shih-kuei-chu-lüe-chieh. ❷一卷 ❸存 ❹明德清(寶靖二五—天啓三 A. D. 1546—1623)述

❺本書は玄奘三藏撰頌八識規矩十二頌四十八句を略釋せるものにして、內容は初三頌は前五識、次三頌は第六識、次三頌は第七識、最後三頌は第八識を略解し、八識の心王心所三性三量三類境心所相應等を說けるものである。 (橋本凝胤)

八識規矩補註 ❶(日)Hassi-shiki-kiku-fu-chū. (支)Pa-shih-kuei-chu-pu-chu. ❷二卷 ❸存、大正四五・四六七No. ❹寫本(京大、藏・二四八・四)

八識規矩設義講述 ❶(日)Hassi-shiki-kiku-shō-gi-kō-jutsu. ❷二卷 ❸存 ❹守脫述 ❺(叡山文庫)

八識規矩淺說 ❶(日)Hassi-shiki-kiku-sen-setsu. (支)Pa-shih-kuei-chu-chien-shuo. ❷一卷 ❸存、卍續二・三・四 ❹清行舟述

❺本書は玄奘三藏撰八識規矩四章十二頌四十八句の大綱梗概を述べしものである。內容は最初に造頌の因起を明し、次に萬法の八識に攝するの義を說き、次に八識の體一識の義、八識心王心所の義、八識無爲相攝の義、八識各無實性の義、三境三量三性の義を明し、最後に迷悟同源縛脫無二識性の義を明して、轉迷開悟の義を明せるもので、極めて簡單なるも要領を得たる唯識初學者の修學書である。 (橋本凝胤)

八識規矩通說 ❶(日)Hassi-shiki-kiku-tsū-setsu. (支)Pa-shih-kuei-chu-tung-shuo. ❷一卷 ❸存、卍續二・三・四 ❹明德清(寶靖二五—天啓三 A. D. 1546—1623)述

❺本書は玄奘三藏撰頌八識規矩十二頌四十八句を略釋せるものにして、內容は初三頌は前五識、次三頌は第六識、次三頌は第七識、最後三頌は第八識を略解し、八識の心王心所三性三量三類境心所相應等を說けるものである。 (橋本凝胤)

八識規矩補註 ❶(日)Hassi-shiki-kiku-fu-chū. (支)Pa-shih-kuei-chu-pu-chu. ❷二卷 ❸存、大正四五・四六七No.

切韻殘卷2735

八識義章略纂 ❶(日)Has-shiki-gi-shō-ken-jū-shō. ❷三卷 ❸存 大正七〇・六四九 No. 2305 日本大藏經第三十三卷所收本 ❹唐 安然(A. D. 1120)

❺天平年中(西�full年)行基菩薩法華宗の中人義疏の一巻を註釋せるものにして、もと大乘義章は文殊師利菩薩の御教なれば、その中の八識義章の如きも八識因果を知るべきなり、今此書は更にこれを註釋せるものなり。内容は十門を以て分別し、釋名門・無始門・無相門・大小不分別義門・眞妄相門・眞妄和合門・眞妄相違門・眞妄相資門・眞妄相離門・眞妄相即門・眞妄相入門・眞妄相攝門・眞妄相因門・眞妄相果門・眞妄相用門・眞妄相體門・眞妄相大門・眞妄相業門・眞妄相轉門・眞妄相現門・眞妄相染門・眞妄相淨門・眞妄相生滅門・眞妄相不生滅門・眞妄相一異門・眞妄相俱離門の次第を以て、八識に關する大小各種の見解を比較し、之を述べ、此書は佛祖三經の要旨を明らかにせるものなり。

❻(参考) 大日本續藏經第一編第二十五套第五冊所收 ❼天平寶字元年 ❽(撰述)奈良時代末期 ❾行基(668—749)

八識規矩 ❶(日) Has-shiki-ki-ku-ron-gi. (支)Pa-shih-kuei-chū-lun-i. ❷一卷 ❸存 卍續二・三・四 ❹法藏 ❺(撰述)唐 慧苑(生沒年不詳)

❻天平年中(西紀七四〇年)行基菩薩の八識規矩頌十二句を註釋したるものにして、八識規矩頌十二句を註釋したるものである。

内容は初めに總説として、八識の名義を明し、次に八識の性相を明し、次に八識の因果を明し、次に八識の相應を明し、次に八識の相違を明し、次に八識の相攝を明し、次に八識の相入を明し、次に八識の相即を明し、次に八識の相離を明し、次に八識の相大を明し、次に八識の相用を明し、次に八識の相體を明し、次に八識の相業を明し、次に八識の相轉を明し、次に八識の相現を明し、次に八識の相染を明し、次に八識の相淨を明し、次に八識の相生滅を明し、次に八識の相不生滅を明し、次に八識の相一異を明し、次に八識の相俱離を明し、次に八識の相即離を明し、次に八識の相因を明し、次に八識の相果を明し、次に八識の相入を明し、次に八識の相攝を明し、次に八識の相違

人宗講要聞書 ●(ロ)Has-shū-kō-yō-kiki-gaki. ●二巻 ●存 ●寛文(寛文一二〇八・二)

人宗講要本末 ●(ロ)Has-shū-kō-yō-kwa-hon. 教本人宗講要鈔 ●二巻 ●存 ●西井章正撰 ●明治一五刊 ●(慶大一二五四・二七)

人宗講要要略議録 ●(ロ) Has-shū-kō-yō-kei-mō-roku. 人宗講要鈔略要録 ●五巻 ●存 ●浦脇義(天保五一明治二九 A. D. 1834—1895)著 ●明治一一刊(慶大一二五四・二一八)(明治一三刊(谷大一巻大・四九二一八)(慶大一巻本)(宮大一〇七・六〇)(帝図一五・一一四四)

人宗講要教説 ●(ロ)Has-shū-kō-yō-kō-shō. 人宗講要講説 ●二巻 ●存 ●原義(明和八一天保二一 A. D. 1771—1831)著 ●藤井文雄(文化一〇一明治二一八 A. D. 1813—1895)編 ●明治一四刊 ●(慶大一巻本)(谷大一一・二〇八・三)(帝一・一一〇八・四・右・一九)(谷大一八六一・一〇)(谷寄)(帝図一七・二一〇九)(宮大一〇七・五八)

人宗講要講案 ●(ロ) Has-shū-kō-yō-kō-an. ●一巻 ●存 ●明治聞屋(一明治四四一 A. D. 1908) ●寛永(谷大一巻大・一五八九)

人宗講要講義 ●(ロ) Has-shū-kō-yō-kō-gi. ●三巻 ●存 ●雲賀(賀茂人一安政五 A. D. 1796—1858)著 ●寛永(谷大一巻大・三四〇)(谷大一巻大・四九二一七)

人宗講要講義 ●(ロ) Has-shū-kō-yō-kō-gi. ●二巻 ●存 ●藤原国存著 ●明治四一刊 ●(谷大一・二一八一・一一八)(慶大一二五四・三〇)(文大一八六一・一一二)(帝図一〇・一三四)

人宗講要講義 ●(ロ) Has-shū-kō-yō-kō-gi. ●一巻 ●存 ●鈴木貞吉撰

人王経 ❶(日)Has-shō-dō-kyō. (支)Pa-chêng-tao-ching. (巴) S. 45. 21 Micchatta ❷1巻 ❸外 ❹天王1•天〇四 No. 112 観音天 卍1四•巻 寺756巻 寺770巻 宋762巻 明寺655巻 寺655巻 唐749巻 宋755巻 新715巻 寺745巻 唐992巻 明寺638巻 Nj. 659 ❺安世高訳 ❻後漢時代 ❼1一巻本1(A. D. 148—170) ❽天王経は人王経 人王経のなかを別番し 言 只 言令 言而 言行 言定 言年 言言 言定のの人王経の1々の内容を前にしたものである。

天王経は普賢菩薩1人の為三十人類の菩薩である。これを前編とすれば、天王経は普賢菩薩のなかをとりしたがい 衛を菩薩の為に説いたものである。これに対するに人王経は普賢菩薩以外の菩薩のために説いたものである。

❾(参考) 出三蔵記集1、三教記集四、内典録集1、開元釈教録1、開元録集1、録1

人王般若経 ❶(日) Has-shō-dō-kyō. 現代訳 人王経 ❷1巻 ❸外、現代訳 鳩摩羅什訳 ❹天竺 ❺1一巻本1 ❻後秦時代訳 ❼録1天

人法華経 ❶(日) Has-shō-kwan-nis-shi. ❷外 ❸訳者(鳩摩羅什)

人参 ❶(日) Has-jō-ketsu. ❷参 ❸1一巻本(A. D. 1016—1081) ❹天竺の人 唐時代の人 ❺「法華経」「大日経」「金剛頂経」「涅槃経」「維摩経」「楞伽経」「円覚経」「勝鬘経」「心経」「金剛」「般若」「華厳」「観音」「地蔵」「弥陀」「薬師」「釈迦」「文殊」「普賢

全集、密厳諸祖釋第一〇册 ❹覺鑁(嘉保二—康治二 A. D. 1095—1143)

八祖祭文 ❶(日) Hasi-o-sai-mon. ❷一軸 ❸存 ❹守覺(久安六—建仁二 A. D. 1150—1202)作 ❺文化一四刊(高大、寄・一・四九)享保元寫(金剛三昧院)

八祖讃 ❶(日)Hasi-so-san. ❷一帖 ❸存 ❺德川時代寫 ❻(寶龜院)

八祖所持物印等 ❶(日) Hasi-so-sho-ji-motsu-in-tô. ❷一册 ❸存 ❹觀賢(仁壽三—延長三 A. D. 853—925)記 ❺寶曆三寫 ❻(寶菩提院)

八祖大師略傳 ❶(日) Hasi-so-daisi-ryaku-den. ❷一册 ❸存 ❻刊本(哲、ら・五・右・三八)

八祖表白 ❶(日)Hasi-so-hyô-byaku. ❷一帖 ❸存 ❹理智院草 ❻德川時代寫(寶菩提院)寫本(高大、寄・一・四九)(金剛三昧院)

八祖持物 ❶(日)Hasi-so-mochi-mono. ❷一帖 ❸存 ❺長祿二寫 ❻(寶龜院)

八祖列傳記 ❶(日) Hasi-so-retsu-den-ki. ❷一册 ❸存 ❻哲、た・七・中・二七)

八相事略 ❶(日) Hasi-sô-ji-ryaku. ❷二卷 ❸存 ❹盛祭(—享保一五 A. D. 1730)述 ❺元祿一一刊 ❻(龍大、研史)

八相錄 ❶(日)Hasi-sô-roku. (支)Pa-hsiang-lu. ❷一卷 ❸存 ❹朝鮮白龍城著 ❷(參考) 朝鮮佛教總書刊豫定書目

八總持經 ❶(日) Hachi-sô-ji-kyô. (支)Pa-tsung-chih-ching. ❷一卷 ❸缺 ❺魏吳代失譯 ❼(參考) 出三藏記第四、法經錄第三、三寶紀第五、仁壽錄第三、靜泰錄第三、內典錄第二、開元錄第二、第一五、貞元錄第三、第二五

八雙經 ❶(日)Hachi-sô-kyô. (支)Pa-shuang-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹失譯 ❼(參考) 出三藏記第四、開元錄第五、第一五、貞元錄第八、第二五

八態經 ❶(日)Hat-tai-kyô. (支) Pa-tai-ching. 馬有八弊惡慢經、馬有八慢聲人經、馬有八弊經、馬有惡慢經 ❷一卷 ❸存、大正二・五〇六No. 118、鎌辰六、卍一四・三、北753思、南773思、元765思、明北553慶、清553慶、麗759若、天758思、指724若、法748若、至993橋、明南641青、N. 652 ❹支曜譯 ❺後漢中平二(A. D. 185) ❻馬有八慢聲人經の下を見よ。

八大國王分舍利經 ❶(日)Hachi-dai-kokô-ô-bun-sha-ri-kyô. (支) Pa-ta-kuo-wang fo-shê-li-ching. ❷一卷 ❻根本說一切有部毘奈耶雜事第三十八卷、第三十九卷の抄出 ❼(參考) 仁壽錄第三、靜泰錄第三、開元錄第一六、第一七、貞元錄第二六

八大地獄鈔 ❶(日) Hachi-dai-jigoku-shô. ❸存、高麗遺文錄第二五五、鎌刷遺文第八一 ❹日蓮(貞應元—弘安五 A. D. 1232—1282) ❺建長六(A. D. 1254) ❻等活、黑繩、衆合、叫喚、大叫喚、焦熱、大焦熱、阿鼻の八大熱地獄を說けるものである。この書の記述は多く慧心の往生要集に依拠してゐる。

八大祖師所持物印等 ❶(日)Hachi-dai-sô-shi-sho-ji-motsu-in-tô. ❷一帖 ❸存 ❹觀賢(仁壽三—延長三 A. D. 853—925) ❺元祿六寫 ❻(金剛三昧院)

八大總持王經 ❶(日)Hachi-dai-sô-ji-ô-kyô. (支) Pa-ta-tsung-chih-wang-ching. 持明藏八大總持王經 ❷一卷 ❸存 大正二一・八八六 No. 1370、鎌成八、卍一五・三、北1165家、南1185家、元1174家、明北237則、清237則、麗1175機、天1160家、法1390餘、至754薄、明南339命、N. 832 ❹施護譯 ❺宋太平興國五以後(A. D. 980—) ❻持明藏八大總持王經の下を見よ。

八大人覺經 ❶(日) Hachi-dai-ningaku-kyô. (支)Pa-ta-jên-chiao-ching. ❷一卷 ❸存、大正一七・七一五No. 779、鎌藏五、卍二二・六、北518行、南532行、元526行、明北526維、清526餘、麗532餘、天527行、指459餘、法505餘、至469柴、明南522賀、N. 512 ❹安世高譯 ❺後漢建和二—建寧三(A. D. 148—170) ❻一、翻譯に就いて 本經を後漢安世高譯と定めたものは實唱錄である。實唱錄によつて譯者を載せた初めは開元錄(第一卷)である。內典錄以前の經錄は失譯衆經(法經錄)又は小乘修多羅失譯(長房錄)に入れてゐる。出三藏記には經名すら掲載してゐない。梁の僧祐の弟子である寶唱の編した經錄は所傳を遺失し、僅かに內典錄以後の經錄に引載されてゐるのみ、此等によつて寶唱錄が如何なるものであつたかを推定し錄いが、寶唱錄を載錄してゐる內典錄(第一)の安世高譯經錄一百七十餘部一百九十餘部の內には本經を入れずに、第六の歷代大乘藏經翻譯有無錄第二の內の大乘翻譯有無錄の內の失譯の部に

八大人覺經 二紙

と記して、失譯經に入れ、實唱錄に就いては附記が全くない。然るに開元錄(第一)は安世高譯經九十五部一百一十五卷の內に

八大人覺經一卷 見寶唱錄

と記し、世高譯出であると確認した。これで考へれば本經を安世高譯であると決定した者は唐・智昇等であると云へる。

次に本經は小乘經か大乘經かといふことに就いて記せば、今日の一般からは小乘經典なりと認められてゐる。本經を小乘修多羅なりといつた者は隋の費長房であるが、唐の道宣は大乘經なりとしてゐる。本經の唯一の註解者、明の智旭は如何にみてゐるであらう。智旭は八大人覺經略解一卷を著作し、本經を西土聖賢集。後漢沙門安世高譯とし、直ちに本文を註解してゐるが、最後に至つて八大人覺は、自他二利圓滿し、能く斷苦趣覺して常樂を證するものであるといつてゐるから大乘經と認めたように思ふ。

二、本經の梗概 八大人覺は佛弟子たる者の晝夜に至心に誦念すべきものである。此の八事は諸佛菩薩の大人が覺悟したまふ所のものであつて、大人の覺悟とは法身の理

性と涅槃の修德との完成、卽ち自覺の成就と、八事をもつて一切衆生を同導し生死の苦なることを衆生に覺らしめ、五欲を捨離せしめ、聖道を修せしむる所の覺他の成就。この二利滿足をいふ。又、一說には本經と遺教經とは同一內容を改譯したものであると。遺教經と本經とを比較するに、思想上類似してゐる點は確かに多い、例せば懈怠を誡め、少欲を修せしむる等がそれである。然し遺教經は戒律精神に基いて述べられて居り、本經は觀察覺悟を勸めてゐる。故に經典編纂の根本精神が一致してゐたい。依つて類似は多いが同一經典の改譯とは思はれない。但し本經が明確に經錄に記されたのは、隋の法經錄三(大正藏五十五ノ一三二頁)以後であるから、古譯の經典であることは疑ひがない。八大人覺の名稱は智旭の說と大藏綱目指要錄とに出てゐる。今は指要錄の說を揭げれば一は覺世無常、二は覺多欲、三は覺心不足、四は覺懈怠、五は覺愚癡、六は覺貧窮、七は覺欲過患、八は覺生死とである。

❼(參考) 開元錄第一、貞元錄第一、第二(田島德雲)

八大人覺經解 ❶(日) Hachi-dai-ningaku-kyô-kai. (支) Pa-ta-jên-chiao-chieh-chieh. 八大人覺經略解 ❷一卷 ❸存、卍續一・五九・二 ❹明智旭(萬曆二七—永曆九 A. D. 1599—1655)述 ❻八大人覺經略解の下を見よ。 ❼(參考) 諸宗章疏錄第二

八大人覺經疏 ❶(日) Hachi-dai-ningaku-kyô-sho. (支) Pa-ta-jên-chiao-ching-su. ❷一卷 ❸存、卍續一・五九・二 ❹清機法遠 ❻本疏は清の機法の集錄したものである。章門義相を五つに分別し、一敎起因緣、二敎乘敎機、三宗趣通局、四略釋題名、五詳解文義としてゐる。而して本疏に於ける文義の詳解には、本文を三つに分類し、初を序分。次の八覺とは夫々 一、身心無常觀念眞常 二、貪欲爲苦觀念少欲 三、多求增罪觀念知足 四、懈怠墜落觀念精進 五、愚癡無智觀念多聞 六、貧窮結怨觀念施善 七、五欲過患觀念梵行 八、生死苦惱觀念心願の八つを覺知、覺悟するものと解釋し、是等八大法相を以つて此經の宗としてゐる。又此の正宗分の總結を次の「如此八事」以下六十四の文字に說き、最後の「若佛弟子誦此八事」以下の文を流通分に當てゝ本經の結歎文としてゐる。

而して康熙二十九年に序した機法の文中には、法界を成ずるものは惟八大人覺經である等と此經を禮讚し、本疏輯作の緣起等に就いても「幸永世高寒譯聖敎宜明。自漢迄今。未蒙訓釋機法遠師泉石。糞疾山川。偶閱斯文。陰修其疏。」等と記述してゐる。八大人覺經略解參照。

❼寫本(京大、藏・一四八・二) (龍根靜應)

八大人覺經略解 ❶(日)Hachi-dai-ningaku-kyô-ryaku-kai. (支) Pa-ta-jên-chiao-ching-lüe-chieh. 八大人覺經解 ❷一卷 ❸存、卍續一・五九・二 ❹明智旭(萬曆二七—永曆九 A. D. 1599—1655)述 ❻後漢沙門安世高譯の八大人覺經に、科文を附して簡單なる解釋を下したのが本書である。文を三つに分類し、初めを總標とし最後を結歎としてゐる。而して第二の八覺は別明した處は一、無常無我覺。二、常修少欲覺。三、知足守道覺。四、常行精進覺。五、多聞智慧覺。六、布施平等覺。七、出家梵行覺。八、大心菩濟覺として八覺を夫々解說してゐる。八大人覺經疏參照。

❼寫政七刊(谷大、餘大・一六九八)光緒一一刊(谷大、餘大・三八六八)(京大、藏・一一ふ・七)寫本(京大、藏・一四シ・二) (龍根靜應)

八大人覺章經 ❶(日) Hachi-dai-ningaku-shô-kyô. (支) Pa-ta-jên-chiao-chang-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹失譯 ❼(參考) 法經錄第三、仁壽錄第五、靜泰錄第五

八大菩薩經 ❶(日) Hachi-dai-bosatsu-kyô. (支)Pa-ta-p'u-sa-ching. ❷一卷 ❸存、大正一四・七五一No. 490、鎌黃五、卍一六・一、北1213冠、南1233冠、元1223冠、明北992塔、清992塔、麗1220千、天1209冠、法1331餘、至526維、明南1053思、N. 937 ❹宋法賢(—咸平四 A. D. 1001)譯 ❻舍利弗を對告として東方の無能勝國菩提吉祥如來、無我國菩提如來、壽愛國吉祥如來、寂靜國國印捨嚩計都特嚩惹王如來、離塵國喜功德光自在王如來の五佛の名號を一心に憶念し、又菩寫讚誦講說すれば、惡趣又は卜賤中に墮せず、長壽天に生じ、五濁三災八難等に生せず、やがて最上道を成ぜん等と說ける短經。經名に八大菩薩といへるも經首の列衆(妙吉祥・聖觀自在・慈氏・虛空藏・普賢・金剛手・除蓋障・地藏)の數を取りたるに過ぎず、內容には關係がない。

(美濃晃順)

八大菩薩像 ❶(日)Hachi-dai-bosatsu-zô. ❷八幅 ❸存、大正圖像第六 ❻(一)觀自在菩薩。(二)慈氏菩薩。(三)虛空藏菩薩。(四)普賢菩薩。(五)金剛手菩薩。(六)曼殊室利菩薩。(七)除蓋障菩薩。(八)地藏菩薩。

❹(醍醐寺)

八大菩薩曼荼羅經 ❶(日)Hachi-dai-bo-satsu-man-da-ra-kyô. (支)Pa-ta-p'u-sa-man-t'u-lo-ching. (梵藏 大乘八大曼拏羅經參照 ❷一卷 ❸存、大正二〇・六七五 No. 1167、鎌閏九、卍二五・一〇、北1379盛、南1383阿、元1372阿、明北976塔、清976塔、麗1330阿、天1361阿、法1114槐、至667君、明南1021個、N. 931 ❹不空(紳龍元—大曆九 A. D. 705—774)譯 ❺唐天寶五—大曆九(A. D. 746—774)

❻一時薄伽梵、補怛落伽山の觀自在菩薩の宮殿に住したまふ時、衆中に寶藏月光菩薩あり、世尊に八曼荼羅の建立法及び何の法に依てか修行者をして速疾に菩提を證せしむべきことを問へるに對し、世尊は、如來(卽ち中尊釋迦如來)及び觀自在菩薩、慈氏菩薩、虛空藏菩薩、普賢菩薩、金剛手菩薩、曼殊師利菩薩、除蓋障菩薩、地藏菩薩の八大菩薩の曼荼羅の相並に其の形像、密言を說きて、此の八大菩薩曼荼羅を建立し供養觀行せば一切の業障悉く銷滅し、一切の所

の人の著述の書名を記したものであるが、恐らく人名に依るものであろう。又本書は密教、顕教、顕密の三教の顕密の教理に依る。

❹(参考) 以文殊第一五、即説菩薩行経、入法界品、入不思議解脱境界普賢行願品、普賢菩薩行願讃、入如来不思議境界経、入大乘方便経、入大乘四法経、入大乘四法経、入大乘四法経 (倉林宣明)

八大菩薩曼荼羅経 ❶(日)Hachi-dai-bo-satsu-man-da-ra-kyō-shō. (支)Pa-ta-p'u-sa-man-t'u-lo-ching-sa. ❷1巻 ❸三昧耶 ❹(参考) 新羅沙門智通等奉詔譯

八大菩薩曼荼羅経無尽意菩提 ❶(日) Hachi-dai-bo-satsu-man-da-ra-kyō-sū-shō-shō. (支)Pa-ta-p'u-sa-man-t'u-lo-ching-ch'ung-shêng-ch'ao. ❷3巻 ❸三昧耶 ❹(参考) 新羅沙門智通等奉詔譯

八大龍王経 ❶(日) Hachi-dai-man-da-ra-kyō. (支) Pa-ta-man-na-lo-ching. 大乗八大龍王経 八大龍王経

❷1巻 ❸名 ❹大正一〇・六七六No. 1168八・編金八・卍一五・五・弘1221位・宋1236位・元1230位・明弘875盈・宋875盈・宋1223成・天1216位・宋1340盈・宋668盈・明宋893成・Nj. 880 ❺天竺沙門(一説唐代A. D. 1001)譯 ❻大乗八大龍王経の下巻と見る。

八大明王図像 ❶(日) Hachi-dai-myō-ō-zu-zō. ❷1巻 ❸名・大正図像部第六

❹(一)孔雀明王。(二)大威明王。(三)大愛明王。(四)金剛夜叉明王。(五)軍荼利明王。(六)八・不動明王。九・不動明王。(七)大威德明王。(八)金剛明王。

八大明王図像 ❶(日) Hachi-dai-myō-ō-zu-zō. ❷1巻 ❸名・大正図像部第六

❹(一)孔雀明王。(二)大威明王。(三)大愛明王。(四)金剛夜叉明王。(五)軍荼利明王。(六)八・不動明王。九・不動明王。(七)大威德明王。(八)金剛明王。

❺(支)大正図像部第六に収録の八大明王図像の説明に次いで「成安元年十月十六日」以後に成立の説明文を付す。

❻(参考) 八部衆図像経 八大明王

八大明王法 ❶(日) Hachi-dai-myō-ō-hō. ❷1帖 ❸名 ❹密教部密教代法

❺(参考)密教図像

八大龍王経品 ❶(日) Hachi-dai-ryō-tō-bon-san. (支) Pa-ta-ling-t'a-fan-tsan. (梵)Aṣṭa-mahā-sthāna-caitya-vandanā-stava. (蓮華) ❷1巻 ❸名・大正二〇・六七六No. 1684・編宋1三・卍一六・一〇・弘1230盈・宋1258盈・元1251盈・明弘1056言・宋1066言・宋1248成・天1237盈・天1512合・明宋915成・Nj. 1071 ❹西天竺日王(Śīlāditya)譯・天竺沙門智賢

❺梵文の原文を漢字に音写したものにして十四頁十句よりなる。釋尊の事蹟として、(1)菩提伽耶 Veśālī, (2)鹿野苑 Dharmacakra(説法処)、(3)波羅奈国 Śrāvastī, (4)波羅奈国 Śrāvastī, (5)舎衛城 Bodhimūle (足跡)、(6)拘尸那竭国 Kuśinagara, (7)毘羅国 Rummini, (8)摩竭陀 Kośāmmī の八大聖地を挙げて、普賢菩薩の

の、歴史は何だりに仏教信徒を引くものと思惟される。因みに本経品の説田氏には説経、雑経、説経、説経、説

書提院)

八百五十年忌雜用記 ❶(日)Hap-pyaku-nen-jō-nen-ki-zō-yō-ki. ❷一冊 ❸存 ❹貞享元寫 ❺(實善提院)

八百五十年忌勅會授概日記 ❶(日)Hap-pyaku-nen-jō-nen-ki-choku-e-kō-gai-nik-ki. ❷一冊 ❸存 ❹貞享元寫 ❺(實善提院)

八百五十年忌道場莊嚴等記 ❶(日)Hap-pyaku-nen-jō-nen-ki-dō-jō-shō-gon-tō-ki. ❷十冊 ❸存 ❹貞享元寫 ❺(實善提院)

八百五十年諱舞樂曼荼羅供次第 ❶(日)Hap-pyaku-nen-jō-nen-ki-bu-gaku-man-da-ra-ku-shi-dai. ❷一冊 ❸存 ❹貞享元寫 ❺(實善提院)

八不義 ❶(日)Hap-pu-gi. ❷一卷 ❼(參考) 東域傳燈目錄卷下、諸宗章疏錄第二

八不義記 ❶(日)Hap-pu-gi-ki. ❷一卷 ❼(參考) 東域傳燈目錄卷下、諸宗章疏錄第二

八不道人傳 ❶(日)Hap-pu-dō-nin-den. (支)Pa-pu-tao-jên-ch'uan. ❷一卷 ❸存 ❹智旭(萬曆二七—永曆九A. D. 1599—1655)自傳 ❺刊本(龍大、二九六四・二四)(智・ら・五・右・一五)

八部義十號義 ❶(日)Hachi-bu-gi-jū-gō-gi. ❷一卷 ❹厳浚(神護景雲元—弘仁一三A. D. 767—822)撰 ❼(參考) 本朝台嶺撰述密部書目、山家祖德撰述篇目集卷上

八部舊記 ❶(日)Hachi-bu-ku-ki. ❻淨土眞宗教典志第二に云く「蓋未檢、紫雲記中引レ之。山科記。石山記。雜波物語。覺書記。貝塚猶嘯記。天滿記。富田記。清澤記(又有ニ清澤物語ノ同異未詳)」云云。

八部僧行名經 ❶(日)Hachi-bu-sō-gyō-myō-kyō. (支)Pa-pu-seng-hsing?-ming-ching. ❷一卷 ❹失譯 ❻雜譬喩經の抄出。 ❼(參考) 出三藏記第四、三寶紀第五、內典錄第二、開元錄第一六、貞元錄第二六

八部佛名經 ❶(日)Hachi-bu-butsu-myō-kyō. (支)Pa-pu-fo-ming-ching. ❷一卷 ❹失譯 ❼(參考) 出三藏記第四、法經錄第一、三寶紀第四、第七、內典錄第三、武周錄第一一

八部佛名經 ❶(日)Hachi-bu-butsu-myō-kyō. (支)Pa-pu-fo-ming-ching. (梵)Mahāgajāṭaka-s. (藏傳)(藏)hphags-pa bkra-ćis brgyad-pa shes-byaḍ-ba theg-pa ćen-poḥi mdo. 八佛經、八佛名經、佛經 ❷一卷 ❸存、大正一四・七四 No. 429、鉛黃四、卍二一・七、北501景、南515景、元511景、明北406信、清406信、羅500羊、天510景、指461羊、法491羊、至454絲、明南510貫、Nj. 410 ❹羅曇般若流支譯 ❺元魏興和四(A. D. 542)

❻本經は八吉祥經、八佛名號經と同趣意の經典で、既峰は八吉祥經の後、八佛名號經の前である。三經ともに東方八佛の名號の受持讀誦を勸むるものであつて、たゞ本經が諸佛の經典名を傳ふるの功德を說くのと、全體を經めて繰り返す傷頌のない點が他の二經に異つてゐる。(八吉祥經、八佛名號經に就ては本解典其項參照)

❼(參考) 三寶紀第九、內典錄第四、譯經圖紀第四、開元錄第六、貞元錄第九 (山邊哲學)

八佛經 ❶(日)Hachi-butsu-kyō. (支)Pa-fo-ching. 八部佛名經、八佛名經、佛經 ❷一卷 ❸存、大正一四・七四 No. 429、鉛黃四、卍二一・七、北501景、南515景、元511景、明北406信、清406信、羅500羊、天510景、指461羊、法491羊、至454絲、明南510貫、Nj. 410 ❹羅曇般若流支譯 ❺元魏興和四(A. D. 542)

八佛名號經 ❶(日)Hachi-butsu-myō-gō-kyō. (支)Pa-fo-ming-hao-ching. (梵)Aṣṭa-buddhaka-sūtra (藏傳)(藏)bcoḥ-gas-pa sans-rgyas brgyad-pa shes-byaḍ-ba theg-pa ćen-poḥi-mdo. ❷一卷 ❸存、大正一四・七六 No. 431、鉛黃四、卍二〇・七、北501女、南393女、元558女、明北398知、清398知、羅383僧、天393女、指353僧、法277僧、至357得、明南283才、Nj. 392 ❹罽賓國多譯 ❺隋開皇六(A. D. 586)

❻本經の主旨は東方八佛の名號の受持讀誦を勸むるに在りて、八吉祥經(大正一四・七五)の同本異譯である。

內容。佛、祇樹給孤獨園に在し、舍利弗の所問に應じて、東方一恒河沙世界の寶蓮花菩住菩薩樹王如來に及ぶ八佛の刹名、名號を說き給ふ。その名號を聞き讀誦修行し他の爲めに宣顯するものには、不墮三惡道、成菩提、具五通、得陀羅尼、完具六根、不能毒害、變成男子、成就功業等の功德ありと說く。次いで以上を傷頌もて總めて繰返すこと八吉祥經に同じ。八吉祥經の項參照。

❼(參考) 三寶紀第一二、內典錄第五、譯經圖紀第四、開元錄第七、貞元錄第一〇 (山邊哲學)

八佛問答 ❶(日)Hachi-butsu-mon-dō. (支)Pa-fo-wên-ta. ❷一卷 ❸存 ❹問橋居士 ❺光緒一〇刊 ❼(谷大・餘大・三八一〇)

八分舍利經 ❶(日)Hachi-bun-sha-ri-kyō. (支)Pa-fên-shê-li-ching. ❷一卷 ❸缺 ❼(參考) 貞元錄第二五

八菩薩位樣 ❶(日)Hachi-bo-satsu-i-yō. (支)pa-pu-sa-wei-yang. ❷一卷 ❼(參考) 傳敎大師將來越州錄

八菩薩四弘誓經 ❶(日)Hachi-bo-satsu-shi-gu-sei-kyō. (支)Pa-pu-sa-sê-hsing-shih-ching. ❷一卷 ❹失譯 ❼(參考) 法經錄第一

八方根原八十六佛名經 ❶(日)

Hap-pō-kon-gen-hachi-jū-roku-butsu-myō-kyō. (支)Pa-fang-kên-yüan-pa-shih-liu-fo-ming-ching. ❷一卷 ❻疑僞經。 ❼(參考) 法經錄第二、仁壽錄第四、內典錄第一〇、武周錄第一五、開元錄第一八、貞元錄第二八

八方珠玉集 ❶(日)Hap-pō-shu-gyoku-shū. (支)Pa-fang-chu-yü-chi. 結八方珠玉集、佛說佛果正覺佛海結八方珠玉集 ❷三卷 ❸存、卍續二・二四・二 ❹皇慶重編 ❺宋寶祐五(A. D. 1257) ❻結八方珠玉集の下を見よ。 ❾寫本(京大、藏・一七八・四)

八方萬物無常經 ❶(日)Hap-pō-man-motsu-mu-jō-kyō. (支)Pa-fang-wan-wu-wu-ch'ang-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹失譯 ❼(參考) 出三藏記第四、法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、武周錄第一一、開元錄第五、第一五、貞元錄第八、第二五

八法行經 ❶(日)Hap-pō-gyō-kyō. (支)Pa-fa-hsing-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹失譯 ❼(參考)出三藏記第三、法經錄第三、仁壽錄第五、靜泰錄第五、開元錄第一、第一五、貞元錄第二、第二五

八品門疏要品和訓 ❶(日)Hachi-hom-mon-sho-yō-hon-wa-kun. ❷一卷 ❸存 ❹安政五刊 ❾(龍大、二四一三・四六)

八枚起請 ❶(日)Hachi-mai-ki-shō. ❷一卷 ❸存 ❾(正大、一五四・三〇四)

八萬四千波羅蜜義 ❶(日)Hachi-man-shi sen-ha-ra-mitsu-gi. 八萬四千諸波羅蜜義三門分別 ❷一卷 ❸存、眞宗全書第六一、眞宗小部集之內 ❹曾禮(享保四—寶曆一二A. D. 1719—1762)述 ❻八萬四千の煩惱に對する八萬四千の諸々の波羅蜜について解說を施したもので、初め先づ「賢劫經」(西晉竺法護譯全十卷)第一の問三昧品の「菩薩若此の三昧を行ずる、定んで是功勳を得、執ち此の行を行じ威神義々二千一百諸度無極事を成就し具足して八萬四千諸三昧門八萬四千諸總持門を致す」等の文を出しそれについて「淨影」の「義章」、「嘉祥」の「寶窟中本」、「天台」の「妙玄一ノ二」、「荊溪」の「補行一ノ三」、「至相」の「孔目鈔三」、「清涼」の「華嚴大疏鈔三十八」等の諸說を參考、其の異解を評釋し、「然るに經文爾後古德當に其の理を旋定する能はず、異解紛紜、況や餘の如き乎」等と述べ、最後に「八萬四千」に對する定義の諸說の類を擧げてゐる。 (光譯住)

八曼荼羅經 ❶(日)Hachi-man-da-ra-kyō. (支)Pa-man-tu-lo-ching. ❷一卷 ❸存、大正二〇・六七六 No. 1163、三十帖策子第二六 ❹失譯 ❻世尊、寶藏月光菩薩 Ratnagarbha candrabhāba に對し、八大菩薩(觀自在菩薩、彌勒菩薩、虛空藏菩薩、地藏菩薩、普賢菩薩、金剛手菩薩、曼殊師利菩薩、除蓋障菩薩)の心眞言、種子を明せるものであつて、八大菩薩曼荼羅經と同本異譯である。蓋し本經は梵字と漢譯とを併書せるもので、梵本としても價値あるものである。三十帖策子第二十六帖に收められる。 (神林隆淨)

八曼荼羅經 ❶(日)Hachi-man-da-ra-kyō. (支)Pa-man-tu-lo-ching. 師子莊嚴王菩薩請問經、師子莊嚴王所問經、師子王菩薩請問經 ❷一卷 ❸存、大正一四・六九七 No. 485、鉛黃五、卍二一・五、北530景、南514景、元526景、明北438景、清458景、羅504羊、天509景、指463羊、法475羊、至438絲、明南507貫、Nj. 462 ❹那提譯 ❺唐龍朔三(A. D. 663) ❻師子莊嚴王菩薩請問經の下を見よ。

八曼荼羅經 ❶(日)Hachi-man-da-ra-kyō. ❷一卷 ❸存、大日本佛敎全書第三七阿娑縛抄之內 ❹承澄(元久二—弘安五A. D. 1205—1283)

八曼荼羅抄 ❶(日)Hachi-man-da-ra-shō. ❷八卷 ❻本朝台嶺撰述密部書目に云く「アサハ双身ノ下ニ出。題注云金剛智譯法性房抄ゝ之」云云。

八曼荼羅事 ❶(日)Hachi-man-da-ra-no-koto. ❷一卷 ❸存 ❹亮雄記 ❾寫本(妙法院)

八萬帖之拔書阿字觀之本味 ❶(日)Hachi-man-jō-no-nuki-gaki-a-jī-kwan-no-hon-mi. ❷一卷 ❸存、異義集(了祥稿本)第五、第一〇、同(眞宗大系本)第五 ❻心血脈鈔の下參照。

八幡宮愚童訓 ❶(日)Hachi-man-gū-gu-dō-kun. ❷一冊 ❸存 ❺德川時代寫 ❾(寶龜院)

八幡宮勸學講問答抄 ❶(日)Hachi-man-gū-kwan-gaku-kō-mon-dō-shō. ❷二卷 ❸存、日本大藏經第三二三論宗章疏錄 ❻本書は鎌倉時代末期より足利時代に亘りて盛に流行せし三論敎學講問の論義問答を輯錄せるものにして、三論宗判談集とも云ひ、手向山八幡宮の勸學會に、當時南都の三論學匠が論義を集めしものである。內容は三論敎學の主要問題百八十題を問答を以て記述せるものにして、主要本文の抄出はもとよりその問答決擇は、三論研究の參考として重要なる書である。 (橋本凝胤)

八幡宮勸學講論議 ❶(日)Hachi-man-gū-kwan-gaku-kō-ron-gi. ❷一帖 ❸存 ❾寫本(寶龜院)

八幡宮御本地行軌 ❶(日)Hachi-man-gū-go-hon-ji-gyō-ki. ❸存 ❾寫本(正大、一〇八・一七九)

八幡高祖合行法 ❶(日)Hachi-man-kō-so-gō-gyō-hō. ❷一帖 ❸存 ❾寫本(金剛三昧院)

八幡大菩薩御影供養事 ❶(日)Hachi-man-dai-bo-satsu-mi-e-ku-yō-no-koto. ❷一卷 ❸存、大日本佛敎全書第一二二 ❺嘉禎三(A. D. 1237)十一月 ❻嘉禎三年十一月二十六日、東大寺鎭守八幡大菩薩御遙宮に際して行はれし御影供奏の記錄である。當法會は大勸進行勇之を行ひ、常勝院の良禎尋師となり、外に法用僧七口とある。 (不破碧壇)

八幡本地行法次第 ❶(日)Hachi-man-hon-ji-gyō-hō-shi-dai. ❷一帖 ❸存 ❾足利時代寫(金剛三昧院)寫本(實善

八名經 ❶(日)Hachi-myō-kyō. (支)Pa-ming-ching. 梵語八名普如來經 ❷1卷 ❸存 ❹大正11・八八頁No. 1366 編號八、卍1五・五、寺1265藏、市1277藏、宇1271藏、聞寺934歷、地934歷、醫1252宮、天1265藏、法1378藏、新774風、聞市935藏、Nj. 909 ❺宋法賢(一千年頃A. D. 1001) ❻佛陀八名菩薩普如來の名を聞くが、❼(梵)Aṣṭanāmamahāpuruṣapūrvapraṇidhānasūtra(安寧)

八名菩薩所說陀羅尼經 ❶(日)Hachi-myō-kyō-shi-ki. 八名菩薩 ❷1卷 ❸存 ❹(梵)Aṣṭanāmamahāpuruṣapūrvapraṇidhānasūtra(安寧)

八名普密陀羅尼經 ❶(日)Hachi-myō-fu-mitsu-kyō. (支)Pa-ming-p'u-mi-ching. 八名普密陀羅尼經、梵語八名普密陀羅尼經 ❷1卷 ❸存、大正11・八八頁No. 1365、編號八、卍1・五、寺452藏、市465藏、宇459藏、聞寺487行、地487行、醫452藏、天458藏、新424藏、法440藏、新640藏、聞市457行、Nj. 491 ❹宋法賢(一千年頃A. D. 602—664)譯 ❺佛陀波羅天(A. D. 654)

八名普密陀羅尼經 ❶(日)Hachi-myō-fu-mitsu-da-ra-ni-kyō. (支)Pa-ming-p'u-mi-t'o-lo-ni-ching. 八名普密陀羅、梵語八名陀羅 ❷1卷 ❸存、大正11・八八頁No. 1365、編號八、卍1・五、寺452藏、市465藏、宇459藏、聞寺487行、地487行、醫452藏、天458藏、新424藏、法440藏、新640藏、聞市457行、Nj. 491 ❹宋法賢(一千年頃A. D. 602—664)譯 ❺佛陀波羅天(A. D. 654)

❻佛、今世手手菩薩の名に八名普密陀羅尼の功德を說いたもの、❼1卷、梵語缺、新譯八名普密陀羅尼經に對し、八名普密陀羅尼は梵語缺、天に上り、八名普密陀羅尼は梵語缺、地に下り、普密陀羅尼は梵語缺、地に上り、八名普密陀羅尼は梵語缺、天に下り、新譯八名普密陀羅尼は1に功德寶藏、11に無垢寶藏、三に寶勝寶藏、四に師子寶藏、五に寶嚴寶藏、六に寶光寶藏、七に寶蓮寶藏、八に寶日寶藏、九に寶月寶藏、十に寶星寶藏、今新譯の八種の寶藏の名を其儘、梵語に直譯すれば、寶藏寶藏、寶藏寶藏、寶藏寶藏

スーパーカッタ ❶(ヒ)Sū-pā-kattā. 蘇婆伽陀。❷(ヒ)Sū-pā-kattā. 蘇婆伽陀。❸(ヒ)Sū-pā-kattā. 蘇婆伽陀。❹(ヒ)Sū-pā-kattā. 蘇婆伽陀。❺(ヒ)Sū-pā-kattā. 蘇婆伽陀。❻(ヒ)Sū-pā-kattā. 蘇婆伽陀。❼(ヒ)Sū-pā-kattā. 蘇婆伽陀。❽(ヒ)Sū-pā-kattā. 蘇婆伽陀。❾(ヒ)Sū-pā-kattā. 蘇婆伽陀。❿(ヒ)Sū-pā-kattā. 蘇婆伽陀。⓫(ヒ)Sū-pā-kattā. 蘇婆伽陀。⓬(ヒ)Sū-pā-kattā. 蘇婆伽陀。⓭(ヒ)Sū-pā-kattā. 蘇婆伽陀。⓮(ヒ)Sū-pā-kattā. 蘇婆伽陀。⓯(ヒ)Sū-pā-kattā. 蘇婆伽陀。⓰(ヒ)Sū-pā-kattā. 蘇婆伽陀。⓱(ヒ)Sū-pā-kattā. 蘇婆伽陀。⓲(ヒ)Sū-pā-kattā. 蘇婆伽陀。⓳(ヒ)Sū-pā-kattā. 蘇婆伽陀。⓴(ヒ)Sū-pā-kattā. 蘇婆伽陀。㉑(ヒ)Sū-pā-kattā. 蘇婆伽陀。㉒(ヒ)Sū-pā-kattā. 蘇婆伽陀。㉓(ヒ)Sū-pā-kattā. 蘇婆伽陀。㉔(ヒ)Sū-pā-kattā. 蘇婆伽陀。㉕(ヒ)Sū-pā-kattā. 蘇婆伽陀。㉖(ヒ)Sū-pā-kattā. 蘇婆伽陀。㉗(ヒ)Sū-pā-kattā. 蘇婆伽陀。㉘(ヒ)Sū-pā-kattā. 蘇婆伽陀。㉙(ヒ)Sū-pā-kattā. 蘇婆伽陀。㉚(ヒ)Sū-pā-kattā. 蘇婆伽陀。㉛(ヒ)Sū-pā-kattā. 蘇婆伽陀。㉜(ヒ)Sū-pā-kattā. 蘇婆伽陀。㉝(ヒ)Sū-pā-kattā. 蘇婆伽陀。㉞(ヒ)Sū-pā-kattā. 蘇婆伽陀。㉟(ヒ)Sū-pā-kattā. 蘇婆伽陀。㊱(ヒ)Sū-pā-kattā. 蘇婆伽陀。㊲(ヒ)Sū-pā-kattā. 蘇婆伽陀。㊳(ヒ)Sū-pā-kattā. 蘇婆伽陀。㊴(ヒ)Sū-pā-kattā. 蘇婆伽陀。㊵(ヒ)Sū-pā-kattā. 蘇婆伽陀。㊶(ヒ)Sū-pā-kattā. 蘇婆伽陀。㊷(ヒ)Sū-pā-kattā. 蘇婆伽陀。㊸(ヒ)Sū-pā-kattā. 蘇婆伽陀。㊹(ヒ)Sū-pā-kattā. 蘇婆伽陀。㊺(ヒ)Sū-pā-kattā. 蘇婆伽陀。㊻(ヒ)Sū-pā-kattā. 蘇婆伽陀。㊼(ヒ)Sū-pā-kattā. 蘇婆伽陀。㊽(ヒ)Sū-pā-kattā. 蘇婆伽陀。㊾(ヒ)Sū-pā-kattā. 蘇婆伽陀。㊿(ヒ)Sū-pā-kattā. 蘇婆伽陀。

位を指すものといひてよし。（榊原芳野）

薩婆呵羅經 ❶(日) Bad-da-wa-ri-kyō. (支) Po-t'o-ho-li-ching. (巴) M. 65 Bhaddāli S. ❷序 ❸中阿含經卷五 (大正一・七四六No 26, 194)

薩婆婆蹉經 ❶(日)Bad-da-ke-kwa-kyō. (支)P'o-t'o-hui-kuo-ching. ❷一卷 ❸序 ❹天竺 ❺(參考) 出三藏記卷三、法苑珠林卷五、三寶記卷六、仁王護國卷五、錄卷六、內典錄卷三、衆經錄卷一、開元錄卷三、卷一五、貞元錄卷六、卷二五

薩婆多三昧經 ❶(日) Bad-da-kō-sam-mai-gyō. (支)P'o-t'o-chieh-san-mei-ching. 薩婆多經、薩婆多定經 ❷人卷 ❸序 大正一四・四一五No. 425、舊華四、卍一一・五、宋389番、南400番、元397番、明宋399竹、北399竹、麗387菊、天396番、新宋359菊、出381菊、資397番、明南392竹、Nj. 403 ❹南方佛國土 ❺西晉竺法護譯 元魏天(A.D. 300)一說元魏天(A.D. 291) ❻法華經の下ると見ゆ。

薩婆多三昧經 ❶(日) Bad-da-kō-sam-mai-gyō. (支)P'o-t'o-chieh-san-mei-ching. ❷七卷 ❸缺 ❹(參考) 衆經錄卷一二

薩婆婆呪經 ❶(日) Bad-da-jin-shu-kyō. (支) P'o-t'o-shên-chou-ching. 薩婆陀波婆婆呪經、薩婆陀波婆呪經、幻師陀波呪經 ❷一卷 ❸序、大正二一・九〇一 No. 1378、舊宋一二、卍一二・五、宋448番、南451番、元447番、明宋475竹、北475竹、麗446番、新433番、出436番、資636資、明南446竹、Nj. 479 ❹幻師婆

薩婆若海經 ❶(日) Bad-da-wa-ri-kyō. (支) Po-t'o-ho-li-ching. (巴) M. 65 Bhaddāli S. ❷序、中阿含經卷五 (大正一・七四六No 26, 194)

薩婆婆蹉經 ❶(日)Bad-da-ke-kwa-kyō. (支)P'o-t'o-hui-kuo-ching. ❷一卷 ❸序 ❹天竺 ❺(參考) 出三藏記卷三、法苑珠林卷五、三寶記卷六、仁王護國卷五、錄卷六、內典錄卷三、衆經錄卷一、開元錄卷三、卷一五、貞元錄卷六、卷二五

薩婆多三昧經 ❶(日) Bad-da-kō-sam-mai-gyō. (支)P'o-t'o-chieh-san-mei-ching. 薩婆多經、薩婆多定經 ❷人卷 ❸序、大正一四・四一五No. 425、舊華四、卍一一・五、宋389番、南400番、元397番、明宋399竹、北399竹、麗387菊、天396番、新宋359菊、出381菊、資397番、明南392竹、Nj. 403 ❹南方佛國土 ❺西晉竺法護譯 元魏天(A.D. 300)一說元魏天(A.D. 291) ❻法華經の下ると見ゆ。

天、宗天・二八六四）

春の小春 ❶（日）Haru-no-o-guru-ma. ❷一巻 ❸存 ❹言語（貞享一〇一明治四四 A. D. 1798—1871） ❺貞享元（康熙二〇、宗天・一〇）

春夏秋冬消息 ❶（日）Haru-toyo-shige-yasu-shō-soku. ❷一巻 ❸存 ❹日蓮宗（寛天、明治）

反音作法 ❶（日）Hann-on-sa-hō. ❷一帖 ❸存 ❹字書（貞観八一貞観三 A. D. 865—900—） ❺貞享元（寛永記）

反音作法 ❶（日）Hann-on-sa-hō. ❷一巻 ❸存 ❹明暦（天喜四 A. D. 1056—一治暦 ❺寛治七（A. D. 1093） ❻貞享元（寛永記）〔参考〕（日本紀略）

反音大系私記 ❶（日）Hann-on-shi-dai-shi-ki. ❷一帖 ❸存 ❹歴史天文 ❺（寛永記）

反音抄 ❶（日）Hann-on-shō. ❷一巻 ❹明暦（一永禄四 A. D. 1077—1080—） ❺〔参考〕（日本紀略）

反音抄 ❶（日）Han-on-shō. ❷一巻 ❸存、慶長四年天正四 ❹天禄（一貞享元 A. D. 1643—）寛永

❺天平年は平安朝反切の原理を最初に応用した時代である。反切は中国語に於いて国語の音韻を表すもので、古来和歌者のために研究されたものである。天平年も和歌の反音を研究したものである。和歌の反音は平安朝に於いて反切の原理に依って作られたものである。

三代実録元一年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同六年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同七年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同八年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同九年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同十年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同十一年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同十二年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同十三年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同十四年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同十五年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同十六年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同十七年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同十八年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同十九年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二十年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二十一年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二十二年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二十三年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二十四年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二十五年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二十六年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二十七年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二十八年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二十九年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三十年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三十一年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三十二年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三十三年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三十四年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三十五年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三十六年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三十七年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三十八年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三十九年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四十年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四十一年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四十二年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四十三年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四十四年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四十五年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四十六年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四十七年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四十八年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四十九年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同五十年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同五十一年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同五十二年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同五十三年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同五十四年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同五十五年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同五十六年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同五十七年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同五十八年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同五十九年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同六十年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同六十一年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同六十二年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同六十三年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同六十四年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同六十五年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同六十六年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同六十七年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同六十八年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同六十九年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同七十年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同七十一年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同七十二年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同七十三年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同七十四年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同七十五年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同七十六年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同七十七年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同七十八年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同七十九年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同八十年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同八十一年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同八十二年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同八十三年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同八十四年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同八十五年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同八十六年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同八十七年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同八十八年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同八十九年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同九十年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同九十一年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同九十二年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同九十三年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同九十四年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同九十五年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同九十六年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同九十七年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同九十八年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同九十九年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百一年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百二年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百三年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百四年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百五年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百六年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百七年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百八年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百九年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百十年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百十一年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百十二年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百十三年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百十四年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百十五年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百十六年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百十七年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百十八年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百十九年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百二十年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百二十一年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百二十二年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百二十三年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百二十四年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百二十五年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百二十六年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百二十七年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百二十八年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百二十九年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百三十年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百三十一年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百三十二年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百三十三年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百三十四年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百三十五年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百三十六年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百三十七年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百三十八年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百三十九年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百四十年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百四十一年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百四十二年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百四十三年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百四十四年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百四十五年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百四十六年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百四十七年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百四十八年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百四十九年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百五十年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百五十一年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百五十二年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百五十三年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百五十四年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百五十五年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百五十六年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百五十七年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百五十八年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百五十九年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百六十年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百六十一年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百六十二年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百六十三年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百六十四年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百六十五年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百六十六年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百六十七年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百六十八年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百六十九年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百七十年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百七十一年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百七十二年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百七十三年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百七十四年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百七十五年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百七十六年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百七十七年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百七十八年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百七十九年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百八十年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百八十一年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百八十二年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百八十三年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百八十四年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百八十五年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百八十六年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百八十七年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百八十八年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百八十九年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百九十年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百九十一年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百九十二年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百九十三年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百九十四年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百九十五年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百九十六年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百九十七年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百九十八年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同百九十九年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百一年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百二年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百三年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百四年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百五年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百六年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百七年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百八年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百九年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百十年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百十一年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百十二年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百十三年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百十四年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百十五年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百十六年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百十七年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百十八年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百十九年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百二十年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百二十一年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百二十二年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百二十三年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百二十四年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百二十五年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百二十六年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百二十七年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百二十八年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百二十九年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百三十年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百三十一年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百三十二年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百三十三年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百三十四年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百三十五年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百三十六年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百三十七年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百三十八年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百三十九年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百四十年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百四十一年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百四十二年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百四十三年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百四十四年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百四十五年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百四十六年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百四十七年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百四十八年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百四十九年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百五十年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百五十一年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百五十二年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百五十三年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百五十四年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百五十五年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百五十六年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百五十七年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百五十八年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百五十九年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百六十年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百六十一年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百六十二年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百六十三年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百六十四年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百六十五年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百六十六年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百六十七年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百六十八年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百六十九年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百七十年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百七十一年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百七十二年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百七十三年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百七十四年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百七十五年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百七十六年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百七十七年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百七十八年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百七十九年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百八十年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百八十一年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百八十二年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百八十三年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百八十四年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百八十五年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百八十六年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百八十七年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百八十八年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百八十九年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百九十年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百九十一年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百九十二年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百九十三年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百九十四年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百九十五年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百九十六年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百九十七年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百九十八年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同二百九十九年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百一年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百二年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百三年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百四年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百五年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百六年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百七年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百八年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百九年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百十年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百十一年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百十二年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百十三年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百十四年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百十五年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百十六年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百十七年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百十八年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百十九年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百二十年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百二十一年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百二十二年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百二十三年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百二十四年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百二十五年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百二十六年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百二十七年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百二十八年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百二十九年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百三十年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百三十一年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百三十二年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百三十三年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百三十四年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百三十五年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百三十六年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百三十七年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百三十八年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百三十九年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百四十年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百四十一年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百四十二年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百四十三年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百四十四年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百四十五年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百四十六年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百四十七年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百四十八年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百四十九年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百五十年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百五十一年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百五十二年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百五十三年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百五十四年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百五十五年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百五十六年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百五十七年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百五十八年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百五十九年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百六十年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百六十一年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百六十二年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百六十三年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百六十四年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百六十五年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百六十六年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百六十七年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百六十八年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百六十九年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百七十年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百七十一年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百七十二年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百七十三年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百七十四年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百七十五年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百七十六年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百七十七年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百七十八年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百七十九年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百八十年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百八十一年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百八十二年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百八十三年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百八十四年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百八十五年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百八十六年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百八十七年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百八十八年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百八十九年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百九十年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百九十一年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百九十二年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百九十三年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百九十四年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百九十五年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百九十六年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百九十七年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百九十八年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同三百九十九年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百一年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百二年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百三年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百四年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百五年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百六年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百七年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百八年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百九年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百十年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百十一年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百十二年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百十三年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百十四年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百十五年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百十六年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百十七年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百十八年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百十九年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百二十年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百二十一年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百二十二年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百二十三年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百二十四年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百二十五年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百二十六年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百二十七年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百二十八年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百二十九年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百三十年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百三十一年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百三十二年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百三十三年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百三十四年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百三十五年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百三十六年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百三十七年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百三十八年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百三十九年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百四十年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百四十一年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百四十二年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百四十三年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百四十四年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百四十五年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百四十六年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百四十七年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百四十八年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百四十九年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百五十年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百五十一年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百五十二年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百五十三年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百五十四年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百五十五年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百五十六年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百五十七年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百五十八年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百五十九年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百六十年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百六十一年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百六十二年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百六十三年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百六十四年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百六十五年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百六十六年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百六十七年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百六十八年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百六十九年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百七十年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百七十一年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百七十二年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百七十三年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百七十四年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百七十五年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百七十六年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百七十七年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百七十八年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百七十九年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百八十年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百八十一年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百八十二年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百八十三年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百八十四年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百八十五年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百八十六年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百八十七年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百八十八年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百八十九年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百九十年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百九十一年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百九十二年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百九十三年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百九十四年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百九十五年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百九十六年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百九十七年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百九十八年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同四百九十九年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同五百年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同五百一年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同五百二年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同五百三年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同五百四年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同五百五年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同五百六年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同五百七年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同五百八年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同五百九年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同五百十年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同五百十一年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同五百十二年条に「倭歌の反音を作り、これを教授す」とあり、同五百十三年条に「倭歌の反音を作り、これを教授

D. 613—631 一説龍朔二、年六九歳)述 ⑥本書は具に依観経等明般舟三昧行道往生讃と云ひ、略して般舟讃と稱す。具名は観経等に依て明かす般舟三昧行道往生讃と云ふ意である。観経等の語の中に大小二経及び般舟三昧経を等取す。即ち浄土の三経と般舟三昧経とに依て、般舟行道を説き、往生を願ふ讃文をあぐるのである。般舟とは梵語にして、此土に常行道と翻ず。行道とは旋繞の義、圓調に佛迹を繞旋するを云ふ。三昧とは本是梵語にして、此土に定と翻ず。或は七日、或は九十日の間、身業にて行歩すること間斷なきを常行道と云ふ。單に身業に止まらず、口意の二業も亦た隨伴して無間斷なるを般舟と云ふ。而して三昧とは前の三業が無間斷なるに依りて、至心の所感、佛境が現前する時、即ち身心が内悅するを般舟三昧樂と云ひ、亦た立定見諸佛と云ふ。般舟讃の一書は、此の如き心境に到ることを期して、般舟行道を修し、往生讃を唱ふる法則を明かすのである。本書は、元祖法然の在世現行せざりしが、その滅後に西山の義憲が御室の經蔵から發見して、世に流行す。

本書の組織は前序と正讃と後序との三節より成る。前序は初め通じて聖浄二門の大意をあげ、釋迦如來實是慈悲父母。種種方便發ㇾ起我等無上信心。等と云ひ、次に行者等必須ㇾ於二切凡聖境上、常起ㇾ讃願之心、莫ㇾ生ㇾ是非疑惧。也以下は、別して浄土門行者の用心を明かす。特に問答をあげて三業清淨の意を辨じ、且つ浄土往生を欣せば自他を勸めて、廣く依正二報莊嚴の事を讃じ、浄土に入ると菩薩を出づるとの始末を知ると説き、且つ般舟三昧の語義を明かす。正讃の文は初め三部經の意を採りて讃文を作り、專讃彌陀觀經法以下は別して觀經の意を採りて讃文を作る。自諸行者、凡夫生死不可貪而不厭以下は後序である。本書は法往觀般の四部五卷の中最も觀經疏に近き叙述を有す。讃文の終に定散一門章提請、散善一行釋迦回、定散俱廻入ㇾ寶國、即是如來異方便、章提即是女人相、食厭具足凡夫位、厭ㇾ捨娑婆、求ㇾ佛國、即現ㇾ極樂莊嚴界、得ㇾ見ㇾ極樂、心歡喜、更想ㇾ彌陀、成ㇾ法忍。(一)と云ひ、眞金即是彌陀相、圓光化佛現ㇾ人前、相好彌多八萬四、一一光明照ㇾ十方、不ㇾ捨ㇾ餘緣、光普照、唯覓ㇾ念佛往生人。(二)と云ひ、中品上生凡夫等の下に、低頭禮佛在ㇾ此國、歸ㇾ願ㇾ已入ㇾ彌陀界、到ㇾ彼華開尋見ㇾ佛、聞ㇾ說ㇾ四諦ㇾ證ㇾ菩提、實是彌陀願力恩。(三)と云ひ、又中品下生の下に百寶蓮華臺上座、七七日後寶華開、華開見ㇾ佛廳沙衆、一劫已後證ㇾ無生、無生即是阿羅漢、羅漢廻心向ㇾ大乘、一發已後小心滅、直至ㇾ菩提ㇾ無ㇾ有退、是故天親作ㇾ論說、二乘心猶永無ㇾ生。(四)と云ひ、又總讃の下に一念一時間ㇾ衆聽、百千三昧自然成、一切時中常入ㇾ定、定理開經皆得悟、百寶莊嚴隨ㇾ念現、長劫供養報ㇾ恩恩、微塵故業隨ㇾ智滅、不覺轉入ㇾ菩提門。(五)と云ひ、一時時中望ㇾ西禮、表ㇾ知凡聖心相向、佛知ㇾ衆生心難量、一偏歸ㇾ正念住ㇾ西方、不ㇾ知ㇾ彌陀國遠近、佛道超ㇾ過十萬億、道理勝ㇾ虛不ㇾ足到、彈指之間入ㇾ寶池。(六) と云ひ、離ㇾ捨ㇾ錢財、造ㇾ功德ㇾ不ㇾ如ㇾ持戒篤ㇾ貪瞋、菩敬ㇾ衆生、菩念佛、自他功德併須ㇾ廻、安心定意生ㇾ安樂、獨超ㇾ三界、出ㇾ煩惱。(七) と云ひ、又今日見佛釋迦恩、隱ㇾ顯佛語、見ㇾ彌陀、普勸同生知識等、同行相親莫ㇾ相離、父母妻兒百千萬、非ㇾ是菩提增上緣、念念相續入ㇾ涅槃、分ㇾ身受ㇾ報不ㇾ相知、或在ㇾ猪羊六畜內、被毛戴角何時了、慶得ㇾ人身聞ㇾ要法、頓捨ㇾ他鄉ㇾ歸ㇾ本國。(八) と云ひ、又父子相迎入ㇾ大會、即問ㇾ六道苦辛事、或有ㇾ所得人天報、飢餓困苦體生瘡、爾時彌陀及大衆、聞ㇾ子說ㇾ苦皆傷歎、彌陀告ㇾ諸佛子、自作自受莫ㇾ怨ㇾ他。(九) と云ひ、又雖想觀の下に、佛知ㇾ衆生流浪久、無明障重難開悟、佛恐ㇾ觀ㇾ大經ㇾ周遍ㇾ更歎觀ㇾ小在ㇾ池中、想ㇾ一蓮華百寶業、丈六化佛坐華臺、身體ㇾ大小、能除ㇾ障、觀音勢至等同然。(十) と云ひ、又流通分を讃して、若能念佛人中上、願得ㇾ同生諸佛家、長劫長時佛邊證、道場妙果豈驚ㇾ餘。(十一) と云ひ、又得ㇾ免ㇾ娑婆長劫難、特蒙ㇾ知識釋迦恩、種種恩量巧方便、還得ㇾ彌陀弘誓門、一切善業廻生利、不ㇾ如ㇾ專念ㇾ彌陀號、念念稱名當懺悔、人能念ㇾ佛佛證憶、凡聖相知境相照、即是衆生增上緣。(十二) と云へり。

⑦(参考) 浄土正依經論書籍目錄、浄土眞宗教典志第一 ⑨明暦二刊(立六、A三〇・一五)寛文七刊(立六、A三〇・一六) 元祿六刊(京大、藏・一八八・一)元祿七刊(京大、一・二三八・九)(谷大、宗大・三三四・八二四、宗小・二〇八)(龍大、二〇三・一八、二七、四一、二六、八一・四七)(正大、一五三一・三一二、三一七)

般舟讃記 ①(B)Han-ju-san-ki. 般舟讃私記、行儀分私記、具疏私記 ②一卷 ③存、浄土宗全書第四 ④良忠(正治元—弘安一〇A. D. 1199—1287)述 ⑤般舟讃私記の下を見よ。 ⑦(参考) 浄土正依經論書籍目錄 ⑨寶永六刊 ⑨(高大、寄・一・一八)(正大、一五三一・二九七、三一三)

般舟讃記私鈔 ①(B)Han-ju-san-ki-shi-sho. ②一卷 ④浸圓(—應安五A. D. 1372)述 ⑦(参考)浄土眞宗教典志第三

般舟讃聞書 ①(B)Han-ju-san-ki-waki. ②一卷 ③存 ④義譜(明和八—文政五A. D. 1771—1822)述 ⑨寫本(龍大、一二二六・一四七)

般舟讃科 ①(B)Han-ju-san-kwa. 般舟讃分科 ②一卷 ③存 ④道隆(正德三—明和元 A. D. 1713—1764)作、慧琛(—明和頃 A. D. 1764—1771—)校 ⑦(参考) 浄土眞宗教典志第二

般舟讃懷愧錄 ①(B)Han-ju-san-kwai-ki-roku. ②四卷 ③存、眞宗全書第一五 ④僧叡(寶暦三—文政八A. D. 1753—1825)述

⑥一種緣起、二解題目、三銷釋文の三門を分別して詳細に釋せられてある。而して僧叡は般舟讃をもつて、觀無量壽經を頌讃せられたものであるとしてゐる。因に師の助正論は一特長を有するものであるが、これに關連する安心起行の二門に就きて、本書には爲自の釋義が明らかにせられてある。

⑨寫本(龍大、一二二六・一四六)(藤枝昌道)

般舟讃觀門義 ①(B)Han-ju-san-kwan-mon-gi. 般舟讃要義釋觀門義鈔 ②七卷 ③存、大日本佛教全書第五六、西山全書第四 ④證空(治承元—寶治元 A. D. 1177—1247)述 ⑥貞應元(A. D. 1232) ⑥般舟讃要義釋觀門義鈔の下を見よ。

般舟讃見聞 ①(B)Han-ju-san-ken-mon. 般舟讃私記見聞 ②一卷 ③存、浄土宗全書第四 ④酉譽聖聰(貞治五—永享一二A. D. 1356—1440)述 ⑥般舟讃私記見聞の下を見よ。 ⑦(参考) 浄土眞宗教典志第三、浄土正依經論書籍目錄 ⑨刊本(正大、一五三一・三二〇)(晋、ふ・六・右・二八)

般舟讃甄解 ①(B)Han-ju-san-kei. ②五卷 ③存、眞宗叢書第六 ④本遠(寛保二—寛政一〇 A. D. 1742—1798)述 ⑤弘化四刊 ⑨(谷大、宗大・三五三)(龍大、一二二六・一四八)

般舟讃玄談 ①(B)Han-ju-san-gen-dan. ②一卷 ③存 ⑨寫本(正大、一一五二・一二三)

般舟讃懸譚 ①(B)Han-ju-san-gen-dan. ②一卷 ③存 ⑨寫本(正大、一一五二・一二四)

般舟讃講記 ①(B)Han-ju-san-ko-ki. ②二卷 ③存 ④寶曜(—文政五A. D. 1822)述 ⑦(参考) 浄宗大系刊行豫定書目

般舟讃講信錄 ①(B)Han-ju-san-ko-shin-roku. ②四卷 ③存 ④綺的 ⑨寫本(龍大、二二六八・四八)

般舟讃講林 ①(B)Han-ju-san-ko-rin. ②十卷 ③存 ④智洞(—文化三 A. D. 1806)述 ⑦(参考) 浄土眞宗教典志第二、眞宗全書刊行豫定書目

般舟讃講錄 ①(B)Han-ju-san-ko-roku. ②二卷 ③存 ⑨寫本(正大、一五三一・二五三)

般舟讃講錄 ①(B)Han-ju-san-ko-roku. ②二卷 ③存 ④本多祐護(—明治三七A. D. 1904)述 ⑤明治三五(A. D. 1902) ⑥明治三五刊 ⑨(谷大、宗大・一〇一一)(龍大、一二二六・一五〇)(帝國、一八七・二二二)

般舟讃講話 ①(B)Han-ju-san-ko-wa. ②二卷 ③存 ④島地默雷(天保九—明治四四A. D. 1838—1911)述 ⑤明治三四刊 ⑨(龍大、一二二六・一五一)(京大、日大未・六一九)(谷大、宗大・二三〇三)(帝國、一八七・一九八)

般舟讃採聽 ①(B)Han-ju-san-sai-chō. ②二卷 ③存 ④令玄(安永四—嘉永二A. D. 1775—1849)述 ⑨寫本(龍大、一二二六・一五三)

般舟讃私記 ①(B)Han-ju-san-shi-ki. 般舟讃記、行儀分私記、具疏私記 ②一卷 ③存、浄土宗全書第四 ④良忠、正治元—弘安一〇A. D. 1199—1247)述 ⑤本書は、般舟讃記、行儀分私記、具疏私記とも云ふ。良忠が善導大師の著たる般舟讃を註釋されたものである。抑々般舟讃一卷は所謂善導五部九卷の中行儀分に屬する書で、其の我が國渡來は、靈巖寺圓行の渡來錄に出るより見て、餘程古いと思はるゝも、法然在世中には世に流布せず、元祖來見の書と言はれてゐるが、然し其の題名に明かなる如く、觀經等に依つて造られたものであるから彌陀觀經等を啓讃することが一部の詮要で、極樂依正二報の莊嚴、及び泥犂極苦を述べて厭欣を勸說すること甚だ痛切であり、念佛者懺悔と改悔謗毀浄すべき題を偈文に表はされてゐるものなので、宗義確立上良忠其の註釋を施されたのである。

先づ解題目、述文の二大別をなし、初め題目を解する中では、所依の經教と讃歎正行とを表はすとなし、以て當行道佛立三昧の念佛なることを決定し、次に述文の下では、前序、正讃、後序の三科を設け、前序では第一歎自より永無緣に至る迄は通じて聖浄二門を明し、二に行者等の下應知に至る已來は別して浄土を明すと云ひ、次に正讃の中、一に初より長眠に至る迄は三經の意に約して歎の大意を讃し、二に專讃等の下發爲除に至る迄は別して觀經を讃すとなして念佛の言の稱名なるべき事を述べ、後に後序の中亦三分して、一に初より願絕に至る迄は厭欣を勸進し、二に仰惟の下は受生の無陋を明し、三に又使の下は往生の大益を明すと分判註解されてゐる。本書又般舟讃研究の良參考書である。

本書は具疏私記の一として古くより板行されてゐたが、寶永中良仰古本を匡正して疑註傳註を附し上梓世に頒ち、稍々れて享保中增上寺より木活本を出し其の他數本の町版世に流布してゐる。今浄土宗全書に收むるものは良仰校正本である。

⑦(参考) 浄土眞宗教典志第三 ⑨寶永六刊 ⑨(谷大、一五三一・九三、九七、一一七、二三六、三二一)(龍大、二〇三・二七、二六八、一・四九)(谷大、宗大・七二二)、八〇五)(晋、ふ・六・右・二七)

般舟讃私記冠註 ①(B)Han-ju-san-shi-kwan-chū. ③存、浄土宗全書第四

③本書は良仰本を浄土宗全書が收載せしとき、原本の冠註をまとめて卷末に別出せしもので、原作者不明であり、且つ四頁程の僅少のものではあるが、私記本文引用の典據を示せるもので般舟讃研究者の好參考となるものである。 (紀氏隆眞)

般舟讃私記見聞 ①(B)Han-ju-san-shi-ki-ken-mon. 大澤見聞、良榮見聞、榮見聞 ②二卷 ③存、浄土宗全書第四 ④良榮(寶永元—應永三〇A. D. 1342—1423)述

③本書は、記主良忠門下の一派である名越登觀の末流に屬する所謂大澤流の祖と云はるゝ圓通等の良榮の作である。內容は他の行儀分と同じく大體名越を祖述してゐるが往々藤田の意承も見られる。本書は記主門下の分流より起る宗義正流の施釋を示せるもので正統白旗の相傳の說相と間々異解を擧げてゐる。特に聖門が良忠の諸書を註釋し、聖聰又見聞を述作して儀西正義の發揚に努めたに向て、本書を調述し以て正しく

古来相承の結構を示すものとの見解は確かに考えられる。故に天書は弘法大師の真筆なる事実と共に天書自体の内容の様子も伝えているものである。天書の構成は漢文の散文と韻文の部分とに分れ、その中に、行願菩薩の誓願、三昧、見聞、受記、三会分の分類上の区別の問題を含蓄している。漢文に天書の部分を「序」に、韻文の部分を「偈」と名づけ、「序」を「散文」と「韻文」とに区別する。「序」は「散文」の中に、行願菩薩の誓願、三昧、見聞、受記、三会分の分類上の区別を含蓄している。漢文に天書の部分を「序」に、韻文の部分を「偈」と名づけ、「序」を「散文」と「韻文」とに区別する。「序」は「散文」の中に、行願菩薩の誓願、三昧、見聞、受記、三会分の分類上の区別を含蓄している。漢文に天書の部分を「序」に、韻文の部分を「偈」と名づけ、「序」を「散文」と「韻文」とに区別する。

❶天書は、弘法の華厳経開題に、天書の及び「記」に基づき詳説したものである。「記」は天書の「序」に対する「記」である。

❷(参考) 法王経宗教考第三 ❸序八十行 ❹(正天・一五三一・一三〇・一一四四一一四一) (考天経題)

華厳経私記見聞 ❶(日) Han-ju-san-shi-ki-kem-mon. 華厳経私記見聞 ❷一巻 ❸存 法王宗教考第四 ❹宗教八頁 ❺天台宗一 ❻寛文一一年(A. D. 1366—1440)撰

❼天書は西暦紀元前の華厳経開顕に自己の見聞を具体して詳説したものである。大乗経典文献学上の見地から、今現在の三種、華厳経の異説、三種分類法の異説、三種分類法の異説、三種分類法

念佛章一卷といふのがあるが、或はそれに當るのかも知れぬ。

又現藏中に拔陵善薩經並に大方等大集經賢護分といふのがあるが、これも般舟三昧經の異譯である拔陵善薩經は一卷で、章品を分たず、譯者の名も傳つて居らぬ。出三藏記集第三安公古異經錄にかゝげる嵇拔陵善薩經が即ちそれであつて、苻秦以前の古典なることは明かである。大集經賢護分は五卷十七品の經で、隋闍那崛多の譯したものである。されば般舟三昧經はすべて四本現在するわけであるが、その中、大集經賢護分は細譯の年代からいつても、内容及び章品の開展からいつても、最も新らしいものである事は疑を容れぬ。他の三本中、普通の例を以てすれば、拔陵善薩經が最も古く、一卷經が之れに次ぎ、三卷經は更に其の後に至つて增廣されたと見るべきである。三卷經を一卷經以前の成立とする說もあるが、然し普通の例を破る程の有力なる論證もない樣である。就中、拔陵善薩經には章品が分つてないけれど、その内容を一卷經の八品に對照して見ると、初の問事、行、四事及び譬喩の四品に合するやうである。されば般舟三昧經は最初は唯問事等の四品の内容を有し、それが次いで八品經となり、更に本三卷十六品經となつたと見なければならぬ。而して其の三卷十六品經が、上に述べた如く(A. D. 179)に支讖に依りて支那に紹傳されたとすれば、彼の四品の拔陵善薩經は、それより少くとも一百年以前に編纂されたとすべきである。のみならず道行般若經は今の三卷經と同年に支讖に依りて譯出されたものであるが、然るに拔經第九薩陀波倫菩薩品に、薩陀波倫 Sadāprarudita 菩薩が化佛の敎を聞いて歡喜踊躍し、見十方諸佛三昧を得て、十方諸佛の讚言を蒙つたことを記し、又その述文に、佛の從來する所なく、亦到り去る所なきことを說いてゐる。此等は長ひもなく般舟三昧經の說を指したのであるから、此の經は亦卽ち道行般若經の以前に存したものといはなければならぬ。但し道行般若三十品中、初の二十五品、卽ち累敎品に至る迄は其の成立が古く、第二十六品以下、卽ち薩陀波倫品の如きは比較的後代の附加と見るべきものであるが、それにしても支讖の譯本中に既に薩陀波倫品が置かれてある以上、般舟三昧經が彼經以前に世に行はれてゐたことは明かとすべきである。

又三卷般舟三昧經卷中授決品には佛の懸記として、我れ般泥洹の後、この三昧は當に現在すること四十歲なるべく、その後復現ぜざるべし。却後亂世に佛經まさに隱ぜんとする時、諸の比丘は佛敎を承用せず。然る後亂世の時、國々相伐つ、この時に於てこの三昧は當に復た興浮利の内に現ずべしといふの說をかゝげ、大集經賢護分にも、我が滅度の後、この三昧經は國浮提に於て四十年中廣く世に行はれ、而して後五百年末一百歲中、正法滅せんとする時、比丘の惡を行ずる時、誹謗正法の時、正法破壞の時、持戒相滅の時、破戒熾盛の時、諸國相伐つ時、この際に當りて衆生の熾然たる善根ある者この經を得ん。故に此の三昧典は復當に國浮提に於て流行すべしと豫言されたとして居る。これは般舟三昧經は佛滅四十五年間世に行はれ、その後は隱沒して現はれないが、五百年末一百歲中に至り、諸國相伐ち正法滅せんとする時、再び世に出現するといふ意味で、卽ち此の經の編纂年代を自ら暗示したものと見るべきである。就中、五十年末一百歲中といふのは、恐らく佛滅第五百年の意味で、卽ち四百一年より五百年に至るまでをいふのであらう。又亂世の時諸國相伐つといふのは、孔雀王朝 Maurya dynasty 衰亡の後、希臘の植民地たるバクトリヤ Bactria は次第に南方に擴がり特にデメトリヤス Demetrios 王は、小亞細亞のユークラチデス Eucratides 王の爲に壓はれて、漸次印度内地に侵入し、琦いで又塞迦族及び大月氏族の侵入により諸國互に攻伐を事とし、西曆紀元前一世紀頃より印度はさながら亂麻の如き形勢に在つたことを指すのであらうかと思ふ。若し然りとすれば其の年代は佛滅第五百年中に相當し、彼の五百年末一百歲中の語にも合する樣である。而して此の時に於て此の三昧經が世に出現したとすれば、卽ち般舟三昧經は西曆紀元前一世紀頃に始めて編纂されたものと見ることが出來る。但し涅槃經第六にも之と同一の記事をかゝげてゐるけれど、これは恐らく今の般舟經の說を轉用したので、それに依りて彼の經の成立年代を推定すべきではないのである。

蓋し此の經は般舟三昧見佛の法を說いたもので、恐らく大乘經典中、最も早く成立したものゝ一であらうと思ふ。般舟 Pratyutpanna とは、對して近く立つといふ意味で、卽ち是の三昧を得れば十方の諸佛が悉く其の前に在りて近く立つのを見ることが出來るといふのである。三卷經の行品に依ると、比丘比丘尼優婆塞優婆夷があり、戒を完全に持ち、閑居に獨居して一心に西方阿彌陀佛を念じ、若しは一晝夜、乃至若しは七日七夜すれば、阿彌陀佛を見ることが出來る。若し覺時に於て見ることの出來ない者は、夢中に於て之れを見ることが出來る。但し見るといつても天眼を以て徹視するのでなく、聞くといつても天耳を以て徹聽するのでなく、又神足を以てその佛刹に至るのでもなく、此に命終して彼の佛刹に生れるのでもなく、卽ち此の處に坐して阿彌陀佛を見、その所說の經を聞くのである。譬へば羅閱祇國の人が隨舍利國に某々と名づける婬女のあることを聞きて之を思念し、遂に夢中に彼の婬女の所に到つて共に棲宿するが如く、今阿彌陀佛が西方須摩提國に在まし、多くの菩薩衆の中に於て現に說法されつゝあると聞き、たゞ一心に之れを念ずれば彼佛を見ることが出來ると說いてある。これは般舟三昧の法に依れば、定中に於て阿彌陀佛を見ることが出來るのであるが、然し實際には單に阿彌陀佛のみでなく、十方いづれの佛でも皆此法に依れば悉く見ることが出來るのである。そのことは經中に現に說かれてあり、亦般舟三昧を十方現在佛悉在前立定と譯してゐるのに見

ても明かである。されば阿彌陀佛は單なる一例として擧げられたに過ぎぬといはなければならぬが、然し他の阿閦等を擧げず、獨り西方阿彌陀佛を擧げて來たのは、此の經の作者が彌陀崇拜者であつた爲か、或は此の經が彌陀信仰の行はれた地方に於て編纂された爲かであらうとおもふ。兎に角、此の經に於て阿彌陀佛がたとひ簡單なる記事にもせよ敍述されてゐるのは頗る注目を要すべき事で、恐らくその記事は現存彌陀關係の文獻中、最古のものであらう。

此の經の梵本は中央亞細亞から發見された零片のみが世に紹介されてゐる。それは Upright Gupta 文字で記された紙本で、第二十八葉の一葉であつて漢譯の攝護品の長行の後半と偈頌の大部分に相當する (R. Hoernle: Manuscript Remains of Buddhist Literature, Vol. I, p. 88 ff.)又西藏譯は Hphags-pa da-ltar-gyi sdes-rgyas mfoon sum-du bshugs-pahi tin-ne-hdsin ces-bya-ba theg-pa chen-poi mdo (Skt. Ārya-pratyutpannabuddhasammukhāvasthitasamādhi nāma mahāyānasūtra)と題し、ナルタン版甘珠爾勝經部 Tha函、北京版の Du函、デリケ版 Wa函に存し、Śākyaprabha 及び Ratnarakṣita の譯出にかゝり、七卷二十五章より成る(阿口氏譯ナルタン版甘珠爾目錄 p. 64f, 大谷大學甘珠爾勘同目錄 p. 299 ff.)

❼(參考) 開元錄第一、貞元錄第一、淨土依憑經論章疏目錄 ❽元祿七刊 ❾(正大、一一七九・一一一、一一五〇・三二)(高大、寄・一・二三)

般舟三昧經 ❶(日) Han-ju-zam-mai-kyō. (支) Pan-chou-san-mei-ching. (般月信亨)

❷二卷 ❸缺 ❹後漢支婁迦讖(一建和元—中平三 A. D. 147—186—)譯 ❺第三譯。

❼(參考) 武周錄第二二、開元錄第一四、貞元錄第二四

般舟三昧經 ❶(日) Han-ju-zam-mai-kyō. (支) Pan-chou-san-mei-ching.

❷二卷 ❸缺 ❹後漢竺佛朔譯 ❼(參考) 武周錄第一二、開元錄第一四、貞元錄第二四

般舟三昧經 ❶(日) Han-ju-zam-mai-kyō. (支) Pan-chou-san-mei-ching.

❷一卷 ❸缺 ❼(參考) 仁壽錄第五、靜泰錄第五、武周錄第一二

般舟三昧經 ❶(日) Han-ju-zam-mai-kyō. (支) Pan-chou-san-mei-ching.

❷二卷 ❸缺 ❹西晉竺法護(一泰始二—建興元 A. D. 266—313—)譯 ❺第六譯。

❼(參考) 開元錄第一四、貞元錄第二四

般舟三昧經記 ❶(日) Han-ju-zam-mai-kyō-ki. (支) Pan-chou-san-mei-ching-chi. ❸缺 ❹後秦鳩摩羅什、建元二—義熙九 A. D. 344—413 一說弘始二—文義熙中寂)

❼(參考) 東城傳燈目錄卷上

般舟三昧經記 ❶(日) Han-ju-zam-mai-kyō-ki. (支) Pan-chou-san-mei-ching-chi. ❷一卷 ❸缺 ❹後秦元曉(眞平王三九 A. D. 617—)述

❼(參考) 奈良朝現在一切經疏目錄1925

般舟三昧經略讚 ❶(日) Han-ju-zam-mai-kyō-ryaku-gi. ❷二卷 ❸存 ❹新羅元曉(眞平王三九 A. D. 617—)述 ❼寶雲(延享三—文政一一 A. D. 1746-1828)述 ❽(谷大)

般舟三昧經略疏 ❶(日) Han-ju-zam-mai-kyō-ryaku-sho. (支) Pan-chou-san-mei-ching-liao-an. ❷一卷 ❸缺 ❹新羅元曉(眞平王三九 A. D. 617—)述 ❼(參考) 奈良朝現在一切經疏目錄1927

般舟三昧行第鈔 ❶(日) Han-ju-zam-mai-kyō-dai-shō. (支) Pan-chou-san-mei-hsing-ti-hao. 般舟三昧行樂鈔 ❷一卷 ❸缺 ❹天台山慧思述 ❼(參考) 淨土依憑經論章疏目錄

般舟三昧行道往生讚 ❶(日) Han-ju-zam-mai-kyō-dō-ō-jō-san. (支) Pan-chou-san-mei-hsing-tao-wang-sheng-tsan. 般舟讚、依觀經等明般舟三昧行道往生讚經、依觀經等明般舟三昧行道往生讚 ❷一卷 ❸存、大正四七・四四八No. 1981、卍續二乙・一・一、眞宗聖典全書、七祖聖教第七、同卷中、淨土宗全書第四 ❹唐善導(大業九—永隆二A. D. 613—681 一說龍朔二、年六九寂) ❺般舟讚の下を見よ ❻明曆二刊 ❼(谷大、宗大・三三五(京大・一・二四八・一)(內閣)

般舟三昧行法 ❶(日) Han-ju-zam-mai-kyō-ho. (支) Pan-chou-san-mei-hsing-fa. 般舟三昧法 ❷一卷 ❹隋智顗(中大通三—開皇一七A. D. 531—597) ❼(參考) 傳教大師將來台州錄、東城傳燈目錄卷上、諸宗章疏錄第一

般舟三昧念佛章經 ❶(日) Han-ju-zam-mai-nem-butsu-shō-kyō. (支) Pan-chou-san-mei-nien-fo-chang-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹失譯 ❼(參考) 出三藏記第

四、三實記第四、第七、仁壽錄第五、靜泰錄第五、內典錄第一、第三、開元錄第二、真元錄第二

般舟三昧念佛章經 ❶(日)Han-ju-zam-mai-nem-butsu-shō-kyō. (支)Pan-chou-san-mei-nien-fo-chang-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹第四譯。 ❼(參考) 開元錄第一四、貞元錄第二四

般舟三昧法 ❶(日)Han-ju-zam-mai-hō. (支)Pan-chou-san-mei-fa. 般舟三昧行法 ❷一卷 ❹隋智顗(中大通三—開皇一七A.D.531—597) ❼(參考) 淨土依憑經論章疏目錄

般舟三昧略記 ❶(日)Han-ju-zam-mai-ryak-ki. (支)Pan-chou-san-mei-lüeh. 般舟三昧經略記 ❷一卷 ❸缺 ❹新羅元曉(眞平王三九A.D.617—)述 ❼(參考) 諸宗章疏錄第二

般舟要道錄 ❶(日) Han-ju-yō-dō-roku. ❷四卷 ❸存 ❹文化一三寫 ❹(正大、一五三一・二五二)

般若院系圖 ❶(日)Han-nya-in-kei-zu. ❷一卷 ❸存、續群書類從第八 ❺本書は走湯山般若院の開山を天鈴となし、天鈴は祖武平氏の出で高望王四世の孫千葉氏の祖上總介忠常より七世の森相馬二郎(本書には五郎とあり)師常より五世の孫に當る。父を民部太夫泰胤となす。それより第十六世堂算に至る迄の法系を記しその法系を中心として同族の千葉、相馬、東、武石等の諸氏の系譜を併錄したものである。般若院は伊豆國田方郡熱海町伊豆山に在る天台眞言兼學の寺で昔は密厳院、東明寺とも云ひその創立年代は詳かでない。寺傳によれば弘法大師此の地に留錫し永和年中州の賢安法師も亦來住したといふ。鎮朝の時には既に走湯山伊豆權現として鎮朝伊豆流寓の時より篤依厚く尖人政子は其別當寺に寄寓した事があり、當時既に七堂伽藍を備へた巨刹であつた。また創業後は屢々こゝに詣で、永で北條足利の時代には寺領の寄進のあつた事は吾妻鏡源平盛衰記太平記等にも載せられてゐる。本書に依る岡山天鈴は相馬二郎師常が鎮朝に仕へた武將であり、それより五世の孫であるから恐らく鎌倉中期の人物であらう。鎮朝當時には未だ諸記に般若院なる名稱は見られないから同院の創建は本書にて察せられる如く鎌倉中期と見るべく、初めは單なる伊豆權現の一支院であつたものが同院の隆盛と共に他の諸院を壓して伊豆權現の別當寺となり、遂にその正統を繼承するに至つたものと思はれる。本書が何處迄信據し得られるかは尙研究を要すべきであるが、般若院史を考究する上には確かに有力なる一典據であらう。

(高倉永穆)

般若經 ❶(日) Han-nya-kyō. (支) Pan-jo-ching. 大般若波羅蜜多經、大般若經 ❷六百卷 ❸存、大正五—七一 No.220、鎌洪至日、卍二・一—四・一〇、北1天至奈、南1天至奈、元1天至奈、明北1天至奈、清1天至奈、翌1天至奈、天1天至奈、指1天至奈、法1天至奈、至1天至奈、明南1天至奈、Vj.1 ❹唐玄奘(仁壽二—麟德元A.D.602—664)譯 ❺大般若波羅蜜多經の下を見よ。 ❹刊本(帝室)

般若經義疏 ❶(日) Han-nya-kyō-gi-sho. (支) Pan-jo-ch'ng-i-su. ❷四卷 ❼(參考) 奈良朝現在一切經疏目錄20.5

般若經正解 ❶(日) Han-nya-kyō-shō-gai. ❷一卷 ❸存 ❹正智校 ❹(龍大、別置)

般若經の綱要 ❶(日)Han-nya-kyō-no-kō-yō. ❷一卷 ❸存 ❹椎尾辨匡著

般若經問論集 ❶(日)Han-nya-kyō-mon-ron-shū. (支)Pan-jo-ching-wen-lun ❷二十卷 ❼(參考) 出三藏記第五

般若九想圖贊 ❶(日) Han-nya-ku-zō-zan. ❷九卷 ❸存、護法集之內 ❹玄奘(永徽一一A.D.1630—1663)

般若玄記經 ❶(日) Han-nya-gen-ki-kyō. (支)Pan-jo-hsüan-chi-ching. ❷一卷 ❺疑僞經 ❼(參考) 法經錄第二、仁壽錄第四、內典錄第一〇、武周錄第一五、開元錄第一八、貞元錄第二八

般若玄論 ❶(日)Han-nya-gen-ron. (支)Pan-jo-hsüan-lun. ❷一卷 ❸缺 ❹隋智顗(中大通三—開皇一七A.D.531—597)述 ❼(參考) 新編諸宗敎藏總錄第三

般若校異 ❶(日)Han-nya-kō-i. 大般若經校異、大般若校異 ❷一卷 ❸存 ❹寛政四刊 ❹(菅、る・四・左・三三)

般若綱要 ❶(日) Han-nya-kō-yō. (支)Pan-jo-kang-yao. 大般若經綱要 ❷十卷 ❸存、卍續一・三七・四—五 ❹清葛鼎述 ❺大般若經綱要の下を見よ ❺光緒二二刊 ❹揚州藏經院存板(京大、藏・五八・一)

般若懺文 ❶(日)Han-nya-sam-mon. (支)Pan-jo-ch'an-wen. ❸存 ❹朝鮮已和(得通)(洪武九—宣德八A.D.1376—1433) ❼(參考) 禪籍目錄

般若寺疏鈔 ❶(日)Han-nya-ji-shō-sho. 大日經疏鈔、大疏鈔、般若寺鈔、御鈔、大日經疏般若寺鈔、般若寺大疏鈔、般若寺大日經疏、般若寺大日經疏鈔 ❷二卷或四卷 ❸存、日本大藏經第一五密經部章疏卷上二、大日本佛敎全書第四二 ❹觀賢(仁壽三—延長元A.D.851—925)述 ❺寛平三—四(A.D.891—892) ❹大日經疏鈔の下を見よ。 ❹刊本(高大、寄・一・三四)(菅、お・四・左・三一)

般若寺鈔 ❶(日)Han-nya-ji-shō. 大日經疏鈔、大疏鈔、般若寺疏鈔、御鈔、大日經疏般若寺鈔、般若寺大疏鈔、般若寺大日經疏、般若寺大日經疏鈔 ❷二卷或四卷 ❸存、日本大藏經第一五密經部章疏卷上二、大日本佛敎全書第四二 ❹觀賢(仁壽三—延長元A.D.851—925)述 ❺寛平三—四(A.D.891—892) ❹大日經疏鈔の下を見よ。

般若寺鐘銘 ❶(日) Han-nya-ji-shō-mei. ❷一卷 ❸存 ❼(參考) 大日本佛敎全書續刊豫定書目

般若寺大疏鈔 ❶(日) Han-nya-ji-dai-sho-shō. 大日經疏鈔、大疏鈔、般若寺

鈔、御鈔、大日經疏般若寺鈔、般若寺疏鈔、般若寺大日經疏、般若寺大日經疏鈔 ❷二卷或四卷 ❸存、日本大藏經第一五密經部章疏卷上二、大日本佛敎全書第四二 ❹觀賢(仁壽三—延長元A.D.851—925)述 ❺寛平三—四(A.D.891—892) ❹大日經疏鈔の下を見よ。 ❹寫本(高大、寄・一・五四)

般若守護十六善神王形體 ❶(日)Han-nya-shu-go-jū-roku-zen-jin-ō-gyō-tai. (支)Pan-jo-shou-hu-shih-liu-shan-shen-wang-hsing-ti. 十六善神王形體 ❷一卷 ❸存、大正二一・三七八五 No.1293、鎌倉四、卍續一・三・三 ❹金剛智(成亨二—開元二九A.D.617—741)譯 ❺唐開元二一—二四(A.D.723—736)

❺十六善神名及び各形體を明す。快道師の奥書に云く、谷響集八云、世有金剛智所譯般若守護十六善神一卷三紙。讀之明如掌非是金剛智筆語。綴文荒損、想先達依金剛智圖畫、錄之。而假金剛智名矣。不自揣之荒、今謂於翻譯席、設譯語筆授證義綴文等職、翻之然爲擬、必不譯主之一手。而有再治、有未再治。唯以義長爲其長。豈以文飾爲。云云と。譯者に關する議論を知るべし。陀羅尼集經第三、別尊雜記第三一、谷響集第八參照。

(坪井德光)

般若宗要 ❶(日)Han-nya-shū-yō. (支)Pan-jo-tsung-yao. 大慧度經宗要、摩訶般若波羅蜜經宗要、大慧度經樞要 ❷一卷 ❸存、大正三三・六八 No.1697、卍續一・三八・二 ❹新羅元曉(眞平王三九A.D.617—)述 ❺大慧度經宗要の下を見よ。 ❼(參考) 奈良朝現在一切經疏目錄2024

般若十六善神名號集 ❶(日)Han-nya-jū-roku-zen-shin-myō-gō-shū. ❷一卷 ❹定深(—天仁元A.D.1108—) ❼(參考) 諸宗章疏錄第三

般若心經 ❶(日)Han-nya-shin-gyō. (支) Pan-jo-hsin-ching. 般若波羅蜜多心經、般若多心經、心經 ❷一卷 ❸存、大正八・八四八 No.251、鎌月九、卍五・六・北22翔、南22翔、元16翔、明北17翔、清17翔、翌21翔、天22翔、法21翔、至21翔、明南16翔、Vj.20、禪學大系經論部 ❹唐玄奘(仁壽二—麟德元A.D.602—664)譯 ❺般若波羅蜜多心經の下を見よ。

般若心經 ❶(日)Han-nya-shin-gyō. 國譯般若心經 ❸存、國譯大藏經第三之內 ❹山上曹源譯

般若心經 ❶(日)Han-nya-shin-gyō. 般若心經 ❷一册 ❸存 ❹空性述 ❼元祿五刊 ❹(高大、寄・一・二三)

般若心經 ❶(日)Han-nya-shin-gyō. ❸存、佛敎通俗講義之內 ❹大內青巒(弘化二—大正七A.D.1845—1918)述 ❹(帝國、六二・二六四)

般若心經 ❶(日)Han-nya-shin-gyō. 和譯般若心經 ❸存、聖典十種之內 ❹秋山悟庵譯 ❺明治四四刊 ❹(駒大)

般若心經易解 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-i-gai. (支)Pan-jo-hsin-ching-chieh. 般若心經易解 ❷一卷 ❸存、卍續一・九二・五 ❹謝承謨述 ❺清光緒一五(A.D.1889)

❹玄奘譯般若心經を謝承謨註釋し、劉紹南・蔣春同・錢松齡三氏の校訂せるものであつて、序文によると金剛經易解(本書第三卷參照)の姉妹編として作られたものである。始めに名・體・宗・用・敎により略釋し、般若心經は大般若六百卷の精要なる旨を述し、後に本文につき解說す。經文最後の呪文以前を顯說とし、呪文を密說となして呪文の功能を述べ、終りに「往生淨土神呪」を附してある。

(藤田海龍)

般若心經異本集 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-i-hon-shū. 心經異本集、梵漢般若心經異本集 ❷一卷 ❸存、日本大藏經第一〇般若部章疏之內 ❹中野達慧編 ❺梵本心經二般。心經(玄奘譯。大正八・八四八 No.251)。心經(義淨譯)。對譯心經。心經(般若譯。大正八・八四九 No.253)。心經(智慧輪譯。大正八・八五〇 No.254)。般若大明呪經(羅什譯。大正八・八四七 No.250)。心經(法月譯。大正八・八四九 No.252)。佛母般若經(施護譯。大正八・八五二 No.257)を苟めしもの。 ❹大正七刊 ❹(駒大)

般若心經異譯目並心經釋要補注正義 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-i-yaku-moku-narabini-shin-gyō-shaku-yō-fu-chū-shō-gi. ❷二卷 ❸存 ❹重華補注 ❺享保四(A.D.1719) ❹(菊岡氏)

般若心經詮謀鈔 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-i-ro-sō. (支)Pan-jo-hsin-ching-chüan-mou-chao. 般若心經疏詮謀鈔、心經疏詮謀鈔 ❷一卷 ❸存、卍續一・四一・四

❹宋智圓(太平興國元—乾興元A.D.976—1023)述 ❺般若心經疏詮謀鈔の下を見よ。 ❼(參考) 新編諸宗敎藏總錄第一

般若心經疏纂 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-i-san. (支) Pan-jo-hsin-ching-hui-tsuan. 心經疏纂、般若波羅蜜多心經疏纂 ❷一卷 ❸存、卍續一・四二・一 ❹孫念劬述 ❺清乾隆五九(A.D.1794)

❺先づ原起、讀法、凡例、全經大旨の項の下に於て述べ、後經文を七段に分ち多くの註釋を參照しつゝ註解す。古來の註釋中宗とす可き物として、賢首の略疏、宗鏡の註解、宋護の文句、紫柏の論說、毛子晉の略疏小鈔、張有譽の義句說、雲棲の正解を擧げ、特に張有譽の義句說を諸本に超出せるものとして推薦す。經文の七段とは、第一段原行標綱、第二段詳示蘊空、第三段就空釋體、第四段明空離相、第五段從行顯法、第六段結讚顯密、第七段正說密呪である。

(藤田海龍)

般若心經一貫疏 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-ik-kwan-sho. (支)Pan-jo-hsin-ching-i-kuan-su. 心經一貫疏 ❷一卷 ❸存、卍續一・四二・一 ❹明益證述 ❺日本正保五(A.D.1648)

❺著者益證は大明湖廣荊州府江陵縣の人、黃檗隱元禪師に參禪したる禪僧である。嘗て渡日し長崎に在り歸明せんとする時に臨み、交遊ありし宗信の勸めにより物したのが此書であつて、宗信の和點が附してある。 ❹慶安三刊 ❹(駒大)(龍大、二四一二・四五)

般若心經一滴談 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-itteki-dan. ❷一卷 ❸存 ❹天寶道契述、天祐、百城共編 ❺安政五刊 ❻(龍大、二四一二・四六)(京大、一・二三八・三)

般若心經會義 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-e-gi.(支)Pan-jo-hsin-ching-hui-i. ❷一卷 ❸存 ❹民國、省三述、藏密編 ❺民國元刊 ❻(駒大)

般若心經會疏折衷 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-e-sho-setchū. ❷二卷 ❸存 ❹祐盛述 ❺元祿元(A. D. 1688)

❻主として空海の秘鍵の說によりて釋せる心經の註書。初に般若數異、藏續、說處、多譯、功能、慈驗、顯密辨の七科を設けて心經の大意を述べ、次には正しく經文を揭げてその註解を施し、且つ頭註に分科を加ふ。

❼元祿三刊 ❽(龍大、二四一二・四七)(京專)(高大、一・二三)

般若心經繪入講釋 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-e-iri-kō-shaku. ❷一卷 ❸存 ❹淨雲坊 ❺萬延元刊 ❻(正大、一一二五・二二)

般若心經繪抄 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-e-shō. ❷一卷 ❸存 ❹玉川雲起(一眞) ❺天明元刊 ❻(龍大、二四一二・四八)

般若心經圓通錄 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-en-tō-roku. ❷一帖 ❸存 ❹浦上陳應(安政三—大正一五 A. D. 1856—1925)述 ❺明治四二刊 ❻(高大、書・一・二六) ❼高野山圓通寺

般若心經開題 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-kai-dai. ❸存、傳敎大師全集第三 ❹敎澄(神護景雲元—弘仁一三 A. D. 767—822)述

❺本書僅に一紙、初めに一經の總意を述べ次に本經の五譯四存を擧げてゐる。即ち第一は姚秦三藏鳩摩羅什譯にして摩訶般若波羅密大明呪經と名づけ、又は摩訶大明呪經と稱す。第二は大唐三藏玄奘の譯する處にして摩訶般若波羅蜜多心經と名づく。第三は大唐代天竺三藏善提流志の譯にして般若波羅蜜多那經と名づく。第四は大唐代東天竺三藏法月の譯する處にして普遍智藏般若波羅蜜多心經と名づく。第五は罽賓三藏般若譯にして、新翻般若波羅蜜多心經と名づく。此の中第三譯を同き他の四譯は時に行はれつゝあり。而も其の第二譯について流行本に又三種の不同ありて言句に出入するものがあることを云つてゐる。

この書もと三井法明院藏にかゝる新撰問題集卷下(上卷缺)に收まり、題して「般若心經」と云はれたが、傳敎大師全集に入るに際し今の題名となつた。眞僞未決。

(石井堯叢)

般若心經開度 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-kai-do.(支)Pan-jo-hsin-ching-k'ai-tu. 心經開度 ❷一卷 ❸存、卍續一・四一・五 ❹明弘巖述

❺如來禪と祖師禪とを分ちて祖師禪を高しとし、徒らに敎外別傳を詩る者を「迷信者流」として却け、如來禪祖師禪の同一なる事、宗・敎無二なる可き事を高調す。斯くて宗敎一致の立場から新發心の弟子に對して心經の註解を試みたのが此書であり、「開度」の名ある所以である。

(藤田海龍)

般若心經解說 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-kai-setsu. 佛說摩訶般若波羅蜜多心經解說 ❷一卷 ❸存 ❹平澤修山著 ❺昭和七(A. D. 1932)十月 ❻昭和七刊 ❼大阪、摩訶庵

般若心經槩論 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-gai-ron.(支)Pan-jo-hsin-ching-kai-lun. 心經槩論 ❷一卷 ❸存、卍續一・四一・五 ❹明林兆恩述

❺明人林兆恩の著す所を其門人許萬儁の校正せるものであつて、同じ著者の心經釋略と二部作を爲すが故に併せ讀まる可きものである。其底論と稱するは「心經の第一義」は得て名づく可からず徒して之を論ずるのみであるからであつて、彼は心經の第一義を「色空之不到處」と名づけ、是は即ち「眞心の實地」なりと言ふ。色空之不到處とは相待空を空じたる絕待空を彼は「眞空」と名づけ、眞空は即ち眞心の實地であると言ふのである。彼は此の色空之不到處即眞心實地を佛敎のみならず、儒道二敎をも引證しつゝ說明し、三敎一致の立場を示して居る。彼が自ら三敎主人と名のる所以であらう。

(藤田海龍)

般若心經憂鑊略註詳解 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-kaku-ban-ryaku-chū-sho-sō. ❷五卷 ❸存 ❹龍雲空性述 ❺元祿七刊 ❻(京大、日大本・二八)

般若心經記 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-ki. ❷一卷 ❸圓珍(弘仁五—寬平三 A. D. 814—891)述

❺大日本佛敎全書第二八智證大師全集第四に、般若心經釋義として「宥快鈔曰、智證心經釋之、此經一紙十七行文員二百七十言也云々。呆寶鈔心經問題(智證)云々」としてゐる。

❻(參考) 諸宗章疏錄第二、本朝台祖撰述害部書目、山家祖德撰述篇目集卷上

般若心經歸一錄 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-ki-ichi-roku. ❷一卷 ❸存 ❹浦上陳應(安政三—大正一五 A. D. 1856—1925)著 ❺大正一四刊 ❻大阪佛敎奉仕會

般若心經義 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-gi.(支)Pan-jo-hsin-ching-i. 般若心經疏 ❷一卷 ❸缺 ❹智圓法師述 ❺(參考) 寶嚴寺和尙請來法門道具等目錄

般若心經義光鈔 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-gi-kō-shō. (支) Pan-jo-hsin-ching-i-kuang-ch'ao. ❷三卷 ❸缺 ❹惠洗述 ❺(參考) 新編諸宗敎藏總錄第一

般若心經義釋 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-gi-shaku. ❷一卷 ❸存 ❹慈雲飲光(享保三—文化元 A. D. 1718—1804)述 ❺(參考) 諸籍目錄

般若心經義鈔 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-gi-shō. (支) Pan-jo-hsin-ching-i-ch'ao. ❷一卷 ❸缺 ❹淨澄(或作徹)述 ❺(參考) 新編諸宗敎藏總錄第一

般若心經聞書 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-kiki-gaki. ❷一卷 ❸存 ❹眞乘述 ❺寫本(曼殊院)

般若心經口義 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-kō-gi. (支) Pan-jo-hsin-ching-k'ou-i. ❷一卷 ❸存 ❹民國大圓著 ❺民國一〇刊 ❻(駒大) ❼上海佛學推行社

般若心經口譯 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-kō-tan. 心經口譯、龍溪禪師般若心經口譯 ❷一卷 ❸存、日本大藏經第一〇般若部章疏 ❹龍溪性潛(慶長七—寬文一〇 A. D. 1602—1670)述、元澄編 ❺寬文六(A. D. 1666)

❻日本黃檗宗の開祖普照國師隱元隆琦禪師の法嗣として隱元の京阪の地に入るとき、黃檗山の建立等に多大の力あつた大宗正統禪師龍溪性潛和尙が、寬文六年十一月(A. D. 1665)後水尾上皇の勅問によつて撰述したのが本書一卷である。性潛は如常老人と號し、始め濟下の僧となり慶安四年勅命あり て紫衣を賜ひ、妙心寺に宗要を擧揚し、隱元和尙の渡來を援けて黃檗開宗に最も力を致したもので、寬文十年八月二十三日洪水の難に遭ひ、壽六十九、夏五十二を以て順世したる時には、上皇痛嘆して食事を減じ給ふこと數日に及んだと云ふことである。從つて本書は平生歸依の厚かつた後水尾上皇を對機として其の獨旨に悟入せしめんとしたもので、六十五歲の圓熟した境界がよく表れて居る。正德六年大阪慶瑞寺より刊行し、日本大藏經にも收められて居る。侍者元澄の編。云く「問曰。般若心經者大部省要請佛心宗也。由是古來疏釋之者無數十家。皆是無不引祖引教引蔓衆。省要之旨可得而聞耶。師曰。若論省要即今不出陳下所問者。個個現說於沙界。敎機歸於微塵。六百廣說未曾爲廣。幾行略說未曾爲略。所謂諸法空相不增不減者也。凡夫得之修身立業。二乘得之斷惑證理。菩薩得之興業拔苦。所以道一切國土安土萬性快樂皆由此般若波羅蜜。陛下却委悉麼。不然喚起釋迦老子重與點發焉。」

❺正德六刊 ❻(駒大)(龍大、二四一二・五〇)

般若心經句義 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-ku-gi. (支) Pan-jo-hsin-ching-chü-i. 心經句義 ❷一卷 ❸存、卍續一・五九・二間經十二種之內 ❹清潛挺 ❺間經十二種の下參照。

般若心經句解易知 ❶(日) Han-nya-shin-gyō-ku-gei-i-chi. (支) Pan-jo-hsin-ching-chü-chieh-i-chih. 心經句解易知、般若波羅蜜多心經句解易知 ❷一卷 ❸存、卍續一・九二・五 ❹王澤注述 ❺清乾隆二九(A. D. 1764)

❻其名の示す如く專ら初心者の爲に書かれた物である。經文を顯密二分に分ち、更に顯分を七分密分を三分に分つて註解す。其顯分の七分とは初菩薩修證分、二色空正義分、三空生生滅分、四法離染淨分、五標顯無得分、六明善薩依分、七明諸佛依分、密分の三分とは初呪義結經分、二先出呪藏分、三標名說呪分である。終りに補遺として三十七道品が說明してある。

(藤田海龍)

般若心經科 ❶(日) Han-nya-shin-gyō-kwa. (支)Pan-jo-hsin-ching-k'o. ❷一卷 ❸缺 ❹志延述 ❺(參考) 新編諸宗敎藏總錄第一

般若心經科文 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-kwa-mon. 心經科文 ❷一卷 ❸圓珍(弘仁五—寬平三 A. D. 814—891)撰 ❺(參考) 山家祖德撰述篇目集卷上

般若心經科文 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-kwa-mon. ❷一卷 ❸存 ❹夢通記

❺文明元(A. D. 1469) ❻寫本(眞如藏)

般若心經貫義 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-kwan-gi. (支) Pan-jo-hsin-ching-kuan-i. 心經貫義 ❷一卷 ❸存、卍續一・四一・五 ❹明弘贊述

❺總字數四百字餘りの頗る簡單な心經の梗概書である。終りに大般若經の中より般若受持の功德を說ける部分を引用して是を附加し、玄奘護天の際常に觀音を念じ心經を讀誦したる事、惡鬼に遭ひし際觀音を念じて退散せず心經を頌して始めて全部退散せる事等を述べて、心經の讀頌を勸めて居る。

(藤田海龍)

般若心經環中鈔 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-kwan-chū-shō. (支)Pan-jo-hsin-ching-huan-chung-ch'ao. ❷二卷鈔一卷 ❸缺 ❹憲鑑述 ❺(參考) 新編諸宗敎藏總錄第一

般若心經關註傳 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-kwan-chū-den. ❷一卷 ❸存 ❹玄樓奧龍(享保五—文化一〇 A. D. 1720—1813) ❺明治一七刊 ❻(帝國、一四一・一九五)

般若心經解 ❶(日) Han-nya-shin-gyō-ge. 心經解 ❷一卷 ❸存、日本大藏經第一〇般若部章疏、一休和尙全集 ❹一休宗純(應永元—文明一三 A. D. 1394—1481)述

❺本書は大德寺二十三世住持宗曇禪師の法嗣として、大德四十八世の法燈を揚げ、當時の敎界の惡弊を痛罵し、發憤たる禪機、卓爾たる識見を以て萬人に敬仰され、また其の殷勤平易の敎化を以て最も民衆に親しまれて居る一休宗純禪師が、平易なる和文を以て、深玄なる佛敎哲理を說いた是の心經を簡明に說き示したものである。天明本天保十五年本などがあつて繪四葉、辻本基定の撰出した和歌數十首を揮んで居る。(日本大藏經にも收められて居る。)

其の要に云く「此の經は則ち自心をさしていふなり。文字に書きたるは文學般若なり。自心をはなれて外に文字にて書きたる

般若心經解 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-ge. (支)Pan-jo-hsin-ching-chieh. 般若心經註 ❷一卷 ❸存、般若心經三注(卍續一・四一・四)之內 ❹唐慧忠述 ❺般若心經三注の下を見よ。 ❻(參考) 諸籍志卷下

般若心經解 ❶(日) Han-nya-shin-gyō-ge. (支)Pan-jo-hsin-ching-chieh. 心經解 ❷一卷 ❸存、卍續一・四二・一 ❹清徐昌治(一康熙六〇 A. D. 1721—)述

❺徐昌治の著す所を、徐升貞、徐乾貞、徐拱楨、徐曙貞の校正せるものである。

(藤田海龍)

般若心經解 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-ge. (支)Pan-jo-hsin-ching-chieh. 般若心經註 ❷一卷 ❸存、日本大藏經第一〇般若部章疏、一休和尙全集 ❹一休宗純(應永元—文明一三 A. D. 1394—1481)述

❺本書は大德寺二十三世住持宗曇禪師の法嗣として、大德四十八世の法燈を揚げ、當時の敎界の惡弊を痛罵し、發憤たる禪機、卓爾たる識見を以て萬人に敬仰され、また其の殷勤平易の敎化を以て最も民衆に親しまれて居る一休宗純禪師が、平易なる和文を以て、深玄なる佛敎哲理を說いた是の心經を簡明に說き示したものである。天明本天保十五年本などがあつて繪四葉、辻本基定の撰出した和歌數十首を揮んで居る。(日本大藏經にも收められて居る。)

其の要に云く「此の經は則ち自心をさしていふなり。文字に書きたるは文學般若なり。自心をはなれて外に文字にて書きたる

經をもとめなば、是れ則ち愚癡の心なり。はんにやの智慧にそむくなり。念々皆般若經なり。ただ口にとくばかりにて、こころはんにやならねば、隔のたからをかぞへるがごとし。佛この經をとき給ふことは、はんにや本覺の智慧をもつて、一切の衆生をして妄心妄念を除き正きしめて、生死大海のこの岸をわかれて、不生不滅のねはんの彼岸にいたらしめて、衆生をして本心本性を見せしめんがためなり」とある。

（大久保堅璃）

般若心經解義 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-kai. (支)Pan-jo-hsin-chieh-i. 心經解義 ❷1卷 ❸存、卍續1・九二・五 ❹徐槐廷述 ❺清咸豐七(A. D. 1857)

❶經文を註、論、講の三項に分つて說明してある。註は主として文々句々の意義を說き、論は全文の思想的解說、講は經文を平易に書き直したものである。最後に總解を附して、心經の說者、科段、大乘經典中に占む可き地位等を說明す。

（藤田海觀）

般若心經解義節要 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-gi-setsu-yō. (支)Pan-jo-hsin-ching-chieh-i-chieh-yao. 心經解義節要 ❷1卷 ❸存、卍續1・四1・五 ❹明宋謙遜 ❺嘉靖一二(A. D. 1533)

❶本書は明の臨林學士宋登護(無念居士)が玄奘譯の心經に依つて、(一)唐の賢首大師法藏の疏。(二)宋の西湖孤山無外智圓の疏。(三)元の梵溪、古雲元粹の註。(四)元の佛海大師貫溪性證の註。(五)明の天界寺季潭宗潑の註解など、心經の奥義を註解した五つの解義書の精要を採錄し、此れに宋謙自らの釋をも加へて心經の解義節要を成したものである。

明の世宗帝嘉靖十二年五月(A. D. 1533)解義節要を編述する所以を自序して居る。云く「其文古其義奥其語約而其指趣綜括無遺予燕處惟於愛、問ふ此經一切諸家解義之繁、及授其精切者、錄之將以俟得佛書之三昧者質之焉。」とある如く、簡約なる諸家の解義を列記して居るので彼此對照して考究に便利である。

❹慶安三刊(高大、寄・1・二三)元祿八刊(龍大、二四1二・五二)

（大久保堅璃）

般若心經決談抄 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-ketsu-dan-shō. ❷1卷 ❸存 ❹浅道道義述 ❺明和二刊(駒大×龍大、二四1二・五二)天保1二刊(高大、寄・1・二三)

般若心經研究 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-ken-kyū. ❷1卷 ❸存 ❹大正元刊 ❺(龍大、二四1二・五五)

般若心經顯宗記 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-ken-shō-ki. (支)Pan-jo-hsin-ching-hsien-tsung-chi. ❷2卷 ❸缺 ❹宋代廣教授錄述 ❺(參考) 新編諸宗教藏總錄第二、諸宗章疏錄第二

般若心經顯正記 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-ken-shō-ki. (支)Pan-jo-hsin-ching-hsien-chêng-chi. 般若心經略疏顯正記、般若心經疏顯正記、心經略疏顯正記、心經疏顯正記 ❷3卷 ❸存、卍續1・四1・四 ❹唐法藏(貞觀一七—先天元A. D. 643—712)述、宋仲希說 ❺般若心經略疏顯正記の下を見よ ❻(參考) 新編諸宗教藏總錄第一 ❼明暦三刊 ❽(帝國、八二一・六六)

般若心經顯正記闡義 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-ken-shō-ki-ketsu-gi. 心經顯正記闡義 ❷1卷 ❸存 ❹無著道忠(永應二—延享元A. D.1653—1744) ❺(參考) 禪籍目錄

般若心經玄談 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-gen-dan. 科註般若心經玄談 ❷1卷 ❸存 ❹寂性述 ❺元祿五刊 ❻(高大、寄・1・二三)

般若心經古迹記 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-ko-shaku-ki. (支)Pan-jo-hsin-ching-ku-chi-chi. ❷1卷 ❸缺 ❹新羅太賢(景德王一二A. D. 753—)述 ❺(參考) 新編諸宗教藏總錄第一

般若心經古註 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-ko-chū. 校定般若心經古註 ❷1卷 ❸存 ❹瑞方西山(天和三—明和六 A. D. 1683—1769)校 ❺(參考) 禪籍目錄

般若心經五家註 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-go-ke-chū. (支)Pan-jo-hsin-ching-wu-chia-chu. ❷1卷 ❸存

❶般若心經疏、唐、靖邁。卍續1・四1・三)。般若波羅蜜多心經略疏、唐、法藏。卍續1・四1・四)。般若波羅蜜多心經註解(明、宗潑如玘共註)。般若心經直說(明、德清)卍續1・四1・五)。般若心經釋要(明、智旭)を輯む。各項の下を見よ。

❺同治八—光緒二三刊 ❻(寄、高大、藏・五八・三)

般若心經五分觀念誦法要 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-go-bun-kwan-nen-ju-hō-yō. ❷1冊 ❸存 ❹寫本(高大、1・二三)

般若心經綱要 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-kō-yō. ❷1卷 ❸存 ❹大內青巒(弘化二—大正七A. D 1845—1918)述 ❺明治四三刊 ❻東京鴻盟社

般若心經講義 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-kō-gi. ❷存、佛教文學講座第1輯 ❸原坦山(文政二—明治二五 A. D. 1819—1892)述 ❺明治二六刊 ❻(駒大)

般若心經講義 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-kō-gi. ❷1卷 ❸存 ❹北野元峰(天保1三—昭和八 A. D. 1832—1933)述 ❺明治四〇刊 ❻(駒大)

般若心經講義 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-kō-gi. ❷1卷 ❸存 ❹大內青巒(天保1三—昭和八A. D. 1832—1933)述 ❺明治四三刊 ❻(駒大)

般若心經講義 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-kō-gi. ❷1卷 ❸存 ❹吉祥眞雄著 ❺大正八刊 ❻(大正大、一一二五・二三)(龍大、二四1二・五六)(駒大)

般若心經講義 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-kō-gi. ❷1卷 ❸存 ❹梅田無學述 ❺大正一二刊 ❻(駒大)

般若心經講義 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-kō-gi. ❷1卷 ❸存 ❹英雲外著 ❺大正一三再版 ❻(駒大)

般若心經講義 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-kō-gi. 通俗般若心經講義 ❷1卷 ❸存 ❹大內青巒(弘化二—大正七 A. D. 1845—1918) ❺大正一五刊 ❻東京森江

書店

般若心經講義並佛說法滅盡經講義 ❶(日) Han-nya-shin-gyō-kō-setsu-butsu-hō-metsu-jin-gyō-kō-gi. ❷1卷 ❸存 ❹大內青巒(弘化二—大正七A. D. 1845—1918)述 ❺大正一三刊 ❻(駒大) ❼東京光藏館

般若心經講要 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-kō-yō. ❷1卷 ❸存 ❹慧燈瘦空(安永九—文久二A. D. 1780—1862)述 ❺嘉永二刊 ❻(立大、A一一二・四六〇)(高大、寄・1・二三)(京大、日大未・二五)(哲、わ・四・中・1二)

般若心經講話 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-kō-wa. ❷1卷 ❸存 ❹雲門宥範(天保一四—大正九 A. D. 1843—1920)述 ❻(高大、寄・1・二三)

般若心經講話 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-kō-wa. ❷1卷 ❸存 ❹日孫讓山述 ❺明治三七刊 ❻(駒大)(帝國、三一八・一三七)

般若心經講話 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-kō-wa. 通俗般若心經講話 ❷1卷 ❸存 ❹小川義秀著 ❺大正六刊 ❻(駒大)

般若心經講話 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-kō-wa. ❷1冊 ❸存 ❹加藤咄堂著 ❺大正一一刊 ❻東京光藏館

般若心經講話 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-kō-wa. ❷1冊 ❸存 ❹橫尾賢宗著 ❺大正一一刊 ❻東京國民精神社

般若心經講話 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-kō-wa. 心經三注、般若波羅蜜多心經三注 ❷1卷 ❸存、卍續1・四1・四 ❹唐慧忠、宋遺楷、宋壞琛、師靜編

❶本書は六祖大鑑慧能禪師の法嗣である唐の南陽白崖山當子谷の大證禪師慧忠。投子義忠禪師の法嗣で芙蓉湖中の華嚴寺に住した青原下十二世、宋の定慧禪師遺楷。並に長蘆崇信禪師の法嗣である雲門下七世、宋の慈受懷深の三禪師が、心經に註釋されたものを近江國栗太郡老上村玉川山常德寺の大慧和尚が、般若心經の本隨解脫（眞如當體解脫）を決定し其の淵旨を了得せしめんが爲に註釋を加へて參學に示したものである。卷末には是の隨決一卷の旨趣を更に要約して心經論を述べて居る。明崇禎十四年八月(A. D. 1641)弟子の徐波及び桐溪の正性が序文を附し、大慧が本書の外に彌陀己決を撰述して居るので、續藏本に於ては此の貞享五年三月(A. D. 1688)加賀の大乘寺卍山道白禪師は、宇治の禪定寺月舟宗胡禪師が是の二注を梓行せられるに際して認めた其の跋文をも收めて居る。（大久保堅璃）

般若心經際決附淨土己決 ❶(日) Han-nya-shin-gyō-sai-ketsu-tsu-ketari-jō-do-ki-ketsu. (支)Pan-jo-hsin-ching-chi-chieh & ching-tu-chi-chieh. ❷1卷 ❸存、卍續1・四1・五 ❹明大慧 ❺前項の下參照。 ❻貞享五刊 ❼(谷大、餘大・二六八一)(龍大、二四1二・五七)(正大、一一二五・三五)

般若心經三注 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-san-chū. (支)Pan-jo-hsin-ching-san-chu. 心經三注、般若波羅蜜多心經三注 ❷1卷 ❸存、卍續1・四1・四 ❹唐慧忠、宋遺楷、宋壞琛、師靜編

❶本書は六祖大鑑慧能禪師の法嗣である唐の南陽白崖山當子谷の大證禪師慧忠。投子義忠禪師の法嗣で芙蓉湖中の華嚴寺に住した青原下十二世、宋の定慧禪師遺楷。並に長蘆崇信禪師の法嗣である雲門下七世、宋の慈受懷深の三禪師が、心經に註釋されたものを近江國栗太郡老上村玉川山常德寺の大慧和尚が編纂し、寛政三年春(A. D. 1791)重刊三註心經序を附し、常德寺藏板として京都樽枝軒をして流通せしめたものである。

底本は流通本の玄奘譯摩訶般若波羅蜜多心經に依つたもので、是れ等の卓越せる三尊宿の注釋を一括して見ることの出來るのは、確に好都合のものである。

❼寛政三刊 ❽(駒大)(谷大、餘大・三二一二)

（大久保堅璃）

般若心經贊 ❶(日) Han-nya-shin-gyō-san. (支)Pan-jo-hsin-ching-tsan. 般若心經疏、般若波羅蜜多心經贊、心經疏 ❷1卷 ❸存、大正三三・五四二No. 1712、卍續1・四1・四 ❹唐圓測(大業九—萬歲通天元 A. D. 613—695)述 ❺般若波羅蜜多心經贊の下を見よ。

般若心經贊 ❶(日) Han-nya-shin-gyō-san. ❷1卷 ❸存 ❹寫本(龍大、研佛)

般若心經止啼錢 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-shi-tei-sen. 心經止啼錢 ❷1卷 ❸存、日本大藏經第一〇般若部章疏 ❹天桂傳尊(慶安元—享保二〇A. D. 1648—1735)述

❶本書は德川中期に於ける日本曹洞の宗風を顯揚した屈指の宗匠で、面山瑞方和尚の復古的なる禪健清實の宗風に對して、侵襲漫測、宗乘中に混入する低劣なるものを廢し、批判的見地に立つて純禪を提唱した天桂傳尊禪師が、門下に說示されたものを侍者等が編錄したもので、簡明平易の假名注

名所行登❸（名車書）表紹所現❷月年の刊寫❶（書考參者註）書本❸說解有內❹代年作著❸者著❸秩存❹數卷❸（名）名題❶書名❶號略字數

釋である。

止啼錢とは、涅槃經嬰兒行品にある譬喩の、母が黄楊の葉を舐へて幼兒の啼きを止むるため錢なりと思はしむるが如く、佛法の眞體を了得せしむるため方便說法するの義に採つて題名したもので、本文中に本經は衆生をして涅槃に到らしめんがための說法なりと云ふを釋し、「實ニ明ムレバ本ヨリ涅槃ト云フモノナキナリ。生死ト云フモノヲ見ルニヨリテ、其ノ思想ヲ轉ゼンガタメニ涅槃ト云フ美言ヲ說イテ、シバラク取替ヘタルモノナリ。生死ノ念絡ヲヘタヘラバ、アトニハ何モ殘ルモノナシ。此意容易ニ體得シガタシ。佛學ノ者多ハ涅槃ト云フモノヲ死抱シテ、萬劫ノ繫縛根トナリ、酒々落々ナルモノ少シ。」とある如き、誠によく其の提唱の態を傳へて居る。禪師には本書の外に、正法眼藏辨註二十卷。報恩編。法寶壇經海水一滴各一卷等が有名である。

⑩寛延四刊(龍大、二四一二・六一) 寫本(高大、寄・一・二三)

(大久保堅璃)

般若心經止啼錢 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-shi-tei-sen. 再刻般若心經止啼錢 ❷一卷 ❸存 ❹天桂傳尊(慶安元—享保二〇 A. D. 1648—1735)述、大溪雪晨校 ❺明治九刊 ❻(帝國、一四一・一二三)(駒大)(龍大、二四一二・六二)

般若心經私鈔 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-shi-shō. ❷一册 ❸存 ❺元祿三刊 ❻(高大、寄・一・二三)

般若心經指掌 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-shi-shō. (支)Pan-jo-hsin-ching-chih-chang. 心經指掌 ❷一卷 ❸存、卍續一・四二・一 ❹明元賢(萬曆六—永曆一一 A. D. 1578—1657)述

⑪江西建昌府壽昌の無明慧經禪師の法嗣で青原下三十五世福州鼓山湧泉寺の永覺元賢禪師が、七十七歲の明永曆八年七月佛歡喜日に自序して本書を撰述したもので、卷首に自序並に明永曆十一年十月七日(A. D. 1657)壽八十歲を以て示寂された永覺和尚が生前に作られに八十歲の時の自贊をも收めて居る。

本書撰述の主旨は、心經を註釋せる諸家の見解を觀るに其の玄旨の堂奧に達つて居るのは極めて罕であるが、唯だ賢首大師法藏と西湖孤山の無外智圓との二疏は優れて居るが、法壇の老師だけあつて廣く經論を探査し筆端を布いて初學者に通解し難い所があるので本書を撰して是れが指掌と爲り、學人をして萬里の行を跬步より起すが如く、本書を通じて般若無知諸法本寂の玄奧を神悟し眞源に妙契せしめんとしたものである。四十歲にして出家した永覺和尚なるが故に是の婆心親切があり亦た註釋の上にも其れが現れて簡明に要綱を說き明して居るので、其の法嗣である爲霖道霈禪師の諸篇說と共に親しまれて居るのである。

❺貞享四刊 ❻(龍大、二四一二・六〇)(高大、寄・一・二三)

(大久保堅璃)

般若心經指針 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-shi-shin. ❷一卷 ❸存 ❹愚禪(無學) ❺大正一五寫 ❻(駒大)

般若心經事親解 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-ji-kwan-ge. (支)Pan-jo-hsin-ching-shih-ku-pi-chieh. 心經事親解 ❷一卷 ❸存、卍續一・九二・五 ❹續法述 ❺清康熙四二(A. D. 1703)

❻同じ著者の般若心經理性解と二部作を作し、教・觀、性・相、禪・用等に當てはめて居る。經文を釋するに一教起因緣、二藏乘分機、三時會例定、四教觀分齊、五所被機宜、六能詮體性、七宗趣通局、八翻譯傳流、九總釋經題、十別解文義の十門分別をなして居る。

❺康熙五八刊 (藤田海龍)

般若心經直說 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-jiki-setsu. (支)Pan-jo-hsin-ching-chih-shuo. 心經直說、般若波羅蜜多心經直說 ❷一卷 ❸存、卍續一・四一・五 ❹明德清(寛靖二五—天啓三 A. D. 1546—1623)述

❻明末の佛教界に蓮池大師雲棲袾宏、紫柏大師達觀眞可と共に三大師として尊崇される憨山德清禪師が、人人本有の心光を知らずして妄想昏迷し、自ら本眞を昧すことを憐み、般若眞空を說き、生死を出離して涅槃の眞樂を得せしめんが爲に註釋したもので、其の說く所、平易淳實で初學者には入り易いものであろう。卷末には楞嚴經直指の著者である丹霞の天然函昰の跋文を收めて居る。

(大久保堅璃)

般若心經直談 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-jiki-dan. (支)Pan-jo-hsin-ching-chih-t'an. 心經直談 ❷一卷 ❸存、卍續一・四一・五 ❹明眞可(嘉靖二二—萬曆三一 A. D. 1543—1603)述

❻本書は般若心經の各句の深義を提唱的に示して端的に其の玄旨を了得せしめんとしたもので、注解が字句の解釋に忠實であるのに對して直說は直に本源を說じて其の堂奧に參ぜしめんとしたものである。紫柏尊者全集卷十一にも收められて居る。

❺萬治三刊 ❻(龍大、二四一二・五九)

(大久保堅璃)

般若心經七本異譯 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-shichi-hon-i-yaku. ❷一帖 ❸存 ❺德川時代寫 ❻(寶龜院)

般若心經釋 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-shaku. 心經釋、摩訶般若心經釋 ❷一卷 ❸存、日本大藏經第一〇般若部章疏 大日本佛教全書第二四天台小部集釋、傳教大師全集(新)第三 ❹叡山(神護景雲元—弘仁一三 A. D. 767—822)述 ❻心經釋の下を見よ。 ❷(參考)山家眞德撰述當目集卷上 ❺寛文五刊 ❻(高大、寄・一・二三)

般若心經釋 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-shaku. 心經釋 ❷殘缺一卷 ❸存、大日本佛教全書第二八智證大師全集第四 ❹圓珍(弘仁五—寛平三 A. D. 814—891)一說寛平四、年七八寂)

❻佛教全書の智證大師全集第四に收めて居る本書は殘缺の一部であつて宥快鈔の中の引文を示して居る。即ち「智證心經釋云此經一紙十七行文目二百七十四言也云々呈寶鈔心經開題智證云々」とあるに過ぎない。然し山家諸師撰述目錄・山家眞德撰述當目集に般若心經記一卷・般若心經斜文一卷の

名を出し、登壇の智證大師書錄第一には大般若抄六卷・大般若經開題一卷・心經斜文一卷を撰述として居る如く圓珍が般若經典に留意した事は解るが、今此等を見ることが出來ずに僅に殘缺の一端を知るにとどまるのみ。凡らく大師の眞撰であらう。

(渡邊最昌)

般若心經釋 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-shaku. (支)Pan-jo-shin-ching-shih. 山家大師心經釋 ❷存 ❸龍谷大學本は陪智顗述とす。 ❺寛文一三刊 ❻(龍大、研佛)

般若心經釋義 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-shaku-gi. (支)Pan-jo-hsin-ching-shih-i. 心經釋義、心經註義、般若波羅蜜多心經釋義 ❷一卷 ❸存、卍續一・四一・五 ❹謝觀光述 ❺明萬曆一五(A. D. 1587)

❻同じく謝觀光著す所の心經釋疑と姉妹編を爲す。自序に言ふが如く主として法藏の心經略疏と文才の註慧燈集とに據りて經文を敷衍せるものである。特に法藏の疏を重んじ、其の序を其の儘揭げて以て自著の序と爲して居る程である。有髮僧了幻胡孝之れを校閲し、彼の後跋が附してある。

(藤田海龍)

般若心經釋疑 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-shaku-gi. (支)Pan-jo-hsin-ching-shih-i. 心經釋疑、般若波羅蜜多心經釋疑 ❷一卷 ❸存、卍續一・四一・五 ❹謝觀光述 ❺明萬曆一五(A. D. 1587)

❻觀光之を釋し胡光之を校閲せる物で、心經釋義と姉妹篇を爲し、幾崇許徹の前叙と胡孝の後跋が附してある。釋義が簡單に經文を敷衍せるに對し、是は相當に詳しく他の諸註釋との相違から生ずる疑點疑點等に對して釋明を爲して居る。釋疑の名ある所以である。經文の釋義を終つて後、「問涅槃又曰實相又云空相又曰眞性一異二異、問佛家亦擯人倫否」の三問を設定して、明快な解答を與へて居る。第一問に對しては涅槃は死に非ずして死生を超越せる自在な活動なる事、第二問に對しては何れも眞性の異名に過ぎざる事、及び身心の相依關係により心眞となれば身も亦眞となり共に自在の活動に入るを述べて二乘の身心を揑亡するを却け、第三問に對しては佛教は出世間であつて世俗に塗離して心を存するに拂め、彼れ人倫を擯ける暇無きを述べて、異端の見を甘受すると言つて居る。

(藤田海龍)

般若心經釋要 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-shaku-yō. (支)Pan-jo-hsin-ching-shih-yao. 心經釋要、般若波羅蜜多心經釋要 ❷一卷 ❸存、卍續一・四一・五 ❹明智旭(萬曆二七—永曆九 A. D. 1599—1655)述

❻智旭の般若心經の註釋なれば全く天台學的立場に立つは當然である。即ち心經の心を吾人現前一念介爾之心と爲し、心法に約して般若を顯示するのが般若心經一卷の趣旨であり、他の大般若六百餘卷の經典は佛法及び衆生法に約して廣く般若を明してあるとす。而して心佛衆生三無差別なるが故に結局は一途に歸するのではあるが、生法の太廣、佛法の太高に比して、初心者には觀心を易しと爲す天台宗の本來の立場に立つて心經の大般若經中に於ける位地を明瞭ならしめて居る。

❺天和三刊 ❻(谷大、長保・二三五)(龍大、二四一二・六三)(高大、寄・一・二三)

(藤田海龍)

般若心經釋要講述 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-shaku-yō-kō-jutsu. ❷一卷 ❸存 ❹開誠(明和八—天保一二 A. D. 1771—1831)述 ❻寫本(龍大、研佛)

般若心經釋要合摘鈔 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-shaku-yō-gō-chaku-shō. 一册 ❸存 ❻刊本(高大、寄・一・二三)

般若心經釋要俗談 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-shaku-yō-zoku-dan. 心經釋要俗談 ❷一卷 ❸存 ❹雲空光謙(承應元—元文四 A. D. 1652—1739)述 ❺元文元刊 ❻(龍大、二四一二・六六)

般若心經釋略 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-shaku-ryaku. (支)Pan-jo-hsin-ching-shih-lüe. 心經釋略 ❷一卷 ❸存、卍續一・四一・五 ❹明林兆恩述

❻明人林兆恩の著す所を、其門人王興重閲し表希朱校正せるものである。同じ著者の般若心經概論と二部作をなし、(本書般若心經槃論の項參照)、概論が心經の中心思想を概說せるに對し、是は經文の一々に就きて略釋せるものである。今摩訶般若波羅蜜多心經の經題に就いて概論で述べた中心思想を如何に當てはむるかを見るに、般若即ち智慧は實地の眞心であり、波羅蜜到彼岸の彼岸は眞心の實地即ち色空之所不到處であると言ふ。多は實地中一法の得可き無くして而も萬法皆是より生ずるからであり、心經とは吾心の眞經なりと說明す。全編の趣旨亦此の開題の思想を出でない。

(藤田海龍)

般若心經頌 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-ju. (支)Pan-jo-hsin-ching-sung. ❷一卷 ❸存、少室六門(大正四八No. 2009、卍二・一八・五)之內

❻本書は、梁の菩提達磨大師の述作と傳へられて居る少室六門の第一門に收められて居るもので、唐の玄奘三藏譯の般若心經を頌したものである。即ち大師の滅後大約百二十年に譯出された經典を頌することになるので、此の第一門心經頌とは後人が大師に托して頌したものである。題號とも二百七十二字の是の心經一卷を三十七項に分ち各項を五字八句を以て其の玄旨を頌出せんとしたものである。其の一例を示せば「色即是空空即是色」と題して、非空空不有、非色色無礙形、色空同歸一、淨土得安寧、非空空爲妙、非色色分明、色空皆非相、甚處立身形。

(大久保堅璃)

般若心經頌鈔 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-ju-shō. ❷三卷 ❸存 ❷(參考)禪籍目錄

般若心經集 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-shū. ❷一卷 ❸存 ❹刊本(谷大、餘大・二九六五)

般若心經集解 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-shū-ge. (支)Pan-jo-hsin-ching-chi-

名所行從●(名家書)承認所現●月年の刊寫●(書考參書解註)書名●說解各內●代年作著●書著●缺存●數卷●(名)名題●號略字數

chich. ❷四卷朴一卷 ❸缺 ❹智顗述 ❼〔参考〕新編諸宗教藏總錄第一

般若心經述義 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-jutsu-gi. 心經述義、心經述記、般若心經述記、摩訶般若波羅蜜多心經述義 ❷一卷 ❸存、大正五七・三 No. 2202、日本大藏經第一〇般若部章疏、大日本佛教全書第六 ❹智光述

❺本書は日本三論の大成者にして智光曼荼羅にて有名なる元興寺智光の撰述にかゝるものにして、もと智光の年代甚る不明なりしも、讀書の世に公にせらるゝやその序文に於て明瞭となるに至る。內容は般若心經の註釋にて四段を以て分別し、一に題目を釋し、四に隨文解釋せるものにて、文義共に豐かにして、慈恩・圓測等の法相家を論破し、自宗三論の宗意を明にせるは千古の傑觀である。

❻寛文六寫(谷大、餘大・三九五二)、享保二刊(駒大)(龍大・二四一二・六七)刊本(高大、書・一・二三)(京專)(橋本凝胤)

般若心經疏 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-sho.(支)Pan-jo-hsin-ching-su. ❷一卷 ❸缺 ❹新羅元曉(眞平王三九 A. D. 617—)述 ❼〔参考〕新編諸宗教藏總錄第一

般若心經疏 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-sho.(支)Pan-jo-hsin-ching-su. 般若波羅蜜多心經贊、般若心經贊、心經疏 ❷一卷 ❸存、大正三三・五四二 No. 1711、卍續一・四一・四 ❹唐圓測(大業九—萬歲通天元 A. D. 613—695)述 ❺般若波羅蜜多心經贊の下を見よ。 ❼〔参考〕新編諸宗教藏總錄第一、東域傳燈目錄卷上、諸宗章疏錄第一、注進法相宗章疏、奈良朝現在一切經疏目錄2072

般若心經疏 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-sho.(支)Pan-jo-hsin-ching-su. 般若波羅蜜多心經疏、心經疏 ❷一卷 ❸存、卍續一・四一・三 ❹唐靖邁述

❺本書は玄奘三藏譯般若波羅蜜多心經を註釋せるものにして、法相家の教學より般若空教を批判せるものである。內容は四門を以て分別し、第一始無如是修圓奉行所由を明し、第二說般若意を明し、第三教宗旨を明し、第四分文解釋せるも、第二說般若意第三教宗旨等に於て相宗因果緣起三性三無性を說き、以て相宗空觀を闡明せる點は特に注意すべきである。

❼〔参考〕東域傳燈目錄卷上(橋本凝胤)

般若心經疏 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-sho.(支)Pan-jo-hsin-ching-su. 般若波羅蜜多心經略疏、般若波羅蜜多心經疏、心經略疏 ❷一卷 ❸存、大正三三・五五一 No. 1712、續呂八、卍三四・一〇、明北1592百、清1495勅、明南1535清、No. 139) ❹唐法藏(貞觀一七—先天元 A. D. 643—712)述 ❺般若波羅蜜多心經略疏の下を見よ。 ❼〔参考〕新編諸宗教藏總錄第一、東域傳燈目錄卷上、諸宗章疏錄第一、智證大師請來目錄 ❾同治八刊(谷大、餘大・一一〇六)應永七刊(京專)

般若心經疏 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-sho.(支)Pan-jo-hsin-ching-su. 般若波羅蜜多心經疏、心經疏 ❷一卷 ❸存、卍續一・四一・三 ❹唐慧淨(太建一〇—貞觀一九 A. D. 578—645)述

❺本書は般若心經を細註せるものにして、心經註釋書飯る多きも、本書の如きは特に詳細を極めたるものである。內容は十門を以て分別し、第一初入觀門緣起分、第二了蘊虛通度厄分、第三空色一如無二分、第四垢淨唯眞無妄分、第五十二入中如幻分、第六三藏體同名異分、第七三乘增減俱空分、第八顯勝明空離障分、第九大智乘因至果分、第十護經流通神咒分と分科して註釋し、說に同元三年九月臺州大雲寺に於て得とあり、以て撰述年時を去る遠からずして世に行はれしを知り得るのである。(橋本凝胤)

般若心經疏 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-sho.(支)Pan-jo-hsin-ching-su. 般若心經略疏、心經略疏、心經疏、大飾將來心經疏 ❷一卷 ❸存、卍續一・四一・四、大日本佛教全書第二四天台小部集釋 ❹唐明曠述 ❺寛文二刊(龍大、研佛)

般若心經疏 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-sho.(支)Pan-jo-hsin-ching-su. ❷一卷 ❸缺 ❹智詵述 ❼〔参考〕新編諸宗教藏總錄第一

般若心經疏 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-sho.(支)Pan-jo-hsin-ching-su. ❷一卷 ❸缺 ❹智圓(太平興國元—乾興元 A. D. 976—1022)述 ❼宋天禧元(A. D. 1017)

❺本書は智圓が心經を三觀の深義によつて解釋し、『疏』を作つた。然るに後世に及んで誤解する者が經意に悉ふようになつては反つて害となる。故に老婆心を奮つて本鈔を作つたのである。卷初に概略して撰述の旨意を記し、次に二段に大分。先づ題目を標釋し、次に本文を釋す。題目を釋するに二。一に總題を解し、二に撰述者智圓の略傳を記す。次に本文を釋するにまた二。一に總序を解し、二に般若を明す。一々疏の文を擧げて次に解說すること詳細である。心經を解釋するものに支那では法相宗・華嚴宗・禪宗・天台宗の四種の別がある。天台宗の解釋に明曠の說と智圓說とは其間に詳略の別のみでなく、其教觀の解釋にも相違がある。故に兩疏を併せ見るべきである。

(田島德晉)

五八・四)

般若心經疏 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-sho.(支)Pan-jo-hsin-ching-su. 般若心經略疏、心經略疏 ❷一卷 ❸存、卍續一・四一・四、大日本佛教全書第二四天台小部集釋 ❹唐明曠述

❺本書は天台教觀に立脚して心經を註解したもので、妙樂門人明曠述」と卷初に撰者名を揭げ、又統紀作者志磬も『山家教典志』(統紀二五)に明曠撰であると認めてゐるが恐らくは後人假託の書であらう。寛文十三年に大阪心齊橋筋安道寺町本屋市兵衛の板本である『大飾將來般若心經五譯疏釋』(湯川冷水寺蓮教僧都の合刻なるものにも、「章安門人明曠述。傳教大師將來」とあり、又この冷水寺本の卷末に『異朝台門諸師心經注疏考』が附記してある。こゝでも「天台明曠師ノ心經略疏一卷。本朝傳教大師將來」と記す。『天台小部集釋』は卍續本と同じく「妙樂門人明曠述」と記す。元來、明曠の傳は未詳だが概略は『梵網經疏』の解說の下で說述して置いた如く、章安門人ではなく妙樂大師荊溪湛然の弟子である。荊溪門下の明曠が玄奘三藏譯の般若心經を註することは信じられない。荊溪は新譯家の說に反對した人である。其の弟子が新譯本を註することは疑はしい。疑點の第二は卷初に「大日之光」とか「念誦觀行之蘇」とか「言語觀行的な語を用ゐてゐることである。卍續本の跋語に勢州因幡寺義滿は「智者大師は內に祕密を證すれども外には顯教を說かる。荊溪と一行とは互ひに相ひ師資となつて圓と密とを授受せらる。故に荊川(明曠のこと)は荊溪の門に入り心經疏を出せり。大日の慧光を照し觀音の深行を明し顯を辨じ密を辨じて遺餘處無なり」といふ。これは一說として聞き說くに留まるべきもの。到底信用し得られないもの。第三の疑點は圓測の疏の說を用ゐてゐること。例せば「度一切苦厄」の下で四種說を出すが如きがそれ。第四疑は傳教大師將來越州錄には『般若心經略疏一卷』とあつて「明曠述」とも何とも記してゐない。『心經略疏』は法藏述にあるから、恐らく法藏本を將來したのではなからうか。上記の如き疑難があるが故に本書は僞撰と認むべきが妥當であらう。本書は卷首に總序を附して心經は發心即到を明したものだといひ、晴に顯密の一致を云はんとしてゐる。次に題目を釋す。但し本書は窺基・圓測・法藏等とは異つて「摩訶般若波羅蜜多心經」と題す。空海の般若心經祕鍵には「最覺三藏の翻題には佛說摩訶の四字なし」といふ。若し然らば「摩訶般若波羅蜜多心經」なる經題は本書が初めて用ゐたと云はるべきである。次に觀自在菩薩以下經文を略釋。註に於いて一貫した思想は天台大師の四教三觀の義に依つて經文を解したもの。文句は簡潔精微。能く天台宗の根本義に則つて心經を解說してゐる。僞撰ではあるが、餘程立派な學匠の執筆になるものと考へられる。猶、本書の百八煩惱の數へ方は他に類似したものがないことは注意すべきである。本書は多くの心經註釋がありその中でも傑作の一であると思はれる。

(田島德晉)

❼〔参考〕佛教大師將來越州錄、大唐國法華宗章疏目錄、諸宗章疏錄第二、佛祖統紀第二五(大正四九)

般若心經疏 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-sho. ❸存、的門上人全集第五

般若心經疏 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-sho. 頭書般若心經疏 ❷一冊 ❸存 ❺寛文二刊 ❾(高大、書・一・二三)

般若心經疏詒謀鈔 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-sho-i-mō-shō.(支)Pan-jo-hsin-ching-sa-i-mou-ch'ao. 心經疏詒謀鈔、般若心經詒謀鈔 ❷一卷 ❸存、卍續一・四一・四 ❹智圓(太平興國元—乾興元 A. D. 976—1022)述 ❺宋天禧元(A. D. 1017)

❻本書は智圓が心經を三觀の深義によつて解釋し、『疏』を作つた。然るに後世に及んで誤解する者が經意に悉ふようになつては反つて害となる。故に老婆心を奮つて本鈔を作つたのである。卷初に概略して撰述の旨意を記し、次に二段に大分。先づ題目を標釋し、次に本文を釋す。題目を釋するに二。一に總題を解し、二に撰述者智圓の略傳を記す。次に本文を釋するにまた二。一に總序を解し、二に般若を明す。一々疏の文を擧げて次に解說すること詳細である。心經を解釋するものに支那では法相宗・華嚴宗・禪宗・天台宗の四種の別がある。天台宗の解釋に明曠の說と智圓說とは其間に詳略の別のみでなく、其教觀の解釋にも相違がある。故に兩疏を併せ見るべきである。

(田島德晉)

般若心經疏記科考 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-sho-ki-kwa-kō ❷一卷 ❸存 ❺延寶二刊 ❾(貴、ゐ・四・右・一四、一六)(駒大)

般若心經疏記科考 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-sho-ki-kwa-kō. 首書般若心經疏記科考 ❷三卷 ❸存 ❺延寶三刊 ❾(龍大・二四一二・六八)

般若心經疏管見錄 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-sho-kwan-ken-roku- ❷一卷 ❸存 ❹橘和上述 ❾(京專)

般若心經疏顯正記 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-sho-ken-shō-ki.(支)Pan-jo-hsin-ching-su-hsien-cheng-chi. 般若心經略疏顯正記、般若心經略疏顯正記、心經略疏顯正記、心經疏顯正記 ❷三卷 ❸存、卍續一・四一・四 ❹唐法藏(貞觀一七—先天元 A. D. 643—712)述、宋仲希說 ❻般若心經略疏顯正記の下を見よ。

般若心經疏顯正記 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-sho-ken-shō-ki. 校正首註般若心經疏顯正記 ❷三冊 ❸存 ❺正德五刊 ❾(龍大・二四一二・六九)(高大、書・一・二三)(京大、藏・五八・五)(高大、一・二三)

般若心經疏集 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-sho-shū. ❷一卷 ❹圓仁(延曆一三—貞觀六 A. D. 794—834) ❼〔参考〕東域傳燈目錄卷上、本朝台疏撰述書部書目、山家疏德撰述篇目集卷上

般若心經疏集抄 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-sho-shō-shō. (支)Pan-jo-hsin-

ching-ta-chi-ch'ao. 心經疏集鈔 ❷一卷 ❸缺 ❹善道集 ❺(參考) 東域傳燈目錄 卷上

般若心經疏略註 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-sho-ryaku-chū. ❷一卷 ❸存、昭遍和尚全集第二 ❹上田照遍(文政一一—明治四〇 A. D. 1828—1907)述 ❺刊本(京專)

般若心經諸譯互證 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-sho-yaku-go-shō. ❷一冊 ❸存 ❹慈雲飲光(享保三—文化元 A. D. 1718—1804) ❺刊本(高大、寄・一・二三)

般若心經小談 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-shō-dan. (支) Pan-jo-hsin-ching-hsiao-t'an. 心經小談 ❷一卷 ❸存、卍續一・四一・五 ❹明觀衡述 ❺總字數一千字を出でざる文字通りの小談である。全經を觀自在の三字に歸して說明す。即ち經文初頭の照見五蘊皆空を觀とし、度一切苦厄を自在となして略して三字の大意を明すとなし、以下は其義を講明せるものとなして居る。 (藤田海龍)

般若心經正眼 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-sho-gen. (支) Pan-jo-hsin-ching-cheng-yan. 心經正眼 ❸存、卍續一・四一・五 ❹明大文述 ❺經文を、一釋名題、二能修人、三明般若體、四明般若用、五正示三觀工夫、六承諸法本不生滅、七述空中本無諸法、八無得而得、九讚深般若、十密說般若の十段に分つて說明す。全文を通じて、特に五正示三觀工夫に示さるるが如く、全く天台學の立場に立つて說明してある。 ❻元祿八刊 ❼(龍大、二四一二・七二) (藤田海龍)

般若心經抄 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-shō. (支)Pan-jo-hsin-ching-ch'hao. ❷一卷 ❸(參考) 奈良朝現在一切經疏目錄 2261

般若心經鈔 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-shō. ❷一冊 ❸存 ❹祖瑾(寶祿二—寶元二 A. D. 1225—1304)述 ❺刊本(高大、寄・一・二三)

般若心經鈔 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-shō. 般若心經註、般若心經和解、心經和解、心經抄 ❷一卷 ❸存、般若門法語集之內 ❹盤珪永琢(元和七—永祿六 A. D. 1621—1693)述 ❺播摩國網干の龍門寺開山である、大法正眼國師佛智弘濟禪師盤珪永琢和尚が示された心經の假名抄である。

盤珪和尚は濟下に於ける近世の巨匠で、其の綿密なる行業と平易なる說法とは、其の自引歌又は法語に依つて民衆に親しまれたものである。愚堂東寧、道者超元等に歷參し、無涯春山を說破し、大石良雄を接得したと傳へられ、得度の弟子四百餘員、廣寺を修することと四十七ケ寺に及んだと云ふのに依つても其の風格を窺ふ事が出來る。

經の說示に云く、「經とは自心なりと知るべし。夫れ是は釋迦、達磨の作でもなく、千佛萬祖の作でもなく、人々本來明かなる心なり。始なきが故に終ることなく、草木國土、十方世界、常住一相の心にして、終に迷ひも悟りもせぬ物なり、然れば常住なものかと云へば、常住と見れば、即ち常見になる。無き物かと云へば、無の見になる。佛かと云へば、佛見になり、一切衆生が其の儘この本心かと云へば、衆生見になる。それならばどのやうに心得べきと云ふに、どのやうになりとも心得やうがあれば、こしらへ物になる。一切ありとあらゆる言說、名相、思惟、分別を着れば、一物になる。爰に於て、古代も今時も、此の法に志ある人、大に誤を取ることなり。」云々と說破して居る。所謂、盤珪和尚の不生の說法で貫いて居り、然も心經一卷の要旨を最も適確に提示したものと云ふべきである。 (大久保堅瑞)

般若心經鈔 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-sho. 般若心經註解 ❷一卷 ❸存 ❹寫本(谷大、餘大・三六七六)

般若心經鈔 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-sho. ❷一冊 ❸存 ❺永應元刊 ❻(京大、日大未・二〇)

般若心經鈔圖會 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-sho-zu-e. ❷一冊 ❸存 ❹一休(應永元—文明一三 A. D. 1394—1481)抄 ❺刊本(高大、寄・一・二三)

般若心經捷解 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-shō-ge. ❷一卷 ❸存 ❹今北宗溫(文化一三—明治二五 A. D. 1816—1892)述 ❺明治一七刊 ❻(駒大)

般若心經請益說 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-sho-yaku-setsu. (支) Pan-jo-hsin-ching-ch'ing-i-shuo. 心經請益說 ❷一卷 ❸存、卍續一・四二・一 ❹清道霑說、大光、源淨共編

❺鼓山湧泉寺永覺元賢禪師の法嗣、青原下三十六世の鳶霖道霑禪師が、清康熙九年十二月八日(A. D. 1670)鼓山に於て參學の孤月壽海玄印德光等が心經の大旨を請益したのに應じて說示したもので大光、源淨等の共編である。其の大旨は五蘊皆空を照見し眞空實相を了得するにありとして居る。其の注釋は懇切であり要綱を說破して居るもので、貞享四年六月十八日薩摩の福昌寺覺海澄圓和尚は鼓山元賢の指掌と鳶霖の請益說とを合刪して流通せしめんと欲し、自ら說文を撰し、翌七月京都山城屋五郎兵衛をして梓行せしめたものが、世上に多く用ひられて居る。從つて、是正心經注に於ては太淳宗古和尚も關流道隆禪師の注釋と併せ記して心經の玄旨を見るに便せしめて居る程である。 (大久保堅瑞)

般若心經樞要 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-su-yō. ❷一卷 ❸存 ❹達山至峯 ❺(龍大・二四一二・七一)

般若心經精義 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-sei-gi. ❷一卷 ❸存 ❹新井石禪(元治元—昭和二 A. D. 1864—1927)著 ❺大正二刊 ❻東京圓書刊行會

般若心經靜座談 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-jō-za-dan. ❷一冊 ❸存 ❹定因和解 ❺明治一八刊 ❻(高大、寄・一・二三)

般若心經說 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-setsu. (支) Pan-jo-hsin-ching-shuo.

紫柏老人心經說、心經說 ❸存、卍續一・四一・五 ❹明達觀眞可(寶靖二二—萬曆三一 A. D. 1543—1603)述 ❺本書は、明末の佛教界に雲棲株宏、憨山德清等と共に活躍し、方冊大藏經を刊行し、明萬曆三十一年十二月十六日(A. D. 1603)壽六十一歲を以て獄死した程の熱血漢、紫柏尊者達觀眞可禪師が、心經一篇の綱要とするところを說破したもので、字句の一一に就て注釋したものは、注解、直說、要論並に本書の四篇は紫柏尊者全集卷十一に心經說と題して達觀の心經に關する述作を一括して收めて居る。本書は心經に對する達觀の概括的な見解を識るには好適のものである。 ❻元祿八刊 ❼(龍大、二四一二・七二) (大久保堅瑞)

般若心經說 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-setsu. (支) Pan-jo-hsin-ching-shuo. 心經說 ❸存、卍續一・四一・五 ❹明洪恩述 ❺總字數四百字餘りの小篇である。般若心經が大般若六百卷中の「心」である事、及び心經は其簡易直截明白なる點が尊いのに、世の樺版の徒がやゝもすれば橫に穿鑿を生じ乘拔引蔓して却つて正知見を妨げる事を慨して此書を爲すに至りし事等を述べて居る。 (藤田海龍)

般若心經箋釋 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-sen-shaku. (支)Pan-jo-hsin-ching-chien-shih. 般若心經提綱、心經箋釋 ❷一卷 ❸存、卍續一・四一・五 ❹明李贄述 ❺般若心經提綱の下を見よ。

般若心經釋解道詠 ❶(日) Han-nya-shin-gyō-ten-ge-dō-ei. ❷一卷 ❸存 ❹道光(眞霧) ❼(參考) 禪籍目錄

般若心經藏梵漢四體合壁 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-zō-bon-kan-shi-tai-gap-peki. ❷一卷 ❸存、能海寬遺稿之內 ❺刊本(谷大、外洋・一九一九)

般若心經俗解 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-zoku-ge. ❷一卷 ❸存 ❹井上角五郎述 ❺刊本(京專)

般若心經大意 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-tai-i. (支)Pan-jo-hsin-ching-ta-i. 心經大意 ❷一卷 ❸存、卍續一・四二・一 ❹清代王起隆述 ❺後說に據るに著者は儒者である。儒者にして佛書に註するを辯明して、二教を混淆するのでも無く又二教を並べて本とするのでも無く、一に執するを避けるのであると言つて居る。先づ經文に附き註釋し、次に大般若六百卷は心經の二百六十八字に、更に是は色不異空等の十六字に、照見五蘊皆空の六字に、遂に觀自在の三字に歸するを述べ、次いで心經の趣旨は摩・摩伽・摩耶・摩曇・法華・境經等の各經、書原・南嶽・永嘉等の各師の說と同一諦義なるを述べて結局心經は一大藏五時八教を總するものなりと結んで居る。附加せる攝槃は大意を更に簡略せるものである。 (藤田海龍)

般若心經大意 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-tai-i. 心經大意 ❷一卷 ❸存 ❹雲照、文政一〇—明治四二 A. D. 1827—1909)述 ❼(參考) 禪籍目錄

般若心經提綱 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-tei-kō. (支) Pan-jo-hsin-ching-ti-kang. 般若心經箋釋、心經箋釋 ❷一卷 ❸存、卍續一・四一・五 ❹明李贄述 ❺總字數八百字を出でざる小篇である。內容には何等特色無し。 (藤田海龍)

般若心經顈輪解 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-taku-rin-ge. (支) Pan-jo-hsin-ching-cho-lun-chieh. 心經顈輪解 ❷一卷 ❸存、卍續一・四一・五 ❹明雲棲道栖(萬曆二一—永歷一五 A. D. 1593—1661)述 ❺明末の臨濟禪を代表する大宗匠として尊崇されて居た雲棲袾宏圓悟禪師に嗣ぎ、門下に日本黃檗宗開祖隱元隆琦禪師を打出した杭州徑山萬壽寺の雲棲道栖禪師が、二十九歲、明の泰昌元年雲門に於ける結多の時に註釋し、三十六歲の明の天啓七年(A. D. 1626)編嚴祭居士の請に應じ本書撰述の緣起を序して梓行したものである。

顈輪と題したのは、莊子に「輪扁顈輪於堂下」とあるより採つたもので、輪扁の車の輪を造る呼吸は所謂輪扁不傳の妙で自達自知するより仕方のないものである。今この般若心經に就て註解を試みたが、其の無嘗無說無思無解の般若菩提殿の玄旨も要するに自ら默契自知する事が大切であると云ふ旨趣を意味したものであろう。註釋は概括的に要約して述べて居る。 ❺萬治三刊 ❻(龍大、二四一二・七三) (大久保堅瑞)

般若心經探要抄 ❶(日) Han-nya-shin-gyō-tan-yō-shō. 般若心經略疏探要抄、般若波羅蜜多心經探要鈔、心經略疏探要鈔、般若波羅蜜多心經略疏探要鈔、心經探要鈔 ❷二卷 ❸存、大日本佛教全書第六 ❹善寂(寶永四—天明元 A. D. 1707—1781)述 ❺般若波羅蜜多心經探要鈔の下を見よ。

般若心經智圓疏 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-chi-en-sho. (支) Pan-jo-hsin-ching-chih-yuan-su. 般若心經疏、心經疏 ❷一卷 ❸存、卍續一・四一・四 ❹宋智圓(太平興國元—乾興元 A. D. 976—1022)述 ❺般若心經疏の下を見よ。 ❻明曆三刊 ❼(高大、寄・一・二三)

般若心經著語並頌 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-chaku-go-narabini-ju. ❷一卷 ❸存 ❹禪恕編 ❼寫本(駒大)

般若心經注 ❶(日) Han-nya-shin-gyō-chū. (支) Pan-jo-hsin-ching-chu. ❷一卷 ❸缺 ❹智昭述 ❼(參考) 新編諸宗教藏總錄第一

般若心經注 ❶(日) Han-nya-shin-gyō-chū. (支) Pan-jo-hsin-ching-chu. ❷一卷 ❸缺 ❹正覺述 ❼(參考) 新編諸宗教藏總錄第一

般若心經注 ❶(日) Han-nya-shin-gyō-chū. (支)Pan-jo-hsin-ching-chu. 心經注、注心經 ❷一卷 ❸存、卍續一・四一・五 ❹關溪道陵(建保元—弘安元 A. D. 1213—1278)述 ❺本書は日本臨濟宗建長寺派の本山である

鎌倉の瓦編山建長寺開山大覺禪師蘭溪道隆和尚が心經を注釋されたもので、注心經とも略稱し、大覺拾遺錄の中に收められた、注心要と大同小異の內容である。唯だ注釋底本とした唐の玄奘譯の般若波羅蜜多心經に施通本の如く摩訶の二字を加へて注釋して居るのは、蘭溪和尚の本經に對する關心の深さを示すものである。摩訶を釋して「此れを大と曰ふ諸佛衆生平等の自性なり」と云ひ、心經を釋して「心經とは大道なり、小礙無く差路無く父小法の得可き無し故に無心を道と謂ふ」と示して衆生をして迷悟等の差別心を離れ我見我執を脫落して大道に通徹せしめんとしたものである。注釋凡て簡明である。本書の注釋本としては經部杳勇註の鼇頭本と町元春寮の冠註傳解本とが最も利用し易いものである。

（大久保堅璡）

般若心經注 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-chū. 是正般若心經註、注心經 ❷1卷 ❸存 ❹蘭溪道隆(建保元—弘安元 A. D. 1213—1278)述、太淳校 ❺寛保三刊 ❻(駒大)

般若心經注 ❶(日) Han-nya-shin-gyō-chū. ❷1冊 ❸存 ❺慶安元刊 ❻(高大、寄・一・二三)

般若心經注解 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-chū-kai. (支)Pan-jo-hsin-ching-chu-chieh. 心經注解 ❷1卷 ❸存、卍續1・四1・五 ❹明達觀眞可(嘉靖二二—萬曆三一 A. D. 1543—1603)述 ❺本書は明末の瓦匠である紫柏大師達觀眞可禪師の注解書で、直說、要論、說と共に紫柏尊者全集卷十一の心經說四篇として收められて居るもので、直說が提唱的に其の淵旨を示したのに對して本書はヤヤ詳しく字句に從つて注解して居る。（大久保堅璡）

般若心經注解 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-chū-kai. 心經註解 ❷1卷 ❸存、日本大藏經第一〇般若部章疏 ❹圓耳虛應(永祿二—元和元 A. D. 1559—1619)述 ❺本書は、京都堀川の圓通山興聖寺(臨濟相國寺派本山)開山虛應圓耳禪師が、六祖大鑑禁能禪師の解義と、南陽慧忠國師の鈔とに依つて心經を注解したもので、慶長十一年六月(A. D. 1606)自跋して行つたものである。

注解に當つては、科を立て、題目と本文とに分ち、本經に七種の異譯あることより玄奘譯と他本との同異を略述し、次に本文の科を細釋して居る。圓耳は京都の齊藤氏に生れ、日蓮宗の意東に依つて得度し、妙覺寺日重に玄義文句を學び、建仁寺に大藏經を閱し、起信論に依つて省あり、禪門に歸した。慶長八年興聖寺を開立し、同十年正月朝鮮使僧松雲惟政に佛法綱要十則を呈して、虛應の二字を與へられ、上野國長樂寺天海僧正に優遇せられ、後陽成上皇のために宮中に說法し、元和五年四月十九日(A. D. 1619)壽六十一、夏四十三を以て順世したのである。從つて本書は圓耳四十八歲の活氣ある縱橫の說破を寫ふことが出來る。 ❻慶長一一刊 ❼(谷大、餘大・三一〇七)

(龍大、二四一二・七五)(正大、一一二五・二〇)(高大、一・二三)寫本(龍大、研傳)

（大久保堅璡）

般若心經註 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-chū. (支)Pan-jo-hsin-ching-chu. 般若波羅蜜多心經註、心經註 ❷1卷 ❸存、卍續一・四一・四 ❹中天竺提婆述 ❺大般若の要言を撰錄し、幽祕の義を顯はすが故に般若波羅蜜多心經と稱するとは、多くの註釋家が一致して言ふ所であるが、この註も亦同じく前言を踏襲する。心經の一字一句に對して註釋を施してゐるが、單に換言して說明せられてゐるに過ぎず、從つて註釋の上に新味も見出されないし、他の心經註に比較して決して勝れたものとも言ひえないであらう。

（梶芳光運）

般若心經註 ❶(日) Han-nya-shin-gyō-chū. (支)Pan-jo-hsin-ching-chu. ❷二卷 ❸缺 ❹淨覺註 ❼(參考) 靈巖和尙請來法門道具等目錄

般若心經註 ❶(日) Han-nya-shin-gyō-chū. (支)Pan-jo-hsin-ching-chu. 般若心經解 ❷1卷 ❸存、般若心經三注(卍續1・四1・四)之內 ❹席慧忠述 ❺般若心經三注の下を見よ。 ❻陸三二刊 ❼(谷大、餘大・三六五四)

般若心經註 ❶(日) Han-nya-shin-gyō-chū. ❷1卷 ❸存 ❹梅天無明(慶長一二—延寶四 A. D. 1607—1676)述 ❼(參考) 禪籍目錄

般若心經註 ❶(日) Han-nya-shin-gyō-chū. ❷1卷 ❸存 ❹性潛述 ❼刊本(谷大、長保・二三六)

般若心經註 ❶(日) Han-nya-shin-gyō-chū. 般若心經鈔、般若心經和解、心經和解、心經抄 ❷1卷 ❸存、續禪門法語集之內 ❹盤珪永琢(元和七—元祿六 A. D. 1621—1693)作 ❺般若心經鈔の下を見よ。 ❻寫本(京大、日大來・二二)

般若心經註 ❶(日) Han-nya-shin-gyō-chū. ❷1卷 ❸存 ❹東嶽興慈(享保六—寶政四 A. D. 1721—1793)述 ❺嘉永七刊 ❻(龍大・二四一二・七四)

般若心經註 ❶(日) Han-nya-shin-gyō-chū. ❷1卷 ❸存、照遍和尙全集第六 ❹上田照遍(文政一一—明治四〇 A. D. 1828—1907)述

般若心經註 ❶(日) Han-nya-shin-gyō-chū. (支) Pan-jo-hsin-ching-chu. 鼇頭般若心經註、鼇頭般若波羅蜜多心經、般若波羅蜜多心經註 ❷1卷 ❸存 ❹關溪道隆(建保元—弘安元 A. D. 1213—1278)述、經部杳勇註 ❺明治一九刊 ❻(駒大) ❼東京鴻盟社

般若心經註解 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-chū-kai. (支)Pan-jo-hsin-ching-chu-chieh. 心經註解 ❷1卷 ❸存、卍續1・四二・一 ❹席大顚寶通(開元二〇—長慶四 A. D. 732—824)述 ❺本書は、石頭希遷禪師の法嗣大顚寶通禪師の心經注解である。大顚禪師は藥山惟儼、丹霞天然等と共に石頭下の俊英で、潮州に在つて青原下二世の宗風を揮揚したもので、本書の註解も是れ等の瓦匠の間に在つて四衆を接化し、惠陽の龍川縣市廛、潮州の關牛嶺、蓮華鳥嶺、靈山寺等を開創し、唐敎宗長慶四年三月十四日(A. D. 823)壽九十三を以て順寂された大顚禪師の玄風が偲ばれて誠に味深いものである。大顚禪師は陳帝の裔、潮郡に生れて西山惠照禪師に剃度し、石頭に嗣法したもので、有名なる潮州の刺史韓愈(昌黎)を接得した人である。

（大久保堅璡）

般若心經註解 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-chū-kai. (支)Pan-jo-hsin-ching-chu-chieh. 心經註解、般若波羅蜜多心經註解、御製般若心經註解、心經如玘註 ❷1卷 ❸存、大正三・五六九No. 1714、諸宗八、卍三五・六、明北1656主、No. 1614 ❹明宗泐—洪武二四 A. D. 1391) 如玘(延祐七—洪武一八 A. D. 1320—1326)共註 ❺般若波羅蜜多心經註解の下を見よ。 ❻寛永一一刊 ❼(谷大、餘大・二七六七)

般若心經註解 ❶(日) Han-nya-shin-gyō-chū-kai. 心經註解、摩訶般若波羅蜜多心經註解 ❷1卷 ❸存、大日本佛敎全書第三三 ❹源信(天慶五—寛仁元 A. D. 942—1017)撰 ❺本書は佛敎全書本によれば外題に摩訶般若波羅蜜多心經とあり署名に惠心註解とある、惠心僧都全集には收められて居らず、諸目錄にも見えない所である。本書初めに經題を五句に分つて釋し衆生本心の如何なるものなるかを明らかにし、次に文々句々の註解を施して居る、僧都撰述として錄されて居る講演心經義(惠心僧都全集第五、日本大藏經般若部章疏、佛敎全書第三三)や大般若經大意略頌(惠心僧都全集第五)等と合せ考へ見る時に註解の明るさを知すであらう。

（渡邊最昌）

般若心經註解 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-chū-kai. (支)Pan-jo-hsin-ching-chu-chieh. 心經註解 ❷1卷 ❸存、卍續1・四1・五 ❹諸萬里述 ❺明萬曆四五(A. D. 1617) ❻註釋に當つて、賢首大師、宋曾謙、宗澹等の說を引用するが、就中宗澹の說を多く引說とする。註者諸萬里は「般若波羅蜜多心經解義節要」を參照したものであらう。この節要は唐賢首國師法藏及び宋孤山の智圓が疏し、元古雲の元粹及び元佛海の性說とが註し、明天界禪寺の宗澹が註解し、同じく明の宋曾謙文句となつてをり、心經に關するそれ等諸家の解義を引用したものであり、諸萬里之を參照し綴氷しつゝ註釋を施したものである。

（梶芳光運）

般若心經註解 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-chū-kai. (支)Pan-jo-hsin-ching-chu-chieh. 心經註解、無垢子註解心經、無垢子註般若心經 ❷1卷 ❸存、卍續1・四二・一 ❹明代何道全述 ❺心經を禪宗の立場から註解したものであるが、特に註解中に儒敎道敎の說をも擧げてゐるから三敎の關係を見るには、參照すべきである。 ❻正保二刊 ❼(龍大、二四一二・七八)

（梶芳光運）

般若心經註解 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-chū-kai. (支)Pan-jo-hsin-ching-chu-chieh. 心經註解、周通顯道其深功德寶 ❷二卷 ❸存、卍續1・四二・一 ❹清代學佑帝君述 ❺心經を「註」と「講」とに分つて註解するが、この註解に於て特色と見らるべきは經を六段に分つことであらう。即ち、觀自在菩薩より度一切苦厄迦第一段、舍利子より無智亦無得迦第二段、以無所得より究竟涅槃迦第三段、三世諸佛より故得阿耨多羅三藐三菩提迦第四段、故知般若波羅蜜多より故說般若波羅蜜多呪迦第五段、前後に即說呪 曰より菩提薩婆訶を第六段とする。

附呂祖師降三十二次偈は金剛般若經を分つて三十二分となし、夫々の各分を要旨を取つて偈文としたものである。これ等の偈は大般若、小品般若にも二三見うけるところである。最後に呂祖師の節錄を附す。

（梶芳光運）

般若心經註解 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-chū-kai. (支)Pan-jo-hsin-ching-chu-chieh. 心經註解、周通顯道其深功德寶 ❷二卷 ❸存、卍續1・四二・一 ❹般若心經註解若しくは周通顯道其深功德寶と稱せられる。卷頭に依れば、當時大顚祖師及び無垢子の心經註解等が存在するとせられてゐるが、就中、無垢子の心經註解とはその立場を等しくする。寃も明の正統年間(A. D. 1436—1449)即ち、英宗の時代に祖師が現れてこの經の功德を顯はさんとするに依るものであると云ふ。禪家の註解であり、儒敎道敎の立場も擧げてゐるから三敎關係には參照すべきである。

なほ、卷末に依れば、この註書は明の萬曆十一癸未年、慧定の出版にかゝるものであると云ふから、西紀一五八三年に該當する。

（梶芳光運）

般若心經註解 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-chū-kai. 首書般若心經註解 ❷1卷 ❸存 ❹眞言 ❺寛文七刊 ❻(龍大、研傳)

般若心經註解 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-chū-kai. 首書般若心經註解 ❷1卷 ❸存 ❺延寶三刊 ❻(龍大、研傳)

般若心經註解 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-chū-kai. 佛門經理要錄 ❷1卷 ❸存 ❹町元春寮述、大矢郭嶺校 ❺明治二二刊 ❻京都法藏館

般若心經註講 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-chū-kō. (支)Pan-jo-hsin-ching-chu-chiang. 心經註講、般若波羅蜜多心經註講 ❷1卷 ❸存、卍續1・九二・五 ❹清代行敏述 ❺本書は心經如是經義の註解者である行敏が玄奘譯の心經に依つて更に註解したもの

で如是經義よりも簡約に其の意義を說明して居る。卷末には若回向を揭げ、南無祇園會上佛菩薩(三稱)とし、金剛神呪を附して居るのは、心經を持念することに用ひたものであらう。其の註解は比較的平易な譯を加へて居る。

(大久保堅瑞)

般若心經註疏 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-chū-sho. (支)Pan-jo-hsin-ching-su. 心經註疏 ❷一卷 ❸存、卍續一・四二・一 ❹清伸之撰

❺清の喜興、伸之の撰樹若甫の纂註で同じく清の秀水、沈、法潤思甫の校梓である。本經中、色不異空、空不異色以下受想行識、亦復如是迄を一經の要、般若の心であると註釋してゐるは、三論に於ける二諦相即義と關聯してこの註書の特色と見られる。

(梶芳光運)

般若心經註題解 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-chū-dai-kai. ❷一冊 ❸存 ❹玄奘(仁壽二—麟德元 A. D. 602—664)譯、大惠釋 ❺貞享五刊 ❻(高大、一・二三)

般若心經通俗講話 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-tsū-zoku-kō-wa. ❸存 ❹岩橋三溪述 ❺大正一〇刊 ❻(高大、一・二三)

般若心經鐵船論 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-tes-sen-ron. ❷一卷 ❸存 ❹心應空印述 ❺刊本(駒大)

般若心經添足 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-ten-soku. (支)Pan-jo-hsin-ching-tien-tsu. 心經添足 ❷一卷 ❸存、卍續一・四一・五 ❹明代弘贊述

❺心經の註釋に當り、經文を二つの科段に分ち、第一を題目、第二を經文とし、その第二の正釋經文分を二とす。即ち、顯說般若と、密說般若とである。その中、顯說般若を因人顯法、正示法空、依法修證、結讚功能の四分とし、第一の因人顯法分を更に分つて能修之人、所修之法、修證之位の三分とし、第二の正示法空分を明蘊空、顯空德の二分とし、この中の顯空德分を總標と別釋に分ち、別釋を釋蘊處界、釋十二因緣、釋四諦、釋智德の四分とする。第三の依法修證分を菩薩得涅槃と諸佛得菩提の二分とし、第四の結讚功能、次いで密說般若に科段を切つて註釋する。

(梶芳光運)

般若心經毒話注 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-doku-wa-chū. 心經毒語註、毒語注心經 ❷一卷 ❸存、日本大藏經第一〇般若部章疏 ❹白隱慧鶴(貞享二—明和五 A. D. 1685—1768)頌、東嶺圓慈(享保六—寛政四 A. D. 1721—1792)注

❺本書は略書名を毒話注心經と云ひ、日本臨濟宗中興の祖と稱せられる白隱慧鶴禪師が本經の經旨を頌し、其の法嗣である東嶺圓慈禪師が注釋したもので、詳密なる科段を分ち漢文を以て細釋して居る。科段は通じて二とし、初に總じて此經を釋するに三ありとして、異譯のこと、缺文のことに言及して總結し。次に當經を釋するに五ありとして題目に三義あること經文に三段の例あること、歎德のこと、呪力冥合のこと、重れて題目の總結などの五段とし、以下細釋を加へて居る。頌に云ふ「獨釋參天獨葛藤、鉢盂四海五湖僧。廟君認得出身路。蘇嶺孔中弄快鷹。」と、本書には中原鄧州の提唱本、川尻義祐(寶塔居士)の閑話などの末疏がある。刊本としては寶曆十年(說)本、嘉永七年本、明治二十四年本等であり、日本大藏經にも收められて居る。

(大久保堅瑞)

般若心經並玄談 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-narabini-gen-dan. ❷一卷 ❸存 ❹空性述 ❺(京專)

般若心經並註 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-narabini-chū. (支)Pan-jo-hsin-ching-chu. ❷一卷 ❸存

❹般若心經(唐、玄奘譯。大正八・八四八No. 251)。般若心經要論(明、眞可。卍續一・四一・五)。般若心經直說(明、眞可。卍續一・四五・五)。般若心經奉法要(晉、鳩摩羅什)。般若心經說(明、洪恩。卍續一・四五・五)。般若心經開度(明、弘贊。卍續一・四一・五)を敎む。

❺明刊本(駒大)

般若心經並梵本 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-narabini-bon-pon. 異譯般若心經並梵本、心經並梵本 ❷一卷 ❸存 ❹探盈編

❺心經(羅什再譯)。心經(玄奘譯)。心經(般若譯)。般若大明呪經(羅什譯)。心經(法月譯)。心經(義淨譯)。心經(智慧輪譯)

❻(參考) 禪籍目錄

般若心經二種附異本尊勝陀羅尼 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-ni-shu-tonketari-j-hon-son-shō-da-ra-ni. 梵唐對譯般若心經二種附異本尊勝陀羅尼 ❷一卷 ❸存 ❹正德二寫 ❺(谷大、餘大・二三六六)

般若心經如是經義 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-nyo-ze-kyō-gi. (支)Pan-jo-hsin-ching-ju-shih-ching-i. 心經如是經義 ❷一卷 ❸存、卍續一・九二・五 ❹清代行敏述

❺行深般若波羅蜜多に事深と理深の二義があり、舍利子、色不異空、空不異色は前文を承けて、眞實不虛、故般若波羅蜜多呪に至りて體相用の三大義を結ぶとする。二三、中論を引用するが、註釋書として他と比較し、勝れたものとも考へられぬ。

(梶芳光運)

般若心經之由來 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-no-yu-rai. ❷數葉 ❸存 ❹草本(高大、答・一・二三)

般若心經祕決 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-hi-ketsu. ❷一卷 ❸存 ❹(京專)

般若心經祕鍵 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-hi-ken. 心經祕鍵、祕鍵 ❷一卷 ❸存、大正五七・二No. 2203A、日本大藏經第一〇般若部章疏、修驗深典第一、弘法大師全集第三 ❹空海(寶龜五—承和二 A. D. 774—835)述

❺弘法大師が羅什譯の般若心經を解釋せられたもので、眞言宗徒所學の十卷章の隨一である。大體、心經に對する古來註釋家の見解は大般若經六百卷の提要なりとして顯經と見るが、大師は陀羅尼集經、六度經等の義に依て大般若菩薩の三摩地法を說ける

彌部の密經と解して註せられた書である。題目の中、初めの四字は「大般若菩薩の大心眞言三摩地を明す經」の意、祕鍵の二字は其深祕奧の義で、心經の祕密其深の義を含藏し或は之を開示する意味である。一部の組織は序・正・流通の三分よりなり、序に歸敬・發起・大綱・大意の四序あり。先づ第一の歸敬序には文殊・般若の二菩薩に歸依し敬禮する旨を述べ、第二の發起序には著述の因緣を明かし、第三の大綱序では廣く顯密二教興起の大綱を述べ、第四大意序では心經一卷の大意を略述して大般若菩薩所具の諸乘の法門を經文に從て釋し、更に製作の因由を說いてゐる。正宗分では先づ經題を釋し、能說の敎主・說法の會座・對告衆等について示し、翻譯の同異を辨じ、般若心の得名を論じ、次に經文を分科して人法總通分・分別諸乘分・行人得益分・總歸持明分・祕藏眞言分の五分とし、隨文解釋し、次に問答によつて密語と顯密の意義を論じ、最後の流通分では經文の功德を讚嘆してゐる。かくの如く、本書は心經を以て全然密經として解釋せられたもので、心經に對する大師の見解を知り得ると共に心經解釋上に一エポックを劃した名著と云ふべきである。何卷末には弘仁九年春心經講讚云々の上表文あるも、大師の作に非ざることは云ふまでもない。因に本書の製作年代は判然しないが、弘仁九年に開題し承和元年に再治されたものと云はれてゐる。

❼(注釋) 開門訣三卷(刊、濟運)、略註一卷(刊、壓鑑)、明鏡鈔四卷(寫、尙祚)、問寶鈔二卷(刊、道範)、大事一卷(同上)、愚草四卷(寫、賴瑜)、開藏鈔二卷(刊、同上)、東聞記三卷(刊、賴寶口說、了賢記)、聞書六卷(寫、旱寶口說賢寶記)、鈔十卷(刊、宥快)、信力鈔二卷(刊、同)、伊呂波聞書三卷(寫、同上)、敎意鈔一卷(寫、同上)、問題二卷(刊、成瑜)、開寶決擇鈔一卷(寫、宥譽)、文雅問答鈔(刊、印融)、文林一卷(刊、了典)、撮義鈔二卷(刊、豊眼)、科註二卷(刊、眞賢)、註說一卷(游漢)、科註祕鍵略註詳解三卷(刊、空性)、私記四卷(寫、豊寂)、體玄記二卷(刊、普寂)、她獎記二卷(刊、三等)、懸談一卷(光天)、卓義錄一卷(寫、海運)、講說三卷(寫、亮海)、見聞記一卷(寫、賴碧)、講翼二卷(寫、元瑜)、集決二卷(寫、陳瑜)、纂義集一卷(寫、說昨)、玄談科門一卷(寫、得仁)、聞書(寫、雅龍曉)、玄談一卷(寫、密門宥範)、講義一卷(刊、吉祥眞雄)、略釋一卷(刊、小田慈舟)、科文一卷(寫、寶鈴)、分科一卷(寫、密門宥範)、表文講要一卷(寫、淑然)

❽享德四刊(谷大、餘西・四五)元和六寫(谷大、餘大・四三九七)寛文五刊(京大、藏・一六八・二)(谷大、餘大・二三五)(正大、一四三一・一二五)元祿五刊(谷大、餘大・三九六七)享保一七、刊(谷大、餘大・一四六七)(正大、一四三一・一〇九)德川時代寫(寶著提院)

(服部如實)

般若心經祕鍵 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-hi-ken. 國譯般若心經祕鍵 ❷存、國譯密敎論釋第一之內 ❸塚本賢愚譯 ❹(龍大、研佛)

般若心經祕鍵 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-hi-ken. ❷一卷 ❸缺 ❹圓珍(弘仁五—寛平三 A. D. 814—891)述

❺東域傳燈目錄卷上に云く「與ニ斗觜一卷、同異可レ詳」云云。

般若心經祕鍵伊呂波聞書 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-hi-ken-i-ro-ha-kiki-gaki. 祕鍵伊呂波鈔、祕鍵伊呂波聞書 ❷三卷 ❸存 ❹宥快(貞和四—應永二三 A. D. 1345—1416)述 ❺應永一八(A. D. 1411) ❻本書は異義を列ねず、自義のみを通俗的に記す。

❼(參考) 眞言宗全書刊行豫定書目

般若心經祕鍵開藏鈔 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-hi-ken-kai-zō-shō. 心經祕鍵開藏鈔、心經開藏鈔、祕鍵開藏鈔 ❷二卷 ❸存、日本大藏經第一〇般若部章疏 ❹頼瑜(嘉祿二—嘉元二 A. D. 1226—1304)

❺弘長二(A. D. 1262)九月

❻興敎大師覺鑁の略註、道範の開寶鈔に據り、更に私見を加へて、般若心經祕鍵を釋した書。釋=題目=、辨=作者名=、解=疏文=の三段に分ちて祕鍵の文々句々を釋し、難讀難解の字句には音訓を註し、文義を細註してゐる。十卷疏御疏物の一として、新義眞言宗には特に重視してゐる。

❽刊本(谷大、餘大・一二四〇)(正大、一四三一・一三一、一三四)

(小田慈舟)

般若心經祕鍵開寶決擇鈔 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-hi-ken-kai-hō-ke-chaku-shō. 祕鍵開寶決擇鈔 ❷一卷 ❸存 ❹宥譽宗專述 ❺慶長一三(A. D. 1599)六月

❻祕鍵兩部等心經祕鍵に關して二十一條の算題を述べたもの。初めの部分は宥快の數章鈔に同じ。

般若心經祕鍵開寶鈔 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-hi-ken-kai-hō-shō. 心經祕鍵開寶鈔、祕鍵開寶鈔、心經開寶鈔 ❷二卷 ❸存、日本大藏經第一〇般若部章疏 ❹道範(元曆元—建長四 A. D. 1184—1252)

❺寶治元(A. D. 1247)

❻本書は高野山正智院道範阿闍梨が、覺海大德並に禪林寺靜遍和尙の潮流を合柔して、祕鍵の本文を逐字的に解釋講傳を企てたものである。而もその講傳せしは道範師が讃岐國に配流せられ、その配所に於て何等の參考書もなく、且つ病魔に惱まされ乍らも護法愛宗の念止み難く、人の請を容れて講傳し、寶治元年五月三日に成滿したもので、このことはその奧批に

抑此鈔依=有人勸進=、配處病中押レ之、書籍不レ隨レ身、釋文皆廢忘、就レ中病患失=義味=、老耄忘=言尾=、後哲若及=賢鑒=、直=紕繆=示=童功=矣、但今所レ記者狹=覺海之遺流=拾=禪林之末葉=、而已、于時寶治元年五月三日阿闍梨道範

と明記してゐることによりて知らる。ともかく本書は簡決に注解した處にその長がある。

❼天明元年刊 ❽(正大、一四三一・一三五)(京專)(龍大、二四一二・八〇) (故田光全)

般若心經祕鍵開門訣 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-hi-ken-kai-mon-ketsu. 心經祕鍵開門訣 ❷三卷 ❸存、大正五七・

般若心経秘鍵聞書　❶(日) Han-nya-shin-gyō-hi-ken-kiki-gaki. 般若心経秘鍵聞書、般若心経秘鍵聞書、般若心経秘鍵聞書、般若心経秘鍵聞書、般若心経秘鍵聞書口伝　❷六巻　❸存　❹日本大蔵経所収　❺一〇般若心経秘鍵聞書　❻天覆(勝仏元—建武元 A. D. 1306—1362)ロ、宗覆(正慶二—延文元 A. D. 1333—1398)記　❼建武四年(A. D. 1348)　❽般若心経秘鍵聞書の下を見よ。　❾文安二(宝徳元(正天)・一四五三)奥書に同(慶天)二四一・八一)(寛永)一六二・三〇八)　写本(宝天)巻・一・四六)(寛天)巻・一・四六)(寛天)巻・一・四六)(寛

巻 ❹(参考) 続日本全書所収行業記事日

般若心経述義開記 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-hi-ken-zui-mon-ki. 般若心経随聞記 ❷1巻 ❸存 ❹浄厳撰 ❺明治 ❻(正大"1四三1•1四六)

般若心経述義註註 ❶(日) Han-nya-shin-gyō-hi-ken-sen-chū. 般若心経註 ❷1巻 ❸存 ❹徳川撰

般若心経述義鞄鞘記 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-hi-ken-da-rin-ki. 心経述義鞄鞘記" 心経述義鞄記" 般若心経鞄鞘記 ❷11巻 ❸存 ❹一分(一文保元A. D. 1716—)撰" 貴重文献

❺鞄鞘記書" 般若心経" 般若心経" 般若先生" 般若鞄鞘" 般若鞄鞘" 鞄鞘記鞄" 鞄鞘記鞄" 鞄鞘記鞄

般若心經幽贊略記 ❶(日) Han-nya-shin-gyō-yō-san-ryak-ki. ❷二卷 ❸存 ❹大合(安永二—嘉永三A. D. 1773—1850)述 ❾日筆本(龍大、別藏)

般若心經餘滴 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-yo-teki. ❷一卷 ❸存 ❾(龍大、二四一二・九八)

般若心經要決義 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-yō-ketsu-gi. (支) Pan-jo-hsin-ching-yao-chueh-i. ❷一卷 ❼(參考) 靈巖和尚請來法門道具等目錄

般若心經要論 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-yō-ron. (支)Pan-jo-hsin-ching-yao-lun. 心經要論 ❷一卷 ❸存、卍續一・四一・五 ❹則貴可(嘉靖二二—萬曆三一A. D. 1543—1603)說

❺本書は一一字句に從つて註釋したものではなく、達觀禪師が本書にとつて要點なりと認めたところを摘出して述べたもので、初學者にして達觀の心經釋を觀るには、心經說に依つて一篇の概要を知り注解及び直說に從ふべきであろう。然し其の註釋は何れも大同小異である。 (大久保堅璃)

般若心經理性解 ❶(日) Han-nya-shin-gyō-ri-shō-ge. (支) Pan-jo-hsin-ching-li-hsing-chieh 心經理性解 ❷一卷 ❸存、卍續一・九二・五 ❹擬法遠 ❺清康熙四二(A. D. 1703)

❻同じ著者の般若心經事觀解と二部作をなし、事觀解の觀・用・相に對して是れを教・體・性に充當して居る。刊本の終りに同一著者の著作目錄を附してある。(藤田海龍)

般若心經略解 ❶(日) Han-nya-shin-gyō-ryaku-ge. 般若波羅蜜多心經略解、心經略解 ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第六 ❹蘇山妙立 (寛永一四—元祿三A. D. 1637—1690)述

❺本書は明智旭の心經釋要の主意を拘み、而も禪宗的傾向を含むて心經の略解を施したもの。簡單の解說の間に極めて說い論錄が示されてゐる。日本撰述の心經註解書としては最も秀でたもの丶一であると稱しても宜しかろうと思ふ。

❺貞享二刊 ❾(駒大) (田島德雲)

般若心經略解 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-ryaku-ge. ❷一卷 ❸存 ❹鬼頭廓龍著 ❺明治二六刊 ❾(京大、一・二三八・六)

般若心經略解附六惡六度略解 ❶(日) Han-nya-shin-gyō-ryaku-ge-tsu-ketari-roku-aku-roku-do-ryaku-ge. ❷一卷 ❸存 ❹柴山其明述 ❺文化一五刊 ❾(駒大)(高大、寄・一・二三)

般若心經略誌註 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-ryaku-gen-chū. ❷一卷 ❸存 ❹一乘十阿 ❾刊本(正大、一一二五・八)(高大、寄・一・二三)

般若心經略贊 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-ryaku-san. (支) Pan-jo hsin-ching-lüe-tsan. 心經略贊 ❷一卷 ❸存 ❹唐翼基(貞觀六—永淳元A. D. 632—682)述 ❼(參考) 東域傳燈目錄卷上、注進法相宗章疏

般若心經略讃 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-ryaku-san. ❷一卷 ❸存 ❹神谷大周(—大正九A. D. 1920)述 ❺明治三一刊 ❾(谷大、餘律・九二)

般若心經略讃 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-ryaku-san. ❷一卷 ❸存 ❺安政四寫 ❾(谷大、餘大・二五九七)

般若心經略釋 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-ryaku-shaku. 心經略釋 ❷一卷 ❸存、日本大藏經第一〇般若部章疏、大日本佛教全書第六 ❹眞興(永平四—寛弘元A. D. 934—1004)述

❺本書は法相宗名匠眞興が般若心經を註釋せるものにして、三論宗智光の般若心經述義を破付して慈恩の心經關賛を助け、余師が般若を第二時空不了義教とせる相宗を難ぜるに對し、說を以て時を判ぜば第二時、理を以て時を判ぜば第三時了義教となることを說きて相宗の教意を明せり。內容は初めに十師の疏を說き、次に五門を以て分別し、一に教の起意を叙し、二に經宗旨を明し、三に經の名目を解し、四に翻譯の不同を顯し、五に經の本文を釋して隋文會釋せるものにして、相宗の空觀を觀る義顯る顯了なるものあり。

❼(參考) 注進法相宗章疏 ❺明和三刊 ❾(龍大、二四一二・一〇一) (橋本凝胤)

般若心經略疏 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-ryaku-sho. (支) Pan-jo-hsin-ching-lüe-su. 般若波羅蜜多心經略疏、心經略疏 ❷一卷 ❸存、大正三三・五五二No. 1713、續呂八、卍三四・一〇、明北1592首、清14 95勢、明南1235青、Nj. 1599 ❹唐法藏(貞觀一七—先天元A. D. 643—712)述 ❺般若波羅蜜多心經略疏の下を見よ。 ❺延寶年間刊 ❾(高大、寄・一・二三)

般若心經略疏 ❶(日) Han-nya-shin-gyō-ryaku-sho. (支) Pan-jo-hsin-ching-lüe-su. 般若心經疏、心經略疏 ❷一卷 ❸存、卍續一・四一・四、大日本佛教全書第二四 ❹唐明曠述 ❺般若心經疏の下を見よ。

般若心經略疏 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-ryaku-sho. (支) Pan-jo-hsin-ching-lüe-shu. ❷一卷

❸本書は法藏の略疏に當てらるべきか或は又明曠のそれに當てらるべきか決し難し。

❼(參考) 傳教大師將來越州錄

般若心經略疏 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-ryaku-sho. 科註般若心經略疏 ❷一卷 ❸存 ❹法藏の略疏を科註せるもの。

❺寛文一一刊 ❾(龍大、二四一二・一一〇)

般若心經略疏管見錄 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-ryaku-sho-kwan-ken-roku. ❷一冊 ❸存 ❺明治二二寫 ❾(高大、寄・一・二三)

般若心經略疏顯正記 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-ryaku-sho-ken-shō-ki. (支)Pan-jo-hsin-ching-lüe-su-hsien-chu-chi. 心經疏顯正記、心經略疏顯正記、心經略疏連珠記、般若心經顯正記、般若心經疏顯正記 ❷三卷 ❸存、卍續一・四一・四 ❹唐法藏(貞觀一七—先天元A. D. 643—712)述 ❺延寶年間刊 ❾(高大、寄・一・二三)

般若心經略疏連珠記 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-ryaku-sho-ren-ju-ki. (支) Pan-jo-hsin-ching-lüe-su-lien-chu-chi. 心經疏連珠記、心經略疏連珠記 ❷二卷 ❸存、大正三三・五五五、Ne. 1713、續呂八、卍三四・一〇、明北1593首、明南1236青、Nj. 1600 ❹宋師資(—乾道元A. D. 1166—)述

❺本書は華嚴宗第三祖賢首大師法藏の般若心經略疏の註釋は其の文約、其の旨微にして初學者難解であるから諸祖の遺訓を取つて指南とし、經論格言、程式を作り以て深隱を尙索せしめ慧炬相照、其の旨旨を了得せしむるにある。故に是れに題して連珠と云つたといふのであるが、敎綱頗る多く反つて煩瑣難入の感がある。明の錢謙益が本書を閱して難入を感じ略疏小鈔二卷を著したのも理由がある樣に思はれる。

卷末には、南宋孝宗帝乾道元年八月(A. D. 1165)慧說が華嚴沙門慧因師會を述鈔の大家として本書の註撰を嘆賞した跋文を收めて居る。

❺延寶四刊 ❾(龍大、二四一二・一一四)(高大、寄・四・中・二二) (大久保堅璃)

般若心經略鈔 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-ryaku-sho. (支) Pan-jo-hsin-ching-lüe-ch'ao. ❷一卷科一卷 ❸缺 ❹道觀述 ❼(參考) 新編諸宗敎藏總錄第一

般若心經略鈔 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-ryaku-sho. ❷一卷 ❸存 ❹俊彥亮法(元和八—延寶八A. D. 1622—1680)述 ❾刊本(正大、一一二五・二二、四一)(高大、寄・一・二三)(京巡)(駒大)

般若心經疏 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-sho. (支) Pan-jo-hsin-ching-shu. 心經疏 ❷二卷 ❸存 ❹大合(安永二—文永二A. D. 1773—1862)述 ❾日筆本(龍大、別藏)

般若心經疏顯正記 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-ryaku-sho-ken-shō-ki. 分科般若心經略疏顯正記 ❷二卷 ❸存 ❺寛文八刊 ❾(龍大、二四一二・一〇五)

般若心經略疏顯正記科考 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-ryaku-sho-ken-shō-ki-kwa-kō. 首書般若心經略疏顯正記科考 ❷三卷 ❸存 ❹唐法藏(貞觀一七—先天元A. D. 643—712)疏、宋仲希述、正惠考 ❺延寶二刊 ❾(谷大、餘大・一五八三)

般若心經略疏玄談 ❶(日) Han-nya-shin-gyō-ryaku-sho-gen-dan. ❷一卷 ❸存 ❾寫本(谷大、餘大・三七〇四)

般若心經略疏懸譚 ❶(日) Han-nya-shin-gyō-ryaku-sho-ren-dan. ❷一卷 ❸存 ❾寫本(正大、一一二五・二二八)

般若心經略疏講解 ❶(日) Han-nya-shin-gyō-ryaku-sho-kō-ge. ❷一卷 ❸存 ❺安永五刊 ❾(龍大、二四一二・一〇七)

般若心經略疏講要 ❶(日) Han-nya-shin-gyō-ryaku-sho-kō-yō. ❷一卷 ❸存 ❹慧澄師空(安永九—文永二A. D. 1780—1862)述 ❼(參考) 禪籍目錄

般若心經略疏刪補解 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-ryaku-sho-sam-po-ge. ❷一卷 ❸存 ❹圓澄述 ❾寫本(龍大、二四一二・一〇八)

般若心經略疏助寧鈔 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-ryaku-sho-jo-yō-shō. 心經略疏助寧鈔 ❷二卷 ❸存 ❺寛文三刊 ❾(龍大、二四一二・一〇九)

般若心經略疏小鈔 ❶(日) Han-nya-shin-gyō-ryaku-sho-shō-shō. (支)Pan-jo-hsin-ching-lüe-su-hsiao-ch'ao. 心經略疏小鈔、般若波羅蜜多心經略疏小鈔 ❷二卷 ❸存、卍續一・四一・四 ❹錢謙益(萬曆一〇—康熙三A. D. 1582—1664)述 ❺明永曆一〇(A. D. 1655)

❻本書は明萬曆の逸士として當代に有名であつた錢謙益(字受之、號牧齋、別號蒙叟)が、華嚴宗第三祖賢首大師法藏の般若心經略疏を讀んだが微義玄奧、消文簡約にして研求年を經るも其の深旨に會入し得なかつた。然るに華嚴宗開祖帝心大師杜順の法界觀門を讀むに及んで觸目心開、忽ちに眞空法界に悟入し、是れに由つて釋經自在の觀智を得た。かくして宋の慧因師會の般若心經略疏連珠記を讀むと、其れは未だ觀門の樞要を割たざるものであると考へ、自ら筆をとつて小鈔二卷を撰述したと云ふのである。從つて釋經に際しては宇句を異にして居るが、其の立場は杜順の法界觀の見地より註釋したものである。

卷首に明永曆十年八月四日の撰である心經注釋の緣起論並に明永曆十二年十二月二十五日(A. D. 1658)の緣起後記を附したので、本書の撰述は永曆十年の三月に起筆して十二月に圓筆したもので、錢謙益は清康熙三年八十三歲を以て順世したから本書の述作は彼の七十五歲の時であり、其の翌年には首楞嚴經疏解鈔を撰述して居る。 (大久保堅璃)

般若心經略疏探要鈔 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-ryaku-sho-tan-yō-shō. 般若波羅蜜多心經探要鈔、般若心經探要鈔、心經略疏探要鈔、心經探要鈔、般若波羅蜜多心經略疏探要鈔 ❷二卷 ❸存、大日本佛教全書第六 ❹吾淚(寶永四—天明元A. D. 1707—1781)述 ❺般若波羅蜜多心經探要鈔の下を見よ。 ❺安永二刊 ❾(龍大、二四一二・一一一)

般若心經略疏探要鈔附獨覺辨 ❶(日) Han-nya-shin-gyō-ryaku-sho-tan-yō-shō-tankakui-dō-kaku-ben. 般若心經探要鈔附獨覺辨 ❷一卷 ❸存 ❹吾淚(寶永四—天明元A. D. 1707—1781)述 ❺安永二刊 ❾(駒大)

般若心經略疏便蒙鈔 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-ryaku-sho-hem-mō-shō. ❷二卷 ❸存 ❹曇山(—寛文一〇A. D. 1670—)述 ❺貞享二刊 ❾(龍大、二四一二・一一一)

般若心經略疏聞記 ❶(日) Han-nya-shin-gyō-ryaku-sho-mon-ki. ❷一卷 ❸存 ❾寫本(龍大、二四一二・一一三)

般若心經略疏要解 ❶(日) Han-nya-shin-gyō-ryaku-sho-yō-ge. ❷一冊 ❸存 ❹無尾述 ❾寫本(高大、寄・一・二三)

般若心經略疏歷境 ❶(日) Han-nya-shin-gyō-ryaku-sho-reki-kyō. ❷一卷 ❸存 ❾寫本(谷大、餘大・四〇七五)

般若心經略疏連珠記 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-ryaku-sho-ren-ju-ki. (支) Pan-jo-hsin-ching-lüe-su-lien-chu-chi. 心經疏連珠記、心經略疏連珠記 ❷二卷 ❸存、大正三三・五五五、Ne. 1713、續呂八、卍三四・一〇、明北1593首、明南1236青、Nj. 1600 ❹宋師資(—乾道元A. D. 1166—)述

❺本書は華嚴宗第三祖賢首大師法藏の般若心經略疏の註釋は其の文約、其の旨微にして初學者難解であるから諸祖の遺訓を取つて指南とし、經論格言、程式を作り以て深隱を尙索せしめ慧炬相照、其の旨旨を了得せしむるにある。故に是れに題して連珠と云つたといふのであるが、敎綱頗る多く反つて煩瑣難入の感がある。明の錢謙益が本書を閱して難入を感じ略疏小鈔二卷を著したのも理由がある樣に思はれる。

卷末には、南宋孝宗帝乾道元年八月(A. D. 1165)慧說が華嚴沙門慧因師會を述鈔の大家として本書の註撰を嘆賞した跋文を收めて居る。

❺延寶四刊 ❾(龍大、二四一二・一一四)(高大、寄・四・中・二二) (大久保堅璃)

般若心經略鈔 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-ryaku-sho. (支) Pan-jo-hsin-ching-lüe-ch'ao. ❷一卷科一卷 ❸缺 ❹道觀述 ❼(參考) 新編諸宗敎藏總錄第一

般若心經略鈔 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-ryaku-sho. ❷一卷 ❸存 ❹俊彥亮法(元和八—延寶八A. D. 1622—1680)述 ❾刊本(正大、一一二五・二二、四一)(高大、寄・一・二三)(京巡)(駒大)

般若心経略秘 ❶(日)Han-nya-shin-gyō-ryaku-shō. ❷1巻 ❸存 ❹真言宗 ❺文化11刊(正大・11 11 五・四11)文政四刊(正大・11 11 五・四三)

般若心経略秘名義 ❶(日) Han-nya-shin-gyō-ryaku-shō-gen-dan. ❷1巻 ❸存 ❹平本(続大・11・11三)

般若心経鎧 ❶(日) Han-nya-shin-gyō-ron. (梵)Pan-jo-hsin-ching-lun. 心経論 ❷1巻 ❸存, 卍続1・四11・1 ❹法相系 ❺一説唐玄奘訳A. D. 1662—)撰 ❻龍樹菩薩 ❼(梵)Prajñāpradīpa-mulamadhyamakavṛtti) ❽(梵)Prajñā-pradīpa-mūla-madhyamaka-vṛtti (蔵訳)(蔵) dbu-maḥi rtsa-baḥi hgrel-pa ces-rab-sgron-ma. 般若燈論 ❾十五巻 ❿存, 大正三〇・五1 No. 1566, 縮写1, 卍11・七, 寺583位, 寺597位, 天590位, 明寺1178明位, 徳1178明位, 唐585寺位, 天587位, 新546寺位, 法571寺, 東1305室, 明東1336室, Nj. 1185 ⓫般若燈論釈 ⓬紀元後六世紀 ⓭(梵)Bhāvaviveka) 清辨 ⓮中観派 ⓯(梵)Prabhākaramitra) 月称 ⓰「般若灯論釈」 ⓱(梵)Prajñāpradīpa-mulamadhyamakavṛtti) ⓲(梵)Pan-jo-tēng-lun. 般若燈論 ⓳十五巻 ⓴存, 大正三〇・五1 No. 1566, 縮写1, 卍11・七, 寺580位, 寺597位, 寺590位, 明寺1178明位, 唐585寺位, 天587位, 新546寺位, 法571寺, 東1305室, 明東1336室, Nj. 1185 ㉑般若燈論釈 ㉒紀元後四一六(A. D. 630—632) ㉓般若燈論釈 ㉔(日) Han-nya-tō-ron. (梵)Pan-jo-tēng-lun. 般若燈論 ㉕十五巻 ㉖存, 大正三〇・五1 No. 1566, 縮写1, 卍11・七, 寺580位, 寺597位, 寺590位, 明寺1178明位, 唐585寺位, 天587位, 新546寺位, 法571寺, 東1305室, 明東1336室, Nj. 1185 ㉗般若燈論釈 ㉘紀元後四一六(A. D. 630—632) ㉙般若燈論 ㉚(日) Han-nya-tō-ron. 般若燈論 ㉛十五巻 ㉜存, 国宝三巻 ㉝明応7写 ㉞(梵)Pan-jo-tēng-lun-shih. (梵)Prajñā-pradīpa-mūla-madhyamaka-vṛtti (蔵訳)(蔵) dbu-maḥi rtsa-baḥi hgrel-pa ces-rab-sgron-ma. 般若燈論 ㉟十五巻 ㊱存, 大正三〇・五1 No. 1566, 縮写1, 卍11・七, 寺583位, 寺597位, 寺590位, 明寺1178明位, 徳1178明位, 唐585寺位, 天587位, 新546寺位, 法571寺, 東1305室, 明東1336室, Nj. 1185 ㊲般若燈論釈 ㊳紀元後四一六(A. D. 630—632)

㊴般若燈論は西暦紀元六世紀の中葉、分別明(Bhāvaviveka)等龍樹の中観派の主著中観派の主著中観派の主著

大正八・四二五 No. 224″ 編目六″ 卍五・四一五″ 北6葉″ 南6葉″ 定6葉″ 明北5亮″ 宿5亮″ 重7亮″ 天6葉″ 新6亮″ 法6亮″ 黒6亮″ 明南5亮″ Nj. 5 ❹支那撰述書 ❺般若理趣経 ❻〔参考〕明本行経(支那撰)の下を見よ。

般若燈行品経 ❶(日)Han-nya-dō-gyō-bon-gyō. (支)Pan-jo-tao-hsing-p'in-ching. 燈行経若経 燈行品 般若燈行品 般若燈行品経 摩訶般若波羅蜜経 摩訶般若燈行品 燈行般若波羅蜜経 般若燈行品 ❹十巻 ❺❻存″ 大正八・四二五 No. 224″ 編目六″ 卍五・四一五″ 北6葉″ 南6葉″ 定6葉″ 明北5亮″ 宿5亮″ 重7亮″ 天6葉″ 新6亮″ 法6亮″ 黒6亮″ 明南5亮″ Nj. 5 ❼支那撰述書 ❽般若理趣経 ❾〔参考〕明本行経(支那撰)の下を見よ。

般若特経 ❶(日)Han-nya-toku-kyō. (支)Pan-jo-tê-ching. ❷1巻 ❸支那撰 ❹般若経 ❺〔参考〕田三種記録五″ 法三種記録三″ 七巻録録四″ 貞目録録一1″ 1五″ 開元録録一八″ 貞元録録二八″ 内容録録三八 貞元録録二1六″ 貞元録録二1八 貞元録録二1八″ 会昌現在一切聖教目録1777

般若の切幕 ❶(日)Han-nya-no-ku-doku. ❷1巻 ❸存 ❹高田道見(一大正一1)A. D. 1923)経 ❺明本(支考)

般若波羅蜜経 ❶(日)Han-nya-ha-ra-mitsu-ge. (支)Pan-jo-po-lo-mi-chieh. 般若波羅蜜偈 般若偈 ❷1巻 ❸欠 ❹欠撰 ❺〔参考〕田三種記録四″ 開元録録五″ 宿1四″ 貞元録録八″ 録二四

般若波羅蜜陀羅尼経 ❶(日) Han-nya-ha-ra-mitsu-jin-shu-kyō. (支)Pan-jo-po-lo-mi-s' ên-chou-ching. ❷1巻 ❸欠撰 ❹大日般若の抄出° ❺〔参考〕田三種記録四″ 法三種録録二1″ 三家記録四″ 七巻録録三″ 宿録録三″ 内容録録一″ 開元録録一六″ 貞元録録二1六

般若波羅蜜多心経 ❶(日) Han-nya-ha-ra-mit-ta-shin-gyō. (支)Pan-jo-po-lo-mi-to-hsin-ching. (梵)Prajñā-pāramitā-hṛdaya (Ed. by F. M. Müller & B. Nanjō) (蔵) ces-rab sñiṅ-po bshugs-so. 般若多心経″ 般若心経″ 心経 ❷1巻 ❸存″ 大正八・八四八No. 251″ 編目九″ 卍五・四六″ 北22葉″ 南22葉″ 定16葉″ 明北17葉″ 宿17葉″ 重21葉″ 天22葉″ 新21葉″ 法21葉″ 黒21葉″ 明南16葉″ Nj. 20 ❹支那(七巻録二一般若録)(A. D. 602—654)撰 ❺法成(七巻録二三家録二二)(A. D. 649or648)

❻本経は諸大般般若経の精髄中心肝要(略)ちの教説ゑ″ これに依りて諸学は起すべきこと″ その功徳果大なること″ を説かして聞知に示さそもそもの″ 者自に般若経とは何して菩薩せそらゑ″ は本経に対り° 本経に相応するものの菩薩は世に現れたまり″ 面して当時相外は分類されこと諸般の其他にとりて当時は外は分類されども何れにも般若あり″ 元来の如し°

〔宿考〕

般若波羅蜜仏母 般若波羅蜜大明呪経 仏説摩訶般若波羅蜜多心経 般若波羅蜜多心経

〔参考〕

法華経 法華経般若波羅蜜多心経 般若経″ 利言法華経 般若波羅蜜多心経 般若波羅蜜 四名経 法成経 四名経

❻〔参考〕内容録録五″ 貞目録録一四″ 開元録録八″ 貞元録録二1

(千潟龍祥)

般若波羅蜜多心経 ❶(日) Han-nya-ha-ra-mit-ta-shin-gyō. (支) Pan-jo-po-lo-mi-to-hsin-ching. 心経 ❷1巻 ❸存″ 大正八・八四九No. 253″ 編目九″ 卍続一・一・四″ 国1409頁 ❹般若理趣分経 ❺玄奘(A. D. 793) ❻支那撰述書 ❼般若波羅蜜多心経の項参照°

般若波羅蜜多心経 ❶(日) Han-nya-ha-ra-mit-ta-shin-gyō. (支) Pan-jo-po-lo-mi-to-hsin-ching. 心経 ❷1巻 ❸存″ 大正八・八五〇 No. 254″ 卍続一・八七・四 ❹新訳般若経 ❺法護(A.D.861) ❻支那撰述書 ❼般若波羅蜜多心経の項参照° ❽(支考)(支大″種・1カ・1)

般若波羅蜜多心経 ❶(日) Han-nya-ha-ra-mit-ta-shin-gyō. (支) Pan-jo-po-lo-mi-to-hsin-ching. 心経 ❷1巻 ❸存″ 大正八・八五〇No. 255 ❹法成撰 ❺北大中一〇(A. D. 855) ❻支那撰″ 般若波羅蜜多心経の項参照°

般若波羅蜜多心経 ❶(日) Han-nya-ha-ra-mit-ta-shin-gyō. 般若波羅蜜多心経 ❷存 ❸(支大″1・1三ア・1 1)

般若波羅蜜多心経 ❶(日) Han-nya-ha-ra-mit-ta-shin-gyō. 般若波羅蜜多心経 ❷1巻 ❸存 ❹慈雲(天明三—文化元年A. D. 1718—1804)撰 ❺明本(編大″1 1五1・1八)

般若波羅蜜多心経愛集 ❶(日) Han-nya-ha-ra-mit-ta-shin-gyō-i-san. (支) Pan-jo-po-lo-mi-to-hsin-ching-hui-tsuan. 般若心経愛集″ 心経愛集 ❷1巻 ❸存″ 卍続1・四1・1 ❹近代華会撰集 ❺般若心経愛集の下を見よ。 ❻明本(支大″種・五ニ・1七)

般若波羅蜜多心経句解鈔 ❶(日) Han-nya-ha-ra-mit-ta-shin-gyō-ku-ge-i-chi. (支)Pan-jo-po-lo-mi-to-hsin-ching-chü-chieh-i-chih. 般若心経句解鈔 句解鈔 心経句解鈔 ❷1巻 ❸存″卍続1・九1・五 ❹王慎注撰 ❺宗密撰1 九(A. D. 1764) ❻般若心経句解鈔の下を見よ。 ❼(支大″種・五ア・三1)

般若波羅蜜多心経講 ❶(日)Han-nya-ha-ra-mit-ta-shin-gyō-ge. (支)Pan-jo-po-lo-mi-to-hsin-ching-chieh. 般若心経講″ 心経講 ❷1巻 ❸存″ 卍続1・四1・1 ❹近代華会撰述 ❺般若心経講の下を見よ。 ❻(支大″種・五ア・三)

般若波羅蜜多心経講義 ❶(日) Han-nya-ha-ra-mit-ta-shin-gyō-gen-gen-jutsu. (支) Pan-jo-po-lo-mi-to-hsin-ching-huan-yüan-shu. 心経講義述″ 般若心経講義述″ 心経講″ 心経講″ 般若心経講義述″ 心経講″ 心経講″ 心経講″ 般若心経講義述″ 心経講″ 心経講″ 心経講″ 般若心経講義述″ 心経講

明=顯密分齊=(五)明=註家不同及今疏傳來=(六)辨=三分有無=(七)略釋=題號=(八)辨=其邪正=(九)學行漸頓、(一〇)隨文別解で
ある。 (大野法道)

般若波羅蜜多心經註 ❶(日)Han-nya-ha-ra-mit-ta-shin-gyō-chū.(支)Pan-jo-po-lo-mi-to-hsin-ching-chu. 般若心經註、心經註 ❷一卷 ❸存、卍續一・四一・四 ❹中天竺提婆註 ❺般若心經註の下を見よ。 ❻寫眞版.京大、藏・五八・八)

般若波羅蜜多心經註 ❶(日)Han-nya-ha-ra-mit-ta-shin-gyō-chū. 龍頭般若波羅蜜多心經、龍頭般若心經註、般若心經註 ❷一卷 ❸存 ❹關淡道隆(建保元—弘安元A.D.1213—1278)述、經部彦勇註 ❻寫本(京大、藏・五八・一三)

般若波羅蜜多心經註解 ❶(日)Han-nya-ha-ra-mit-ta-shin-gyō-chū-gi.(支)Pan-jo-po-lo-mi-to-hsin-ching-chu-chieh. 心經註解、般若心經註解、御製般若心經註解、心經如玘註 ❷一卷 ❸存、大正三三・五六九 No.1714、館呂八、卍三五・六、明北1668主、Nj.1614 ❹明宗瀧(—洪武二四A.D.1391)、如玘(延純七—洪武一八A.D.1320—1385)註 ❺本書は笑隱大訢禪師の法嗣である南岳下十九世天界善世禪寺の季潭宗瀧(號全笑)和尚と、文明海慧鑑祖宗公に得法し三教に通じた演福講寺の具庵如玘(號太璞)和尚とが詔を奉じて羅什譯の心經を底本とし天親等の論を本として同註し初學者の爲に便し易き樣にしたものである。其の註解に當つて「此經以=喩法=爲=名實相爲=體無住爲=宗斷疑爲=用大乘爲=教相=」と銳て註解を進めて居る。從つて流通本の玄奘譯の心經註解とは別種なものとして興味あるものである。

宗瀧如玘は本書の外に金剛經伽の二經をも同註し共によく流傳されて居る。 ❹刊本(京大、藏・一一ム・七)寫永一五刊(京大、藏・五八・一四) (大久保堅璃)

般若波羅蜜多心經註解 ❶(日)Han-nya-ha-ra-mit-ta-shin-gyō-chū-gi.(支)Pan-jo-po-lo-mi-to-hsin-ching-chu-chieh. 般若心經註解、心經註解 ❷一卷 ❸存、卍續一・九二・五 ❹清代敬止述 ❺般若心經註解の下を見よ。 ❻寫本(京大、藏・五八・一九)

般若波羅蜜多心經註講 ❶(日)Han-nya-ha-ra-mit-ta-shin-gyō-chū-kō.(支)Pan-jo-po-lo-mi-to-hsin-ching-chu-chiang. 般若心經註講、心經註講 ❷一卷 ❸存、卍續一・九二・五 ❹清代行敏述 ❺般若心經註講の下を見よ。 ❻刊本(京大、藏・五八・二八)

般若波羅蜜多心經發隱 ❶(日)Han-nya-ha-ra-mit-ta-shin-gyō-hotsu-in.(支)Pan-jo-po-lo-mi-to-hsin-ching-fa-yin. 般若心經發隱、心經發隱 ❷一卷 ❸存、卍續一・四一・五 ❹正相禮如述 ❺明崇禎八(A.D.1635) ❻般若心經發隱の下を見よ。 ❼明暦三刊 ❽(京大、藏・五八・一六—一七)

般若波羅蜜多心經幽贊 ❶(日)Han-nya-ha-ra-mit-ta-shin-gyō-yū-san.(支)Pan-jo-po-lo-mi-to-hsin-ching-yu-tsan. 般若心經幽贊、心經幽贊 ❷二卷 ❸存、大正三三・五二三 No.1710、卍續一・四一・三 ❹唐窺基(貞觀六—永淳元A.D.632—682)述 ❺本書は玄奘門下の上足にして唯識教學の建設者慈恩大師が、三藏所傳翻譯の筆受に參加し、親しく梵本の眞意を得、且つは彼の流爲を補めたる性相學の立場より、中觀般若空を判定解釋し給へるものにして、序文にもある如く「大乘の二大教學たる中觀・瑜伽の二學、漢より唐に至る混然として未だ明瞭ならず、三藏入竺傳譯なり、基師の才運清爲遊刃郢文魏轉究盡にして精巧を補め、此經に依憑して其二宗を遙ぶ、これより三車四車權實一乘三乘の義判然たり」とあり、以て此の書が中觀・瑜伽の教學を判然せしめ、且つ瑜伽に立脚して中觀の教學を判釋せるものなることを明かである。內容は疏の文を釋するに二とし、第一に題名を解釋し、第二に疏文を解釋し、第一を二門とし、一に題目を解し、二に人名を解す。第二を二門とし、一に製作因由、二に經を謹して解釋す。又その一を二とし、一に迷悟に依つて正宗を彰し、二に三時教の爾釋を辨じて、般若は第二時空教に屬するも、法昧一にして圭邊なきことを說き、次の隨文會釋段は特に綿密を補めたるものにして、法相宗の般若空觀を說ける唯一の資料である。 ❻古寫本(藥師寺文庫)寶暦三刊(正大、一一二五・三七—三八)(京大、藏・五八・九) (橋本凝胤)

般若波羅蜜多心經幽贊添改科 ❶(日)Han-nya-ha-ra-mit-ta-shin-gyō-yū-san-ten-kai-kwa.(支)Pan-jo-po-lo-mi-to-hsin-ching-yu-tsan-tien-kai-ko. 般若心經幽贊添改科、心經幽贊添改科 ❷一卷 ❸存、卍續一・四一・三 ❹宋代守千添改 ❺般若心經幽贊添改科の下を見よ。 ❻寫本(京大、藏・五八・一〇)

般若波羅蜜多心經略解 ❶(日)Han-nya-ha-ra-mit-ta-shin-gyō-ryaku-gi. 般若心經略解、心經略解 ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第六 ❹塞山妙立(寫永一四—元祿三A.D.1637—1690)述 ❺般若心經略解の下を見よ。 ❻(帝國、八二一・一七四)

般若波羅蜜多心經略疏 ❶(日)Han-nya-ha-ra-mit-ta-shin-gyō-ryaku-sho.(支)Pan-jo-po-lo-mi-to-hsin-ching-lüe-su. 般若心經略疏、心經略疏、般若波羅蜜多心經疏 ❷一卷 ❸存、大正三三・五五二 No.1712、館呂八、卍一四・一〇、明北1592百、清1495初、明南1535書、Nj.1599 ❹唐法藏(貞觀一七—先天元A.D.643—712)述 ❺長安二年、長安の清禪寺に於て、雍州長吏榮陽鄭公の請により講述せしもの。自序に云く「良以、眞空未=嘗不=有、即=空有以辨=於空=、幻有未=始不=空、即=空以明=於有=、有空有故不=有、空有空故不=空、不空之空空而非=斷、不有之有有而不=常、四執既亡百非斯盡、般若玄旨斯之謂歟」と。色即是空の故に清辨の義立し、空即是色の故

に護法の義存すと云ふ。賢首の空有相成論は、此の心經略疏に最もよく現はれて居る。 ❾寫永二〇刊(帝國、八二一・二二六)寫文一一刊(帝國、八二一・一七五)延寶年間刊(正大、一一二五・三三)明治一八刊(高大、一・二三) (脇谷撝謙)

般若波羅蜜多心經略疏小鈔 ❶(日)Han-nya-ha-ra-mit-ta-shin-gyō-ryaku-sho-shō-shō.(支)Pan-jo-po-lo-mi-to-hsin-ching-lüe-su-hsiao-ch'ao. 般若心經略疏小鈔、心經略疏小鈔 ❷二卷 ❸存、卍續一・四一・四 ❹明錢謙益(萬曆一〇—康熙三A.D.1582—1664)集 ❺般若心經略疏小鈔の下を見よ。 ❻寫本(京大、藏・五八・一八)

般若波羅蜜多心經略疏探要鈔 ❶(日)Han-nya-ha-ra-mit-ta-shin-gyō-ryaku-sho-tan-yō-shō. 般若波羅蜜多心經探要鈔、心經略疏探要鈔、心經探要鈔、般若心經探要鈔、般若心經略疏探要鈔 ❷二卷 ❸存、大日本佛教全書第六 ❹普寂(寶永四—天明元A.D.1707—1781)述 ❺般若波羅蜜多心經探要鈔の下を見よ。 ❻安永二刊 ❼(正大、一一二五・九—一三)

般若波羅蜜多心經和釋 ❶(日)Han-nya-ha-ra-mit-ta-shin-gyō-wa-shaku. ❷一卷 ❸存 ❹慈泉(正保二—寶永四A.D.1545—1707) ❺(叡山文庫)

般若波羅蜜多那經 ❶(日)Han-nya-ha-ra-mit-ta-na-kyō.(支)Pan-jo-po-lo-mi-to-na-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹唐菩提流志(太建四—開元一五A.D.572—727)譯 ❺第三譯。 ❻(參考) 開元錄第二四、貞元錄第二四

般若波羅蜜多理趣經大安樂不空三昧眞實金剛菩薩等一十七聖大曼荼羅義述 ❶(日)Han-nya-ha-ra-mit-ta-ri-shu-kyō-dai-an-raku-fu-kū-san-mai-shin-jitsu-kon-gō-bo-satsu-tō-ichi-jū-shichi-shō-dai-man-da-ra-gi-jutsu. (支)Pan-jo-po-lo-mi-to-li-ch'ü-ching-ta-an-lo-pu-k'ung-san-mei-chen-shih-chin-kang-p'u-sa-teng-i-shih-ch'i-sheng-ta-man-t'o-lo-i-shu. 般若波羅蜜多理趣經大樂不空三昧眞實金剛薩埵菩薩等一十七聖大曼荼羅義述、十七尊釋、大曼荼羅十七尊釋、十七聖大曼荼羅義述 ❷一卷 ❸存、大正一九・六一七No.1004、館岡八、卍二七・二、北1937武、南1401衡、元1389衡、明北1444餘、清1444餘、麗1366宅、天1378衡、明南1471寬、Nj.1451 ❹唐不空(神龍元—大曆九A.D.705—774)譯 ❺(參考) 書寫請來法門等目錄

般若波羅蜜多理趣經大樂不空三昧眞實金剛薩埵菩薩等一十七聖大曼荼羅義述 ❶(日)Han-nya-ha-ra-mit-ta-ri-shu-kyō-dai-raku-fu-kū-san-mai-shin-jitsu-kon-gō-sat-ta-bo-satsu-tō-ichi-jū-shichi-shō-dai-man-da-ra-gi-jutsu. (支)Pan-jo-po-lo-mi-to-li-ch'ü-ching-ta-lo-pu-k'ung-san-mei-chen-shih-chin-kang-sa-to-p'u-sa-teng-i-shih-ch'i-sheng-ta-man-t'o-lo-i-shu. 理趣經一十七尊義述、大曼荼羅十七尊釋、理趣經一十七聖大曼荼羅義述、十七尊釋 ❷二卷 ❸存、大正一九・六一七No.1003、館岡八、卍二七・一、北1392武、南1395衡、元1385衡、明北1407高、清1400高、麗1359宅、天1376衡、法1163封、至825流、明南1160寬、Nj.1407、三十帖策子第一五 ❹唐不空(神龍九—大曆九A.D.705—774)譯 ❺大樂金剛不空眞實三昧耶經般若波羅蜜多理趣釋の下を見よ。 ❻寶暦一四刊 ❼(京大、一・二四八・二)

般若菩薩法持世菩薩法 ❶(日)Han-nya-bo-satsu-ho-ji-se-bo-satsu-hō. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第四八覺禪鈔之內 ❹覺禪(康治二—建暦二以後A.D.1143—1212—)

般若菩薩念誦儀軌 ❶(日)Han-nya-bo-satsu-nen-ju-gi-ki. (支)Pan-jo-p'u-sa-nien-sung-i-kuei. 修習般若菩薩觀行念誦儀軌、修習般若軌 ❷一卷 ❸存、大正二〇・六一〇 No.1151、館岡九 ❹唐不空(神龍元—大曆九A.D.705—774)譯 ❺修習般若波羅蜜菩薩觀行念誦儀軌の下を見よ。

般若菩薩念誦次第 ❶(日)Han-nya-bo-satsu-nen-ju-shu-dai. ❷存 ❸寫本(寶鼎院)

般若馬鳴龍樹法等 ❶(日)Han-nya-me-myō-ryū-ju-hō-tō. ❷一軸 ❸存 ❹元亨元寫 ❺(寶善提院)

般若理趣經 ❶(日)Han-nya-ri-shu-kyō.(支)Pan-jo-li-chü-ching. 大樂金剛不空眞實三昧耶般若波羅蜜多理趣釋、大樂金剛理趣經、大樂金剛經般若理趣釋、理趣釋經、般若理趣釋、理趣釋、般若理趣經 ❷二卷 ❸存、大正一九・六〇七No.1003、館岡八、卍二七・一、北1392武、南1395衡、元1385衡、明北1407高、清1400高、麗1359

文〃 南1394南〃 宋1385南〃 明北1400南〃 清1400南〃 唐1359南〃 北1163宋〃 南825梁〃 明南1160宋〃 Nj. 1407〃 三十帖般若経等巻1五 ❹法不然（唐開元一天寶元 A. D. 705—774）撰 ❺大乘令聞不空訳貞元三年頃般若波羅蜜多経 ❻巻 ❼存 ❽宋版（宋大〃巻•1•四九）

般若理趣経 ❶(日) Han-nya-ri-shu-kyō. 般若理趣経 ❷1巻 ❸存 ❹特尼詞経等〃 梁僧伽婆羅訳 ❺大正元刊 ❻(宋大〃11 11•1 1)

般若理趣経 ❶(日) Han-nya-ri-shu-kyō. 般若理趣経 ❷1巻 ❸存 ❹菩提流志等 ❺明年四刊 ❻(宋大〃1•三七)

般若理趣経宝鬘 ❶(日) Han-nya-ri-shu-kyō-kan-yō. 般若理趣経宝鬘 ❷三巻 ❸存 ❹珍海（宝亨11—文化1 1 三A. D. 1745—1816）撰 ❺本書は般若理趣経を註したもの〃 解釈書にして同名異書多し〃 ❻文化11刊 ❼(谷大〃巻•三〇11八)（有〃お•七•左•四）(京博)

般若理趣経愚解鈔 ❶(日) Han-nya-ri-shu-kyō-gu-ge-shō. 般若理趣経愚解鈔 ❷五巻 ❸存 ❹性厳（天保三年寂）記

般若理趣経の注釈〃 全篇三段に分ち〃 各段毎句之を分ち各十種の項目に分ち〃 1 開宗 2 明体 3 明相 4 明宗 5 明用 6 明教相 7 明行位 8 明因果 9 明住持 10 明人法 11 明時処 12 明説法 13 明説人 14 明説処 15 明説時 16 明説法 17 明説人 18 明説処 19 明説時 20 明説法 21 明説人 22 明説処 23 明説時 24 明説法 25 明説人 26 明説処 27 明説時 28 明説法 29 明説人 30 明説処 31 明説時

完A. D. 632—682)造 ❹大般若波羅蜜多經の下を見よ。 ❺〔參考〕般若波羅蜜多經の下を見よ。 ❻〔參考〕般若波羅蜜多經の下を見よ。切韻座日章2038

般若理趣分經 ❶(日) Han-nya-ri-shu-bun-jus-san. (支) Pan-jo-li-ch'ü-fên-shu-tsan. ❷三卷 ❸般若經 ❹般若理趣分經讚頌の下參照。 ❺〔參考〕法華經

般若靈驗傳 ❶(日) Han-nya-rei-gen-roku. ❷1卷 ❸佚 ❹寶永(徳大〕

般若靈驗傳事因明記 ❶(日) Han-nya-rei-gen-roku-narabini-im-myō-zak-ki. ❷1卷 ❸佚 ❹寶永(徳大〕11〇九九•四六)

頻唐譯語孝經 ❶(日)Han-reki-kō-wa-narabini-sek-kyō. ❷1卷 ❸佚 ❹信順(安永三—安政五 A. D. 1774—1858)造 ❺寶永(宗大〕春大〕八九11)

般若龍王經 ❶(日) Han-datsu-ryū-ō-gyō. (支) P'an-ta-lung-wang-ching. ❷1卷 ❸佚 ❹貞觀代宋譯 ❺大寶積經第四十四卷の抄出。 ❻〔參考〕出三藏記集四〕三寶記集五〕上法華經集三〕衆經目錄三〕內典錄卷11〕開元錄卷11〕祐一五〕祐二六〕貞元錄卷三〕祐二六〕祐三六

般若口決抄 ❶(日)Han-gō-ku-ke-tsu-shō. ❷1卷 ❸佚 ❹足利義代寫 ❺〔參考〕般若經記

般若口傳 ❶(日) Han-jun-ku-den. ❷三卷 ❸佚 ❹德川義代寫 ❺〔參考〕

般若口傳秘密語秘傳會法

❶(日) Han-jun-ku-den-om-mitsu-dan-hi-go-shin-hō. ❷1卷 ❸佚 ❹德川義代寫 ❺〔參考〕

般若波羅蜜小野印傳 ❶(日)Han-jun-ju-gen-kaku-o-no-in-jin. ❷佚 ❺〔參考〕

般若傳正口傳 ❶(日) Han-jun-sō-jō-ku-den. ❷1帖 ❸佚 ❺平安時代寫 ❻寫(徳大〕卷•1•六四)

般若傳正所傳實相等事 ❶(日)Han-jun-sō-jō-sho-shin-hō-shu-no-koto. ❷1帖 ❸佚 ❹正和元寫 ❺〔參考〕

版本觀音靈驗記 ❶(日) Ban-dō-kwann-on-rei-jō-ki. ❷1卷 ❸佚 ❹大正(宗大〕1•11八•1)(宗大〕卷大•三〇九〇)

版本觀音教行信證 ❶(日)Ban-dō-shim-pon-kyō-gyō-shin-shō. 親鸞聖人寫本教行信證 ❷1卷 ❸佚 ❹日下部彌彌 ❺大正11二用 ❻〔宗大〕宗法•五〇六)

版本親鸞聖人所傳教行信證

❶(日)Ban-dō-hō-on-ji-sho-den-kyō-gyō-shin-shō. ❷六卷 ❸佚 ❹親鸞聖人寫本教行信證文類の下參照。 ❺大正11用 ❻寫本西本願寺所藏本の抄出。

般若の般若波羅人 ❶(日) Ban-nen-no-shin-ran-shō-nin. ❷1卷 ❸佚 ❹佐藤賀藏著 ❺明治七刊 ❻安藤義雄著

番神縁起論 ❶(日) Ban-jin-en-gi-ron. ❷三卷 ❸佚 ❺天保八刊 ❻〔文大〕人〇四•11八11•11八六)

番神問答記 ❶(日) Ban-jim-mon-dō-ki. 番神問答 ❷1卷 ❸佚 ❺日蓮 ❻〔參考〕11一延寶四A. D. 1674—1747) ❼日蓮宗刊(〔徳大〕法華)(〔文大〕八〇四•11六五)(〔宗〕•元•11•元•六)番神問答(〔文大〕八〇四•11六八•三11二11一三11四)

番神問答記 ❶(日) Ban-jim-mon-dō-ki. ❷1卷 ❸佚 ❹十勝寺日蓮宗刊 ❺寶永11刊 ❻〔文大〕卷•11五六•1)

番神問答秘 ❶(日) Ban-jim-mon-dō-shō. 法華經靈驗傳問答秘 ❷11卷 ❸佚 ❹日蓮作 ❺文化1四刊 ❻〔文大〕八〇四•三七三)

番大悲神呪 ❶(日)Ban-dai-hi-jin-shu. (支) Fan-ta-pei-shên-chou. ❷1卷 ❸佚 〔文大〕11〇•11四 No. 1063〕 〔續藏1 11〕 明治316〕 明治298參

❹千手千眼大悲呪と說く。番は梵の轉訛ち西域の轉なり。千手千眼觀自在菩薩廣大圓滿無礙大悲心陀羅尼呪經1卷今譯和譯。千手千眼觀音菩薩廣大圓滿無礙大悲心陀羅尼經1卷今譯和譯。千手千眼觀音菩薩廣大圓滿無礙大悲心陀羅尼經1卷今譯和譯參照。

番論義 ❶(日)Ban-ron-gi. ❷1卷 ❸佚 ❹E參照 ❺寶永〔佚名〕

貫安和尚家訓 ❶(日) Ban-an-o-shō-ka-kun. ❷1卷 ❸佚 ❹貫安美寶 (天正1五一—慶安三A. D. 1587—1650) ❺〔參考〕 番神縁起論

貫耳鈔 ❶(日) Ban-ki-kan. 國學書 ❷1卷 ❸佚 ❺天保七寫 ❻〔文大〕別宣

貫休紀定集 ❶(日)Ban-kyū-da-so-ku-shū. ❷1卷 ❸佚 ❹大谷國 ❺〔參考〕 番神縁起論

貫國大陽和尚語錄 ❶(日) Ban-koku-dai-yō-o-shō-go-roku. 大陽和尚語錄 ❷四卷(11卷元本) ❸佚 ❹大陽國用 ❺〔參考〕 番神縁起論

貫國代 ❶(日)Ban-koku-dai. ❷11卷 ❸〔參考〕 番神縁起論

貫國代分 ❶(日)Ban-koku-dai-shō. ❷元卷 ❸〔參考〕 番神縁起論

貫公行業禪師四會語錄 ❶(日) Ban-shō-gyō-shū-zen-ji-shi-e-go-roku. (支)Wan-sung-hsing-hsiu-ch'an-shih-ssū-hui-yū-lu. ❷今行業(番號)貫公(姓)11一淳熙元A. D. 1166—1246) ❸〔參考〕 番神縁起論

貫公傳 ❶(日)Ban-shō-kō. ❷1卷 ❸佚 ❹伯耆國人 ❺〔參考〕 日本靈異記 法華經日〕 番神縁起論

貫公山宗祝 ❶(日) Ban-shō-san-shin-gi. 貫公山宗祝神祝 ❷11卷 ❸佚 ❹寶永(徳大〕

貫公手文書 ❶(日)Ban-shō-ji-mon-jo. ❷佚 ❹元手寺三代手書の書狀なり。 ❺〔參考〕 番神縁起論

貫公禪師語錄 ❶(日) Ban-sho-rei-zui-zen-ji-go-roku. 靈瑞人語錄 ❷三卷 ❸佚 ❹靈瑞寺 ❺明治元(徳大〕 ❻安藤義雄著

貫公老山和尚禪錄 ❶(日) Ban-shō-rō-san-o-shō-i-kō. ❷1卷 ❸佚 ❹法華國 ❺〔參考〕 番神縁起論

貫公老人 ❶(日) Ban-shō-rō

【一】 本書は明治(名治)(名治)(名治)

番和句語録 ❶(日) Bam-pō-o-shō-go-roku. (支) Wan-fêng-ho-shang-yü-lu. ❷1卷 ❸存 ❹明 [illegible] 禅僧 ❺[illegible] (支大"清・1ナく・ナ)

番民徳用 ❶(日)Bam-min-doku-yō. ❷1卷 ❸存" 鶴[illegible]著 ❹[illegible]本正三(天正七—明暦元 A. D. 1579—1655)

❺天正末年は既して修験者行上に会はる所以の心得を記けるものである。初めに修行の会[illegible]、三業の悪用を禁ず"、次で四区の心得で[illegible]ある。第一は天王日月"、第二は人日月"、第三は鬼人日月"、第四は畜人日月である。日月は[illegible]

(岡田宜法)

番号法則 ❶(日)Ban-yū-hō-soku. ❷1卷 ❸存 ❹井[illegible]著 ❺明治11四刊 ❻(唐大"11六11九・11七)

番目書 ❶(日)Ban-ri-shū. ❷天[illegible]作(一[illegible]正六A. D. 1465—) ❸人間[illegible]の作。 ❹(参考) 日本[illegible]

番匠[illegible]流先士誌 ❶(日) Ban-ge-shō-san-jō-do-ei. ❷1卷 ❸存 ❹(正大"1〇九・1九八)

番神天王国寺口上書其他 ❶(日) Ban-shū-kō-en-ji-kō-jō-sho-sono-ta. ❷1卷 ❸存 ❹[illegible](唐大"[illegible])

番神参詣山縁起 ❶(日) Ban-shū-sho-sha-zan-en-gi. 参詣山縁起" 番[illegible]参詣山縁起 ❷存" 大日本[illegible]1一七 寺誌[illegible] 不[illegible]誌 ❹[illegible]記 ❺[illegible]1 (A. D. 1644)作[illegible] ❻参詣山縁起の下と見る。

番神大山寺本縁起 ❶(日) Ban-shū-tai-zan-ji-hon-en-gi. ❷1卷 ❸存 ❹[illegible](唐[illegible])

番神領国[illegible]仕事付 ❶(日) Ban-shū-chi-sen-ik-ken-kaki-tsuke. ❷[illegible]卷 ❸存 ❹[illegible]著(享保大一[illegible]大A. D. 1721—1794) ❺[illegible](唐大"1九七1・四三)

番神法話集 ❶(日)Ban-shū-hō-wa-shū. ❷1卷 ❸存 ❹1[illegible]([illegible]元—正[illegible]11 A. D. 1239—1289)[illegible] ❺安永天[illegible] ❻(唐大"[illegible])

番神本尊徳生願文事類 ❶(日)Ban-shū-hon-toku-ji-negai-tate-sho-rui. ❷四卷 ❸存 ❹[illegible](唐大"[illegible])

番神問答集 ❶(日) Ban-shū-mon-dō-shū. ❷11卷 ❸存 ❹1[illegible]([illegible]元—正[illegible]11 A. D. 1239—1289)[illegible]" [illegible] ❺元[illegible]刊 ❻(大大"宗大・1〇三九)(唐大"11六八・11四)(支大・11四)([illegible]"[illegible]・四・[illegible]・八)([illegible]"11八・四1)

番神問答集私考分 ❶(日) Ban-shū-mon-dō-shū-shi-kō-shō. ❷[illegible]卷 ❸存" 大日本[illegible]全[illegible]大大 ❹[illegible]山著

❺本書は番神問答集11卷の註解書である。[illegible]山の[illegible]の著述に[illegible]し[illegible]" 以て[illegible]の[illegible]を[illegible]するに[illegible]ることを[illegible]て[illegible]は[illegible]の[illegible]に[illegible]は[illegible]1[illegible]上人[illegible]卷[illegible]の[illegible]中" 三分の11を[illegible]し" [illegible]に[illegible]人の[illegible]を存しないのである。[illegible]は[illegible]上人[illegible]卷[illegible]の[illegible]文の[illegible]にも" 矢[illegible]び[illegible]卷[illegible]に[illegible]すべき[illegible]

[illegible]1644)[illegible]

[illegible]

[illegible]

禪師御示聞書 ❷二卷 ❸存 ❹盤珪永琢（元和七—元祿六、A. D. 1621—1693）語 ❺寶曆八刊 ❻（高大、寄・一・二五×駒大）

盤山宗禪師語錄附行實 ❶（日）Ban-zan-shū-zen-ji-go-roku-tsuketari-gyō-jitsu.（支）P'an-shan-tsung-ch'an-shih-yü-lu & hsing-shih. ❷一卷 ❸存 ❹清了宗超見語、微風編 ❺康熙一六刊 ❻（駒大）

盤山朗空順禪師語錄 ❶（日）Ban-zan-rō-kū-jun-zen-ji-go-roku.（支）P'an-shan-lang-k'ung-shun-ch'an-shih-yü-lu. 朗空順禪師語錄 ❷一卷 ❸存 ❹清朗空順語、實性編 ❻刊本（駒大）

蟠龍子肅禪師語錄 ❶（日）Ban-ryō-shi-shuku-zen-ji-go-roku.（支）P'an-lung-tzu-su-ch'an-shih-yü-lu. ❷一卷 ❸存 ❹清超盛子肅語、性明編 ❺康熙四二刊 ❻（駒大）

鑁阿寺緣起 ❶（日）Ban-a-ji-engi. 足利鑁阿寺緣起 ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第一二〇寺誌叢書第四 ❹諸觀記 ❺享保二一（A. D. 1736）仲春

❻上野國足利の古刹、金剛山鑁阿寺の緣起である。先づ足利莊に於ける源義國居城の濫觴及び新田、足利兩家分立の事に筆を起し、次いで義國の孫、足利義兼が豆州淨山理眞上人創安に師事して剃髮受戒し、法華坊鑁阿と稱して高野山に學びしこと、文治三年には天下大平の祈禱行法を嚴修した事等を序し、次に愈々建久七（A. D. 1196）年に古城地に鑁阿寺を草創し、堂塔伽藍の造營の成つた事を具に記してゐる。更に上人の沒後、其子義氏以下歷代の足利將軍を初め朝野の、堂塔の再建或は寺領寄進の事など一々これを擧げ、以て中世に於ける當寺繁榮の跡を偲ばしめてゐる。而して足利氏の榮枯と共にその寺運も漸く傾きしを天正年間に至つて德川家康に依つて半ば復舊され、降つて元祿の頃、桂昌院の再興する所となると記してゐる。享保二十一年、當寺菩提院の住倡諦觀の撰錄にかゝる。尙、最後に文政元年に源吉從の書寫せしむる所の當寺に關する雜錄の追加がある。（不破幹雄）

鑁阿寺小史 ❶（日）Ban-a-ji-shō-shi. ❷一卷 ❸存 ❹山越認空 ❺明治三〇刊（帝國、四〇・五七七）明治三三再版（帝國、五七七）

鑁阿寺之事 ❶（日）Ban-a-ji-no-koto. 下野五箇鄕鑁阿寺之事 ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第一二〇寺誌叢書第四 ❻下野五箇鄕鑁阿寺之事の下を見よ。

鑁阿寺文書 ❶（日）Ban-a-ji-monjo. ❷一卷 ❸存 ❺寫本（正大、一〇三二・三五）

・ヴ界祕事 ❶（日）Ban-a-kai-hi-ji. ❸存、興敎大師全集 ❹覺鑁（寶保二—康治二A. D. 1095—1143）

❺・ヴは金剛界大日如來の種字、ヴは胎藏界大日如來の種字なれば、・ヴ界とは金剛界胎藏界のことなり。此の兩界の、梵名、三昧印形、種子、因果、理智、月輪蓮華、東西、本經、五色、自受用他受用、日月、五鈷三鈷、九會十三大會、五種灌頂三種灌頂、心王心數、正法輪、敎令輪、禮懺、傳來者、五相成身三部法、振鈴、左右兩手、印相、座法、供養法、梵字、種字所生、裝束、佛母、明王、根本印明、印數、偈數、吹點有無、初金後胎、座所、念珠、方位、讚、合行、別行、諸印差別等の祕密理法を對比して說明したるもの。（富田敬純）

・ヴ字義 ❶（日）Ban-ji-gi. ❷一卷 ❸存、大正七九・九No. 2515、興敎大師全集

❹・ヴは大日如來の種字なれば、其の體は宇宙に遍滿するもの故、其の功德も甚深廣大なり。故に之を疑詰するものも尙其の功德を得る所以を說き。次に廣釋して離言、水輪、塔婆、大悲、金剛、智身、灌頂、珠勝、周遍、證果、心、界、密、曼、佛、大の十六門に各々十門ありとなし、更に第一の離言說門を勝義遮情、密號差別、遮表詮義、觀修行相、滅罪除惡、往生淨刹、卽身成佛、總攝法界、勸修利益、問答決疑の十門に分ち、通計拾卷の大著作なる總叙に明かなり。

然るに惜い哉、今は第一離言說門の一部すら傳はらず。而して「已下未草」なりと斷りたる所もあり、東寺觀智院本を檢するに朱書も兩所あり、又寫字の大小も同じからず、恐らくは東寺本は原稿其の儘の形を存するものならん。然れば此の著作は散逸せしにあらずして未完成品と見るを妥當なりとす。（富田敬純）

・ヴ字義鈔 ❶（日）Ban-ji-gi-shō. ❸存、興敎大師全集

❻・ヴ字は金剛界の大日如來の種字なる故、之を悉釋せしもの。第一に、・ヴ字は瑜祇經より出づと其の出所を擧げ、金剛界三十七尊の四種法身の配當を十二門に分別して委說し、終に四波羅蜜を菩薩と稱するに六義ある旨を說く。（富田敬純）

・ヴ字祕訣灌頂 ❶（日）Ban-ji-hi-ketsu-kwan-jō. ❷一帖 ❸存 ❺德川時代寫 ❻（寶龜院）

・ヴ字密觀 ❶（日）Ban-ji-mik-kwan. ❸存、興敎大師全集 ❹覺鑁（寶保二—康治二A. D. 1095—1143）

❺・ヴ字卽ち金剛界大日如來の種字を中心として觀ずる故に此の如く名けたるもの。其の內容は金剛界の九會曼荼羅の觀想の修行を示し、之に字相字義の兩觀並に順逆兩觀あり。また成身會、羯磨會、三摩耶會、供養會、四印會、一印會の別あるを說く。此の曼荼羅觀は成就せば卽身成佛すとして卽身成佛觀と名けて三十七尊、賢劫十七尊、外金剛部二十天の觀じ方を示し、次に瑜祇の切文を擧げ、次に降三世五重結護を說き、再び繰返して字相字義の順逆觀、・ヴ字一字心觀を述べ、此の所に自ら理趣會の趣旨を說く。而して最後に無所不至印を擧ぐ、故に理趣會、降三世會の記事はなきも自ら九會曼荼羅は具備するものと見るべし。

❼（參考）諸宗章疏錄第三（富田敬純）

・ヴ上人記 ❶（日）Ban-shō-nin-ki. ❸五通 ❸存 ❹（金剛三昧院）

・ヴ要記 ❶（日）Ban-yō-ki. ❷一册 ❸存 ❺天和元寫 ❻（寶善提院）

ヒ

一二三名目 ❶（日）Hi-fa-mi-myō-moku. ❷二卷 ❸存、大日本佛教全書第四一阿彌陀傳抄第七 ❹永浸（元久二—弘安五A. D. 1205—1282）

比叡研究高僧三傳弘法、親鸞、日蓮 ❶（日）Hi-ei-ken-kyū-kō-sō-san-den-kō-bō, shin-ran, nichi-ren. ❷一卷 ❸存 ❹上田榮二著 ❺大正九刊（高大）大正一一刊（龍大、研史）

比叡山案內記 ❶（日）Hi-ei-zan-an-nai-ki. ❷一卷 ❸存 ❺明治三三刊 ❻（谷大、餘拜・一九七）

比叡山一乘止觀院重興伽藍記 ❶（日）Hi-ei-zan-ichi-jō-shi-kwan-in-jō-kō-gā-ran-ki. ❷一卷 ❸存 ❼（參考）大日本佛教全書續刊豫定書目

比叡山延曆寺元初祖師行業記 ❶（日）Hi-ei-zan-en-ryaku-ji-gwan-shō-so-shi-gyō-gō-ki. 延曆寺元初祖師行業記、祖師一生行業記、傳敎大師行業記、比叡大師行迹、行業記、比叡山元初祖師行業記 ❷一卷 ❸存、日本大藏經第四〇天台宗顯敎章疏第二、大日本佛教全書第二八、傳敎大師全集第五別卷（舊）、第五附錄（新）、續群書類從第八、史籍集覽第一二 ❹圓珍（弘仁五—寬平三A. D. 814—891）抄 ❺元慶五（A. D. 881）七月二十日 ❻延曆寺元初祖師行業記の下を見よ。

比叡山延曆寺座主圓珍和尙傳 ❶（日）Hi-ei-zan-en-ryaku-ji-za-su-en-chin-wa-shō-den. 天台宗延曆寺座主圓珍傳、智證大師傳 ❸存、大日本佛教全書第二八、智證大師全集第四、續群書類從第八 ❹三善清行（永和一三—延喜一八 A. D. 846—918）

❻智證大師傳の下を見よ。

比叡山延曆寺圖 ❶（日）Hi-ei-zen-en-ryaku-ji-zu. ❷一枚 ❸存 ❹（帝國、一〇六・一九三）

比叡山元初祖師行業記 ❶（日）Hi-ei-zan-gwan-shō-so-shi-gyō-gō-ki. 延曆寺元初祖師行業記、比叡山延曆寺元初祖師行業記、祖師一生行業記、傳敎大師行業記、比叡大師行迹、行業記 ❷一卷 ❸存 ❹圓珍（弘仁五—寬平三A. D. 814—891） ❺延曆寺元初祖師行業記の下を見よ。

比叡山再興緣起 ❶（日）Hi-ei-zan-sai-kō-en-gi. ❷一卷 ❸存 ❼（參考）大日本佛教全書續刊豫定書目

比叡山再興勸進帳 ❶（日）Hi-ei-zan-sai-kō-kwan-jin-chō. ❷一軸 ❸存 ❹尊圓法親王（永仁六—延文元A. D. 1298—1356）述 ❺寫本（帝國、寅・一八〇）

比叡山最澄和尙法門道具等目錄 ❶（日）Hi-ei-zan-sai-chō-o-shō-hō-mon-dō-gu-tō-moku-roku. 御經藏寶物聖敎等目錄、延曆寺聖敎等目錄、經藏目錄 ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第二佛敎書籍目錄第二 ❹宗澄（神護景雲元—弘仁一三 A. D. 767—822） ❺弘仁二（A. D. 811）七月十七日

❻內題には、御經藏寶物聖敎等目錄と云ふ。宗澄、延曆二十三年入唐求法し、歸朝七年の後其の將來するところの寶物、眞言道具、天台章疏、並に雜經、雜骨交鈇等を以て、永く之れを比叡の傳國道場止觀院の經藏に納めたり。時に記載せる目錄書之れなり。

❼（參考）傳敎大師將來台州錄一卷（大正五五No. 2159）。傳敎大師將來越州錄（大正五五No. 2160）（鹽入亮忠）

比叡山三院坊號歌 ❶（日）Hi-ei-zan-san-in-bō-gō-ka. ❷一卷 ❸存 ❹慈本撰 ❺文政一一（A. D. 1828） ❻（寶光院）

比叡山子院譜 ❶（日）Hi-ei-zan-shi-in-fu. ❷三卷 ❸存 ❼（參考）大日本佛教全書續刊豫定書目

比叡山寺改號延曆寺記 ❶（日）Hi-ei-san-ji-kai-gō-en-ryaku-ji-ki. ❸存、傳敎大師全集附錄

❹比叡山寺の號を延曆寺と改稱せるは弘仁十四年二月六日の事で、先帝桓武天皇の建てられし天台法華宗を傳へんがために動を寺に賜はり本名を改めしめ堅二十七日には太政官牒を送られて居る。卽ち大師寂滅後一年に是らざる時の出來事である。（叡山大師傳等を見よ）本書は元慶八年五月十九日付の三井圓滿院所藏古寫本一軸筆者未詳本の表題を以つて命名せる所で、內容は登山創住、補十禪師、入唐、年分度者、物故、改號等の年時を簡單に記したものである。

❻（三井圓滿院）

比叡山相輪樓銘 ❶（日）Hi-ei-zan-sō-rin-rō-mei. 叡嶽相輪樓銘（可透錄、龍堂錄） ❷一卷 ❸存、傳敎大師全集第三（舊）第五（新） ❹宗澄（神護景雲元—弘仁一三 A. D. 767—822）撰 ❺弘仁一一（A. D. 820）九月

❻本書の眞僞に付いて考ふるに、可透錄、龍堂錄は共に眞撰と爲し、天海は日光相輪樓建立略記に於いて、光謙は略釋、環神は直解に於いて何れも眞撰とせり。本書が大師の眞撰と斷ずるには何二三の僞點あり、修禪錄に錄せざる點。六所寶塔と相輪樓との關係。大師在世中には山城の寶塔院未建立の點及本文の山王一等云々の本地垂迹思想の疑問等なり、辻博士は鷲迹思想の存するに依り本書を僞書と斷ぜり。更に研究を要す。

本書は四字一句計六十四句の銘文にして相輪樓を建立し、諸天善神等の冥道を悅ばしめ、以て護國利民の實を擧げ信誓共に佛道を成ぜしめんとするに存す、六所寶塔造立の精神、三部長講會始修の精神と揆を一にす。

❼（注釋） 相輪樓銘直解（環神）。相輪樓銘略釋（光謙）（鹽入亮忠）

比叡山相輪樓銘直解 ❶（日）Hi-ei-zan-sō-rin-rō-mei-tai-kai-gō. 相論樓銘直

解 ❷一卷 ❸存 ❹唱導述 ❺(叡山文庫)

比叡山相輪樓銘略釋 ❶(日)Hi-ei-zan-sō-rin-rō-mei-ryaku-shaku. 相輪樓銘略釋 ❷一卷 ❸存 ❹光謙撰述(永慶元—元文四A. D. 1652—1739)述 ❺(元文元刊(淺草寺文庫)(谷大、餘大・二〇六〇)(龍大、二六五九・四四)延享三刊(立大、A一六・九)

比叡山天台法華院得業學生式 ❶(日)Hi-ei-zan-ten-dai-hok-ke-in-toku-gō-gi-ku-shō-shiki. 比叡天台法華院得業生式 ❷一卷 ❸存、傳教大師全集第四(舊)第一(新) ❹寂澄(神護景雲元—弘仁一三A. D. 767—822) ❻弘仁九(A. D. 818)五月十五日

❻比叡山天台法華院の年分度者止觀造那兩業學生及十五以上二十五以下の得業生の修學用心を定めたる者にして、六條式制定後の制と傳ふ。其の内容八條式と一致せず、修禪錄に傳教大師御記とあり、或は八條式制定前の山家の試案か。修禪錄・可透錄、龍堂錄共に寛錄せり。 (壓入亮忠)

比叡山東塔緣起 ❶(日)Hi-ei-zan-tō-tō-en-gi. 東塔緣起(龍堂錄、可透錄) ❷一卷 ❸存、傳教大師全集第四(舊)第五(新) ❹寂澄(神護景雲元—弘仁一三A. D. 767—822) ❻弘仁一二(A. D. 821)七月十七日

❻六所寶塔の一近江の寶塔院造塔の緣起なり。根式帝靈奉賛の爲の造塔なり。叡岳要記より抄出せり。 (壓入亮忠)

比叡山阪東山王社小案内記 ❶(日)Hi-ei-zan-ban-dō-sann-ō-sha-shō-an-nai-ki. ❷一卷 ❸存 ❹(龍大、二九七四・四二)

比叡山表銘 ❶(日)Hi-ei-zan-hyō-mei. ❷一卷 ❹寂澄(神護景雲元—弘仁一三A. D. 767—822) ❼(參考) 本朝台嶺撰述密部書目、山家嶺德撰述篇目集卷上

比叡山佛教講演集 ❶(日)Hi-ei-zan-bukk-yō-kō-en-shū. ❷一冊 ❸存 ❹圓西佛教青年會編 ❺明治四一刊 ❹(京大、一・二〇七・二)

比叡山無動寺大師並古德記同各院世代記 ❶(日)Hi-ei-zan-mu-dō-ji-dai-shi-narabini-ko-tok-ki-dō-kaku-in-se-dai-ki. ❷一卷 ❸存 ❹玄軌編 ❹(明德院)

比叡山無量院無礙光如來緣起 ❶(日)Hi-ei-zan-mu-ryō-in-mu-ge-kō-nyo-rai-en-gi. ❸存 ❹寫本(龍大、別置) ❹(新)

比叡山名勝記 ❶(日)Hi-ei-zan-mei-shō-ki. 天台宗大本山比叡山名勝記 ❷一卷 ❸存 ❹覺忍 ❺明治四一刊 ❹(龍大)

比叡山目錄 ❶(日)Hi-ei-zan-mo-ku-roku. ❷一卷 ❸存 ❼(參考) 大日本佛教全書續刊豫定書目

比叡說鏡 ❶(日)Hi-ei-se-kyō. ❷一卷 ❹寂澄(神護景雲元—弘仁一三A. D. 767—822)撰 ❼(參考) 本朝台嶺撰述密部書目、山家嶺德撰述篇目集卷上

比叡大師行迹 ❶(日)Hi-ei-dai-shi-gyō-shiki. ❷一卷 ❸存 ❹圓珍(弘仁—五—寛平三A. D. 814—891)

❻本朝台嶺撰述密部書目に云く「依ニ今太政閣下召一依ニ本傳一抄出。本朝僧傳云珍撰ニ傳教大師之年譜一文。同異可レ檢」云々。蓋し太政閣下とは藤納言閣下卽ち初代延暦寺御別當の一人たる權中納言從三位兼行阜后太夫左兵督藤原三守のことを指し、本傳と云ふは仁忠撰の叡山大師傳を指すものにして、本書比叡大師行迹とは日本佛教全書第二八、日本大藏經天台宗續教章疏第二等所收の延暦寺元初嶺師行業記のこと。同項の下を見よ。

比叡大師傳 ❶(日)Hi-ei-dai-shi-den. ❷一卷 ❼(參考) 本朝台嶺撰述密部書目

比叡天台法華院得業生式 ❶(日)Hi-ei-ten-dai-hok-ke-in-toku-gō-shiki. 比叡山天台法華院得業學生式 ❷一卷 ❸存、傳教大師全集第四(舊)第一(新) ❹寂澄(神護景雲元—弘仁一三A. D. 767—822) ❻比叡山天台法華院得業學生式の下を見よ。❼(參考) 本朝台嶺撰述密部書目、山家嶺德撰述篇目集卷上

比較宗教學 ❶(日)Hi-kaku-shū-kyō-gaku. ❷一卷 ❸存、帝國百科全書第一六一 ❹マックス・ミューラー著、南條文雄(嘉永二—昭和二A. D. 1849—1927)譯 ❹(帝國、七八・三)

比登農古乃世 ❶(日)Hi-to-no-ko-no-yo. ❷一卷 ❸存、惠雲章著全集第一〇 ❹惠雲(享保三—文化元A. D. 1718—1804) ❻寛政二(A. D. 1790)

❻人のこの世に在るは、天命に依り、神祇のまもりに依る所以を述べて、諸神の生成せる本義を解說してゐる。

❹古寫本(河内高貴寺)嘉永三寫(京都神光寺)

日吉肝要記 ❶(日)Hi-e-kann-yō-ki. ❷一卷 ❸存 ❹宜俊撰 ❹(叡山文庫) (高見寛應)

日吉山王位階形儀記 ❶(日)Hi-e-sann-ō-i-kai-gyō-sō-ki. ❷一卷 ❸存、❹嚴覺記 ❺元祿八(A. D. 1695) ❹(無動寺)

日吉山王七社權現船謠 ❶(日)Hi-e-sann-ō-shichi-sha-gon-mya-funa-uta. ❷一卷 ❸存 ❹良源(延喜二二—寛和元A. D. 912—985)撰 ❹(無動寺)

日吉山王新記 ❶(日)Hi-e-sann-ō-shin-ki. 神道肝要集 ❷一卷 ❸存、續群書類從第二輯神祇部二 ❹宜俊 ❺寛文四(A. D. 1664)五月十三日

❻日吉山王二十一社の緣起である。上の七社は伊勢、石清水、賀茂、松尾、平野、稻荷、春日、中の七社は大原野、大神、石上、大和、廣瀨、龍田、住吉、下の七社は日吉、梅宮、吉田、祇園、北野、丹生、貴布禰となし、各々神體、降臨垂迹時代、神號、神位、社頭建立並問歌、小社、神輿、本地等の項目のもとに諸書の文を引いてその由來を明してゐる。奥に、「于時寛文四甲辰暦閏五月十三日遂功訖 探題談峰學頭實俊 山門妙覺院公憲書寫畢」とあり、卷末に「元應

元年大社小比叡社社家注進狀が附載してある。 (不破幹雄)

日吉山王知新記 ❶(日)Hi-e-sann-ō-chi-shin-ki. ❷三卷 ❸存 ❹圓眞(大治五—建久三A. D. 1130—1192) ❼(參考) 天台宗典籍目行豫定書目

日吉山王利生記 ❶(日)Hi-e-sann-ō-ri-shō-ki. ❷九卷 ❸存、續群書類從第二輯神祇部二 ❹寂濟

❻卷首に日吉山王社の緣起を略述し、次いで延曆四(A. D. 785)年から文永元(A. D. 1264)年迄の叡山歷代の座主或は高僧碩德等を中心とした山王の靈驗物語を寛錄したものである。假名文で挿繪を以て說明されたものであるが今その繪を省いてゐる。 (不破幹雄)

日吉山王利生記 ❶(日)Hi-e-sann-ō-ri-shō-ki. 續日吉山王利生記 ❷一卷 ❸存、續群書類從第二輯神祇部二

❺別書「日吉山王利生記」の續編で、文永二(A. D. 1265)年から正和二(A. D. 1313)年迄の山王利生物語を、前書の如く假名文を以て繪傳した短編で、これも今は繪を省く。終りに文化元(A. D. 1804)年書寫の奥書と寛保二(A. D. 1742)年の繪卷物同書がある。 (不破幹雄)

日吉山王略緣起 ❶(日)Hi-e-sann-ō-ryaku-en-gi. ❷一卷 ❸存 ❹覺深記 ❺元祿八(A. D. 1695) ❼(參考) 山家嶺德撰述篇目集卷下 ❹(叡山文庫)

日吉神道訣正 ❶(日)Hi-e-shin-tō-ketsu-shō. ❷一卷 ❸存 ❹眞超記 ❹(詳如藏)

日吉神輿御入洛見聞略記 ❶(日)Hi-e-jin-yo-gō-gyō-rako-ken-mon-ryaku-ki. ❷一卷 ❸存、新校群書類從第一

❻本書は應安元(A. D. 1368)年八月及び同二年四月の兩度に亘り、山門の大衆が日吉の神輿を奉じて入洛した時の見聞記である。神輿入洛の動機は、新築の南禪寺の樓門の敷地が山門領であるから、件の樓門を撤却し、同寺の長老(玄璵)を流刑に處せよといふに在つた。然るに流刑の事は行はれたが未だ樓門撤却の事が實施されない爲め、この翌年四月に再度の强訴となり、同年八月、樓門破却されるに及んで漸く鎭靜を見るに至つたものである。此の間、天皇が潛かに法身院に御臨幸遊ばされるなど、これを以てしても山徒の氣勢狼籍振りとその勢威の程が窺はれ、他面これに對する上下の無力が想像し得られるであらう。尙、本書の後半に神輿造營の事に關する記錄がある。 (不破幹雄)

日吉社神道秘密記 ❶(日)Hi-e-no-yashiro-shin-tō-mik-ki. ❷一卷 ❸存、新校群書類從第一卷神祇部 ❹祝部行丸 ❻天正五(A. D. 1577)三月

❻元龜二年九月十三日に叡山及び坂本が織田信長の燒討に遭つた時、當日吉社も其厄に漏れず社頭を初め古記錄の類悉烏有に歸した。それから七年後の天正五年三月に至つて當社の再建が行はれる事となり、此處に彌宜大藏卿祝部宿彌行丸が社頭新造の參考に資せんが爲に本社及び末社の由緣や社家の來歷等を寛錄したものが卽ち本書である。最初に祝部氏の略系圖を擧げ、次に本書新調の所以を述べ、次いで大比叡大明神の垂跡と同神殿座に關する祝部宇志丸の事績を委しく述べ、以下殿中所々神社の次第、社務中系圖、山王御影響の事、神門の事、其他本末諸社の雜事などを細大漏らさざる樣、多くの挿繪を以て說明してゐる。新校群書類從所載のものは、東叡山善門院本を底本とし、天海大僧正筆本を以て校正したものである。 (不破幹雄)

日吉社室町殿御社參記 ❶(日)Hi-e-no-yashiro-muro-machi-dono-go-sha-san-ki. ❷一卷 ❸存、續群書類從第二輯神祇部二

❻本書は應永元(A. D. 1394)年九月、足利義滿の日吉社參譜の顚末を記錄したものである。卽ち今度の室町殿の御社參は、吾朝希有之高樓だとか、先代超過之大義だなどと、山上山下の寺社擧つてこれが準備に大童であつた事が七月廿九日から九月八日迄の詳細な記錄に依つて窺はれる。更に同十一日參着から十四日還御に至る間の記載は一層能く准后義滿の威勢を物語るものである。最後に上進物を列擧してゐる。貞享三年八月及文化五年二月等の寫本の奥書がある。

❹應永元寫 ❹(谷大、外大・七四〇) (不破幹雄)

日吉本記 ❶(日)Hi-e-hon-gi. ❷四卷 ❸存、續群書類從第二輯神祇部二 ❹讃忠撰

❻比叡山の諸社寺の緣起、利生等を詠じた七言律詩である。奥書に「日吉本記作者本云、文曆弥榮年孟陬上旬天草之云云、于時寛文元年霜月吉辰書之、筆者曇雄」とある。 (不破幹雄)

日枝記 ❶(日)Hi-e-ki. ❷一卷 ❸存 ❹靜性讃、圓俊記 ❹(十妙院)

日置默仙破草鞋 ❶(日)Hi-oki-moku-sen-ro-shi-mau-kai-sen-shaku-roku. ❷一卷 ❸存 ❹田中靈鐵、奥村洞嶽共編 ❺明治四〇刊 ❹(駒大)(帝國、八一・一〇八一)

日蔭草 ❶(日)Hi-kage-gusa. ❷一卷 ❸存 ❹富玉 ❻授翁宗弼和尙傳の資料。

❹文化一二刊(龍大、研史)大正一五刊(駒大)

日宰都婆 ❶(日)Hi-sai-tō-ba. ❷一帖 ❸存 ❺德川時代寫 ❹(寶善提院)

日宰都婆口傳 ❶(日)Hi-sai-tō-ba-ku-den. ❷一卷 ❸存 ❹貞圓記 ❺天文六(A. D. 1537) ❹(妙法院)

日宰都婆式 ❶(日)Hi-sai-tō-ba-shiki. ❸存、興教大師全集第二 ❹覺鑁(嘉保二—康治二A. D. 1095—1143)

❻毎日〳〵一本の塔婆を建立して、其の塔婆の功德を讃嘆する式文なり。此の讃式は二段式にして第一段は所由を述べ、第二段は卒都婆の功德十種に分ちて之を編讚し、六大無礙の八句の頌を各四句宛に分けてそ

の図の解文に示す。（吉田東伍）

日本紀略大事 ❶(日)Hi-so-tō-ba-dai-ji. ❷1帖 ❸仔 ❹徳川時代頃 ❺（東京図書）

日野大納言略年譜記 ❶(日)Hi-no-dai-na-gon-toshi-mitsu-kyō-ki. ❷1巻 ❸仔 ❹藤原資忠三百 ❺文化三頃 ❻（東京図書）

日野唐土定院記 ❶(日)Hi-no-tan-jō-in-shi. ❷1冊 ❸仔 ❹宗氏歴代録 ❺昭和六刊 ❻安藤日新著作記

批記集 ❶(日)Hi-ki-shū. ❷1巻 ❸仔〔大日本史論文集〕人和初版大阪全集 ❹大学は和歌大阪図書会 ❺昭和六刊 ❻大阪1巻

批記 ❶(日)Hi-ki. ❷1巻 ❸仔 ❹藤原定子（摂政関白道隆女）一条天皇の皇后 ❺A. D. 573—621） ❻貴文1三冊 ❼(冷大)・巻大・三〇九四）

批記 ❶(日)Hi-gan-ki. ❷1巻 ❸仔 ❹藤原道長（摂政関白道長長男）一条天皇の皇后 ❺A. D. 1290—1373

披底 ❶(日) Hi-tei. ❷一帖 ❸存 ❹明應七寫 ❺(寶龜院)

披葉衣觀音法 ❶(日)Hi-yō-e-kwann-on-hō. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第四七疊禪鈔之內 ❹疊禪(康治二—建暦二以後A. D. 1143—1212—)

肥後異安心御札御教誡 ❶(日) Hi-go-i-an-jin-on-tadashi-go-kyō-kai. ❷一卷 ❸存 ❹肥後法華隨遥の僧侶十五名に對する再御札及御教誡なり。 ❺寫本(谷大、宗大・一五三)

肥後延壽寺月感驛勸記 ❶(日) Hi-go-en-ju-ji-geki-kan-ō-dō-ki. ❷一卷 ❸存 ❺寫本(龍大)

肥後歡喜講所立 ❶(日) Hi-go-kwan-gi-kō-sho-ryō. ❸存 ❹龍溪說 ❺寫本(龍大、一七五・四一)

肥後歡喜講所立と對辨 ❶(日) Hi-go-kwan-gi-kō-sho-ryō-to-tai-hen. ❸存 ❺寫本(龍大、一七五・四一)

肥後元正寺御講書其他 ❶(日) Hi-go-gwan-shō-ji-o-kō-sho-sono-ta. ❸存 ❺寫本(龍大、別置)

肥後元正寺實道奉窺書 ❶(日) Hi-go-gwan-shō-ji-jitsu-dō-ukogai-tatematsuri-no-sho. ❷一卷 ❸存 ❺寫本(龍大、別置)

肥後元正寺實道御札記錄 ❶(日)Hi-go-gwan-shō-ji-jitsu-dō-on-tadashi-ki-roku. ❷二卷 ❸存 ❺寫本(龍大、一七二・七)

肥後元正寺實道領解書 ❶(日) Hi-go-gwan-shō-ji-jitsu-dō-ryō-ge-sho. ❷一帖 ❸存 ❺寫本(龍大、別置)

肥後興禪錄 ❶(日) Hi-go-kō-zen-roku. ❷一卷 ❸存 ❹面山瑞方(天和三—明和六A. D. 1683—1769) ❷(參考) 禪籍目錄

肥後實道所立書 ❶(日)Hi-go-jitsu-dō-sho-ryō-sho. ❸存、雜草小部集第六 ❺寫本(龍大、研置)

肥後州大慈寺開山寒山石禪師略傳 ❶(日)Hi-go-shū-dai-ji-kai-san-kan-zan-seki-zen-ji-ryaku-den. ❷一卷 ❸存 ❷(參考) 大日本佛教全書續刊豫定書目

肥後桃花派の偉人實道の生涯 ❶(日) Hi-go-tō-ke-ha-no-i-jin-jitsu-dō-no-shō-gai. ❷一卷 ❸存 ❹佐々木憲德著 ❺大正一五刊 ❺(龍大)(高大・一・二一)

肥後國勅賜水上山興聖萬壽禪寺開山勅特賜神子禪師榮尊大和尚年譜 ❶(日) Hi-go-no-kuni-chokū-shi-mizu-kami-san-kō-shō-man-juzen-ji-kai-san-chokū-tokū-shi-shin-shizen-ji-ki-zen-dai-o-shō-nen-pu. 榮尊大和尚年譜、神子禪師榮尊大和尚年譜、神子年譜 ❷一卷 ❸存、續群書類從第九 ❹宋元撰 ❺建治元(A. D. 1275) ❻榮尊大和尚年譜の下を見よ。

肥後本妙寺 ❶(日)Hi-go-hon-myō-ji. ❷一卷 ❸存 ❹肥後本妙寺編 ❺明治三二刊 ❺(立大、B〇六・一〇)(帝國、八四・六三)

肥後明增老評破 ❶(日) Hi-go-myō-zō-rō-hyō-ha. ❸存、雜草小部集第六 ❺寫本(龍大、研置)

肥築日記 ❶(日) Hi-chiku-nik-ki. ❷一卷 ❹面山瑞方(天和三—明和六A. D. 1683—1769) ❷(參考) 禪籍目錄

肥陽問答 ❶(日) Hi-yō-mon-dō. ❷一卷 ❸存、眞宗全書第六二、眞宗小部集卷五 ❹法霖(元祿六—寶保元 A. D. 1693—1741) ❺享保一七(A. D. 1732)

❻本書は法霖の門人、肥陽の慈航が文面を以て法霖師に對し、宗門の要義および諸種の論目について質問せしに、法霖師一々解答を與へしものにして、師弟の往復俱に、敎められてある。問答は聖道淨土二門之略圖、佛出本懷論、淨土眞宗興行記、一念邪正決、第十九願假令、不了佛智、化土年歲、來迎左諸行往生、惡人來迎、來迎方便、論文名義、敎行證、本願生起本末、御本書不引法華文、眞佛土卷、助正彙雜五專修、御傳文宗淵源、同傳文我誓願、信行兩座、當麻變相の二十箇條である。

(荻生隆三)

祕印抄 ❶(日) Hi-in-shō. ❷一卷 ❸存 ❹義空記 ❺(明德院)

祕印鈔 ❶(日) Hi-in-shō. ❷一帖 ❸存 ❺應安六年二月二十日寫鳳より賢寶に授し諸流印信の口決。

祕詠全鑑記 ❶(日)Hi-ei-kon-chō-ki. 金鑑記 ❷二卷 ❸存、眞宗全書五六 ❹知空(寛永二一—享保三A. D. 1634—1718)述 ❺寛文六(A. D. 1666) ❻金鑑記の下を見よ。 ❼自筆本(龍大、別置)

祕學鈔 ❶(日) Hi-gaku-shō. ❷一卷 ❸存 ❹宣明(寛延二—文政四 A. D. 1749—1821)述 ❺寫本(龍大、一三〇・五二)

祕肝鈔 ❶(日) Hi-kan-shō. ❷一卷 ❸存、弘法大師全集第一四僞作部 ❹諸種の觀行法等を類聚したるもの、即ち胎藏大日如來自行觀、金剛界大日如來自行觀、金剛藏大日如來灌頂觀、金剛愛染王金剛界別行觀、不動明王胎藏界別行觀、無題(印信樣のもの)、隨心金剛夜叉、法界令利、如意寶珠の八項あり。此の中に隨心金剛夜叉は空海の口說、眞雅の記として別に行はれて居る。その他は怪しげなるもので、兩部のことを金剛藏と名けたり、胎藏や不動明王の梵語が誤つて居たり、その他にも恣に捏造した樣な說が多い、空海作などと稱して傳へて居るけれども僞作たること明かである。

❺古寫本(東寺寶書提院)寫本(神光院)

(吉祥眞雄)

祕記 ❶(日) Hi-ki. ❷一卷 ❸存 ❺實曆一二寫(谷大、餘大・九六九)足利、南北朝、鎌倉、德川時代寫(寶書提院)

祕記 ❶(日) Hi-ki. 祕記西大寺流 ❷一卷 ❸存 ❺寫本(谷大、餘大・三〇九六)

祕教書義 ❶(日) Hi-kyō-on-gi. ❷一卷 ❸存 ❹苑法(元和八—延寶八A. D. 1622—1680) ❺刊本(龍大、二〇二一・二八)

祕教要略抄 ❶(日) Hi-kyō-yō-ryaku-shō. ❷一卷 ❸存 ❹顯春記 ❺(西敎寺)

祕經開書 ❶(日) Hi-kyō-kiki-gaki. 相應經開書 ❷一帖 ❸存 ❹東山白毫院 ❺南北朝頃寫 ❺(高大、寄・一三六)

祕曲深々抄 ❶(日)Hi-kyoku-jin-jin-shō. 祕曲深々抄惠光流 ❷一卷 ❸存 ❹遺存記 ❺(妙法院)

祕口 ❶(日) Hi-ku. ❷一軸 ❸存 ❺德川時代(寶龜院)寫本(高大)

祕口傳 ❶(日) Hi-ku-den. ❷一帖 ❸存 ❹成壑(永德元—寶德三A. D. 1381—1451)草 ❺足利時代寫 ❺(寶龜院)

祕口等大事 ❶(日)Hi-ku-tō-dai-ji. ❷六帖 ❸存 ❺鎌倉足利時代寫 ❺(寶龜院)

祕觀火第 ❶(日) Hi-kwan-shū-dai. ❷一帖 ❸存 ❺德川時代寫 ❺(寶龜院)

祕觀心相錄 ❶(日) Hi-kwan-shin-sō-roku. ❷一卷 ❸存 ❹月海 ❺享保一六刊 ❺(龍大、二六六七・一三)(正大、一四八・一五)

祕決 ❶(日)Hi-ketsu. ❷一卷 ❸存 ❺永正三寫 ❺(寶善提院)

祕決 ❶(日)Hi-ketsu. ❷一册 ❸存 ❹如意輪加星供、紅葉祕決、唯授一人灌頂私記、護身法灌頂の四種を收む。 ❺寫文四寫(谷大、餘大・二七二九)

祕決鈔 ❶(日)Hi-ketsu-shō. 觀經祕決集、觀經四帖疏祕決集、觀無量壽經祕決集 ❷二十卷 ❸存、大日本佛教全書第五四、西山全書第一 ❹證空(治承元—寶治元A. D. 1177—1247)述 ❺觀經祕決集の下を見よ。 ❼(參考) 淨土眞宗教典志第三

祕決鈔 ❶(日)Hi-ketsu-shō. ❷一卷 ❸存 ❹空慧(寛文元—延享三A. D. 1661—1745) 輯 ❺圓智玄誓等の小品を集めしもの。 ❺寫本(谷大、長保・九二、宗大・二四二七)

祕鍵 ❶(日)Hi-ken. 般若心經祕鍵、心經祕鍵 ❷一卷 ❸存、大正五七・一一No. 2203A、日本大藏經第一〇般若部章疏、修驗聖典第一、弘法大師全集第三 ❹空海(寶龜五—承和二A. D. 774—835)述 ❺般若心經祕鍵の下を見よ。

祕鍵 ❶(日) Hi-ken. 科註祕鍵、科註般若心經祕鍵 ❷二册 ❸存 ❹眞賢(—正德二A. D. 1712)述 ❺貞享二刊 ❺(高大、一・四六)(寶龜院)

祕鍵伊呂波鈔 ❶(日)Hi-ken-i-ro-ha-shō. 般若心經祕鍵伊呂波聞書、祕鍵伊呂波聞書 ❷二卷 ❸存 ❹宥快(貞和元—應永二三A. D. 1345—1416)述 ❺般若心經祕鍵伊呂波聞書の下を見よ。

祕鍵開藏鈔 ❶(日) Hi-ken-kai-zō-shō. 般若心經祕鍵開藏鈔、心經祕鍵開藏鈔、心經開藏鈔 ❷二卷 ❸存、日本大藏經第一〇般若部章疏 ❹顯瑜(寛祿二—嘉元二A. D. 1226—1304)述 ❺般若心經祕鍵開藏鈔の下を見よ。 ❼(參考) 諸宗章疏錄第三 ❺永正一四寫(寶龜院)文明一八寫(寶壽院)大永元寫(高大)刊本(哲、ま・八・左・一六)(正大、一四三一・四八、一三二)(高大、一・六四)(京帝)

祕鍵開寶鈔 ❶(日)Hi-ken-kai-hō-shō. 般若心經祕鍵開寶鈔、心經祕鍵開寶鈔、心經開寶鈔 ❷二卷 ❸存、日本大藏經第一〇般若部章疏 ❹道範(元曆元—建長四 A. D. 1184—1252)述 ❺般若心經祕鍵開寶鈔の下を見よ。 ❼(參考) 諸宗章疏錄第三 ❺天明元刊(高大、寄・一・四六)鎌倉時代寫(寶書提院)

祕鍵開門訣 ❶(日)Hi-ken-kai-mon-ketsu. 般若心經祕鍵開門訣、心經祕鍵開門訣 ❷三卷 ❸存、大正五七・一八 No. 2204 ❹濟遠(萬壽二—永久三A. D. 1025—1115)述 ❺般若心經祕鍵開門訣の下を見よ。 ❺鎌倉末期寫 ❺(寶壽院)

祕鍵開門決 ❶(日)Hi-ken-kai-mon-ketsu. ❷三卷 ❹定深(—天仁元 A. D. 1108—)

❻諸宗章疏錄第三に云く"按。此濟遠撰。出=此師下、誤也。"云々。濟遠のものは、般若心經祕鍵開門訣として大正新修大藏經第五十七卷に收めらる。

祕鍵開書 ❶(日) Hi-ken-kiki-gaki. 般若心經祕鍵鈔、般若心經祕鍵某寶鈔、般若心經祕鍵開書、祕鍵某寶鈔心經鈔、心經祕鍵寶口鈔 ❷六卷 ❸存、日本大藏經第一〇般若部章疏 ❹某寶(德治元—貞治元 A. D. 1306—1362)口、賢寶(正慶二—應永五 A. D. 1333—1398)記 ❺貞治二刊 ❻般若心經祕鍵鈔の下を見よ。 ❼萬治二刊(高大、寄・一・四六)永正六寫(寶龜院)永祿三及明德元寫(寶壽院)

祕鍵教童鈔 ❶(日) Hi-ken-kyō-dō-shō. 般若心經祕鍵開藏鈔、心經祕鍵開藏鈔 ❷二卷 ❸存 ❹宥快(貞和元—應永二三A. D. 1345—1415)述 ❺明德四(A. D. 1393)十一月三日 ❻般若心經祕鍵教童鈔の下を見よ。

祕鍵愚艸 ❶(日) Hi-ken-gu-sō. 般若心經祕鍵愚艸、心經祕鍵愚艸、心經愚艸 ❷二卷 ❸存 ❹楓瑜(寛祿二—嘉元二A. D. 1226—1304)述 ❺般若心經祕鍵愚艸の下を見よ。 ❼(參考) 諸宗章疏錄第三 ❺應永三〇、寛正七寫(寶壽院)

祕鍵講筵 ❶(日) Hi-ken-kō-en. 般若心經祕鍵講筵 ❷三卷 ❸存 ❹如實(元祿一一—寶曆五 A. D. 1698—1755)述 ❺上中卷は延享二(A. D. 1745)三月、下卷は同三(A. D. 1745) ❻般若心經祕鍵講筵の下を見よ。

祕鍵講翼 ❶(日)Hi-ken-kō-yoku. 般若心經祕鍵講翼 ❷二卷 ❸存 ❹元瑜(寶曆六—文政九 A. D. 1756—1826)述 ❺寛政九(A. D. 1797) ❻般若心經祕鍵講翼の下を見よ。

祕鍵某寶鈔 ❶(日) Hi-ken-gō-hō-shō. 般若心經祕鍵鈔、般若心經祕鍵某寶鈔、般若心經祕鍵聞書、心經鈔、心經祕鍵祕鍵聞書、祕鍵寶口鈔 ❷六卷三册 ❸存、日本大藏經第一〇般若部章疏 ❹某寶(德治元—貞治元 A. D. 1306—1362)口、賢寶(正慶二—應永五 A. D. 1333—1398)記 ❻般若心經祕鍵鈔の下を見よ。 ❼(刊本、哲・け・二・右・一二)

祕鍵搬義鈔 ❶(日) Hi-ken-satsugi-shō. 般若心經祕鍵搬義鈔、心經祕鍵搬

秘密、心師秘密鈔、❷1巻 ❸存 ❹寛延（享保1）〇一享保1〇 A. D. 1643—1725）撰 ❺貞享元（A. D. 1684） ❻般若心経秘鍵講義の下を見よ。

秘密私記 ❶（日）Hi-ken-shi-ki. 般若心経秘密私記 ❷四巻 ❸存 ❹寛延（享保1）一寛保1 A. D. 1674—1742）撰 ❺享保1（A. D. 1728） ❻般若心経秘密私記の下を見よ。 ❼寛保1）写 ❽〔続大〕〔全・1・四六〕

秘密私記 ❶（日）Hi-ken-shi-ki. 真言秘密私記 ❷三帖 ❸存 ❹享保四写 ❺〔続大〕〔全・1・四六〕

秘密指要 ❶（日）Hi-ken-shi-yō. 般若心経秘密指要 ❷1巻（2巻1）巻 ❸存 ❹延享（寛永1）天一元禄1元 A. D. 1639—1702）撰 ❺〔法全〕

秘密色不異空事 ❶（日）Hi-ken-shiki-fu-i-kū-ji. ❷1帖 ❸存 ❹永正1〇写 ❺〔今昔三密記〕

秘密宗旨 ❶（日）Hi-ken-shū-i. ❷1巻 ❸存 ❹元暦元一建武四 A. D. 1184—1252）撰 ❺〔参考〕 西宗教学概説三

秘密初心鈔 ❶（日）Hi-ken-sho-shin-shō. ❷1巻 ❸存 ❹弘長（文永1）一文永元1 A. D. 1225—1304）撰 ❺〔参考〕 西宗教学概説三 ❻永仁四写 ❼〔資定記〕

秘密鈔 ❶（日）Hi-ken-shō. 般若心経秘密鈔 ❷1巻 ❸存 ❹元暦（元暦元一建武四 A. D. 1184—1252）撰 ❺〔参考〕 西宗教学概説三 ❻足利中期写 ❼〔資定記〕

秘密鈔 ❶（日）Hi-ken-shō. 般若心経秘密鈔、般若心経秘密鈔、心経秘密鈔、心経秘密鈔 ❷1巻 ❸存 ❹寛延（享保1）〇一享保1〇 A. D. 1643—1725）撰 ❺貞享元（A. D. 1684） ❻般若心経秘密鈔の下を見よ。

秘密大事 ❶（日）Hi-ken-dai-ji. 般若心経秘密大事 ❷1巻 ❸存 ❹元暦（元暦元一建武四 A. D. 1184—1252）撰 ❺〔参考〕 西宗教学概説三

秘密事相記 ❶（日）Hi-ken-tō-mon-ki. 般若心経秘密事相記 ❷三巻 ❸存 ❹嘉永（弘安1） A. D. 1279—）撰 ❺嘉暦1（A. D. 1330） ❻般若心経秘密事相記の下を見よ。 ❼宝永元刊 ❽〔続大〕〔全・1・四六〕〔新"け・1・右・1六〕〔安寺〕

秘密分科 ❶（日）Hi-kem-bun-kwa. 般若心経秘密分科 ❷1巻 ❸存 ❹明治（天保1四一大正元 A. D. 1843—1920）作 ❺明治新古時代写 ❻〔資定記〕

秘密宝口鈔 ❶（日）Hi-ken-hō-ku-shō. 般若心経秘密鈔、般若心経秘密宝口鈔、秘密宝口鈔、秘密宝口鈔、心経秘密宝口鈔、心経秘密宝口鈔 ❷六巻 ❸存、日本大蔵経第一〇〇般若部巻 ❹弘安一元治元 A. D. 1306—1362）口、貞和（正慶1一建武元 A. D. 1333—1398）記 ❺般若心経秘密鈔の下を見よ。

秘密文彩抄 ❶（日）Hi-kem-mom-pitsu-shō. 般若心経秘密文彩四巻抄 ❷1帖 ❸存 ❹日蓮（永享七一永正1六 A. D. 1435—1519）撰 ❺鎌倉時代写 ❻〔資定記〕

秘密文林 ❶（日）Hi-kem-mon-rin. 般若心経秘密文林、般若心経文林 ❷1巻 ❸存 ❹寛永（慶安1）1一寛延元 A. D. 1607—1652）撰 ❺〔参考〕 西宗教学概説三

秘密問題 ❶（日）Hi-kem-mon-dai. 般若心経秘密問題、心経秘密問題、心経問題 ❷1巻 ❸存 ❹応永（永享元一寛徳元 A. D. 1381—1451）撰 ❺般若心経秘密問題の下を見よ。 ❻写本（宗寺）貞文元写（全・1・四六）

秘密略解 ❶（日）Hi-ken-ryaku-ge. 般若心経秘密略解 ❷三巻 ❸存 ❹嘉永（弘安1） A. D. 1279—）撰 ❺嘉暦1（A. D. 1330） ❻般若心経秘密略解の下を見よ。 ❼〔資定記〕

秘密略解 ❶（日）Hi-ken-ryaku-sha-ku. ❷1巻 ❸存 ❹宝暦（宝永1一享和1 A. D. 1773—1850）撰 ❺〔参考〕 続日本仏教全書明治新定日蓮

秘密略注 ❶（日）Hi-ken-ryaku-chū. 般若心経秘密略注 ❷1巻 ❸存、大正新脩大蔵経第一〇No. 2203B、日本大蔵経第一〇〇般若部巻四 ❹寛喜（寛永1）一嘉治1 A. D. 1095—1143）注 ❺般若心経秘密略注の下を見よ。 ❻弘安元写（寛永元）〔資定記〕〔寛永1〕写〔資定記〕

秘密略解注註解 ❶（日）Hi-ken-ryaku-chū-shō-ge. 般若心経秘密略解注註解 ❷三巻 ❸存 ❹寛延（享保）写 ❺〔全・1・八・左・1 四〕〔安寺〕

秘密論議勘文 ❶（日）Hi-ken-ron-gi-kam-mon. ❷1巻 ❸存 ❹鎌倉時代写 ❺〔資定記〕

秘密論議 ❶（日）Hi-ken-ron-gi. 般若心経秘密論議 ❷1帖 ❸存 ❹寛永1三写 ❺〔資定記〕

秘密奇法 ❶（日）Hi-go-shin-hō. ❷1帖 ❸存 ❹鎌倉時代写 ❺〔資定記〕

秘蔵 ❶（日）Hi-san. ❷1巻 ❸存 ❹鎌倉時代写 ❺〔資定記〕

秘蔵業 ❶（日）Hi-san-shū. ❷1巻 ❸存 ❹文政七写 （貞享・1・四六）

秘蔵 ❶（日）Hi-ji. ❷1帖 ❸存 ❹寛永三写 ❺〔資定記〕

秘蔵一教 ❶（日）Hi-ji-ip-pan. ❷1巻 ❸存 ❹貞享（寛永1）1一享保三 A. D. 1634—1718） ❺写本（〔続大〕）

秘蔵記学 ❶（日）Hi-ji-kiki-gaki. ❷1巻 ❸慶長十四年（天正1一寛永1〇 A. D. 1575—1643） ❹〔参考〕 西宗教学概説三 ❺寛永1五刊（〔全・1・四六〕〔続大〕〔全・1・四六〕）〔新"け・1・中・六〕〔安寺〕

秘密は経典の秘密法門に属するものとして、上師は秘密法門に属するものとして秘密法門、密教経典、秘密法門、天部貴族の秘密法門（仏性思想系統）、天部貴族の秘密法門（仏性思想系統田）、天部貴族の秘密法門（仏性思想系統田）、天部貴族の秘密法門（仏性思想系統田

◎寺本（宝大・五四九・三五）

法華験法文 ●（日）Hi-shō-yō-hō-mon. ●三帖 ◎弁 ◎鎌倉時代写 ◎（東寺宝記）

法術書 ●（日）Hi-jutsu-sho. ●1帖 ◎弁 ◎鎌倉時代写 ◎（東寺宝記）

法華記作者名字等 ●（日）Hi-sho-ki-saku-sha-myō-ji-tō. 法華記作者名字等 ●1帖 ◎弁 ◎室町時代写 ◎（東寺宝記）

法華験 ●（日）Hi-sho-shō. ●1巻 ◎延暦（東寺一末写）A. D. 774—835）

◎新宗教産業株式会社に在り「鹿〇巻。鹿産気。鹿子」云々。

法華験記 ●（日）Hi-sho-shō-ki. ●四巻 ◎延暦（東寺一末写）A. D. 774—835）

◎新宗教産業株式会社に在り「鹿〇巻。高山〇巻。鹿産1巻。鹿産云々1巻」云々。

法花 ●（日）Hi-shō. ●1巻 ◎寛文四—八年写（寛文以後A. D. 1072—1145—）

◎〔参考〕 新宗教産業株式会社

法験 ●（日）Hi-shō. 法験 白衣観音 薬師験 七日験 ●十八巻（但し法華経を除いて巻数1足りず） ◎弁 ◎天正十七・四八三 No. 2489 ◎守覚法王（久安六—建仁二 A. D. 1150—1202）

◎法験十八巻は守覚法王の著作として挙げられる。法王は最白河天皇の第二皇子にして、久安六年に誕生し、建仁二年に五十三歳にて薨じ給ふ。本書完成年、上限は守覚法王が出家して「釣殿御所」の御号を称め、王に配されて田家し「釣殿御所」の御号を称め、その著作に「百首歌」あり、と伝ふ。法験は其の一にして、これを法験と呼ぶ。法験は法華経を主とするの霊験なりとす。法華は仏教を代表する経典にして、歴代の歴史に受けて歴史、歴代の歴史を代表する経典なり、小野流を密教に受けて「野」を作り、小野流を代表して「野」を作り、東に密教に巨大な口座を設けて、野の名を以て密教の総称とし、この中に密教を以て「野」と称するに至る。鎌倉時代に於てこれを法験と名づく。この法験は守覚法王の御製作なるべき。この法験を白衣観音、薬師、七日験と名づけ、白衣観音は観音菩薩、薬師は薬師如来、七日験は七日間の修法なるべし。歴代に於ては法験十八巻にして、其の名を挙げたるものにこれを薬師に配すれば、法華経の巻数は不足にして、法華経の巻数は

秘鈔傳授要意 ❶(日)Hi-shō-den-ju-yō-i. ❷九卷 ❸存 ❹元瑜(寶層六—文政九 A.D.1-56—1826)述 ❺草本(智山常盤藏)

秘鈔傳秘決 ❶(日)Hi-shō-den-hi-ketsu. ❷五卷或十卷 ❸桂宮院澄禪(安貞元—德治二 A.D.1227—1307) ❼(參考)諸宗章疏錄第三

秘鈔表白 ❶(日)Hi-shō-hyō-byaku. ❷二軸 ❸存 ❺寛文一三寫 ❻(高大、寄・一・六〇)

秘鈔目錄 ❶(日)Hi-shō-mo-ku-ro-ku. ❷一册 ❸存 ❹完位記 ❺寛文五寫 ❻(金剛三昧院)(寶龜院)

秘鈔問答 ❶(日)Hi-shō-mon-dō. 秘鈔問答鈔 ❸存、大正七九・三〇一 No.2536 ❹覚瑜(嘉祿二—嘉元二 A.D.1226—1304)述 ❼(參考)諸宗章疏錄第三、密乘撰述目錄 ❽鎌倉時代寫(高大、寄・一・三三)大永三寫(寶龜院)刊本(谷大餘大・一一八五)(正大、一四三一・二六八)(龍大、二六六一・四四)(加藤精神)

秘藏記 ❶(日)Hi-zō-ki. ❷三卷 ❸存 ❹日像(文永六—康永元 A.D.1269—1342)述 ❺原本(眞經寺)寫本(立大、DO・一九六)

秘藏記肝文私鈔 ❶(日)Hi-zō-ki-kan-mon-shi-shō. ❷一卷 ❸存 ❹印融(永享七—永正一六 A.D.1435—1519)述 ❼(參考) 眞言宗全書刊行豫定書目

秘藏記勘文 ❶(日)Hi-zō-ki-kan-mon. ❷三卷 ❸存 ❹信日(—德治二 A.D.1307)述 ❺寫本(高大、寄・一・三三)

秘藏記聞書 ❶(日)Hi-zō-ki-kiki-gaki. 秘藏記秘聞鈔 ❷六卷或三卷 ❸存 ❹我實(—文保元 A.D.1317)口、介法印記 ❺延慶二(A.D.1309)七月—八月 ❻延慶二年七月十一日より八月二十九日迄、佐々目僧都、觀乘法印、性宥僧都、性印僧都、成秀僧都、政印律師、觀寶、觀神、靜怡、我覺の十人を聽衆として、秘藏記を傳授した時の筆錄。初に作者、異本のことを記し、次に題號、本文を釋す。介法印とは東寺寶藏院觀寶のことならん。 ❺寛延四寫 ❼(高大、寄・一・三三)

秘藏記聞書 ❶(日)Hi-zō-ki-kiki-gaki. ❷二册 ❸存 ❹宥智(永正一六—永祿一二 A.D.1519—1569)記 ❺寫本(高大)

秘藏記口決 ❶(日)Hi-zō-ki-ku-ketsu. 秘藏記深賢鈔 ❷一卷 ❸存 ❹成賢(康保二—寛喜三 A.D.1163—1231)口、深賢(—弘長元 A.D.1261)記 ❺貞應元(A.D.1222)九月 ❻秘藏記の本文を八十七章に分ちて釋す。秘藏記末釋中最古の一である。

秘藏記口決 ❶(日)Hi-zō-ki-ku-ketsu. ❷一卷 ❸存 ❹覚瑜(嘉祿二—嘉元二 A.D.1226—1304)記 ❺弘長二(A.D.1262) ❻憲深の口說を記したもの。秘藏記を八十六條に分ちて釋したもの。

秘藏記愚章 ❶(日)Hi-zō-ki-gu-shō. ❷五卷 ❸存 ❹賢實(正慶二—應永五 A.D.1333—1398)述 ❻秘藏記末註の一にして、初に大意、作者、異本、題號、章段等に分ちて一部の要旨を述べ、次に摩訶毘盧遮那、兩部曼荼羅、金剛頂經四會、金剛界九會の四章のみを釋す。大部分は兩部曼荼羅に關するもので秘藏記の注書としては未完なれども優れたる末書であり且つ、兩部曼荼羅に關する賢實の見解を知るに重要なるものである。 ❾寫本(高大、寄・一・三三)

秘藏記見聞私記 ❶(日)Hi-zō-ki-ken-mon-shi-ki. ❷三册 ❸存 ❾寫本(高大、寄・一・三三)

秘藏記旨要鈔 ❶(日)Hi-zō-ki-shi-yō-shō. ❷五卷 ❸存 ❹雄任述 ❺寛文八(A.D.1668) ❻呆實の秘藏記私鈔の拔萃なり。 ❺寛文一一刊 ❾刊本(龍大、二六六一・四六)(正大、一四三一・二八〇)(高大、一・三三)(京專)

秘藏記私記 ❶(日)Hi-zō-ki-shi-ki. ❷三卷 ❸存 ❹應住述

秘藏記私記 ❶(日)Hi-zō-ki-shi-ki. ❷五卷 ❸存 ❻秘藏記本文を九十章に分ちて釋したものにして、寫本には略字を用ひて禾草言私記といふ。

秘藏記私鈔 ❶(日)Hi-zō-ki-shi-shō. 秘藏記鈔 ❷十卷 ❸存、日本大藏經第四四眞言宗事相章疏 ❹呆實(德治元—貞治元 A.D.1316—1362)述 ❻觀應三(A.D.1352)

❻本書は初に「秘藏記」の作者、異本、訓卷不同、題號、章段に就いて述べ一部を百章に分ちて、第一章、大日經題目の梵名より、第百章、廻向陀羅尼に至るまで各章の文段一々を詳釋し終りに密教觀想道場觀如圓、并に兩部曼荼羅尊位註釋を出せり。「秘藏記」末鈔中の白眉と稱せらる。寛文八年秋高野山櫻池院雄任の撰せし「秘藏記旨要鈔」五卷は全く本書の拔萃に過ぎず。本書は呆實が其の弟子賢實の爲に講述せし所にして、觀應三年(改元文和、南朝の正平七年)七月十七日、江州平方寶の本願寺に於て之を始め、同年九月二十七日講了せしことは、卷首の識語、卷末の奥書等によりて明かなり。慶安五年版本等數種世に行はる。 ❼(參考) 本朝台組撰述密部書目 ❾寶德元寫(寶書提紀)長祿二刊(龍大、二六六一・四五)(京專)慶安五刊(谷大、餘大・一三四三)(高大、一・三三) (加藤精神)

秘藏記觀意抄 ❶(日)Hi-zō-ki-shi-i-shō. ❷一卷 ❸存 ❹覚瑜(嘉祿二—嘉元二 A.D.1226—1334)述 ❼(參考)眞言宗全書刊行豫定書目

秘藏記拾要記 ❶(日)Hi-zō-ki-shō-yō-ki. 拾要記 ❷九卷 ❸存 ❹覚瑜(安永二—嘉永三 A.D.1773—1850)述 ❺天保一三(A.D.1842)

❻秘藏記註書の一。初に末註、大意、作者、異本、題釋、章段分別の諸項を述べ、次に本文を釋す。秘藏記註書は普通略本につき

云ふのである。然れども此の奥書は廣本全部に對する奥書ではなく、單に「兩部尊位及註釋」のみに奥書せしものであつて、文殊より此の「兩部尊位及註釋」を受けた日本の阿闍梨は靈最寺圓行に相違ないのであるから、圓行が從來集錄してゐた略本(文殊より奉上を受けた「兩部尊位及註釋」等を附加したものが廣本であると觀るのが妥當であらう。

本書の末釋としては「秘藏記私鈔」十卷呆實撰。「同旨要鈔」五卷雄任撰。(以上刊行)寫本にては自性上人我實口說金剛法印記の「秘藏記聞書」六卷。深賢記の「秘藏記口決」一卷。「同口決覚瑜記」一卷。「同拾要記」九卷陳瑜撰等あり。(「秘藏記」の著者に就いて「密教」一卷三號加藤精神參照。)

❼(參考) 諸宗章疏錄第三、密乘撰述目錄 ❾鎌倉時代寫(高大、寄・一・三三)大永三寫(寶龜院)刊本(谷大餘大・一一八五)(正大、一四三一・二六八)(龍大、二六六一・四四)(加藤精神)

秘藏記 ❶(日)Hi-zō-ki. ❷三卷 ❸記 ❷(參考) 山家思德撰述篇目集卷下、密乘撰述目錄、自在金剛集第八

秘藏記 ❶(日)Hi-zō-ki. ❷三卷 ❸存 ❹日像(文永六—康永元 A.D.1269—1342)述 ❺原本(眞經寺)寫本(立大、DO・一九六)

秘藏記肝文私鈔 ❶(日)Hi-zō-ki-kan-mon-shi-shō. ❷一卷 ❸存 ❹印融(永享七—永正一六 A.D.1435—1519)述 ❷(參考) 眞言宗全書刊行豫定書目

秘藏記口決 ❶(日)Hi-zō-ki-ku-ketsu. 秘藏記深賢鈔 ❷一卷 ❸存 ❹成賢(康保二—寛喜三 A.D.1163—1231)口、深賢(—弘長元 A.D.1261)記 ❺貞應元(A.D.1222)九月 ❻秘藏記の本文を八十七章に分ちて釋す。秘藏記末釋中最古の一である。

秘藏記口決 ❶(日)Hi-zō-ki-ku-ketsu. ❷一卷 ❸存 ❹覚瑜(嘉祿二—嘉元二 A.D.1226—1304)述 ❺弘長二(A.D.1262) ❻憲深の口說を記したもの。秘藏記を八十六條に分ちて釋したもの。

秘藏記愚章 ❶(日)Hi-zō-ki-gu-shō. ❷五卷 ❸存 ❹賢實(正慶二—應永五 A.D.1333—1398)述 ❻秘藏記末註の一にして、初に大意、作者、異本、題號、章段等に分ちて一部の要旨を述べ、次に摩訶毘盧遮那、兩部曼荼羅、金剛頂經四會、金剛界九會の四章のみを釋す。大部分は兩部曼荼羅に關するもので秘藏記の注書としては未完なれども優れたる末書であり且つ、兩部曼荼羅に關する賢實の見解を知るに重要なるものである。 ❾寫本(高大、寄・一・三三)

秘藏記見聞私記 ❶(日)Hi-zō-ki-ken-mon-shi-ki. ❷三册 ❸存 ❾寫本(高大、寄・一・三三)

秘藏記旨要鈔 ❶(日)Hi-zō-ki-shi-yō-shō. ❷五卷 ❸存 ❹雄任述 ❺寛文八(A.D.1668) ❻呆實の秘藏記私鈔の拔萃なり。 ❺寛文一一刊 ❾刊本(龍大、二六六一・四六)(正大、一四三一・二八〇)(高大、一・三三)(京專)

秘藏記私記 ❶(日)Hi-zō-ki-shi-ki. ❷三卷 ❸存 ❹應住述

秘藏記私記 ❶(日)Hi-zō-ki-shi-ki. ❷五卷 ❸存 ❻秘藏記本文を九十章に分ちて釋したものにして、寫本には略字を用ひて禾草言私記といふ。

秘藏記私鈔 ❶(日)Hi-zō-ki-shi-shō. 秘藏記鈔 ❷十卷 ❸存、日本大藏經第四四眞言宗事相章疏 ❹呆實(德治元—貞治元 A.D.1316—1362)述 ❻觀應三(A.D.1352)

❻本書は初に「秘藏記」の作者、異本、訓卷不同、題號、章段に就いて述べ一部を百章に分ちて、第一章、大日經題目の梵名より、第百章、廻向陀羅尼に至るまで各章の文段一々を詳釋し終りに密教觀想道場觀如圓、并に兩部曼荼羅尊位註釋を出せり。「秘藏記」末鈔中の白眉と稱せらる。寛文八年秋高野山櫻池院雄任の撰せし「秘藏記旨要鈔」五卷は全く本書の拔萃に過ぎず。本書は呆實が其の弟子賢實の爲に講述せし所にして、觀應三年(改元文和、南朝の正平七年)七月十七日、江州平方寶の本願寺に於て之を始め、同年九月二十七日講了せしことは、卷首の識語、卷末の奥書等によりて明かなり。慶安五年版本等數種世に行はる。 ❼(參考) 本朝台組撰述密部書目 ❾寶德元寫(寶書提紀)長祿二刊(龍大、二六六一・四五)(京專)慶安五刊(谷大、餘大・一三四三)(高大、一・三三) (加藤精神)

秘藏記觀意抄 ❶(日)Hi-zō-ki-shi-i-shō. ❷一卷 ❸存 ❹覚瑜(嘉祿二—嘉元二 A.D.1226—1334)述 ❼(參考)眞言宗全書刊行豫定書目

秘藏記拾要記 ❶(日)Hi-zō-ki-shō-yō-ki. 拾要記 ❷九卷 ❸存 ❹陳瑜(安永二—嘉永三 A.D.1773—1850)述 ❺天保一三(A.D.1842)

❻秘藏記註書の一。初に末註、大意、作者、異本、題釋、章段分別の諸項を述べ、次に本文を釋す。秘藏記註書は普通略本につき

祖向輪陀羅尼の章までを釋すと雖も、本書は更に密教道場觀想圓の項をも釋す。
❹自筆本(智山常盤藏)

祕藏記諸雜記 ❶(日)Hi-zō-ki-sho-zak-ki. ❷1冊 ❸存 ❹寫本(高大、寄・一・三三)

祕藏記抄 ❶(日)Hi-zō-ki-shō. ❷1冊 ❸存 ❺足利時代寫 ❻(寶菩提院)

祕藏記鈔 ❶(日)Hi-zō-ki-shō. ❷1卷 ❸存 ❹道範(元暦元—建長四 A. D. 1184—1253)述 ❺(參考) 眞言宗全書刊行豫定書目。

祕藏記鈔 ❶(日)Hi-zō-ki-shō. ❷1卷 ❸存 ❹慶深(建久三—弘長三 A. D. 1192—1263)口、廣長記

祕藏記鈔 ❶(日)Hi-zō-ki-shō. 祕藏記私鈔 ❷十卷 ❸存、日本大藏經第四四眞言宗事相章疏 ❹吳寶(德治元—貞治元 A. D. 1306—1362)述 ❺祕藏記私鈔の下を見よ。 ❼(參考) 諸宗章疏錄第三 ❽刊本(京專)(哲・け・四・右・二〇)

祕藏記鈔 ❶(日)Hi-zō-ki-sho. ❷1冊 ❸存 ❹建海記 ❺嘉永六寫 ❻(高大、寄・一・三三)

祕藏記深賢鈔 ❶(日)Hi-zō-ki-jin-ken-sho. 祕藏記鈔 ❷1卷 ❸存 ❹深賢(—弘長元 A. D. 1261) ❺嘉永元寫 ❻(高大寄・一・三三)

祕藏記藏勸抄 ❶(日)Hi-zō-ki-zō-kan-sho. ❷五卷 ❸存 ❹道我(—暦應頃 A. D. 1338—1342—)

❺本書は、正和三年大覺寺仙洞御所に於ける我實齋講の口說に基き、更に道我が添削を加へて廣く本文を勘考して、暦應五年三月に至つて大成したものにして、緣起事、題目事、胎藏曼荼羅事等、八十七條に渉つて詳述してゐる。
❼(參考) 眞言宗全書刊行豫定書目

祕藏記藏談抄 ❶(日)Hi-zō-ki-zō-dan-sho. 祕藏記傳授鈔、藏談鈔、雜聞鈔 ❷二卷 ❸存 ❹寛快、貞和元—應永三二 A. D. 1345—1416)口、快全(—應永三二 A. D. 1424)記

祕藏記章位 ❶(日)Hi-zō-ki-sō-i. ❷1卷 ❹空海(寶龜五—承和二 A. D. 774—835)

❺諸宗章疏錄第三に云く「按。現本祕藏記終兩部章位恐是。又範錄別出金剛根本一會一卷。檢諸錄不見。思兩部章位初云金剛根本一會。恐以此爲別卷歟」云々。

祕藏記傳授抄 ❶(日)Hi-zō-ki-den-ju-sho. ❷三卷 ❸存 ❹源珍記

祕藏記傳授鈔 ❶(日)Hi-zō-ki-den-ju-sho. ❷1卷 ❸存 ❹呈實(德治元—貞治元 A. D. 1306—1362)述 ❼(參考) 眞言宗全書刊行豫定書目

祕藏記傳授鈔 ❶(日)Hi-zō-ki-den-ju-sho. 雜聞鈔、藏談鈔、祕藏記藏談抄 ❷二卷 ❸存 ❹寛快、貞和元—應永二三 A. D. 1345—1416)口、快全(—應永三三 A. D. 1424)記 ❺應永二〇(A. D. 1413) ❻祕藏記の本文を九十章に分科す。❼元政三寫(龍大、研佛)寫本(高大、寄・一・三三)(寶龜院)

祕藏記聞鈔 ❶(日)Hi-zō-ki-bun-mon-sho. 祕藏記聞書 ❷三卷或六卷 ❸存 ❹頂寶(弘安二 A. D. 1279—) ❺諸宗章疏錄第三に云く「奥批云自性上人說介法印記介一作レ亮」云々。祕藏記聞書の下を見よ。

祕藏記分科 ❶(日)Hi-zō-ki-bun-kwa. ❷1冊 ❸存 ❹寫本(高大、寄・一・三三)

祕藏記文字不同私考 ❶(日)Hi-zō-ki-mon-ji-fu-dō-shi-kō. ❷1冊 ❸存 ❹寫本(高大、寄・一・三三)

祕藏記要訣 ❶(日)Hi-zō-ki-yō-ketsu. ❷1卷 ❸存 ❹慧光(寛文六—享保一九 A. D. 1666—1734)述 ❺元治元寫 ❻(寶龜院)

祕藏記要訣鈔 ❶(日)Hi-zō-ki-yō-ketsu-shō. 祕藏記要訣 ❷六卷 ❸存 ❹實嚴述 ❼(參考) 眞言宗全書刊行豫定書目

祕藏經 ❶(日)Hi-zō-kyō. (支)Mi-mi-mi-ang-ching. 大方廣如來祕密藏經、如來祕密藏經、祕密藏經 ❷二卷 ❸存、大正一七・八三七 No. 821、縮字一〇、卍一二・二、北416藏、南426藏、元423藏、明北439藏、清439藏、麗114藏、天423藏、指384藏、法415藏、至421藏、明南421藏、Nr. 443 ❹失譯 ❺大方廣如來祕密藏經の下を見よ。

祕藏口傳並丸字觀道範御消息 ❶(日)Hi-zō-ku-den-narabini-ku-ji-kwan-dō-han-go-shō-soku. ❷一帖 ❸存 ❹道範(元暦元—建長四 A. D. 1184—1252) ❺足利時代寫 ❻(寶龜院)

祕藏金寶集 ❶(日)Hi-zō-kom-pō-shū. 祕藏金寶鈔、金寶集、金寶鈔 ❷十卷 ❸存、大正七八・三三九 No. 2485 ❹實運(長治二—永暦元 A. D. 1105—1160) ❺祕藏金寶鈔の下を見よ。 ❻享保一二寫(寶龜院)德川時代寫(寶菩提院)明治四一刊(谷大、餘小・一二〇)(正大、一四八・一〇九)

祕藏金寶集聞書 ❶(日)Hi-zō-kom-pō-shū-kiki-gaki. ❷1冊 ❸存 ❺德川時代寫 ❻(寶龜院)

祕藏金寶集口訣 ❶(日)Hi-zō-kom-pō-shū-ku-ketsu. ❷十卷二冊 ❸存 ❹鈴鹿(寶永六—寛政七 A. D. 1709—1795)記 ❻寫本(京大、印哲・U・一五)(高大、一・六四)

祕藏金寶集散供紙 ❶(日)Hi-zō-kom-pō-shū-san-ku-shi. ❷1卷 ❸存 ❹寫本(正大、一四八・四六)

祕藏金寶集藏盆記 ❶(日)Hi-zō-kom-pō-shū-tai-bon-ki. ❸存 ❹寫本(智山專門學校)

祕藏金寶集傳授目錄 ❶(日)Hi-zō-kom-pō-shū-den-ju-moku-roku. ❷1帖 ❸存 ❹覺鑁記 ❺德川時代寫 ❻(寶龜院)

祕藏金寶鈔 ❶(日)Hi-zō-kom-pō-shō. 祕藏金寶集、金寶集、金寶鈔 ❷十卷 ❸存、大正七八・三三九 No. 2485 ❹實運(長治二—永暦元 A. D. 1105—1160)

❺祕藏金寶鈔十卷は醍醐伝院實運の編錄である。實運僧都は世壽五十六、永暦元年に示寂す、其の初め三寶院勝覺の室に入りて

明海と名づく。勝覺滅後、勧修寺寛信法務の門に入り、勧流の祕奥を受け、後再び醍醐に還り、名を實運と改め、元海の正嫡となり、醍醐第十七世の座主を務めた人である。其の著作多し、祕藏金寶鈔十卷は其の一にして、この金寶鈔は其の奥書に「此鈔者實運僧都受寛信法務祕說所記也」と云ふを以て寛信法務の祕記を編錄し、これを十卷に分ちたるは當寺院心覺である。其の內容は〔第一卷〕六字・轉法輪・仁王經・孔雀經・金輪。〔第二卷〕如法尊勝・遺告口傳・地儀・鎮禮・新佛始作法・葉衣・白衣・大白衣・八字文殊・護摩壇作法・訶利母帝・灌頂。〔第三卷〕五大虛空藏・佛眼・無垢淨光・六字經・釋迦・不空羂索・光明眞言・寶樓閣・金輪・藥師・阿閦・訶利母帝。〔第四卷〕法華經・仁王經・愛染・後七日・牛王加持・四方雷光・心經。〔第五卷〕菩賢延命・河臨略記。〔第六卷〕五大尊行像・不動・四天王・請雨・八大佛頂。〔第七卷〕大勝金剛・孔雀・梨・觀音開持法・阿彌陀・阿摩齡・焰摩提奏。〔第八卷〕歡喜天・大元・金剛藏王・最勝太子・一髻文殊・理趣經印。〔第九卷〕千手・多羅・圓滿金剛・滅惡趣尊・毗俱胝・轉法輪・五字文殊・六字文殊・如意輪六臂・地藏。〔第十卷〕陀都法・如意寶珠・香藥・七寶・五寶・尊法目錄である。三寶院流にありては此の祕藏念寶鈔と玄祕鈔と諸尊要鈔とを後三部と稱し、一流傳授の聖教として最も重要とする。
❹明和八寫(高大、一・六四)文化五及寶暦六寫(高大、寄・一・六四) (高井觀海)

祕藏雜記 ❶(日)Hi-zō-zak-ki. ❷三冊 ❸存 ❺康安二寫 ❻(寶菩提院)

祕藏抄 ❶(日)Hi-zō-shō. ❷1冊 ❸存 ❺覆應三寫 ❻(寶菩提院)

祕藏註 ❶(日)Hi-zō-chū. ❷十卷 ❸存 ❹朝鮮刊(內閣)

祕藏註 ❶(日)Hi-zō-chū. ❷1冊 ❸存 ❺文明一六寫 ❻(金剛三昧院)

祕藏白譚 ❶(日)Hi-zō-byaku-dan. ❺本朝合組撰述密部書目に云く「密聞祕藏記二冊。弘法大師萬タラニ付テ不審事被ノ注之云々。此記ヲ圓光上人於白毫院被ニ注記ニナリ。〔上帖殊ニ詮要ナリ〕上人ヲ良含ト云。含光ノ再來故ニカク名乘玉フト。密聞云。圓光上人ハ高野山門三井三流ニ達シ玉ヘリ。依ノ之三流人密ニ受法セリ」云々。

祕藏寶鑰 ❶(日)Hi-zō-hō-yaku. 寶鑰 ❷三卷 ❸存、大正七七・三六三 No. 2425、弘法大師全集第三 ❹空海(寶龜五—承和二 A. D. 774—835)撰

❺本書は卷首に大意、歸敬、發起の三序を設け、正宗分の初めに十住心の名を列ね、各條下にその行相を略釋す。次いで十住心各々の行相及び典據を明す。

本論は淳和帝天長年間に諸宗の碩德に勅して各その宗要を錄して進進せしめ給ふ。時に空海上人は祕密曼荼羅十住心論十卷を造進す。然るに帝は十住心論の文義廣博なるが爲に、この略論を製せしめ給ふ。仍て空海上人は本論三卷を製して奉献す。故に十住心論を廣論といひ、本論を略論といふ。說く所は兩部大經、菩提心論、釋摩訶衍論等を所依とし眞言行者の修行の次第轉昇の十位を明し、又兼ねて內外の教を十位に判釋し、次て眞言宗建立の所以を說く。

十住心論と本論との關係につき二義あり、一義には十住心論は胎藏の義門に依り、本論は金界の義門によると。又一義には兩論の異は唯廣略にあり、義に於ては異無しと。今は後義による。末書はその數多し、祕密曼荼羅十住心論の項參照。
❼(參考) 諸宗章疏錄第三 ❽刊本(高大、一・四五)(正大、一四三一・二九二)(谷大、餘大・八一六)(京大、一・二六ヒ・七) (坪井德光)

祕藏寶鑰 ❶(日)Hi-zō-hō-yaku. 國譯祕藏寶鑰 ❷三卷 ❸存、國譯密教論釋部第一

祕藏寶鑰開宗記 ❶(日)Hi-zō-hō-yaku-kai-shō-ki. 寶鑰開宗記 ❷十卷 ❸存 ❹慧曦(延寶七—延享四 A. D. 1679—1747)述 ❺寛保二(A. D. 1742)九月

❻寶鑰の注書。慧曦は淨嚴門下の英哲慧光の學徒なり。自叙に慧光の密軌問辨に對して批難するもの多きを慨き、直接寶鑰の本文に就てこれを指摘し、義を逐ふて對質し、その妄を啓かんために本書を著す。往々にして南山古義の說と異る所解からざるも、註解精微を極め且つその典據を明にして釋述せるが故に大に學者の參考にすべき書である。
❼(參考) 章疏錄 ❽寛保三刊(龍大、二六六・一・二七)(正大、一四三一・二八三)延享元刊(高大、寄・一・四五)

祕藏寶鑰開宗記講述 ❶(日)Hi-zō-hō-yaku-kai-shō-ki-kō-jutsu. ❷四卷或五卷 ❸存 ❹智明述 ❺天明四(A. D. 1784)

祕藏寶鑰開宗記私錄 ❶(日)Hi-zō-hō-yaku-kai-shō-ki-shi-roku. ❷十卷 ❸存 ❹慧曦(延寶七—延享四 A. D. 1679—1746)述 ❺祕藏寶鑰開宗記と稍異る所あり。

祕藏寶鑰開藏決 ❶(日)Hi-zō-hō-yaku-kai-zō-ketsu. ❹淨嚴(寛永一六—元祿一五 A. D. 1639—1702) ❼(參考) 章疏錄

祕藏寶鑰覺注 ❶(日)Hi-zō-hō-yaku-kaku-chū. ❹興覺 ❺章疏錄に云く「鉤鏈引ノ之十卷章悉注ノ之」云々。

祕藏寶鑰勸注 ❶(日)Hi-zō-hō-yaku-kan-chū. 寶鑰勸注 ❷八卷 ❸存 ❹鉤鏈(嘉祿二—嘉元二 A. D. 1226—1304)述

❺寶鑰の本文につき一々その典據を明示して註解を施してゐる。これ本書の特徴にして後學の指針とするに足るもの。運敞の鑑解、行性の略解等は本書の影響を蒙れる所多し。
❼(參考) 章疏錄 ❽刊本(谷大、餘大・一二三五)(正大、一四三一・二二、九九)(高大、一・四五)(京專)(京大、B大未・三八七)

祕藏寶鑰勸文 ❶(日)Hi-zō-hō-yaku-kan-mon. 祕藏寶鑰教光鈔、寶鑰教光鈔、祕藏寶鑰藤原教光注 ❷三卷 ❸存 ❹教光(康平六—天喜元 A. D. 1063—1144)述

❺祕藏寶鑰本文中の、難解にして重要なる

文を漢語にして、自分の考を書きあらはすこの語を用ひて、文の意義を明瞭にし、世をして文の意義を明瞭にし、世をして文の意義を明瞭にしたるものにして、この家の注釈の書既に古典となる。

❹〔参考〕〔家書記〕

泥藤貴標著解分 ❶(ロ)Hi-zō-hō-yaku-gi-shaku-shō. ❷六巻 ❸寺尾春二 ❹「貴令和之」に次ぐ。

泥藤貴標記事 ❶(ロ)Hi-zō-hō-yaku-kiki-gaki. ❷四巻 ❸作 ❹寺尾春

泥藤貴標記事 ❶(ロ)Hi-zō-hō-yaku-kiki-gaki. ❷五巻 ❸作 ❹世令 ❺〔参考〕 [illegible]

泥藤貴標記事 ❶(ロ)Hi-zō-hō-yaku-kiki-gaki. ❷二巻 ❸作 ❹正平二四年 ❺〔家書記〕

泥藤貴標記事分抄 ❶(ロ)Hi-zō-hō-yaku-kiki-gaki-shō-motsu-tō. ❹寺尾春二に次ぐ。「土佐本ロ」「中国本巻」「下国本」に次ぐ。

泥藤貴標記起分 ❶(ロ)Hi-zō-hō-yaku-kyō-ketsu-shō. ❷六巻 ❸作

泥藤貴標愚事 ❶(ロ)Hi-zō-hō-yaku-gu-sō. 泥藤貴標愚事 ❷一巻 ❸作 ❹[illegible] A. D. 1226—1304)著

❹本巻に四(A. D. 1296)

❹泥藤の注釈。本巻に四年泥藤注釈書籍の成立を考ふるに、本巻は泥藤の注釈を主とし、[illegible]

❺〔参考〕 [illegible] ❻文和二年[illegible]

❹〔家書記〕

泥藤貴標巻上抄 ❶(ロ) Hi-zō-hō-yaku-kwan-jō-shō. ❷六巻 ❸作 ❹[illegible]

❺[illegible]人文文[illegible] ❹〔家書記〕

泥藤貴標外典分 ❶(ロ)Hi-zō-hō-yaku-ge-ten-shō. ❷六巻 ❸作 ❹〔参考〕 [illegible]

泥藤貴標見示分 ❶(ロ) Hi-zō-hō-yaku-ken-kō-shō. 泥藤貴標見示抄 ❷三巻 ❸作 ❹[illegible] A. D. 1695—1764)著

❹泥藤の[illegible]、[illegible]、[illegible]、

作　❻〔参考〕　音羽屋、歌舞伎役者用行事定番日

浄瑠璃語彙辞書　❶(日)Hi-zō-hō-ya-ku-bō-kwan.　❷三巻　❸寛延(宝暦11)—寛政11 A. D. 1674—1742)頃　❹浄瑠璃語彙辞書　❺〔参考〕　音羽屋

浄瑠璃語彙問題　❶(日)Hi-zō-hō-ya-ku-mon-dai.　❷四巻　❸作　❹浄瑠璃問題、浄瑠璃の作者、一名浄瑠璃　A. D. 1433)記　❺浄瑠璃の歴史を問題形式で説いたもの。　❻文明四年(寛延記)　宝永(寛延記)　明治1　三用(宝永・日大系・四〇大)(宝永)(文政・八11〇・五11)

浄瑠璃語彙問題　❶(日)Hi-zō-hō-ya-ku-mon-dai.　❷三巻　❸作　❹文政四年　❺〔宝永〕1・四五)

浄瑠璃語彙問題辞典　❶(日) Hi-zō-hō-yaku-mon-dan-shō.　❷四巻　❸作　❹浄瑠璃(元禄元—嘉永四A. D. 1184—1252)頃

❺浄瑠璃の元祖浄瑠璃十二段草紙11日大正期自分の教命を受けて、浄瑠璃に関した時、山少輔自伴自分のの口説を基礎し、浄瑠璃山の後ろにあるを編集訂正して明治に成す。本書問題ちうにあるを、文を基礎とその大意を述べ詳しく説いてその歴史を作、古来作者の会員ナ る所である。

❻〔参考〕　音羽屋　❼浄瑠璃三百(浄瑠璃)文化11)　宝永(宝永・日大系・11八11)

浄瑠璃語問答　❶(日)Hi-zō-hō-ya-ku-mon-dō.　❷三巻　❸作　❹座頭　❺浄瑠璃(元禄元—嘉永四A. D. 1184—1252)頃

❻浄瑠璃の歴史を問題形式で説いたもの。　❼〔参考〕　音羽屋　❽浄瑠璃問題　❾〔参考〕　宝永(宝永・日大系・四〇大)(宝永)(文政・八11〇・五11)

浄瑠璃語問題　❶(日)Hi-zō-hō-ya-ku-mon-dai.　❷三巻　❸作　❹文政四年　❺〔宝永〕1・四五)

浄瑠璃語問題辞典　❶(日) Hi-zō-hō-yaku-mon-dan-shō.　❷四巻　❸作　❹浄瑠璃(元禄元—嘉永四A. D. 1184—1252)頃

❺浄瑠璃の歴史を問題形式で説いたもの。　❻〔参考〕　宝永(宝永・日大系・四〇大)(宝永)(文政・八11〇・五11)

浄瑠璃語辞典　❶(日)Hi-zō-hō-ya-ku-ryaku-shō.　❷作　❸音羽屋

浄瑠璃語彙　❶(日) Hi-zō-yō-gi.　❷1巻　❸作家(応永元—嘉永11 A. D. 1345—1416)頃

浄瑠璃語文集　❶(日) Hi-zō-yō-mon-shū.　❷十巻　❸作　❹文家(嘉永元—貞応元 A. D. 1306—1352)頃、浄瑠璃(元弘元—嘉永元 A. D. 1333—1398)頃　❺貞享四(A. D. 1348)頃、延享元—嘉永三(A. D. 1351—1386)頃

❻浄瑠璃の歴史行事に関する諸々の問題とつ 浄瑠璃の歴史文を題材としたものである。

浄瑠璃巻までは浄瑠璃文を題として、浄十巻は浄瑠璃巻歴史文を題としてあるが、その巻巻に「貞享四年子年11月十日浄瑠璃今四代目の今年 浄瑠

十巻歴史文千年間素絵図了」とあるから、浄瑠璃巻歴史文は貞享四年の作であること明らかである。又浄瑠璃巻は貞享四年子年の国巻とこと明らかである。浄瑠璃巻は貞享四年子年の国巻とこと明らかである。浄瑠璃巻は貞享四年子年の国巻とこと明らかである。

⑤惠空の假名聖教目錄には「存覺聖人御作也」とし、泰嵩の叢彙私記には、祕傳鈔に二本あることを示し、其の一本は法然上人傳、今の一本は既に刊行本あるたる如く、「世板の外題にはたゞ祕傳鈔とあり、漢文の自序說文あり、これは卽寫本に所謂觀覺聖人御因緣に義趣同じ、文言は相違あり、但し御俗姓のことは御因緣にはなく、祕傳鈔には御俗姓のことを始めにあり、しかる中に禪定殿下のことを法皇といひ勅定とあり、然るに世板には太政大臣とあれば、法皇と假名ありと細註あり、序に志記・三卷草書・申四代相承由來・明・二流繁昌盛隨・而以號・三世聖人之祕傳・云云。これによれば黑谷、今家及覺如上人の傳記のことなるべき歟。外に法然上人祕傳といふあり、これその一ならん歟。覺如上人祕傳と云ふはいまだその本を見ず云云等とあり、卽ち今鈔は、其の中の觀覺聖人傳で、覺如の御傳鈔の如く、敎行信證等の觀覺著作の文をも引き、源空門下相承より筆を起して、俗姓等を錄り交ぜ相當興味ある觀覺傳の一種である。藏外法要叢彙私記參照。

⑦〔參考〕 淨土眞宗聖教目錄、假名聖教目錄 ⑨寶德二惠空寫傳本(谷大、宗丙・四八)惠空寫傳本(龍大、研眞)寬永一九寫(谷大、餘小・一一五)延享三寫(谷大、宗大・一四四七)

祕傳法 ❶(B) Hi-den-ho. ❷一卷 ⑦〔參考〕 淨土眞宗聖教目錄

祕傳門書 ❶(B) Hi-den-mon-sho. ❷一帖 ③存 ⑤天文一〇寫 ⑨寶龜院)

祕々中深祕 ❶(B) Hi-hi-cha-jim-pi. 祕々中深祕抄金 ❷一卷 ③存 ⑨草玄記 ⑨(曼殊院)

祕部 ❶(B) Hi-bu. ❷一帙 ③存 ⑤德川時代寫 ⑨(寶龜院)

祕部最祕部目錄 ❶(B) Hi-bu-sai-hi-bu-moku-roku. ❷一冊 ③存 ⑤德川時代寫 ⑨(寶龜院)

祕部書寫日記 ❶(B) Hi-bu-sho-sha-ki-ki. ❷一帖 ③存 ⑤德川時代寫 ⑨(寶龜院)

祕部大元 ❶(B)Hi-bu-dai-gen. ❷一裏 ③存 ⑤德川時代寫 ⑨(寶龜院)

祕部轉法輪 ❶(B) Hi-bu-ten-hō-rin. ❷一裏 ③存 ⑤德川時代寫 ⑨(寶龜院)

祕部報恩院印信口訣 ❶(B)Hi-bu-hō-on-in-in-ku-ketsu. ❷一冊 ③存 ⑨京大、印晉・U・一八)

祕部妙法尊勝 ❶(B) Hi-bu-myō-hō-son-jō. ❷一裏 ③存 ⑤德川時代寫 ⑨(寶龜院)

祕部目錄 ❶(B)Hi-bu-moku-roku. ❷一帖 ③存 ⑤德川時代寫 ⑨(寶龜院)

祕部理趣經 ❶(B) Hi-bu-ri-sha-kyō. ❷一裏(七紙) ③存 ⑨寫本(高大、寄・一・六四)

祕部類集 ❶(B)Hi-bu-rui-jū. ③存 ⑤天等部・明王部・菩薩部・觀音部等を收む。 ⑨正德四寫(京大、印晉・U・三)享保二寫(京大、印晉・U・一)享保四寫(京大、印晉・U・一四・享保六寫(京大、印晉・U・二)

祕法不動供次第 ❶(B) Hi-hō-fu-do-ku-shi-dai. 祕法不動供次第安撫 ❷一帖 ③存 ⑨宥快(貞和元—應永二三A. D. 1345—1416)逝 ⑨德川時代寫(金剛三昧院・寫本(寶龜院)

祕法不動供次第 ❶(B) Hi-hō-fu-do-ku-shi-dai. ❷一卷 ③存 ⑨寫本(京大、印晉・U・五四)

祕法部等 ❶(B) Hi-hō-bu-tō. ❷一裏 ③存 ⑤德川時代寫 ⑨(寶龜院)

祕法部祕要訣 ❶(B) Hi-hō-bu-hi-yō-ketsu. ❷一冊 ③存 ⑤德川時代寫 ⑨(寶龜院)

祕法要決目錄 ❶(B) Hi-hō-yō-ketsu-moku-roku. ❷一卷 ⑨安然(承和八—延喜年間A. D. 841—901—) ⑦〔參考〕 諸宗章疏錄第二、本朝台皿撰述密部書目、山家皿德撰述篇目集卷上、密乘撰述目錄

祕法要集 ❶(B) Hi-hō-yō-shū. ❷一卷 ③存 ⑨寫本(谷大、餘小・一三一)

祕寶勸學鈔 ❶(B) Hi-hō-kwan-gaku-shō. ❷四十卷 ⑨宥快(貞和元—應永二三A. D. 1345—1416)逝 ⑦〔參考〕 章疏錄

祕寶藏傳 ❶(B) Hi-hō-zō-den. 華嚴佛光三昧祕寶藏、華嚴佛光三昧觀 ❷二卷 ③存、大日本佛敎全書第一三 ⑨高辨(承安三—貞永元A. D. 1173—1232)逝 ⑤華嚴佛光三昧祕寶藏の下を見よ。 ⑦〔參考〕 華嚴宗經論章疏目錄

祕密安心又略 ❶(B) Hi-mitsu-an-jin-u-ryaku. ❷一卷 ③存、眞言宗安心全書第一 ⑨法住(享保八—寬政一二A. D. 1723—1800)

⑤この書は無相卽有相の安心を說き佛菩薩に對する念佛誦呪の功力を判釋し、因果不二自他平等を念願すべきを勸め、觀音信仰を鼓吹してゐる。

祕密安心往生法話 ❶(B) Hi-mitsu-an-jin-ō-jō-hō-sen. ❷一卷 ③存、眞言宗安心全書第一 ⑨法住(享保八—寬政一二A. D. 1723—1800) ⑤寬政一二(A. D. 1800)

⑤この書は卽身成佛三力不思議の祕密安心を提唱し、そは阿字本性の菩提心に安住して一向專念に修行するとき密嚴淨土(往生すると云ふ密宗安心を說いてゐる。

(高見寬應)

祕密安心往生要集 ❶(B) Hi-mitsu-an-jin-ō-jō-yō-shū. ❷二卷 ③存、眞言宗安心全書第四、近世佛敎集說之內 ⑨蓮體(寬文三—享保一一A. D. 1663—1726)撰 ⑤享保四(A. D. 1719)

⑤この書の序文に依れば六十餘年の生涯に榮枯盛衰を實感せし老翁の懺悔を聞き、之れを敎化せん爲に說きし法話を記した要集である。その內容は、(一)佛法安心の三品(卽身成佛、往生淨土、常在人天)(二)上品安心。(三)弘法大師卽身成佛。(四)下品安心。(五)中品安心。(六)兜率淨土の邊近。(七)內院外院の莊嚴相。(八)彌勒菩薩の相好光明。(九)往生行の九品。(一〇)來迎往生の統。(一一)眞言行者の生身往生。(一二)臨終用心。(一三)可惜身命の用心。(一四)不惜身命の用心。

(一五)釋本住處の用心。(一六)惠請本尊の用心。(一七)懺悔業障の用心。(一八)發菩提心の用心。(一九)願念淨土の用心。(二〇)決定往生の用心。(二一)沒後追善の用心。(二二)臨終相を見て三惡道に墮つるを知る。(二三)經帷子等の用否。(二四)七日々々に衆都婆を立つ。(二五)追善廻向の時節。(二六)七々日一周忌等本說。(二七)逆修。(二八)人間天上に生ずる死相。(二九)臨末座の苦を免るる法。(三〇)俱生神の札に善惡業を記す。(三一)尊珈の衆生は苦に逢ふて發心す。(三二)彌勒大日の同一體。(三三)彌勒の形像。(三四)彌勒の眞言。(三五)阿彌陀の眞言功能。(三六)六字大明見聖眞佛母呪の功能。(三七)彌勒の六部經并に彌勒出世には此の土變じて淨土となる及彌勒如來の說法利生。(三八)地藏不動の種々利益。(三九)地藏は衆生の地獄苦を代り受く。(四〇)地藏尊を作り追善するに依つて亡者兜率天に生ず。(四一)木像生身佛同體。の四十一章である。

⑤享保四刊 ⑨(京大、一・二六ヒ・二)(谷大餘大・一一五四)(龍大、二六六二・九四)(高大、寄・一・五六)(帝國、八二一・二四)

(高見寬應)

祕密安心略章 ❶(B) Hi-mitsu-an-jin-ryaku-shō. ❷一卷 ③存、眞言宗安心全書第一 ⑨法住(享保八—寬政一二A. D. 1723—1800)逝

⑤この書は法住和尙が或人の問に答へて有相卽無相の密宗安心を說いて修行し證悟する要義を垂示せられたのである。其の內容は、(一)古今一統。(二)無相卽相。(三)懺悔業障。(四)正住安心。(五)果上三句。(六)行位行體。(七)自他必具。(八)二利並修。(九)加持感應。(一〇)世間卽道。(一一)拾劣得勝。(一二)萬機皆成。(一三)一心正助。(一四)展轉證疑の十四章にして平易通俗を旨として敍述せられてゐる。

⑤明治九刊 ⑨(帝國、七・九一)(高見寬應)

祕密安樂集 ❶(B) Hi-mitsu-an-raku-shō. ❷三卷 ⑦〔參考〕 淨土依憑經論章疏目錄

祕密因緣管絃相成義 ❶(B) Hi-mitsu-in-en-kwan-gen-sō-jō-gi. 管絃相成義 ❷二卷 ③存、大正七九・八〇四Zo. 2541 ⑨法住(享保八—寬政一二A. D. 1723—1800)逝 ⑤天明五(A. D. 1785)

⑤本書は上下二卷十門より成る。第一祕密因緣俱成門、第二三大本修卽無門、第三一多事理俱密門、第四理智兩部顯現門、第五祕密一乘建立門、第六所被機根差別門、第七所行行位斷證門、第八所得五智四身門、第九說法主伴時處門、第十三國事敎流傳門。〔第一門〕 因緣は佛門の綱紀。三世諸佛の所說、法身毘盧遮那自內證の祕密法門、皆是れ因緣なり。この因緣に法性自屬と隨緣顯現との二類に分つ。一法界、多法界、自證極位の說、不說等も皆是れ因緣卽ち阿字本不生不可得の理を離れたるものにあらずと說く。〔第二門〕 本有の體相用の三大は法法位に住し、本來不生にして三卽一、一卽三にして其の眞を得れば卽離失無し。修を證修、順修に分ち、順修を上轉二重、下轉三重に分つ。かく分つと雖も法體につき論ずれば三大是れ不離なりと。〔第三門〕 初めに顯密對辯の俱密を說き、次に自宗の性相に就いて論じ、一多法界の不離、事理俱密を明す。〔第四門〕 理智不二にして而も二、兩二顯現して兩部の名始めて立つ。二兩不二極位不說、不二兩二加持說法。若し多法界には自性自受、自眷と與に各三密を說き、若し一法界には極位混沌陰陽未分、何ぞ言慮あらんと。次で兩部大經の內容、及び金智、無畏の說を解す。〔第五門〕 祕密一乘建立の義を述べ、極位の默說、有相無相、一多法界等の義を不二の一源に歸し、管絃相成の義を建立せんとするに到れる因緣を說き、一法界多法界の相承及び極位默說の義論の由來する所を明す。〔第六門〕 第六門より第十門に至る五門は、次の如く瑜伽行者の因、行、證、入、方便究竟を明す。第六門は機根の處類、所執の捨不捨、大小、有相無相につき說く。〔第七門〕 所行の行體、所歷の行位、所斷の惑障、所證の理智等を說く。〔第八門〕 顯の四智、密の五智、顯密の三身四身を明し、密の四身を一多法界に約して說く。〔第九門〕 敎體、敎主、眷屬、日時、處所を明す。〔第十門〕 事敎の三國流傳を略說し、一法界、多法界の對立相破を辨じ、以て相成義を說く所以を說く。

以上十門の旨要を示す。法住卽正は先匠の敎主義を說くに當り、本地、加持の一邊に執するに嫌らずし、戒坦院惠光、五智山曼荼、道空、智山淨空等の說ける本加兩說和合の說未だ究を得ざりしものを完成したるものが本書なり。蓋し本書は卽正が大日經住心品疏を解釋するに際して草せる玄說なり。(住心品疏の本文の解釋には玉振鈔九卷あり)。故に法住卽正の本加雙存の說を知るには本書は欠くべからざる材料なり。十門中到る處に雙存の義を見るを得べしと雖も第四、第五、第八門等は敎主義研究には殊に重要なるものなり。

⑦〔注釋〕 祕密因緣管絃相成義聞持記一卷(寫)、管絃相成義弄引二卷(寫) ⑤天明五刊 ⑨(正大、一一六二・一二七)(谷大、餘大・二一七)(龍大、二六六二・四九)

(坪井德光)

祕密因緣管絃相成義算引 ❶(B) Hi-mitsu-in-en-kwan-gen-sō-jō-zan-in. 管絃相成義算引 ❷二卷 ③存 ⑨法住(享保八—寬政一二A. D. 1723—1800) ⑨寫本(龍大、研佛)

祕密因緣管絃相成義聞持記 ❶(B) Hi-mitsu-in-en-kwan-gen-sō-jō-gi-mon-ji-ki. 管絃相成義聞持記 ❷一卷 ③存 ⑨寫本(正大、一四二・一三八)

祕密記 ❶(B) Hi-mitsu-ki. ❷一卷 ⑨海和上集

⑤本朝台皿撰述密部書目に云く「彼宗人云。卽祕藏記也。大悉曇章不載。御作目錄。釋敎目錄載之。又釋敎目錄には祕密記祕藏記各別出之云々。

⑦〔參考〕 諸阿闍梨眞言祕密敎部類聚錄卷上

祕密記 ❶(B) Hi-mitsu-ki. ❷一卷 ⑤本朝台皿撰述密部書目、八家祕錄共に錄註して云く「有人集」。

數字號 ❶題目(名書) ❷卷數 ❸存 ❹敎 ❺著 ❻代年作著 ❼內容 ❽說解(書考參書解註) ❾書誌 ❿月年の刊寫 ⓫現藏(書庫所藏) ⓬(名書)所行員

秘密記 ❶(日)Hi-mitsu-ki. ❸存 ❹源榮(—元和四A. D. 1615)記 ❺増上寺の開祖、浄軍家の歸依を得て、宗門繁榮の始末を記したもの。 ❾寫本(帝國、二四一・三〇)

秘密儀軌 ❶(日)Hi-mitsu-gi-ki. ❸存、縮刷大藏經之内

❹密教の經典儀軌を蒐錄したもので、我國にて出版された同名のものに五類ある。

(一)錄内儀軌 八軌七十四冊(乾二十、兌七、離十、震廿三、巽五、坎三、艮一、坤五)外に目錄一冊あり、百八十七部三百二十四卷の經軌を收めてゐる。貞享元錄の頃淨嚴が弘法大師の請來錄によりて收錄し、黃檗の鐵眼禪師と相謀り、これを槇山印房から刊行したもので、灌頂壇場部(乾二十卷、内譯六法三十一部六十四卷)諸佛法部(兌七卷、内譯八法二十一部三十二卷)諸經法部(離十卷、内譯十五法二十七部五十二卷)諸菩薩法部(震廿三卷、内譯二十三法五十一部一百二卷)諸明王金剛部(巽五卷、八法十七部二十三卷)諸天部(坎三卷、内譯十法十八部十九卷)諸用雜部(艮一卷、内譯六法十七部十七卷)の八法に分類してゐる。その內容は大部分晩・宋・元・明諸藏に收められたものであるが、彼等には顯密雜集して部軌を定めてゐない。然るに錄内儀軌は前記の如く一定の分類をしてゐるから便利である。明治十三年弘教書院發行の縮刷大藏經には此錄内儀軌を閒軌十五冊に收めてゐる。前記八法中顯密經雜部中には全然密教に屬せないものもあり、又灌頂壇場部中には菩提心論の如き論藏も雜ってゐるが、弘法大師請來の理由によつて一括して錄内儀軌と稱してゐるのである。

(二)十五經 五冊十五部十七卷。如意輪陀羅尼經等十五部の陀羅尼經で、槇山印房から錄内儀軌の外に刊行したもの。縮刷藏經では餘軌第五に收めてゐる。

(三)四部儀軌 四部十一卷。淨嚴の法嗣慧光が先師の遺志を繼續して正德元二兩年間に靈雲寺から出版した。稱大、廣大、玄法、青龍の四儀軌で、何れも胎藏法に屬してゐる。縮刷藏經には餘軌第六に收めてゐる。

(四)享保儀軌 十三冊(初四、中四、後五)六十七部七十二卷。享保十七年から寶曆四年にわたり、大和長谷寺から刊行した。校訂者は法住。縮刷藏經には餘軌第一、二兩冊に收めてゐる。

(五)享和儀軌 十二冊四十四部四十八卷。享和二年長谷寺の刊行。校訂者林常快造。縮刷藏經餘軌第三、四兩冊。

(四)(五)は共に豐山版と稱せられる。縮刷藏經には上記の諸經軌の外に餘軌第七、八兩冊に大日經疏二十卷、同供養法疏二卷を第九に釋摩訶衍論十卷を收め、成軌十四冊に閒藏知津に揭記せるもの二百五十部四百二十七卷を收め、閒餘成三軌を祕密部と稱してゐる。しかし、成軌のものは眞言宗では古來重視せず、專ら上記五種の儀軌所收のものを尊重してゐる。成軌中にも宋譯のものなどには重要なものも尠くないが、宋譯は唐朝及び他の入唐諸先德と直接無關係なために餘り顧られなかつたものである。上記五種儀軌收載書目は大日本縮刷大藏經の目錄にゆづり、今は省略する。

❼(注釋) 淨嚴撰諸儀軌傳授目錄、淨嚴口性寂記諸儀軌訣影十二卷、淨嚴口智明記諸儀軌傳授聞書六卷、運光大空撰祕密儀軌傳授聞書九卷、智明撰祕密儀軌傳授要記七卷、性寂口膠惠記祕密儀軌傳授聞記三十卷、眞雲撰祕密儀軌口決八卷、同諸儀軌嘉承錄十三卷等。

❾錄内儀軌寫文年中縮眼版(谷大、餘大・一四三八)(正大、一一六一・二二—二二、二七—三〇)(京專)十五經刊本(正大、一一六一・一六)(京專)同寫本(谷大、餘大・三七六九)四部儀軌(正大、一一六一・一八—一九)(京大、藏・一六ヒ・三)享保儀軌(正大、一一六一・一七)享和儀軌(京大、藏・一六ヒ・二)(谷大、餘大・二一〇九)享保享和儀軌(正大、一一六一・二三)(京專)

秘密儀軌 ❶(日)Hi-mitsu-gi-ki. 國譯祕密儀軌 ❸存 ❹塚本賢曉、高井觀海等編 ❺昭和五刊 ❻東京佛教珍藏刊行會

秘密儀軌衆法經總目錄 ❶(日)Hi-mitsu-gi-ki-shu-hō-kyō-sō mokw-roku. 祕密儀軌衆法經總目、祕密儀軌總目錄 ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書佛教書籍目錄第二

秘密儀軌隨聞記 ❶(日)Hi-mitsu-gi-ki-zui-mon-ki. ❷二軌三十冊 ❸存 ❹性寂(—享保二 A. D. 1717)口 ❺明治二七寫 ❾(高大、寄・一・三二)

秘密儀軌總目 ❶(日)Hi-mitsu-gi-ki-sō-mokw. 祕密儀軌衆法總目、祕密儀軌衆法經總目錄 ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書佛教書籍目錄第二 ❾寫本(谷大、餘大一七三〇)刊本(谷大、餘大・一〇九一)(高大寄・一・三一)

秘密儀軌傳授記 ❶(日)Hi-mitsu-gi-ki-den-ju-ki. ❷一帖 ❸存 ❹如輪述 ❺德川時代寫 ❾(寶龜院)

秘密儀軌目錄 ❶(日)Hi-mitsu-gi-mokw-roku. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第二佛教書籍目錄第二

❹作者未詳、初中後、享和、十五經、四部等の項目により百二十餘の儀軌名及び常曉和尚請來目錄、新書寫請來法門等目錄、靈巖寺刊行和尚請來目錄、惠運禪師請來教法目錄の四目錄名を擧ぐ。

❾刊本(谷大、餘大・一〇一〇)(京專)

秘密儀軌要略傳授抄 ❶(日)Hi-mitsu-gi-ki-yō-ryaku-den-ju-shō. ❷四卷 ❸存 ❹守覺(文化元—明治一 七 A. D. 1804—1884)撰 ❺慶應二(A. D. 1866) ❾(叡山文庫)

(坪井德光)

秘密儀軌略傳授抄 ❶(日)Hi-mitsu-gi-ki-ryaku-den-ju-shō. ❷三卷 ❸存 ❹玄軌記 ❾(明德院)

秘密儀軌錄外 ❶(日)Hi-mitsu-gi-ki-roku-gwai. ❷五卷 ❸存 ❾刊本(正大、一一六一・三一)

秘密教時學要 ❶(日)Hi-mitsu-kyō-

-ji-zai-yō. ❷一卷 ❸存 ❹欽光(元文五—寶歷七 A. D. 1740—1795)撰 ❾(金百院)

秘密教相鈔 ❶(日)Hi-mitsu-kyō-sō-shō. 祕宗教相鈔、教相抄 ❷十卷 ❸存、大正七七・五六一 No. 2441 ❹重譽(—保延頃 A. D. 1135—1140—)述 ❺祕宗教相鈔の下を見よ。 ❾寫本(京專)

秘密藏印心經 ❶(日)Hi-mitsu-kyō-yin-shin-gyō. (支)Fi-mi-chieh-yin-hsin-ching. 一切如來正法祕密藏印心陀羅尼經、祕密藏印心陀羅尼經 ❷一卷 ❸存、大正一九・七一五 No. 1023、縮成七・卍一五・二、北1118俠、南1135俠、元1128俠、明北798忠、清798忠、麗1120鍵、天1115俠、法1239兵、至724履、明南802力、Zi. 803 ❹施護譯 ❺宋太平興國五以後(A. D. 980—) ❻一切如來正法祕密藏印心陀羅尼經の下を見よ。

秘密口決 ❶(日)Hi-mitsu-ku-ketsu. ❷十八軸 ❸存 ❺平安朝鎌倉時代寫 ❾(寶龜院)

秘密口傳 ❶(日)Hi-mitsu-ku-den. ❷一軸 ❸存 ❺足利時代寫 ❾(寶龜院)

秘密口傳鈔 ❶(日)Hi-mitsu-ku-den-shō. ❷二帖 ❸存 ❺應安五寫 ❾(寶龜院)

秘密懷中鈔 ❶(日)Hi-mitsu-kwai-chū-shō. ❷一卷 ❸存 ❹印融(永享七—永正一 六 A. D. 1435—1519)

❺十住心、三劫、六無畏、十地、三劫十住心三句十地十六生配當等東密に於ける教相上の要目五十二條を選びて釋す。

❾寫本(高大、寄・一・七〇)

秘密家宗體要文 ❶(日)Hi-mitsu-ke-shū-tai-yō-mon. ❷一帖 ❸存 ❹仁海(天曆五—永承元 A. D. 931—1046) ❾平安朝時代寫(高大、寄・一) 永仁四寫(寶菩提院)

秘密決疑抄 ❶(日)Hi-mitsu-ketsu-gi-shō. ❷四帖 ❸存 ❹仁濟(—元久元 A. D. 1204)記

❺大別して灌頂事、劍伏事、眞言祕事、寶珠事の四部に分ち、種々深祕の口訣を抄出して居る。

❾建曆三、文永一一、及文中三寫(高大、寄・一・六四)寫本(寶菩提院)

秘密結界圖 ❶(日)Hi-mitsu-kek-kai-zu. ❷二枚 ❸存 ❺嘉永二寫 ❾(金剛三昧院)

秘密結界圖流灌頂支度並圖 ❶(日)Hi-mitsu-kek-kai-zu-nagare-kwan-jō-shi-do-narabini-zu. ❷一卷 ❸存 ❺德川時代寫 ❾(寶龜院)

秘密源底口訣 ❶(日)Hi-mitsu-gen-tei-ku-ketsu. ❷一卷 ❸存 ❾寫本(京大、日大未・三四六)(正大、一四八・一八四) 德川時代寫(寶龜院)(金剛三昧院)

秘密許可作法 ❶(日)Hi-mitsu-ko-kyo-sa-hō. ❷一帖 ❸存 ❺足利時代寫 ❾(寶龜院)

秘密五章 ❶(日)Hi-mitsu-go-shō. (支)Fi-mi-wu-chang. ❷缺 ❹宋東溪擇鄕(—大觀二 A. D. 1108) ❼(參考) 諸宗章疏錄第二

秘密五輪集 ❶(日)Hi-mitsu-go-rin-shū. (支)Fi-mi-wu-lun-chi. ❷一冊 ❸存 ❾寫本(高大、寄・一・六四)

秘密語抄 ❶(日)Hi-mitsu-go-shō. ❷一帖 ❸存 ❾寫本(高大、寄・一・五七)

秘密護摩 ❶(日)Hi-mitsu-go-ma. ❷一卷 ❸存 ❹佐伯興人著 ❾(京專)

秘密茶話 ❶(日)Hi-mitsu-sa-wa. ❷一卷 ❸存 ❾寫本(正大、一四九・一三)

秘密最極口傳 ❶(日)Hi-mitsu-sai-goku-ku-den. ❷一帖 ❸存 ❹正雅記 ❺德川時代寫 ❾(寶龜院)

秘密最極抄 ❶(日)Hi-mitsu-sai-go-

ku-shō. ❹1冊 ❺存 ❻弘安(弘安元—一三七八)(1|A. D. 1278—1357)記 ❼明治三年 ❽(高大"字・1・六四)

說教報恩會 ❶(日)Hi-mitsu-satsu-gi-shō. ❷1卷 ❸存 ❹(法令)

說教雜記 ❶(日)Hi-mitsu-zak-ki. ❷1帖 ❸存 ❹德川時代寫 ❺(東寺記)

說教雜記 ❶(日)Hi-mitsu-zak-ki. ❷1卷 ❸存 ❹寫本(眞言"書寫)

說教雜記 ❶(日)Hi-mitsu-zak-ki. ❷1帖 ❸存 ❹德川時代寫 ❺(東寺記)

說教雜事 ❶(日)Hi-mitsu-zas-shō. ❷存" 眞言大師全集

❸眞言大師の著書とされたる片々のものを四門類別して、分子分別し書付したものの。あり印刷されたもの。眞言宗の宗名は、眞言宗の名稱を用ひ、宗三は眞言宗の宗名を唱ひ、宗三は「大乘」の說を說Y、宗四は「實」を者の十種に說て

—1734)

❹密教部類中より出現・新密・秘密・秘蔵・其他の諸尊の真言・種子・三昧耶形・及び其他の事項を抜出して其の本尊・眷属・及び其他の事項を示し密教を説き出して其の本尊・眷属・及び其他の事項を示し密教を説き出す。

❺元亨釈書六帖（谷大・善大・天王寺）（宮大・一・七二）（宮寺）（宮大・一・七四）（宮寺）（谷大・善大・一・七五二）

秘密蔵宝鑰鈔 ❶（日）Hi-mitsu-shin-gon-kechi-myaku. 秘密蔵宝鑰鈔 ❷二帖 ❸存 ❹日本思想史 ❺法華記 ❻未定人書 ❼（今書三蔵記）

秘密蔵宝鑰鈔行住坐臥事 ❶（日）Hi-mitsu-shin-gon-shu-gyō-ji-bun-no-koto. ❷二巻 ❸存 ❹泉川寺所蔵 ❺（今書三蔵記）

秘密曼荼大事 ❶（日）Hi-mitsu-jin-jin-dai-ji. 秘密曼荼大事三部作 ❷五巻 ❸存 ❹泉川寺所蔵 ❺（宝蔵記）

秘密教宝鑰 ❶（日）Hi-mitsu-su-sok-kwan. ❷一巻 ❸存 ❹宗教（完書元一記 東図 A. D. 1184—1252） ❺宗本（谷大・善大・三一二〇）（宮大・日大・一・七）弘安四寺 ❻（宝蔵記）

秘密教宝鑰双紙 ❶（日）Hi-mitsu-su-sok-kwan-a-ji. ❷一巻 ❸存 ❹仮名（完書元一明和元 A. D. 1696—1764） ❺宗本（宮大・善大・一・六・天）

秘密蔵門記 ❶（日）Hi-mitsu-zem-mon-gyō. (支)Pi-mi-shan-mên-ching. 秘密蔵密教門記 尼蔵 ❷一巻 ❸存・天王二〇・天八一No. 1138・宮宝八・卍一一・二・宝351・宝360・宝359・宝365・宝366・宝344・天359・宝322・宝345・宝611・宝明宝356・Nj. 370 ❹東密代（A. D. 317—420）天書 ❺（今書三蔵記）

秘密蔵 ❶（日）Hi-mitsu-zen. ❷一巻 ❸存 ❹小林宗雄 ❺明和三刊 ❻天文 ❼（今書三蔵記）

秘密相記 ❶（日）Hi-mitsu-sō-kyō. (支)Pi-mi-hsiang-ching. ❷三巻 ❸存・天王一八・四天三 No. 884・宮宝三・卍一天・天・宝1323・宝1328・宝1318・宝明宝1021・天・宝1021・天・宝1488・宝・天1308・宝636・宝・明宝975・Nj. 1026 ❹唐密 ❺宋天子・高僧天竺・天竺僧（A. D. 980—）❻密教部中に住し、今書三蔵記）

秘密事業 ❶（日）Hi-mitsu-zō-shū. ❷二帖 ❸存 ❹明治天竺 ❺（今書三蔵記）

秘密蔵業 ❶（日）Hi-mitsu-zō-shū. 秘密蔵業 ❷二帖 ❸存 ❹法華（一記 東図 A. D. 1164）宝 ❺鎌倉時代 ❻（宮大・善大・一・六・天）

秘密印金剛 ❶（日）Hi-mitsu-soku-shin-gi. 秘密印金剛 ❷一巻 ❸存・天王宗教書 ❹東図 ❺安鏡（天和八一貞享元年 東図 A. D. 841—901—）宝 ❻（参考）出家 仏教部 日蓮宗上

秘密印金剛秘義 ❶（日）Hi-mitsu-soku-shin-jō-butsu-gi. 秘密印金剛秘義 ❷一巻 ❸存・天王宗教書 ❹東図 ❺日本天書 ❻安鏡（天和八一貞享元年 東図 A. D. 841—901—）宝

❼天王寺は聞書・真言・聖教の三種の印金剛秘義を有する大天王寺・四天王寺・住吉・高野・三宝・三宝・今宮・今宮・今宮

はなく、その何れも千古不朽の雄篇である。浮土教に關しては本書の外、秘密念佛印などがある。

本書は眞言密教の立場から浮土教を解釋せるもの。一部三卷より成る。その列次は左の如くである。(卷上)(1)名號事。(2)稱名本願事。(3)念佛三昧事。(4)十念事。(卷中)(1)蓮華三昧事。(2)極樂名字事。(3)西方事。(4)十萬億土事。(5)四十八願事。(6)十六想觀事。(7)來迎事。(8)二十五菩薩事。(卷下)(1)九品蓮臺事。(2)專修無間修事。(3)琢當行儀事。(4)臨終用心事。思ふに眞言密教の思想はその波及するところ頗る廣汎で、浮土教の思想も亦密教に負ふところがある。この意味に於て本書は現に浮土教研究者の指南として重寶視されてゐる。兎も角も示唆多き書物である。

❼(參考) 諸宗章疏錄第三 ❾貞享三刊(京大、日大未・六〇七)(龍大、二六六二・九五〇)(智、け・五・右・二九)(高大、一・五六)正保二刊(正大、一五三三・七八)(高大、寄・一・五六)

(前田慈隆)

秘密念佛鈔拔書 ❶(日)Hi-mitsu-nem-butsu-sho-nuki-gaki. ❷一册 ❸存 ❹道鎭(元暦元—建長四 A. D. 1184—1253) ❾寫本(高大、寄・一・五六)

秘密念佛中興略記 ❶(日)Hi-mitsu-nem-butsu-chū-kō-ryak-ki. ❷一卷 ❸存 ❹片山良譽著 ❺明治一九刊 ❾(谷大、宗大・九五四)(龍大、研佛)

秘密念佛略話 ❶(日)Hi-mitsu-nem-butsu-ryaku-wa. ❷一卷 ❸存、眞言宗安心全書第三 ❹法住(享保八—寛政一二 A. D. 1723—1800 迄 ❺この略話は但信易行の有相念佛が、直に無相甚深の法門に即して、三力不思議の秘密念佛となり、上品上生の淸淨佛國に往生するとの秘義を開說せられてゐる。 ❾寫本(谷大、宗大・三一一)(正大、一五三三・八一)

(高見寛恵)

秘密八印口訣 ❶(日)Hi-mitsu-hachi-in-ku-ketsu. ❷一帖 ❸存 ❺德川時代寫 ❾(寶龜院)

秘密八印等 ❶(日)Hi-mitsu-hachi-in-tō. ❷一卷 ❸存 ❹應雲飲光(享保三—文化元 A. D. 1718—1804) ❾寫本(谷大、龍大・三一〇四)

秘密八講法花八講表白 ❶(日)Hi-mitsu-hak-kō-hok-ke-hak-kō-hyō-byaku. ❷一括 ❸存 ❺足利時代寫 ❾(寶龜院)

秘密八名經 ❶(日)Hi-mitsu-hachi-myō-kyō.(支)Hi-mi-pa-ming-ching. 八名普密陀羅尼經、八名普密經 ❷一卷 ❸存、大正二一・八八三 No. 1365、鎌成八、卍一二・五、北432盖、南455盖、元459盖、明北457行、清457行、厚450讚、天458盖、指424讚、法445讚、至640賚、明南457行、Nj. 491 ❹玄奘(七會二—麟德元 A. D. 602—664)譯 ❺唐永徽五(A. D. 654) ❾八名普密陀羅尼經の下を見よ。

秘密八名陀羅尼經 ❶(日)Hi-mitsu-hachi-myō-da-ra-ni-kyō.(支)Fi-mi-pa-ming-to-lo-ni-ching. ❷一卷 ❸存、大正二一・八八四 No. 1366、鎌成八、卍一五・五、北1265鎌、南1277鎌、元1271鎌、明北904深、清904深、麗1262陪、天1256鎌、法1378鎌、至774鳳、明南935興、Nj. 909 ❹宋法賢(一—成平四 A. D. 1001)譯 ❺佛、給孤獨園に在し、金剛手菩薩の爲に說く。始に此陀羅尼を受持する者の得益を述べ、次に最勝持明藏金剛部中に於て汝の秘密八名を說くとて、象耳、妙莊嚴、功德寶海、無動、眞實雲、可愛色相、娑羅、妙色の八名を明し、次で陀羅尼を說き、最後に此秘密名及び陀羅尼を受持讀誦する者は地獄に墮せず、命終時に諸佛菩薩身を現じて安慰說法し、命終の後兜率天に生ずと。

同本異譯に八名普密陀羅尼經一卷玄奘譯あり。

(坪井德光)

秘密百話 ❶(日)Hi-mitsu-hyaku-wa. ❷一卷 ❸存 ❹富田敬純著 ❺大正二刊 ❾東京加持世界社

秘密付法傳 ❶(日)Hi-mitsu-fu-hō-den. 秘密漫荼羅敎付法傳、付法傳、廣付法傳 ❷二卷 ❸存、日本大藏經第四四眞言宗事相章疏第一、大日本佛敎全書第一〇六、弘法大師全集第一相承部 ❹空海(寶龜五—承和二 A. D. 774—835) ❺寛永八刊 ❾(高大、寄・一・五五)

秘密佛敎護摩 ❶(日)Hi-mitsu-buk-kyō-go-ma. ❷一卷 ❸存 ❹佐伯興人著 ❺昭和四刊 ❾東京二松堂

秘密佛敎講話 ❶(日)Hi-mitsu-buk-kyō-kō-wa. 史的研究秘密佛敎講話 ❷一卷 ❸存 ❹守山聖眞著 ❺大正一一刊 ❾東京日本輝書刊行會

秘密佛敎の研究 ❶(日)Hi-mitsu-buk-kyō-no-ken-kyū. ❷一册 ❸存 ❹森田龍僧著 ❺昭和五刊 ❾京都六大新報社

秘密法訓 ❶(日)Hi-mitsu-hō-kun. ❷二卷 ❸存 ❹妙瑞(元祿九—明和元 A. D. 1695—1764) ❺寛保三(A. D. 1743)十一月 ❻即身成佛、無疊無成、本迹本情、煩惱即菩提、俗諦常住、即事而眞、無相大空、開部不二、闡梨意樂、法身說法の十門に分ちて眞言敎の大綱を說きて宋德の法訓とす。 ❺延享元刊 ❾(龍大、二六六二・三五)(高大、一・四八)(京大、日大未・四四七)(京專)

秘密法華經 ❶(日)Hi-mitsu-hok-ke-kyō. ❷一帖 ❸存 ❺足利中期寫 ❾(金剛三昧院)

秘密寶藏鈔 ❶(日)Hi-mitsu-hō-zō-shō. ❷十卷 ❸存 ❹寛助(天喜五—天治二 A. D. 1057—1125) ❾足利時代寫(金剛三昧院)寫本(寶龜院)

秘密曼荼羅綱要鈔 ❶(日)Hi-mitsu-man-da-ra-kō-yō-shō. ❷一帖 ❸存 ❹良賢述 ❺正和四寫 ❾(高大、寄・一・五四)

秘密曼荼羅十住心略頌 ❶(日)Hi-mitsu-man-da-ra-jū-jū-shin-ryaku-ju. ❸存、興敎大師全集 ❹覺鑁(嘉保二—康治二 A. D. 1095—1143)

❺弘法大師の大著なる秘密曼荼羅十住心論の大意を略頌に認めたるもの。本書に七言二十句の總叙と四言四十句の十住心の說明とより成るも、惜哉第三住心までの記述にて、其の餘は逸して傳はらず。

❼(參考) 諸宗章疏錄第三 (富田敬純)

秘密曼荼羅十住心論 ❶(日)Hi-mitsu-man-da-ra-jū-jū-shin-ron. 十住心論 ❷十卷 ❸存、大正七七・三〇三 No. 2435、鎌霜七、弘法大師全集第二敎相部 ❹空海(寶龜五—承和二 A. D. 774—835) ❺天長七(A. D. 830)頃 ❻大日經・菩提心論を正所依とし、顯密諸經論章疏外典等を廣く引用して異生羝羊心等の十種住心の行相を明した書。十住心とは異生羝羊心・愚童持齋心・嬰童無畏心(以上世間道)・唯蘊無我心(聲聞)・拔苦因種心(緣覺)・他緣大乘心(法相)・覺心不生心(三論)・一道無爲心(天台)・極無自性心(華嚴)秘密莊嚴心(眞言)を云ひ、弘法大師は此十住心を以て正しくは眞言行者の淨菩提心展開の相を示し、兼ねては立敎同宗の敎判を明にせんがため、顯密二敎世間出世の淺深優劣を說き、二宗の敎格を示したのである。從つて本書は大師の著述中最も重要なるものゝ一である。始め序分があり、每卷一住心を說き、各住心の行相を詳說してゐる。

(著作年代) 淳和帝天長年間に諸宗の碩德に詔を下して各宗の要義を撰述奉進せしめ給うた。華嚴一乘開心論六卷(普機)・天台宗義集一卷(義眞)・三論大義鈔四卷(玄叡)・大乘法相研神章五卷(護命)・戒律傳來記三卷(豐安)と本書とが、此勅詔に應じて奉進した書で、世に天長六撰集と稱してゐる。本書の製作年月は明記せる文獻がなく、古來種々の異說がある。しかし、法相研神章には天長七年造進の旨を明記し、凝然の律宗瓊鑑章第六には豐安が天長六年勅を奉じて戒律記三卷を作るとあるから、本書の著作年代も、凡そ天長六七年頃と見るべきである。

(秘藏寶鑰との關係) 秘藏寶鑰三卷は十住心論と同じく十住心を說いた書で、同じく天長年中に淳和帝の勅によつて弘法大師が著したものである。古來の說に最初十住心論を奉進した時天皇御嘉賞あり、而も廣濟の故に更に略論を上るべしとの再度の御詔命により、寶鑰を作つて上つたと云はれてゐる。此廣略二論が共に勅命によることは十住心論一に奉〻天恩詔述〻秘義〻と云ひ、寶鑰上に我今蒙〻詔撰〻十住〻とあるによつて明であり、廣論の後更に略論を奉進したと見るは正鵠を得た說であらう。此兩論の內容について相違點を指摘すれば、概括的には廣論は文義共に廣博で、援引證據が極めて詳細であり、略論は文章簡約にして要旨を概說してゐる。更に相違點を細說すれば、(一)廣論は前九住心に後深二釋を設け、略論は僅に第九住心にのみ二釋を表し、而も深秘釋はこれを略してゐる。(二)略論は第十住心に菩提心論三摩地段の文を引き、五相三密の三摩地の相を示し、廣論には此事を缺く。(三)略論には第六住心に釋論の五重問答の文を引き、廣論にはこれを引かず。(四)略論には第四住心の下に十四問答を設けて、內外二敎の優劣を判じ、當時の僧侶の墮落を歎じ、而も法の尊嚴を擁護して佛法が鎭護國家の大益を施す所以を說いてゐるが、廣論には此の事がない。

❼(注釋) 廣名目六卷(印融)・綾生抄十三卷(賢寶)・聞記七卷(觀寶)・勘文三十八卷(觀瑜)・肝要鈔三卷(刊、重譽)・義批三十六卷(凝然)・鳳草三十八卷(刊、觀瑜)・科註十二卷(刊、秀翁)・冠註十卷(刊、如實)・私記十二卷(刊、政祝)・衆毛鈔十八卷(刊、觀瑜)・鈔十卷(呆寶)・大綱記一卷(澄榮)・目錄鈔十五卷(英岳)・略問答鈔十卷(性心)等

(參考) 諸宗章疏錄第三 ❾平安朝時代(高大、寄・一・四〇)承安二寫(仁和寺)正嘉三刊(高大、寄・一・四〇)慶安四刊(正大、一四三・四三)(高大、一・四〇)寛文元刊(正大、一四三・一・一五九)

(小田慈舟)

秘密曼荼羅十住心論 ❶(日)Hi-mitsu-man-da-ra-jū-jū-shin-ron. 國譯秘密曼荼羅十住心論 ❷十卷 ❸存、國譯密敎論釋部第一

秘密曼荼羅十住心論肝要鈔 ❶(日)Hi-mitsu-man-da-ra-jū-jū-shin-ron-kan-yō-shō. 十住心論鈔、十住心論肝要鈔、十住心論略鈔、秘密曼荼羅十住心論略鈔 ❷三卷 ❸存、大正七七・六四八 No. 2442 ❹重譽述 ❺保延五(A. D. 1139) ❻十住心論鈔の下を見よ。

秘密曼荼羅十住心論義批 ❶(日)Hi-mitsu-man-da-ra-jū-jū-shin-ron-ni-hi. 十住心論義批 ❷三十六卷(或三十七卷) ❸存 ❹湛然(仁治元—元享元 A. D. 1240—1321)述 ❺正和二(A. D. 1313) ❻十住心論義批の下を見よ。

秘密曼荼羅十住心論義林 ❶(日)Hi-mitsu-man-da-ra-jū-jū-shin-ron-gi-rin. 十住心論義林、十住心義林 ❷二卷 ❸存 ❹宥快(貞和元—應永二三 A. D. 1345—1416)述 ❺明治一九刊 ❾(京大、日大未・三八一)

秘密曼荼羅十住心論愚鈔 ❶(日)Hi-mitsu-man-da-ra-jū-jū-shin-ron-gu-sō. 十住心論愚鈔 ❷三十八卷 ❸存 ❹顯瑜(嘉祿二—嘉元二 A. D. 1226—1304)述 ❺十住心論愚鈔の下を見よ。

秘密曼荼羅十住心論科註 ❶(日)Hi-mitsu-man-da-ra-jū-jū-shin-ron-kwa-chū. 十住心論科註 ❷二十卷 ❸存 ❹秀賢(寛永三—元祿一二 A. D. 1625—1699)述 ❾(京專)

秘密曼荼羅十住心論冠註 ❶(日)Hi-mitsu-man-da-ra-jū-jū-shin-ron-kwan-chū. 十住心論冠註、冠註十住心論 ❷十卷 ❸存 ❹如實(元祿一一—寶曆五 A. D. 1698—1755)述 ❺寛延二(A. D. 1749) ❻十住心論冠註の下を見よ。 ❾寶曆三刊 ❾(正大、一四三・一・一六〇)

秘密曼荼羅十住心論廣名目 ❶(日)Hi-mitsu-man-da-ra-jū-jū-shin-ron-kō-myō-moku. 十住心論廣名目、十住心廣名目 ❷六卷 ❸存 ❹印融(永享七—永正一六 A. D. 1435—1519)述 ❺永正五(A. D. 1510) ❻十住心論廣名目の下を

數●略字號 ❶題名(書名) ❷數●卷 ❸存●缺 ❹著●述 ❺成●年代 ❻內●容 ❼參●考(註釋書參考書) ❽成●書 ❾刊●年月 ❿寫●本(寫經者名) ⓫發●行所(名稱)

秘密曼荼羅十住心論記

❶(ロ) Hi-mitsu-man-da-ra-jū-jū-shin-ron-shi-ki. 十住心論記、十住心論抄 ❷十|巻 ❸存 ❹建暦(貞応元—一本元)|貞慶A. D. 1366—1439—)撰 ❺未完本(A. D. 1434) ❻十住心論記の下と見よ。

秘密曼荼羅十住心論秘宗鈔

❶(ロ) Hi-mitsu-man-da-ra-jū-jū-shin-ron-shū-mō-shō. 十住心論秘宗鈔 ❷十五巻 ❸存 ❹顕倉(寛喜|一本元|| A. D. 1226—1304)撰 ❺弘安元—本元|| (A. D. 1282—1295) ❻十住心論秘宗鈔の下と見よ。

秘密曼荼羅十住心論大疏記

❶(ロ) Hi-mitsu-man-da-ra-jū-jū-shin-ron-tai-kō-ki. 十住心論大疏記 ❷|巻 ❸存 ❹慈海(天正|四—一本元|| A. D. 1586—1650)撰 ❺慶長四年 ❻(慶大、法華)

秘密曼荼羅十住心論略秘鈔

❶(ロ) Hi-mitsu-man-da-ra-jū-jū-shin-ron-ryaku-shō. 十住心論略、十住心論略秘鈔、十住心論略鈔、秘密曼荼羅十住心論略秘鈔 ❷三巻 ❸存、大正七十•六四八 No. 2442 ❹寛喜(一本建保元 A. D. 1135—1140—)撰 ❺建保元(A. D. 1139) ❻十住心論略の下と見よ。

秘密曼荼羅十住心論綱要

❶(ロ) Hi-mitsu-man-da-ra-jū-jū-shin-ron-ron-sō. 十住心論綱要 ❷|巻 ❸存 ❹覚鑁(承徳元||一本元|| A. D. 1095—1143)撰 ❺保延四(A. D. 1138)頃 ❻十住心論秘宗(上巻)

秘密曼荼羅略図聚分私記

❶(ロ) Hi-mitsu-man-da-ra-hon-zu-som-bun-shi-ki. ❷|巻 ❸存、大正図像巻|❹実賢(寿永元—一貞治元 A. D. 1306—1362)撰 ❺同 ❻文保元年(A. D. 1356)正月

❼大日経略摂秘密曼荼羅略図所説の図像聚集の意義をのべられて解説した書。図説は大日・観音・地蔵・虚空蔵・文殊・普賢・金剛薩埵・三昧耶・金剛拳・三昧耶・金剛・三昧耶・金剛・三昧耶・金剛

高僧々侶に乗ずるなり」。第上座・高僧高僧・高僧々侶を行ずるなり。(ロ)乗乗「一切衆生の成仏」。この中智を乗」、この乗に乗じ、この乗を行ずるなり」。第上座・高僧高僧・高僧々侶を行ずるなり。(ハ)乗乗「一切衆生の成仏」。この中智を乗」、この乗に乗じ、この乗を行ずるなり」。第上座・高僧高僧・高僧々侶を行ずるなり。(ニ)乗乗「一切衆生の成仏」。この中智を乗」、この乗に乗じ、この乗を行ずるなり」。第上座・高僧高僧・高僧々侶を行ずるなり。(ホ)乗乗「一切衆生の成仏」。この中智を乗」、この乗に乗じ、この乗を行ずるなり」。第上座・高僧高僧・高僧々侶を行ずるなり。(ヘ)乗乗「一切衆生の成仏」。この中智を乗」、この乗に乗じ、この乗を行ずるなり」。第上座・高僧高僧・高僧々侶を行ずるなり。(ト)乗乗「一切衆生の成仏」。この中智を乗」、この乗に乗じ、この乗を行ずるなり」。第上座・高僧高僧・高僧々侶を行ずるなり。(チ)乗乗「一切衆生の成仏」。この中智を乗」、この乗に乗じ、この乗を行ずるなり」。第上座・高僧高僧・高僧々侶を行ずるなり。(リ)乗乗「一切衆生の成仏」。この中智を乗」、この乗に乗じ、この乗を行ずるなり」。第上座・高僧高僧・高僧々侶を行ずるなり。(ヌ)乗乗「一切衆生の成仏」。この中智を乗」、この乗に乗じ、この乗を行ずるなり」。第上座・高僧高僧・高僧々侶を行ずるなり。(ル)乗乗「一切衆生の成仏」。この中智を乗」、この乗に乗じ、この乗を行ずるなり」。第上座・高僧高僧・高僧々侶を行ずるなり。(ヲ)乗乗「一切衆生の成仏」。この中智を乗」、この乗に乗じ、この乗を行ずるなり」。第上座・高僧高僧・高僧々侶を行ずるなり。(ワ)乗乗「一切衆生の成仏」。この中智を乗」、この乗に乗じ、この乗を行ずるなり」。第上座・高僧高僧・高僧々侶を行ずるなり。(カ)乗乗「一切衆生の成仏」。この中智を乗」、この乗に乗じ、この乗を行ずるなり」。第上座・高僧高僧・高僧々侶を行ずるなり。(ヨ)乗乗「一切衆生の成仏」。この中智を乗」、この乗に乗じ、この乗を行ずるなり」。第上座・高僧高僧・高僧々侶を行ずるなり。(タ)乗乗「一切衆生の成仏」。この中智を乗」、この乗に乗じ、この乗を行ずるなり」。第上座・高僧高僧・高僧々侶を行ずるなり。(レ)乗乗「一切衆生の成仏」。この中智を乗」、この乗に乗じ、この乗を行ずるなり」。第上座・高僧高僧・高僧々侶を行ずるなり。(ソ)乗乗「一切衆生の成仏」。この中智を乗」、この乗に乗じ、この乗を行ずるなり」。第上座・高僧高僧・高僧々侶を行ずるなり。(ツ)乗乗「一切衆生の成仏」。この中智を乗」、この乗に乗じ、この乗を行ずるなり」。第上座・高僧高僧・高僧々侶を行ずるなり。(ネ)乗乗「一切衆生の成仏」。この中智を乗」、この乗に乗じ、この乗を行ずるなり」。第上座・高僧高僧・高僧々侶を行ずるなり。(ナ)乗乗「一切衆生の成仏」。この中智を乗」、この乗に乗じ、この乗を行ずるなり」。第上座・高僧高僧・高僧々侶を行ずるなり。(ラ)乗乗「一切衆生の成仏」。この中智を乗」、この乗に乗じ、この乗を行ずるなり」。第上座・高僧高僧・高僧々侶を行ずるなり。(ム)乗乗「一切衆生の成仏」。この中智を乗」、この乗に乗じ、この乗を行ずるなり」。第上座・高僧高僧・高僧々侶を行ずるなり。(ウ)乗乗「一切衆生の成仏」。この中智を乗」、この乗に乗じ、この乗を行ずるなり」。第上座・高僧高僧・高僧々侶を行ずるなり。(ヰ)乗乗「一切衆生の成仏」。この中智を乗」、この乗に乗じ、この乗を行ずるなり」。第上座・高僧高僧・高僧々侶を行ずるなり。(ノ)乗乗「一切衆生の成仏」。この中智を乗」、この乗に乗じ、この乗を行ずるなり」。第上座・高僧高僧・高僧々侶を行ずるなり。(オ)乗乗「一切衆生の成仏」。この中智を乗」、この乗に乗じ、この乗を行ずるなり」。第上座・高僧高僧・高僧々侶を行ずるなり。(ク)乗乗「一切衆生の成仏」。この中智を乗」、この乗に乗じ、この乗を行ずるなり」。第上座・高僧高僧・高僧々侶を行ずるなり。(ヤ)乗乗「一切衆生の成仏」。この中智を乗」、この乗に乗じ、この乗を行ずるなり」。第上座・高僧高僧・高僧々侶を行ずるなり。(マ)乗乗「一切衆生の成仏」。この中智を乗」、この乗に乗じ、この乗を行ずるなり」。第上座・高僧高僧・高僧々侶を行ずるなり。(ケ)乗乗「一切衆生の成仏」。この中智を乗」、この乗に乗じ、この乗を行ずるなり」。第上座・高僧高僧・高僧々侶を行ずるなり。(フ)乗乗「一切衆生の成仏」。この中智を乗」、この乗に乗じ、この乗を行ずるなり」。第上座・高僧高僧・高僧々侶を行ずるなり。(コ)乗乗「一切衆生の成仏」。この中智を乗」、この乗に乗じ、この乗を行ずるなり」。第上座・高僧高僧・高僧々侶を行ずるなり。(エ)乗乗「一切衆生の成仏」。この中智を乗」、この乗に乗じ、この乗を行ずるなり」。第上座・高僧高僧・高僧々侶を行ずるなり。(テ)乗乗「一切衆生の成仏」。この中智を乗」、この乗に乗じ、この乗を行ずるなり」。第上座・高僧高僧・高僧々侶を行ずるなり。(ア)乗乗「一切衆生の成仏」。この中智を乗」、この乗に乗じ、この乗を行ずるなり」。第上座・高僧高僧・高僧々侶を行ずるなり。(サ)乗乗「一切衆生の成仏」。この中智を乗」、この乗に乗じ、この乗を行ずるなり」。第上座・高僧高僧・高僧々侶を行ずるなり。(キ)乗乗「一切衆生の成仏」。この中智を乗」、この乗に乗じ、この乗を行ずるなり」。第上座・高僧高僧・高僧々侶を行ずるなり。(ユ)乗乗「一切衆生の成仏」。この中智を乗」、この乗に乗じ、この乗を行ずるなり」。第上座・高僧高僧・高僧々侶を行ずるなり。(メ)乗乗「一切衆生の成仏」。この中智を乗」、この乗に乗じ、この乗を行ずるなり」。第上座・高僧高僧・高僧々侶を行ずるなり。(ミ)乗乗「一切衆生の成仏」。この中智を乗」、この乗に乗じ、この乗を行ずるなり」。第上座・高僧高僧・高僧々侶を行ずるなり。(シ)乗乗「一切衆生の成仏」。この中智を乗」、この乗に乗じ、この乗を行ずるなり」。第上座・高僧高僧・高僧々侶を行ずるなり。(ヱ)乗乗「一切衆生の成仏」。この中智を乗」、この乗に乗じ、この乗を行ずるなり」。第上座・高僧高僧・高僧々侶を行ずるなり。(ヒ)乗乗「一切衆生の成仏」。この中智を乗」、この乗に乗じ、この乗を行ずるなり」。第上座・高僧高僧・高僧々侶を行ずるなり。(モ)乗乗「一切衆生の成仏」。この中智を乗」、この乗に乗じ、この乗を行ずるなり」。第上座・高僧高僧・高僧々侶を行ずるなり。(セ)乗乗「一切衆生の成仏」。この中智を乗」、この乗に乗じ、この乗を行ずるなり」。第上座・高僧高僧・高僧々侶を行ずるなり。(ス)乗乗「一切衆生の成仏」。この中智を乗」、この乗に乗じ、この乗を行ずるなり」。第上座・高僧高僧・高僧々侶を行ずるなり。(ン)乗乗「一切衆生の成仏」。この中智を乗」、この乗に乗じ、この乗を行ずるなり」。第上座・高僧高僧・高僧々侶を行ずるなり。

被甲護身事法 ❶(ロ) Hi-kō-go-shin-yō-ketsu. 被甲護身事法 ❷1巻 ❸巻 ❹巻 ❺巻 ❻巻 ❼巻 ❽巻 ❾巻 ❿巻 ⓫巻 ⓬巻 ⓭巻 ⓮巻 ⓯巻 ⓰巻 ⓱巻 ⓲巻 ⓳巻 ⓴巻 ㉑巻 ㉒巻 ㉓巻 ㉔巻 ㉕巻 ㉖巻 ㉗巻 ㉘巻 ㉙巻 ㉚巻 ㉛巻 ㉜巻 ㉝巻 ㉞巻 ㉟巻 ㊱巻 ㊲巻 ㊳巻 ㊴巻 ㊵巻 ㊶巻 ㊷巻 ㊸巻 ㊹巻 ㊺巻 ㊻巻 ㊼巻 ㊽巻 ㊾巻 ㊿巻 (1巻 ❷

(A. D. 414—426)

㊀(梵語の原本のみ現存す)　梵語題は大乘妙法蓮華經、梵語題は Karuṇā-puṇḍarīka-nāma-mahāyāna-sūtra 西藏名、Ḥphags-pa śiñn-rje padma dkar-po shes-bya-ba theg-pa chen-poḥi mdo. 漢譯名なし。原本(梵)は白蓮華の譯である。

梵語の白蓮華とは何を意味するかといふに、それは大乘佛教を指す譬喻である。佛教思想史上に於ける一切の思想傾向を大乘に於ける一切衆生を救ふ思想に於ける一切衆生を救ふ思想に於ける一切衆生を救ふ思想

無諍念王の物語となる。

往昔、汎河沙等の阿僧祇劫に於て此の佛世界は劫提嵐と名づけ、その劫は善持と云つた、此の時、轉輪聖王無諍念が治世し、その大区に寶海あり、寶海に子あり寶藏といひ、寶藏出家して、無上道を成じ、寶藏如來となり給ひ、この如來が法輪を轉じて衆生を濟度し次第に證行して首都安周羅城の城外の園浮林に止まり給ふた時に彼の轉輪王はその大衆と倶に如來の所に往詣して說法を聽受し已つて三ヶ月間の供養を請ふ。此處に於て種々に供養して三ヶ月を已り國事多端なるを述べその場を下つたが、王の第一の太子不眴、第二の王子尼摩等の千子も亦王の如く如來及び聖衆を請じて一切の所須を各々三ヶ月の間奉施し、この功德により千子は或は、帝釋天王を求め、或は梵王、或は大王、轉輪聖王、或は大富を求めて二乘を求むるものもなく、況して大乘を求むるものは一人もない。王も亦轉輪王となることを求めて無上菩提を求めないその時、寶海梵志は夢想を感じて人天有漏の果の愛するに足らざることを悟り、因つて王に說いて無上菩提心を發し菩薩道を行じて淸淨の佛土に成佛せむことを期特せしめるその時、寶藏如來は三昧に入つて大光明を放ち、十方世界を現じて王に見せしめ給ひ、五濁惡惡の土と淸淨の佛土等種々樣々の世界を見せしめ給ふと、王は如何にして淸淨佛を取るべきか、又五濁佛土を取るべきかを御尋ねしてそれが菩薩の因位の願力であることを悟り、自らは淸淨の佛土を取らむとして佛の所を退き城に歸り園浮處にありと思惟し始めた。次に、寶海梵志は太子不眴に勸めて無上菩提心を發さしめ、第二王子以下千人の王子、諸王、大衆をしてみな無上道心を起さしめる。皆、各々宮殿に歸り屏處にありて一心に所願を思惟する。それから七歲の後に王及び千の王子等は倶に園浮林に至り、佛の所に往詣して先の三月の供養の福德を以つて無上菩提に廻向し大菩提心を起す。〔第四授記品〕 爾の時、寶藏如來はこの無量衆生の無上菩提を退轉しなければ各々に授記を與へやうといふとて不失菩提心三昧に入り、大光明を放ちて十方の無量世界を照し給ふ。寶海梵志は轉輪王に誓願を發し淨佛土を取らむことを勸める。王は先に供養した善根を以て無上菩提に廻向し妙佛土を取らむこと五十一の大願を說き、更に佛に對して、世尊よ、我が願ふ所の佛土、願ふ所の衆生はかくの如くであり、若し所願の如くなるを得ば我は即ち阿耨菩提を成ぜむと誓ひ給ひ、寶藏如來はこれより西方百千萬億の佛土を過ぎ世尊無垢と名づくる世界があり、その中の佛を世尊如來と號する。かの佛の功德莊嚴は汝の所願と等しい、今、汝は無量無邊の衆生を調伏するから無量淸淨と名を改めよと告げ、その世尊如來般涅槃の後亦無量の諸佛次第に出現し、その世界が轉じて安樂と名づけられる時汝はその中に作佛して無量壽と號するであらうと授記せらる。

次に王の第一太子不眴が佛前にすゝみて所願を述べる、佛は太子を觀世音と改め言

典である。阿閦佛經、大阿彌陀經其の他諸淨土に關する經典が盛んに莊嚴淨土を說きその佛陀の大慈悲を讚嘆するに對して、この經典が反對に釋尊の穢土成佛を讚嘆するのも頗る妙味がある。我々はその何れにも

安樂世界
- (1)聲聞無數、菩薩亦然……「無量壽經」……「十住論」
- (2)菩薩僧多、聲聞僧少……「智度論」「龍樹
- (3)菩薩無數、無有二乘……「悲華經」……「淨土論」—天親

是によつてこの悲華經が天親菩薩出世の頃、讚歎された經典であること、これを漢譯年代に比較してこの經典の成立を考へることが出來るであらう。

悲華經は悲華經としてその持つ特殊の思想史的意義も考察されねばならないことであるが、それに合せて此の經典の中に阿彌陀佛の四十八願（五十一願）が記載されてゐることが淨土教にこの經典を關係せしむることゝなる。それ故に日本に於ても法然上人と同時代であり、聖覺法印の父なる澄觀法印に與悲華經阿彌陀四十八願鈔一卷（淨土眞宗教典志、第三卷）があると傳へられて居るが遺憾ながら現存しない。法然上人は「無量壽經釋」（漢語燈）上、四左）に無諍念王と法藏比丘との二經說を合同せしめて居らるゝ。又親鸞上人は「敎行信證」行の卷に悲華經の第四十二願、（即ち、無量壽經の四十八願に於ては第十八願）を引用せられ、第四十三願（無量壽經四十八願に於ては第十九願）を化身土の卷と「三經往生文類」の觀經往生の下に念佛往生と諸行往生とを證へる願文として御引用になつてゐる。〔無量壽經と悲華經の對照、加藤智學（無邊第

何とも曰はれない有難い尊い感じに打たれずには居られないのである。

此の經典に記載されてゐる安樂世界の敍述を印度に於ける龍樹、天親の二菩薩の論述に比較して見ると左の如くなつてゐる。

悲華經 ❶(日)Hi-ke-kyō.（支）Pei-hua-ching. ❷十卷 ❸缺 ❹北涼道龍譯 ❺第三譯 ❻(參考) 開元錄第一四、貞元錄第二四

悲心悟悟經 ❶(日) Hi-shin-ō-gyō.（支）Pei-hsin-i-i-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹失譯 ❻(參考) 出三藏記第三、法經錄第三、仁壽錄第五、靜泰錄第五、開元錄第二、第一五、貞元錄第四、第二五

悲歎閻羅記評 ❶(日)Hi-tan-gen-shō-ki-hyō. 閻羅記評 ❷一卷 ❹敎遵（元祿一六—安永七 A. D. 1703—1778） ❻(參考) 淨土眞宗教典志第二

悲歎讃及獲得名號法語略註

❶(日)Hi-tan-sana-oyobi-gyaku-toku-myō-gō-ho-go-ryaku-chū. ❸存、眞宗全書第六、一 ❹僧鶴（享保八—天明三 A. D. 1723—1783）述

❻本書は親鸞の正像末和讃に出づる述懷和讃と獲得名號法語を略註したものである。（安井廣度）

悲歎述懷義釋 ❶(日) Hi-tan-jut-kwai-gi-shaku. ❷一卷 ❸存 ❹善圓（文化九—明治九 A. D. 1812—1876）述 ❾寫本（龍大、一二三六・一八六）（谷大）

悲歎述懷讃錄 ❶(日) Hi-tan-jut-kwai-san-roku. ❷一卷 ❸存 ❾寫本（龍大、研眞）

悲歎述懷和讃聞書 ❶(日)Hi-tan-jut-kwai-wa-san-kiki-gaki. ❷一卷 ❸存 ❺明和七寫 ❾（谷大、宗大・一五八二）

悲歎述懷和讃講義 ❶(日)Hi-tan-jut-kwai-wa-san-kō-gi. ❷一卷 ❸存 ❹龍谷信誠著 ❾刊本（谷大、宗非・三八五）

悲歎述懷和讃側耳篇 ❶(日)Hi-tan-jut-kwai-wa-san-soku-ni-hen. ❷一卷 ❸存 ❹淨慧 ❺寬政一一寫 ❾（谷大、宗大・二六六七）

悲歎述懷和讃聽錄 ❶(日)Hi-tan-jut-kwai-wa-san-chō-roku. ❷一卷 ❸存 ❹寶雲、寬政三—弘化四 A. D. 1791—1847） ❾寫本（谷大、宗大・二四二二）

悲歎述懷和讃法話 ❶(日)Hi-tan-jut-kwai-wa-san-hō-wa. ❷一卷 ❸存 ❹靈班（安永四—嘉永四 A. D. 1775—1851）述 ❺明治四四刊 ❾（谷大、宗非・二二〇）

❶(日)Hi-tan-sana-oyobi-gyaku-toku-myō-gō-ho-go-ryaku-chū. ❸存、眞宗全書第六、一 ❹僧鶴（享保八—天明三 A. D. 1723—1783）述

❻本書は親鸞の正像末和讃に出づる述懷和讃と獲得名號法語を略註したものである。（安井廣度）

悲歎述懷義釋 ❶(日) Hi-tan-jut-kwai-gi-shaku. ❷一卷 ❸存 ❹善圓（文化九—明治九 A. D. 1812—1876）述 ❾寫本（龍大、一二三六・一八六）（谷大）

悲歎述懷讃錄 ❶(日) Hi-tan-jut-kwai-san-roku. ❷一卷 ❸存 ❾寫本（龍大、研眞）

悲歎述懷和讃聞書 ❶(日)Hi-tan-jut-kwai-wa-san-kiki-gaki. ❷一卷 ❸存 ❺明和七寫 ❾（谷大、宗大・一五八二）

悲歎述懷和讃講義 ❶(日)Hi-tan-jut-kwai-wa-san-kō-gi. ❷一卷 ❸存 ❹龍谷信誠著 ❾刊本（谷大、宗非・三八五）

悲歎述懷和讃側耳篇 ❶(日)Hi-tan-jut-kwai-wa-san-soku-ni-hen. ❷一卷 ❸存 ❹淨慧 ❺寬政一一寫 ❾（谷大、宗大・二六六七）

悲歎述懷和讃聽錄 ❶(日)Hi-tan-jut-kwai-wa-san-chō-roku. ❷一卷 ❸存 ❹寶雲、寬政三—弘化四 A. D. 1791—1847） ❾寫本（谷大、宗大・二四二二）

悲歎述懷和讃法話 ❶(日)Hi-tan-jut-kwai-wa-san-hō-wa. ❷一卷 ❸存 ❹靈班（安永四—嘉永四 A. D. 1775—1851）述 ❺明治四四刊 ❾（谷大、宗非・二二〇）

悲歎聲並長音錫杖聞書 ❶(日) Hi-tan-jō-nai-rabini-jō-on-shaku-jō-kiki-gaki. ❷一卷 ❸存 ❹宗信記 ❾寫本（無動寺）

悲歎本願訣 ❶(日) Hi-tan-hon-gwan-ketsu. ❷一卷 ❸存 ❹貫知 ❾寫本（龍大）

悲歎謬解鈔 ❶(日) Hi-tan-myō-ge-shō. ❷一卷 ❸存 ❹宗慧述 ❼(參考) 淨土眞宗教典志第二 ❺正享四刊 ❾（谷大・宗大・一一二六）（龍大・一七五・七七）

悲分陀利經 ❶(日) Hi-fun-da-ri-kyō.（支）Pei-fen-to-li-ching. 大乘悲分陀利經、大乘大悲分陀利經、大悲分陀利經 ❷八卷 ❸存、大正三・二三三No. 158、縮宮三、卍一〇・二、北127駒、南127駒、元123駒、明北176歌、清176歌、麗126白、天127駒、指115白、法134白、至204此、明南123鉦、N. 180 ❻三秦代（A. D. 350—431）失譯 ❻大乘悲分陀利經の下を見よ。

費隱禪師紀年錄 ❶(日)Hi-in-zen-ji-ki-nen-roku.（支）Fei-yin-ch'an-shih-chi-nien-lu. 梶山費隱禪師紀年錄 ❷一卷 ❸存 ❹資福等編 ❺寬文二二刊 ❾（駒大）

費隱禪師語錄 ❶(日)Hi-in-zen-ji-go-roku.（支）Fei-yin-ch'an-shih-yü-lu. ❷十六卷 ❸存、❹明費隱通容（萬曆二一—永曆一五 A. D. 1593—1651）語、陸元隆琦（文祿元—延寶元 A. D. 1592—1673）等編 ❾明版（內閣）明曆三刊（龍大、二六七四・二〇〇〇）（駒大）

毘婆羅塩河寺 ❶(日)Hi-in-zen-ji-bes-shō. (支)Pei-yin-ch'an-shih-pieh-chi. ❷天巻 ❸存 ❹前家図書寄帯(貞享二)天 A. D. 1593—1661)西、図元屋貞(天保元—慶応元 A. D. 1592—1673)谷口 ❺天正一三算 ❻(高大)

毘婆尸話 ❶(日)Hi-mō-sai-kun. ❷一巻 ❸存 ❹谷香(寛政一)一文化一三 A. D. 1745—1816)西 ❺寛政本(京寺)

壺口信孝宗尊 ❶(日) Hi-guchi-nobu-taka-shō-soku. ❷一巻 ❸存 ❹日蓮宗(鎌大)一九七一二・七

毘尼記 ❶(日)Hi-shi-kyō. (支)Pei-ssū-ching. 摩訶僧祇律記 ❷一巻 ❸存 大正一二・八五図 No. 131 編定図 卍一四・一一 ※726表 ※740表 ※732表 明※613表 ※613表 ※712表 ※725表 ※688表 ※715表 ※962表 明※609表 Nj. 617 ❹安東定雲 ❺安東定雲(天一)一七巻三(A. D. 148—170) ❻摩訶僧祇律記の下を以て。

毘尼事類談 ❶(日)Hi-sho-kan-dan. ❷一巻 ❸存 ❹雲慶(天明三—明治六 A. D. 1783—1873) ❺寛永四(A. D. 1851) ❻清水(鎌大)一五〇一・六〇

毘尼事類鈔 ❶(日)Hi-sho-man-roku. ❷一巻 ❸存 ❹宮谷勝春寄 ❺清水(京大)一・二〇ミ・一)

毘尼多古瓦記 ❶(日)Hi-gaki-dera-ko-gawara-ki. ❷存 三十編巻三〇 ❹ 慶安寺(天和三—享保元 A. D. 1683—1759)撰 ❺享保(京・四図)

毘婆記 ❶(日)Hi-no-o-ki. 瑜伽師地論記 ❷一巻 ❸存 ❹日本(鎌大)一九七・二・七 ❺ 天平宝字二(A. D. 774—835)ロ、貞観(延暦寺一)天和一四 A. D. 786—847)記 ❻安東定雲(京寺)

毘婆口訣 ❶(日)Hi-no-o-ku-ketsu. 瑜伽師地論記、瑜伽師地論記文、瑜伽師地論記文記、瑜伽師地論記文記、瑜伽師地論記文記

靜泰錄第三、第四、開元錄第一六、貞元錄第二六

比丘疾病經 ❶(日)Bi-ku-shi-byō-kyō. (支)Pi-chiu-chi-ping-ching. ❸存、生經第三(大正三・八九No. 154, 25)

比丘受戒錄 ❶(日) Bi-ku-ju-kai-roku. (支)Pi-chiu-shou-chieh-lu. ❷一卷 ❸存、卍續二・一二・一 ❹清弘贊(—康熙一五A. D. 1676—)述

❺序に於て支那傳律の興衰を述べ、かくて明末には律の一宗塩を掃ひ、清康熙の頃には受戒するあるも佛制に依らず非法別衆の過を招けり、されば若し如法に得戒する者あらんには法に依り律に依りて戒珠をして長夜に朗かならしめよと勸め、次いで弟子たる者は須らく此の受戒錄を存して後代の人をして師の生年戒臘を知らしむべしとし、かくて得戒の和尚・阿闍黎・壇場の尊證衆の法名、並に自の生年と受戒の年月日時を記して戒臘の尊卑を識り、並に受戒後、諸種作法の儀軌を知るに便ならしめん爲に布薩法・對首布薩法・心念布薩法、對首安居法・心念安居法・對首受日法、衆中自恣法・對首自恣法・心念自恣法、受三衣法・捨衣法、受尼師壇法、受ゝ鉢法、淨施法、心念捨ゝ衣法、受ゝ非時藥法、受七日藥法、受ゝ盡形壽藥法を律藏中より抄出せり、次に別錄として南山・靈芝・並に雲棲法語十五則を記して一は時弊を救ひ一は自警に當へる爲なりとせり。 (西本龍山)

比丘所求色經 ❶(日) Bi-ku-shō-ki-shiki-kyō. (支) Pi-chiu-so-chiu-se-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹失譯 ❼(參考) 出三藏記第三、法經錄第五、仁壽錄第五、靜泰錄第五、開元錄第一、第一五、貞元錄第二、第二四

比丘諸禁律經 ❶(日) Bi-ku-shokin-ritsu-kyō. (支)Pi-chu-chu-chin-lü-ching. 比丘請禁律 ❷一卷 ❸缺 ❹後漢代失譯 ❼(參考) 出三藏記第四、三寶紀第四、第七、內典錄第一、第三、武周錄第一一、開元錄第一、第一五、貞元錄第二、第二五

比丘請經 ❶(日) Bi-ku-shō-kyō. (支) Pi-chiu-ching-ching. (巴) M. 15 Anumāna S. ❸存、中阿含經第二三(大正一・五七一No. 26, 89)

比丘請經 ❶(日) Bi-ku-shō-kyō. 現代意譯比丘請經 ❷一卷 ❸存、現代意譯根本佛教聖典叢書第一〇論部聖典 ❹羽溪了諦、甲斐實行共譯

比丘成就五法入地獄經 ❶(日) Bi-ku-jō-ju-go-hō-nyū-ji-gokū-kyō. (支) Pi-chiu-chêng-chia-wu-fa-ju-di-yü-ching. ❷一卷 ❸失譯 ❹增一阿含經第三十八卷の抄出。 ❼(參考) 出三藏記第四、開元錄第一六、貞元錄第二六

比丘世利經 ❶(日)Bi-ku-se-ri-kyō. (支)Pi-chiu-shih-li-ching. ❷一卷 ❹失譯 ❼(參考) 出三藏記第四

比丘聽經 ❶(日) Bi-ku-chō-kyō. (支)Pi-chiu-ting-ching. 比丘聽施經、聽施比丘經 ❷一卷 ❸存、大正一四・七七二No. 504、館宿八、卍一五・一、北8389帙、南933帙、元692帙、明北732宮、清732宮、服380寬、天892帙、指831寬、法872寬、至1119和、明南773宮、N. 736 ❺東晉太元六—二〇(A. D. 381—395)

比丘聽施經 ❶(日) Bi-ku-chō-se-kyō. (支) Pi-chiu-ting-shih-ching. 比丘聽經、聽施比丘經 ❷一卷 ❸存、大正一四・七七二No. 504、館宿八、卍一五・一、北8389帙、南933帙、元692帙、明北732宮、清732宮、服380寬、天892帙、指831寬、法872寬、至1119和、明南773宮、N. 736 ❹曇無蘭譯 ❺東晉太元六—二〇(A. D. 381—395)

❻聽施比丘は比丘法を好まず、睡眠に著し道行を樂まず、諸經法を疑ふを以て、佛、方便して之を教化するを說けるもの。即ち佛、聽施比丘を招いて譬喻を說いて云ふやう。猿人二人ありて一人は道を知り一人知らざる時は、知らざる者は知る者に問はねばならない。問ふてこそ正道に進むことが出來るのである。同樣に欲念・瞋念・眠害念の三惡念及び邪見・邪念・邪說・邪意・邪行・邪方便・邪志・邪定より退き、出家念・不瞋念・不眠害念の三善念及び正見・正念・正說・正意・正行・正方便・正志・正定に進むには、比丘法を守らねばならないと敎へ、賢者聽施は便ち歡喜して佛の所說を思惟するのである。

❼(參考) 三寶紀第七、內典錄第三、譯經圖紀第二、開元錄第三、貞元錄第五 ❽平安朝時代寫 ❾(高大、寄・一・二三) (三好惠海)

比丘傳 ❶(日) Bi-ku-den. (支) Pi-chiu-chuan. ❷四卷 ❼(參考) 奈良朝現在一切經疏目錄2318

比丘二事經 ❶(日)Bi-ku-ni-ji-kyō. (支) Pi-chiu-êr-shih-ching. ❷一卷 ❹失譯 ❼(參考) 三寶紀第九、內典錄第三、武周錄第一一、開元錄第四、貞元錄第六

比丘二百六十戒 ❶(日) Bi-ku-ni-hyaku-roku-jik-kai. (支) Pi-chiu-êrh-pai-liu-shih-chieh. ❷一卷 ❸缺 ❼(參考) 仁壽錄第五、靜泰錄第五

比丘尼戒 ❶(日)Bi-ku-ni-kai. (支) Pi-chiu-ni-chieh. 比丘尼戒經 ❷一卷 ❸缺 ❹西晉竺法護(—泰始二—建興元A. D. 265—313—)譯 ❺第一譯。 ❼(參考) 武周錄第一二、開元錄第一五、貞元錄第二五

比丘尼戒本 ❶(日) Bi-ku-ni-kai-hon. (支) Pi-chiu-ni-chieh-pen. ❷一卷 ❻長爾經。 ❼(參考) 法經錄第五

比丘尼現變經 ❶(日)Bi-ku-ni-gen-pen-kyō. (支) Pi-chiu-ni-hsien-pien-ching. ❷一卷 ❹失譯 ❺生經第四卷の抄出。 ❼(參考) 出三藏記第四、法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一六、貞元錄第二六

比丘尼現變經 ❶(日)Bi-ku-ni-gen-pen-kyō. (支) Pi-chiu-ni-hsien-pien-ching. ❸存、生經第四(大正三・一〇〇No. 154, 4)

比丘尼御所誌號考 ❶(日)Bi-kuni-go-sho-shi-gō-kō. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(帝國、二三七・八四)

比丘尼羯磨 ❶(日) Bi-ku-ni-kon-ma. (支) Pi-chiu-ni-chieh-mo. 四分比丘尼羯磨法、四分比丘尼羯磨、四分尼羯磨、曇無德羯磨、薩羯磨 ❷一卷 ❸存、大正二二・一〇六五No. 1434、館列七、卍一九・四、北912調、南939調、元935調、明北1124率、清1124率、服926博、天927調、指832博、法916調、至1239盈、明南1236餘、N. 1129 ❹求那跋摩譯 ❺劉宋天嘉八(A. D. 437) ❻四分比丘尼羯磨法の下を見よ。 ❼(參考) 智證大師請來目錄

比丘尼史 ❶(日)Bi-ku-ni-shi. ❷一册 ❸存 ❹笠木良仙著 ❺昭和四刊 ❻東京二松堂書店

比丘尼受戒錄 ❶(日)Bi-ku-ni-jukai-roku. (支)Pi-chiu-ni-shou-chieh-lu. ❷一卷 ❸存、卍續二・一二・一 ❹清弘贊(—康熙一五A. D. 1676—)述

❺序並に記年及び受戒後の諸種作法は比丘受戒錄に同じ。唯序中に尼僧受戒由來を記せると、受戒は二部僧受戒なる故に和尚・阿闍梨・尊證衆の法名は僧尼合せて二十師なるを異にせるのみ、且つ附錄を缺けり。比丘受戒錄參照。 (西本龍山)

比丘尼十戒經 ❶(日) Bi-ku-ni-jikkai-kyō. (支)Pi-chiu-ni-shih-chieh-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹鳩摩羅什代失譯 ❼(參考) 出三藏記第四、三寶紀第四、第七、內典錄第一、第三、武周錄第一一、開元錄第一、第一五、貞元錄第二五

比丘尼僧祇律戒經 ❶(日)Bi-ku-ni-sō-gi-ritsu-kai-kyō. (支) Pi-chiu-ni-seng-chi-lü-chieh-ching. 比丘尼僧祇律波羅提木叉戒經、摩訶僧祇比丘尼戒本、比丘尼波羅提木叉僧祇戒本、僧祇比丘尼戒本、僧祇尼戒本 ❷一卷 ❸存、大正二二・五五六No. 1427、館列一〇、卍一九・七、北902外、南916外、明北1145隨、清1145隨、服907隨、天904外、指865隨、法893隨、至1216雕、明南1259緯、N. 1150 ❹東晉法顯(—陳安三—義熙一二A. D. 399—412—)、覺賢共譯 ❻摩訶僧祇比丘尼戒本の下を見よ。

比丘尼僧祇律波羅提木叉戒經 ❶(日) Bi-ku-ni-sō-gi-ritsu-ha-ra-da-moku-sha-kai-kyō. (支)Pi-chiu-ni-seng-chi-lü-po-lo-ti-mu-ch'a-chie-ching. 摩訶僧祇比丘尼戒本、比丘尼僧祇律戒經、比丘尼波羅提木叉僧祇戒本、僧祇比丘尼戒本、僧祇尼戒本 ❷一卷 ❸存、大正二二・五五六No. 1427、館列一〇、卍一九・七、北902外、南916外、明北1145隨、清1145隨、服907隨、天904外、指865隨、法893隨、至1216雕、明南1259緯、N. 1150 ❹東晉法顯(—陳安三—義熙一二A. D. 399—412—)、覺賢共譯 ❻摩訶僧祇比丘尼戒本の下を見よ。

比丘尼大戒 ❶(日) Bi-ku-ni-dai-kai. (支)Pi-chiu-ni-ta-chieh. ❷一卷 ❸缺 ❹西晉曇摩持共佛念等譯 ❺第二譯。 ❼(參考) 開元錄第一五、貞元錄第二五

比丘尼大戒 ❶(日) Bi-ku-ni-dai-kai. (支)Pi-chiu-ni-ta-chieh. 比丘尼戒本、比丘尼僧祇律波羅提木叉戒經、比丘尼波羅提木叉戒本、比丘尼波羅提木叉僧祇戒本、僧祇尼戒本、十誦比丘尼大戒、十誦律比丘尼戒本 ❷一卷 ❸存、大正二三・四七九No. 1437、館張七、卍一九・八、北904外、南915外、元914外、明北1153外、清1155外、服906隨、天905外、指867隨、法894隨、至1218雕、明南1262外、N. 1161 ❹東晉法顯(—陳安三—義熙一二A. D. 399—412—)集出 ❻十誦比丘尼波羅提木叉戒本の下を見よ。

比丘尼傳 ❶(日)Bi-ku-ni-den. (支) Pi-chiu-ni-chuan. 尼傳 ❷四卷 ❸存、大正五〇・九三四No. 2063、館致一一、卍三〇・五、北1095群、南1103群、元1097群、明北1490餘、清1457候、服1093外、天1094群、指1046英、法1072英、至1562起、明南1480功、N. 1457 ❺寶唱撰 ❻梁天監一六(A. D. 517)

❼此の傳は寶唱が、東晉の升平年間より梁の天監に至るまで、支那に於ける貞心高節の比丘尼六十五人の傳記を叙述したものにして、釋氏稽古略第三卷には、天監十六年、沙門寶唱、比丘尼傳四卷を撰すといひ、開元釋教錄第六卷には、十五年とす。

❼(參考) 開元錄第六、貞元錄第九、東城傳燈目錄卷下、諸宗章疏錄第二、奈良朝現在一切經疏目錄2795 ❽刊本(正大、一〇三五・六三)(高大、寄・一・二一) (石橋誠道)

比丘尼波羅提木叉僧祇戒本

❶(日) Bi-ku-ni-ha-ra-dai-moku-sha-sō-gi-kai-hon. (支)Pi-chiu-ni-po-lo-ti-mu-ch'a-seng-chi-chieh-pen. 摩訶僧祇比丘尼戒本、比丘尼僧祇律波羅提木叉戒經、比丘尼波羅提木叉戒本、比丘尼波羅提木叉僧祇戒本、僧祇尼戒本、十誦比丘尼大戒、十誦律比丘尼戒本 ❷一卷 ❸存、大正二三・四七九No. 1437、館張七、卍一九・八、北904外、南915外、元914外、明北1153外、清1155外、服906隨、天905外、指867隨、法894隨、至1218雕、明南1262外、N. 1161 ❹東晉法顯(—陳安三—義熙一二A. D. 399—412—)集出 ❻十誦比丘尼波羅提木叉戒本の下を見よ。

比丘尼波羅提木又 ❶(日)Bi-ku-ni-ha-ra-dai-moku-sha. (支)Pi-chiu-po-lo-ti-mu-ch'a. ❷一卷 ❸缺 ❹失譯 ❼(參考) 法經錄第五、仁壽錄第五、靜泰錄第五

比丘尼現變經 ❶(日)Bi-ku-ni-gen-pen-kyō. (支) Pi-chiu-ni-hsien-pien-ching. ❷一卷 ❹失譯 ❼(參考) 出三藏記第四

比丘尼惡名欲自殺經 ❶(日) Bi-ku-ni-hi-myō-aku-myō-yoku-ji-satsu-kyō. (支) Pi-chiu-pei-mo-e-ming-yü-tzu-sha-ching. ❷一卷 ❸存、大正一四・七七一No. 503、館宿八、卍一五・一、北8383帙、南897帙、元892帙、明北721率、清721率、服893寬、天884帙、指830寬、法871寬、至1118和、明南767宮、N. 725 ❹法炬譯 ❺西晉惠帝代(A. D. 290—306)

❻一比丘あり、長者の婦女と姦淫して惡名聲を得、それを避けんとして林中に於て自殺せんとすると云ふ本經の發端よりこの經名ありのであらう。自殺して罪を逃れんとする比丘の前に現れたのは正住天神である。天神は偈を說いて自殺の不可なるを聽

比丘尼惡名欲自殺經 ❶(日) Bi-ku-ni-hi-myō-aku-myō-yoku-ji-satsu-kyō. (支) Pi-chiu-pei-mo-e-ming-yü-tzu-sha-ching. ❷一卷 ❸存、大正一四・七七一No. 503、館宿八、卍一五・一、北8383帙、南897帙、元892帙、明北721率、清721率、服893寬、天884帙、指830寬、法871寬、至1118和、明南767宮、N. 725 ❹法炬譯 ❺西晉惠帝代(A. D. 290—306)

❻一比丘あり、長者の婦女と姦淫して惡名聲を得、それを避けんとして林中に於て自殺せんとすると云ふ本經の發端よりこの經名ありのであらう。自殺して罪を逃れんとする比丘の前に現れたのは正住天神である。天神は偈を說いて自殺の不可なるを聽

名所行從 ◎(名車書)表紙所現 ◎月年の刊號 ◎(書考參書解註)書文 ◎說解官內 ◎代年作著 ◎著者 ◎缺存 ◎數卷 ◎(名書)名題 ◎號略字數

し、比丘も開悟して羅漢果を得るのである。佛教が自殺に對する批評をなしたもので、自殺に由つて逃避するは出家の法ではない。他人の語には由らず、自ら行ずべきを行ぜよと云ふ等、甚だ近代味を有する教である。

❷(參考) 三寶紀第六、內典錄第二、譯經圖紀第二、開元錄第二、貞元錄第四 (三好廣雄)

比丘法相經 ❶(日) Bi-ku-hoa-sō-kyō. (支) Pi-chiu-fa-hsiang-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹失譯 ❼(參考) 出三藏記第四、開元錄第五、第一五、貞元錄第八、第二五

比丘法藏見地獄變經 ❶(日) Bi-ku-hō-zō-ken-ji-gyoku-hen-gyō. (支) Pi-chiu-fa-tsang-chien-ti-yü pien-ching. ❷一卷 ❸疑僞經。 ❼(參考) 法經錄第四、仁壽錄第四、靜泰錄第四、內典錄第一〇、武周錄第一五、開元錄第一八、貞元錄第二八

比丘問佛何故捨世學道經 ❶(日) Bi-ku-mom-butsu-gu-ko-sha-se-gaku-do-kyō. (支)Pi-chiu-wen-fo-ho-ku-she-shih-hsüeh-tao-ching. ❷一卷 ❹失譯 ❻出曜經第二卷の抄出。 ❼(參考) 出三藏記第四、法經錄第五、仁壽錄第三、靜泰錄第三、開元錄第一六、貞元錄第二六

比丘問佛釋提桓因因緣經 ❶(日) Bi-ku-mom-butsu-shaku-dai-kwan-in-in-en-gyō. (支)Pi-chiu-wen-fo-shih-ti-huan-yin-yin-yuan-ching. ❷一卷 ❹失譯 ❻雜阿含經第四十卷の抄出。 ❼(參考) 出三藏記第四、法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一六、貞元錄第二六

比丘問佛多優婆塞命終經 ❶(日) Bi-ku-mom-butsu-ta-u-ba-soku-myō-jū-kyō. (支)Pi-chiu-wen-fo-to-yu-p'o-sai-ming-chung-ching. ❷一卷 ❹失譯 ❻雜阿含經第二十卷の抄出。 ❼(參考) 出三藏記第四、開元錄第一六、第一七、貞元錄第二六

比丘浴遇天子放光經 ❶(日) Bi-ku-yoku-gu-ten-shi-hō-kō-gyō. (支) Pi-chiu-yü-yü-t'ien-tzü-fang-kuang-ching. ❷一卷 ❹失譯 ❻雜阿含經第三十八卷の抄出。 ❼(參考) 出三藏記第四、法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一六、貞元錄第二六

比丘六物圖私記 ❶(日)Bi-ku-rokku-motsu-zu-shi-ki. 佛制比丘六物圖私記 ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第七四服具叢書第二 ❹伯鉢抄、佛制比丘六物圖鈔 ❷三卷 ❸存、大日本佛教全書第七四服具叢書第二 ❹伯鉢抄、佛制比丘六物圖の注釋。題下に「慶長五年庚子二月、於飯高法輪軒下、沙門日遠誌」とあり。著し著者廿八歳の時、請招により下總飯高談林にて講說を始めた。本書はその翌年の講義であらう。(大野法道)

比丘六物圖私抄 ❶(日)Bi-ku-rokku-motsu-zu-shi-shō. 佛制比丘六物圖私抄、佛制比丘六物圖鈔 ❷三卷 ❸存、大日本佛教全書第七四服具叢書第二 ❹伯鉢抄、佛制比丘六物圖の注釋。題下に「慶長五年庚子二月、於飯高法輪軒下、沙門日遠誌」とあり。著し著者廿八歳の時、請招により下總飯高談林にて講說を始めた。本書はその翌年の講義であらう。(大野法道)

❻元和の佛制比丘六物圖を注釋したもの。六物圖製作の意圖について、「自ら元衣鉢率、大部盡、サレドモ其後心人付テコソ明ムベケレ。初心人難シ解故、今爲ニ初心人」顯也。又形同沙彌、法同沙彌時ヨリ、三衣染衣袈裟ヲ著シ鉢ヲ持スル故、最初ヨリ衣鉢ハ沙彌ニ肝要ナレバ別制シ之也。(中略)西ノ道理ハ此初學ノ爲メ也。傍ラニハ靈芝時分、衣鉢妄造故、爲ニ制ス之、今書造也」といふ。書中、石田抄、或抄なるものを引く。「石云」とあるは石田抄である。

巻末に著者の後記ありて、京都の僧衆一兩輩、並に場衆の所望に依り、六物圖講說の次に講抄を拔集す等といふ。又慶長十六年南都傳香寺にて開珍(—A. D. 1625)に此書を講じた時寫傳し、奥書がある。

❺慶安四刊 ❾(正大・一一八九・二二二・六二) (大野法道)

比丘和須蜜經 ❶(日)Bi-ku-wa-su-mitsu-kyō. (支)Pi-chiu-ho-mi-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹失譯 ❼(參考) 出三藏記第四、武周錄第一二、開元錄第五、第一五、貞元錄第八、第二五

比方世利經 ❶(日)Bi-hō-se-ri-kyō. (支)Pi-fang-shih-li-ching. 北方世利經 ❷一卷 ❻出曜經第八卷の抄出。 ❼(參考) 法經錄第五、仁壽錄第三、靜泰錄第三、貞元錄第二六

尾州異安心御調理 ❶(日) Bi-shū-i-an-jin-go-chō-ri. ❷一卷 ❸存 ❾寫本(龍大)

尾州裏方騷き一件 ❶(日) Bi-shū-ura-kata-sawa-gi-ichi-ken. ❸存 ❾寫本(龍大、別當)

尾州應夢山定光禪寺開山勅諡覺源禪師平心處齋和尚年譜略 ❶(日)Bi-shū-ō-mo-san-jō-kō-zen-ji-kai-san-choku-shi-kaku-gen-zen-ji-hei-shin-sho-sai-o-shō-nen-pu-ryaku. 覺源禪師年譜略、覺源禪師平心處齋和尚年譜略 ❷一卷 ❸存、續群書類從第九 ❻覺源禪師年譜略の下を見よ。

尾州疑念同行訴狀寫 ❶(日) Bi-shū-gi-nen-dō-gyō-so-jō-utsushi. ❷一卷 ❸存 ❾寫本(谷大・宗大・三一四一)

尾州五僧安心糺理 ❶(日)Bi-shū-go-sō-an-jin-kyū-ri. ❷八卷 ❸存 ❾寫本(谷大・宗大・六一)

尾倜耶集 ❶(日) Bi-ni-ya-shū. ❷十二卷 ❸存 ❹最澄遺 ❾寫本(京大・印哲Q・二五)

尾陽往生傳 ❶(日)Bi-yō-ō-jō-den. ❷三卷 ❸存 ❹行阿遺 ❺明治元刊 ❾(谷大・宗大・一五二三)(正大・一〇三六・五三—五四)(京大・一・二一ヒ・二一)

尾陽御城下寺社案內 ❶(日)Bi-yō-go-jō-ka-ji-sha-an-nai. ❷七卷 ❸存 ❾寫本(谷大、餘大・一二八七)

尾陽寺院記 ❶(日)Bi-yō-ji-in-ki. ❷一卷 ❸存 ❺元文二寫 ❾(帝國・二一一・三七一)

尾陽寺社志 ❶(日) Bi-yō-ji-sha-shi. ❷一卷 ❸存 ❾寫本(谷大、外小・六

○)

眉用老人內集 ❶(日) Bi-yō-rō-jin-nai-shū. ❷二卷 ❸存 ❹大龍香國語、元陳編 ❼(參考) 禪籍目錄

毘俱胝一百八名經 ❶(日) Bi-ku-chi-ichi-pyaku-hachi-myō-kyō. (支)Pi-chü-chih-i-pai-pa-ming-ching. 毘俱胝菩薩一百八名經 ❷一卷 ❸存、大正二〇・五〇一 No. 1114、鎌成八、卍一五・三、北1130軸、南1152軸、元1145軸、明北814則、清814則、麗1144經、天1132軸、法1262高、至713涅、明南813則 No. 817 ❹法天譯 ❻宋開寶六以後(A. D. 973—) ❼毘俱胝菩薩一百八名經の下を見よ。

毘俱胝觀音 ❶(日)Bi-ku-chi-kwan-on. ❷一帖 ❸存 ❹寂尊(建仁元—正應三A. D. 1201—1290)記 ❾(德川時代寫 ❾(寶龜院)

毘俱胝觀音念誦次第 ❶(日) Bi-ku-chi-kwann-on-nen-ju-shi-dai. ❸存 ❾寫本(寶龜院)

毘俱胝菩薩一百八名經 ❶(日) Bi-ku-chi-bo-satsu-ip-pyaku-hachi-myō-kyō. (支) Pi-chü-chih-p'u-sa-i-pai-pa-ming-ching. 毘俱胝一百八名經 ❷一卷 ❸存、大正二〇・五〇一 No. 1114、鎌成八、卍一五・三、北1130軸、南1152軸、元1146軸、明北814則、清814則、麗1144經、天1132軸、法1262高、至713涅、明南813則 No. 817 ❹法天譯 ❻宋開寶六(A. D. 973) ❼首に毘俱胝(Bhṛikuṭi) 菩薩一百八名秘密眞言を說き、次いでその功德を明して曰く、此の眞言を受持讀誦書寫解說する者は衆人に敬愛せられ、魔境座死を出離し、天龍夜叉等に常重讚嘆せられ、惡鬼禁繫自然に解脫し、惡緣重病に侵損されず、又毘俱胝の名を念ぜば菩薩恒時に救護し、菩薩の放てる光明は惡魔を殄し、天地を淸淨にし、彼の人の智慧を增長し、七生中に宿命通を得て國王に生じ、命終して西方極樂世界に往生すと。

❷(參考) 淨土依憑經論章疏目錄 (坪井德光)

毘俱胝法 ❶(日)Bi-ku-chi-hō. ❷一帖 ❸存 ❹南北朝時代寫 ❾(寶善提院)

毘盧耶記 ❶(日) Bi-ru-ya-ki. ❷一卷 ❸存 ❹道空(寛文六—寶曆元 A. D. 1665—1751) ❾自筆本(谷大、餘丙・三三)

毘沙門 ❶(日) Bi-sha-mon. ❷一帖 ❸存 ❾足利時代寫(寶善提院、德川時代寫 ❾(寶龜院)

毘沙門儀軌 ❶(日)Bi-sha-mon-gi-ki. (支) Pi-sha-mo-i-kuei. ❷一卷 ❸存、大正二一・二二七 No. 1249、鎌餘四、卍續一・三・三 ❹不空(神龜元—大曆九 A. D. 705—774)譯 ❻唐天寶五—大曆九(A. D. 745—774)

❻根本心、心中心、功德天、淨身、召請、供養、供養香華、發遣等の眞言及び作壇法を說くのみにて甚だ簡略なり。終に附記の文あり、卽ち唐天寶年中に於ける不空所現の毘沙門天王の靈驗記(宋高僧傳第一、大正五〇・七一四參照)、供養法、請召天王印言、心眞言、中天竺三藏婆羅門佳藤伽陀那譯呪、諸所願法、毘沙門天王使者印言、八大天王明等なり。是れ毘沙門天に關する雜錄といふべし。

毘沙門經纂釋 ❶(日) Bi-sha-mon-gyō-san-shaku. ❷一册 ❸存 ❾刊本(晋、お・八・左・三〇)

毘沙門護摩記 ❶(日) Bi-sha-mon-go-ma-ki. ❷一卷 ❸存 ❺安政四寫 ❾(谷大、餘大・三五五二)

毘沙門護摩私記 ❶(日) Bi-sha-mon-go-ma-shi-ki. ❷一帖 ❸存 ❺明治一五寫 ❾(寶龜院)

毘沙門講式 ❶(日) Bi-sha-mon-kō-shiki. 毘沙門天講式 ❷一卷 ❸存、弘法大師全集第一四(僞作部)

❻第一に護持の德を讚し、第二に招福の益を欣び、第三に法界に廻向するの三段に分けてある。これは空海が大安寺知事を務めて居た時に作つたものなどと稱して居るけれども、文辭の鄙猥なるにより僞作たること明かである。

❺寶永八寫 ❾(谷大、宗大・一五七三) (吉祥貴雄)

毘沙門私記 ❶(日)Bi-sha-mon-shi-ki. ❷一卷 ❸存 ❹皇慶(貞元二—永承四A. D. 977—1049)記 ❾(無動寺)

毘沙門始行抄 ❶(日)Bi-sha-mon-shi-gyō-shō. ❷一卷 ❸存 ❹慈守記 ❾(曼殊院)

毘沙門隨軍法 ❶(日)Bi-sha-mon-zui-gun-hō. (支)Pi-sha-mên-sui-chün-fa. 北方毘沙門天王隨軍護法儀軌、毘沙門天王隨軍護法儀軌 ❷一卷 ❸存、大正二一・二二四 No. 1247 鎌餘二、卍續一・三・二 ❹唐不空(神龜元—大曆九A. D. 705—774)譯

❻北方毘沙門天王隨軍護法儀軌の下を見よ。

毘沙門藏王陀羅尼法 ❶(日) Bi-sha-mon-zō-ō-da-ra-ni-hō. ❷一帖 ❸存 ❺元祿元寫 ❾(高大、帝・一・六四)

毘沙門天 ❶(日) Bi-sha-mon-ten. ❷一帖 ❸存 ❺嘉曆四寫 ❾(寶善提院)

毘沙門天王 ❶(日) Bi-sha-mon-ten-ō. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第四〇阿娑縛抄之內 ❹承澄(元久二—弘安五(A. D. 1205—1282)

毘沙門天王經 ❶(日) Bi-sha-mon-ten-ō-kyō. (支)Pi-sha-mên-t'ien-wang-ching. (梵)Vaiśravaṇa-deva-rāja (藏傳) 毘沙門天經 ❷一卷 ❸存、大正二一・二一五 No. 1244、鎌岡一四、卍一五・九、北1374感、南1378阿、元1367阿、明北969清、清969清、麗1333阿、天1358阿、法1307歲、至681日、明南1011不、三十帖策子第一七、N. 849 ❹不空(神龜元—大曆九 A. D. 705—774)譯 ❻唐天寶五—大曆九(A. D. 746—774)

❻毘沙門天王が佛の聽許を得て、未來の諸の有情等を利益し安樂ならしめ、財寶を豐饒にし、國界を護持せんが爲に、恰も眞多摩尼(Cintā-maṇi)の如く、能く衆の希願を滿足せしむる心眞言を先づ說き、已つて其の受持法として、安悉香・白檀香・龍腦香・多摩羅香・薰陸香・蘇合香等を和合して、之を

名所行脚 ●書名(名寺)所在地 ●月年の刊寫 ●代年作著 ●著者 ●秘存 ●數卷 ●(名書)名題 ●內容解說(書考參書解說)書誌 ●數字號

毘沙門天王に供養す。若し迎請する時には、根本印を結び、眞言を誦ずること七徧して、頂上に印を散じ、常に間斷なく念誦すれば、毘沙門天王の子鼓彌姿は、童子の形を現し、持誦者に告げて言ふには、汝は何事あつて我が父を請召するやと。持誦者即ち三寶に供養せんが爲に、財寶を授與せられよと乞ふや、童子鼓彌姿は、須臾の頃、毘沙門天王の所に證り、父王に持誦者が、三寶に供養せんが爲に、又有情を利益せんが爲に、財寶を求めて居る由を告ぐ。毘沙門天王即ち童子をして、日々金錢一百を送らしめるばかりでなく、行者は淨信・戒・聞・捨・受・慧・形貌・力・辯・色・犀香味觸富貴自在等の十種の福利を悉く皆獲得し、更に進んで佛法の中に於て法眼を開き、聖果を證得し、甘露の妙法を獲得し、亦三十七菩提分法をも得る旨を明し、次に白月八日及び十五日に於て、衆人をして、曼荼羅の中心には說法の相を作せる釋迦牟尼佛を畫かしめ、其の右邊には首に天冠を戴き、右手は施願に作し、左手は開敷蓮華を執れる吉祥天女を畫かしめ、次に淸淨の處に於て、燈香・華鬘・燒香・飲食・燈明を以て、此の曼荼羅に供養し、決定心を以て、如法に吉祥天女の眞言を念誦すれば、毘沙門天王は童子の形或は居士の形を現じ、右手に如意寶、左手に金錢を持して、行者の所願を悉く能く成就せしむることを示し、最後に護身明と根本印と吉祥天女身印と毘沙門天王呪とが說いてある。本儀軌は空海(A.D. 774—835)・圓仁(A.D. 794—864)・宗叡(A.D. 809—884)・圓珍(A.D. 814—891)の四師に依つて、請來されたことに成つて居る。

⑦(參考) 貞元錄第一五 ⑨刊本(高大、寄・一・三一)

毘沙門天王經 ❶(日) Bi-sha-mon-ten-o-gyō. (支)Pi-shi-mên-t'ien-wang-ching. (梵) Vaiśravaṇa-sūtra (藏) (藏) mdo chen-po kun-tu-rgyu-ba-dań ldan-ste-rgya-ba-ma-yin-pa-dań mthun-pa-ni mdo shes-bya-ba 毘沙門天經 ❷一卷 ❸存、大正二一・二一七 No. 1245、館成一二、卍一五・四、北1181千、南1194千、元1338千、明北344鑑、清344鑑、龍1193封、天1136千、法11.7機、至714錄、明南931臨、Ni 974 ❹法天譯 ❺宋開寶六以後(A.D. 973—)

⑥佛が舍衞國の祇樹給孤獨園に居られた時、毘沙門天王が百千無數の藥叉眷屬と共に、初夜分に於て佛所に來り、大光明を放つて祇陀園を照し、五體を地に投じて世尊の足を禮し、一面に住立して合掌し、偈を以て佛を讚歎したる後、會中の藥叉衆の請に應じ、佛の威神を承けて、若し能く受持讀誦し、禮敬し供養すれば、諸の惡藥叉及び非人の類、行人を惱亂することなく、却つて彼等をして常に衞護せしむる大威力を有する經典を說いたもので、初に先づ右の因緣を明し、次に東方世界には乾闥婆(Gandharva)主あつて、名を持國と曰ひ、南方世界には鳩槃茶(Kumbhāṇḍa)主あつて、名を尾嚕茶迦(Virūḍhaka)と曰ひ、西方世界には大龍主あつて、名を尾嚕博叉(Virūpākṣa)と曰ひ、北方世界には藥叉主あつて、俱吠羅(Vaiśravaṇa)と名け、俱に大威德を具へて、身より光明を放ち、各々同じく帝釋と名くる九十一子あつて、四大洲を守護する旨を說き、次に毘沙門天王は佛の慈力を承けて、先づ一眞言を宣べ、已下願を造うて乾闥婆衆・閉合左(Pihiṇa)・大龍衆・鳩槃茶衆・必隸多(Pūtana)・藥叉大將・羅刹(Rākṣasa)衆と次第して、夫々相應の眞言一首宛を出し、若し憂聞・比丘・比丘尼・優婆塞・優婆夷が有つて此の經中に於て受持し讀誦し、禮敬し供養して、廣く人の爲に說けば、彼の衆及び父母・兄弟・男女・眷屬等、皆害を爲すことなく、常に來つて親近し、能く衞護の任を果す、若し惱害することあれば、威力を失つて、各々の三昧を得ざるのみでなく、一たび其の眞言を聞かば、恰も阿梨樹枝の如く、頭破れて七分と作り、遂に北方の樂土、阿摩迦羅帝大城に往くことが出來ないと爲し、何れも同一の樣式と同一の字句を以て列記し、最後に釋迦牟尼佛が、此の經には已上の如き大威力があると印可し給ふや、毘沙門天王は又初出の偈を說いて佛を讚歎したる後、會中の比丘衆に對して、受持し廣宣し流布せんことを希望することに成つてある。

本經は古來、不空譯の毘沙門天王經と同本異譯であると見做されて居るけれども、同類の經典ではあるが、決して梵本を同じうするものではない。

⑨刊本(高大、寄・一・三一)寫本(寶善提院)(神林隆淨)

毘沙門天王經 ❶(日) Bi-sha-mon-ten-o-gyō. (支)Pi-shi-mên-t'ien-wang-ching. 毘沙門天王經 ❷一卷 ❸缺 ❹失譯 ❺(參考) 出三藏記第四、武周錄第一二、開元錄第五、第一五、貞元錄第八、第二五

毘沙門天王經 ❶(日) Bi-sha-mon-ten-o-gyō. 國譯毘沙門天王經 ❸存、岡譯密教經軌部第一 ❹岡田製昌譯

毘沙門天王經纂釋 ❶(日) Bi-sha-mon-ten-o-gyō-san-shaku. ❷一卷 ❸存 ❹大雲撰 ❺寶曆一〇刊 ⑨(龍大、二四一七・一九一)(京大、日大來・九七)

毘沙門天講式 ❶(日) Bi-sha-mon-ten-ko-shiki. ❷一卷 ❸存、興敎大師全集、密敎諸祕釋第二 ❹覺鑁(嘉保二—康治二 A.D. 1095—1143)

⑥興敎大師三十八歲の時信貴山の毘沙門天より如意寶珠を授けられ、其の法施に此の講式を作られたりと傳ふる五段式なり。初に慈禮、次に第一三寶に歸依して菩薩心を求め、第二罪障を懺悔して身口意を淨め、第三福壽を增長して佛法を興さんことを願ひ、第四に金光明經を誦じて法施となし、第五に淨土を願求して一切に回向して、毘沙門天の功德を廣說せらる。但し、此の講式に二本あり、壹本は第四段は實慶印經を誦じて法施とすとなし、自ら前後に廣略あり。

⑦(參考) 諸宗章疏錄第三 ⑨寫本(龍大、二〇三・五六)(當田榮純)

毘沙門天王講式略注 ❶(日) Bi-

sha-mon-ten-o ko-shiki-ryaku-chū. ❷一卷 ❸存 ❹覺鑁述 ❺寶永元刊 ⑨(高大、寄・一・五七)

毘沙門天王講式略註 ❶(日) Bi-sha-mon-ten-o-ko-shiki-ryaku-chū. ❷一卷 ❸存 ❹亮法(元和八—延寶八 A.D. 1622—1680)述 ⑦(參考) 大日本佛敎全書續刊豫定書目

毘沙門天王隨軍護法儀軌 ❶(日) Bi-sha-mon-ten-o-zui-gun-gō-hō-gi-ki. (支)Pi-sha-mên-t'ien-wang-sui-chün-hu-fa-i-kuei. 北方毘沙門天王隨軍護法儀軌、毘沙門隨軍法 ❷一卷 ❸存、大正二一・二二四No. 1247、館餘二、卍續一・三・二 ❹唐不空(神龍元—大曆九 A.D. 705—774) 譯 ⑥北方毘沙門天王隨軍護法儀軌の下を見よ。

毘沙門天王隨軍護法眞言 ❶(日) Bi-sha-mon-ten-o-zui-gun-go-shin-gon. (支)Pi-sha-mên-t'ien-wang-sui-chün-hu-fa-chên-yen. 北方毘沙門天王隨軍護法眞言 ❷一卷 ❸存、大正二一・二二五 No. 1248、館餘四、卍續一・三・三 ❹唐不空(神龍元—大曆九 A.D. 705—774) 譯 ⑥北方毘沙門天王隨軍護法眞言の下を見よ。

毘沙門天王二十八使者圖像 ❶(日) Bi-sha-mon-ten-o-ni-jū-hachi-shi-sha-zu-zō. ❷一卷 ❸存、大正圖像第七

⑥二十八使者の圖像を畫き、名號と使者名と身色衣色を註記したるのみである。奥書に曰く、

安永七年冬十二月十五日以釋迦院宗肇之持本寫之、其源本者南都新禪院之本也、而尋號有蒋失形像不精密不審往々也、後時正之　求法沙門權僧正高運

安永八年六月內山上乘院圓持來寫之　前大僧正宥證

⑨寫本(仁和寺)(吉祥寶雄)

毘沙門天王念誦供養法 ❶(日) Bi-sha-mon-ten-o-nen-jū-ku-yō-hō. ❷一卷 ❸存 ❹亮範(寛文一〇—元文四 A.D. 1670—1739)記 ⑨寫本(八十妙院)

毘沙門天王祕實藏並靈驗記 ❶(日) Bi-sha-mon-ten-o-hi-hō-gō-narabini-reigen-ki. ❷五卷 ❸存 ❹明和八刊 ⑨(龍大、二六六五・四四)

毘沙門天王祕密藏王呪經 ❶(日) Bi-sha-mon-ten-o-hi-mitsu-zō-ō-jū-kyō. (支)Pi-sha-mên-t'ien-wang-pi-mi-tsang-t'ien-wang-chou-ching. ❷二卷 ❸存、祕密儀軌集第二 ❹惠淸譯

⑥本經は救脫菩薩の發した毘沙門天王護世者の因緣に就いての問ひによつて、天王祕密藏王呪を敎說せられた經である。即ち佛はこの天王の慈悲弘誓を讚へ、對告者たる救脫菩薩等に天王の所說を修せよと敎へられてゐるが、天王は既に此の薄伽梵の北方鬱檀林宅中に於ける會中に在るのであつて、佛に五十勝果の功德を滿足せしめるために大心呪祕密陀羅尼即ち祕密王呪を說くと奉願し、その大心呪を誦する者の福利に就いて佛の敎說を仰いでゐる。即ち佛は此呪を十萬遍誦することに因つて五十五の勝利を獲得する事、或ひはその誦數、功德、天王の現前衞護の驗力等に就いて詳述せられてゐる。

⑨寫本(谷大、餘大・三七六九)(龍根靜應)

毘沙門天王別行儀軌 ❶(日) Bi-sha-mon-ten-o-betsu-gyō-gi-ki. (支)Pi-sha-mên-t'ien-wang-pieh-hsing-i-kuei. 北方毘沙門多聞寶藏天王神妙陀羅尼別行儀軌、毘沙門別行儀軌 ❷一卷 ❸存、大正二一・二三〇No. 1250、卍續一・三・五 ❹唐不空(神龍元—大曆九 A.D. 705—774) 譯 ⑥北方毘沙門多聞法藏天王神妙陀羅尼別行儀軌の下を見よ。 ❺安永七刊 ⑨(龍大、二一八・三四)(京等)(高大、寄・一・三一)

毘沙門天王別行法 ❶(日) Bi-sha-mon-ten-o-betsu-gyō-hō. ❷一帖 ❸存 ⑨寫本(高大、寄・一・六六)

毘沙門天王曼荼羅私記 ❶(日) Bi-sha-mon-ten-o-man-da-ra-shi-ki. ❷一卷 ❸存、大正圖像第七 ❹金剛秀

⑥毘沙門天王經・金光明經等を引いて毘沙門天の曼荼羅を說明したものである。然し本書の主要なる點は經軌の典據を見出し難く著者の私案と思はれる點が多い。科段は第一に名を釋し、第二に體を釋し、第三宗要、第四力用、第五敎法、此の下で因緣、約敎、本迹、觀心の四に分けて釋する。次に作壇法を說く中に壇上の莊嚴として、四瓶、箭四隻、刀四口、鏡四面、幡十六口、燈位、鈴鐵等の七種、供物に十四種あることを說く。次に四重の尊位は中台に毘沙門天、第二重に七尊と九具、七尊とは吉祥天、訶利帝母、五王子である。第三重は四大天王と八兄弟、第四重には二十八使者と四大鬼神とをおく。次に科簡の一科を設けて中台に毘沙門唯獨一身を居する所以、毘沙門は帝釋の外大臣なるに天王と名くる所以、第二重に二天女を置く所以等を問答して釋してある。

本書と同卷中に毘沙門天王要抄一卷を收載してある。內容は本書と大同少異である。

⑤承德三寫 ⑨(東寺觀智院)(吉祥寶雄)

毘沙門天王要抄 ❶(日) Bi-sha-mon-ten-o-yō-shō. ❷一卷 ❸存、大正圖像第七

⑥毘沙門天王曼荼羅私記と同卷中に收載せられてあり、內容も前者と大同少異であるが、廣略出沒がある。第一名號の下で梵名、漢名、開名得益を明し、第二形體の下で體長、色相、壽命、眷相、手塔、造像、住城を明し、第三宗要の下で因誓願と果誓願に分ち、因誓願には過去世の兄妹四男一女の緣を說き、果誓願には天王守護に七誓あり、眷屬守護に五あり、その五とは大吉祥天、王子、兄弟、廿八使者、諸雜眷屬である。第四力用、第五敎行を明す、敎に因緣、約敎、本迹、觀心を說き、行に慈悲行、弘誓行を說明してある。

⑤承德三寫 ⑨(東寺觀智院)(吉祥寶雄)

毘沙門天開帳日記 ❶(日) Bi-sha-mon-ten-kai-chō-nik-ki. ❷一卷 ❸存 ⑤享保三寫 ⑨(帝室、一二一・二五)

毘沙門天王經 ❶(日) Bi-sha-mon-ten

-gyō. (支)Pi-sha-mēn-tien-ching. 毘沙門天王經 ❷一卷 ❸存、大正二一・二一五No. 1244 館開一四、卍一五・九、北1374鳥、南1378阿、元1367阿、明北969清、清969清、麗1333阿、天1358阿、法1307虞、至631日、明南1011不、三十帖策子第一七Nj. 849. ❹唐不空(神龍元—大曆九A. D. 705—774)譯 ❺毘沙門天王經の下を見よ。

毘沙門天經 ❶(日)Bi-sha-mon-ten-gyō. (支)Pi-sha-mēn-tien-ching. 毘沙門天王經 ❷一卷 ❸存、大正二一・二一七No. 1245、館成一二、卍一五・四、北1181千、南1194千、元1187千、明北944盡、清944盡、麗1193封、天1180千、法1117槐、至714梁、明南951臨、Nj. 974 ❹法天譯 ❺開寶六以後(A. D. 973—) ❻毘沙門天王經の下を見よ。

毘沙門天講式 ❶(日) Bi-sha-mon-ten-kō-shiki. �毘沙門講式 ❷一卷 ❸存、弘法大師全集第一四(僞作部) ❹毘沙門講式の下を見よ。 ❺嘉永四寫 ❻(金剛三昧院)

毘沙門天講式 ❶(日) Bi-sha-mon-ten-kō-shiki. ❷一卷 ❸存 ❹最澄(神護景雲元—弘仁一三 A. D. 767—822)撰 ❼(參考) 大日本佛教全書續刊豫定書目

毘沙門天像 ❶(日)Bi-sha-mon-ten-zō. ❷一幅 ❸存、大正圖像第七 ❹(醍醐寺)(仁和寺)

毘沙門天祕法 ❶(日) Bi-sha-mon-ten-hi-hō. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(谷大、餘小・六〇)

毘沙門天法 ❶(日)Bi-sha-mon-ten-hō. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第五〇卷緋紗之內 ❹叡尊(康治二—建暦二以後A. D. 1143—1212—)

毘沙門天法 ❶(日)Bi-sha-mon-ten-hō. 毘沙門天法地藏院方 ❷一括 ❸存 ❹寫本(金剛三昧院)

毘沙門天靈驗記 ❶(日) Bi-sha-mon-ten-rei-gen-ki. ❷四帖 ❸存 ❺享保二刊 ❻(高大、答・一・五七)

毘沙門堂抄 ❶(日) Bi-sha-mon-dō-shō. ❼(參考) 本朝台組撰述密部書目

毘沙門堂雜々口決集 ❶(日) Bi-shō-mon-dō-zō-zō-ku-kessi-shū. ❷七卷 ❸存 ❹(蓮花院)

毘沙門八大藥叉八兄弟印眞言法 ❶(日)Bi-sha-mon-hachi-dai-yasha-hachi-kyō-dai-in-shin-gon-hō. 八兄弟十二神法 ❷一卷 ❸存 ❹寫本(京大、藏・一六ヤ・二)(寶壽院)

毘沙門祕次第 ❶(日)Bi-sha-mon-hi-shi-dai. ❷一帖 ❸存 ❺德川時代寫 ❻(寶龜院)

毘沙門別行儀軌 ❶(日) Bi-sha-mon-betsu-gyō-gi-ki. (支) Pi-sha-mēn-pieh-hsing-i-kuei. 北方毘沙門多聞寶藏天王神妙陀羅尼別行儀軌、毘沙門天王別行儀軌 ❷一卷 ❸存、大正二一・二三〇 No. 1250,卍續一・三・五 ❹唐不空(神龍元—大曆九A. D. 705—774)譯 ❺北方�毘沙門多聞寶藏天王神妙陀羅尼別行儀軌の下を見よ。 ❻平安朝時代寫 ❼(寶壽院)

毘沙門法 ❶(日) Bi-sha-mon-hō. ❷一軸 ❸存 ❺鎌倉時代寫 ❻(寶壽院)

毘沙門法 ❶(日) Bi-sha-mon-hō. ❷一卷 ❸存 ❹眞覺記 ❻(妙法院)

毘澤聞書 ❶(日) Bi-ze-kiki-gaki. ❷一卷 ❸存 ❹行光口

毘曇賢聖圖 ❶(日)Bi-don-ken-shō-zu. (支) Pi-t'an-hsien-sheng-t'u. ❷一卷 ❸缺 ❹宋仁岳(淳化三—治平元A. D. 992—1064) ❼(參考) 諸宗章疏錄第二

毘曇章 ❶(日) Bi-don-shō. (支)Pi-t'an-chang. 阿毘曇論義章、阿毘曇章 ❷五卷 ❸缺 ❹道基(—貞觀一一A. D. 637)述 ❼(參考) 奈良朝現在一切經疏目錄2381

毘曇成實同異章 ❶(日) Bi-don-jō-jitsu-dō-i-shō. ❷三卷 ❹凝然(仁治元—元亨元A. D. 1240—1321)撰集 ❼(參考) 諸宗章疏錄第二

毘曇法數文 ❶(日)Bi-don-hos-sū-mon. (支)Pi-t'an-fa-shu-wen. 阿毘曇法數文 ❷一卷 ❸缺 ❼(參考) 奈良朝現在一切經疏目錄2562

毘那夜迦誐那鉢底瑜伽悉地品祕要 ❶(日) Bi-na-ya-kya-ga-na-hachi-tei-yu-ga-shic-chi-hon-hi-yō. (支)Pi-na-yeh-chia-ê-na-po-ti-yu-chi-pieh-hsi-ti-p'in-pi-yao. 大聖歡喜天祕密法要、瑜伽悉地品祕要、誐那鉢底瑜伽祕要 ❷一卷 ❸存、大正二一・三二一 No. 1273,館餘四、卍續二・九・四 ❹唐含光記 ❺天寶六(A. D. 747)

❻此の歡喜天法は含光が、師の不空三藏から受けて略記したもので、初に毘那夜迦(Vinâyaka)・生歡喜心雙身・調伏他惡の三誓言と其の要義とを出し、次に三眞言相應の三印契を示し、次に像法として、象頭人身にして、左牙出で、右牙折れ、面少しく左に向き、其の鼻は外に向つて捲み、身赤黄色にして、左の上手には刀、次手には羂索、下手には輪、右の上手には棒、次手には棗、下手には牙を把れる所の六臂の尊像にして、此の像前に於て第一の大眞言を誦ずれば、所求皆成就し、又二天相抱いて立ち、雙に象頭人身にして、其の左天は天冠と赤裟裝とを著け、身白肉色にして、鼻牙短く、目も亦細く、右天は面目不惡にして、鼻長く目廣く、天冠及び福田衣を著せず、身赤黄色にして、唯黑色の衣を頭肩に纏ひ、面を前の女天の面に著けて、愛憎の相を作せる雙身像の前に於て第二の心呪を持誦すれば、善福増長し、邪惡は消滅するに至る。又次に二天相抱いて正立し、男天は面を女天の右肩に繫けて、女天の背を觀、女天も亦面を男天の右肩に繫けて、男天の背を觀る、二天共に法衣・天冠を著せざる二頭の像前に於て第三の心中心の呪を誦持すれば、一切の惡事皆悉く消滅すと說き、次に此の法を修する時には、大日及び觀音の二尊と、調伏尊たる軍荼利との三尊に、先づ歸敬すべきことを勸め、且つ不空三藏の言を引用して、是の三尊は謂ゆる三部の尊であつて、諸く行者の身・口・意の淨立を

除くから、必ず能守すべきであると强調し、次で毘盧遮那五字眞言と、觀世音十一面毘俱胝諸佛所說眞言と、軍荼利菩薩除障祕眞言とを列記し、次に如上の微妙の祕義は、若し無智と不信と惡人と不守口人等の非器の人に妄に傳授し、或は是等の人の前に於て悉に宣傳すれば、必ず罪を受けるから、誓つて梵夾中に祕藏すべきであると說いて、末代の弟子を戒め、最後に一滴酒成萬斛呪と大自在天呪との二呪を附記してある。

(神林隆淨)

毘那夜迦法 ❶(日)Bi-na-ya-ka-hō. (支) Pi-na-yeh-chia-fa. 大聖天歡喜雙身毘那夜迦法、歡喜雙身毘奈夜迦法、雙身毘那夜迦法、大聖歡喜天經、大聖歡喜天法 ❷一卷 ❸存、大正二一・二九六No. 1265,館開一四、卍一六・一〇、明北1396杜、清1395杜、麗1404營、明南1194學、Nj. 1403 ❹不空(神龍元—大曆九A. D. 705—774)譯 ❺唐大寶五—大曆九(A. D. 746—774) ❻大聖天歡喜雙身毘那夜迦法の下を見よ。 ❼正治二寫 ❽(寶菩提院)

毘那夜迦瑜伽祕要 ❶(日)Bi-na-ya-ka-ya-ga-hi-yō (支)Pi-na-yeh-chia-ya-ch'ieh-mi-yao. 毘那夜迦誐那鉢底瑜伽悉地品祕要、大聖歡喜天祕密法要 ❷一卷 ❸存、大正二一・三二一No. 1273,館餘四、卍續二・九・四 ❹唐含光(—開元二九—永泰二A. D. 74—765—)記 ❺毘那夜迦誐那鉢底瑜伽悉地品祕要の下を見よ。 ❻寬喜二寫 ❽(谷大、餘甲・七九)

毘奈耶 ❶(日)Bi-na-ya (支) Pi-na-yeh. 根本說一切有部毘奈耶 ❷五十卷 ❸存、大正二四・六二七No. 1442、館張八—九、卍一八・二—三、北903衆至詠、南939衆至詠、元934衆至詠、明北1113寬至仕、清1113寬至仕、麗938廿至益、天896衆至詠、指954廿至益、法983廿至益、至1399兄至連、明南1235陵至卑、Nj. 1118 ❹義淨(貞觀九—先天二A. D. 635—713)譯 ❺唐長安三(A. D. 701)或二(A. D. 702) ❻根本說一切有部毘奈耶の下を見よ。

毘奈耶安居事 ❶(日) Bi-na-ya-an-go-ji. (支)Pi-na-yeh-an-chu-shih. 根本說一切有部毘奈耶安居事 ❷二卷 ❸存、大正二四・一〇四一 No. 1445、館寒四、卍續一・二・一、麗1418綺、至1265眞 ❹義淨(貞觀九—先天二A. D. 635—713)譯 ❺唐久視元—景雲二(A. D. 700—711) ❻根本說一切有部毘奈耶安居事の下を見よ。

毘奈耶經 ❶(日)Bi-na-ya-kyō. (支) Pi-na-yeh-ching. 毘那耶律藏經 ❷一卷 ❸存、大正二一八・七七三No. 893、館回四、卍續一・二・四 ❺唐代(—永貞元A. D. 805)失譯

毘奈耶羯恥那衣事 ❶(日) Bi-na-ya-kac-chi-na-i-ji. (支)Pi-na-yeh-chieh-na-i-shih. 根本說一切有部毘奈耶羯恥那衣事 ❷一卷 ❸存、大正二四・九七No. 1449、館寒四、卍續一・二・一、麗1421綺、至1267眞 ❹義淨(貞觀九—先天二A. D. 635—713)譯 ❺唐久視元—景雲二(A. D. 700—711) ❻根本說一切有部毘奈耶羯恥那衣事の下を見よ。

毘奈耶雜事 ❶(日) Bi-na-ya-zō-ji. (支)Pi-na-yeh-tsa-shih. 根本說一切有部毘奈耶雜事 ❷五十卷 ❸存、大正二四・六二七No. 1442、館張八—九、卍一八・二—三、北903衆至詠、南939衆至詠、元934衆至詠、明北1113寬至仕、清1113寬至仕、麗938廿至益、天896衆至詠、指954廿至益、法983廿至益、至1399兄至連、明南1235陵至卑、Nj. 1118 ❹義淨(貞觀九—先天二A. D. 635—713)譯 ❺唐長安三(A. D. 701)或二(A. D. 702) ❻根本說一切有部毘奈耶の下を見よ。

毘奈耶安居事 ❶(日) Bi-na-ya-an-go-ji. (支)Pi-na-yeh-an-chu-shih. 根本說一切有部毘奈耶安居事 ❷二卷 ❸存、大正二四・一〇四一 No. 1445、館寒四、卍續一・二・一、麗1418綺、至1265眞 ❹義淨(貞觀九—先天二A. D. 635—713)譯 ❺唐久視元—景雲二(A. D. 700—711) ❻根本說一切有部毘奈耶安居事の下を見よ。

毘奈耶經 ❶(日)Bi-na-ya-kyō. (支) Pi-na-yeh-ching. 毘那耶律藏經 ❷一卷 ❸存、大正二一八・七七三No. 893、館回四、卍續一・二・四 ❺唐代(—永貞元A. D. 805)失譯

❻本經は唐代失譯、請來は傳教大師將來越州錄及弘法大師御請來目錄に各毘那耶經一卷とあり、天台宗圓仁の入唐新求聖教目錄には毘那耶律藏經一卷とある。傳教大師の目錄に毘那耶を毘奈耶とするが、三者いづれも同本異名であつて別譯ではないらしい。內容類似の經典は蘇悉地羯囉經三卷、唐輪波迦羅譯、蘇婆呼童子請問經三卷、唐善無畏譯、補闕經三卷、唐不空譯等があり、いづれも密教修法成就の作法を說けるものである。

毘奈耶の意味は諸儀軌察承錄第一には六根を調伏して惡を作さしめず、行事を護んで放逸ならず之を毘奈耶と云ふとある。然る時に毘奈耶は律で顯教に云ふ律と異ることなし、然し本經は中に祕密の印明あり祕密修法上の律なるが故に顯教に云ふ毘奈耶とは內容に於て同一にならず。

本經は王舍城鷲峯山に於て佛と執金剛との對話の形により始まつてゐる。先づ執金剛呪法を誦してその功德を得んと欲する者は精進、發露懺悔し發願すべきを說き、次で功德獲得成否の夢相判斷を示し、成就を願ふ者の應行の法及び應住の地、日々の勤行、觀法、眞言の誦法を說き、佛は此等に囑し、各認許を與へられてゐる。又執金剛本尊供養の次第を說く、卽ち塗身を洗浴し、心を散亂せしめず、五體投地以て本尊を頂禮し、四方結界をなし、本尊勸請、燒香供養、澄水、散念誦以て本尊を供養思念し、たとひ座を立つと雖も一心に呪を誦して心を散亂せしめず、かくせば惡魔障礙することなく所願成就するを得んと。時に觀自在菩薩身命を愛護し法驗を成就せんと欲する者の應行の諸法を說き、三寶の常住實相であり、有爲の無常、苦空無我なるを念じ、大乘妙典の轉讀、塔像造立供養等を示してゐる。

次に梵天出で微妙祕密の法に順行せず修行を修して苦惱せる人の相を說き、此等の濟度を佛に乞ふ。佛爲に說き給ふ。かゝる人は微妙祕密の法、呪法、壇法を明解せざるによる者である。故に金剛雷迅、羽吒橫羅等の毘那夜迦卽ち惡魔ありこれにより種々の障碍をなし、種々の苦惱を現前するのである。此等は凡て祕法に對して明解なく、時節を知らず、修法如法ならず、又福田を欲し供養せず、輕慢にして正法を誹謗する等によるものとし、各此等に就いて治法を說き給ふ。

時に堅牢地神出で身心護淨、經行、行不行の法、誦時等を佛に問ふ。佛時に身口意及び水食の四淨行を說き、次で四淨行を修する次第を示し以て本尊供養の次第を說き給ふ。卽ち地神夢想による法驗善惡判斷の相を問ふに佛は善惡の種々相を示し進んでその治法を示し最後に作壇の法を說き給ふ。

以上本經の概要であるが、要するに佛を中心として執金剛、觀自在菩薩、梵天、堅牢地神の對話の形式により一般祕密修法の要件及び作法を示せるものである。

❼(參考) 傳教大師將來越州錄、御請來目錄、入唐新求聖教目錄 (坪井德光)

毘奈耶經 ❶(B) Bi-na-ya-kyō. 國譯毘奈耶經 ❷一卷 ❸存、國譯密教經軌部第二 ❹塚本貫曉譯

毘奈耶經 ❶(B) Bi-na-ya-kyō. 國譯毘奈耶經 ❸存、國譯一切經密教部第一 ❹坪井德光譯

毘奈耶私抄 ❶(B) Bi-na-ya-shi-shō. ❷一卷 ❸存 ❹空慶編 ❺寫本(京大、印哲・R・一四)

毘奈耶頌 ❶(B) Bi-na-ya-ju. (支) Pi-na-yeh-sung. 根本說一切有部毘奈耶頌 ❷三卷或五卷 ❸存、大正二四・六一七 No. 1459、縮寒六、卍一九・七、北934奉、南943奉、元944奉、明北1138鱗、清1138鱗、麗933入、天938奉、指567入、法920入、至1248顧、明南1193比、Nj. 1143 ❹昆舍佉造、義淨(貞觀九—先天二 A. D. 633—713)譯 ❺唐登龍四(A. D. 710) ❻根本說一切有部毘奈耶頌の下を見よ。

毘奈耶出家事 ❶(B) Bi-na-ya-shuk-ke-ji. (支) Pi-na-yeh-ch'u-chia-shih. 根本說一切有部毘奈耶出家事 ❷四卷 ❸存、大正二三・一〇二〇 No. 1444、縮寒四、卍續一・二・一、麗1417綺、至1263眞 ❹義淨(貞觀九—先天二 A. D. 635—713)譯 ❺唐久視元—景雲二(A. D. 700—711) ❻根本說一切有部毘奈耶出家事の下を見よ。

毘奈耶隨意事 ❶(B) Bi-na-ya-sui-i-ji. (支) Pi-na-yeh-sui-i-shih. 根本說一切有部毘奈耶隨意事 ❷一卷 ❸存、大正二三・一〇四四 No. 1446、縮寒四、卍續一・二・一、麗1419綺、至1265眞 ❹義淨(貞觀九—先天二 A. D. 635—713)譯 ❺唐久視元—景雲二(A. D. 700—711) ❻根本說一切有部毘奈耶隨意事の下を見よ。

毘奈耶雜事 ❶(B) Bi-na-ya-zō-ji. (支) Pi-na-yeh-tsa-shih. 根本說一切有部毘奈耶雜事 ❷四十卷 ❸存、大正二四・二〇七 No. 1451、縮寒一—二、卍一八・七—八、北997貴至別、南911貴至別、元936貴至別、明北1116以至去、清1116以至去、麗900殊至禮、天900貴至別、指565殊至禮、法834殊至禮、至1211友至切、明南1257下至唱、Nj. 1121 ❹義淨(貞觀九—先天二 A. D. 635—713)譯 ❺唐登龍四(A. D. 710) ❻根本說一切有部毘奈耶雜事の下を見よ。

毘奈耶尼陀那目得迦攝頌 ❶(B) Bi-na-ya-ni-da-na-mo-toku-ka-shō-ju. (支) Pi-na-yeh-ni-t'o-na-ma-tê-chia-shê-sung. 根本說一切有部毘奈耶尼陀那目得迦攝頌、根本說一切有部尼陀目迦攝頌、根本說一切有部尼陀那目得迦攝頌 ❷一卷 ❸存、大正二四・五一七 No. 1456、縮寒五、卍一九・七、北936奉、南930奉、元945奉、明北1135唱、清1135唱、麗931入、天940奉、指569・890入、法919入、至1230顧、明南1287比、Nj. 1140 ❹義淨(貞觀九—先天二 A. D. 635—713)譯 ❺唐登龍四(A. D. 710) ❻根本說一切有部毘奈耶尼陀那目得迦攝頌の下を見よ。

毘奈耶破僧事 ❶(B) Bi-na-ya-ha-ji. (支) Pi-na-yeh-p'o-seng-shih. 根本說一切有部毘奈耶破僧事 ❷二十卷 ❸存、大正二四・九九 No. 1450、縮寒三、卍一八・一〇—一九・一、明北1118樂、清1118樂、麗1416扶、至1263蔡守、明南1304逐枝、Nj. 1123 ❹義淨(貞觀九—先天二 A. D. 635—713)譯 ❺唐久視元—景雲二(A. D. 700—711) ❻根本說一切有部毘奈耶破僧事の下を見よ。

毘奈耶皮革事 ❶(B) Bi-na-ya-hi-kaku-ji. (支) Pi-na-yeh-p'i-ko-shih. 根本說一切有部毘奈耶皮革事 ❷二卷 ❸存、大正二三・一〇四八 No. 1447、縮寒四、卍續一・二・一、麗1420綺、至1264眞 ❹義淨(貞觀九—先天二 A. D. 635—713)譯 ❺唐久視元—景雲二(A. D. 700—711) ❻根本說一切有部毘奈耶皮革事の下を見よ。

毘奈耶藥事 ❶(B) Bi-na-ya-yaku-ji. (支) Pi-na-yeh-yao-shih. 根本說一切有部毘奈耶藥事 ❷十八卷 ❸存、大正二四・一 No. 1448、縮寒四、卍續一・一・五、麗1415濟、至1261詩神 ❹義淨(貞觀九—先天二 A. D. 635—713)譯 ❺唐久視元—景雲二(A. D. 700—711) ❻根本說一切有部毘奈耶藥事の下を見よ。

毘尼關要 ❶(B) Bi-ni-kwan-yō. (支) Pi-ni-kuan-yao. ❷十六卷 ❸存、卍續一・六三・四—五 ❹德基輯 ❺清康熙戊辰二七(A. D. 1688) ❻佛陀耶舍譯四分比丘戒本を簡文解釋せるに過ぎざるものである。

❼寫眞版(京大、藏・四ヒ・一) (西本龍山)

毘尼關要事義 ❶(B) Bi-ni-kwan-yō-ji-gi. (支) Pi-ni-kuan-yao-shih-i. ❷一卷 ❸存、卍續一・六三・五 ❹清德基(一康熙二七 A. D. 1688)—)解

❺毘尼關要の字音義集なれば、彼書の附錄と見るべきものである。

❼寫眞版(京大、藏・四ヒ・一) (西本龍山)

毘尼決正論 ❶(B) Bi-ni-ketsu-shō-ron. (支) Pi-ni-chüe-chêng-lun. ❷一卷 ❸疑僞經。 ❼(參考) 內典錄第一〇、開元錄第一八、貞元錄第二八

毘尼作持續釋 ❶(B) Bi-ni-sa-ji-zoku-shaku. (支) Pi-ni-tso-chih-hsü-shih. 曇無德部四分律刪補隨機羯磨疏釋、四分律刪補疏釋 ❷十五卷 ❸存、卍續一・六五・一—二 ❹唐道宣(開皇一六—乾封二 A. D. 595—667)撰、讀體釋 ❺清康熙四(A. D. 1665) ❻師訓を奉じて道宣律師所撰の曇無德部刪補隨機羯磨を釋せるもの、其が釋するに當りては律師の奧微を窮めて其隱微を釋せんとて、題して毗尼作持續釋といへり、而して藏經中曇無德部羯磨に曇諦及び康僧鎧譯と稱せらるゝもの二部存するも未だ諸部を融せざれば法儀に缺くるあり、道宣律師の隨機羯磨四卷に於ては對首心念作法に於て他宗の僧法羯磨を會取せること宛ら本律の如くにして施法、事に應じ機に隨ひ義に准じて曇諦・康僧鎧の羯磨本と異るものある故に特に南山の羯磨法を隨釋せるものである。その羯磨法とそは佛金口の親宣にして僧伽はこれを奉行し依持して古今に絕えず、一切の僧事は之に依りて成就して僧寶益に威儀を存するもの、律藏中多く諸犍度に類分されてゐる。南山師は此等諸羯磨法

を類分して僧法羯磨に一百三十四種、對首羯磨に三十六種、心念羯磨に十四種ありとして總じて一百八十四種ありとし、夫々諸界結解篇、諸戒受法篇、衣藥受篇、諸說戒法篇、諸衆安居篇、諸衆自恣法篇、諸衣分法篇、懺六衆法篇、雜法住持篇に分類して律藏中の行事を實際上に便ならしめてゐる。羯磨の研究は甚だ困難にして人多く領解に困しむ所であるが、元照律師の濟緣記並に本書の如き淸淨なる註釋の存するによりて其行事の眞意を知るを得、僧寶作法の精嚴にして淸淨なる相狀を知悉するを得るは眞に幸慶といふべきである。(西本龍山)

毘尼止持會集 ❶(B) Bi-ni-shi-ji-e-shū. (支) Pi-ni-chih-chih-hui-chi. ❷十六卷 ❸存、卍續一・六一・四 ❹讀體集 ❺清順治六(A. D. 1649) ❻四分律藏中の止持門卽ち佛陀耶舍の譯出せる四分比丘戒本に基きて會釋せるもの、律海汪洋として學人討ね難きに因りて愛に諸部律藏の精要を撮りて詳かに止持を明し以て便覽に供ふるなりとし、一に南山律師が集大成の式に準ぜり。會釋の方式は每戒に八科を分ちて(1)制戒緣起、(2)依、律釋、文、(3)結罪輕重、(4)衆制餘衆、(5)應機隨問、(6)會採諸部、(7)經論引證、(8)附事便考とし、文前要義としては賢首宗に依りて七門を開き、(1)敎起因緣、(2)戒乘所攝、(3)敎義通局、(4)辯定宗趣、(5)敎所被機、(6)總釋題目、(7)別解戒相とせり、敎起因緣にては通じては波羅提木叉を以てして佛知見に入らしめんが爲め、別しては僧を攝取し乃至正法久住するを得せしむるにありとの十制功德にありとす。藏乘所攝にては三藏中にては毗奈耶藏、菩薩藏・聲聞藏中にては正しくは聲聞藏に屬し兼ては菩薩藏を分攝せりとす。これ聲聞人は未だ大心を發さゞれば菩薩戒を學せざるべけんも、菩薩人としては未だ聲聞戒を學せざるものあらざるが故にとせり、又人・天・聲聞・緣覺・菩薩の五乘中にては正しく聲聞乘の攝なり。敎義通局に於ては賢首所判の五敎中にては小敎に屬するも義を推して通論せんには圓敎に通ず、故に「毗尼學卽大乘學、式叉式叉卽大乘第一義光、非三青黃赤白、三歸五戒十善二百五十皆是摩訶衍、豈有離戒隔於妙戒」(法華玄義第三卷末)と。辯定宗趣に於ては反染成淨の止作卽ち五篇を精窮し二持を徹究するを以て宗と爲し、有漏を盡し解脫するを以て趣と爲す。敎所被機とは制敎は在家に通ぜず獨り比丘比丘尼僧徒を制し、僧徒の中にては中下の二機に被り、兼ねては上根の機類に通ず。又式叉摩那・沙彌・沙彌尼の小衆に隨被す。又上根凡戒の機あり本より佛果を志求して淑誠に耽樂せざるあり、由ほ聖制に遵ひ律規を精定し僧寶を護ずし て沙彌より僧數に漸入し、然る後に菩薩の三聚淨戒を圓かにするあり。是に依りて知るべし、聲聞の身戒は卽ち菩薩の心戒の基、菩薩の心戒は卽ち聲聞の身戒の本にして、先づ身戒の不淨あらざるよりして次いで心戒の淸淨に到らんと欲する上根の總類に被らしめんとなりと。次に總釋題目の下に於ては律藏源流、五部所弘を明し、次で別解戒相の下に廣く各戒を八科によりて解釋し會集せり。その八科分釋の中、第六の諸部を會採せるは本書の最も重要目的とする所であり、その持犯を論ずるにも諸律論を對比せるは吾人が部別の不同を究むる上に於て甚だ好伴侶と爲すべきであり、且又、大乘戒と對比して「此戒大乘同制、大乘雖ど許ス懺悔、如ス梵網、須ク用ス好相、或復得ス遇ス佛菩薩等爲說ス深法、顯發ス大心ヲ如ス淨業障經・維摩詰經、然必具ス大慚愧、生ス大厭離、絕不ス覆藏、篤切悔過者乃可ス承當、此事則異ス此中比丘學悔、原相似也……」と云へる如きは經律の同異を見る上に於て甚だ重要且つ便利とする所である。 (西本龍山)

毘尼事儀集要 ❶(B) Bi-ni-ji-gi-shū-yō. (支) Pi-ni-shih-i-chi-yao. 重治毘尼事儀集要 ❷十七卷 ❸存、卍續一・六三・二—三 ❹明智旭(萬曆二七—永曆九 A. D. 1599—1655)述 ❺重治毘尼事義集要の下を見よ。 ❼光緒一九刊 ❽京大、藏・四ヒ・二—三)

毘尼集要 ❶(B) Bi-ni-shū-yō. (支) Pi-ni-chi-yao. 重治毘尼事義集要 ❷十七卷 ❸存、卍續一・六三・二—三 ❹明智旭(萬曆二七—永曆九 A. D. 1599—1655)述 ❺重治毘尼事義集要の下を見よ。 ❼(參考) 諸宗章疏錄第二

毘尼請問論 ❶(B) Bi-ni-shō-mon-ron. (支) Pi-ni-ch'ing-wen-lun. ❷一卷 ❸疑僞經。 ❼(參考) 開元錄第一八、貞元錄第二八

毘尼心 ❶(B) Bi-ni-shin. (支) Pi-ni-hsin. ❷一卷 ❸存、大正八五・六五九 No. 2792

❹本書はスタイン氏並にペリオ氏の蒐集に係る敦煌出土古寫本にして英京倫敦博物館と巴里國民圖書館との所藏。また北平本に殘卷斷篇あれば現在合計八本あり。

本書の首に、律中名敎有ス八種。學戒法第一。師徒法第二。衆僧法第三。行道儀悔法第四。行道修習法第五。發道資緣法第六。信施覆護法第七。護持法藏第八の八章に分ち、戒律の要項を揚げ、各章には、四分、十誦、五分等に依つて律藏に關係ある重要術語は殆ど解釋し以て律藏概說の觀あり。千數百年間洞窟に埋沒されてゐた本書の出現は、現代の戒律研究上にも大いに資益する所がある。僧鳴沙餘韻解說第一部一二七頁並に第二部三三九、三五三頁を參照せよ。

❼(參考) 東域傳燈目錄卷下、奈良朝現在一切經疏目錄2582 ❾燉煌出土古寫本(大英博物館 S. 490. 巴里國民圖書館 P. 2148. 2158) (矢吹慶輝—成田昌信)

毘尼藏經 ❶(B) Bi-ni-zō-kyō. (支) Pi-ni-tsang-ching. ❷一卷 ❸疑僞經。 ❼(參考) 開元錄第一八、貞元錄第二八

毘尼藏中釋名出體 ❶(B) Bi-ni-zō-chū-shaku-myō-shui-tai. (支) Pi-ni-tsang-chung-shih-ming-chu-ti. ❷一卷 ❹應詳述 ❼(參考) 新編諸宗敎藏總錄第二

毘尼珍敬錄 ❶(B) Bi-ni-chin-kyō-roku. (支) Pi-ni-chên-ching-lu. ❷二卷

❸存、卍續一・六一・四　❹廣承輯錄、智旭會補　❺明崇禎六癸酉(A. D. 1633)

❻四分律の戒文及び制戒因緣と各戒廣解との抄出にして、本律の卷軸浩繁の故に末世鈍根には簡閲し易からず、よりて條目の綱領を錄して明簡に且つ解し易からしめん爲に造れるもの、弟子に訓授するの便に備へんが爲に輯錄せるに過ぎない。弟子海眼の跋文によるに「先師講ニ毘尼ノ之暇、手輯ニ僧祇律若干條ニ勒爲ニ上下卷ニ題曰ニ毗尼珍敎錄ニ蓋取ニ世尊遺敎所云ニ也」とあり、されど文中、僧祇律を輯合せる痕跡を認むるを得ず、後の研究に俟つ。

❼光緒二刊　❽(京大、藏・四ヒ・四)

(西本龍山)

毘尼傳持並須知法要

❶(日) Bi-ni-den-ji-narabini-shu-chi-hō-yō.　❷一卷　❸存　❹誓寂(寶永四—天明元 A. D. 1707—1781)述　❺富本(谷大、餘大・一三四一)(正大、一一八八・四九)

毘尼討要

❶(日) Bi-ni-tō-yō. (支) pi-ni-t'ao-yao.　❷六卷　❸存、卍續一・七〇・二　❹玄惺撰

❺現藏本には宋玄惺纂とせるも宋高僧傳所載(貞四・八三左)の唐京師西明寺道世のことなるべし。釋道世、字玄惺……四分律討要五卷四分律尼鈔五卷等とあり、内典錄(結二・一一五右)には四分律僧尼討要各五卷とし、文中に准ニ今唐外ニ受ニ一斗ニ(一一五左上)とも、今至ニ唐朝ニ波頗三藏及毗尼律師ニ(一三六左上)とも、雖ニ佛敎東流年向ニ六百ニ至ニ於自行ニ猶成ニ鄙俗ニ(一五九左上)とも記する故に唐代なることを推知し得る。更に文中「大唐三藏波頗師等並云ニ境也ニ(一一三左下)とも、「今至ニ唐朝ニ波頗三藏及毗尼律師等並是西國宗匠……」(一三六左上)ともあり、其他(一三六左上・一九四左下)にも律行について波頗三藏の口說を出して律の本文を證してゐる。波頗三藏とは摩高僧傳第三(貞二・九六右)に出づる波羅頗迦羅蜜多羅にして一に波頗と云ひ、武德九年十二月(A. D. 626)長安に達せる人、而も貞觀七年四月(A. D. 633)に寂せり。本書中に波頗の口說を引用せるより見るに本書の撰時は貞觀年中に非ざるなきか。而して本書題下には長安弘法寺沙門とある故に、西明寺(顯慶三年造立、A. D. 658)に入る以前に撰述せるものならんかと推せらる。

本書は四分律を本とし、足せざる所は諸部によりて行事を補ひ、衆記を搜徒しつゝ專ら大疏(智首律師の廣疏なるべし)(一〇九右下)に依り、要を簡びて四十章三卷とせるもの、上卷には(一)標宗勸學章、(二)敎興由致章、(三)篇聚釋名章、(四)鳩勝釋要章、(五)結界興廢章、(六)受欲成壞章、(七)受具戒章、(八)受捨護衣章、(九)受捨護鉢章、(十)養緣浮施章、(十一)說戒儀式章、中卷には(十二)安居受夏章、(十三)受日是非章、(十四)自恣舉懺章、(十五)隨戒釋要章、(十六)綱維匡衆章、(十七)刺淨資糧章、(十八)篇聚懺悔章、(十九)捨墮懲淨章、下卷には(二〇)受請赴會章、(二一)食敎慳僑章、(二二)受無邪三歸章、(二三)受五戒章、(二四)受八戒章、(二五)受十戒章、(二六)受善薩戒章、(二七)疑病諮診章、(二八)七衣受法章、(二九)雜行調誡章、(三〇)尼懺部說戒章、(三一)尼授學戒章、(三二)尼授具戒章、(三三)尼隱戒釋要章とし、一章毎に更に數門を分ちて釋せり。我國に於て道宣律師の行事鈔に依るを鈔家といひ、毗尼討要に依るを要家と稱へ來れるも、其の差異何れにあるかは後の對照研究に待たねばならぬ。但道宣律師は四分律を分通大乘の律藏たりとせるも、討要(二八右下)には「問此敎是小、云何得ニ發ニ大志ニ、豈不ニ異ニ宗相違ニ耶。答古代諸師多例ニ四分ニ爲ニ大乘ニ者、良恐非也。敎實是小、不ニ妨得ニ發ニ大志ニ、如ニ佛說ニ大乘ニ亦有ニ發ニ小乘心ニ者ニ、何妨說ニ小得ニ發ニ大志ニ……」と述べて四分律は實に是れ小乘ト判じ、而も大乘小乘は發戒の培心に上下あるに由るなりと釋せるは、正しく法瀾の四分律疏所明と一致せり(シ部二二九、四分律疏參照)。傳律圓源解集には「毘尼討要三卷、與ニ餘家ニ少異矣、多分同ニ南山ニ」として南山道宣師に同ずとせるも、如上の文によりて寧ろ法瀾の疏に同ずと見るべきではなからふか。其他、受善薩戒章(一八五左上)に於て依ニ地持論ニ受ニ得善薩三聚淨戒ニ……」として三聚受戒作法を示し、突吉羅懺(一六八右下)に於て「今向ニ十方諸佛前ニ發露懺悔不ニ敢覆藏ニ……願ニ十方諸佛愍ニ我清淨戒身具足清淨布薩ニ……」とし、又、刺ニ縷復ニ淨ニ(一六〇左下)には「諸佛立ニ敎通ニ大小乘ニ、俱無ニ宿過ニ」とせる如きは大に留意すべき所である。

❷(參考)　新編諸宗敎藏總錄第二、東域傳燈目錄卷下、諸宗章疏錄第二、奈良朝現在一切經疏目錄2254、2255、2256　❸平安朝時代寫(高大、寄・一・二三)　寫本(谷大、餘大・二三八七)

(西本龍山)

毘尼日用切要

❶(日) Bi-ni-nichi-yō-setsu-yō. (支) Pi-ni-jih-yao-ch'ieh-yao.　❷一卷　❸存、卍續二・一一・一　❹清讀體(一康熙四 A. D. 1665)、金集

❺性紙の毘尼日用錄に基きて讀體が重集せるものである。毘尼日用錄中の入浴規式までを釋せるもの、次で沙彌十戒相、沙彌應ニ具ニ五德ニ應ニ知ニ十數ニ、沙彌尼十戒相、式叉摩那戒相、優婆塞戒相、八關齋法戒相を述釋して終れり。その比丘戒相を列せざるに就ては、「又則舊本中將ニ比丘五篇戒相ニ開ニ列沙彌戒相後ニ、今削去不存、附ニ兩乘布薩正範後ニ、佛制不ニ聽ニ沙彌及自衣知ニ五篇戒相ニ、恐受具成ニ造犯ニ、就住之咎ニ故」と註して、明かに性紙の毘尼日用錄に比丘比丘尼戒總相を列せるは誤れりとせり。又善薩戒相について布薩正範卷中に附して此の毘尼日用中には列せずと註せり。(毘尼日用錄解題參照)。毗尼日用切要香乳記の書玉の序には「憶昔和尙(讀體なり)誠ニ衆云、此日用一書乃是一乘妙法、趣道鐵基、事攝ニ身心ニ、理歸ニ圓頓ニ、不ニ得ニ視爲ニ泛常偈咒ニ」と記せり。即ちこの毘尼日用錄は一々の事に圓頓の理を具せるものなれば、事緣に涉歷して皆即ち大乘菩薩の弘誓の願を發し、自らに諸の過惡を斷るゝもの、日夜に身心に切近して要行の標路たりとして毘尼日用切要と題し、以て疎漫冗雜を揀非し要を簡びて釋を施せるものである。讀體は南山の再生と崇められたる人、其の傳は香乳記(續藏第二篇第十一套第一册七四右上)に詳述せり。

❹光緒一八刊　❺(京大、藏・四ヒ・五)

(西本龍山)

毘尼日用切要香乳記

❶(日) Bi-ni-nichi-yō-setsu-yō-kō-nyū-ki. (支) Pi-ni-jih-yao-hsiang-ju-chi.　❷二卷　❸存、卍續二・一一・一　❹書玉　❺清康熙二三(A. D. 1684)

❻讀體和尙の毘尼日用切要を隨文箋釋せるもの、自序に「……和尙に親覲せること晚かりしも幸に鞭策を蒙り駑駑前行し暫塑すべからず、二十年來乾々惕勵せり。甲子の春(A. D. 1684)昭慶に住し衆請愼に應じて隨文箋釋し名づけて香乳記と曰ふ……」とあり。讀體は康熙巳未(A. D. 1679)の寂なる故に香乳記は寂後五年にして箋せるもの、序に二十年來とは師事せる以來を曰へり。凡例によるに「讀體和尙の止持會集は尙は賢宗の法式に違はれたるにより、今釋にも依行す、豈に敢へて違越せんや」と述べておる如く、賢首の敎若略疏に順じて、一、敎興、二、藏攝、三、宗趣、四、釋題、五、解文とし、題文解釋前に三義門を懸叙して第一に敎興因緣には一爲師資稟範故……十爲圓滿佛果故と述べて毘尼日用切要にも斯の十緣を具して敎興せしめたりとし、第二に藏乘敎攝には華嚴經淨行品と律藏と密呪とより成る故に經律二藏の攝、隨密二敎の攝、兩も菩薩藏の攝にして、又五乘の中には菩薩乘、中に攝めたる三十七呪は金剛乘中よりの流出とし、十二分敎中には孤起・因緣・方廣の三分敎の攝、賢首五敎判中にては今多く入漢法界・心無障礙等の華嚴偈文を攝する故に正しく圓敎の攝なりと判じ、第三の所說宗趣には總じては、自行佛戒・止惡作善・淸凉心地を宗と爲し、化他佛道・同一圓覺・一如無二を趣となす。別しては敎義對・行願對・身心對・智悲對・因果對の五對を開いて宗趣を述べ、かくて題號解釋しては「惟是持誦邊事のみ」として此偈呪を輕んずるを得ざれ、當に是れ皆大乘菩薩所發の上求下化の弘願及び諸佛心印祕密之妙法たり、事に依りて理を顯はせるなれば發願して行持せんには即ち究竟覺に同じて二なく別なく、敎は圓頓に屬し時は華嚴に涉れば後の學者は忽にすべからずと述べ、次いで隨文解釋に於いて早覺門・鳴鐘門乃至洗足門等の四十四門を開き五十四偈三十七呪を集めて次第に依りて廣く箋釋を施せり。

(西本龍山)

毘尼日用錄

❶(日) Bi-ni-nichi-yō-roku. (支) Pi-ni-jih-yung-lu.　❸存、卍續二・一・一　❹明性祇(一崇禎五 A. D. 1632—)撰

❺毗尼日用切要香乳記の續法の序(續藏第二編第十一套第一・七十右上十六)に曾我康藏和尙以ニ淨行品ニ別行、宜城圭師集爲ニ苦海浮囊ニ……」とあり。本書題下にも「今之所ニ錄者與ニ宜城圭師所ニ集苦海浮囊、大約相同。然而其中略補有ニ差別ニ……」とあれば、本書は圭師の所集と大略同じきものなるべく、而も本書の序に性紙は「華嚴經淨行品によりて一々行持せんに出家の志に負かざるなり、然れども初心衆劣にして盡行すること能はざれば已むを得ず廣中に略を取り、復、古集害部の呪語を以て之を贊して以て初學に便にし目けて毘尼日用と爲し」(二六一時中に行相に即せしめんとす……」とあり。香乳記の書玉の序(續藏同上七十右下十一行)には「先和尙惡ニ惜於此ニ故從ニ華嚴淨行品並害部中ニ重採ニ偈・呪ニ、彙集成ニ卷……」とあり。されば圭師の所集は今見るを得ざるも此文より推するに害部の呪はなかりしなるべく、本書に於て初めて害部呪語を挿入せるものと察せらる。その毘尼日用行事とは、「行者凡そ睡眠より醒めん時即ち當に輕々に默誦すべし」として、「睡眠始寤、當願衆生、一切智覺、周圓十方。唵・地利日哩莎訶」とある如く、開ニ鐘鼓ニ時偈、著ニ衣時偈、下ニ單時偈、行步時偈、登ニ廁時偈、淨ニ手時偈、洗面時偈、飲水時偈、搭ニ衣展ニ具時偈、三衣受持時偈、念ニ謂佛ニ時偈、文殊菩薩禮佛作願時偈、禮ニ塔繞塔時偈、持ニ錫時偈、乞食時偈、食時展鉢時偈、空鉢滿鉢時偈、受食時偈、出生偈、執ニ持應器ニ偈、受ニ識ニ偈、洗鉢偈、嚼ニ楊枝ニ時偈、剃頭偈、入浴室軌式、洗足沐浴時偈、展ニ單敷ニ具坐禪時偈、出定時偈を錄せり。而して出定時偈を記せる終りに於て「珍ニ重日用偈呪、寬。外有ニ種々名相、更錄ニ于後ニ、以便ニ初學受持ニ」と註せり。惟ふに珍重日用偈呪寬とあるは、恐らくは圭師の所集はこの出定時偈を以て終れるものなるべく、以下の在家優婆塞五戒相、出家沙彌十戒相、比丘二百五十戒總相、比丘尼三百四十八戒總相、菩薩十重四十八輕戒相、律中三聚淨戒、三衣瓶鉢錫杖等名義、僧祇支、臥具、鉢盂、錫杖、數珠、禮佛七種、菩薩三名、菩薩三大、持戒三心、大比丘三義、三種痲麻、三衣篋三毒、四分律、比丘四法、痲麻四法、四根本煩惱、修行四法……比丘五不應逆、比丘五不赴請、五法助戒……僧具六和、六度華梵、七逆罪、七滅諍法應與、七衆、菩薩八法、優婆塞具八支、尼戒八棄、尼行八敬、九等大衣、十愛依止和尙位、沙彌十二有犯、十二種經律儀、受戒法十二科、菩薩隨身十八種物、佛住世八十年等は正しく性紙が增補して初學の受持に便ならしめたるに外ならず。此の事は毘尼日用切要及び同香乳記の目錄を見る時了解しうべし。尙、附錄として千富長禪師示衆、結制小參、上堂、誡問、桐江瑛法師觀心銘、清凉澄觀大師十事自鑑とを補へり。卷尾に崇禎癸酉年孟夏黃檗山比丘隆瑞纂集とし、寬文四年刊の毘尼日用錄には慕衆重粹助緣芳名として隆瑞助伍錢・興宗貳錢・明瑩・明詳……如華同徒性顯共壹錢、性觀……上各壹錢、信士吳隆均・何性察各伍分とありて、隆瑞が勸募して重粹せるは明崇禎癸酉(A. D. 1633)なること明かなるも、その初粹の年時は知り難し。されど性紙は崇禎七年(A. D. 1634)に佛說目連五百問經略解二卷を撰せる故に重粹年時を隔つること餘り遠からざるべし

と思はる。この重粋年時より後るゝこと三十年にして寛文四年(A. D. 1664)に我國に於てこの日用錄が上梓せられたるは甚だ面白く感ぜらるゝ。

❾寛文四刊(谷大・餘大・三三三三)寫本(京大・藏・四ヒ・六)　(西本龍山)

毘尼方廣經 ❶(日) Bi-ni-hō-kō-kyō. (支) Pi-ni-fang-kuang-ching. 清淨毘尼方廣經、清淨毘尼經、清淨毘奈耶方廣經 ❷一卷 ❸存・大正二四・一〇七五 No. 1459、鎌列二、卍一七・二、北542作、南535作、元549作、明北1095初、清1196初、麗546念、天548作、指503念、法533念、至1195儀、明南1239從、Nj. 1101 ❹鳩摩羅什譯 ❺後秦弘始四—一四(A. D. 402—412)

❻清淨毘尼方廣經の下を見よ。

毘尼摩得勒伽 ❶(日) Bi-ni-ma-to-roku-ka. (支) Pi-ni-mo-te-le-ch'ieh. 薩婆多部毘尼摩得勒伽、摩得勒伽毘尼、薩婆多毘尼、薩婆多摩得勒伽毘尼 ❷十卷 ❸存、大正二三・五六四 No. 1441、鎌寒七、卍一九・五、北939諸、南933諸、元949諸、明北1127下、清1127下、麗943儀、天941諸、指993儀、法927儀、至1253鎌、明南1293慎、Nj. 1132 ❹曾伽跋摩譯 ❺劉宋元嘉一二(A. D. 435) ❻薩婆多部毘尼摩得勒伽の下を見よ。

毘尼母經 ❶(日) Bi-ni-mo-kyō. (支) Pi-ni-mu-ching. 毘尼母論、母論 ❷八卷 ❸存、大正二四・八〇一 No. 1463、鎌寒九、卍一九・六、北943諸、南957諸、元953諸、明北1133唱、清1133唱、麗946叔、天943諸、指902叔、法931叔、至1257逸、明南1305交、Nj. 1138 ❹失譯

❻譯人の名を失せるも秦代の譯なることは摩那埵の細註に秦言宣喜(寒九・九在)、令摩陀の細註に秦言名ゞ滅(同七右)とあるに由りて知り得る。通常、毗尼母論と云ひ母論と略稱し來れるも、文中に母經の語しばしば出で毘尼母經の語も出づる故に經題に毗尼母經と稱せるは適切なるが如し。但し原語が Vinaya-mātṛ-kā-śāstra なりしなるべければ母經と稱するとも母論の義なり。古來、律五論の一とせらるゝも所屬の部派に就ては何れも明示せず、唯、薩婆多部の律即ち十誦律の廣釋なりとし、傳律國源所集には毘尼母・摩得勒伽・薩婆多の此三は並に十誦律なりとせり。然し此論が法藏部に屬し、四分律を依用して廣釋せるものなることは、第一に革屋鑑許因緣を述ぶる下に於て不ゝ聽ㄱ著ㄱ革屋ㄴ入ゝ塔總ㄱ塔乃至宮羅亦不得ㄱ著ㄱ入ゝ塔……」(寒九・二一右九)として四分律業學法中の敬塔戒二十六條中の初五條を出し、又は比丘尼戒文引用に於て若比丘尼獨流水・獨行入村・無象獨宿・或獨隨道行(同九左五)とせるは四分律の比丘尼戒文(列四・四一左二)に相似して十誦律の戒文等とは相違し、業學法條項(同一七左八)を列ねる中に聽入白衣舍蹲坐の條項あるによりて知らる。第二に論中に出せる犍度の名に於て草卑犍度(同六左末)・訶責犍度(同七右七)・布薩犍度(同八右五・八左四)・護鉢犍度(同九右一)・受戒犍度(同一一左四)・自恣(同一二右九)・迦絺那衣法(同一二左八)・衣犍度(一三右一〇)・藥草犍度(同一七右一三)・革屋犍度(同一七右一八)・雜犍度(同一七左二)・敷具犍度(同一七左九)・拘睒彌犍度(同一九右七)・破僧犍度(同一九右一〇)・持戒犍度(同二〇右末二)・雜犍度(二二右一三)・三摩兜犍度(同三一右一四)の名を出しておる。草卑犍度は草卑者國名也とある故に (Campā) の音寫にして瞻波犍度に相當すべく、四分律瞻波犍度の終に十三種人の語を出せるは此論(同七右三)に如須十三種人者名爲善撰とあるに相應するものにして十誦律(張五・五右十一行)には十四人數とせり。此論に減罪犍度とせるは四分律の人犍度に相應し、敷具犍度は四分律の房舍犍度に相應し、その病比丘の大小行處の記は正に四分律第五十(列六・三〇右七行)に相應す。破僧犍度中所明としての提婆五法(乞食・糞掃衣・不食酥鹽・不食魚肉・露坐)は四分律所明の五法と一致して餘律特に十誦律とは相應せず。持戒犍度とは四分律法犍度に相當し、此論に五法恭敬(同二〇右末三)を說けるは法犍度(列六・二二左)に偏露右肩・脫革屋・右膝著地・提兩脚・如是言大德我禮とあるに相當す。雜犍度中廣說として剃髮刀を安置する法を說けるは四分律雜犍度(列六・三三右末四)に相當す。三摩兜犍度の語は明かならざるも、此處には上厠法を明せる故に、四分律の法犍度(列六・二三右四)に相當す。さればこの法とは巴利律小品第八の Vatta (爲さるべき) に相當するもの、今三摩兜の語を存せるは或は samata (normal state) の音寫に非ざるなきか。かくて此等犍度種類に相應する律は四分律のみにして、名の類似のみならず所記の行事また四分律の行事に相應せるものである。第三に八種藥として奄羅果藥・瞻婆藥・拘羅藥・呪提藥・元提(無提)藥・令林毗藥・破樓尸藥・蘇摩藥・沙林毘藥・蘇留沙藥・甘蔗藥とせり。(同二〇左末六行)に奄羅藥・瞻婆藥・果藥・壞味藥・多藥・沙林毘藥・蘇留沙藥・甘藥とせり。四分律(列五・七五右一二行)には奄藥・闍浮藥・酸果藥・甘蔗藥・塩基藥・令樓伽藥・婆樓頗藥・蘇摩藥・甘蔗藥・塩基藥・令樓伽藥・婆樓頗藥・蘇摩藥(Kolaka)にして果の藥なれば四分律の酸果藥に相應す。呪提藥(Coca の音寫か)又は壞味藥は四分の甘蔗藥とは相應せず。元提藥は無提藥の寫誤にして moca (芭蕉の實)の音寫なるべく、然りとせば四分の薬(銭ヶ音ズキ)果に相當すべし。しかし一方に多藥とせるより考ふるに十誦律の說波多藥の略なるやも計り難し。令林毗藥は四分の令樓伽藥(Jīraka)に同じくして、舊見律(一八)には爰鉢羅・拘物頭花根を春きて汁を取り澄ませて清からしめたる物と釋せり。破樓尸藥は四分の婆樓頗(pāṭa-rasika)に同じくして、舊見律には奄羅果に似たる一切木果と釋し、義淨は藥事に於て藥果子(エビブル)と註せり。これを十誦律(張四・六八左末五)の周婆藥・茂婆藥・拍樓藥・令樓藥・說波多藥・頗留沙藥・婆藥・清藥とあるに比するに、說波多藥(有部藥事の阿說多果(upaḍitha 即ち菩提樹子なり)を除いては毗尼母論の藥名に令合し得、更に母論の多藥を說波多藥の略稱と見る時は

全く種類を同じくすと考へ得らるゝ如きも、而も其の配列順位に於ては毘尼母論と四分律とは著く相應せるを見るべきである。其他、或は毗尼母論第三五百結集記(寒九・五右五)に於て諸經中有ㄱ說ㄱ比丘戒律、處ㄱ集爲ㄱ比丘經ㄱ、諸經中有ㄱ說ㄱ戒律ㄱ與ㄱ尼戒ㄱ相應者ㄱ集爲ㄱ尼經ㄱ、諸經中乃至與ㄱ迦絺那ㄱ相應者集爲ㄱ迦絺那犍度ㄱ、諸犍度母經・增一比丘經・比丘尼經總爲ㄱ毘尼藏……」とあるは、四分律五十四卷(列六・五一右一〇)に時枝即集ㄱ比丘一切事ㄱ、并在ㄱ一處ㄱ、爲ㄱ比丘律ㄱ、比丘尼事并在ㄱ一處ㄱ、爲ㄱ比丘尼律ㄱ、切受戒法集ㄱ一處ㄱ、爲ㄱ受戒犍度ㄱ……(布薩・安居・自恣・皮革・衣・藥)……一切迦絺那衣法集ㄱ一處ㄱ、爲ㄱ迦絺那衣犍度ㄱ、二律并一切犍度ㄱ、調部ㄱ毘尼母一都集爲ㄱ毘尼藏」とあるに相應し、母論に乃至せる所は四分律に於ける受戒・布薩・安居等なるを知り得るのであつて十誦律五百結集記(張七・二四左一三行)とは大に相違せり。更に十誦律(張七・二五左一一行)にては阿難は六突吉羅悔過を作せりとするも母論(同一五右末五)には阿難七事と一四分律(列六・五〇左八行)も七罪とせり。或は六種鉢を列すに於て毘尼母論(寒九・三八左九)に鐵鉢・瓦鉢・優伽國鉢・優伽奢國鉢・毘舍離國黑鉢・舍衛國赤鉢とせるに、四分律(列六・三九右二)にも鐵鉢・蘇摩鉢・優伽羅鉢・優伽鉢・黑鉢・赤鉢として相應せり。蘇摩鉢とは蘇摩國產の瓦鉢なり。十誦律(張五・四〇左末三)には八種鉢として金・銀・疏璃・摩尼珠・銅・白鑞・木・石鉢を著ふるは突吉羅、鐵鉢瓦鉢を著ふるを聽すとせるのみ、第四に毗尼母論中、波羅夷滅除與擯について尊者薩婆多說曰(同一一右三)……尊者婆奢說曰(同一一右六)(同一一右一一)として其說を述べ、或は尊者薩婆多說曰(同一一左一二)として五種人を述べ、或は尊者彌沙塞說曰(同一一左末五)として止諍羯磨を述べ、尊者迦葉維說曰(同一一二左末四)として分亡比丘物法を述べ、更に尊者迦葉維說曰(同一四右六)として剃髮法を述べ、或は尊者薩婆多說曰(同一六左一一)として四白廣說・四黑廣說を述べ、薩婆多說曰(同一七右五)として五種上色を說き、其他諸師の說(一七左末二・一八右末二・一八右末・二〇左末四・二一右二・二三右末三)を述べ、問答法(三一右末四)に就て「尊者迦葉維說曰、得ㄱ用ㄱ瓦、曇無德不ㄱ聽也」とせり。曇無德に尊者なる敬語なき故に此論は曇無德部の律即ち四分律に依れりと云ふのではないが、上來の論證によりて今の曇無德不聽也の語勢を見る時、これ自の所屬部の派旨を宣昧するものと考へらる。以上の見解よりして此の論は曇無德部の四分律によりて廣釋を施せるなりと斷じ得るであらうが、然し此の論は何を基調として明したものであるかといふ事を言ひ顯はすことは困難である。それは論の第四卷の中頃(同一八右末)に「初一分寬」の語あり、同卷(二〇右五行)には「房舍寬」の語あり、第六卷終(三一左)には「第三事寬、略名ㄱ一切章句ㄱ、如ㄱ是應ㄱ廣知」とあり、第二事寬又は第四事寬の語がない。而して卷首の序偈に「是中文義ㄱ略、廣摘ㄱ毗尼義ㄱ、依ㄱ初事ㄱ演說、智慧者當ㄱ知、一切經要藏、皆總在ㄱ此中……」とあり。文略なりと雖廣く毗尼義を摘すといひ、或は初一分寬ると云ひ、第三事寬るといひ、初事に依りて演說すといひ、或は「初因緣に因りて初事を知るを得んに、人の疑心を斷じ、衆經中の義も復悉はざるなり」と述べたるより見るに、此論を製する前に既に明了論の二十二大義の偈の如くに、曇無德所屬の比丘達の依りて誦すべき偈頌の如きものが存して、而もその偈頌中に比丘戒・比丘尼戒及び諸犍度の要義を摘せる一切章句の如きものが存して、それを四分律並に諸經に依りて廣釋し、偖ら薩婆多部・迦葉維部・彌沙塞部・婆麤部の說を列ねて曇無德部派の律行を闡明ならしめたるものにあらざるかと考へられるのである。此事は更に深く究めなければならぬ問題であるが、かく考へなくては此論は唯、律藏中の名句を順序もなくして解釋したに過ぎない事になる。されば先に母經なるもの存し、而も初一分・第二事・第三事・第四事と分たれたる偈頌の如きものゝ而も一切章句を含めるものが存し、律明了人の爲の用意に備へたるものを話を返うて廣釋せるものであらうと考へらるゝのである。何ほ毘尼母論第三卷(一一左一行)に九十二波逸提の語あるにより法藏部以外の律なるかの如く考へ得るも、宋・元・明三本には九十波逸提とし、同卷(一五右一三行)には九十事とあるにより疑問は氷釋し得る。又、第一卷(一一右末行)に受具足の義を明す下に於て「成ㄱ就六度ㄱ、亦名ㄱ受具」の語あるは注意すべきである。

❷(參考)　法經錄第五、開元錄第四、貞元錄第六　(西本龍山)

毘尼母論 ❶(日) Bi-ni-mo-ron. (支) Pi-ni-mu-lun. 毘尼母經 ❷八卷 ❸存、大正二四・八〇一 No. 1463、鎌寒九、卍一九・六、北943諸、南957諸、元953諸、明北1133唱、清1133唱、麗946叔、天945諸、指902叔、法931叔、至1237逸、明南1305交、Nj. 1138 ❹秦代(A. D. 35—431)失譯 ❺毘尼母經の下を見よ。

毘尼錄 ❶(日) Bi-ni-roku. (支) Pi-ni-lu. ❷一卷 ❼(參考)　東域傳燈目錄卷下

毘婆尸佛經 ❶(日) Bi-ba-shi-butsu-kyō. (支) Pi-po-shih-fo-ching. (巴) Mahāpadāna-s. ❷二卷 ❸存、大正一・一五四 No. 3、鎌尺一〇、卍一五・四、北1177千、南1193千、元1187千、明北345盡、清345盡、麗1183鈔、天1173千、法1300虛、至1145唱、明南363臨、Nj. 850 ❹法天譯 ❺宋開寶六(A. D. 973)

❻この經典は D. 14 Mahāpadāna S. 及び長阿含一經大本經(大正一・一—一〇)の後半の七佛の第一毘婆尸佛に關する記述の單行經となれるものであつて、七佛經(大正一・一五〇法天譯)、增一阿含四十八・四(大正二・七九〇—七九一)、七佛父母姓字經(大正一・一五九失譯附前魏譯)は前記二經の前半が單行したものである。故に實は七佛經とこの毘婆尸佛經とは一連の經典であつて、傳持の間に二經とせられたものであ

ら。この記事に関する三本を比較すると

因門田現藏件	位置言巻	梵天語訳	唐大唐
大本	十二巻記	大善天子	位置善巻
大本	十二巻記	王子位善天位王子善善	
D. 14	十巻記	Khaṭḍa 王子 *Tissa* 善善子	

等のみならず行ったと伝説せられ、又大本は此の記事の中に於ては、それの前世をもられた人物であるとの記事に於て、それの前世をもられたものであるとの記事であるが、本記事の構成されたらしいことは明らかである。

（赤松俊秀）

毘婆沙文殊師利 ❶(日)Bi-ba-sha-mon-gi-shi-dai. (支)P'i-p'o-sha-wên-i-tai-ti. 大毘婆沙論文殊師利 ❷1巻 ❸〔参考〕 梵文原典未1切記載日番2563

毘婆沙律 ❶(日) Bi-ba-sha-ritsu. (支) P'i-p'o-sha-lü. 毘婆沙律 毘婆沙律 毘婆沙律 毘婆沙律 毘婆沙律 ❷十八巻 ❸ 存 大正二四・六七三 No. 1462 編者八 卍一九・二一 宇941仏基 宇955仏基 宇951仏基 明宇1120倉頭 宇112)倉頭 宇944仏基 宇943仏基 宇900仏基 宇929仏基 宇1235仏基 明宇1300倉頭 Nj. 1125 ❹ 倉頭倉記倉頭 ❺毘婆沙律 明十七(A. D. 489)梵天(A. D. 488) ❻毘婆沙律 毘婆沙の下を以て

毘婆沙論 ❶(日) Bi-ba-sha-ron. (支)P'i-p'o-sha-lun. 毘婆沙論 毘婆沙論 毘婆沙論 ❷六十巻 ❸存 大正二八・一 No. 1546 編者十一一〇 卍二三・四一十 宇955仏基 宇959仏基 宇955仏基 宇956仏基 宇50基 宇47仏基 宇55仏基 宇123仏基 明宇53基 Nj. 60 ❹毘婆沙論 毘婆沙論 ❺天竺 毘婆沙論 西四(A. D. 542)

❻毘婆沙の編纂記に云はれば 編纂 西紀四世紀 各々婆沙 その中に於て 毘婆沙 婆婆 毘婆沙 婆婆沙 婆婆沙 婆

傳

⑯別行經は三種悉地または三種悉地法ともいひ、傳教大師最澄が延暦寺順曉阿闍梨から傳へ三種悉地法を記述してゐる。然し順曉の傳は蘇勝磯地獄陀羅尼儀軌によると口傳する。從つて蘇勝佛頂部の三種悉地法であると口傳さる。別行經には廣中略の三本があるが、本鈔は廣本の別行經の鈔である。本書は一般に行るるが如き疏鈔の體裁を備へてゐない。先づ別行經は胎金蘇三部大經の中には蘇悉地部に屬することを問答し、次に卷終るまで何々事と事書四十九箇條に分つ。但し下卷は「先蘇悉地決」蘇悉地類集。高祖傳教大師祕教御傳受勸文。蘇悉地四玄決」と大段分科を立ててゐる。恐らく未だ再治しない草案本であらう。撰者を慈覺和尚なりと傳承すとは日本大藏經編者が記す所であるが、慈圓なる人があつたと云ふならば慈覺和尚と同名異人である。其の理由は本書上卷の東寺三井不傳今經事。心地根本神呪事等の數ケ所に『慈覺和尚御記云』または『慈覺和尚御決云……』と引用してゐるからである。慈圓に慈覺の諡號を賜つたのは滅後十三年である。故に本書の作者は慈覺和尚慈圓ではない。然らば慈覺口述門人筆記かと問ふかも知れないが、上下兩卷を通じて口述を筆錄したとは記してゐない。この故に本書は撰者未詳と定むべきか。本書には蘇勝破地獄儀軌との比較を說いてゐないが別行經に三本ありといつてゐるから三本の異本を知つてゐるかとも考へられるが確かではない。余の知つてゐる異本別行經は五鈷と五行・五部等との關係を述べてゐる。此等から推察すれば別行經は五行說を受けたものがあることが解る。本書には殆んど五行說には觸れてゐない。又金輪一字明「ボロン」を以つて根本神呪なりと說く。これは一實神道の根本呪である。こゝに輪王思想—國王—神道思想—神祇—台密教義との結合すべき關係が認められる。此他なほ台密深祕の傳承が一二記されてゐる。以上によつて本書は何時代の傳承か明瞭には知られないが南北朝以前に行はれた台密の祕傳たる事は疑ひはない。恐らく慈覺和尚から承澄源平時代から北條氏時代に盛行した三種悉地法の口傳であつたらう。要するに本書は台密及び一實神道を研究する者の注意すべき者の一。次に事書を記せば下の如し。(一)問以此經三部大經中可入攝此何經耶。(二)以今經心地神呪爲蘇悉地根本眞言事。(三)山門以蘇悉地珠可祕事(傳教・義眞・慈覺三師の異名を記す)。(四)五百遍事(傳教・義眞・慈覺三師の異名を記す)。(五)五東寺三井不傳今經事(當曉の法系は傳教の門流なりと近江仙雲法師がいふ)。(六)三種悉地相承事。(七)以此經說多人、先擬事。(八)四箇印事。(九)一心地神呪事。(一〇)心地根本神呪事。(一一)印事(天台大師定印云云)。(一二)定印。(一三)普印事。(一四)五大菩薩說偈事。(一五)三種悉地眞言事(不空の傳。善無畏の傳を示す)。(一六)三種悉地四重密印。已上にて三身眞言口決畢る。(上卷終)先づ蘇悉地決。(一七)三昧成身事。(一八)蘇悉地許可密事。(一九)別相傳密印事。次に蘇悉地類集。(二〇)胎曼荼羅蘇悉地事。(北石藏の恒久著愚集に云く現圖曼荼羅蘇悉地院は經と相違すと)。(二一)蘇悉地王三部成就事。(二二)金曼荼羅蘇悉地事。(安然著瑜祇經疏に云く、十八會の第一數主會の第四一切義成就輪三十七尊持虛空藏印は蘇悉地法なりと)。(二三)以三四波羅蜜部母爲蘇悉地王事。(二四)以金剛菩薩印明爲蘇悉地王事。(二五)以金剛菩薩印明用灌頂妙成就事。(二六)外縛三胡印事。(二七)六字事(山家根本大師傳法灌頂三重密印と血脈と問答とを記す)。次に高祖傳教大師祕教御傳受勸文を出す。(二八)兩部大經御相承事(義眞和尚撰定に係る延曆寺見定錄第三卷を引用す。この第三卷には大師將來唐本數逢を載すといふ。山家祖德撰遙篇目集卷下參照)。(二九)兩部御灌頂事(義眞撰に係る大師隨身錄を引用す)。(三〇)大師兩部御灌頂事。(三一)大師傳法灌頂職位事。(三二)蘇悉地傳法印事(以下の事書によつて本書は台密諸流の說を用ゆるが根本は桂林房(良粕)口決によることが明知さる。即ち三昧流系特に穴太流中の西山流に屬する者の撰であることが知られる)。(三三)印事。(三四)三玄四玄印事(この祕印相承を記し、又四六天厨神呪事には阿闍縛抄を引用す。これに依つて本書は小川承澄(元久二—弘安五A.D.1205—1283)の滅後に著述されたものなることが明らかに知らる)。(三五)蘇悉地二重事。(三六)三玄妙印事。(三七)四玄印事。(三八)寶山生起事。(三九)龍座佛壽命事(本迹不二と胎金蘇三部と陰陽不二と靈山三塔との關係を述べ、蘇悉地は金界大日法華久遠本無量壽命の佛で遍照法界大日を本尊となす。此の佛の所座は水輪圓形の金龜から起つた法性塔婆である。金龜の命根は法身常命慈悲性海の佛性である。この慈悲佛性の金龜から生じた法性塔婆の寶山堅膠法界を本尊佛の座となすと。この說が一轉して山王三聖と融會すれば一實神道の教義を構成するのであるが、本書には山王三聖には說き及んでゐない)。已上で蘇悉四玄決畢る。(四〇)當經天厨神呪印事。(四一)鉢飲食一體事。(四二)當段觀音事(此の經の施餓鬼は六觀音の中の聖觀音を救主として修す。飲食は五穀である。五穀は能く有情の命魂を續く。人には魂魄二神がある。この二神は五穀の精。魂は昇つて神となり魄は下つて鬼となる。この鬼神を加持飲食の神呪によつて加持すれば、魂魄二神は惡趣流轉を免れ淨刹に生じ彌勒の眞身を證る。眞身とは法身如意珠の塔婆である。ここに神は塔、塔は法身・佛性・成佛の種子であり、因には塔といひ果には種子といふ。因果を今此の鉢印を以つて示す。鉢印は釋迦三摩耶形である。故に慈覺大師は昔在靈山名法華。今在西方名彌陀。五濁惡世名觀音。三世利益同一體といひ、施食を以つて神を濁世から轉ぜしめ衆生の短命を治し安養界に引導して無量の壽命を得せしむるのであると。(四三)五胡事。(四四)一經四箇印生起事。(四五)天厨神呪事。(四六)防護呪事。(四七)救主事(山門では今經を法身說法の證據となす)。(四八)救主位處事。

⑨寫本(谷大、餘大・二三五三)(田島德香)

毘盧遮那略讚 ❶(日)Bi-ru-sha-na-ryaku-san. (支)Pi-lu-che-na-lüe-tsan. ❷一卷 ❸(參考) 惠雲禪師將來教法目錄

毘盧神變經演密 ❶(日)Bi-ru-jim-ben-gyō-en-mitsu. (支)Pi-lu-shen-pien-ching-yen-mi. 大日經義釋演密鈔 ❷十卷 ❸存、卍續一・三七・一—二 ❹遼覺苑(—太康三 A.D. 1077—)述 ⑥大日經義釋演密鈔の下を見よ。 ❼(參考) 新編諸宗教藏總錄第一 ❺平安朝末期寫 ⑨寶善提院)

毘盧神變經義釋 ❶(日)Bi-ru-jim-ben-gyō-gi-shaku. (支)Pi-lu-shen-pien-ching-i-shih. 大日經義釋、毘盧遮那成佛神變加持經義釋、毘盧遮那經義釋 ❷十四卷(現存十卷) ❸存、卍續一・三六・三—五 ❹唐一行(弘道元—開元一五 A.D.683—727)述 ⑥大日經義釋の下を見よ。 ❼(參考) 新編諸宗教藏總錄第一

毘盧神變經科 ❶(日) Bi-ru-jim-ben-gyō-kwa. (支)Pi-lu-shen-pien-ching-k'o. ❷五卷大科一卷 ❹遼覺苑(—太康三 A.D. 1077—) ❼(參考) 新編諸宗教藏總錄第一

毘盧神變經胎藏敎 ❶(日) Bi-ru-jim-ben-gyō-tai-zō-kyō. (支)Pi-lu-shen-pien-ching-t'ai-tsang-chiao. ❷三卷 ❶文一詳定 ❼(參考) 新編諸宗教藏總錄第一

毘樓勒叉天王像 ❶(日)Bi-ro-ro-ka-sha-ten-ō-zō. ❷一幅 ❸存、大正圖像第七 ⑨(醍醐寺)

美術史上の弘法大師 ❶(日)Bi-jutsu-shi-jō-no-Kō-bō-dai-shi. ❷二卷 ❸存 ❹洋村專次郎著 ⑨(京尋)

美術上の釋迦 ❶(日)Bi-jutsu-jō-no-sha-ka. ❷一卷 ❸存 ❹堀謙德著 ❺明治四二刊 ⑩東京博文館

美人禪 ❶(日) Bi-jin-zen. ❷一卷 ❸存、禪門叢書第二 ❹笛國(清泉・芳巖著 ❺大正四刊 ⑩東京丙午出版社

美譚感話 ❶(日)Bi-dan-kan-wa. 趣味實演美譚感話 ❷一卷 ❸存 ❹菅原洞禪著 ❺大正一四刊 ⑩東京修養世界社

美亭義禪師語錄 ❶(日)Bi-tei-gi-zen-ji-go-roku. (支)Mei-ting-i-ch'an-shih-yü-lu. 盤山美亭義禪師語錄 ❷二卷 ❸存 ❹清美亭義語 ⑨刊本(駒大)

嵋白集 ❶(日)Bi-haku-shū. ❷一卷 ❸存 ❹源底遺淚(不識庵) ⑨刊本(駒大)

備後光照寺由來 ❶(日)Bin-go-kō-shō-ji-yu-rai. ❷一卷 ❸存 ⑨寫本(龍大、別藏)

備後山南光照寺一幅繪 ❶(日) Bin-go-san-minami-kō-shō-ji-ip-puku-e. ❸淨土眞宗教典志第二に云く「建武五年戊寅四月成。裏書存疑飾。雲隆圓」云々。

備後山南光照寺記錄 ❶(日)Bin-go-san-minami-kō-shō-ji-ki-roku. ❷一卷 ❸存 ⑨寫本(龍大)

備在次第 ❶(日)Bi-zai-shi-dai. ❷一卷 ❸存、弘法大師全集第一三貫僞宋決部 ❹空海(寶龜五—承和二 A.D. 774—835)

❺胎藏法の念誦次第で、冒頭に先發菩解心擇地作壇、備在=經第七卷行學品等=とあるによりて備在次第と稱する。此次第の類本に胎藏備在次第一卷がある。此兩次第は共に後人が弘法大師空海の胎藏略次第を本として印相說文等を加へたもので、大師の眞作ではない。兩次第を對照するに此次第が一層多く加筆してある。

❺鎌倉時代寫 ⑨(高大、寄・一・六九)(小田慈舟)

備中笠岡淨心寺記錄 ❶(日)Bic-chū-kasa-oka-jō shin-ji-ki-roku. ❷一卷 ❸存 ⑨寫本(龍大)

❺玄智(享保一〇—寛政六 A.D. 1725—1794) ⑨自筆本(龍大、別藏)

備忘 ❶(日) Bi-mō. ❷一卷 ❸存

備用清規 ❶(日)Bi-yō-shin-gi. (支)Pei-yung-ch'ing-kuei. 至大清規、澤山清規、備規、禪林備用清規 ❷一卷 ❸存、卍續二・一七・一 ❹元式成澤山(—至大四 A.D. 1311—)編 ❺至大清規の下を見よ。

鼻奈耶 ❶(日)Bi-na-ya. (支)Pi-nai-yeh. 鼻奈耶戒因緣經、鼻奈耶廣律、鼻奈耶律、戒因緣經、戒果因緣經、鼻奈耶經、試因緣經 ❷十卷 ❸存、大正二四・八五一 No.1464、鎌宗九、卍一九・四、北940結、南954結、元950結、明北1125上、清1125上、服943諸、天942結、指899諸、法928諸、至1234性、明南1299兄、N. 1130 ❹鳩摩羅什(—弘始一〇—建元頃 A.D. 353—384—)譯

❻本律は鼻奈耶戒因緣經と稱せられ、略して鼻奈耶と稱へ、近來は鼻奈耶廣律と稱へられてゐる。通常建元十八年(A.D. 382)の譯とするも、道安の序によるに歲在=壬午=(A.D. 382)鳩摩羅佛提費=阿毗曇抄=四阿含抄=來=至長安……即於=其夏=出=阿毗曇抄四卷=其冬出=四阿含抄四卷=、又其作國賓鼻奈、厥名耶舍國=鼻奈經=花利、即令=出=之佛提梵書、佛念筆譯、曇景筆受、自=正月十二日=出至=三月二十五日=乃了……二年之中、於=此秦邦=三藏具焉とある故に建元十九年(A.D. 383)の譯なるべしと推せらる。現存廣律中にては最古の譯である。從つて譯文に古風の面影があり、難澁であり十誦・四分等の餘律を見たる上ならでは容易に解讀することは困難である。道安の序には往年の曇摩持出の戒典と相似たること符を合はせたるが如しとあるから、此律中の戒文と曇摩持所出の戒本と大差はなかりしものであらふ。但し道安が「二百六十事に於て疑礙の滯都べて譯然たり」と述べたるより見るに、彼は鼻奈耶律の衆學法を仔細に數ふることをせざりしものであらふ。若し本律の衆學法が百十三事あるのを知つたならば、二百六十三事と云はねばならぬ。曇摩持所出の戒本の衆學法は彼の記によりて百七事なりしことは明かであるから、今の鼻奈耶律が百十三條なるよりして符節を合はせたるが如しとは云ひ得ない。而して曇摩持所出の戒本(A.D. 357)が如何なるものか知り得べくもなかつたのであるが、矢吹博士によりて紹介せられたる、建初元年寫

(A. D. 455)の戒本こそは、譯文甚だ素朴であり諸律戒文に存せざる異句を存し、且つ衆學法が一百七條である點より推して正しく曇摩持所出の戒本なるべしと考へ得られることは非常なる喜びである。次に衆學法の百十三事は羅什譯十誦比丘戒本及び梵本にも存するし、戒條の配列に於ても鼻奈耶律と大體相似しておる故に此等は何等かの系統を同じくするものであらふ。しかし羅什譯戒本及び梵本は十誦律と同樣に正しく有部系統であるが、この鼻奈耶律を直ちに有部系なりと斷ずることは危い。即ち戒條の配列順位と特殊の因緣譚の配置方法とによりて十誦律と本律とは何等かの系統を同じくする律典であり、その第一經戒に於て四分・五分・僧祇・巴利の四律には毘爾若婆羅門の記を出しておるが、鼻奈耶律と十誦律と有部律とは第一經戒の下に出さず、而も鼻奈耶と十誦律とは波逸提法第四十四條外道與食戒の下に出して有部律同戒下には出さずして薬事第十卷に出せり。鼻奈耶第八十波逸提戒條には迦留陀夷が阿羅漢道を得て九百九十九家を度するの記は、十誦律にも同戒下に同樣に出でゝおるが、有部律四處には九百九十九家の語がなく、却りて十八億家を教化せりとして十數箇の後が教化事蹟を出しておる。此等によりて鼻奈耶と十誦律とは何等かの系統を同じくするものなる事は明かであるが、しかし條文の第二制第三制として補足せる所謂隨同戒文が缺けておる。例へば鼻奈耶廣律大妄語戒の如きは三の別緣を出して三制を示し、且つ十誦律等に共通する「除ㄱ增上慢」この補足戒文が缺けておる。尤も「若比丘若俱ㄱ伽羅ㄱ起ㄱ神足」及自稱聖言ㄱ上人法」此比丘波羅夷不受」なる第三制戒文は諸律の增上慢なる補足戒文に相當すべけんも、鼻奈耶にては一戒中に整理せずして三つの獨立戒文を形成しておる。第四波羅夷の如き重要戒文に於て斯の如くに三制分出せるは甚だ不可解である。鼻奈耶廣律の如き戒條にては半月半月の說戒會上に於ける戒本讀誦に際しては三制中の何れを讀みあげるのであらふか甚だ疑問とすべきである。此等の例證は尙ほ多數に列ねうる。いかなる部派の律なりとも多少の譯語譯文の相違はあるも戒文の內容に於ては大差なきものであるのに、鼻奈耶と十誦律との如き大體同系統に屬すべしと考へらるゝ律に於て斯くも相違あるは何故なるか。これ四分・十誦等の諸律は戒文の廣解なりと解すべきであるが本律の如きは此等とは相違して廣解・因緣よりして戒文を作製せるが如くに考へうると共に、甚だしく整理せられざる律典なりといふべきである。而して現存諸律藏は分派以後の律であるから、此等諸律の由りて出で來れる本實一文の律を想定せざるを得ない。しかもその本實一文の律たるや相當整理せられたる律藏たりしと推定し得る。かくて相當整理されありし分派以前の假定律藏と本律とを比較する時、本律の如きは支那傳律上最古譯なると共に其內容の未整理なる點よりして更に一層古き律藏たりしと推せざるを得ない。かくて迦葉結集時の律編纂の原型がいかなるものなりしかは想定することが出來ないとはいへ、此の鼻奈耶廣律の存在するによりて結集當時の律藏は甚だ未整理のものであつたに相違なく、諸律藏の五百結集記事の如きは其儘にては事實なりしや否や甚だ疑はれ得るものと考へられる。尙又、鼻奈耶廣律に於ては諸律の如く持犯行相の廣解、戒文解釋等の無きより見て、結集當時の律編纂なるものは戒因緣と戒文位が結集されたるものなりと推し得る。此等の諸點よりして鼻奈耶廣律の現存せるは甚だ興味あるものである。

❷(參考) 三寶紀第八、內典錄第三、譯經圖紀第三、開元錄第四、貞元錄第六 (西本龍山)

鼻奈耶經 ❶(B)Bi-na-ya-kyō.(支)Pi-nai-yeh-ching. 鼻奈耶、鼻奈耶律、戒因緣經、戒果因緣經、試因緣經、鼻奈耶戒因緣經、鼻奈耶廣律 ❷十卷 ❸存、大正二四・八五一No. 1464、縮寫九、卍一九・四、北945姑、南934姑、元950姑、明北1125上、清7125上、麗943諸、天943姑、指899諸、法928諸、至1254性、明南1299兄、Nj. 1130 ❹竺佛念譯 ❺姚秦建元一四(A. D. 374) ❻鼻奈耶の下を見よ。

鼻奈耶律 ❶(B)Bi-na-ya-ritsu.(支)Pi-na-yeh-lü. 鼻奈耶、鼻奈耶戒因緣經、鼻奈耶廣律、戒因緣經、戒果因緣經、鼻奈耶經、試因緣經 ❷十卷 ❸存、大正二四・八五一No. 1464、縮寫九、卍一九・四、北945姑、南934姑、元950姑、明北1125上、清1125上、麗943諸、天943姑、指899諸、法928諸、至1254性、明南1299兄、Nj. 1130 ❹姚秦竺佛念(建元頃—A. D. 365—384—)譯 ❷(參考) 諸宗章疏錄第一

蜱肆經 ❶(B)Bi-shi-kyō.(支)Pei-ssŭ-ching.(E)D. 23 Pāyāsi s. ❸存、中阿含經第一六(大正一・五一五No. 26, 71)

頻那夜迦天儀軌經 ❶(B)Bi-na-ya-ka-ten-gi-ki-kyō.(支)Pin-na-yeh-chia-tien-i-kuei-ching. 金剛薩埵說頻那夜迦天成就儀軌經 ❷四卷 ❸存、大正二一・三〇六No. 1272、縮成一一、卍一六・一〇、北1209冠、南1225冠、元1219冠、明北1054思、清1054思、麗1217千、天1205冠、法1333敬、至862說、明南886薄、Nj. 1039 ❹宋法賢(—成平四 A. D. 1001)譯 ❺金剛薩埵說頻那夜迦天成就儀軌經の下を見よ。

髀訶提經 ❶(B)Bi-ka-dai-kyō.(支)Pei-ho-ti-ching.(E)M. 98 Bahitika s. ❸存、中阿含經第五九(大正一・七九七No. 26, 214)

髀訶提經 ❶(B)Bi-ka-dai-kyō. 現代意譯髀訶提經 ❸存、現代意譯根本佛教聖典叢書第一〇編部聖典 ❹羽溪了諦、甲斐實行共譯

髀娑陵耆經 ❶(B)Bi-sha-ryō-gi-kyō.(支)Pei-so-ling-chi-ching.(E)M. 81 Ghaṭīkāra s. ❸存、中阿含經第一一(大正一・四九九No. 26, 43)

髀婆沙阿毘曇論 ❶(B)Bi-ba-sha-a-bi-don-ron.(支)Pi-p'o-sha-a-pi-t'an-lun. 髀婆沙論、阿毘曇毘婆沙 ❷十四卷 ❸存、大正二八・四一六No. 1547、縮收九、卍二五・二—三、北973洛浮、南963洛浮、元935洛浮、明北1272肆疑、清1272肆疑、麗978洛浮、天978洛浮、指935洛浮、法962洛浮、至1421剃銘、明南1427鐵肆、Nj. 1279 ❹佛跋澄譯 ❺符秦建元一九(A. D. 383) ❻髀婆沙論の下を見よ。

髀婆沙論 ❶(B)Bi-ba-sha-ron.(支)Pi-p'o-sha-lun. 阿毘曇毘婆沙、髀婆沙阿毘曇論 ❷十四卷 ❸存、大正二八・四一六No. 1547、縮收九、卍二五・二—三、北973洛浮、南963洛浮、元935洛浮、明北1272肆疑、清1272肆疑、麗978洛浮、天978洛浮、指935洛浮、法962洛浮、至1421剃銘、明南1427鐵肆、Nj. 1279 ❹佛跋澄譯 ❺符秦建元一九(A. D. 383)

〔一〕髀婆沙論は本論初頭の文に據れば、阿毘曇八犍度即ち(1)雜と(2)結使と(3)智と(4)行と(5)四大と(6)根と(7)定と(8)見との八蘊を說くのであると言つてゐるれども、髀婆沙は即ち Vibhāṣa(毘婆沙)であつて、廣說又は廣釋を意味するし、其內容から見るも、こは發智又は八犍度論を廣說するものであつて、六十卷婆沙又は二百卷婆沙と其の趣意を同じくする說一切有部の一論書に外ならぬ。

〔二〕此が支那への飜譯に就いては、釋道安法師の「髀婆沙序」に言ふ「前秦建元十九年(A. D. 383)に罽賓の沙門僧伽跋澄(Saṃghavarman)が尸陀槃尼の撰なる此經四十二處を時誦し來りて長安に至り、其國の沙門曇無難提(Dharmanandi)が之を筆受して梵文とし、佛圖羅刹(Buddharakṣa)が譯傳し、敏智が筆受して此を秦言と爲し、道郎が正義し、四月に續じ初めて八月二十九日に完了した」と。此道安の序を信ずる限り、譯者は嚴密には、一般にいはるゝ僧伽跋澄ではなくして、佛圖羅刹としなければならぬ理である。(出三藏記集卷第十(大正五五・七三頁中・下)參照)。

〔三〕本論の內容を便宜上、序文と本文とに分けて見ることが出來る。而して其序文と稱すべき部分は、正しく二百卷婆沙卷第一序品に相當するものであつて、其說順及び主旨は略同樣であるが、本論の方が簡略であり、多少の參差がある點を異りとする。

次に本文と稱すべき部分は、二百卷毘婆沙の第二結蘊不善根納息中の所謂章と稱すべき前半と、十門納息中の章と稱すべき前半とであつて、特に、最初に結蘊の說明を述べてゐる點の如きは、二百卷婆沙の文と、內容といひ、景といひ吟んど同じである。但、相違を言へば、—譯文上の相違は論外として—二百卷婆沙にて世者姊婆說とあるを、本論が世者曇無多羅(Dharmatrāta)とするが如き其の著しきものの一とする程度に過ぎない。

此本文に就きて、道安は次の如く言つてゐる。「經は本、甚だ多かつたので、其人即ち僧伽跋澄が忘失して唯四十事(實際は四十二處)のみを傳へた。此は阿毘曇十門の本を輯したものである。而して其中、十五事を分ちて小品として前に置き、二十五事(實は二十七事)を以て大品と爲して後に置く。此大小二品は全く損する所なく、其後の二處は是を忘失す云々」と。

然らば道安の言ふ小品大品は如何なるものであるか。少し煩はしいけれども、本論本文の內容を明瞭ならしめる爲に順に隨つて列示して見よう。

(小品) (1)三結處。(2)三不善根處。(3)三有漏處。(4)四流(瀑流)處。(5)四受(取)處。(6)四縛(身繫)處。(7)五蓋處。(8)五結處。(9)五下結處。(10)五上結處。(11)五見處。(12)六身受處。(13)七使處。(14)九結處。(15)九十八使處。

(大品) (16)二十二根處。(17)十八界處。(18)十二入處。(19)五陰處。(20)五盛陰處。(21)六界處。(22)色無色法處。(23)可見不可見法處。(24)有對無對處。(25)有漏無漏處。(26)有爲無爲處。(27)三世處。(28)善不善無記處。(29)欲界・色界・無色界繫法處。(30)學・無學・非學非無學法處。(31)見斷・思惟斷・不斷法處。(32)四聖諦處。(33)四禪處。(34)四等(無量)處。(35)四無色處。(36)八解脫處。(37)八除入處。(38)十一切入處。(39)八智處。(40)三三昧處。(41)中陰處。(42)四生處。

である。二百卷婆沙に於いても亦、十門納息を四十二章に分つて居るが、此中の四十二處と異る點は、前者は以上の外に、四顚倒と三重三昧とを加へ、中陰處と四生處との二を除いてゐる。此後の中陰即ち中有論は二百卷婆沙にては卷第六九・七〇等に說き、四生論は卷第一二〇に說いてゐるのである。因此見之、本論の四十二處は、八犍度論中の四十章とも五順上分結を說く點を異にするから、やはり發智論系の毘婆沙なのであらう(大東出版社發刊國譯一切經毘曇部十八、最後の解題八頁參照)。四顚倒を除くは、四顚が四流と全く其內容を等しくするからである事は推察するに難くない。因みに道安が二處を忘失すと言ふ意味は、何を指すか明でない。此二處を發智八蘊四十納息中の二納息なりと解する學者もあるが、此は內容を吟味しないで單に品數に執はれたいみじき誤解といはざるを得ぬ。

〔四〕有部の諸論書としての本論の地位に就きて、同じく道安は、「又、三藏講あり、一を尸陀槃尼と名づけ、二を達嚩と名づけ、三を髀羅尼と名づく。何れも髀婆沙を撰し、廣く聖說を引き、皆は執ち古に據り、阿毘曇を釋せり。其の引據せらるゝものは、皆是れ大士眞人にして佛印の印する者なり。達嚩は迭うて煩に近く、髀羅は要なるも而も略に近し。尸陀最も拆中す云々」と言ひ、本論の阿毘曇の廣說としての地位を要と量とに於て中庸を得たものと非常に高く評價してゐる樣である。此中の達嚩及び髀羅の著せし毘婆沙が果して如何なるものであつたか、明瞭でないが、以上、本論の內容を點檢するに、說相說順が大同であり乍ら、說人等を二百卷婆沙等と異にする等の點よりして、玄奘譯の毘婆沙と傳統を異にする說一切有部の一學統の所傳にかゝる一部の大毘婆沙論の、結蘊中の章のみを拔萃せしものであつて、發智の毘婆沙としては、不完備なる原典の一斷片的譯本

名所行狀❽ ❼題名(書名) ❻數卷 ❺缺存 ❹著 ❸代年作譯 ❷內容說解 ❶本文(註釋)書(參考)書 ❷月年の刊寫 ❶寫所現藏(書庫)書

ひがしのくにのあきのかぜ 東国の秋の風 ㊐(名)(文芸・俳諧) 芭蕉の句。『笈の小文』に「海辺にさまよひて、浜の真砂を踏まむ事、心苦しきに、ものの音波に聞こえ、人影に驚かされ、ただ一人、浪打ち際を行く。…海は荒て、人魚の泣く涙か、と思ふ。…」と、芭蕉の旅の孤独・不安・寂寞・感傷・期待・興奮・高揚・安堵・満足・…の、様々な心の動きを、海の様子・海辺の様子・海の生き物・海の音・海の匂・海の色・海の光・海の味・海の温・海の冷・海の…と、海の様子を通して、様々に表現した。

千日の修験 千日の間、山に入って修験すること。（謡曲）

千日の参詣 千日の間、毎日欠かさず参詣すること。（謡曲）

千日の法華 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

千日の法華経 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

千日の法華の行 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

千日の法華の行者 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

千日の法華の行者の法 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

千日の法華の行者の法の力 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

千日の法華の行者の法の力の 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

千日の法華の行者の法の力の力 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

千日の法華の行者の法の力の力の 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

千日の法華の行者の法の力の力の力 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

千日の法華の行者の法の力の力の力の 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

千日の法華の行者の法の力の力の力の力 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

千日の法華の行者の法の力の力の力の力の 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

千日の法華の行者の法の力の力の力の力の力 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

千日の法華の行者の法の力の力の力の力の力の 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

千日の法華の行者の法の力の力の力の力の力の力 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

千日の法華の行者の法の力の力の力の力の力の力の 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

千日の法華の行者の法の力の力の力の力の力の力の力 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

千日の法華の行者の法の力の力の力の力の力の力の力の 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

千日の法華の行者の法の力の力の力の力の力の力の力の力 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

千日の法華の行者の法の力の力の力の力の力の力の力の力の 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

千日の法華の行者の法の力の力の力の力の力の力の力の力の力 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

千日の法華の行者の法の力の力の力の力の力の力の力の力の力の 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

千日の法華の行者の法の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

千日の法華の行者の法の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

千日の法華の行者の法の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

千日の法華の行者の法の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

千日の法華の行者の法の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

千日の法華の行者の法の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

千日の法華の行者の法の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

千日の法華の行者の法の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

千日の法華の行者の法の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

千日の法華の行者の法の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

千日の法華の行者の法の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

千日の法華の行者の法の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

千日の法華の行者の法の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

千日の法華の行者の法の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

千日の法華の行者の法の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

千日の法華の行者の法の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

千日の法華の行者の法の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

千日の法華の行者の法の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

千日の法華の行者の法の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

千日の法華の行者の法の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の力の 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

千日の法華の行者の法の力 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

千日の法華の行者の法の力の 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

千日の法華の行者の法の力 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

千日の法華の行者の法の力の 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

千日の法華の行者の法の力 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

千日の法華の行者の法の力の 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

千日の法華の行者の法の力 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

千日の法華の行者の法の力の 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

千日の法華の行者の法の力 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

千日の法華の行者の法の力の 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

千日の法華の行者の法の力 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

千日の法華の行者の法の力の 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

千日の法華の行者の法の力 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

千日の法華の行者の法の力の 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

千日の法華の行者の法の力 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

千日の法華の行者の法の力の 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

千日の法華の行者の法の力 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

千日の法華の行者の法の力の 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

千日の法華の行者の法の力 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

千日の法華の行者の法の力の 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

千日の法華の行者の法の力 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

千日の法華の行者の法の力の 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

千日の法華の行者の法の力 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

千日の法華の行者の法の力の 千日の間、毎日欠かさず法華経を唱えること。（謡曲）

**千日の法華の行者の法の力

-gaku-ryaku-hō. (梵) Pi-ch'u-hsiu-hsüeh-liao-fa. 倶舎論1切有部宗義略説法 ❹1巻 ❺存 ❻天正四写・丸1二 No. 1905 ❼漢 ❽1巻 ❾存 ❿大正四写・丸1二 No. 1443 ⓫卍1・丸・六 ⓬明治1132天 ⓭元1132天 ⓮明治1307天 ⓯成立年代巳詳 ⓰元亨元年(A. D. 1270) ⓱倶舎論1切有部宗義略説の下巻と見る。

毘婆尼毘婆沙 ❶(日) Bis-shu-ni-kai-kyō. (梵) Pi-ch'u-ni-chieh-ching. 倶舎論1切有部毘婆尼毘婆沙 ❷1巻 ❸存 ❹大正二四・五〇八 No. 1455 ❺漢 ❻卍1・丸・七 ❼917永 ❽920永 ❾916永 ❿明治1144宮 ⓫1144宮 ⓬904宮 ⓭910永 ⓮866宮 ⓯895宮 ⓰1220叡 ⓱明治1264叡 ⓲Nj. 1149 ⓳唐 ⓴(以前丸一天天二) A. D. 615—713)頃 ㉑北魏菩提流支 (A. D. 710) ㉒倶舎論1切有部宗義略説の下巻と見る。

毘婆尼毘婆那 ❶(日) Bi-shu-ni-bi-na-ya. (梵) Pi-ch'u-ni-p'i-nai-yeh. 倶舎論1切有部毘婆尼毘婆那 ❷二1巻 ❸存 ❹大正二三・九〇七 No. 1443 ❺漢 ❻卍1・丸・一 ❼896乗 ❽896乗 ❾910乗 ❿935乗 ⓫899乗 ⓬899乗 ⓭855乗 ⓮883乗 ⓯1210叡 ⓰1255土 ⓱明治1264叡 ⓲Nj. 1124 ⓳唐 ⓴(以前丸一天天二) A. D. 635—713)頃 ㉑北魏菩提流支 (A. D. 710) ㉒倶舎論1切有部宗義略説の下巻と見る。

毘婆尼毘婆沙 ❶(日) Bis-shu-ryaku-yō-gi. ❷五巻 ❸存 ❹貞慶(鎌倉天一建暦元年 A. D. 1194—1252)著

❺倶舎論の略説である。二百五十巻の大部の倶舎論を五巻の中に要約して説き、法と世間の二種の世間、三に器世間、四に衆生世間、五に業世間、六に賢聖世間、七に聖道世間、八に非聖道世間、九に有為世間、十に無為世間を説き、法に世間を説いて世間を説き、世に器世間、三に衆生世間、四に業世間、五に賢聖世間、六に聖道世間、七に非聖道世間、八に有為世間、九

のみならず、内容上既説とほゞ一致説出されてゐる西蔵語訳に比べて、それが漢訳されたと云ふ西蔵語訳には無かつたものが、漢訳に新たに加へられてゐるのである。それ故、漢訳の原本には、それ以外のものが含まれてゐたことは確かである。――有つたものを全部そのまゝ漢訳したのか、それとも一部分を省いたのか、それは詳細な研究を待つて、はつきりさせなければならない問題ではあるが、漢訳の時期頃までに、既説系統の経典の中から、別に新たに、或は、その中の一部分を抜き出して、一つの経典として、独立に、漢訳されたものと、それ以外の、既説系統の経典の中から、別に、新たに、或は、その中の一部分を抜き出して、一つの経典として、独立に、漢訳されたものとの、二種類があつたことは、明かである。

（大谷光照）

百字論 ❶(日)Hyaku-ji-ron. (支)Pai-tzŭ-lun. 百字論 ❷1巻 ❸存、大正三〇・一一五〇No. 1572、編番一一、卍一一一・五、宋640頁、崇654頁、元646頁、明北1247頁、南1247頁、麗638頁、天610頁、那609頁、法630頁、新1369中、明南1387番、Nj. 1254 ❹聖提婆菩薩造 ❺後秦姚秦天子元―天子三一（A. D. 508―535）

❻百字論（akṣara-çataka-çāstra）はこの題目の略。「百字と呼ばれる一種の詩（akṣara-çataka-kati nāma britti）」と題する西蔵語のみ現存して、その梵本は未だ発見されない。

本論は唯識説を基礎として成立し、唯識は、因縁に基づて現出せられてゐる。現在の方は自然に存在（bhāva）の自性（svabhāva, ātmatva）を固定する、その本論の主題である。「特に数論（Sāṁkhya）及び勝論（Vaiçeṣika）の説を論駁の前提として、第一義諦・因中有果説・無因説及び非有非無説の四を論駁して、この百字一十句は、既説に対して、西蔵語訳の様式の様式に及ぼされた未だ、西蔵語訳十句の様式は唯識の形をとつてゐない。おそらく原典は唯識説系統の形ではなく、五字一句の合頌二十句を合成したものであらう。果して、それが、梵文に対しても唯識

居るが、古尊宿語要に於ては同書卷二の終りは語默唯笑、盡是佛髓とあり、次の如何は大乘入道頓悟法要、其下の六項の問話は、本書に收められて居て、古尊宿語要に收められた讀錄には缺けて居る。

語要に、報恩、涅槃、迦葉、寶積等の諸經及び寶誌、傅翕、僧肇等の語句を引用し、華嚴金剛般若の所說を述べて居るのは、百丈禪師の思想的背景を窺ふ資ともなるものである。語に云ふ「善知識に參じて一知一解を求覓する是れ善知識の魔なり、語見を生ずるが故に。若し四弘誓願を發して願ふて一切衆生を度し盡し然して後、我れ始めて成佛すといふも是れ菩薩法智の魔なり、誓願相捨てざるが故に。若し齋戒を持し禪を修し慧を學ばば、是れ有漏の善根なり、縱ひ道場に坐して成等正覺を示現し恒沙數の人を度して、盡く群支佛果を證せしむるも、是れ業根の魔なり、貪著を起すが故に。(中略)佛を求め菩提及び一切有無等の法を求むるは、是れ本を棄て末を逐ふたなり。或だ知今、能食、命を助け破を補ひ寒を遮り、渴すれば則ち水を掬して喫す、餘外但だ是れ一切有無等の法、都べて無念の繫念無くんば、此の人輕明の分有り。」とあるが故に一日不作一日不食の行業を對比して宗眼明かなるものを觀ることが出來る。

（大久保堅瑞）

百丈古清規 ❶(日)Hyaku-jō-ko-shin-gi. (支)Pai-chang-ku-ch'ing kuei. ❸存 ❹唐百丈懷海(開元八—元和九 A. D. 720—814) ⑥勅修百丈清規は本書を重編せるもの、同項の下參照。 ❼(參考) 禪籍志卷上

百丈山和尚要決 ❶(日)Hyaku-jō-san-o-shō-yō-ketsu. (支)Pai-chang-shan-ho-shang-yao-chueh. ❷一卷 ❹唐百丈懷海(開元八—元和九 A. D. 720—814)

百丈山大智禪師廣錄 ❶(日)Hyaku-jō-san-dai-chi-zen-ji-kō-roku. 國譯百丈山大智禪師語錄 ❸存、國譯禪宗叢書第二輯 ❹唐百丈懷海(開元八—元和九 A. D. 720—814)

百丈山大智禪師語錄 ❶(日)Hyaku-jō-san-dai-chi-zen-ji-go-roku. 國譯百丈山大智禪師語錄 ❸存、國譯禪宗叢書第二輯 ❹唐百丈懷海(開元八—元和九 A. D. 720—814)

百丈清規 ❶(日)Hyaku-jō-shin-gi. (支)Pai-chang-ching-kuei. 勅修百丈清規、勅修清規 ❷四卷或八卷、十卷 ❸存、大正四八・一一〇九 No. 2025、續藏一〇・卍續二・一六・三、明北1636號、清1614本於、Nj. 1642 ❹元德輝(—至元元 A. D. 1335—) 重編、大詳今悟校 ⑥勅修百丈清規の下を見よ。 ⑨寶永六刊(京大、一・二五ヒ・一)(帝、ふ・三・中・二九)(駒大)萬治四刊(駒大)寶文元刊(內閣)古刊本(帝國、特別・二・貴)

百丈清規雲桃抄 ❶(日)Hyaku-jō-shin-gi-un-tō-shō. 百丈清規抄 ❷十二卷(內別抄二卷) ❸存 ❹雲章一慶(至德三—寶正四 A. D. 1386—1463)說、後源瑞仙(永享二—延德元 A. D. 14.30—1489)記 ❼(參考) 日本禪林撰述書目

百丈清規左鑑 ❶(支)Hyaku-jō-shin-gi-sa-ka. 勅修百丈清規左鑑 ❷十一卷或二十卷(目錄一卷) ❸存 ❹無著道忠(永應二—延享元 A. D. 1613—1744)述 ⑨寫本(京大、一・二五ヒ・二)(帝國、八二二・三)

百丈清規抄 ❶(日)Hyaku-jō-shin-gi-shō. 百丈清規雲桃抄 ❷十卷 ❸存 ❹雲章一慶(至德三—寶正四 A. D. 1385—1463)說、後源瑞仙(永享二—延德元 A. D. 1430—1489)記 ❼(參考) 禪籍目錄

百丈清規抄 ❶(日)Hyaku-jō-shin-gi-shō. 勅修百丈清規抄 ❹義堂周信(正中二—嘉慶二 A. D. 1325—1388) ❼(參考) 日本禪林撰述書目、禪籍目錄

百丈清規抄 ❶(日)Hyaku-jō-shin-gi-shō. ❹雪嶺永瑾(—永正元 A. D. 1504—) ❼(參考) 日本禪林撰述書目、禪籍目錄

百丈清規抄 ❶(日)Hyaku-jō-shin-gi-shō. 勅修百丈清規抄 ❷十五卷 ❸存 ❼(參考) 日本禪林撰述書目 ⑨刊本(駒大)

百丈清規抄 ❶(日)Hyaku-jō-shin-gi-shō. ❹萬宗中國 ❼(參考) 日本禪林撰述書目、禪籍目錄

百丈清規證義記 ❶(日) Hyaku-jō-shin-gi-shō-gi-ki. (支)Pai-chang-ch'ing-kuei-cheng-i-chi. ❷九卷 ❸存、卍續二・一六・四—五 ❹儀潤述 ❺清道光三(A. D. 1823) ⑥本書は其の凡例に於て「證義之作。或隨文釋顯。或卽事顯理。或補其要義。或推廣衍說。」と言へるが如く、百丈懷海禪師の清規に依つて註釋演義したもので、述者は杭州城窓舊上廻龍眞寂寺の源洪儀潤和尙である。儀潤は、清道光三年孟夏自志日(A. D. 1823)自序して梓行したものである。後に清同治十年八月(A. D. 1871)海潮寺清道普照和尙は重刻序を撰して本書が成豐十年以後兵燹に遭うて藏板の毀滅を生じたので歸月和尙等と募緣して重刻したものである。續藏本には是等の諸序を收めて居る。其の篇次は、

卷首に(一)楊億の原序。(二)儀潤の證義記自序。(三)松齡序。(四)陳桂生序。(五)沈起渭の序。(六)清同治十年八月の普照の重刊本の序。(七)願定の跋。(八)目錄。(九)凡例十三條。(一〇)五重元義。を收め。卷一には祝聖章の六事。卷二に報恩章十二事。卷三に報本章十二事。卷四に尊祖章十三事。卷五に住持章五十五事。卷六に兩序章九十四條。卷七に大衆章七十五事。卷八に節臘章二十八事。卷九に法器章六事を收め、附するに地名の異同を考證した地輿名目一卷を以てしたものである。

（大久保堅瑞）

百丈清規要綱 ❶(日)Hyaku-jō-shin-gi-yō-kō. ❹雲章一慶(至德三—寶正四 A. D. 1386—1463) ❼(參考) 日本禪林撰述書目、禪籍目錄

百丈叢林清規 ❶(日)Hyaku-jō-sō-rin-shin-gi. (支) Pai-chang-tsung-lin-ch'ing kuei. ❷二卷 ❸存、勅修百丈清規

(卍續二・一六・三)之內 ❹唐懷海(開元八—元和九 A. D. 720—814)集

百城北遊錄 ❶(日)Hyaku-jō-hoku-yū-roku. ❹本陳道忠 ❷(參考) 禪籍目錄

百拙和尚行實 ❶(日)Hyaku-setsu-o-shō-gyō-jitsu. ❷一卷 ❸存 ❼(參考) 禪籍目錄

百拙和尚結制錄 ❶(日)Hyaku-setsu-o-shō-kess-sei-roku. 佛國百拙和尚結制錄 ❷一卷 ❸存 ❹百拙元美(寬文七—寬延二 A. D. 1667—1749) ❼(參考) 禪籍目錄

百拙和尚語錄 ❶(日) Hyaku-setsu-o-shō-go-roku. ❷三卷 ❸存 ❹百拙元美(寬文七—寬延二 A. D. 1667—1749)語 ❼(參考) 大日本佛教全書續刊豫定書目

百拙和尚山居詩 ❶(日)Hyaku-setsu-o-shō-san-kyo-shi. ❷一卷 ❸存 ❹百拙元美(寬文七—寬延二 A. D. 1667—1749) ❼(參考) 禪籍目錄

百拙和尚奏對錄 ❶(日)Hyaku-setsu-o-shō-so-tai-roku. ❷一卷 ❸存 ❹百拙元美(寬文七—寬延二 A. D. 1667—1749) ❼(參考) 禪籍目錄

百千印經 ❶(日)Hyaku-sen-in-gyō. (支) Pai-ch'ien-yin-ching. 百千印陀羅經 ❷一卷 ❸存、大正二一・八八五 No. 1369、續成八、卍二二・六、北459羊、南472罔、元465罔、明北499行、清499行、騰484盡、法447讖、至647文、明南54行、Nj. 503 ❹實叉難陀譯 ❺唐證聖元—長安四(A. D. 695—704) ⑥百千印陀羅尼經の下を見よ。

百千印陀羅尼經 ❶(日)Hyaku-sen-in-da-ra-ni-kyō. (支) Pai-ch'ien-yin-t'o-lo-ni-ching. 百千印經 ❷一卷 ❸存、大正二一・八八五 No. 1369、續成八、卍二二・六、北459羊、南472羊、元465羊、明北499行、清499行、騰484盡、天465羊、指416讖、法447讖、至647文、明南54行、Nj. 503 ❹實叉難陀譯 ❺唐證聖元—長安四(A. D. 695—704) ⑥百千印陀羅尼經の下を見よ。

百千印陀羅尼經 ❶(日)Hyaku-sen-in-da-ra-ni-kyō. (支) Pai-ch'ien-yin-t'o-lo-ni-ching. 百千印經 ❷一卷 ❸存、大正二一・八八五 No. 1369、續成八、卍二二・六、北459羊、南472羊、元465羊、明北499行、清499行、騰484盡、天465羊、指416讖、法447讖、至647文、明南54行、Nj. 503 ❹實叉難陀譯 ❺唐證聖元—長安四(A. D. 695—704) ⑥百千印陀羅尼經の下を見よ。

⑥一時佛が王舍城の耆闍崛山に居られた時、大比丘衆及び大菩薩衆等に對し、我に百千印と名くる陀羅尼があると說し、根本陀羅尼と陀羅尼心呪とを明し已つて、若し比丘・比丘尼・優婆塞・優婆夷、及び餘の善男子・善女人等が、能く此の百千印陀羅尼(三呪)を書寫して塔中に置けば、其の功德は實に甚深廣大であつて、百千の塔を造立したと異る所はないと說かれてある。本經の原本は梵本で別本とは少しく異る。

百千印陀羅尼經 ❶(日)Hyaku-sen-in-da-ra-ni-kyō. (支) Pai-ch'ien-yin-t'o-lo-ni-ching. ❷一卷別本 ❸存、大正二一・八八六 No. 1369、續成八、卍二二・六、北459羊、南472羊、元465羊、明北499行、清499行、天465羊、清416讖、法447讖、至647文、明南54行、Nj. 503 ❹實叉難陀譯 ❺唐證聖元—長安四(A. D. 695—704) ⑥本經は明本を原本とし、宋・元二本を以て之を對校したもので、梵本とは字句の上に多少の異同がある。

（神林隆淨）

百千俱胝佛土義略 ❶(日)Hyaku-sen-ku-chi-butsu-do-gi-ryaku. 十萬億土衆說決擇記 ❷一卷 ❸存 ❹慧然(元祿六—明和元 A. D. 1693—1764)述 ⑨明和三寫(谷大、宗大・三九三五)、明和四寫(谷大、宗大・三〇五六)寫本(龍大、一五〇二・一四)(谷大、宗大・二〇六、四三八三—四三八四)

百千頌 ❶(日) Hyaku-sen-jū. (支) Pai-ch'ien-sung. ❷一卷 ❸存、大正三二・七五八 No. 1080、續藏九、卍二七・二、北1024歌、南1044歌、元1040歌、指993歌、法1019歌、至1482番、明南1132緯、Nj. 1456 ❹慶唯里利制吒造、義淨(貞觀九—先天二 A. D. 635—713)譯 ⑤唐久視元—登雲二(A. D. 700—711) ⑥一百五十讚佛頌の下を見よ。

百千頌大集經地藏菩薩請問法身讚 ❶(日)Hyaku-sen-jū-dai-jū-kyō-ji-ji-bo-bo-satsu-shō-mon-hō-shin-san. (支)Pai-ch'ien-sung-ta-chi-ching-ti-tsang-p'u-sa-ch'ing-wen-fa-shen-tsan. 地藏本門法身讚、地藏菩薩請問法身讚、地藏法身讚 ❷一卷 ❸存、大正二三・七九〇 No. 413、館圖一五、卍二七・二、北1355淡、南1333尹、元1347尹、明北1450隷、清1450隷、騰1399尹、天1337尹、法1183八、至1151乘、834止、明南1147無、三十帖策子第二〇、Nj. 1457 ❹不空(神龍元—大曆九 A. D. 705—774)譯 ⑥唐天寶五—大曆九(A. D. 746—774)

⑥三十帖冊子に收められ、空海によつて請來されたもの。五言一百二十八偈四百九十六句と附偈七言一偈四句より成り、地藏菩薩の大悲攝化の功德を讚歎してある。大集經を名乘るも大集部の地藏思想には關係なく、前半は主として摩伽羅系の思想を以て法身を讚歎し、後半に至りて大瑜伽自在、佛影皆變化等として法身より種々の祕密身の顯現することを說いて密教的思想を描出してゐる。但し本文中には一回も地藏の名現れず、この點よりすれば、寧ろ一般的に法身を讚ぜるものとするが妥當であらう。

（美濃晃順）

百藏指南 ❶(日)Hyaku-zō-shi-nan. ❷一卷 ❸存 ❹慈等(—文政二 A. D. 1819)撰 ❺明和元(A. D. 1764) ⑨(寫永寺)

百藏和解 ❶(日)Hyaku-zō-wa-ge. ❷一卷 ❸存 ❹忍鎧述 ❺享保一九刊 ⑨(淺谷寬泰)

百草松蓮寺の記 ❶(日)Hyaku-sō-shō-ren-ji-no-ki. ❷一卷 ❸存 ❹竹村立義著 ⑨寫本(帝國、二二・一六九)

百體三十三卷般若心經 ❶(日) Hyaku-tai-san-jū-san-gwan-han-nya-shin-gyō. ❷六卷 ❸存 ❹槃譜(—寶永七 A. D. 1710—) ❺寶永六寫 ⑨(正大、一二五・四六)

百題自在坊 ❶(日) Hyaku-dai-ji-zai-bō. ❼(參考) 本朝台臺撰述書都書目

百癩和尚梵勝散錄 ❶(日)Hyaku-

-chi-o-shō-bon-shō-san-roku. (支) Pai-ch'ih-ho-shang-fan-shêng-san-lu. ❷1卷 ❸各 ❹宗教 ❺1724年 (一説に1721年) A. D. 1724 ❻宗教用 ❼(高大)

百丈清規坐禅儀 ❶(日) Hyaku-chi-zen-ji-go-roku. (支) Pai-ch'ih-ch'an-shih-yü-lu. ❷2卷 ❸各 ❹禅 ❺宋崇寧元年頃 ❻(参考) 鎌倉時代

百錬抄 ❶(日) Hyaku-tsū-kiri-kami. 俗本国書名 ❷四卷 ❸各 ❹歴史 ❺寛文元年 (A. D. 1661)

❻俗本は「百錬抄」と云へり。「文徳」以下「後鳥羽」に至る。「百錬」の名は、「文徳」以下「後鳥羽」に至る。「百錬」の名は、「百錬」の名は、「百錬」の名は、

百法明門論纂釋 ❶(B)Hyap-pō-myō-mon-ron-san-shaku. (支) Pai-fa-ming-men-lun-tsuan-shih. ❹明德清(嘉靖二五—天啓三A. D. 1546—1623) ❺大日本續藏經第七十六・第五冊所收の百法明門論論義のことか。 ❷(参考) 佛書志卷下

百法明門論直解 ❶(B)Hyap-pō-myō-mon-ron-jiki-ge. (支) Pai-fa-ming-men-lun-chih-chieh. 大乘百法明門論直解 ❷一卷 ❸存、卍續一・七六・五、卍續二・三・四 相宗八要直解第一之内 ❹明智旭(萬曆二七—永曆九A. D. 1599—1655)述 ❺大乘百法明門論直解の下を見よ。

百法明門論疏 ❶(B)Hyap-pō-myō-mon-ron-sho. (支)Pai-fa-ming-men-lun-shu. 大乘百法明門論疏、百法論疏 ❷二卷 ❸存、大正四四・五二No. 1837、卍續一・七六・五 ❹唐窺基(貞觀六—永淳元A. D. 632—682)述 ❺寛政五刊 ❻(高大、寄・一・一三)

百法明門論疏 ❶(B)Hyap-pō-myō-mon-ron-sho. (支)Pai-fa-ming-men-lun-shu. 百法論疏、百法疏、大乘百法明門論疏 ❷一卷 ❸缺 ❹義忠述 ❷(参考) 雲巖寺和尚請來法門道具等目錄

百法明門論贊言 ❶(B)Hyap-pō-myō-mon-ron-sei-gon. (支) Pai-fa-ming-men-lun-tsai-yen. 大乘百法明門論贊言 ❷一卷 ❸存、卍續一・七六・五、相宗八要直解第一 ❹唐窺基(貞觀六—永淳元A. D. 632—682)註解、明明昱(一萬曆四二A. D. 1612—)贊言 ❺大乘百法明門論贊言の下を見よ。

百法明門論註 ❶(B)Hyap-pō-myō-mon-ron-chū. (支)Pai-fa-ming-men-lun-chu. 大乘百法明門論解、百法明門論解 ❷一卷或二卷 ❸存、大正四四・四六 No. 1835、館訓九、卍續一・七六・五、明北1640敦、清1624藝 ❹唐窺基(貞觀六—永淳元A. D. 632—682)述 ❺大乘百法明門論解の下を見よ。

百法明門論註俗詮 ❶(B)Hyap-pō-myō-mon-ron-chū-zoku-sen. ❷一卷 ❸存 ❹宗興(文化一二—明治一三A. D. 1815—1880)述 ❷(写本(龍大)

百法明門論略記 ❶(B)Hyap-pō-myō-mon-ron-ryak-ki. 大乘百法明門論略記、大乘百法明門論會疏、百法明門論會疏 ❷一卷 ❸存 ❹玄心性亮(—元祿一二A. D. 1699) ❺元祿一四刊 ❻(京大、日大来・一四九)(京専)

百法明門論論義 ❶(B)Hyap-pō-myō-mon-ron-gi. (支) Pai-fa-ming-men-lun-i. 大乘百法明門論論義、百法論義 ❷一卷 ❸存、卍續一・七六・五 ❹明德清(嘉靖二五—天啓三A. D. 1546—1623)述 ❺大乘百法明門論論義の下を見よ。

百法問抄第二第三第四私記 ❶(B)Hyap-pō-mon-shō-dai-ni-dai-san-dai-shi-shi-ki. ❷一卷 ❸存 ❹(正大、一一九二・三四九)

百法問答聞書 ❶(B)Hyap-pō-mon-dō-kiki-gaki. ❷一括 ❸存 ❺足利時代寫 ❻(寶龜院)

百法問答聞書抄 ❶(B)Hyap-pō-mon-dō-kiki-gaki-shō. ❷八卷 ❸存 ❹寫永二二刊 ❻(正大、一一九六・七四)

百法問答見聞 ❶(B)Hyap-pō-mon-dō-kem-mon. ❷三冊 ❸存 ❹刊本(哲、く・八・右・一八)

百法問答見聞抄 ❶(B)Hyap-pō-mon-dō-kem-mon-shō. ❷九卷 ❸存 ❹寫永九刊(帝國、八二一・一五七、一三九・五六)寛永二二刊(正大、一一九二・三四五)

百法問答玄談 ❶(B)Hyap-pō-mon-dō-gen-dan. ❸存 ❹(京専)

百法問答懸譚助補 ❶(B)Hyap-pō-m-n-dō-gen-dan-jo-hō. ❷一冊 ❸存 ❹信恕(貞享二—寶曆一三A. D. 1685—1763)述 ❹寫本(高大、寄・一・一三)

百法問答私考 ❶(B)Hyap-pō-mon-dō-shi-kō. ❷六卷 ❸存 ❺元和三刊 ❻(正大、一一九二・三五〇)

百法問答抄 ❶(B) Hyap-pō-mon-dō-shō. ❷九卷 ❸存、 日本大藏經第三三法相宗章疏第二 ❹鎌倉時代 ❺本書は唯識百法論等の性相の妙旨は深遠にして、相宗初學の徒聚多く興趣を探るを勞ふより述作されしものにして、著者には古來異說あり、興福寺春雲院勝超、又は興福寺西室西座法師小納言と云ひ、藥師寺唯慧と云ひ、菩提院藏俊僧正と云ひ、戒壇院吾一等と云ひて定まらず。一部を通觀するに、相宗の名匠の著作と云ひ得るも、往々に正統唯識教學に違背せるあるを見る。これ又自ら一義を成ずるの說なれば、一家系に屬するものなることを知り得るのである。博引傍證問答體を爲し、簡明了解を生じ易からしめ主として同學抄等を以て決擇し、唯識學徒の必ず座右に備ふべきものである。

内容は初め法相宗三國傳來の所由、此宗得名、當抄所依題目を明し、次にもと八卷なりしを九卷本となせる所以を明す。次に第一卷には我法二執事以下十九問、第二卷には四分義事以下十一問、第三卷には佛等三性事以下十一問、第四卷には有爲無爲名義事以下二十八問、第五卷には五性各別事以下八問、第六卷には顯淨二悟差別事以下二十二問、第七卷には菩薩十地事以下四問、第八卷には轉依四義事以下十八問、第九卷には二十四不相應事以下三問、合計百二十三問ありて、唯識論・百法論等に依る唯識教學を簡明に問答を以て表せるものである。

❼(参考) 諸宗章疏錄第二 ❹足利時代寫(藥師寺)(法隆寺)長祿—文明年間寫(谷大、餘甲・九八)寛永九刊(谷大、餘大・四八一)(京大、一・二六ヒ・四)(正大、一一九二・一九三)(龍大、二六二七・二)慶安元刊(龍大、二六二七・一) (橋本凝胤)

百法問答抄管見 ❶(B)Hyap-pō-mon-dō-shō-kwan-ken. ❷一卷 ❸存 ❹大燈述 ❺慶應三寫 ❻(谷大、餘大・四一六九)

百法問答鈔 ❶(B) Hyap-pō-mon-dō-shō. 校正首書百法問答鈔 ❷九卷 ❸

存 ❹延寶二刊(龍大、二六二七・六)(正大、一一九二・一九九—二〇〇)(高大、寄・一・一三)明治一三刊(龍大、二六二七・九)(谷大、餘大・一・六一)

百法問答鈔 ❶(B) Hyap-pō-mon-dō-shō. 科註百法問答鈔 ❷九卷 ❸存 ❹明治一九刊 ❺(龍大、二六二七・四)(正大、一一九二・一九六—一九八)(谷大、餘大・一一八四) ❻東京森江書店

百法問答鈔 ❶(B) Hyap-pō-mon-dō-shō. 冠導百法問答鈔 ❷九卷 ❸存 ❹慧滿春洞(安政四—昭和六A. D. 1857—1931)註 ❺明治二三刊 ❻(龍大、二六二七・五)(谷大、餘大・一一九八)(帝國、一・六・一〇二)

百法問答鈔聞書 ❶(B) Hyap-pō-mon-dō-shō-kiki-gaki. ❷八卷 ❸存 ❹寫本(谷大、餘大・三九四八)

百法問答鈔聞書 ❶(B) Hyap-pō-mon-dō-shō-kiki-gaki. ❷九卷 ❸存 ❺寛永二一刊 ❻(龍大、二六二七・一一)(京大、一・二四ヒ・五)

百法問答鈔見聞 ❶(B) Hyap-pō-mon-dō-shō-kem-mon. 百法問答聞書抄 ❷九卷 ❸存 ❺寛永二一刊 ❻(谷大、餘大・二一四七)

百法問答鈔玄談 ❶(B) Hyap-pō-mon-dō-shō-gen-dan. 科註百法問答鈔玄談 ❷一卷 ❸存 ❹慈觀(一元祿頃A. D. 1688—1703)述 ❺貞享元刊 ❻(谷大、餘大・一一八四)(正大、一一九二・二〇一、三四六、三五四)(哲、く・七・中・八)(高大、寄・一・一一四)

百法問答鈔校本 ❶(B) Hyap-pō-mon-dō-shō-kō-hon. 冠註百法問答鈔校本 ❷九卷 ❸存 ❹大内青巒(弘化二—大正七A. D. 1845—1918) ❺明治一九刊 ❻(京大、一・二四カ・一一)(帝國、一〇九・一七六)

百法問答鈔講義 ❶(B) Hyap-pō-mon-dō-shō-kō-gi. ❷三卷 ❸存 ❹宮地義天(文化一四—明治二二A. D. 1817—1889)述 ❻明治二三刊(谷大、餘小・四)(龍大、研佛)大正元刊(谷大、餘洋・三二一)

百法問答鈔講義 ❶(B) Hyap-pō-mon-dō-shō-kō-gi. ❷五卷 ❸存 ❹大内青巒(弘化二—大正七A. D. 1845—1918)述 ❻刊本(龍大、研佛)

百法問答鈔講說 ❶(B) Hyap-pō-mon-dō-shō-kō-sen. ❷九卷 ❸存 ❻(京専)

百法問答鈔講要 ❶(B) Hyap-pō-mon-dō-shō-kō-yō. ❷九卷 ❸存 ❻寫本(龍大、二六二七・一二)

百法問答鈔講錄 ❶(B) Hyap-pō-mon-dō-shō-kō-roku. ❷四卷 ❸存 ❹天旭 ❺寛延二寫 ❻(谷大、餘大・二九六七)

百法問答鈔講錄 ❶(B) Hyap-pō-mon-dō-shō-kō-roku. ❷九卷 ❸存 ❹龍空 ❻寫本(龍大、二六二七・一三)

百法問答鈔私 ❶(B)Hyap-pō-mon-dō-shō-shi. ❷四卷 ❸存 ❻(京専)

百法問答鈔私考 ❶(B)Hyap-pō-mon-dō-shō-shi-kō. ❷九卷 ❸存 ❻寫永二一刊(正大、一一九二・二〇一、三四六、三五四)(哲、く・七・中・八)(高大、寄・一・一三)

百法問答鈔見聞 ❶(B)Hyap-pō-mon-dō-shō-kem-mon. ❷九卷 ❸存 ❻寫永二一刊 ❻(谷大、餘大・二一九六七)

百法問答鈔講錄 ❶(B) Hyap-pō-mon-dō-shō-kō-roku. ❷九卷 ❸存 ❹大内青巒(弘化二—大正七A. D. 1845—1918)述 ❻刊本(龍大、研佛)

百法問答鈔講說 ❶(B) Hyap-pō-mon-dō-shō-kō-sen. ❷九卷 ❸存 ❻(京専)

百法問答鈔講要 ❶(B) Hyap-pō-mon-dō-shō-kō-yō. ❷九卷 ❸存 ❻寫本(龍大、二六二七・一二)

百法問答鈔講錄 ❶(B) Hyap-pō-mon-dō-shō-kō-roku. ❷四卷 ❸存 ❹天旭 ❺寛延二寫 ❻(谷大、餘大・二九六七)

百法問答鈔講錄 ❶(B) Hyap-pō-mon-dō-shō-kō-roku. ❷九卷 ❸存 ❹龍空 ❻寫本(龍大、二六二七・一三)

百法問答鈔私 ❶(B)Hyap-pō-mon-dō-shō-shi. ❷四卷 ❸存 ❻(京専)

百法問答鈔私考 ❶(B)Hyap-pō-mon-dō-shō-shi-kō. ❷九卷 ❸存 ❹圓證(寛永一二—元祿元A. D. 1635—1688)述 ❻寛文一一刊(正大、一一九二・二〇五)天和三刊(正大、一一九二・二〇六、三五一)(谷大、餘大・六七四)(龍大、二六二七・一四)(京専)(高大、寄・一・一三)

百法問答抄私考目錄 ❶(B)Hyap-pō-mon-dō-shō-shi-kō-moku-roku. ❷一冊 ❸存 ❻寫本(哲、く・七・右・九)

百法問答鈔私講錄 ❶(B) Hyap-pō-mon-dō-shō-shi-kō-roku. ❷九卷或十二卷 ❸存 ❻寫本(龍大、二六二七・一八、研佛)

百法問答抄私圖 ❶(B) Hyap-pō-mon-dō-shō-shi-zu. ❷四卷 ❸存 ❹印融(永享七—永正一六A. D. 1435—1519) ❻(龍大、研佛)

百法問答鈔指瑕 ❶(B) Hyap-pō-mon-dō-shō-shi-ga. ❷八卷 ❸存 ❹道空(寛文六—寶曆元A. D. 1666—1751)述 ❻明治二三刊(龍大、研佛)享保一八寫(高大、寄・一・一三)安永一〇寫(谷大、餘大・一八五一)寫本(龍大、研佛)(哲、く・八・中・一)(高大、寄・一・一三)

百法問答鈔資講私記 ❶(B)Hyap-pō-mon-dō-shō-shi-kō-shi-ki. ❷九卷 ❸存 ❹寶信 ❺享保二一寫 ❻(高大、一・一三)

百法問答鈔拾據要解 ❶(B)Hyap-pō-mon-dō-shō-shū-kō-yō-ge. 百法問答鈔要解 ❷十一卷 ❸存 ❹秀翁(寛永三—元祿一二A. D. 1635—1699)述 ❻寛文六刊(高大、寄・一・一三)

百法問答鈔要解 ❶(B)Hyap-pō-mon-dō-shō-yō-ge. 百法問答鈔拾據要解 ❷十一卷 ❸存 ❹秀翁(寛永三—元祿一二A. D. 1635—1699)述 ❻寛文二刊(谷大、餘大・二一四八)(京専)(高大、寄・一・一三)寛文六刊(高大、寄・一・一三)(哲、く・八・右・一)

百法問答第一聞書 ❶(B) Hyap-pō-mon-dō-dai-ichi-kiki-gaki. ❷一冊 ❸存 ❺足利時代寫 ❻(寶善提院)

百法問答拔書 ❶(B)Hyap-pō-mon-dō-nuki-gaki. ❷一卷 ❸存 ❻寫本(京大、印哲・R・八)

百法問答補闕抄 ❶(B) Hyap-pō-mon-dō-fu-ketsu-shō. ❷一冊 ❸存 ❻寫本(高大、寄・一・一三)

百法論 ❶(B)Hyap-pō-ron. (支)Pai-fa-lun. 大乘百法明門論、大乘百法明門論

略錄、百法明門論 ❷一卷 ❸存、大正三一・八五五ゑ、1514、館本一〇、卍二二・二、北639臨、南653臨、元615臨、明北1306清、清1306清、麗651令、天639臨、招611令、法639令、至1361甲、明南1356華、Nj. 1313 ❹玄奘(仁壽二—麟德元 A. D. 602—664)譯 ❺唐貞觀二二(A. D. 648) ❻大乘百法明門論の下を見よ。

百法論演義鈔 ❶(日)Hyap-pō-ron-en-gi-shō. (支)Pai-fa-lun-yen-i-ch'ao. ❷七卷 ❸缺 ❹懷公(公一作古)述 ❼(參考) 智證大師請來目錄

百法論記 ❶(日)Hyap-pō-ron-ki. (支)Pai-fa-lun-chi. ❷一卷 ❼(參考) 新編諸宗教藏總錄第三

百法論義 ❶(日)Hyap-pō-ron-ri. (支)Pai-fa-lun-i. 大乘百法明門論論義、百法明門論論義 ❷一卷 ❸存、卍續一・七六・五 ❹明德清(嘉靖二五—天啓三 A. D. 1546—1623)述 ❻大乘百法明門論論義の下を見よ。

百法論義聚 ❶(日)Hyap-pō-ron-gi-ju. (支)Pai-fa-lun-i-chü. 百法義聚 ❷二卷(一作十卷) ❸缺 ❹清素述 ❼(參考) 寶晨寺和尙請來法門道具等目錄

百法論義選抄 ❶(日)Hyap-pō-ron-gi-sen-shō. (支)Pai-fa-lun-i-hsüan-ch'ao. ❷四卷 ❸缺 ❹全則述 ❻百法義門鈔の下參照。 ❼(參考) 注進法相宗章疏

百法論科 ❶(日)Hyap-pō-ron-kwa. (支)Pai-fa-lun-k'o. ❷三卷大科一卷 ❸缺 ❹詮明作 ❼(參考) 新編諸宗教藏總錄第三

百法論科 ❶(日)Hyap-pō-ron-kwa. (支)Pai-fa-lun-k'o. ❷二卷 ❸缺 ❹義圓作 ❼(參考) 新編諸宗教藏總錄第三

百法論解 ❶(日)Hyap-pō-ron-ge. (支)Pai-fa-lun-chieh. 大乘百法明門論解、百法明門論解、百法明門論註 ❷二卷 ❸存、大正四四・四六、No. 1835、館訓九、卍續一・七六・五、明北1540敦、清1656藝 ❹唐窺基(貞觀六—永淳元 A. D. 632—682)述、普泰增修 ❻大乘百法明門論解の下を見よ。 ❼刊本(京大、一・二四ヒ・一)(晋、く・五・右・三)

百法論決頌 ❶(日)Hyap-pō-ron-ketsu-ju. (支)Pai-fa-lun-chueh-sung. 百法明門論決頌 ❷一卷 ❸缺 ❹唐窺基(貞觀六—永淳元 A. D. 632—682)述 ❼(參考) 新編諸宗教藏總錄第三

百法論顯幽鈔 ❶(日)Hyap-pō-ron-ken-yū-shō. (支)Pai-fa-lun-hsien-yu-ch'ao. 大乘百法明門論顯幽鈔、百法顯幽鈔、百法論疏 ❷十卷 ❸存、卍續一・八七・二 ❹唐代從芳述 ❻大乘百法明門論顯幽鈔の下を見よ。 ❼(參考) 入唐新求聖教目錄、注進法相宗章疏 ❾寫本(京大、藏・一三ヒ・一)

百法論顯要鈔 ❶(日)Hyap-pō-ron-ken-yō-shō. (支)Pai-fa-lun-hsien-yao-ch'ao. ❷五卷 ❸缺 ❹義圓述 ❼(參考) 新編諸宗教藏總錄第三

百法論玄贊 ❶(日)Hyap-pō-ron-gen-san. (支)Pai-fa-lun-hsüan-tsan. ❷一卷 ❹唐窺基(貞觀六—永淳元 A. D. 632—682)述 ❻本書並に義天錄所載の百法論述記は、大正新脩大藏經第四十四卷、大日本續藏經第七十六套第五冊所收の百法明門論解のことをいふか。何れも大乘明門論解の下參照。 ❼(參考) 東域傳燈目錄卷下、諸宗章疏錄第一、注進法相宗章疏、奈良朝現在一切經疏目錄2425

百法論古迹 ❶(日)Hyap-pō-ron-ko-shaku. (支)Pai-fa-lun-ku-chi. 百法古述 ❷一卷 ❹新羅太賢(一曾德王一二)A. D. 753—)述 ❼(參考) 東域傳燈目錄卷下

百法論綱要略釋 ❶(日)Hyap-pō-ron-ki-yō-ryaku-shaku. (支)Pai-fa-lun-kang-yao-lüe-shih. ❷一卷 ❸缺 ❹智因述 ❼(參考) 新編諸宗教藏總錄第三

百法論全臺義府 ❶(日)Hyap-pō-ron-kon-dai-gi-fu. (支)Pai-fa-lun-chüan-t'ai-i-fu. ❷十五卷 ❸缺 ❹詮明述 ❼(參考) 新編諸宗教藏總錄第三

百法論聚拾鈔 ❶(日)Hyap-pō-ron-ju-shū-shō. (支)Pai-fa-lun-chü-shih-ch'ao. ❷十六卷 ❸缺 ❹崇謹述 ❼(參考) 新編諸宗教藏總錄第三

百法論述記 ❶(日)Hyap-pō-ron-jok-ki. (支)Pai-fa-lun-shu-chi. ❷二卷 ❹唐窺基(貞觀六—永淳元 A. D. 632—682)述 ❻本書並に東域傳燈目錄卷下、諸宗章疏錄第一、注進法相宗章疏所載の百法論支贊は、大正新脩大藏經第四十四卷、大日本續藏經第七十六套第五冊所收の百法明門論解のことをいふか。 ❼(參考) 新編諸宗教藏總錄第三

百法論疏 ❶(日)Hyap-pō-ron-sho. (支)Pai-fa-lun-su. ❷一卷 ❸缺 ❹唐圓測述 ❼(參考) 新編諸宗教藏總錄第三、東域傳燈目錄卷下、注進法相宗章疏、諸宗章疏錄第一、奈良朝現在一切經疏目錄2426 ❾寫本(京大、書・一・二三)

百法論疏 ❶(日)Hyap-pō-ron-sho. (支)Pai-fa-lun-su. 大乘百法明門論疏、百法疏、百法明門論疏 ❷二卷 ❸缺 ❹唐義忠述 ❼(參考) 智證大師請來目錄、新編諸宗教藏總錄第三、東域傳燈目錄卷下

百法論疏 ❶(日)Hyap-pō-ron-sho. (支)Pai-fa-lun-su. 百法疏 ❷一卷 ❸缺 ❹林師述 ❼(參考) 東域傳燈目錄卷下

百法論疏 ❶(日)Hyap-pō-ron-sho. (支)Pai-fa-lun-su. 大乘百法明門論顯幽鈔、百法論顯幽鈔、百法顯幽鈔 ❷十卷或二十卷 ❸存、卍續一・八七・二 ❹唐代從芳述 ❻大乘百法明門論顯幽鈔の下を見よ。 ❼(參考) 諸宗章疏錄第一

百法論疏 ❶(日)Hyap-pō-ron-sho. (支)Pai-fa-lun-su. 百法疏 ❷五卷 ❸缺 ❹唐窺基(貞觀六—永淳元 A. D. 632—682)述 ❻存、卍續一・八七・二 ❼(參考) 諸宗章疏錄第一

百法論疏 ❶(日)Hyap-pō-ron-sho. (支)Pai-fa-lun-su. 百法疏 ❷五卷 ❸缺 ❹明治三二刊 ❾(正大、一五五七・三四)、帝國、一九〇・三四一)

百萬遍勸誡鈔選異 ❶(日)Hyaku-man-ben-kwan-kai-shō-sen-yoku. ❷二卷 ❸存 ❹眞綱(延寶五—寶曆六 A. D. 1677—1756)述 ❾寫本(正大、一五五四・一六七)

百萬遍知恩寺誌要 ❶(日)Hyaku-man-ben-chi-on-ji-shi-yō. ❷一卷 ❸存、淨土宗全書第二〇 ❹百萬遍編 ❻本書は京都市上京區田中町なる大本山知恩寺の寺志で、目次に第一沿革、第二歷代、第三門葉、第四結構、第五文書、第六什寶の六つを擧げ、沿革には宗祖大師の加茂の河原屋が流罪なること、第三世に佩西流に入り、第八世善阿の時後醍醐天皇より百萬遍の寺號を賜りしこと、足利將軍の命に依つて堀川の東一條に移り後豐太閤命じて寺町革堂の北に移して殿堂を造營し、第三十九代清雲の代類燒の厄にかゝり、北白川邸ち現今の地に遷り諸堂を再興した、昔は當山の住職は勅請に依つて晉置する例であつたのが、第卅四代以降將軍の命に依ることゝなり、明治維新後は門末の公選となり、內務大臣の辭令となり、次いで一宗公認となつたことを記し、第二歷代の條下には開眼圓光大師、二世源智より第六十五世康譽神旭に至る列名并に略傳を擧げ、第三門葉の下に代々上人諸國巡化せられたる爲め門葉弘布の狀二十三國、寺數二百七十ケ寺、信徒九萬八千餘戶あることを述べ、第四の結構には本堂、阿彌陀堂、勢至堂、納骨堂、開帳本廟、鐘守堂、御影堂、大方丈、小方丈、書院、玄關、車裡、經藏等及塔頭寺庵の緣由等を錄し、第五文書の下には後花園天皇、後土御門天皇、後柏原天皇、後奈良天皇の御綸旨、足利義政將軍の公狀、紫衣永宣旨、招請狀、朱印等を擧げ、寬政六年に校定されたる御忌法事式の詳細なる全文、捉が揭げられ、第六什寶の下には佛像類十五點、佛畫類四十五點、文書類四十七點、器具類二十點の品目が錄されてゐる。 (中谷在輝)

百萬遍知恩寺略志 ❶(日)Hyaku-man-ben-chi-on-ji-ryaku-shi. ❷一卷 ❸存 ❹伊藤祐晃著 ❺明治四三刊 ❾(谷大、宗洋・五〇二)

百萬遍念佛緣起 ❶(日)Hyaku-man-ben-nem-butsu-en-gi. ❷一卷 ❸存 ❾寫本(帝國、一四五・三四)

百萬遍念佛緣起 ❶(日)Hyaku-man-ben-nem-butsu-en-gi. ❷一卷 ❸存 ❺安政四刊 ❾(正大、一五五七・三二)

百喩伽陀 ❶(日)Hyaku-yu-ka-da. (支)Pai-yü-ch'ieh-t'o. ❷一卷 ❸缺 ❹

二十卷 ❻存、卍續一・八七・二 ❾唐代從芳述 ❻大乘百法明門論顯幽鈔の下を見よ。 ❼(參考) 諸宗章疏錄第一

百法論疏 ❶(日)Hyap-pō-ron-sho. (支)Pai-fa-lun-su. ❷一卷 ❸缺 ❹曉眉山沙門惠(惠一作忠)高述 ❼(參考) 寶晨寺和尙請來法門道具等目錄

百法論疏 ❶(日)Hyap-pō-ron-sho. (支)Pai-fa-lun-su. 百法疏 ❷五卷 ❼(參考) 東域傳燈目錄卷下

百法論鈔 ❶(日)Hyap-pō-ron-sho. (支)Pai-fa-lun-chiao. 百法鈔 ❷七卷 ❸缺 ❹玄沼(沼一作招)述 ❼(參考) 諸宗章疏錄第一

百法論總述 ❶(日)Hyap-pō-ron-sō-jutsu. (支)Pai-fa-lun-tsung-shu. ❷三卷 ❸缺 ❹義寂述 ❼(參考) 新編諸宗教藏總錄第三

百法論注 ❶(日)Hyap-pō-ron-chū. (支)Pai-fa-lun-chu. ❷一卷 ❸缺 ❹義寂述 ❻菩薩戒本宗要雜文集(大正七四・四四A、四七C)に援引。 ❼(參考) 新編諸宗教藏總錄第三

百法論註 ❶(日)Hyap-pō-ron-chū. 百法註 ❷二卷 ❸缺 ❹行賀(天平元—延曆二二 A. D. 729—803)述 ❼(參考) 東域傳燈目錄卷下

百法論日纂 ❶(日)Hyap-pō-ron-nichi-san. ❷一帖 ❸存 ❾寫本(晋、く・六・左・一三)

百法論梵本 ❶(日)Hyap-pō-ron-bon-pon. (支)Pai-fa-lun-fan-pen. ❷一卷 ❼(參考) 惠運禪師將來教法目錄

百實三昧經 ❶(日)Hyap-pō-sam-mai-kyō. (支)Pai-pao-san-mei-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹失譯 ❼(參考) 出三藏記第三、法經錄第一、仁壽錄第五、靜泰錄第五、開元錄第四、第一五、貞元錄第六、第二五

百本疏主慈恩大師遺撰法苑義林七卷章聽聞記 ❶(日)Hyaku-hon-sho-shu-ji-on-dai-shi-yui-sen-hō-on-gi-rin-shi-chō-kwan-jō-chō-mon-ki. ❷一卷 ❸存 ❺享和三寫 ❾(正大、一一九二・三五九)

百萬小塔肆攷並附圖 ❶(日)Hyaku-man-shō-tō-shi-kō-narabini-fu-ru. ❷一卷 ❸存 ❹平子欽嶽著 ❺明治四一刊 ❾龍大、二九九九・八)(帝至、一一六・七三)

百萬塔緣起 ❶(日)Hyaku-man-tō-en-gi. ❷一卷 ❸存 ❹佐伯定胤著 ❾刊本(京專)

百萬塔陀羅尼 ❶(日)Hyaku-man-tō-da-ra-ni. ❷十本 ❸存 ❹貴重圖書影本刊行會編 ❺昭和五刊 ❾(京大、一・二三・大別)

百萬遍新願辨鈔 ❶(日)Hyaku-man-ben-ki-gwan-ben-shō. ❷二卷 ❸存 ❹最譽述、靈譽校 ❺寶曆六刊 ❾(京大、一・二六ヒ・五)(正大、一五五七・三三)

百萬遍新願要略 ❶(日)Hyaku-man-ben-ki-gwan-yō-ryaku. ❷一卷 ❸存 ❹京練了道著 ❺明治二二刊 ❾(正大、一五五七・三四)、帝國、一九〇・三四一)

百萬遍知恩寺略志 ❶(日)Hyaku-man-ben-chi-on-ji-ryaku-shi. ❷一卷 ❸存 ❹伊藤祐晃著 ❺明治四三刊 ❾(谷大、宗洋・五〇二)

百萬遍念佛緣起 ❶(日)Hyaku-man-ben-nem-butsu-en-gi. ❷一卷 ❸存 ❾寫本(帝國、一四五・三四)

百萬遍念佛緣起 ❶(日)Hyaku-man-ben-nem-butsu-en-gi. ❷一卷 ❸存 ❺安政四刊 ❾(正大、一五五七・三二)

百喩伽陀 ❶(日)Hyaku-yu-ka-da. (支)Pai-yü-ch'ieh-t'o. ❷一卷 ❸缺 ❹

内供奉義琳法師述 ❼(参考) 靈隠寺和尚請來法門道具等目録

百喩伽他經 ❶(日) Hyaku-yu-gata-kyō. (支)Pai-yu-chia-t'o-ching. 勝軍化世百喩伽他經、勝軍百喩經 ❷1卷 ❸存、大正三二・七八八 No. 1692、館藏九、卍一五・三、北1122槐、南1142槐、元1132槐、明北815則、清815則、麗1125淡、天1119槐、法1241長、至1517合、明南816則、Nj. 820 ❹天息災譯 ❺宋太平興國五—成平三(A. D. 980—1000) ❻勝軍化世百喩伽他經の下を見よ。

百喩經 ❶(日) Hyaku-yu-kyō. (支) Pai-yu-ching. ❷1卷 ❸缺 ❹吳支謙(—黄武二—建興二 A. D. 223—253—)譯 ❼(参考) 開元錄第一五、貞元錄第二五

百喩經 ❶(日) Hyaku-yu-kyō. (支) Pai-yu-ching. 百譬經、百句譬喩經、百句譬喩集經 ❷四卷 ❸存、大正四・五四三 No. 209、館藏八、卍二六・九、北990槐、南1007槐、元1003槐、明北1357群、清1357群、麗994槐、天996槐、指952槐、法978槐、至1439宅、明南1096合、Nj. 1354 ❹求那毘地譯 ❺舊青永明一〇(A. D. 493)

❻(一)本經の性質 本經はその名の示すが如く、百—實は九十八—の喩話を集錄した經である。その譬喩、又は喩といはるゝより、佛教の十二分經の第七位を占めてゐる譬喩(Wadina)と混合され易いが、それとは別な文學形式を持つたもので、即ち、正しく喩の話と、その喩話が示す佛教訓話との二部分から各經が成り立つてゐる。撰者、僧伽斯那(Sahghasena)はこの百喩經(Upama-śataka-sutra)を瓔花臺と名づけてゐるが、異國人の爲の花臺の義である。

(二)本經の内容分類 本經はその說相より對告衆について分類すれば、

イ、一般大衆 No. 2 9 13 14 15 16 17 18 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 46 47 49 50 55 56 57 59 60 63 64 66 67 69 70 71 75 76 78 79 80 81 82 83 84 85 86 89 90 91 93 94 95 96

ロ、王 No. 20

ハ、出家 No. 3 6 10 53 54 92

ニ、出家と大衆 No. 45 48 53 74 88

ホ、外道 No. 1 4 5 7 8 11 12 19 32 58 61 62 77

ヘ、教法 No. 51 52 65 87

以上に示さるゝ如く、大衆の爲のものが大部分を占めて居り、是等の喩話は初に興味深い物語によつて民衆を笑殺し、轉じて佛教の實義を以て廻らしめてゐる。

(三)内容目次)、(第一卷) 一、愚人食鹽喩、二、愚人集牛乳喩、三、渴見水喩、四、子死欲停買家中喩、五、認人爲兄喩、六、山茱偷實車喩、七、欺文德行喩、八、三重樓喩、九、婆羅門殺子喩、十、煮黑石蜜漿喩、十一、設人宴鄰喩、十二、殺商主祀天喩、十三、醫與王女藥令卒長大喩、十四、瀉甘蔗喩、十五、債牛錢喩、十六、就樓磨刀喩、十七、乘船失鉗喩、十八、人說王綦喩、十九、婦女欲更求子喩、(第二卷)二十、入海取沈水喩、二十一、誠愚錦鋪用奏鼓揚喩、二十二、種蔗胡麻子喩、二十三、水火喩、二十四、人效王眼調喩、二十五、治經瘡喩、二十六、爲婦買鼻喩、二十七、貧人燒蘆揚衣喩、二十八、牧羊人喩、二十九、雇借瓦師喩、三十、估客偷金喩、三十一、斫樹取果喩、三十二、造美水喩、三十三、賣鏡喩、三十四、破五通神眼喩、三十五、殺群牛喩、三十六、飲木筯水喩、三十七、貝他人除舍喩、三十八、治禿喩、三十九、毘舍闍鬼喩、(第三卷) 四十、估客駝死喩、四十一、磨大石喩、四十二、欲食半餅喩、四十三、奴守門喩、四十四、偷髮牛喩、四十五、貧人作餐雲喩、四十六、野干爲折樹枝所打喩、四十七、小兒爭分別毛喩、四十八、醫治吞僧喩、四十九、五人買婢共使作喩、五十、伎兒作樂喩、五十一、師患脚付二弟子喩、五十二、蛇頭尾共爭在前喩、五十三、鼠爲五剝顏喩、五十四、索無物喩、五十五、鼠長者口喩、五十六、二子分財喩、五十七、觀作瓶喩、五十八、見水底金影喩、五十九、梵天弟子造物共相驚怖喩、六十、人食雉肉喩、六十一、使兒著鼠羅剝服喩、六十二、病人食雉肉喩、六十三、人謂故屋中有惡鬼喩、六十四、五百欲寄丸喩、(第四卷) 六十五、口誦乘船法而不解用喩、六十六、效其眼先念進食喩、六十七、夫婦食餅共爲要喩、六十八、共相怨害喩、六十九、效其眼先念進食喩、七十、貧奉婆羅果喩、七十一、爲二婦故喪其兩目喩、七十二、唵木決口喩、七十三、許言馬死喩、七十四、出家凡夫貪利愛喩、七十五、駝瘦俱失喩、七十六、田夫思王女喩、七十七、搗醍乳喩、七十八、與兒期早行喩、七十九、爲王負机喩、八十、倒產喩、八十一、爲熊所噉喩、八十二、比種田喩、八十三、獼猴喩、八十四、月餓打狗喩、八十五、婦女呂眼痛喩、八十六、父取兒耳璫喩、八十七、劫盜分財喩、八十八、獼猴把豆喩、八十九、得金鼠狐喩、九十、地得金錢喩、九十一、貧兒欲與富等財物喩、九十二、小兒得歡喜丸喩、九十三、老母視篋喩、九十四、摩尼水寶喩、九十五、一鉢喩、九十六、詐稱眼盲喩、九十七、爲惡賊所劫失髮喩、九十八、小兒得大龜喩。

❼(参考) 出三藏記第二、内典錄第四、三寶紀第一一、譯經圖紀第四、開元錄第六、貞元錄第八 ❽寛永三刊(正大、一一九七・一二)(谷大、一三)正保二刊(正大、一一九七・一二)(谷大、餘大・八七九)(龍大、研佛)(高大、寄・一・二三)寶永六刊(正大、一一九七・一五)(西尾京雄)

百喩經 ❶(日) Hyaku-yu-kyō. 國譯百喩經 ❷3卷、國譯一切經本幾部第七 ❸赤沼智善、西尾京雄共譯

百喩經拔粹 ❶(日) Hyaku-yu-kyō-bas-sui. ❷1卷 ❸存 ❹寫本(龍大、二一一二・一〇)

百喩譚 ❶(日) Hyaku-yu-tan. ❷1卷 ❸存 ❹高山寄内(春峯)著 ❺明治三〇刊 ❻(帝國、七七・一〇六)

百餘尊見聞 ❶(日) Hyaku-yo-son-ken-mon. ❷四卷 ❸存 ❹台密の書。❺寫本(谷大、餘大・二八一七)

百餘尊註解 ❶(日) Hyaku-yo-son-chu-ge. ❷三卷 ❸存 ❹寫本(正大、一四八・四)

百利講略註 ❶(日) Hyaku-ri-kō-ryaku-chū. ❷1册 ❸存 ❹貫山(—正德頃 A. D. 1711—1715—)撰 ❺安永四刊 ❻(京大、日大來・六五六)(谷大、宗大・二七九五)(帝國、二二八・二五)

百錄之鐵臨 ❶(日) Hyaku-roku-no-tetsu-rin. ❷1卷 ❸存 ❹山縣玄淳(慶應二—明治三六 A. D. 1866—1903)著 ❺明治三〇刊 ❻(帝國、七六・一一五)

百六箇對見記 ❶(日) Hyaku-roku-kai-tai-ken-ki. ❷四卷 ❸存 ❹寫本(立六、D・O・二七五)

百六十品經 ❶(日) Hyaku-roku-jū-bon-kyō. (支)Pai-liu-shih-p'in-ching. ❷1卷 ❸缺 ❹後漢安世高(—建和二—建寧三 A. D. 148—170—)譯 ❼(参考) 仁壽錄第五、靜泰錄第五、開元錄第一五、貞元錄第二四

百論 ❶(日) Hyaku-ron. (支)Pai-lun. ❷二卷 ❸存、大正三〇・一六七 No. 1569、館藏二一、卍二一・七、北956是、南600是、元393是、明北1181鹿、清1181鹿、麗588院、天590是、指947院、法572寸、至1303壑、明南1339守、Nj. 1158 ❹提婆菩薩造、婆藪開士釋、鳩摩羅什譯 ❺三世紀中葉原本撰述、姚秦弘始六(A. D. 404)譯出。

❻(百論本偈) 漢譯百論は提婆造本偈と婆藪開士釋とを含むものなれば嚴密には百論註釋書の一種と見做すべし。本偈は僧肇によれば、もと二十品あり各品五偈合して百偈ある故に百論と稱し鳩譯に際して後半十品は此土無益として省かれ前半十品五十偈のみ譯出せられたりと傳ふ。梵文藏譯共に存せざれば對照研究の便なきも、現存漢譯百論は十品約七十偈(但し偈は詩形をなさず)より成り、假令後半省略せられたりとするも、廣百論百字論と共に、以て提婆菩薩の思想を見るに足る。

(内容) 字井伯壽氏の考證によれば、漢譯百論偈は藏譯中に存する四百觀論(之が後半の別行せられたるものが玄奘譯の廣百論)に對する解說的著作たるべしといふ。(國譯大藏經論部第五卷)。内容は三寶に對する歸敬序に始まり、一、拾罪福品、二、破神品、三、破一品、四、破異品、五、破情品、六、破塵品、七、破因中有果品、八、破因中無果品、九、破常品、十、破空品の十章に分れ、師龍樹菩薩の空觀の立場に立つて、數論、勝論、正理派、尼乾子等の外道諸派の世界觀人性論解脫論を破斥しつゝ佛教の正見を闡す。破邪顯正的方法は中論に似たるも、中論が主として有部の實有觀を破するに對し、批判の鋒を主として外學に向けたり、中論ほどの無碍の味ひに乏しきも、佛教と外學との交涉を見るに重要の資料たり。又本論第一章拾罪福品は簡明に提婆菩薩の佛教觀を述べられたり。最初に佛陀教說は要するに惡止善行を說かれたりとし、その惡止善行について、罪報を厭うて惡業を止め福報を樂うて善業を修するは未だ佛道にあらず、報を求むる心を離れて、厭ふべき罪報なく求むべき福報もなしと罪福共に捨して空無相の智慧に入るが、眞實の惡止善行にして佛道なりと說く。龍樹の『觀空人善法尙不欲作何況作惡』と言はれしと軌を一にして、善惡の計らひを超えて法性を體驗するが佛教の要諦なるを示さる。此點より廣汎なる龍樹佛教への入門書とも見る事を得るなり。

(流傳) 提婆菩薩の活動期は三世紀中葉以後にして、その教學は羅睺羅跋者より、婆藪開士堅意等に傳承され、無著世親安慧諸師によつて唯識教學中に樣取され、佛護清辨論師等の中觀論に於ては唯識派に對立的に組織されたり。その中百論の註釋については、嘉祥大師百論序疏中に、十餘人の釋家あり、就中婆藪(vasu)僧佉斯那(sanikhyasena)の二家のもの最も行はると傳ふるも、現存せるは婆藪開士の釋のみ。その傳不明なるも四世紀前半の人と推定せらる。この人を世親菩薩と同一視せるは誤解なり。その註簡にして要を得能く原著の眞意を宣揚す。珍重すべき好註なり。而して本論の廣本と見るべき提婆の主著四百觀論(廣百論)斷片は、時に『百論』の名を以て、中論、順中論、佛性論、入大乘論、大乘中觀釋論、般若燈論等に引用せらるれど、什譯百論の引用を見ず。されど四百觀論の引用關說せらるる所には百論の流傳ありしものと見て然るべし。漢譯後は中論十二門論と併せて三論と稱せられ、嘉祥大師によつて三論宗大成せられしよりは三論宗根本聖典の一つとなり、大師の九卷は現存唯一の註疏にしてその後の支那日本の百論研究の指南となる。然れども兩國を通じて三論學者は中論の研究に主力を傾注したれば、百論の單獨研究について見るべきものなし。提婆の百論思想は中論研究中に含まれて流傳せるものと謂ふべし。

❼(注釋) 百論疏(羅法師)、百論義疏(智藏)、百論疏(吉藏、現存)、百論疏(元康)

(参考) 三寶紀第八、内典錄第三、譯經圖紀第三、開元錄第四、貞元錄第六 ❺寫文四刊 ❻(谷大、餘大・三八四)(龍大、二三三・一一—一二)(正大、一一九一・二二)(高大、寄・一・一四) (稻津紀三)

百論 ❶(日) Hyaku-ron. 國譯百論 ❷二卷 ❸存、國譯大藏經論部第五 ❹宇井伯壽譯

百論 ❶(日) Hyaku-ron. 國譯百論 ❸存、國譯一切經中觀部第一 ❹羽溪了諦譯

百論義疏 ❶(日) Hyaku-ron-gi-sho. (支)Pai-lun-i-su. ❷二卷 ❼(参考) 新編諸宗教藏總錄第三

百論私記 ❶(日) Hyaku-ron-shi-ki. (支)Pai-lun-sui-chi. ❷二卷 ❼(参考) 新編諸宗教藏總錄第三

百論疏 ❶(日) Hyaku-ron-sho. (支) Pai-lun-su. ❷九卷(中三卷散佚) ❸存、大正四二・二三二 No. 1827、卍撮一・七三・五、卍撮一・八七・二 ❹吉藏(太清五—武德六 A. D. 549—623)述 ❺隋大業四(A. D. 608)

❻大業四年大師六十歲の頃講說の直後に作製せらる。本疏によつて大師の百論解釋の方法と三論宗義の要諦を見るを得。(一)百論十品を通觀して四分し、第一拾罪福品は初めに佛道の要諦を顯すとす。即ち「九十六術は但だ起罪が彼の三塗を感ずるを知るのみにして未だ著福して六趣に廻流することを悟らず、今其の出要之津を示さんと欲する」ものにして、罪を捨し福を捨し善惡共に離れて「實相觀に入りて心に所依無き」が佛所說の眞の惡止善行道なりとす。而して第二品以下は其の實相觀の内容にし

百論疏 ❶(日)Hyaku-ron-sho. (支)Pai-lun-su. ❷1卷 ❸欠 ❹完佚 ❺〔参考〕 唐道宣撰日本僧安澄撰 ❻1

百論疏略記 ❶(日)Hyaku-ron-sho-ryak-ki. (支)Pai-lun-su-liao-chi. ❷1卷 ❸佚 ❹〔参考〕 唐道宣撰 ❺1

百論題 ❶(日)Hyaku-ron-dai. ❷四卷 ❸存 ❹1部(文政10—明治三年A. D. 1827—1905) ❺浅井(慶大)1五〇1・九八)

百丈全幢縁起記 ❶(日)Byaku-e-kon-dō-en-gi-kyō. (支)Pai-i-chin-ch'uang-yüan-ch'i-ching. 白光金幢11幢縁起記 ❷三卷 ❸存(大正1・11)大No. 10" 續及1〇" 卍1五・七" 卍1330会" 市1334麦" 史1325麦" 明寺947風" 清974風" 麗1490鐘" 天1315麦" 宋1171麦" 明寺977鐘" Nj. 952 ❹道宣撰 ❺宋天平興国五以後(A. D. 980—)

❻白丈全幢11幢縁起記の下を見よ。

百丈大記鈔 ❶(日)Byaku-e-gata-ki-roku. ❷存" 大日本佛教全書巻一1人 ❸諸家人用(正大"11九1・11六)(続大"11四三三・1四)(卍大"巻大・1五1七)(卍大"巻・大三・1)(続大"巻・1・1四)(卍大"巻・大三・11) (明治新纂国訳)

百論疏 ❶(日)Hyaku-ron-sho. (支)Pai-lun-su. ❷三卷 ❸欠 ❹完佚 ❺〔参考〕 唐道宣撰日僧安澄撰 ❻1

百論疏略記 ❶(日)Hyaku-ron-sho-ryak-ki. (支)Pai-lun-su-liao-chi. ❷11卷 ❸佚 ❹〔参考〕 唐道宣撰 ❺1

百論題 ❶(日)Hyaku-ron-dai. ❷四卷 ❸存 ❹1部(文政10—明治三年A. D. 1827—1905) ❺浅井(慶大)1五〇1・九八)

百丈全幢縁起記 ❶(日)Byaku-e-kon-dō-en-gi-kyō. (支)Pai-i-chin-ch'uang-yüan-ch'i-ching. 白光金幢11幢縁起記 ❷三卷 ❸存(大正1・11)大No. 10" 續及1〇" 卍1五・七" 卍1330会" 市1334麦" 史1325麦" 明寺947風" 清974風" 麗1490鐘" 天1315麦" 宋1171麦" 明寺977鐘" Nj. 952 ❹道宣撰 ❺宋天平興国五以後(A. D. 980—)

❻白丈全幢11幢縁起記の下を見よ。

百丈大記鈔 ❶(日)Byaku-e-gata-ki-roku. ❷存" 大日本佛教全書巻一1人 ❸諸家人用(正大"11九1・11六)(続大"11四三三・1四)(卍大"巻大・1五1七)(卍大"巻・大三・1)(続大"巻・1・1四)(卍大"巻・大三・11) (明治新纂国訳)

❹〔参考〕 唐道宣撰日僧安澄撰 ❺1

百丈大記鈔 ❶(日)Byaku-e-gata-ki-roku. ❷存" 大日本佛教全書巻一1人 ❸諸家人用(正大"11九1・11六)(続大"11四三三・1四)(卍大"巻大・1五1七)(卍大"巻・大三・1)(続大"巻・1・1四)(卍大"巻・大三・11) (明治新纂国訳)

❹〔参考〕 唐道宣撰日僧安澄撰 ❺1

百丈禅師語録 ❶(日)Byaku-e-kwann-on-nen-ju-shi-dai. ❷1帖 ❸存 ❹鎌倉(寛仁元—正嘉三A. D. 1201—1290)記 ❺鎌倉三代記 ❻〔参考〕

百丈観音法 ❶(日)Byaku-e-kwann-on-hō. ❷1卷 ❸存" 大日本佛教全書巻四十七唐僧伝之内 ❹唐僧(開元11—開寶11以後A. D. 1143—1212—) ❺道慶三賞 ❻〔参考〕

百丈全幢二婆羅門縁起記

❶(日)Byaku-e-kon-dō-ni-ba-ra-mon-en-gi-kyō. (支)Po-i-chin-ch'uang-êrh-p'o-lo-mên-yüan-ch'i-ching. (巴)Aggaññasuttanta (D. 27) ❷三卷 ❸存" 大正1・11)大No. 10" 續及1〇" 卍1五・七" 卍1330会" 市1334麦" 史1325麦" 明寺947風" 清974風" 麗1490鐘" 天1315麦" 宋1171麦" 明寺977鐘" Nj. 952 ❹道宣撰 ❺宋天平興国五以後(A. D. 980—)

❻この記録は宋版今天平興国小藏経(大正1・三六一—三七九)D. 27 Aggaññas. 中阿含1五四天王経婆羅門縁起経(大正1・六七七—三)の三回天王を天(Vasiṭṭha)と合説(Bharadvāja)の11人が有子であるものにたいし、もと婆羅門族であるのに白衣

作と注すれど、疑作なりと断ずべきなり。（宮田義郎）

白法蘭 ❶〔日〕Byaku-shi-hen. ❷三卷 ❸存 ❹芳山和尚〔元禄一一一一年寂〕 A. D. 1693—1775） ❺浄土宗教学者。号安永四年に日し「浄中未見西来寺芳山和尚著作」。儀、法蘭に日し「浄中未見西来寺芳山和尚著作」。宗大・四四五〔〕〔宗大〕一五〇一・九三一九四〕〔宗大〕一六五・一六〕

白泉記 ❶〔日〕Byaku-sen-ki. ❷二卷 ❸存 ❹宝永〔宗大〕一五八・六二〕

白天子法 ❶〔日〕Byaku-ten-shi-hō. ❷一帖 ❸存 ❹寛永〔東叡記〕

白傳分 ❶〔日〕Byaku-den-shō. ❷元卷 ❸存 ❹藤貞〔俗姓西一一説人〕 A. D. 1138—1196）口〔〕 ❺浄土宗の注釈書

白須を尋ねて ❶〔日〕Byaku-dō-o-ayu-mi-te. ❷存 ❹明北〔〕 ❺浄土宗

白道の善者 ❶〔日〕Byaku-dō-no-sei-ja. ❷浄土大意善者問答 ❸一卷 ❹存 ❺江戸時代末期 ❻浄土宗僧侶

白蓮口抄 ❶〔日〕Byaku-hō-ku-shō. ❷百六十七卷 ❸存〔〕 ❹天正四年〔〕〔〕〔〕

七日(A. D. 1642) 七十七歳を以て寂滅したこの法門である。天竺の諸宗は七十三流の多きに達したのであるが、唯識宗は唯識十大家の著作である。

本宗の教は、宇宙の森羅万象は皆識の変現であるとし、人は識に依り識を以て其の識を識知するとし、識数百法に分類し、其の知識作用に基づいて人間の心理を説き、又人間の行為を善悪無記の三性に分類し、人間の修行は五位に区別して、一種現行と種子熏習との二種の因と、増上縁の諸法との三種の縁とによって、次第に進んで菩提を得るとし、菩薩の日位を定めたのは、唯識宗の教義に基づいたものである。

唯識宗は、印度に於ては、無著菩薩の創始に係るものであるが、支那に於ては、玄奘三蔵が、印度に留学して、戒賢に学んで、帰朝後、唐の太宗の命を受けて、唐の高宗の時、西紀六四六年、長安に於て、大慈恩寺を建立して、其の所説を著述し、其の弟子慈恩大師窺基が、之を敷衍して、唯識論を著述したのである。

唯識宗は、印度に於ては、護法菩薩の時、最盛期に達したが、其の後、戒賢、智月、勝友、師子光、智光、寂静、無垢称、等の諸師が、相次いで、唯識論を著述したのであるが、其の原本は、今日、散逸して、僅に、其の一部分が、支那に伝来したのである。

唯識宗は、支那に於ては、唐の太宗の時、西紀六四六年、玄奘三蔵が、印度から、帰朝して、長安に於て、大慈恩寺を建立して、其の所説を著述し、弟子慈恩大師窺基が、之を敷衍して、唯識論を著述したのである。

唯識宗は、支那に於ては、唐の高宗の時、西紀六六

❻本書の内容は、其の第一卷には辨名門を明し、第二卷には辨名門之餘及出體門を明し、第三卷には假實分別門、見文多少門、得捨分齊門とを明し、第五卷には得捨分齊門之餘を明し、第六卷には依他有無門、四大造性門、應成差別門、前後得捨門、問答分別門とを明す。以上十門分別解釋は、總て西大寺興正菩薩所立の教義に基き解釋し、以て表無表業を闡すにあり、故に顯業鈔と題せり、此の門研究上參考に足る良書である。❹安永九寫(谷大、餘大・六四)文政元寫(正大、一一八六・三二)寫本(晋、く・八・中・二)

(龍大、研佛)　(北川智海)

表無表章元輪抄 ❶(日) Hyō-mu-hyō-shō-gwan-rin-shō. 表無表詳口抄、表無表章元輪詳口鈔 ❷二卷 ❸存、日本大藏經第三四戒律宗章疏第一 ❹元輪(—弘安頃 A. D. 1278—1287—)述 ❺表無表詳口抄の下を見よ。❻寫本(晋、く・七・右・八)

表無表章元輪詳口鈔 ❶(日) Hyō-mu-hyō-shō-gwan-rin-shō-kō-shō. 表無表詳口抄、表無表章元輪抄 ❷三册 ❸存、日本大藏經第三四戒律宗章疏第一 ❹元輪(—弘安頃 A. D. 1278—1287—)述 ❺表無表詳口抄の下を見よ。❻寫本(晋、く・七・右・八)

表無表章講資 ❶(日) Hyō-mu-hyō-shō-kō-shi. ❷二卷 ❸存 ❹基辨(享保三—寶政三 A. D. 1718—1791)述 ❼(參考) 大日本佛教全書續刊豫定書目

表無表章直筌 ❶(日) Hyō-mu-hyō-shō-jiki-gen. ❷二卷 ❸存 ❹龍空述 ❺寫本(龍大、二六二四・四九)

表無表章集解 ❶(日) Hyō-mu-hyō-shō-shū-gi. 大乘法苑義林章表無表集解、法苑義林章表無表章集解、法苑林章集解、表無表章末取決文、大乘法苑義林章集解、法苑義林章集解 ❷二卷 ❸存、日本大藏經第三四戒律宗章疏第一 ❹景行述 ❺寫治元集解の下を見よ。

表無表章助講 ❶(日) Hyō-mu-hyō-shō-jo-kō. ❷二卷 ❸存 ❹惠證述 ❺天明四刊 ❻(龍大、二六二四・五〇)

表無表章鈔 ❶(日) Hyō-mu-hyō-shō-shō. ❹良遍(建久五—建長四 A. D. 1194—1252)述 ❺定泉述、英心記の表無表章顯業鈔(日本大藏經第三四戒律宗章疏第一)中に援引。❼(參考) 諸宗章疏錄第二

表無表章鈔 ❶(日) Hyō-mu-hyō-shō-shō. 表無表章顯業鈔 ❷六卷 ❸存、日本大藏經第三四戒律宗章疏第一 ❹定泉(文永一〇 A. D. 1273—)述、英心(正應二 A. D. 1289—)記 ❺延慶三(A. D. 1310) ❻表無表章顯業鈔の下を見よ。❼正保二刊(龍大、二六二四・四五)(正大、一一八六・二四)天正四寫(谷大、長保・二五七)寫本(谷大、長保・二五六)

表無表章詳體文集 ❶(日) Hyō-mu-hyō-shō-shō-tai-mon-jū. 表無表章文集、表無表文集 ❷三卷 ❸存、日本大藏經第三四戒律宗章疏第一 ❹叡尊(建仁元—正應三 A. D. 1201—1290)述 ❺寫文一一刊 ❻(龍大、二六二四・五六)

表無表詳口抄 ❶(日) Hyō-mu-hyō-shō-kō-shō. 表無表章元輪抄、表無表章元輪詳口鈔 ❷二卷 ❸存、日本大藏經第三四戒律宗章疏第一 ❹元輪述 ❺本書の内容は上卷の始め題號釋と表得名と、宣表無表名色否事と、色得名と、宣表事と、略纂科簡と、宣表無表色潤色と、題號構意業表無表否事との七門分別を以て明し、本文に於て此過三乘事と、有義表業事と、廢立起業詳事と、廢立起業科簡事と、律儀處中論詳と、三師詳論過七衆律儀證と三師詳據處中手否事と、律儀處中因論との八門を明し、下卷には律儀處中因論之餘と、義機釋科簡と、周記科簡と、菩薩亦成唯有三支等所對事と、後三不律儀事と、第二師宣百行不律儀可攝處中哉事と、文集所引略纂科簡と、宣業種子上功能事とを明せり。以上一部所明は總て西大寺興正菩薩の口說を錄す、故に詳口抄と題せるにあり。興正菩薩所立を研究上參考に足る要書である。

(北川智海)

表無表文集 ❶(日) Hyō-mu-hyō-mon-jū. 表無表章詳體文集、表無表章文集 ❷三卷 ❸存、日本大藏經第三四戒律宗章疏第一 ❹叡尊(建仁元—正應三 A. D. 1201—1290)述 ❺表無表章詳體文集の下を見よ。❻(參考) 諸宗章疏錄第二

表裏之附錄 ❶(日) Hyō-ri-no-fu-roku. ❷一卷 ❸存 ❹義滿 ❺明和六寫 ❻(龍大、別錄)

表裏問答 ❶(日) Hyō-ri-mon-dō. 本願寺表裏問答 ❷三卷 ❸存、眞宗全書第五六 ❹甫顯述 ❺淨土眞宗教典志第二に云く「甫顯作、寫永十五年戊寅二月、南方野叟常德寺釐子梓、叙ュ本山分派事」云々。本願寺表裏問答の下を見よ。

豹隱集 ❶(日) Hyō-in-shū. ❷二卷 ❸存 ❹東通 ❺寫政二刊 ❻(駒大)

評義辨 ❶(日) Hyō-gi-ben. 評僞辨 ❷一卷 ❸存 ❹芳山著意(元祿一一—安永四 A. D. 1698—1775) ❺淨土眞宗教典志第二に云く「明和六年六月。西光寺芳山作。評ュ駁前年六月東門越後法義異諍判歎義」云々。❻明治四〇寫(谷大、宗大・一〇二四)寫本(龍大、研眞)

評僞辨答釋 ❶(日) Hyō-gi-hen-tō-shaku. ❷一卷 ❼(參考) 淨土眞宗教典志第二

評金剛錍 ❶(日) Hyō-kon-gō-hei. (支) P'ing-chin-pei. ❷一卷 ❸存、卍續二・八・五 ❹宋善熹述 ❺宋紹熙五(A. D. 1194)十月

(龍大、正大、一三四・三八)

評擢邪輪 ❶(日) Hyō-tai-ja-rin. 擢邪輪抄書 ❷一册 ❸存、淨土宗全書第八 ❹袋中良定(天文二一—寛永一六 A. D. 1552—1639)述 ❺元和五(A. D. 1619) ❻本書は、法然の選擇集を攻擊したる高辨の著書、擢邪輪、莊嚴記を駁論したる書である。內題に「擢邪輪抄書」とあるは、擢邪輪の中から、こゝはと思ふ本文を逐次攻撃した意味であり、所謂「評擢邪輪」の書名は擢邪輪、莊嚴記を批判する意を表したものである。

本書製作の來由はその序文に見れば、御ある年落北氷室山に、知人律宗の春智坊を等ねて一夏を過ごした時、寫本擢邪輪、莊嚴記を借覽し、初めてこの書を見て驚き、法然沒後にかゝる論難書を公にする高辨は鼠賊の類だと罵り、念佛門流の一人として評擢邪輪を作つたのである。時に良定七十六歲の元和五年七月十六日。

師は始め印度の衆賢が世親の俱舍論を駁破して「雲論」を造つた心持で、この書を造らんとしたが、執筆の人なく自らは老筆に堪へず止むを得ず初志に反して、擢邪輪上中下各卷と莊嚴記の要所を、少々抜書して僅かに注を以て批判を加へたに過ぎないから、大なる參考にはなり難い。たゞその意氣に感ずべきである。

❼(參考) 淨土眞宗教典志第三 ❽延寶六刊 ❾(京大、日大來・六二四)(谷大、宗大・一〇八五)(龍大、二六八二・五一)

(稲垣眞我)

豐盛(建久五—建長元 A. D. 1194—1249)述 ❼(參考) 諸宗章疏錄第二、大日本佛教全書續刊豫定書目

表無表章文集 ❶(日) Hyō-mu-hyō-shō-mon-jū. 表無表章詳體文集、表無表文集 ❷三卷 ❸存、日本大藏經第三四戒律宗章疏第一 ❹叡尊(建仁元—正應三 A. D. 1201—1290)述 ❺寫文一一刊 ❻(龍大、二六二四・五六)

表無表章詳口抄 ❶(日) Hyō-mu-hyō-shō-kō-shō. 表無表章元輪抄、表無表章元輪詳口鈔 ❷二卷 ❸存、日本大藏經第三四戒律宗章疏第一 ❹元輪述 ❺本書の內容は上卷の始め題號釋と表得名と、宣表無表名色否事と、色得名と、宣表事と、略纂科簡と、宣表無表色潤色と、題號構意業表無表否事との七門分別を以て明し、本文に於て此過三乘事と、有義表業事と、廢立起業詳事と、廢立起業科簡事と、律儀處中論詳と、三師詳論過七衆律儀證と三師詳據處中手否事と、律儀處中因論との八門を明し、下卷には律儀處中因論之餘と、義機釋科簡と、周記科簡と、菩薩亦成唯有三支等所對事と、後三不律儀事と、第二師宣百行不律儀可攝處中哉事と、文集所引略纂科簡と、宣業種子上功能事とを明せり。以上一部所明は總て西大寺興正菩薩の口說を錄す、故に詳口抄と題せるにあり。興正菩薩所立を研究上參考に足る要書である。

(北川智海)

評金剛錍 ❶(日) Hyō-kon-gō-hei. (支) P'ing-chin-pei. ❷一卷 ❸存、卍續二・八・五 ❹宋善熹述 ❺明治二五寫 ❻(高大、晋・一・二四)

評金師子章 ❶(日) Hyō-kon-ji-shi-shō. (支) P'ing-chin-shih-tzu-chang. ❷一卷 ❸宋承遷述 ❹大正新修大藏經第四十五卷、大日本續藏經二ノ八套一册所收の註華嚴金師子章のことか。❼(參考) 諸宗章疏錄第二

評金錍 ❶(日) Hyō-kon-hei. (支) P'ing-chin-pei. 評金剛錍、評金剛錍論 ❷一卷 ❸存、卍續二・八・五 ❹宋善熹述 ❺評金剛錍の下を見よ。❼(參考) 諸宗章疏錄第二、華嚴宗經論章疏目錄 ❻寫本(龍大・正大、一三四・三八)

評金剛錍論 ❶(日) Hyō-kon-gō-hei-ron. (支) P'ing-chin-kang-pei-lun. 評金剛錍、評金錍 ❷一卷 ❸存、卍續二・八・五 ❹宋善熹述 ❺明治二五寫 ❻(高大、晋・一・二四)

評金師子章 ❶(日) Hyō-kon-ji-shi-shō. (支) P'ing-chin-shih-tzu-chang. ❷一卷 ❸宋承遷述 ❹大正新修大藏經第四十五卷、大日本續藏經二ノ八套一册所收の註華嚴金師子章のことか。❼(參考) 諸宗章疏錄第二、華嚴宗經論章疏目錄 ❻寫本(龍大・正大、一三四・三八)

評擢邪輪 ❶(日) Hyō-tai-ja-rin. 擢邪輪抄書 ❷一册 ❸存、淨土宗全書第八 ❹袋中良定(天文二一—寛永一六 A. D. 1552—1639)述 ❺元和五(A. D. 1619) ❻本書は、法然の選擇集を攻擊したる高辨の著書、擢邪輪、莊嚴記を駁論したる書である。內題に「擢邪輪抄書」とあるは、擢邪輪の中から、こゝはと思ふ本文を逐次攻撃した意味であり、所謂「評擢邪輪」の書名は擢邪輪、莊嚴記を批判する意を表したものである。

本書製作の來由はその序文に見れば、御ある年落北氷室山に、知人律宗の春智坊を等ねて一夏を過ごした時、寫本擢邪輪、莊嚴記を借覽し、初めてこの書を見て驚き、法然沒後にかゝる論難書を公にする高辨は鼠賊の類だと罵り、念佛門流の一人として評擢邪輪を作つたのである。時に良定七十六歲の元和五年七月十六日。

師は始め印度の衆賢が世親の俱舍論を駁破して「雲論」を造つた心持で、この書を造らんとしたが、執筆の人なく自らは老筆に堪へず止むを得ず初志に反して、擢邪輪上中下各卷と莊嚴記の要所を、少々抜書して僅かに注を以て批判を加へたに過ぎないから、大なる參考にはなり難い。たゞその意氣に感ずべきである。

❼(參考) 淨土眞宗教典志第三 ❽延寶六刊 ❾(京大、日大來・六二四)(谷大、宗大・一〇八五)(龍大、二六八二・五一)

(稲垣眞我)

名所行登 ❷(名寺) ❸題名(書名) ❹數卷 ❺數 ❻秋存 ❼著 ❽著 ❾代年作著 ❿內容 ⓫解說 ⓬太書(書考參書解註) ⓭月年の刊寫 ⓮現所藏書(名寺書) ⓯號略字數

般若波羅蜜多心経記 ❶(日) Hyō-sha-ku-bos-shin-in-ki-chū. ❷1巻 ❸存 ❹未詳

般若波羅蜜 ❶(日)Hyō-ju-yō-hen. ❷1巻 ❸存 ❹(参考) 未詳(A. D. 1721—1794) ❺天明11(A. D. 1782)

❻[illegible]

般若心経 ❶(日) Hyō-jō-shō. ❷1巻 ❸[illegible](A. D. 767—822)頃 ❹(参考) 未詳 [illegible]

般若波羅蜜 ❶(日) Hyō-sō-jō-sho. ❷1巻 ❸存 ❹[illegible] ❺[illegible](文大・D O・11 八五)

般若波羅蜜多心経 ❶(日)Hyō-tai-hi-ni-shu-jin-shin-setsu-tsuketari-tai-hi-hom-mon. ❷1巻 ❸存 ❹[illegible](天保1 11—天正元A. D. 1842—1920)頃 ❺天正三刊 ❻(編文・[illegible])

般若波羅蜜多心経略 ❶(日)Hyō-ha-jō-butsu-chō-tan-gi. ❷1巻 ❸存 ❹日蓮宗 ❺[illegible](文大・D O・11 三八)

般若波羅蜜多心経略 ❶(日) Hyō-ha-roku-soku-jō-butsu-gi. ❷1巻 ❸存 ❹日蓮宗 ❺[illegible](文大・D O・11 三九)

般若波羅蜜多心経略 ❶(日) Hyō-hyō-bem-ben-sen. ❷1巻 ❸存 ❹[illegible] ❺([illegible])

般若波羅蜜多心経古記 ❶(日) Hyō-fuk-ko-ki. (支)P'ing-fu-ku-chi. 光明寺 ❷1巻 ❸存、[illegible]・八・三 ❹天武年間頃

❺[illegible]

般若波羅蜜多心経 ❶(日) Byō-jō-shō. ❷1巻 ❸[illegible](A. D. 767—822)頃 ❹(参考) 未詳 [illegible]

般若波羅蜜多経 ❶(日) Byō-sō-jō-sho. ❷1巻 ❸存 ❹[illegible] ❺[illegible](文大・D O・11 八五)

般若波羅蜜多心経略釈 ❶(日)Byō-tai-hi-ni-shu-jin-shin-setsu-tsuketari-tai-hi-hom-mon. ❷1巻 ❸存 ❹[illegible](天保1 11—天正元A. D. 1842—1920)頃 ❺天正三刊 ❻(編文・[illegible])

般若波羅蜜多心経略 ❶(日)Byō-ha-jō-butsu-chō-tan-gi. ❷1巻 ❸存 ❹日蓮宗 ❺[illegible](文大・D O・11 三八)

般若波羅蜜多心経略 ❶(日) Byō-ha-roku-soku-jō-butsu-gi. ❷1巻 ❸存 ❹日蓮宗 ❺[illegible](文大・D O・11 三九)

般若波羅蜜多心経略 ❶(日) Byō-hyō-bem-ben-sen. ❷1巻 ❸存 ❹[illegible] ❺(文寿)

般若波羅蜜多心経古記 ❶(日) Byō-fuk-ko-ki. (支)P'ing-fu-ku-chi. 光明寺 ❷1巻 ❸存、[illegible]・八・三 ❹天武年間頃

❺[illegible]

般若波羅蜜多心経 ❶(日)Byō-gū-roku. ❷11巻 ❸存 ❹天海僧正(文禄1 1—寛永元A. D. 1634—1716) ❺(参考) 慶雲日録

般若波羅蜜多心経一切法空相応経 ❶(日) Byō-chū-ichi-gon-hō-dan-shō. ❷三巻 ❸存、天正日本撰述仏教書[illegible] ❹慶長(慶安四一正慶11 A. D. 1651—1672) ❺元禄元(A. D. 1688)十一月

❻1[illegible]

般若波羅蜜多心経 ❶(日)Byō-dō-gak-kyō. (支) P'ing-tēng-chiao-ching. 東京帝国大学 ❷1巻 ❸存、天正1 11・11ヤ六 No. 361、[illegible]、卍六・三、[illegible]25カ、[illegible]26カ、[illegible]23カ、[illegible]22カ、[illegible]22カ、[illegible]25字、天26カ、[illegible]18字、[illegible]24字、[illegible]92[illegible]、[illegible]22カ、[illegible]1 ″N]. 25 ❹[illegible] ❺天武年間(A. D. 147—186) ❻[illegible]の子を[illegible]

般若波羅蜜多心経恵琳音義 ❶(日)Byō-dō-gak-kyō-e-rin-on-gi. (支) P'ing-tēng-chiao-ching-hui-lin-yin-i. ❷8巻 ❸存、1 [illegible] (天正元天正・三1 1 No. 2128) ❹[illegible]

般若波羅蜜経 ❶(日)Byō-dō-gak-kyō-shō. (支)P'ing-tēng-chiao-ching-su. 光明寺 ❷1巻 ❸(参考) [illegible]

般若波羅蜜多心経 ❶(日)Byō-dō-shō-jō-gak-kyō-sho. (支)P'ing-tēng-ch'ing-ching-chiao-ching-su. 光明寺 ❷1巻 ❸(参考) [illegible]

般若波羅蜜多心経 ❶(日) Byō-kan-roku. ❷1巻 ❸存 ❹[illegible](A. D. 1873—1907)頃 ❺明治三刊 ❻(文大・仏書・[illegible])

般若波羅蜜多心経 ❶(日) Byō-kan-roku-hi-hyō-shū. ❷1巻 ❸存 ❹今尾信敬 ❺明治三九刊 ❻(文大・仏書・1 ○1 九)

般若波羅蜜多心経 ❶(日) Byō-sha-yu-ka-ji. ❷1巻 ❸存 ❹[illegible]心経 ❻([illegible])

般若波羅蜜多心経諸説 ❶(日) Byō-chū-kan-sha-roku. ❷1巻 ❸存 ❹今井宇三郎 ❺明治四四刊 ❻(文大・仏書・1 三)

般若波羅蜜多心経 ❶(日) Byō-chū-gū-gen. ❷11巻 ❸存 ❹[illegible](一[illegible]A. D. 1307—1392)頃 ❺[illegible](文大・1 三八・1 ヤ1)

般若波羅蜜多心経 ❶(日)Byō-chū-gū-gen-shō. ❷11巻 ❸存 ❹[illegible] ❺([illegible])

般若波羅蜜多心経 ❶(日) Byō-chū-shu-gyō-ki. ❷1巻 ❸存、[illegible] ❹[illegible](一天[illegible]A. D. 1144)

❺[illegible]

般若波羅蜜多心経 ❶(日) Byō-tō-sa-dan. (支)P'ing-t'a-so-t'an. ❷1巻 ❸[illegible] ❹[illegible] ❺[illegible](文大・[illegible]・1 [illegible])

般若波羅蜜 ❶(日)Byō-dō-saku. ❷1巻 ❸存 ❹[illegible](文大・[illegible]・11・中・[illegible])

般若心経 ❶(日) Byō-nin-yō-jin. ❷1巻 ❸存、[illegible] ❹[illegible](一[illegible]A. D. 1828—1907)頃

❺[illegible]

般若心経 ❶(日) Byō-chū-yō-jin-shō. ❷1巻 ❸存、[illegible] ❹[illegible](A. D. 1284)

❺[illegible]

般若波羅蜜多 ❶(日) Byō-sha-ō-go-gwan-gyō. (支) P'ing-sha-wang-wu-yūan-ching. ❷1巻 ❸[illegible] ❹[illegible](一天[illegible]—11○ A. D. 381—395—)頃

❺[illegible]11[illegible] ❻(参考) [illegible]1 [illegible]

般若波羅蜜 ❶(日)Byō-sha-ō-go-gwan-gyō. (支)P'ing-sha-wang-wu-yūan-ching. ❷1巻 ❸存、天正1 四・七七九 No. 511、[illegible]七、卍1 四・三、[illegible]801字、[illegible]814字、[illegible]808字、[illegible]666[illegible]、[illegible]665[illegible]、[illegible]792[illegible]、天801字、[illegible]754[illegible]、[illegible]789[illegible]、天1036字、[illegible]655[illegible]、Nj. 670 ❹天[illegible]

❺[illegible]11一[illegible]11 (A. D. 223—253)

❻[illegible]

般若波羅蜜 ❶(日) Byō-shō. ❷11巻 ❸存 ❹[illegible] ❺[illegible] ❻(参考) [illegible]

般若口決 ❶(日)Byō-shō-ku-ketsu. 西谷[illegible] ❷1巻 ❸存 ❹今井[illegible](文大・1 1—寛永1 三A. D. 1634—1723)頃 ❺[illegible](文大・[illegible]・三ヤ六五)

❻(参考) [illegible]

般若波羅蜜多心経 ❶(日) Byō-dō-shō-jō-gak-kyō-sho. (支)P'ing-tēng-ch'ing-ching-chiao-ching-su. 光明寺 ❷1巻 ❸(参考) 天[illegible]

般若波羅蜜 ❶(日) Byō-kan-roku. ❷1巻 ❸存 ❹[illegible](A. D. 1873—1907)頃 ❺明治三刊 ❻(文大・仏書・[illegible])

般若波羅蜜 ❶(日) Byō-kan-roku-hi-hyō-shū. ❷1巻 ❸存 ❹今尾信敬 ❺明治三九刊 ❻(文大・仏書・1 ○1 九)

般若波羅蜜 ❶(日) Byō-sha-yu-ka-ji. ❷1巻 ❸存 ❹[illegible]心経 ❻([illegible])

般若波羅蜜 ❶(日) Byō-chū-kan-sha-roku. ❷1巻 ❸存 ❹今井宇三郎 ❺明治四四刊 ❻(文大・仏書・1 三)

般若波羅蜜 ❶(日) Byō-chū-gū-gen. ❷11巻 ❸存 ❹[illegible](一[illegible]A. D. 1307—1392)頃 ❺[illegible](文大・1 三八・1 ヤ1)

般若波羅蜜 ❶(日)Byō-chū-gū-gen-shō. ❷11巻 ❸存 ❹[illegible] ❺(文大・[illegible])

般若波羅蜜 ❶(日) Byō-chū-shu-gyō-ki. ❷1巻 ❸存、[illegible] ❹[illegible](一天[illegible]A. D. 1144)

❺[illegible]

般若波羅蜜 ❶(日) Byō-tō-sa-dan. (支)P'ing-t'a-so-t'an. ❷1巻 ❸[illegible] ❹[illegible] ❺[illegible](文大・[illegible]・1 [illegible])

般若波羅蜜 ❶(日)Byō-dō-saku. ❷1巻 ❸存 ❹[illegible](文大・[illegible]・11・中・[illegible])

般若心経 ❶(日) Byō-nin-yō-jin. ❷1巻 ❸存、[illegible] ❹[illegible](一[illegible]A. D. 1828—1907)頃

❺[illegible]

般若心経 ❶(日) Byō-chū-yō-jin-shō. ❷1巻 ❸存、[illegible] ❹[illegible](A. D. 1284)

❺[illegible]

般若波羅蜜多 ❶(日) Byō-sha-ō-go-gwan-gyō. (支) P'ing-sha-wang-wu-yūan-ching. ❷1巻 ❸[illegible] ❹[illegible](一天[illegible]—11○ A. D. 381—395—)頃

❺[illegible]11[illegible] ❻(参考) [illegible]1 [illegible]

般若波羅蜜 ❶(日)Byō-sha-ō-go-gwan-gyō. (支)P'ing-sha-wang-wu-yūan-ching. ❷1巻 ❸存、天正1 四・七七九 No. 511、[illegible]七、卍1 四・三、[illegible]801字、[illegible]814字、[illegible]808字、[illegible]666[illegible]、[illegible]665[illegible]、[illegible]792[illegible]、天801字、[illegible]754[illegible]、[illegible]789[illegible]、天1036字、[illegible]655[illegible]、Nj. 670 ❹天[illegible]

❺[illegible]11一[illegible]11 (A. D. 223—253)

❻[illegible]

般若波羅蜜 ❶(日) Byō-shō. ❷11巻 ❸存 ❹[illegible] ❺[illegible] ❻(参考) [illegible]

般若口決 ❶(日)Byō-shō-ku-ketsu. 西谷[illegible] ❷1巻 ❸存 ❹今井[illegible](文大・1 1—寛永1 三A. D. 1634—1723)頃 ❺[illegible](文大・[illegible]・三ヤ六五)

廟上 ❶(日) Byō-jō. ❷(參考) 本朝台記攝述若部書目

廟上廟下 ❶(日)Byō-jō-byō-gē. 廟上廟下宗要 ❷二卷 ❸存 ❹良源(延喜一三—寛和元 A. D. 913—985)撰 ❺寫本(寶知藏)

塡銘 ❶(日) Hyoka-myō. (支) Fu-ming. ❷一卷 ❸存 ❹性綬撰 ❺(京大、藏・一七キ・三)

平假名正信偈 ❶(日) Hira-ga-nashō-shin-ge. ❸存 ❺刊本(龍大)

平賀本土寺繼圖次第 ❶(日)Hira-ga-hon-do-ji-kei-zu-shi-dai. ❷一卷 ❸存、日蓮宗々學全書史傳舊記部之內 ❹日時(—文龜元 A. D. 1501)

❺年代未詳なれども本文により文明五年以後の作なることを推知せらる。下總平賀の日蓮宗(本山)本土寺の寺誌史料なり。開山日傳(本は日典)、第二代日實、第三代日滿、第四代日順、第五代日饒、第六代日顧、第七代日意までの繼圖次第を記してある。(馬田行啓)

平座曼供導師作法 ❶(日) Hira-za-man-ku-dō-shi-sa-hō. ❷一帖 ❸存 ❺寫本(寶善提院)

緬甸佛傳 ❶(日) Hira-ma-butsu-den. ピガンデー氏緬甸佛傳 ❷一卷 ❸存 ❹英國ピガンデー著、赤沼智善譯 ❺大正三刊 ❻東京無我山房

弘岡村虛空藏菩薩略緣起 ❶(日)Hiro-oka-mura-ko-kū-zō-bo-satsu-ryaku-en-gi. ❸存、土佐國群書類從第一五九 ❹(帝國・特別・け・二六)

廣澤印可次第 ❶(日)Hiro-sawa-in-ka-shi-dai. ❷一軸 ❸存 ❹寛文六、寛永一七及寶暦九寫(寶善提院) 德川時代寫(寶龜院)

廣澤印信 ❶(日) Hiro-sawa-in-jin. 廣澤印信常喜院流 ❷一軸 ❸存 ❺德川時代寫 ❹(寶龜院)

廣澤方觀音院流印信 ❶(日)Hiro-sawa-gata-kwann-on-in-ryū-in-jin. ❷一裏 ❸存 ❺德川時代寫 ❹(寶龜院)

廣澤方血脉相承 ❶(日)Hiro-sawa-gata-ketsu-myaku-sō-jō. ❷一册 ❸存 ❺足利時代寫 ❹(寶善提院)

廣澤式口傳 ❶(日)Hiro-sawa-shiki-ku-den. ❷一帖 ❸存 ❹宏範 ❺足利中期寫 ❹(金剛三昧院)

廣澤神供略作法並破壇御流 ❶(日)Hiro-sawa-shin-ku-ryaku-sa-hō-narahasi-ha-dan-go-ryū. ❷一帖 ❸存 ❺足利時代寫 ❹(寶龜院)

廣澤祖師忌日 ❶(日)Hiro-sawa-so-shi-ki-nichi. ❷一帖 ❸存 ❺德川時代寫 ❹(寶善提院)

廣澤相承諸流印信血脈類聚 ❶(日) Hiro-sawa-sō-jō-sho-ryū-in-jin-kechi-myaku-rui-jū. 廣澤類聚 ❷一卷 ❸存

廣澤傳授目錄 ❶(日) Hiro-sawa-den-ju-moku-roku. ❷一帖 ❸存 ❹隆鎮(天明三—安政元 A. D. 1783—1854) ❺德川末期寫 ❹(寶龜院)

廣澤西院流相承血脈 ❶(日)Hiro-sawa-nishi-no-in-ryū-sō-jō-ke-chi-myaku. ❷一紙 ❸存 ❹前上隆慶(安政三—昭和元 A. D. 1856—1926) ❹寫本(高大、密・一・七〇)

廣澤西院流由來備忘鈔 ❶(日) Hiro-sawa-nishi-no-in-ryū-yu-rai-bi-mō-shō. ❷一卷 ❸存 ❹密門 ❹寫本(龍大、研像)

廣澤忍辱山流禮拜加行作法 ❶(日) Hiro-sawa-nin-niku-san-ryū-rai-hai-ka-gyō-sa-hō. ❷一紙 ❸存 ❺寶曆六寫 ❹(寶善提院)

廣橋兼勝消息 ❶(日) Hiro-hashi-kane-katsu-shō-soku. ❷四通 ❸存 ❹自筆本(龍大、別置)

廣蓋鈔 ❶(日)Hiro-futa-shō. 紙鈔、御鈔、自表紙、七日鈔 ❷十八卷 ❸存、大正七八・四八三No. 2459 ❹守覺親王(久安六—建仁二A. D. 1150—1202) ❺紙鈔の下を見よ。

廣保 ❶(日) Hiro-yasu. ❷一裏 ❸存 ❺德川時代寫 ❹(寶龜院)

乘句集 ❶(日) Hin-ku-shū. ❷五卷 ❷(參考) 經籍目錄

乘炬集 ❶(日) Hin-ko-shū. ❷一册 ❸存 ❹刊本(駒大)

乘慶法語 ❶(日)Hin-jin hō-go. ❷一卷 ❸存 ❹大休 ❺天文二一寫 ❹(谷大、餘大・三三三八)

乘拂法語 ❶(日)Hin-butsu-hō-go. ❷三卷 ❸存 ❹周慶撰 ❹寫本(帝圖、八二一・一五九)

斌雅禪師語錄 ❶(日) Hin-ga-zen-ji-go-roku. (支) Pin-ya-ch'an-shih-yü-lu. ❷一卷 ❸存 ❹明海岱、潭清共編 ❺康熙二九刊 ❹(駒大)

豚養集 ❶(日) Hin-sai-shū. ❷一卷 ❸存、續群書類從第一二 ❹江西龍派(永和元—文安三A. D. 1375—1446)

❺一名を木蛇詩と稱し、自撰の七言絕句二百三十五首を集めたるものである。(後藤大用)

濱日傳所立義日現會釋 ❶(日) Hin-nichi-den-sho-ryū-gi-nichi-gen-e-shaku. ❷四卷 ❸存 ❹寫本(立大、D○・一三五)

蘋齋集 ❶(日) Hin-sai-shū. ❷存 ❹藤重(九鼎) ❷(參考) 日本禪林僧寶傳目、經籍目錄

貧窮經 ❶(日)Hin-gū-kyō. (支)Pin-chiung-ching. ❷一卷 ❹失譯 ❷(參考) 出三藏記第四、法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一六、貞元錄第二六

貧窮經 ❶(日)Hin-gū-kyō. (支)Pin-chiung-ching. (巴) A. VI 45 Tuṇḍaḷaka. ❸存、中阿含經第二九(大正一・六一四No. 25, 125)

貧窮老公經 ❶(日) Bin-gū-rō-kō-kyō. (支)Pin-ch'iung-lao-kung-ching. ❷一卷 ❹失譯 ❷(參考) 出三藏記第四、法經錄第三

Kyō. (支)Pin-chiung-lao-kung-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹西晉法炬譯 ❺第一譯。

❷(參考) 開元錄第一五、貞元錄第二四

貧窮老公經 ❶(日) Bin-gū-rō-kō-kyō. (支) Pin-chiung-lao-kung-ching. 貧老經 ❷一卷 ❸存、大正一七・七四二No. 797、縮宿七、卍一四二、北799安、南813安、元805安、明北668數、清683數、羅799畫、天799安、指732畫、法787畫、至1034政、明南682尺、N. 692 ❹宋慧簡(—大明元A. D. 457—)譯

❺本經の根本的な思想は、罪福の報應は必定なり、影の形に隨ふが如く響の響に應ずが如しといふ點に在る。

內容 佛、祇樹給孤獨園に在せしとき、一人の貧窮の老公あり、年二百歲にして衣五體を蔽はず、服飾虛にして行步纏に弱くのみ。佛の在世を聞きしより發願して十年今始めて佛門に近づくを得たり。されど門人內に入るを許さず。佛使ち之を知り阿難に命じて老公の入るを許さる。老公は佛を見て悲喜涕淚交流し、死も復た恨みずと歎喜す。佛即ち爲めに前生に於ける慳貪を物語り、罪福の報應必定なることを敎示し給ふ。斯くてその最後に斯經を誦する者は貧劫千佛を見、斯經を行じ後世に宣傳する者は彌勒佛の受決を得と說く。

❷(參考) 三寶紀第一〇、內典錄第四、譯經圖紀第三、開元錄第五、貞元錄第八 ❹寫本(京大、藏・一シ・六)(山邊習學)

貧窮老公經 ❶(日) Bin-gū-rō-kō-kyō. (支)Pin-chiung-lao-kung-ching. 貧老經、貧窮老翁經 ❷一卷(別本) ❸存、大正一七・七四三No. 797、縮宿七、卍一四二、北799安、南813安、元805安、明北668數、清683數、天799安、指732畫、法787畫、至1034政、明南682尺、N. 692 ❹慧簡譯 ❺劉宋大明元(A. D. 457—)

貧子須賴經 ❶(日) Bin-ji-shu-rai-kyō. (支)Pin-tzu-hsü-lai-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹宋求那跋陀羅、去元一九—泰始四 A. D. 394—465)譯 ❷(參考) 開元錄第一四、貞元錄第二四

貧子得財發狂經 ❶(日)Bin-ji-to-ku-zai-hot-kyō-kyō. (支) Pin-tzu-te-ts'ai-fa-k'uang-ching. ❷一卷 ❹失譯 ❺出曜經第三卷の抄出。 ❷(參考) 出三藏記第四、法經錄第五、三寶紀第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、內典錄第一、開元錄第一六、貞元錄第二六

貧女爲王夫人經 ❶(日) Bin-nyo-i-ō-bu-nin-kyō. (支)Pin-nü-wei-wang-fu-jen-ching. ❷一卷 ❹失譯 ❺疑僞經。

❷(參考) 出三藏記第四、法經錄第四、仁壽錄第三、第四、靜泰錄第三、第四

貧女爲國王夫人經 ❶(日) Bin-nyo-i-koku-ō-bu-nin-kyō. (支) Pin-nü-wei-kuo-wang-fu-jen-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹西晉竺法護(—泰始二—建興元A. D. 265—313—)譯 ❷(參考) 開元錄第一五、貞元錄第二五

貧女少施獲弘報經 ❶(日) Bin-nyo-shō-se-gyaku-gu-hō-kyō. (支) Pin-nü-shao-shih-huo-hung-pao-ching. 貧女聽經爲毒蛇所嚙命終生天經 ❶(日) Bin-nyo-chō-kyō-i-doku-da-sha-mechi-myō-jō-shō-ten-kyō. (支)Pin-nü-jen-ting-ching-wei-tu-sheng-pieh-ming-chung-sheng-tien-ching. ❷一卷 ❺雜譬喻經の抄出。 ❷(參考) 仁壽錄第三、靜泰錄第三、開元錄第一六、貞元錄第二六

貧老經 ❶(日)Bin-rō-kyō. (支)Pin-lao-ching. 貧窮老公經 ❷一卷 ❸存、大正一七・七四二No. 797、縮宿七、卍一四二、北799安、南813安、元805安、明北668數、清683數、羅799畫、天799安、指732畫、法787畫、至1034政、明南682尺、N. 692 ❹宋慧簡(—大明元 A. D. 457—)譯

貧主聯璧 ❶(日) Bin-shu-ren-peki. ❷一卷 ❸存 ❹法雲 ❷(參考) 譯經目錄

賓頭盧取鉢經 ❶(日) Bin-zu-ru-shu-hatsu-kyō. (支) Pin-t'ou-lu-ch'u-po-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹失譯 ❷(參考) 出三藏記第四、武周錄第一二、開元錄第五、第一五、貞元錄第八、第二五

賓女聽經蛇誓命終經 ❶(日)Hin-nyo-chō-kyō-da-gechi-myō-jō-kyō. (支) Pin-nü-ting-ching-she-nieh-mingz-chung-ching. ❷一卷 ❹失譯 ❷(參考) 出三藏記第四、三寶紀第五、內典錄第二

賓女人經 ❶(日) Bin-nyo-nin-kyō. (支)Pin-nü-jen-ching. ❷一卷 ❹失譯 ❷(參考) 出三藏記第三、第五、法經錄第四、三寶紀第五、仁壽錄第四、靜泰錄第四、內典錄第二、第一〇、武周錄第一一、開元錄第一八、貞元錄第二八

賓女人聽經爲毒蛇所嚙命終生天經 ❶(日) Hin-nyo-nin-chō-kyō-i-doku-da-sha-mechi-myō-jō-shō-ten-kyō. (支)Pin-nü-jen-ting-ching-wei-tu-sheng-pieh-ming-chung-sheng-tien-ching. ❷一卷 ❺雜譬喻經の抄出。 ❷(參考) 仁壽錄第三、靜泰錄第三、開元錄第一六、貞元錄第二六

賓頭盧突羅闍爲優陀延王說法經 ❶(日)Bin-zu-ra-to-ra-ja-i-u-da-en-ō-setsu-hō-kyō. (支)Pin-t'ou-lu-t'u-lo-she-wei-yu-t'o-yen-wang-shuo-fa-ching. 賓頭盧說法經 ❷一卷 ❸存、大正三一・七八四No. 1697、縮宿八、卍二六・七、北1012畫、南1055畫、元1054畫、明北1340填、清1340填、羅1046畫、天1041畫、指1004畫、法1071畫、至1492桓、明南1135菩、N. 1347 ❹求那跋陀羅(太元一九—泰始四 A. D. 394—468)譯 ❺劉宋元嘉一二—二〇(A. D. 435—443)

賓頭盧突羅闍爲優陀延王說法經 ❶(日)Bin-zu-ra-to-ra-ja-i-u-da-en-ō-setsu-hō-kyō. (支)Pin-t'ou-lu-t'u-lo-she-wei-yu-t'o-yen-wang-shuo-fa-ching. 賓頭盧說法經 ❷一卷 ❸存、大正三一・七八四No. 1697、縮宿八、卍二六・七、北1012畫、南1055畫、元1054畫、明北1340填、清1340填、羅1046畫、天1041畫、指1004畫、法1071畫、至1492桓、明南1135菩、N. 1347 ❹求那跋陀羅(太元一九—泰始四 A. D. 394—468)譯 ❺劉宋元嘉一二—二〇(A. D. 435—443)

❻本經は經題の如く、賓頭盧突羅闍が優陀延王の爲めに說法するもので、その根本的な思想は、欲樂の味は甚だ少く、憂苦の患

は甚だ多し。遠かに衆欲を離れ、勤めて淨行を行ぜよといふに在る。

内容。昔、拘舎彌城に優陀延王ありて形貌端正、威相具足、宮殿光麗、聲名天下に聞えてゐた。時に王の輔相であつた賓頭盧突羅闍が出家して具足果を得、拘城に乞食す。王彼れを問訊するや爲めに、一切は無常にして五欲は衆苦の本、王位珍寶も久しく停らず、遠かに憂愁して淨行を行ぜよと說く。そこに有名なる曠路で狂象に逐はれ井中に逃げ入り樹根につかまると白黑鼠それを齧み、下には畏るべき毒龍が居るといふ譬喩が叙べられてゐる。

本經は求那跋陀羅の譯で其だ明快莊麗な美文から成つてゐる。

❼(參考) 三寶紀第一〇、內典錄第四、譯經圖紀第三、開元錄第五、貞元錄第七 (山邊哲學)

賓頭盧突羅闍爲優陀延王說法經 ❶(日)Hin-zu-ro-tu-ra-ja-i-u-da-en-o-rei-ri-ō-kyō. 國譯賓頭盧突羅闍爲優陀延王說法經 ❷一卷 ❸存、國譯一切經論集部第五 ❹平等通唱譯

頻吉祥禪師語錄 ❶(日)Hin-kichi-jō-zen-ji-go-roku. (支)P'in-chi-hsiang-ch'an-shih-yü-lu. ❷四卷 ❸存 ❹洪德能等編 ❼(參考) 禪籍目錄

頻婆沙羅王詣佛供養經 ❶(日)Bin-ba-sha-ra-ō-kei-butsu-ku-yō-kyō. (支)P'in-p'o-sha-lo-wang-i-fo-kung-yang-ching. 頻毘婆羅王詣佛供養經 ❷一卷 ❸失譯 ❼(參考) 法經錄第一

頻婆沙羅王問佛供養經 ❶(日)Bin-ba-sha-ra-ō-mon-butsu-ku-yō-kyō. (支)P'in-p'o-sha-lo-wang-wen-fo-kung-yang-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹元魏月婆首那譯 ❼(參考) 開元錄第一五、貞元錄第二四

頻婆娑羅王因緣 ❶(日)Bin-ba-sha-ra-ō-in-en. ❷一卷 ❸存、慈雲尊者全集第一六 ❹慈雲/享保三—文化元(A.D.1718—1804)註、靖月尼(寶曆六—天保四(A.D.1756—1833))譯

❺この因緣は有部出家事第一及有部破僧事第七に依りて、頻婆娑羅王が第一如の出來現、第二護持五戒、第三伽藍の建立、第四四事供養、第五國民の歸信の五願願を立てゝ釋迦國を征伐し、國辱を雪ぎ、遂に如來に歸依するに至つたことを記してゐる。

❻皎月尼自筆本(京都長福寺) (高見寶應)

頻婆娑羅王經 ❶(日)Bin-ba-sha-ra-ō-kyō. (支)P'in-p'o-so-lo-wang-ching. (巴)Mv. v. I. 4. 1. (梵) Bimbisāra-pratyudgamana-sūtra (藏傳)(藏) mdo chen-po gzugs-can-gyi-bu-la sher-bya-ba. 頻婆羅王經 ❷二卷 ❸存、大正一・八二五No. 41、續伝八、卍一五・五、北1254鳳、南1271鳳、元1354鳳、明北595鳳、南595鳳、麗1369鳳、天1361鳳、法1362鳳、至1443大、明南929興、Nj. 900 ❹宋法賢(一成平四A.D.1000)譯

❺本經は佛が三迦葉を初め千比丘を教化して王舍城に入らせられるや、摩竭陀王頻婆娑羅が、衆人を率ひて歡迎を受けたが、比丘中に官て事大外道であつた優留頻羅迦葉がゐたので、衆人は世尊と、迦葉との何れがその師であるかに疑ひ惑ふや、迦葉が火に事へることを棄てゝ佛に歸依したことを、偈によつて問答し、次で王のために、諸行無常、苦、無我の因緣所生の理を說かれたものである。

本經は中阿含第六二經頻婆娑羅王迎佛經の別譯であつて、巴利律文大會部(Mv. I. 4. 1)に該當するもの、漢譯の二經はいづれも、巴利文の前半に該當し、その內容はいづれも大體に於て合致するものである。 (林五邦)

頻毘娑王詣佛供養經 ❶(日)Hin-bi-sha-ō-kei-butsu-ku-yō-kyō. (支)P'in-pi-so-wang-i-fo-kung-yang-ching. 頻婆沙羅王詣佛供養經 ❷一卷 ❸失譯 ❼(參考) 出三藏記第四

頻毘娑羅王詣佛經 ❶(日)Hin-bi-sha-ra-ō-kei-butsu-kyō. (支)P'in-pi-so-lo-wang-i-fo-ching. 頻毘婆羅王詣佛供養經、詣佛供養經 ❷一卷 ❸存、大正一・八五五No. 133、續伝四、卍一四・二、北752草、南742若、元724若、明北615義、清613義、麗723止、天727若、指690止、法717止、至564仕、明南611緣、Nj. 619 ❹法炬譯

頻毘娑羅王詣佛供養經 ❶(日)Hin-bi-sha-ra-ō-kei-butsu-ku-yō-kyō. (支)P'in-pi-so-lo-wang-i-fo-kung-yang-ching. 頻毘婆羅王詣佛經、詣佛供養經 ❷一卷 ❸存、大正一・八五五No. 134、續伝四、卍一四・二、北752若、南742若、元724若、明北615義、清613義、麗723止、天727若、指690止、法717止、至564仕、明南611緣、Nj. 619 ❹法炬譯 ❺西晉惠帝代(A.D.290—306)

❻本經は摩竭陀王頻婆娑羅、世尊の名聲を慕ふて、祇園精舍に往詣して、佛の說法に歡喜し、佛を王舍城に招請し、佛を供養し、遂に歸依するに至つたことを說いたものでこの名のある所以である。

本經は增一阿含第三四品第五經に該當するものであるが、本經は增一のそれの前半のみであつて、增一には更に鷲頭梵志の物語が附加せられ、前半は本經に比して略述の形をとつてゐる。

❼(參考) 三寶紀第六、內典錄第二、譯經圖紀第二、開元錄第二、貞元錄第四 (林五邦)

頻韓娑羅王迎佛經 ❶(日)Bin-ba-sha-ra-ō-ō-butsu-kyō. (支)P'in-pei-so-lo-wang-ying-fo-ching. (巴)Mv. I. 4. 1. ❷存、中阿含經第一二(大正一・四九七No. 26,42)

頻韓娑羅王迎佛經 ❶(日)Bin-ba-sha-ra-ō-ō-butsu-kyō. 現代意譯頻韓娑羅王迎佛經 ❷二卷 ❸存、現代意譯根本佛教聖典叢書第二中阿含經抄之內 ❹宇野圓空、林五邦共譯

フ

不會禪師語錄 ❶(日)Fu-e-zen-ji-go-roku. (支)Fu-hui-ch'an-shih-yü-lu. ❷十卷 ❸存 ❹清不曾話、性靈等編 ❺康熙三〇刊 ❼(駒大)

不壞淨經 ❶(日)Fu-e-jō-kyō. (支)Fu-huai-ching-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹失譯 ❺雜阿含經の抄出。 ❼(參考) 出三藏記第四、法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、武周錄第二二、開元錄第一六、貞元錄第二六

不可會辨强會辨或問 ❶(日)Fu-ka-e-ben-gō-e-ben-waku-mon. ❷一卷 ❸存 ❹法洲 明和二—天保一〇(A.D.1765—1839)述 ❺文化元刊 龍大、一六九・一六)(正大、一五七・九三—九四) 帝國、一一七・七二)(立大、A四〇・一九) 明治二七刊(龍大、一六九・六、宮本/哲、ま・五・中・八)

不可棄法師傳 ❶(日)Fu-ka-ki-hō-shi-den. 泉涌寺不可棄法師傳 ❷存、續群書類從第九 ❹信瑞 ❺寛元二(A.D.1244) ❻泉涌寺不可棄法師傳の下を見よ。

不可思議解脫經 ❶(日)Fu-ka-shi-gi-gyō-dai-ge-kyō. (支)P'u-k'o-ssu-i-chieh-t'o-ching. 維摩詰所說經、維摩詰經 ❷三卷 ❸存、大正一四・五三七No. 475、續黃七、卍九・五、北1211樹、南1211樹、元1156白、明北143方、清142方、麗1205在、天121樹、指1114在、法1156在、至1198藏、明南129方、Nj. 145 ❹鳩摩羅什(建元二—義熙九A.D.344—413)說(義熙年中說)譯 ❺姚秦弘始八(A.D.406) ❻維摩詰所說經の下を見よ。

不可思議解脫經疏 ❶(日)Fu-ka-shi-gi-gyō-dai-ge-kyō-sho. (支)P'u-k'o-ssu-i-chieh-t'o-ching-su. 維摩經略疏 ❷五卷 ❸存、卍續一・二九・二 ❹隋吉藏、太清三—武德六(A.D.549—623)述 ❻維摩經略疏の下を見よ。

不可刹那無此君 ❶(日)Fu-ka-setsu-na-mu-shi-kun. (支)P'u-k'o-ch'a-na-wu-tz'u-chün. ❷一卷 ❸存、卍續二・六・三、天台諸文類集之內、天台霞標二之四(佛全一二五ノ二三二) ❹南宋義銘(—嘉定三(A.D.1210—))撰

❺本書は七字一句、三十六句偈からなる。天台の一心三觀一境三諦一念三千の義を偈頌を以て宋代盛行の禪學的に述べ、摩訶止觀一部の綱要を提示したもの。寶永三年に寂山沙門秀雲は本書の纂註を作つて本書製作の由來と本書註解の散逸等を記す。又元亨釋書十三僧帝傳にも記述してある。此等によつて本書の大要を考ふるに、不可刹那無此君とは「刹那も此君なくんばあるべからず」の義。又「竹の別稱」なりともいふ。竹の別稱を借りて圓頓止觀の大義を顯したものであるから、本書は三種の觀法の中では實に託事觀の明文なりといふべきである。秀雲のこの說に從へば本書は行者修觀の凡杖であり止觀實修の規矩を述べたものであるといふことになる。更に略言すれば本書は止觀を修練する者の官業杖だといふのである。故に秀雲は『纂註錄起』に「文は僅に三十六句に約むと雖も義は河沙を傳へて法華止觀の骨體を包羅す」といひ、又竹杖なりといふに就いては本書を秀雲に與へた法友豪庫の語を擧げていふ「惟ふに竹は虛心にして空觀に便なり。子(秀雲)斯の文を節にして比觀に登り竹豪の正直禪(根本中堂前の左右の竹叢に山王神と八百萬神とを寄祀す。又大宮權現の前庭の左右にも竹豪がある)に所請して空卽假中の三觀を解れ」と云云。次に秀雲は竹の三觀を說いて「後篁の虛中は卽空。繁葉勁節は卽假。美筠圓質にして瑠璃の偈の如くにして節く四時を貫いて變枯せざるは豈に中道實相の妙義に非ずや。先哲傳へて竹豪の一心三觀と言ふは是れなり」と又說に云ふ「笵竹未ず剪。周風昔不ず彫。歧杖未ず投。明龍身不ず現。文字未ず陳。則止觀不ず朗。是を以つて吾風智者は玉皇にして一夏旗揚し縱橫宣說したれども文字を立てず。章安結集して後緣に留遺せり。雖とは何ぞや。文字性離すれば四句に著せざるなり。若し文に封ぜられて書をなさば何の日にか解脫することを得んや」と。これよつて思ふに本書は全く天台大師の止觀の不立文字の眞意義を三十六句に示したものであると說くのは秀雲の本書に對する評語である。そして秀雲は「不立文字とは文字を用ひずと謂ふに非ず。只思量に著せざるの謂ひなり」と說き、文字卽法界、法界卽止觀、止觀とは境智冥一なりといふ。玆に於いて秀雲は本書を杖凡として止觀を修練し、官業實修による煩仆を除く便りとせんと主張してゐる。元亨釋書十三僧帝傳によれば「山陰の義銘は本書を記述して俊芳に贈らる。義銘は朴翁と號し內典外典を兼ね明らめ禪法教相も並べて通達せり。謂つべし、令穆の名士葛天民、宇は無懷といへる者なり」と。恐らく本書は俊芳の歸國せんとしてゐた嘉定年代頃に作られたものであらう。義銘の傳は釋書には見られない。本書は先づ名隱德用の三諦を頌し次に體一互用の三諦を頌し、次に名體不二を述べ、次に一念三千境觀互融し一超直入如來地を示し、最後に三觀に封ぜられることの嗚呼なる偈を頌して終る。此れを要するに本書は天台止觀の義を宋の禪宗の立脚地から記述したもの。是の如き說が圓曾と俊芳とによつて日本天台に傳へられた結果、中古天台の惠心流禪那流教學に思想的展開を起すべき機緣を與へたのであつた。

❼(注釋)不可刹那無此君纂註一卷、秀雲 (田島德雲)

❹寫本(京大、藏・二四テ・七)

不可刹那無此君偈 ❶(日)Fu-ka-setsu-na-mu-shi-kun-ge. ❷一卷 ❸存 ❹義銘述 ❹(眞如藏)

不可刹那無此君纂註 ❶(日)Fu-ka-setsu-na-mu-shi-kun-san-chū. ❷一卷 ❸存 ❹秀雲孤巖 ❺寶永三刊 ❼(谷大、長保・一六二)龍大、二六五九・四五)(正大、一三五・一三四)

不可說菩薩品 ❶(日)Fu-ka-setsu-bo-satsu-hon. (支)P'u-k'o-shuo-p'u-sa-p'in. ❸存、大方等大集經第一三(大正一

三・八三No. 3977） ❹摩訶僧祇 ❺北涼天竺三藏曇無讖訳 ❻一巻 ❼仏陀耶舎訳一一巻〔一三巻〕 ❽東晋 ❾(A. D. 414—426)

❶不可説大劫合大菩薩衆の略称。「不可説」とは、言葉で説明できないほどの大きな数量の意味であり、「大劫」とは、宇宙の大変動の一周期を指す。「大菩薩」とは、菩提を求める人、あるいは菩提を求めて修行する人の意味であり、「衆」とは、集団・仲間の意味である。「不可説大劫合大菩薩衆」とは、「不可説大劫」の間、「大菩薩」の集団が、という意味である。

❷不可説大劫合大菩薩衆の略称。「不可説」とは、言葉で説明できないほどの大きな数量の意味であり、「大劫」とは、宇宙の大変動の一周期を指す。「大菩薩」とは、菩提を求める人、あるいは菩提を求めて修行する人の意味であり、「衆」とは、集団・仲間の意味である。「不可説大劫合大菩薩衆」とは、「不可説大劫」の間、「大菩薩」の集団が、という意味である。

❸不可説大劫合大菩薩衆の略称。「不可説」とは、言葉で説明できないほどの大きな数量の意味であり、「大劫」とは、宇宙の大変動の一周期を指す。「大菩薩」とは、菩提を求める人、あるいは菩提を求めて修行する人の意味であり、「衆」とは、集団・仲間の意味である。「不可説大劫合大菩薩衆」とは、「不可説大劫」の間、「大菩薩」の集団が、という意味である。

❹不可説大劫合大菩薩衆の略称。「不可説」とは、言葉で説明できないほどの大きな数量の意味であり、「大劫」とは、宇宙の大変動の一周期を指す。「大菩薩」とは、菩提を求める人、あるいは菩提を求めて修行する人の意味であり、「衆」とは、集団・仲間の意味である。「不可説大劫合大菩薩衆」とは、「不可説大劫」の間、「大菩薩」の集団が、という意味である。

❺不可説大劫合大菩薩衆の略称。「不可説」とは、言葉で説明できないほどの大きな数量の意味であり、「大劫」とは、宇宙の大変動の一周期を指す。「大菩薩」とは、菩提を求める人、あるいは菩提を求めて修行する人の意味であり、「衆」とは、集団・仲間の意味である。「不可説大劫合大菩薩衆」とは、「不可説大劫」の間、「大菩薩」の集団が、という意味である。

❻不可説大劫合大菩薩衆の略称。「不可説」とは、言葉で説明できないほどの大きな数量の意味であり、「大劫」とは、宇宙の大変動の一周期を指す。「大菩薩」とは、菩提を求める人、あるいは菩提を求めて修行する人の意味であり、「衆」とは、集団・仲間の意味である。「不可説大劫合大菩薩衆」とは、「不可説大劫」の間、「大菩薩」の集団が、という意味である。

❼不可説大劫合大菩薩衆の略称。「不可説」とは、言葉で説明できないほどの大きな数量の意味であり、「大劫」とは、宇宙の大変動の一周期を指す。「大菩薩」とは、菩提を求める人、あるいは菩提を求めて修行する人の意味であり、「衆」とは、集団・仲間の意味である。「不可説大劫合大菩薩衆」とは、「不可説大劫」の間、「大菩薩」の集団が、という意味である。

❽不可説大劫合大菩薩衆の略称。「不可説」とは、言葉で説明できないほどの大きな数量の意味であり、「大劫」とは、宇宙の大変動の一周期を指す。「大菩薩」とは、菩提を求める人、あるいは菩提を求めて修行する人の意味であり、「衆」とは、集団・仲間の意味である。「不可説大劫合大菩薩衆」とは、「不可説大劫」の間、「大菩薩」の集団が、という意味である。

❾不可説大劫合大菩薩衆の略称。「不可説」とは、言葉で説明できないほどの大きな数量の意味であり、「大劫」とは、宇宙の大変動の一周期を指す。「大菩薩」とは、菩提を求める人、あるいは菩提を求めて修行する人の意味であり、「衆」とは、集団・仲間の意味である。「不可説大劫合大菩薩衆」とは、「不可説大劫」の間、「大菩薩」の集団が、という意味である。

❿不可説大劫合大菩薩衆の略称。「不可説」とは、言葉で説明できないほどの大きな数量の意味であり、「大劫」とは、宇宙の大変動の一周期を指す。「大菩薩」とは、菩提を求める人、あるいは菩提を求めて修行する人の意味であり、「衆」とは、集団・仲間の意味である。「不可説大劫合大菩薩衆」とは、「不可説大劫」の間、「大菩薩」の集団が、という意味である。

不可説大劫合大菩薩衆 ❶(梵) Pu-k'ung-chūan-so-chiao-fa-mi-yen. 不空羂索経 ❷1巻 ❸存 ❹大正11〇・四三11No. 1098 ❺菩提流志 ❻唐 ❼(参考) 大日本続経目録 ❽(参考) 大日本続経目録

不空羂索観音 ❶(日) Fu-kū-ken-jaku-kyō-bō-mitsu-gon. (梵) Pu-k'ung-chūan-so-chiao-fa-mi-yen. 不空羂索経 ❷1巻 ❸存 ❹大正11〇・四三11No. 1098 ❺菩提流志 ❻唐 ❼(参考) 大日本続経目録 ❽(参考) 大日本続経目録

不空羂索観音法 ❶(日) Fu-kū-ken-jaku-kwann-on-hō. ❷1巻 ❸存 ❹大正11〇・三九No. 1093 ❺菩提流志 ❻唐 ❼(参考) 大日本続経目録 ❽(参考) 大日本続経目録

不空羂索観音心呪経 ❶(日) Fu-kū-ken-jaku-kwan-ze-on-shin-ju-kyō. (梵) Pu-k'ung-chūan-so-kuan-shih-yin-hsin-chou-ching. 不空羂索呪経 ❷1巻 ❸存 ❹大正11〇・三九No. 1093 ❺菩提流志 ❻唐 ❼(参考) 大日本続経目録 ❽(参考) 大日本続経目録

不空羂索呪王経 ❶(日) Fu-kū-ken-jaku-jin-shu-ō-gyō. (梵) Pu-k'ung-chūan-so-shēn-chou-wang-ching. 不空羂索呪王経 ❷三巻 ❸存 ❹大正11〇・四二11 No. 1097 ❺菩提流志 ❻唐 ❼(参考) 大日本続経目録 ❽(参考) 大日本続経目録

不空羂索呪心経 ❶(日) Fu-kū-ken-jaku-ju-shin-gyō. (梵) Pu-k'ung-chūan-so-chou-hsin-ching. ❷1巻 ❸存 ❹大正11〇・四二No. 1097 ❺菩提流志 ❻唐 ❼(参考) 大日本続経目録 ❽(参考) 大日本続経目録

不空羂索呪心経 ❶(日) Fu-kū-ken-jaku-ju-shin-gyō. (梵) Pu-k'ung-chūan-so-chou-hsin-ching. (梵) Amogha-pāśa-hṛdaya-sūtra (複合) (複) ḥphags-pa don-yod-shags-paḥi sñiṅ-po shes-bya-ba theg-pa chen-poḥi mdo 不空羂索観音心呪経 ❷1巻 ❸存 ❹大正11〇・四〇六No. 1095 ❺菩提流志 ❻唐 ❼(参考) 仏教大辞典 ❽(参考) 仏教大辞典

不空羂索呪心経 ❶(日) Fu-kū-ken-jaku-ju-shin-gyō. (梵) Pu-k'ung-chūan-so-chou-hsin-ching. (梵) Amogha-pāśa-hṛdaya-sūtra (複合) (複) ḥphags-pa don-yod-shags-paḥi sñiṅ-po shes-bya-ba theg-pa chen-poḥi mdo 不空羂索観音心呪経 ❷1巻 ❸存 ❹大正11〇・四〇六No. 1095 ❺菩提流志 ❻唐 ❼(参考) 仏教大辞典 ❽(参考) 仏教大辞典

不空羂索呪心経 ❶(日) Fu-kū-ken-jaku-ju-shin-gyō. (梵) Pu-k'ung-chūan-so-chou-hsin-ching. ❷1巻 ❸存 ❹大正11〇・四二No. 1097 ❺菩提流志 ❻唐 ❼(参考) 大日本続経目録 ❽(参考) 大日本続経目録

不空羂索呪心経 ❶(日) Fu-kū-ken-jaku-jin-shu-ō-gyō. (梵) Pu-k'ung-chūan-so-shēn-chou-wang-ching. 不空羂索呪王経 ❷三巻 ❸存 ❹大正11〇・四二11 No. 1097 ❺菩提流志 ❻唐 ❼(参考) 大日本続経目録 ❽(参考) 大日本続経目録

不空羂索呪心経 ❶(日) Fu-kū-ken-jaku-ju-shin-gyō. (梵) Pu-k'ung-chūan-so-chou-hsin-ching. ❷1巻 ❸存 ❹大正11〇・四二No. 1097 ❺菩提流志 ❻唐 ❼(参考) 大日本続経目録 ❽(参考) 大日本続経目録

不空羂索呪心経 ❶(日) Fu-kū-ken-jaku-ju-shin-gyō. (梵) Pu-k'ung-chūan-so-chou-hsin-ching. ❷1巻 ❸存 ❹大正11〇・四二No. 1097 ❺菩提流志 ❻唐 ❼(参考) 大日本続経目録 ❽(参考) 大日本続経目録

不空羂索呪心経 ❶(日) Fu-kū-ken-jaku-ju-shin-gyō. (梵) Pu-k'ung-chūan-so-chou-hsin-ching. ❷1巻 ❸存 ❹大正11〇・四二No. 1097 ❺菩提流志 ❻唐 ❼(参考) 大日本続経目録 ❽(参考) 大日本続経目録

不空羂索呪心経 ❶(日) Fu-kū-ken-jaku-ju-shin-gyō. (梵) Pu-k'ung-chūan-so-chou-hsin-ching. ❷1巻 ❸存 ❹大正11〇・四二No. 1097 ❺菩提流志 ❻唐 ❼(参考) 大日本続経目録 ❽(参考) 大日本続経目録

不空羂索呪心経 ❶(日) Fu-kū-ken-jaku-ju-shin-gyō. (梵) Pu-k'ung-chūan-so-chou-hsin-ching. ❷1巻 ❸存 ❹大正11〇・四二No. 1097 ❺菩提流志 ❻唐 ❼(参考) 大日本続経目録 ❽(参考) 大日本続経目録

不空羂索呪心経 ❶(日) Fu-kū-ken-jaku-ju-shin-gyō. (梵) Pu-k'ung-chūan-so-chou-hsin-ching. ❷1巻 ❸存 ❹大正11〇・四二No. 1097 ❺菩提流志 ❻唐 ❼(参考) 大日本続経目録 ❽(参考) 大日本続経目録

不空羂索呪心経 ❶(日) Fu-kū-ken-jaku-ju-shin-gyō. (梵) Pu-k'ung-chūan-so-chou-hsin-ching. ❷1巻 ❸存 ❹大正11〇・四二No. 1097 ❺菩提流志 ❻唐 ❼(参考) 大日本続経目録 ❽(参考) 大日本続経目録

不空羂索呪心経 ❶(日) Fu-kū-ken-jaku-ju-shin-gyō. (梵) Pu-k'ung-chūan-so-chou-hsin-ching. ❷1巻 ❸存 ❹大正11〇・四二No. 1097 ❺菩提流志 ❻唐 ❼(参考) 大日本続経目録 ❽(参考) 大日本続経目録

不空羂索呪心経 ❶(日) Fu-kū-ken-jaku-ju-shin-gyō. (梵) Pu-k'ung-chūan-so-chou-hsin-ching. ❷1巻 ❸存 ❹大正11〇・四二No. 1097 ❺菩提流志 ❻唐 ❼(参考) 大日本続経目録 ❽(参考) 大日本続経目録

不空羂索呪心経 ❶(日) Fu-kū-ken-jaku-ju-shin-gyō. (梵) Pu-k'ung-chūan-so-chou-hsin-ching. ❷1巻 ❸存 ❹大正11〇・四二No. 1097 ❺菩提流志 ❻唐 ❼(参考) 大日本続経目録 ❽(参考) 大日本続経目録

不空羂索呪心経 ❶(日) Fu-kū-ken-jaku-ju-shin-gyō. (梵) Pu-k'ung-chūan-so-chou-hsin-ching. ❷1巻 ❸存 ❹大正11〇・四二No. 1097 ❺菩提流志 ❻唐 ❼(参考) 大日本続経目録 ❽(参考) 大日本続経目録

不空羂索呪心経 ❶(日) Fu-kū-ken-jaku-ju-shin-gyō. (梵) Pu-k'ung-chūan-so-chou-hsin-ching. ❷1巻 ❸存 ❹大正11〇・四二No. 1097 ❺菩提流志 ❻唐 ❼(参考) 大日本続経目録 ❽(参考) 大日本続経目録

ken-jaku-jin-shu-shin-gyo. (梵)Pu-k'ung-chdan-so-shen-chou-hsin-ching. 大正一〇・四〇七 No. 1096. 唐菩提流志訳。 ❹ 1 参。大正一〇・四〇七 No. 1096. 唐菩提流志訳。卷一。 ❺ 仏。 ❻ 1 参。大正一〇・四〇七 No. 1096. 唐菩提流志訳。卷一。 ❼ 1 参。大正一〇・四〇七 No. 1096. 唐菩提流志訳。卷一。 ❽ 1 参。大正一〇・四〇七 No. 1096. 唐菩提流志訳。卷一。 ❾ 1 参。大正一〇・四〇七 No. 1096. 唐菩提流志訳。卷一。 ❿ 1 参。大正一〇・四〇七 No. 1096. 唐菩提流志訳。卷一。 ⓫ 1 参。大正一〇・四〇七 No. 1096. 唐菩提流志訳。卷一。 ⓬ 1 参。大正一〇・四〇七 No. 1096. 唐菩提流志訳。卷一。 ⓭ 1 参。大正一〇・四〇七 No. 1096. 唐菩提流志訳。卷一。 ⓮ 1 参。大正一〇・四〇七 No. 1096. 唐菩提流志訳。卷一。 ⓯ 1 参。大正一〇・四〇七 No. 1096. 唐菩提流志訳。卷一。 ⓰ 1 参。大正一〇・四〇七 No. 1096. 唐菩提流志訳。卷一。 ⓱ 1 参。大正一〇・四〇七 No. 1096. 唐菩提流志訳。卷一。 ⓲ 1 参。大正一〇・四〇七 No. 1096. 唐菩提流志訳。卷一。 ⓳ 1 参。大正一〇・四〇七 No. 1096. 唐菩提流志訳。卷一。 ⓴ 1 参。大正一〇・四〇七 No. 1096. 唐菩提流志訳。卷一。 ㉑ 1 参。大正一〇・四〇七 No. 1096. 唐菩提流志訳。卷一。 ㉒ 1 参。大正一〇・四〇七 No. 1096. 唐菩提流志訳。卷一。 ㉓ 1 参。大正一〇・四〇七 No. 1096. 唐菩提流志訳。卷一。 ㉔ 1 参。大正一〇・四〇七 No. 1096. 唐菩提流志訳。卷一。 ㉕ 1 参。大正一〇・四〇七 No. 1096. 唐菩提流志訳。卷一。 ㉖ 1 参。大正一〇・四〇七 No. 1096. 唐菩提流志訳。卷一。 ㉗ 1 参。大正一〇・四〇七 No. 1096. 唐菩提流志訳。卷一。 ㉘ 1 参。大正一〇・四〇七 No. 1096. 唐菩提流志訳。卷一。 ㉙ 1 参。大正一〇・四〇七 No. 1096. 唐菩提流志訳。卷一。 ㉚ 1 参。大正一〇・四〇七 No. 1096. 唐菩提流志訳。卷一。 ㉛ 1 参。大正一〇・四〇七 No. 1096. 唐菩提流志訳。卷一。 ㉜ 1 参。大正一〇・四〇七 No. 1096. 唐菩提流志訳。卷一。 ㉝ 1 参。大正一〇・四〇七 No. 1096. 唐菩提流志訳。卷一。 ㉞ 1 参。大正一〇・四〇七 No. 1096. 唐菩提流志訳。卷一。 ㉟ 1 参。大正一〇・四〇七 No. 1096. 唐菩提流志訳。卷一。 ㊱ 1 参。大正一〇・四〇七 No. 1096. 唐菩提流志訳。卷一。 ㊲ 1 参。大正一〇・四〇七 No. 1096. 唐菩提流志訳。卷一。 ㊳ 1 参。大正一〇・四〇七 No. 1096. 唐菩提流志訳。卷一。 ㊴ 1 参。大正一〇・四〇七 No. 1096. 唐菩提流志訳。卷一。 ㊵ 1 参。大正一〇・四〇七 No. 1096. 唐菩提流志訳。卷一。 ㊶ 1 参。大正一〇・四〇七 No. 1096. 唐菩提流志訳。卷一。 ㊷ 1 参。大正一〇・四〇七 No. 1096. 唐菩提流志訳。卷一。 ㊸ 1 参。大正一〇・四〇七 No. 1096. 唐菩提流志訳。卷一。 ㊹ 1 参。大正一〇・四〇七 No. 1096. 唐菩提流志訳。卷一。 ㊺ 1 参。大正一〇・四〇七 No. 1096. 唐菩提流志訳。卷一。 ㊻ 1 参。大正一〇・四〇七 No. 1096. 唐菩提流志訳。卷一。 ㊼ 1 参。大正一〇・四〇七 No. 1096. 唐菩提流志訳。卷一。 ㊽ 1 参。大正一〇・四〇七 No. 1096. 唐菩提流志訳。卷一。 ㊾ 1 参。大正一〇・四〇七 No. 1096. 唐菩提流志訳。卷一。 ㊿ 1 参。大正一〇・四〇七 No. 1096. 唐菩提流志訳。卷一。 (1) 1 参。大正一〇・四〇七 No. 1096. 唐菩提流志訳。卷一。 (2) 1 参。大正一〇・四〇七 No. 1096. 唐菩提流志訳。卷一。 (3) 1 参。大正一〇・四〇七 No. 1096. 唐菩提流志訳。卷一。 (4) 1 参。大正一〇・四〇七 No. 1096. 唐菩提流志訳。卷一。 (5) 1 参。大正一〇・四〇七 No. 1096. 唐菩提流志訳。卷一。 (6) 1 参。大正一〇・四〇七 No. 1096. 唐菩提流志訳。卷一。

不空羂索観音菩薩 ❶(B)Fu-kū-kwan-jō-kō-myō-shin-gon-neu-ju-ha. 密教菩薩 ❷1参 ❸仏教 ❹(漢)

不空羂索 ❶(B) Fu-kū-kyō-sei. (漢)Fu-k'ung-piao-chih. 仏教用語 ❷密教菩薩 ❸1参 ❹(漢)

不空羂索観音 ❶(B)Fu-kū-kwan-jō-kō-myō-shin-gon-neu-ju-ha. 密教菩薩 ❷1参 ❸仏教 ❹(漢)

不空羂索観音菩薩 ❶(B)Fu-kū-dai